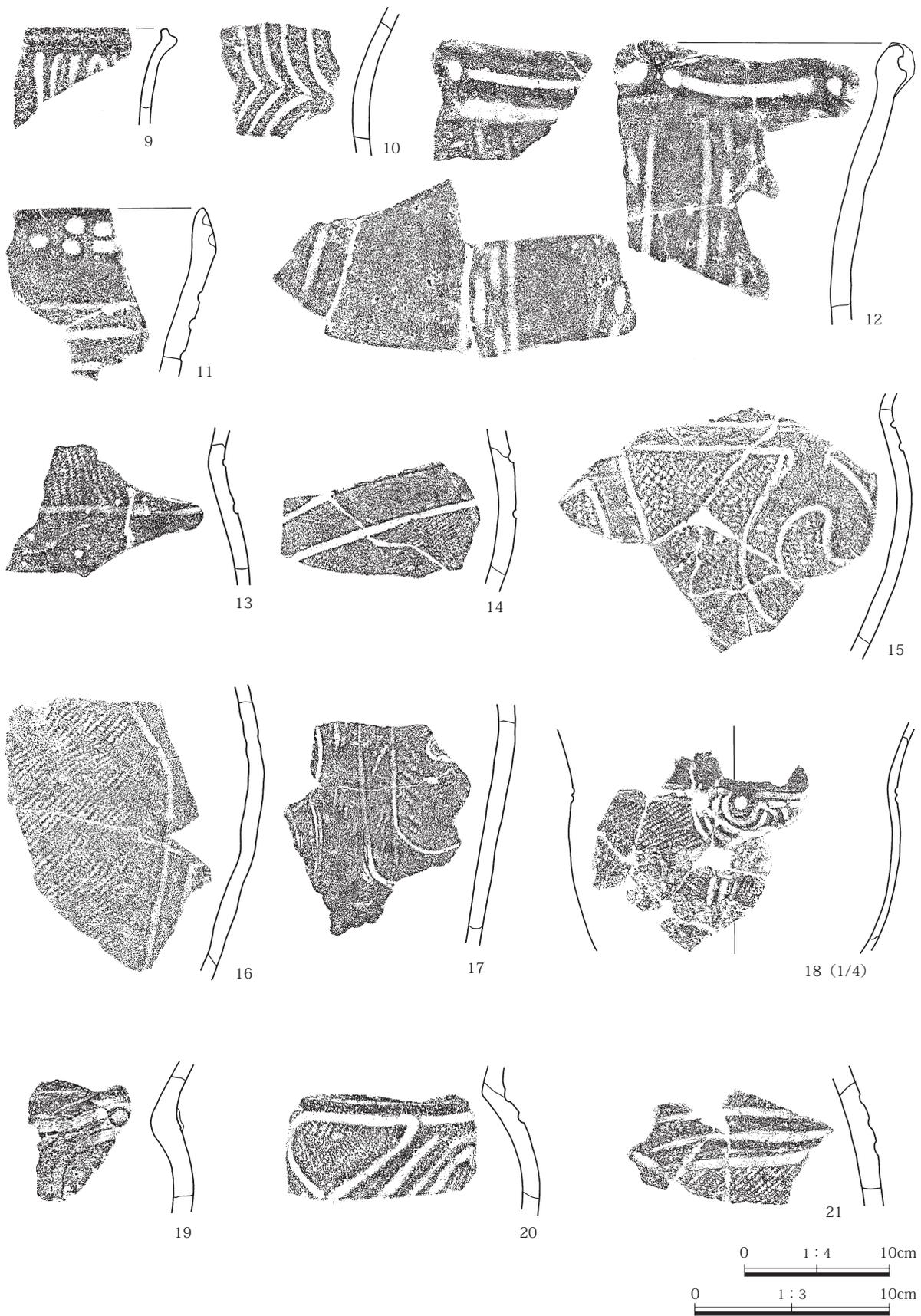
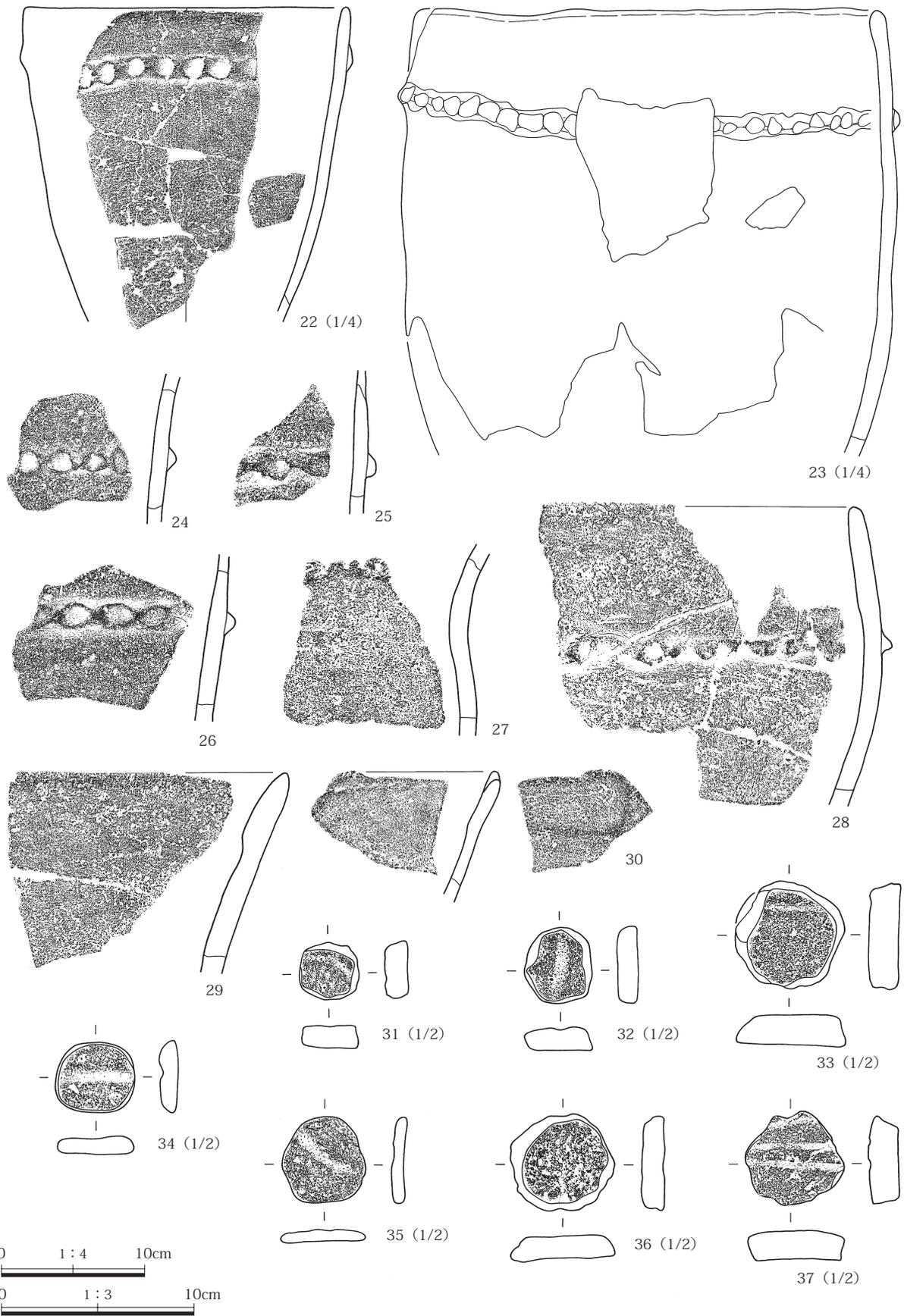


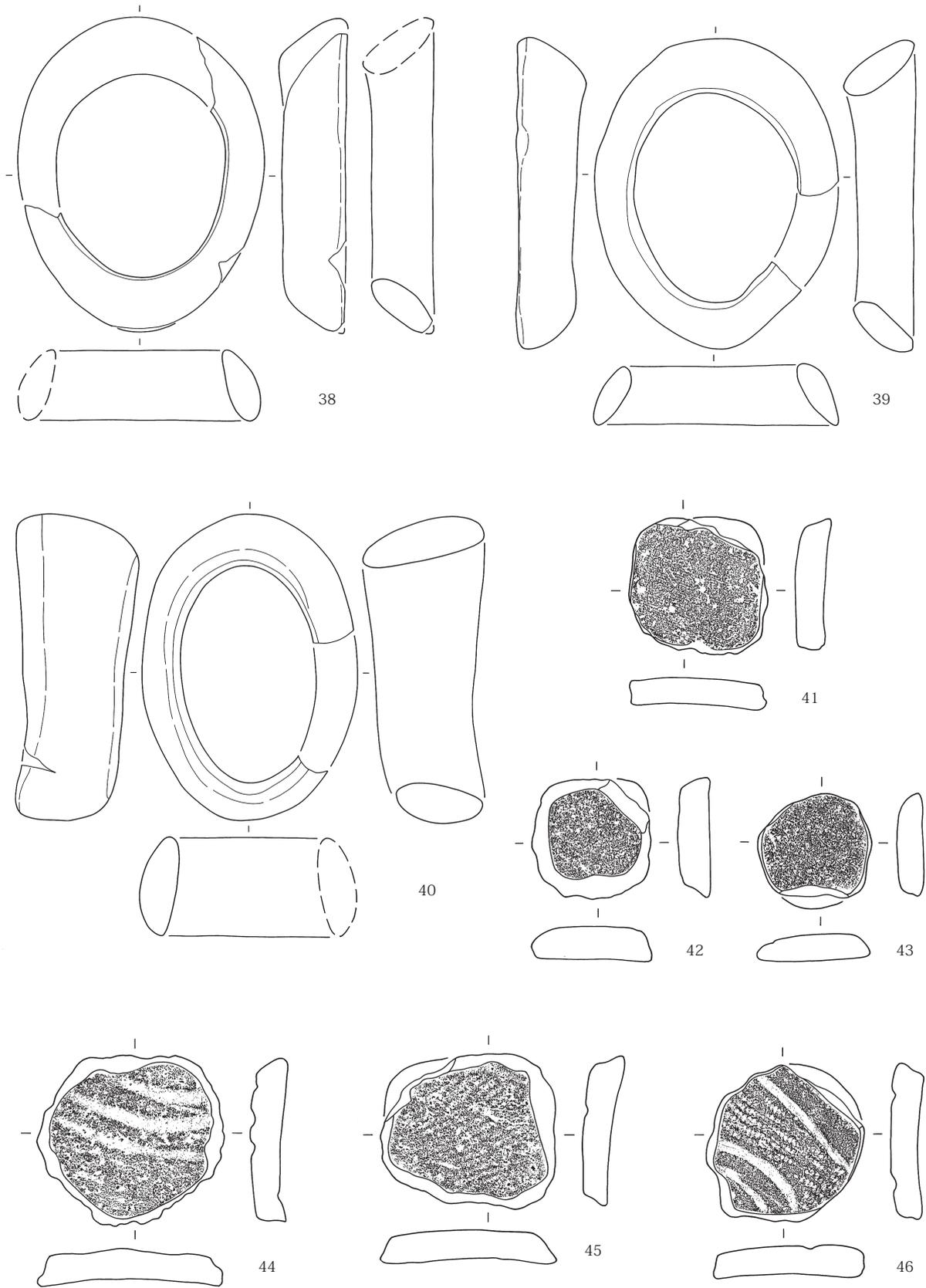
第140図 20区82号住居出土遺物(1)



第141図 20区82号住居出土遺物(2)

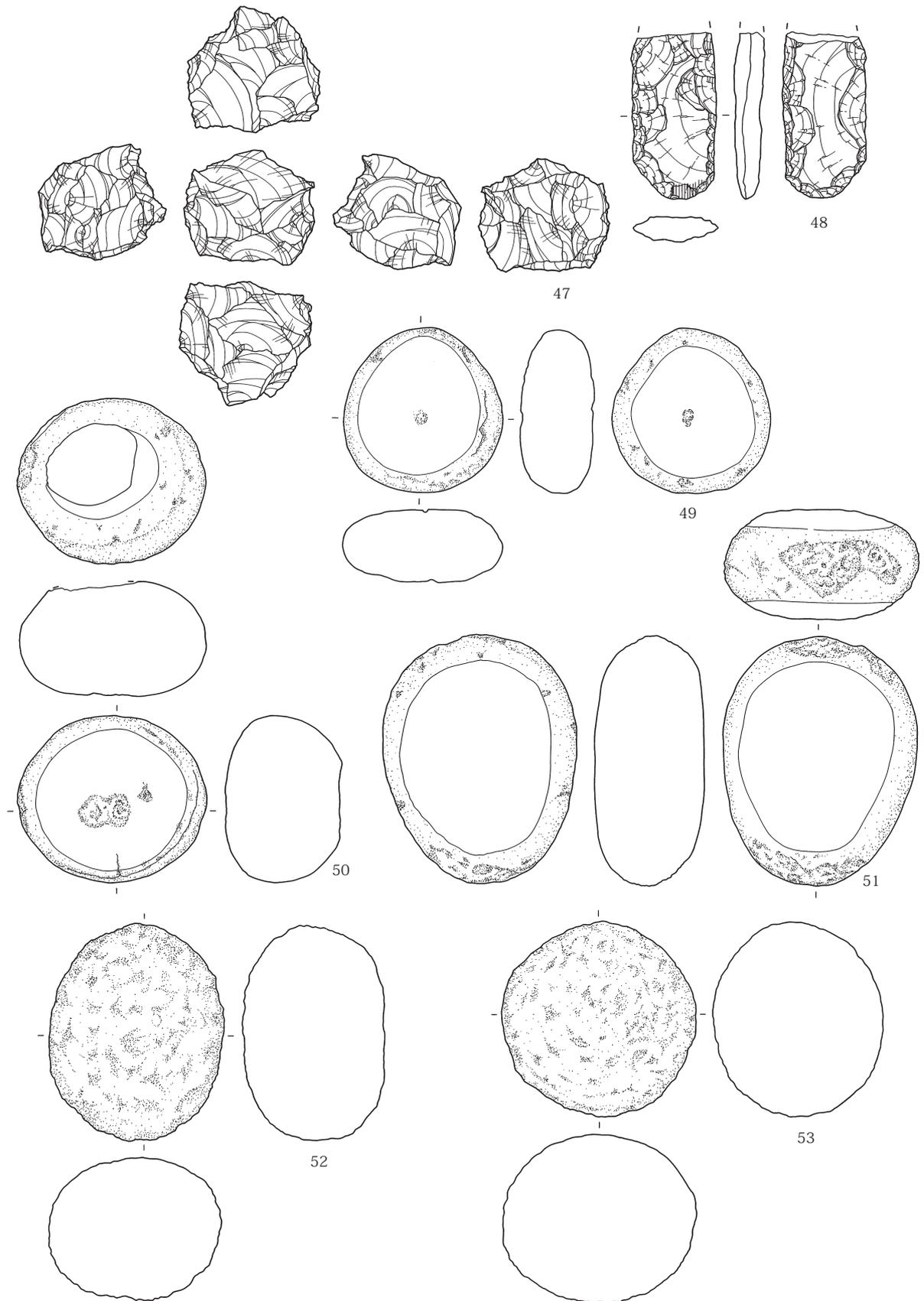


第142図 20区82号住居出土遺物(3)

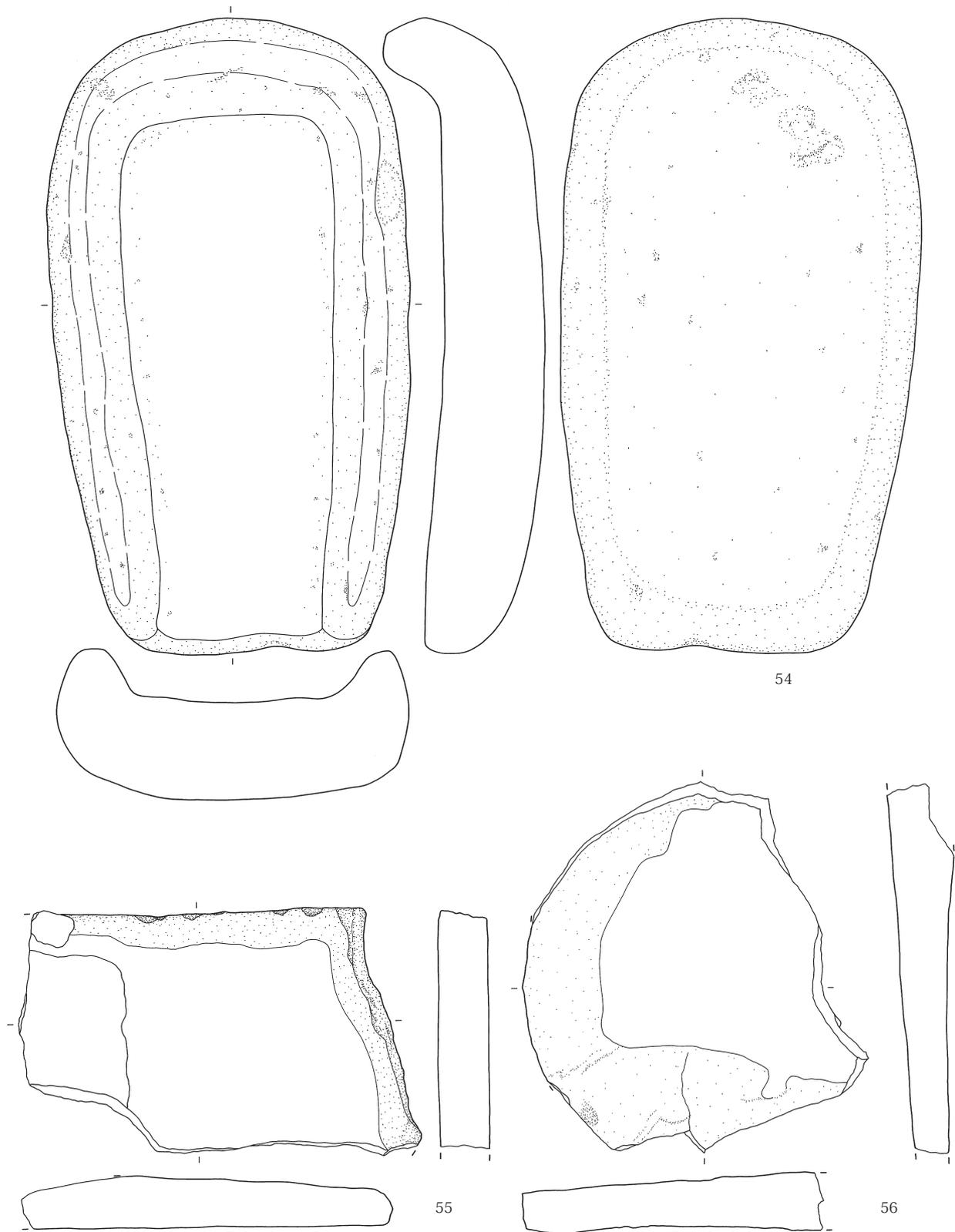


第143図 20区82号住居出土遺物(4)

0 1:2 5cm



第144図 20区82号住居出土遺物(5)



54

55

56

0 1:4 10cm

第145図 20区82号住居出土遺物(6)

×40×19、柱8：114×80×79、柱9：102×74×65である。

**遺物** 土器は総数644点が出土している。堀之内1式が主体を占め、他時期の土器片は少数である。遺構の重複も無いことから堀之内1式期の良好な一括資料として捉えられよう。深鉢・鉢・壺などの器種があるが、いずれも横位に展開する渦文を伴う斜位の沈線で文様を描出し、縄文や刺突を充填している。粗製土器は、口縁からやや下がった位置に指頭押圧を伴う横位隆帯を1条巡らせるものが多く認められる。

土製品では、土製腕輪が3個体出土し特筆される。1個体は床面の項で記した40、2個体は柱穴の項で記した38と39である。また、土製円盤も13点と比較的多く出土している。その大きさは2cm前後から6cm前後までとバラエティーに富んでいる。

石器は加工痕のある剥片1点、打製石斧1点、磨石4点、石皿1点、台石3点、石棒1点、丸石2点があり、他に石核3点(黒曜石2点)、剥片29点(黒曜石3点)、碎片7点(黒曜石7点)ある。床面から出土した石皿(54)は、長さ43.8cmの大型品であり、本報告で扱う石皿のなかでは唯一の完形品である。

**時期** 出土土器は堀之内1式期を主体としており、本住居跡は当該期に比定されよう。

## 20区95号住居

**調査年度** 平成15・16年度

**位置** A-17グリッド

**経過** 77号住居の出入り口部の掘り方調査を実施していたところ、別の敷石が検出され別住居跡の可能性のあるものとして調査を開始した。なお、この77号住居の調査において、本住居跡の周堤礫を認識できずに一部掘り抜いてしまった可能性がある。また、主体部の60%ほどは重複する71号住居により破壊されている。

**重複** 75号住居と重複し、これを切る。また、19区28号住居、20区71・77号住居と重複し、これらに切られる。20区4号列石とは重複関係にあ

り、出入り口部との位置関係では、本住居跡に4号列石の一部が接続していた可能性もある。しかし、71号住居によって接続部付近が壊され残存していないため断定できない。4号列石については第4節において後述する。

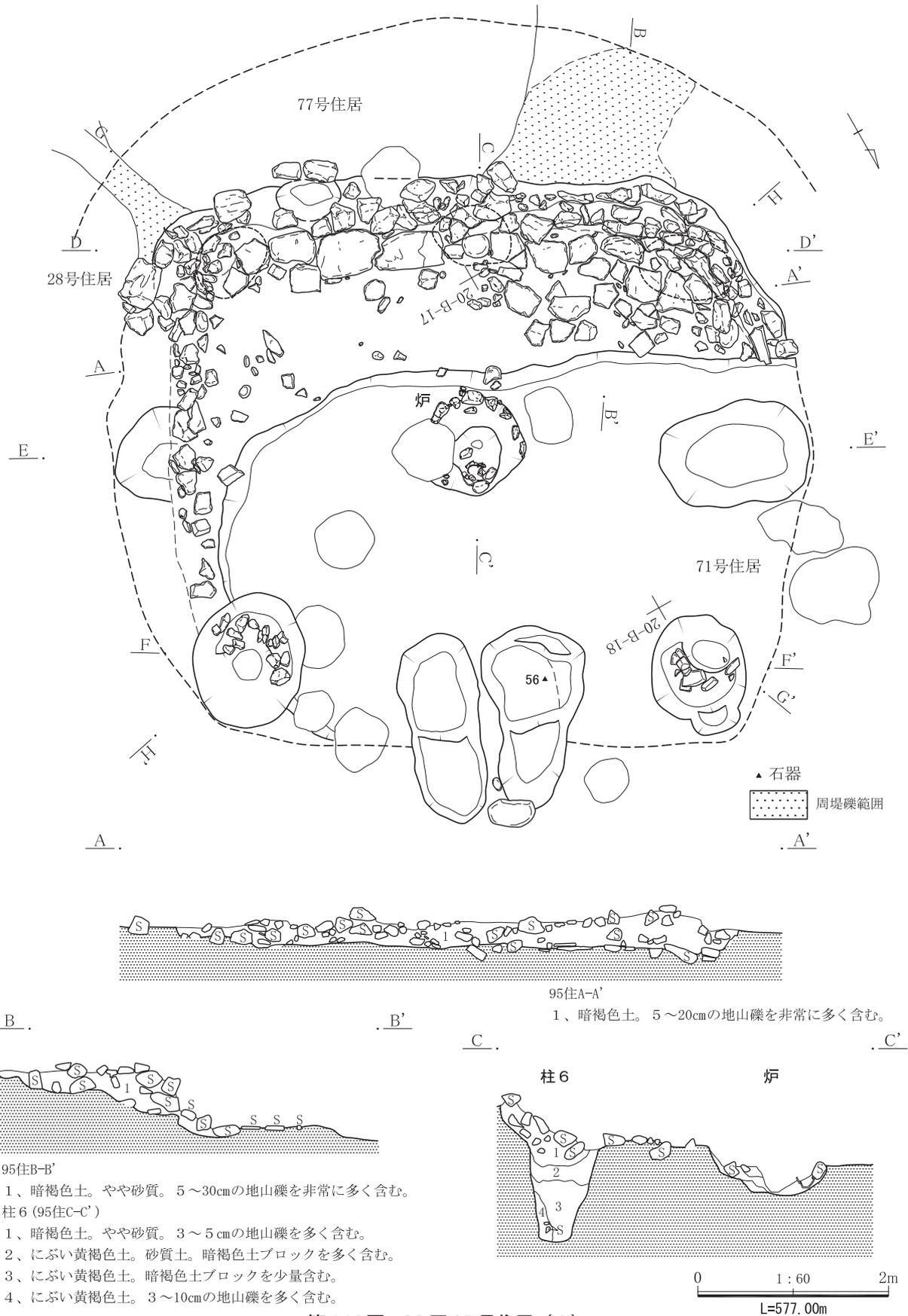
**形状** 柄鏡形敷石住居跡と想定されるが、出入り口部については不明である。主体部は主軸線上で5.0m、幅7.35mの方形を呈す。さらにその南壁側の外側に、一部ではあるが各柱穴から1～1.5mの幅で円形の周堤礫が確認できる。周堤礫まで含めると主体部は直径9mの円形を呈する。出入り口部は71号住居との重複により不明であるが、主体部の北東方向に接続していたものと考えられる。

**床面** 主体部南側の約30%ほどに敷石が認められた。敷石は、扁平な地山礫と鉄平石が用いられ、その比率はやや鉄平石の方が多い。各敷石の隙間には小円礫が詰められている。

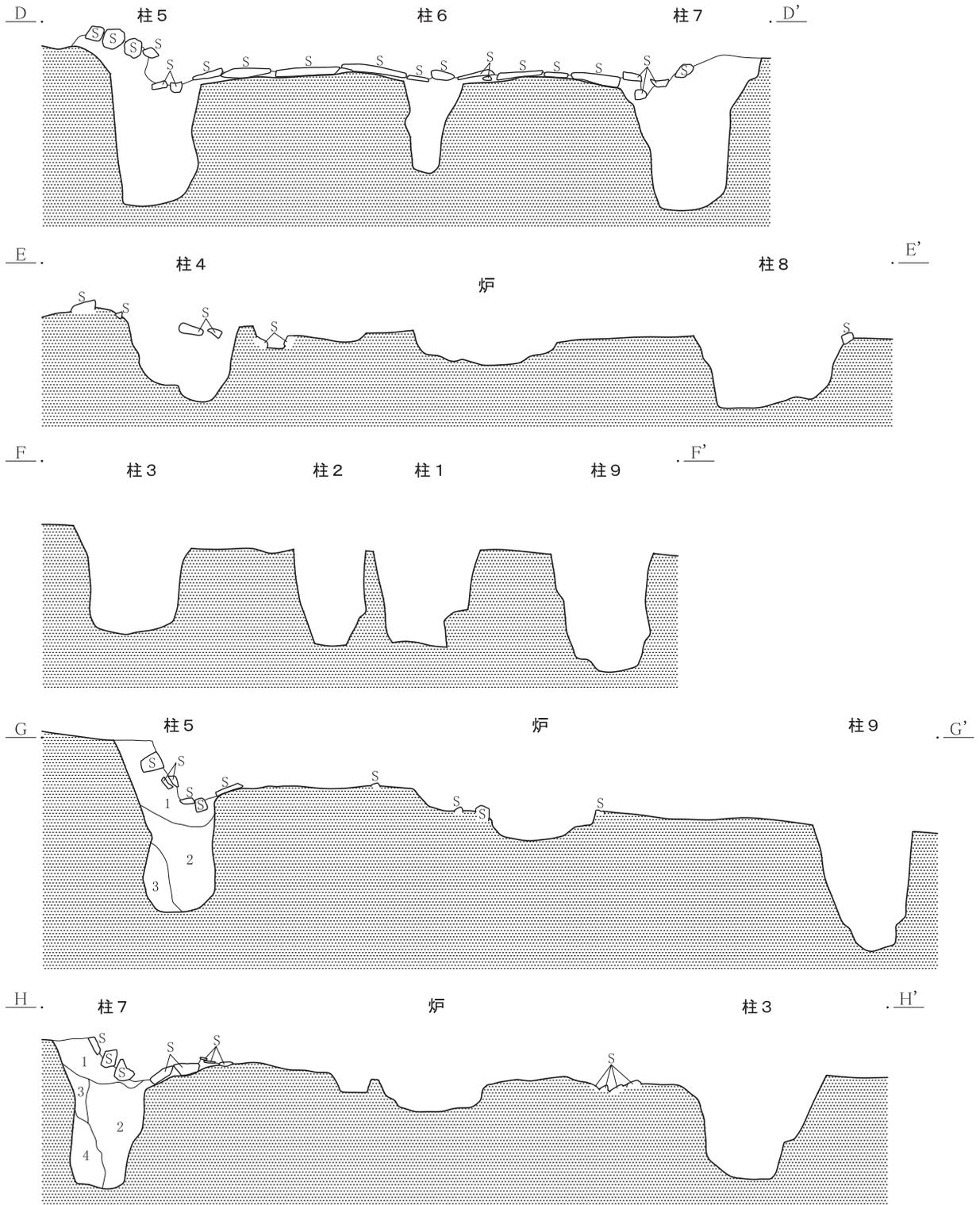
残存する敷石面はほぼ水平であり、柱穴上にも敷石が認められる。敷石の外側には、後述する周堤礫と一体になった壁面が取り囲んでいる。最も高いところでは床面から50cm以上の石積みが認められる。床面では、礫が隙間なく敷きつめられており、柱がどこにあったか見分けが付かないほどである。これは、柱材が朽ちた後に、壁面が多少崩れてせり出し、識別を困難にしたものと考えられる。

なお、主体部覆土は多量の礫を含んでおり、自然埋没による覆土とは考え難く、意図的に多量の礫を用いて埋め戻されたものと観察された。

**周堤礫** 主体部の奥壁側を巡るように検出された。いわゆる周堤礫とはやや趣を異にし、住居跡の壁面を兼ねている。本来であれば、別名称を使用した方が混乱が少ないと思われるが、ここでは便宜的にこの名称を用いる。確認されたのは住居跡の主体部南西側と南東側の一部である。その間は77号住居が先に調査されており失われている。ただし、77号住居の掘り方調査以前の写真を確認したところ、本住居跡の周堤礫が続いていることが確認できた。また、東側は19区28号住居により壊されている。平



第146図 20区95号住居(1)

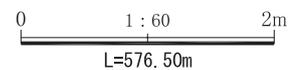


柱 5 (95住G-G')

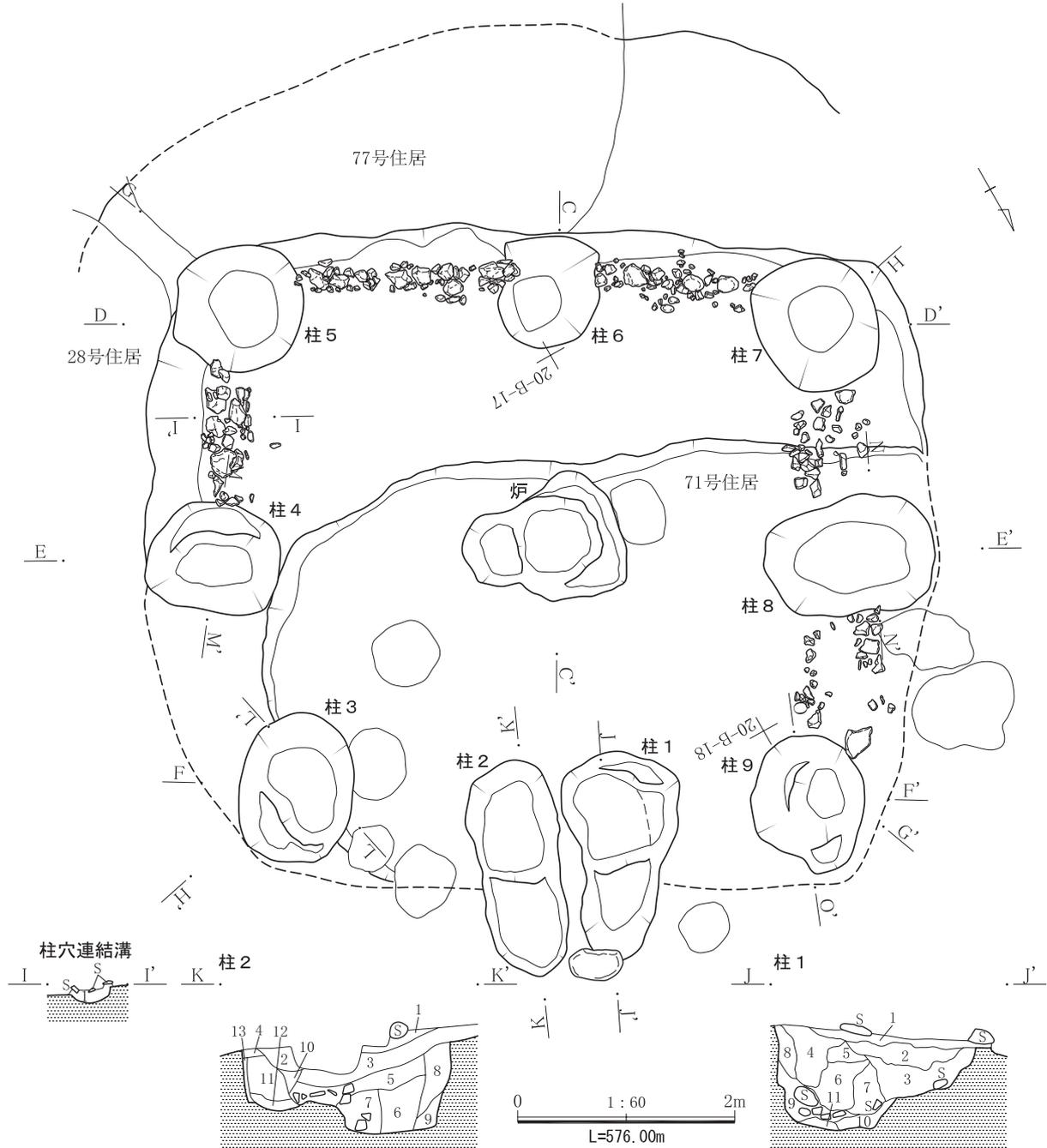
- 1、暗褐色土。やや砂質。3～5 cmの地山礫を多く含む。
- 2、黒褐色土。やや砂質。黄褐色砂質土ブロックをやや多く含む。
- 3、黒褐色土。やや砂質。黄褐色砂質土ブロックを多く含む。

柱 7 (95住H-H')

- 1、暗褐色土。やや砂質。3～5 cmの地山礫を多く含む。
- 2、黒褐色土。やや砂質。黄褐色砂質土ブロックをやや多く含む。
- 3、暗褐色土。にぶい黄褐色砂質土との混土。
- 4、黒褐色土。やや砂質。黄褐色砂質土ブロックを多く含む。



第147図 20区95号住居(2)



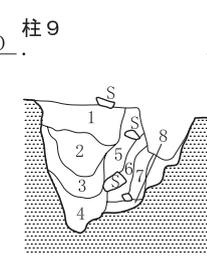
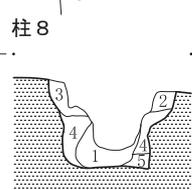
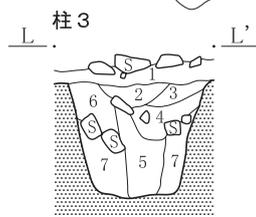
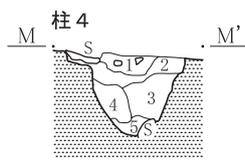
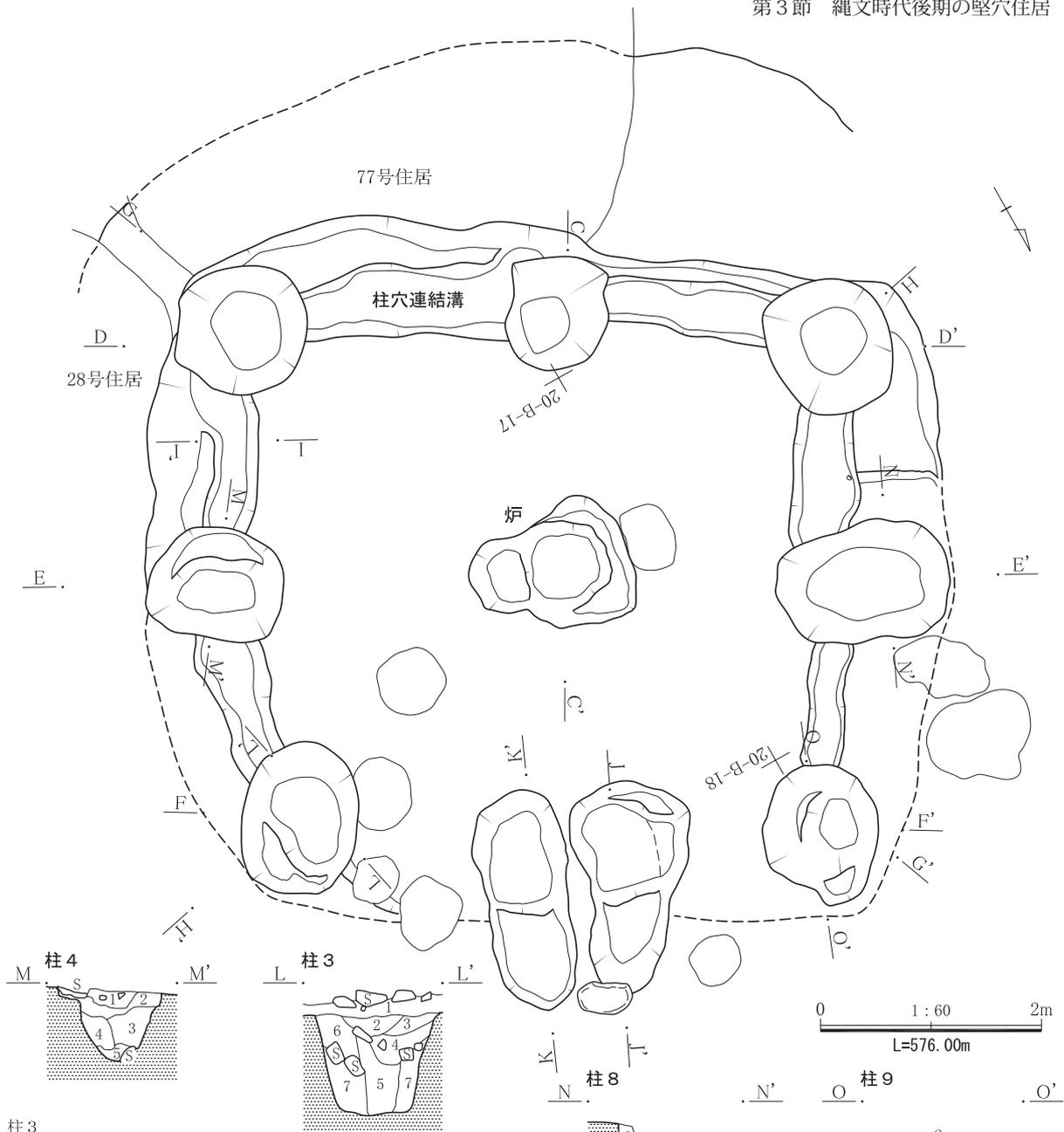
柱穴連結溝

- 1、黄褐色砂質土。～2mmの粒子を多く含む。
- 柱1
- 1、暗褐色土。黒色土ブロック、炭化物を少量含む。
- 2、黒褐色土。やや砂質。黒色土ブロックをやや多く含む。
- 3、黒褐色土。やや砂質。黒色土・黄褐色砂質土ブロックをやや多く含む。
- 4、暗褐色土。やや砂質。白色粒子を少量含む。
- 5、暗褐色土と黄褐色砂質土の混土。
- 6、暗褐色土。やや砂質。黄褐色砂質土ブロック、3～5cmの地山礫少量含む。
- 7、黒褐色土。やや砂質。黄褐色砂質土ブロックをやや多く含む。
- 8、にぶい黄褐色砂質土。暗褐色土を少量含む。
- 9、暗褐色土。やや砂質。5～20cmの地山礫を多く含む。
- 10、暗褐色土と黄褐色砂質土の混土。
- 11、黄褐色砂質土。暗褐色土を少量含む。

柱2

- 1、暗褐色土。10～20cmの円礫。亜角礫を多く含む。
- 2、黒褐色土。暗黄褐色土ブロックを少量含む。3～5cmの地山礫を少量含む。
- 3、黒褐色土。暗黄褐色土ブロックごく少量、白色粒子を少量含む。
- 4、暗褐色土。暗黄褐色土粒を少量含む。
- 5、黒色土。暗黄褐色ブロック少量、白色粒子をやや多く含む。
- 6、暗褐色土。暗黄褐色土粒をごく少量、白色粒子少量含む。
- 7、暗黄褐色砂質土。暗褐色土ブロック、5～10cmの亜角礫をやや多く含む。
- 8、暗黄褐色砂質土。暗褐色土ブロックをやや多く含む。
- 9、暗黄褐色砂質土と暗褐色土の混土。
- 10、暗黄褐色砂質土と暗褐色土の混土。
- 11、暗黄褐色砂質土。暗褐色土を少量含む。
- 12、暗褐色土。暗黄褐色砂質土を少量含む。
- 13、暗褐色土。暗黄褐色砂質土をやや多く含む。

第148図 20区95号住居 (3)



- 柱3
- 1、暗褐色土。5～30cmの地山礫を多く含む。
  - 2、黒褐色土。やや砂質。5～10cmの地山礫を少量含む。
  - 3、黒褐色土。やや砂質。黄褐色砂質土をやや多く含む。
  - 4、黒褐色土。やや砂質。黄褐色砂質土を少量含む。
  - 5、黒褐色土。黄褐色砂質土ブロックをやや多く含む。
  - 6、暗褐色土。黄褐色砂質土ブロックをやや多く含む。
  - 7、暗褐色土。10～20cmの礫を多く含む。黄褐色砂質土ブロックを多く含む。

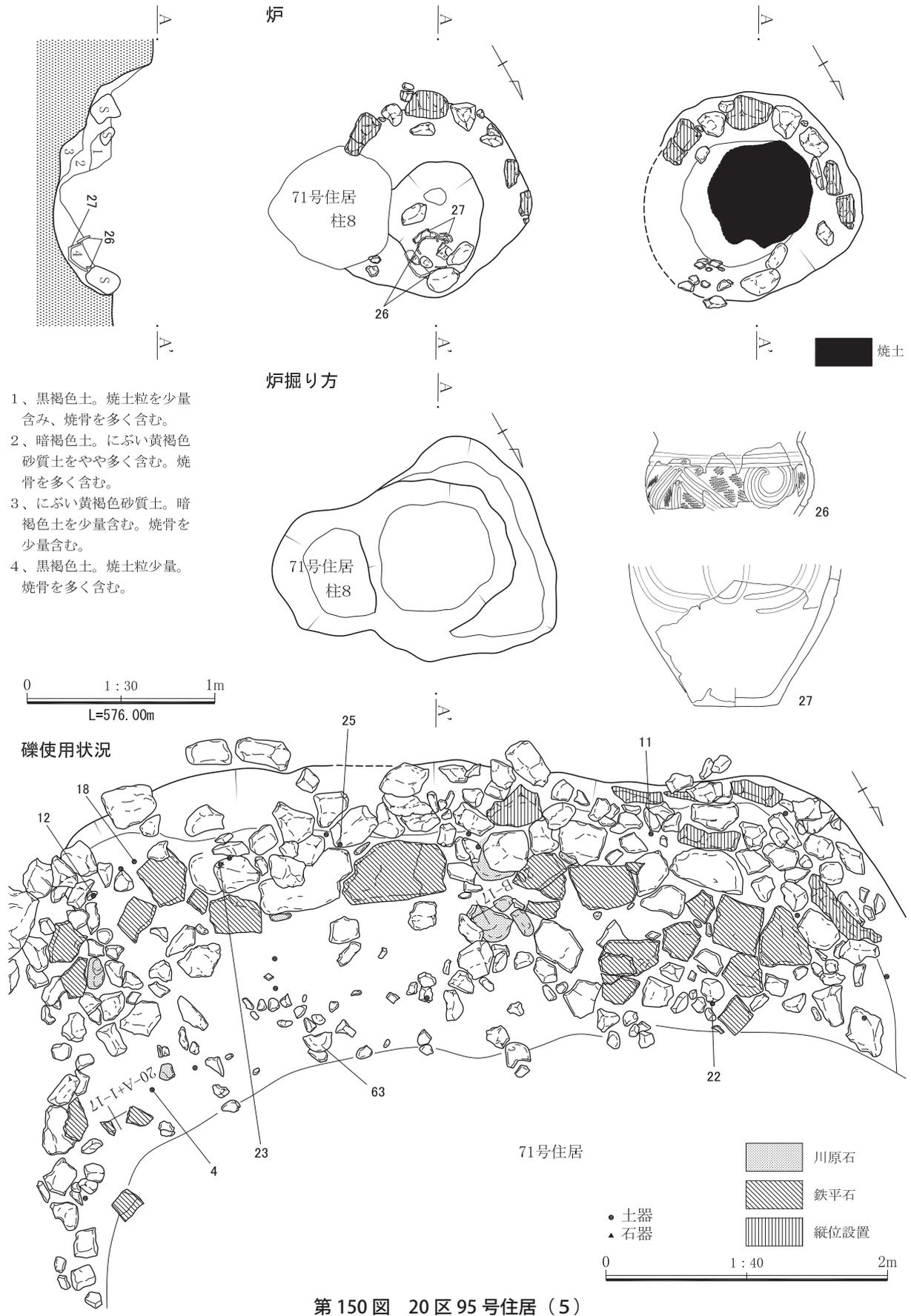
- 柱4
- 1、暗褐色土。5～20cmの地山礫をやや多く含む。
  - 2、黒褐色土。黒色土ブロック、白色粒子を少量含む。
  - 3、暗褐色土。黄褐色砂質土ブロックを少量含む。
  - 4、暗褐色土と黄褐色砂質土の混土。
  - 5、暗褐色土。黄褐色砂質土を少量含む。

- 柱8
- 1、暗褐色土。にぶい黄褐色砂質土を不均質にやや多く含む。
  - 2、黒褐色土。黄色砂質土ブロックを少量含む。
  - 3、暗褐色土。白色粒子を少量含む。
  - 4、にぶい黄褐色砂質土。暗褐色土を少量、白色粒子やや多く含む。
  - 5、暗褐色土。白色粒子を少量含む。

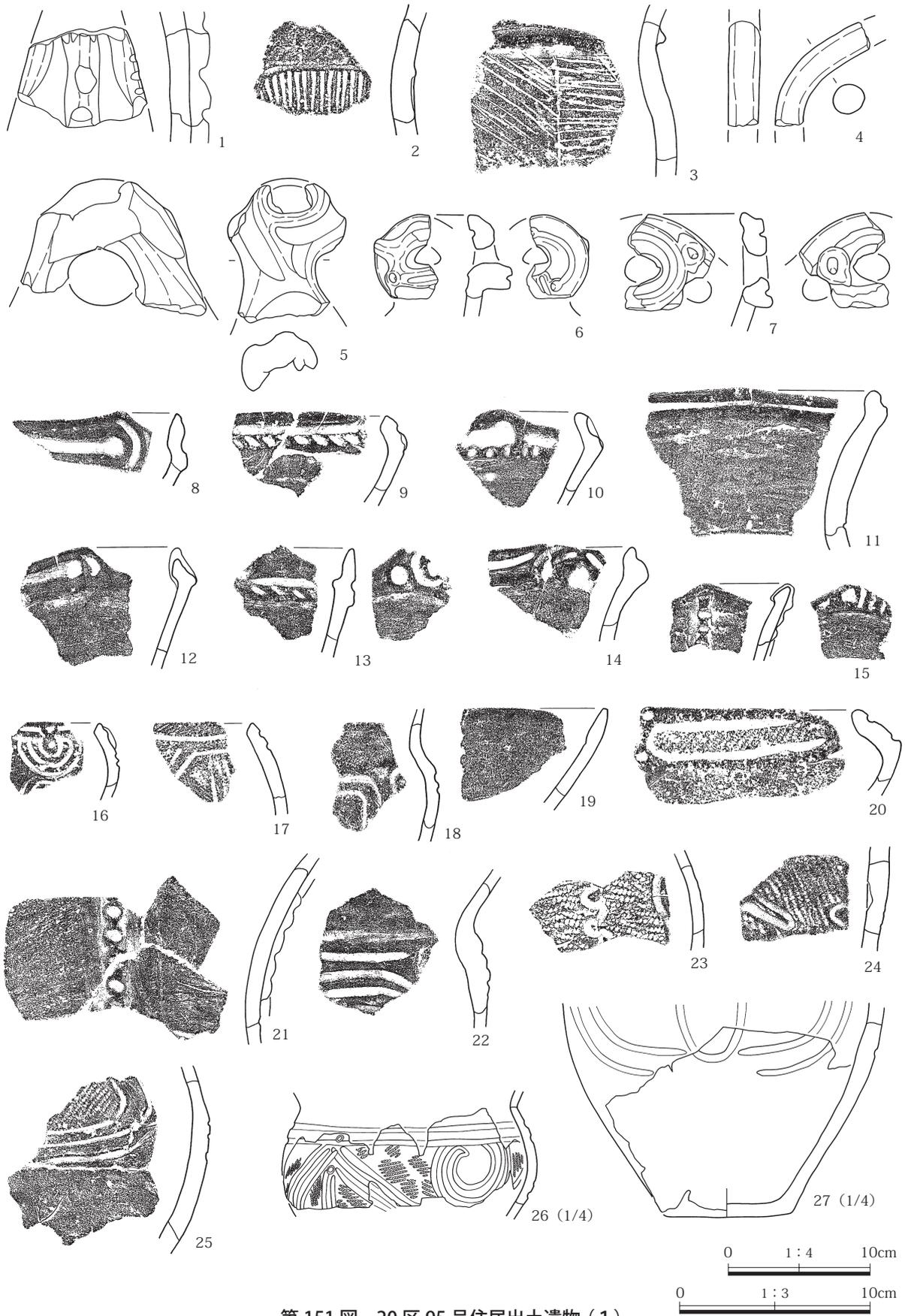
- 柱9
- 1、黒褐色土。やや砂質。黄褐色砂質土ブロックを少量含む。
  - 2、黄褐色砂質土。暗褐色土ブロックを少量含む。
  - 3、暗褐色土。炭化物少量。黒褐色土を少量含む。
  - 4、にぶい黄褐色砂質土。黒褐色土を少量含む。
  - 5、暗褐色土。やや砂質。白色粒子をやや多く含む。
  - 6、黒褐色土。やや砂質。黄褐色砂質土ブロックを少量含む。5～30cmの地山礫を多く含む。
  - 7、黒褐色土と黄褐色砂質土の混土。
  - 8、にぶい黄褐色砂質土と黒褐色土の混土。5～10cmの地山礫を少量含む。

第149図 20区95号住居(4)

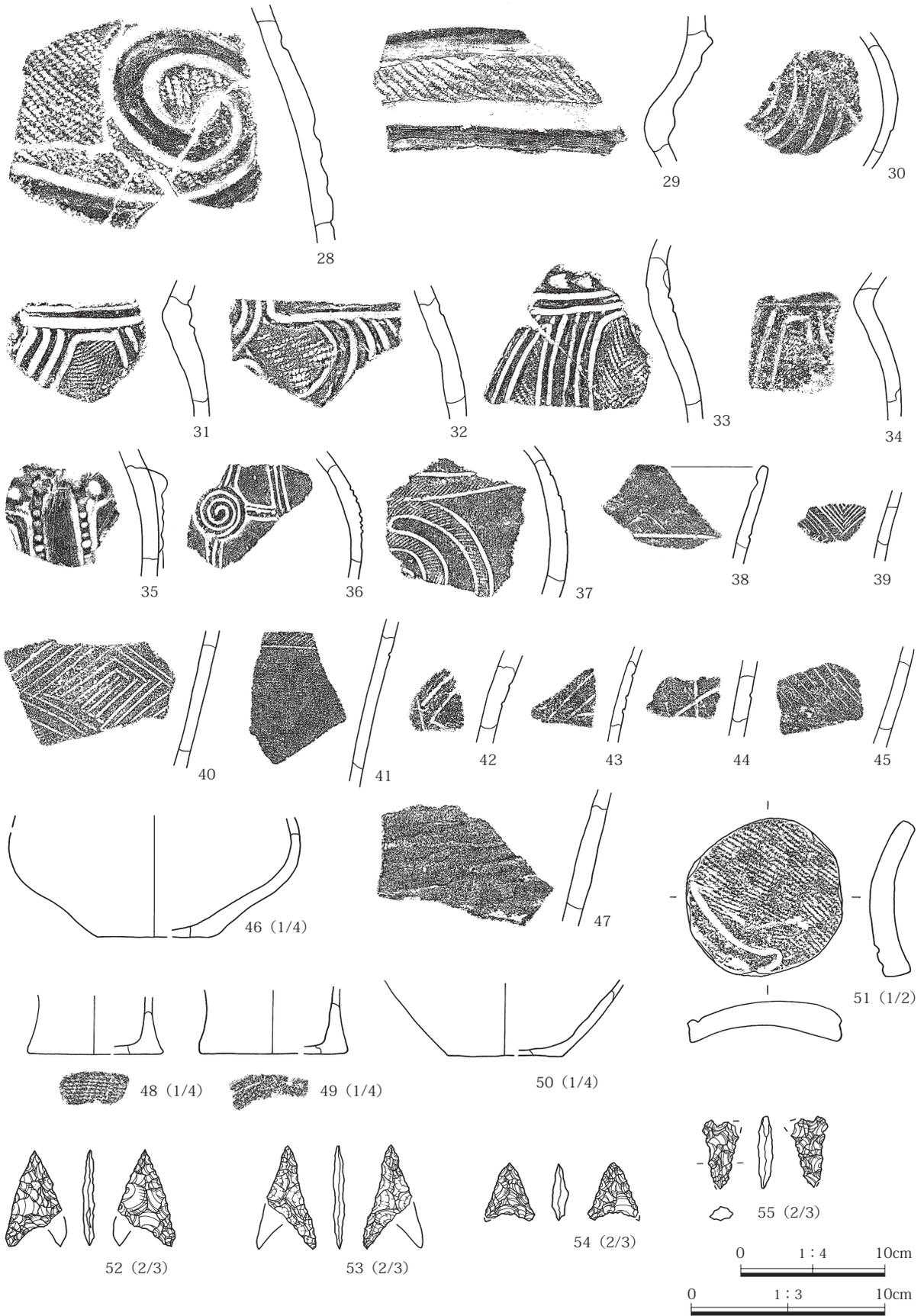
第3章 発見された遺構と遺物



第150図 20区95号住居(5)

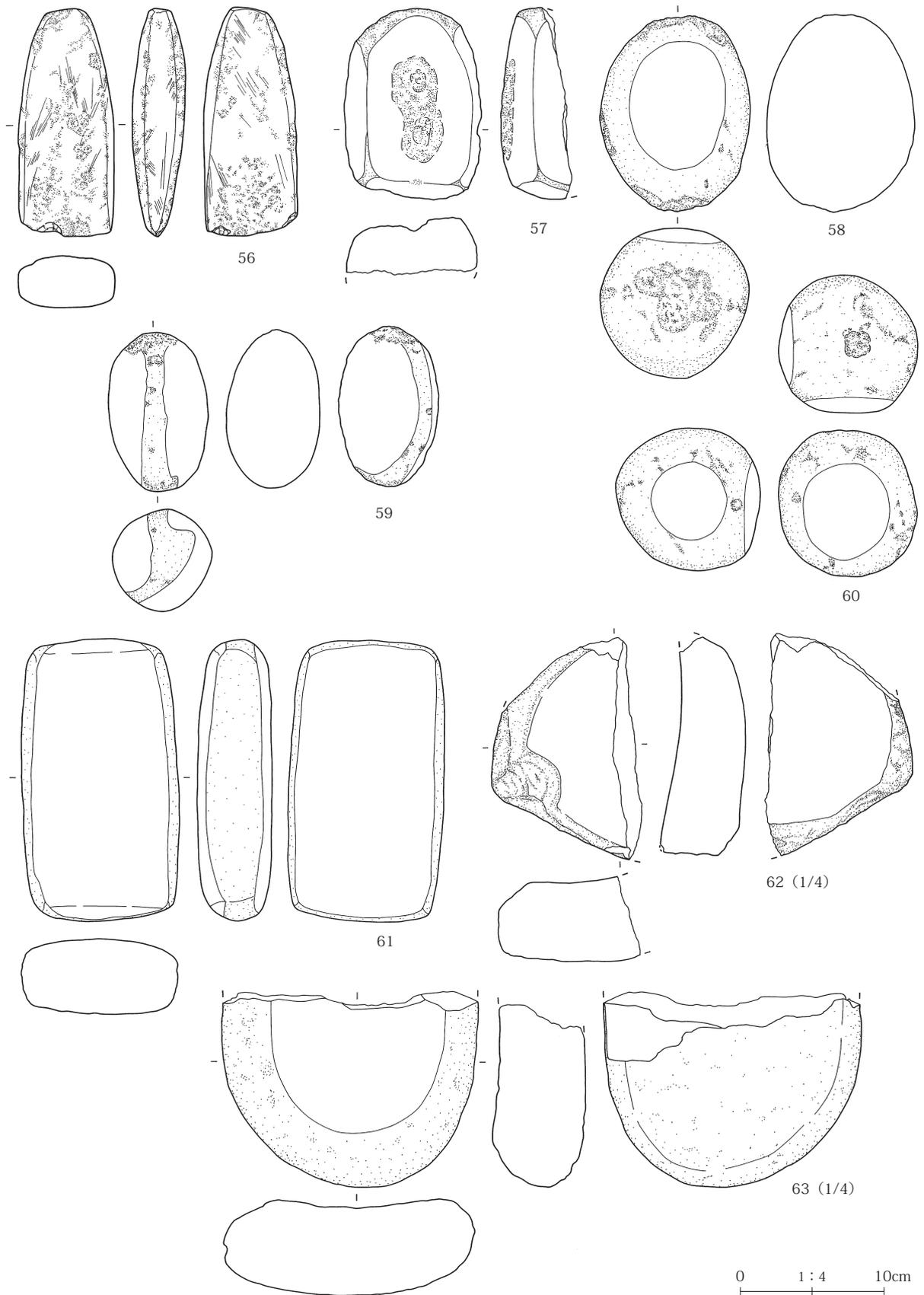


第151図 20区95号住居出土遺物(1)



第152図 20区95号住居出土遺物(2)

第3節 縄文時代後期の堅穴住居



第153図 20区95号住居出土遺物(3)

### 第3章 発見された遺構と遺物

面図上では、確認された範囲をトーンで、写真などから推定される範囲を点線で図示した。その幅は最大1.5mである。

この周堤礫は、まず、床面の敷石が敷設された後、その敷石に若干重なるように基礎となる石が置かれている。この基礎となる礫は、縦位に設置されているものが多く認められ、その上に2～3段礫を積み重ねて壁面としている。そして、その背後に径10～20cmほどの礫が裏込め状に多数詰め込まれている。この形状は19区32号住居で確認された周堤礫と構造が類似している。

**柱穴連結溝** 床面の調査終了後、掘り方の調査を実施した。その際、敷石の下から各柱穴を結ぶように径5～20cmの多数の礫が列状に分布していることが確認された。調査の結果、それは各柱穴を結ぶように幅30～50cmの溝が掘られ、そこに礫が詰め込まれたものであることが判明した。この遺構を「柱穴連結溝」と仮称する。類例としては、20区47号住居があるが、47号住居では床面が明確でないため周礫として扱った。柱穴を結ぶ浅い溝は確認されており、同様な遺構の可能性もある。いずれにしても、その機能・用途は不明である。

**炉** 当初は単独の土坑として調査されたものである。71号住居により炉周辺は壊され床面に相当する部分は失われていた。そのため、本遺構の確認時の標高は本住居跡の床面より20cm以上低い位置にあたる。よって、炉石状の礫が確認できても、本住居跡の炉とは判断できなかったものである。しかし、炉内から出土した土器の時期および柱穴との位置関係から本住居跡の炉と判断し、名称変更を行った。

一部を71号住居の柱穴により破壊されるが、円形の石囲い炉である。ただし、先にも述べたとおり、床面とは20cm以上の差があり、この炉石の上にさらに炉石が積まれていた可能性も考えられよう。確認された炉石は15～25cmの地山礫を用い長軸方向に列ねている。若干の亀裂が認められるが、他の住居跡と比較し、被熱の程度は弱い。このことから、さらに別の炉石があったことを推測させる。

炉内埋設土器は、炉の北東部つまり出入り口部より検出された。2個体が入れ子状に重なって出土し、堀之内1式期の深鉢胴部下半(27)に輪切り状になった深鉢胴部(26)を正位で重ねている。

炉の規模(長辺×短辺×深さ)は確認面で110×100×32、掘り方で117×116×32である。

**方位** N-27°-E

**柱穴** 柱1～9の計9本が確認された。柱1・2を出入り口部の対ピットとし、柱3～9が方形に配置される。対ピットは、それぞれ底面に段差を伴う長楕円形を呈しているため、それぞれ2本の柱穴として計4本の柱穴とも捉えられるものである。また、先述のとおり各柱穴は浅い溝で連結されている。

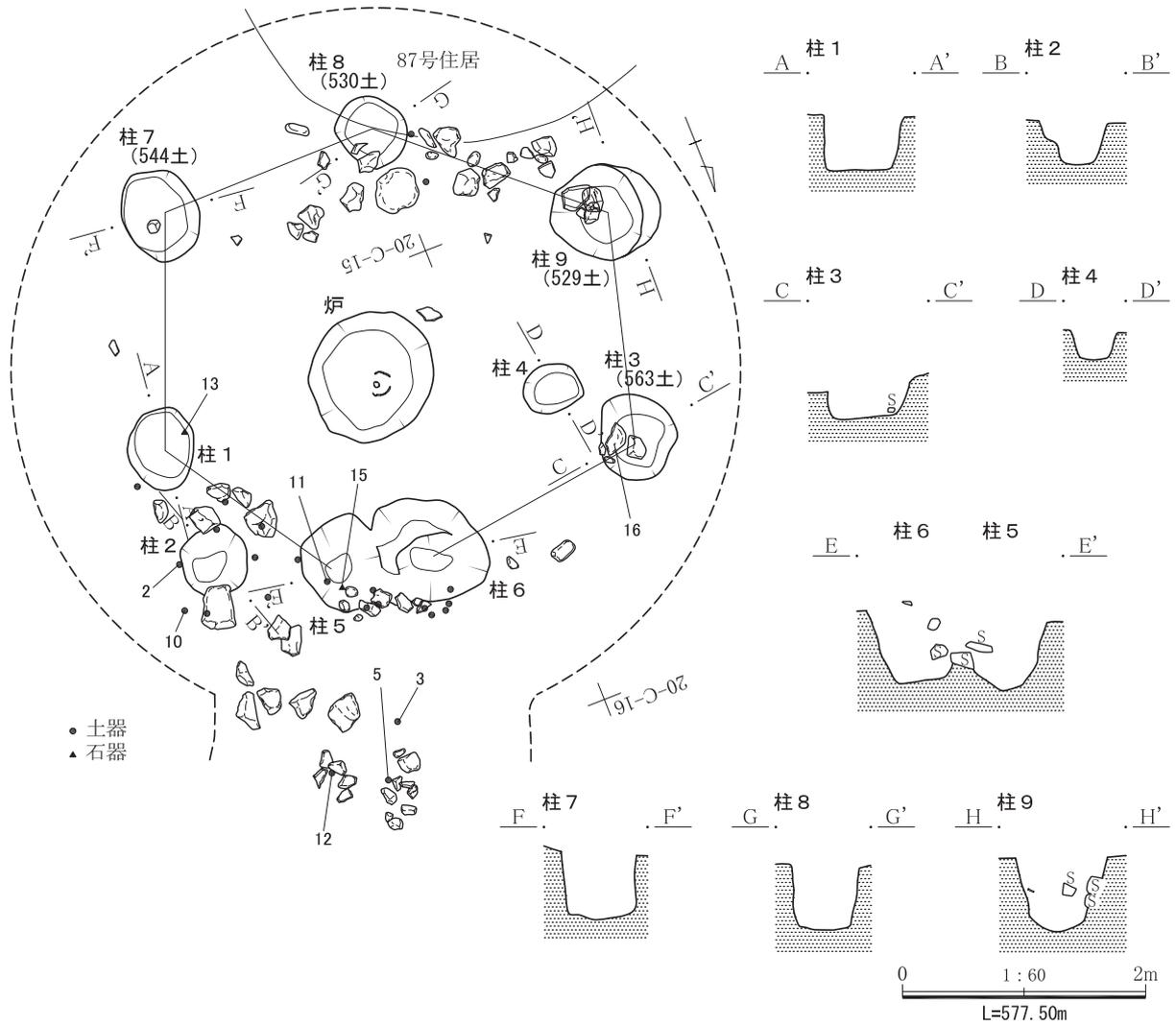
各柱穴からは明確な柱痕は捉えられなかったが、住居跡南半部に検出された床面の敷石が乱れていないことから、柱材の抜き取り行為はなされなかったものと考えられる。また、柱穴の覆土には多くの礫が含まれており、柱穴の根固めに礫を用いたものと考えられよう。

それぞれの柱穴規模(長辺×短辺×深さ)は、柱1：198×106×98、柱2：202×85×97、柱3：117×105×105、柱4：121×100×89、柱5：126×120×130、柱6：105×91×110、柱7：123×109×125、柱8：157×106×74、柱9：128×109×127である。

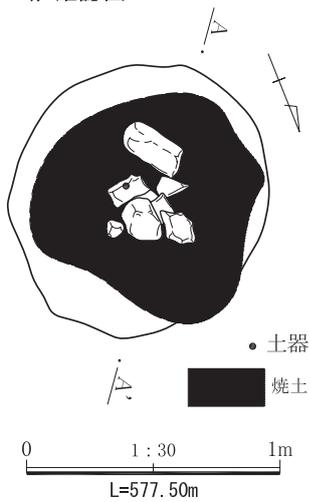
**遺物** 土器は総数995点が出土しており、堀之内1式期の土器片が主体を占め、堀之内2式期、加曾利B式期の土器片を含む。炉内からは埋設土器(26・27)が出土し、いずれも堀之内1式期に比定される。土製品は、土製円盤が1点出土している。

石器は石鏃5点(黒曜石1点)、石鏃未製品3点(黒曜石3点)、石錐1点、加工痕のある剥片1点、使用痕のある剥片2点、磨石9点、石皿2点があり、他に剥片68点(黒曜石31点)、碎片28点(黒曜石25点)がある。

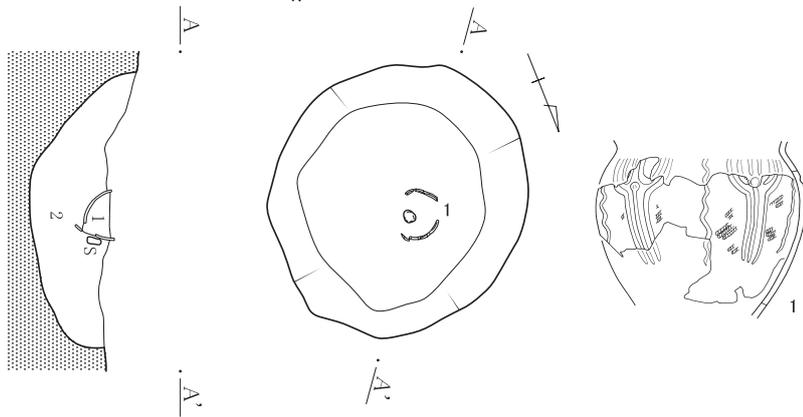
**時期** 炉内埋設土器の時期および住居跡出土土器は堀之内1式期を主体としており、本住居跡は当該期に比定されよう。



炉確認面

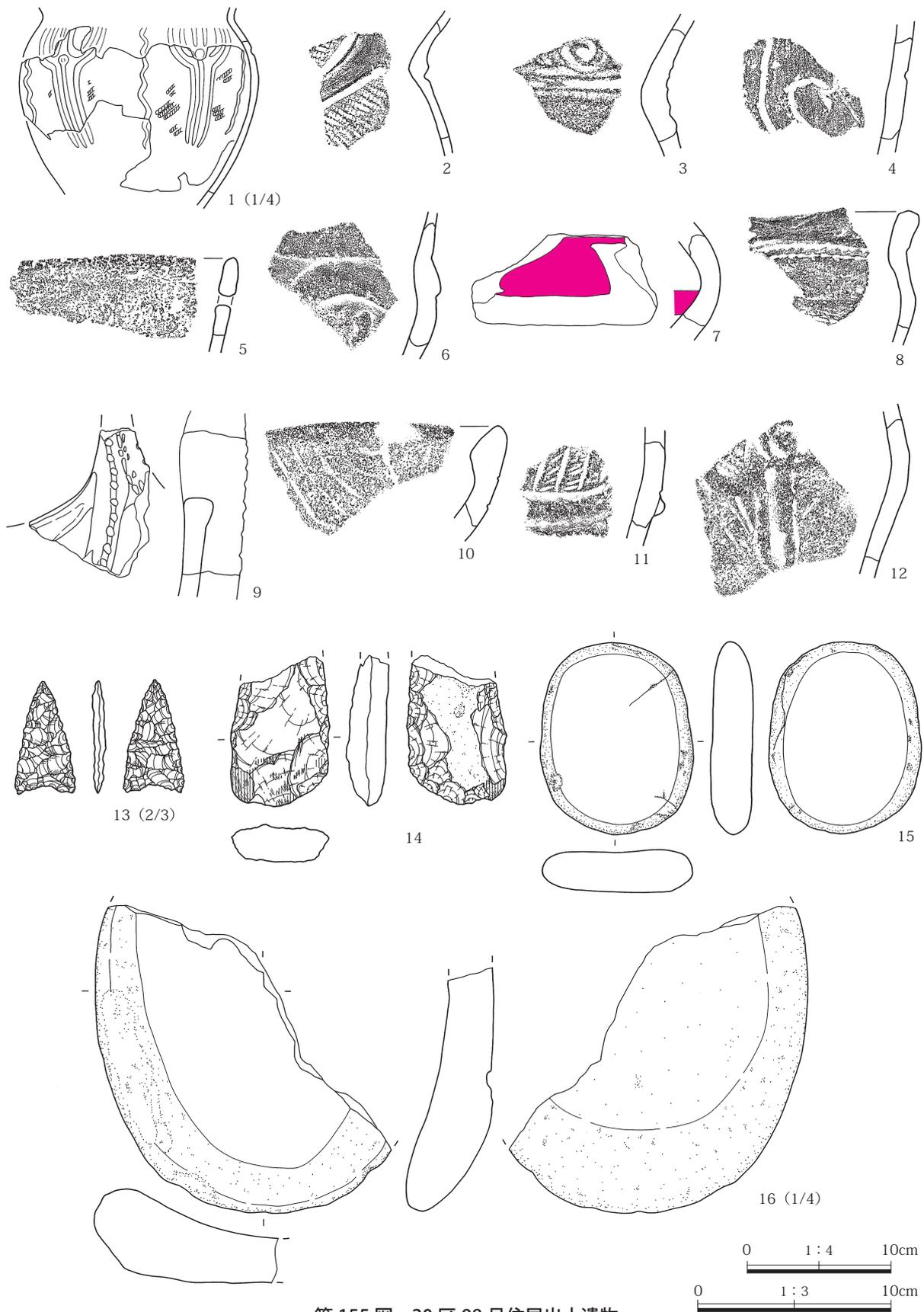


炉



- 1、黒褐色土。焼土粒をやや多く含む。
- 2、暗褐色土。焼土ブロックを不均質に多く含む。

第154図 20区98号住居



第155図 20区98号住居出土遺物

### 20区98号住居

**調査年度** 平成15年度

**位置** B-15グリッド

**経過** 表土掘削後の精査中に鉄平石と焼土が検出され、敷石住居跡の可能性があると調査が開始された。しかし、敷石の面的な広がり認められず、また焼土も不明瞭なため、一度は住居跡ではないと判断された。焼土もこの段階で単独の焼土遺構として調査された。その後、焼土の下から埋設土器が検出され、やはり先の焼土は埋設土器を伴う炉であることが判明した。ここにおいて、敷石と焼土をあわせ、再び住居跡として扱われることになった遺構である。

**重複** 87号住居と重複し、これを切る。

**形状** 敷石の分布や柱穴配置などから、北北東方向に出入り口部を有する柄鏡形敷石住居跡と想定される。主体部は直径6mほどの円形と想定される。

**床面** わずかに鉄平石が認められたが、一度住居跡としての認定を取り消されたため、その位置は記録されていない。写真記録による確認では、炉の周囲に小型の鉄平石が敷石認められるだけである。また、炉についても炉石が検出されていないことから、検出時には、床面はほとんど残存していなかったものと考えられる。

**炉** 検出時は径約110cmの円形の焼土として検出した。中央に鉄平石を含む礫が集中して検出されている。その直下に炉内埋設土器(1)が検出された。炉内埋設土器は、炉のほぼ中央に位置し、堀之内1式の深鉢胴部を利用している。底部は認められない。上位に載っていた礫は住居廃絶時に炉内に詰め込まれたものである可能性が考えられよう。

炉の規模(長辺×短辺×深さ)は掘り方で110×100×40である。

**方位** N-21°-E

**柱穴** 柱1～9の計9本である。柱5・6を対ピットとし、柱1・7・8・9・3の5本がやや偏平な六角形状に配置される。なお、柱3・7～9は、本住居跡の調査終了後に単独の土坑として調査

したものである。しかし、本整理にあたり配置や規模などを再検討した結果、本住居跡に帰属すべきものと判断し、柱穴番号を新しく付した。また、柱3は563号土坑、柱7は544号土坑、柱8は530号土坑、柱9は529号土坑として、『横壁中村遺跡(6)』において報告済みであるが、ここで訂正したい。

それぞれの規模(長辺×短辺×深さ)は、柱1：66×55×46、柱2：56×56×37、柱3：74×66×30、柱4：47×40×25、柱5：74×64×75、柱6：108×94×68、柱7：77×61×56、柱8：59×52×55、柱9：89×77×61である。

**遺物** 土器は総数147点が出土している。縄文時代中期の土器が主体を占めるが、これは中期の住居跡である87号住居と重複するためと考えられる。後期では、炉内埋設土器(1)が堀之内1式に比定され、他に称名寺2式期の土器片が出土している。

石器は石鏃1点、加工痕のある剥片1点(黒曜石1点)、打製石斧1点、磨石1点、石皿1点があり、他に剥片10点(黒曜石3点)、碎片6点(黒曜石6点)がある。

**時期** 炉内埋設土器の時期より、本住居跡は堀之内1式期に比定されよう。

### 20区108号住居

**調査年度** 平成15年度

**位置** A-3グリッド

**経過** 表土掘削後の精査中に、石囲い炉と敷石が検出されたため住居跡と認定した。

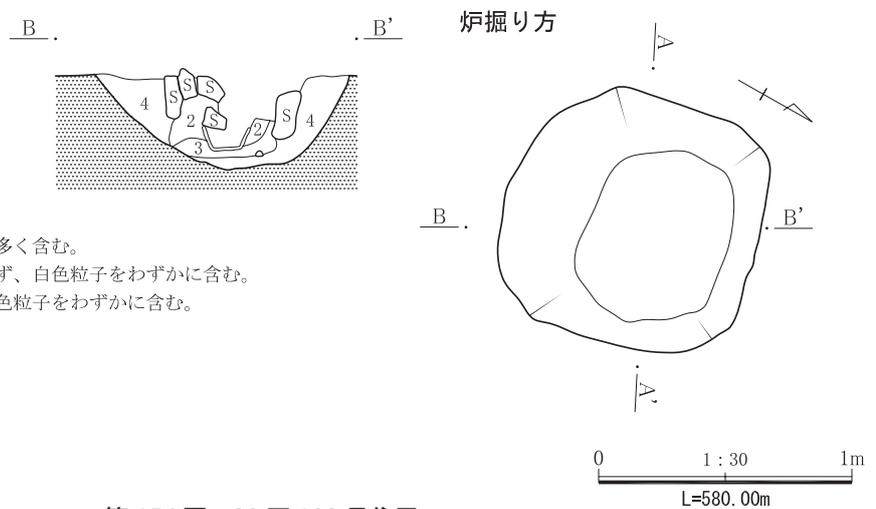
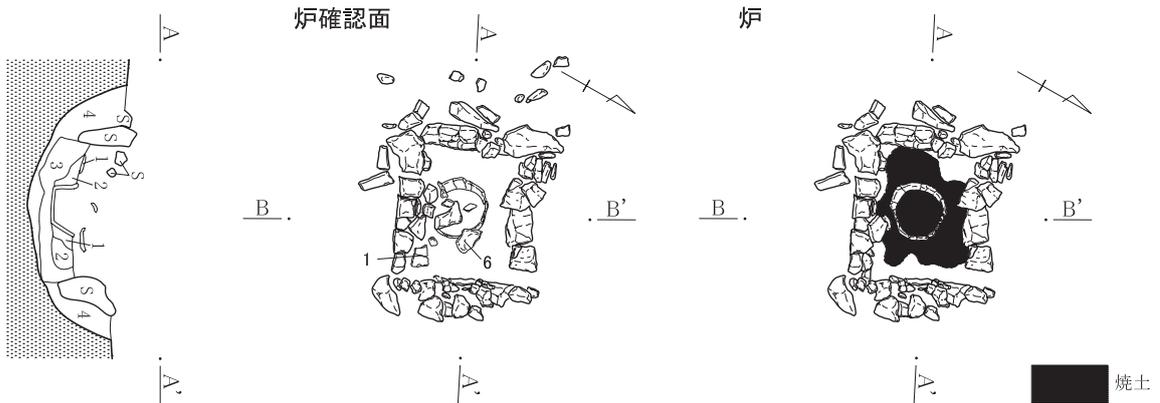
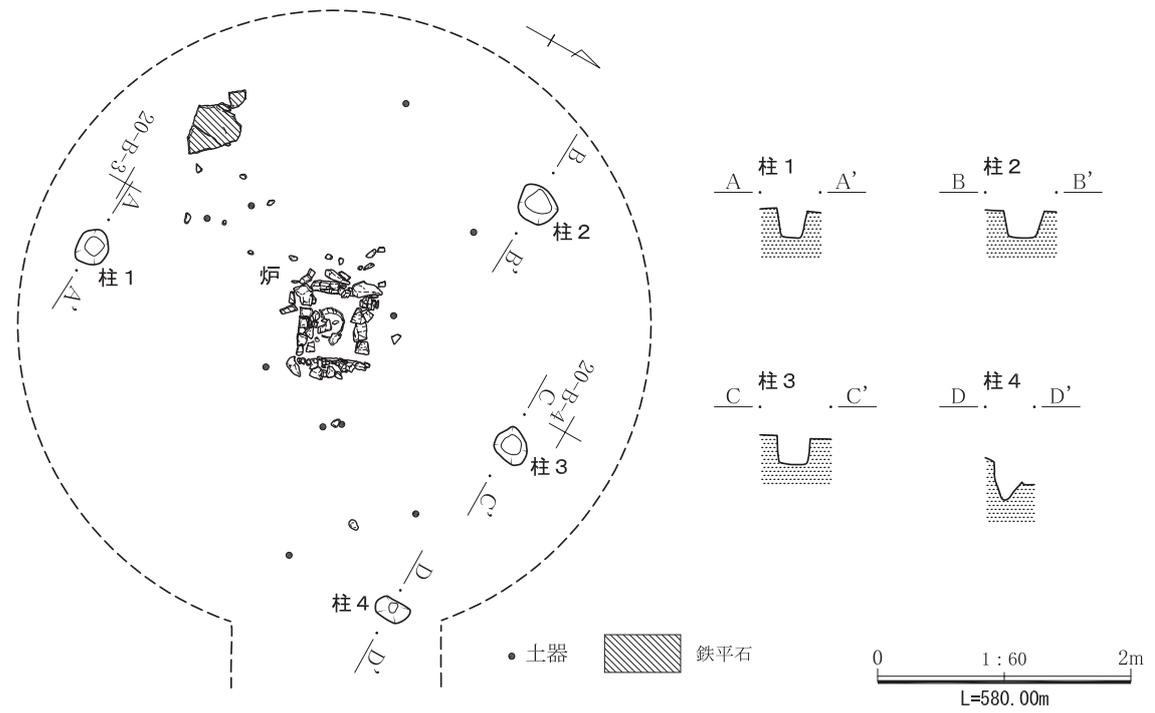
**重複** 重複する遺構は認められない。

**形状** 柱穴配置から北東方向に出入り口部を有する柄鏡形敷石住居跡と想定される。敷石の範囲および柱穴配置から直径5mの円形の主体部を想定した。出入り口部については不明である。

**床面** 検出された敷石は主体部奥壁側にあたる南部と炉の周囲の一部である。鉄平石が認められ、これが床面に相当するものと考えられる。大部分の床面は攪乱を受け消失した可能性が高い。

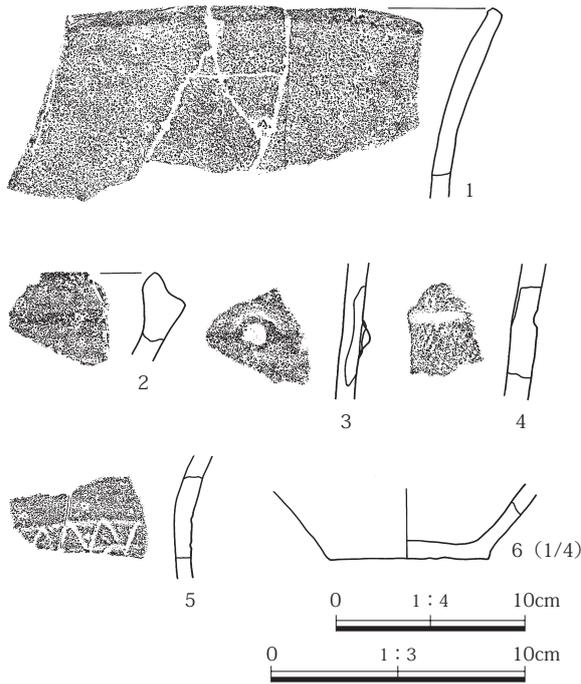
**炉** 住居跡の長軸方向にやや長い方形石囲い炉

第3章 発見された遺構と遺物



- 1、焼土層
- 2、暗褐色土。粘性ややあり。焼土を多く含む。
- 3、暗褐色土。粘性あり。焼土を含まず、白色粒子をわずかに含む。
- 4、暗褐色土。しまりあり。軽石、白色粒子をわずかに含む。

第156図 20区108号住居



第157図 20区108号住居出土遺物

である。炉石は大型の偏平地山礫4石を用い、ほぼ垂直に立てて構築している。炉石は被熱しブロック状に細かく砕けている。また、その炉石が炉内に多く落ち込んでいるため、住居廃絶時に炉石の上部を意図的に崩した可能性も考えられよう。

炉底中央には炉内埋設土器が設置されている。深鉢の胴部下半が用いられ、底部も残存している。しかし、この土器は行方不明となっており詳細は不明である。

炉の規模(長辺×短辺×深さ)は使用面で86×53×33、掘り方で101×101×43である。

**方位** N-56°-E

**柱穴** 検出された柱穴は、柱1～4の計4本である。柱1～3は、主体部の支柱穴の可能性もあるが、規模が小さく、配置にも規則性が捉えがたい。柱穴の多くが検出できなかったものと思われる。

それぞれの規模(長辺×短辺×深さ)は、柱1：30×25×23、柱2：33×30×23、柱3：30×26×23、柱4：27×16×25である。

**遺物** 土器は総数35点が出土している。数量は少ないが堀之内1式が主体となっている。

石器は石錐1点、剥片3点(黒曜石1点)、碎片4点がある。

**時期** 出土土器は堀之内1式期を主体としており、本住居跡は当該期に比定されよう。

### 20区109号住居

**調査年度** 平成15年度

**位置** G-1グリッド

**経過** 10区と20区の境界に位置する住居跡である。表土掘削後、敷石と炉が検出されたため住居跡と認定し、調査を実施した。

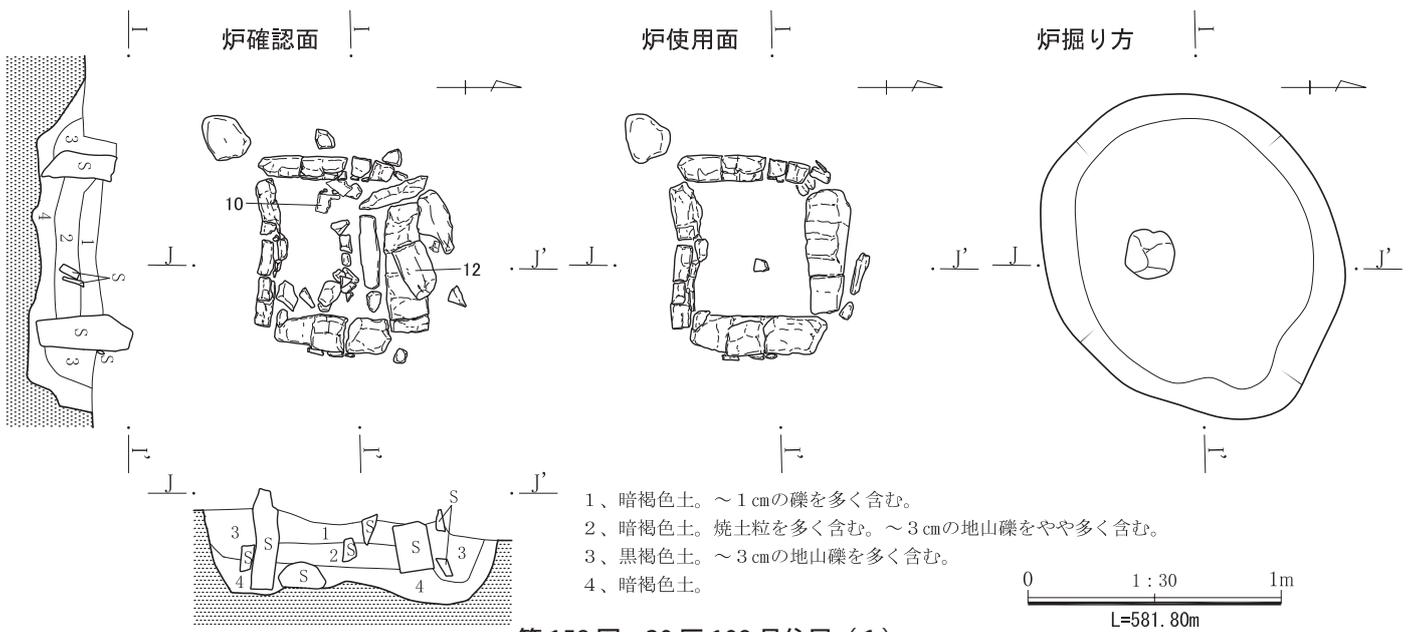
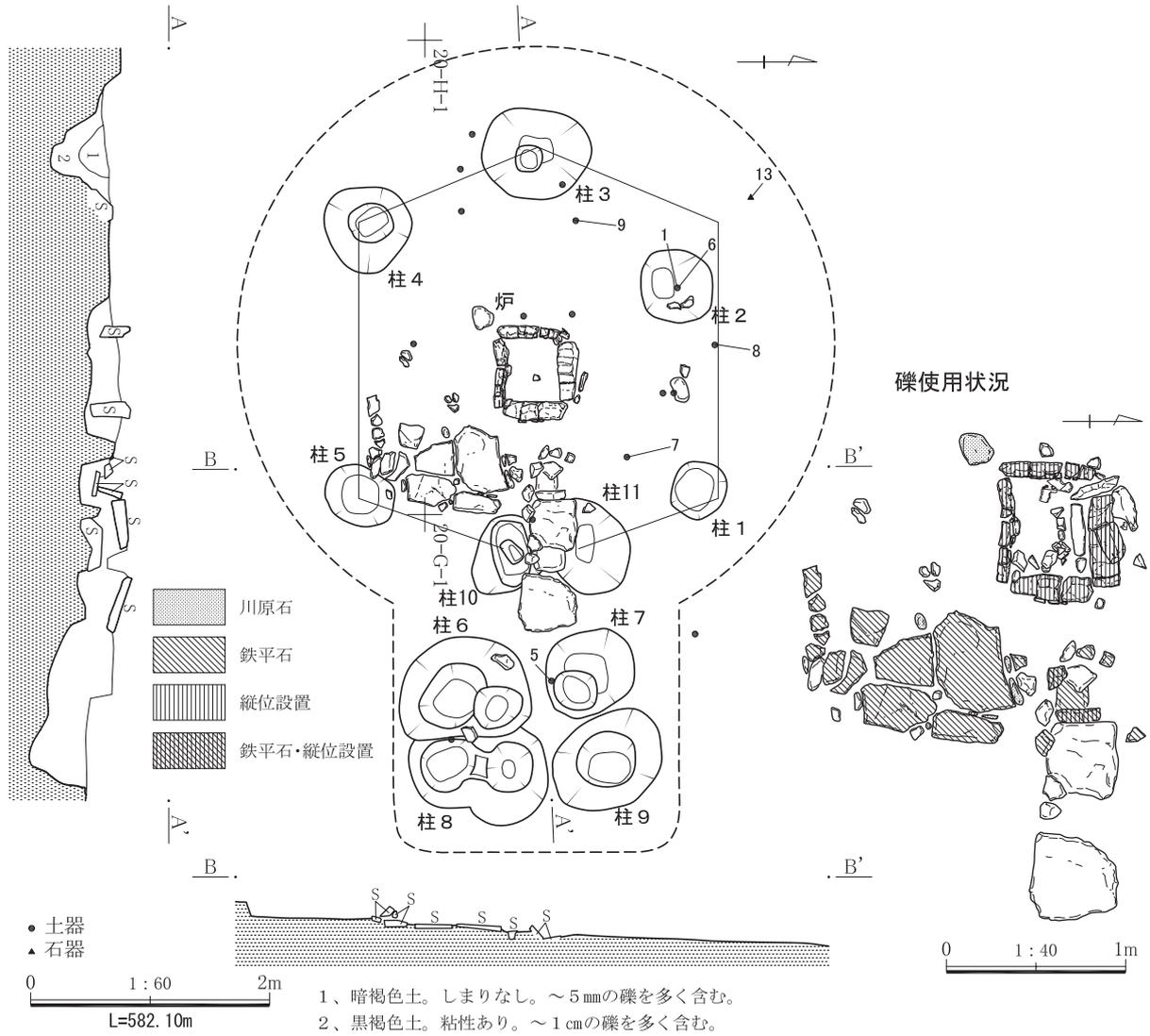
**重複** 重複する遺構は認められない。

**形状** 東方向に出入り口部を有する柄鏡形敷石住居跡である。住居跡の範囲は、床面からの検出であり壁面が残存していないため、柱穴配置より想定した。主体部は直径5mの円形、出入り口部は幅2.5m、長さ2mほどと推定される。また、主体部と出入り口部の接続部に連結部石囲い施設が検出されている。  
**床面** 炉と連結部石囲い施設の間と、その南側の部分にかけて敷石が確認された。住居跡全体の20%程度と考えられる。敷石は、出入り口部付近の住居跡中軸線上には偏平な地山礫を使用し、その他の主体部には鉄平石を多用し、その使い分けがなされている。また、その鉄平石の隙間には小円礫が詰め込まれている。確認された敷石は、柱5の位置する主体部南東のコーナー部であり、その縁辺は直線状に配置されている。

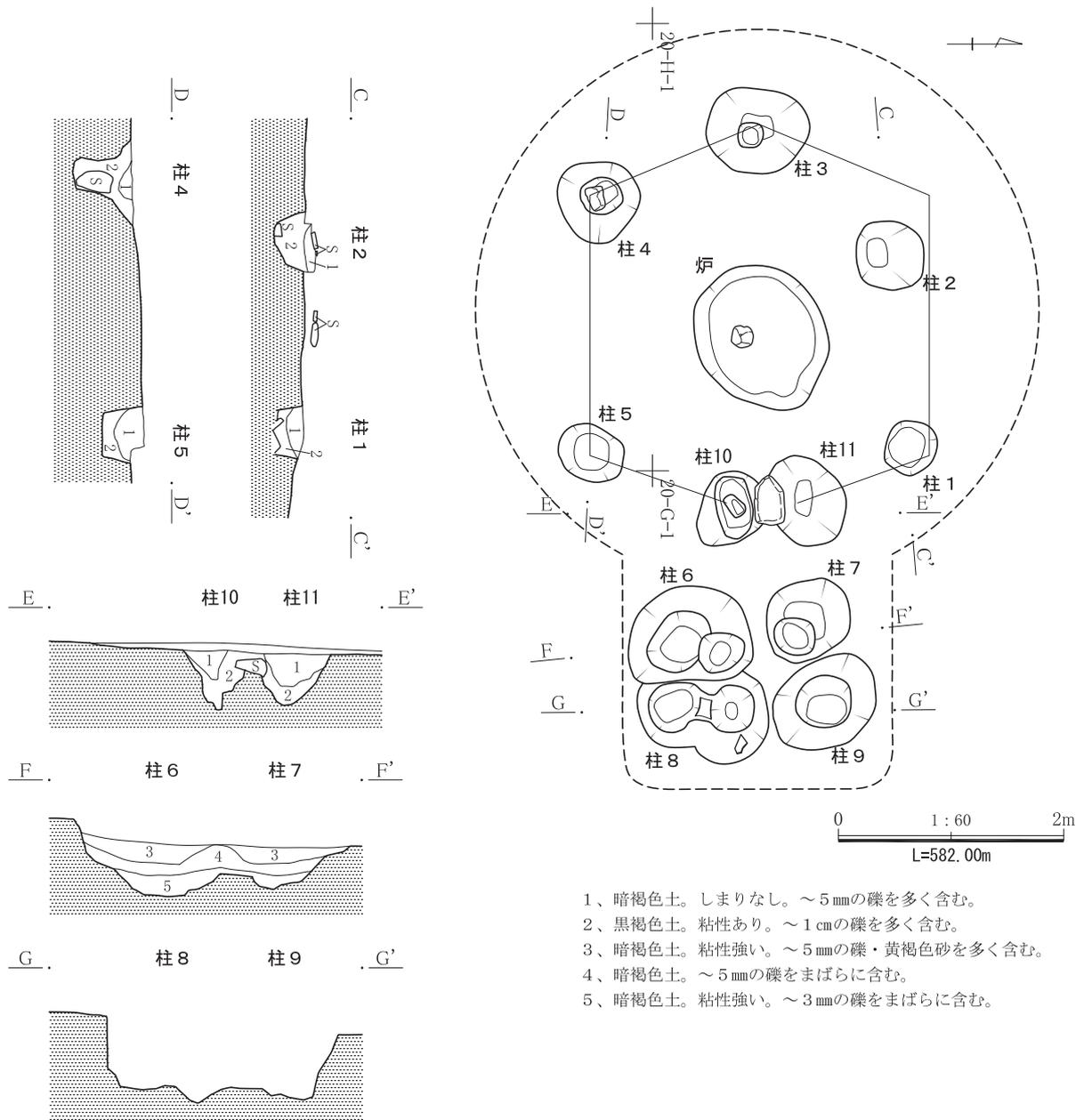
**炉** 炉石として4石の偏平地山礫を垂直に立てて使用した方形石囲い炉である。炉石は4石とも強い被熱が認められ、ブロック状に砕けている。その砕けた破片は、炉内に詰め込まれたように出土しており、住居廃絶時に意図的に崩し入れたものと推測される。炉内埋設土器は認められない。

その規模(長辺×短辺×深さ)は使用面で79×70×40、掘り方で137×115×47である。

**連結部石囲い施設** 調査時には連結部石囲い施設とは認識されず、敷石の一部として調査が行われた。本整理において、図面や写真を再検討し、連結部石

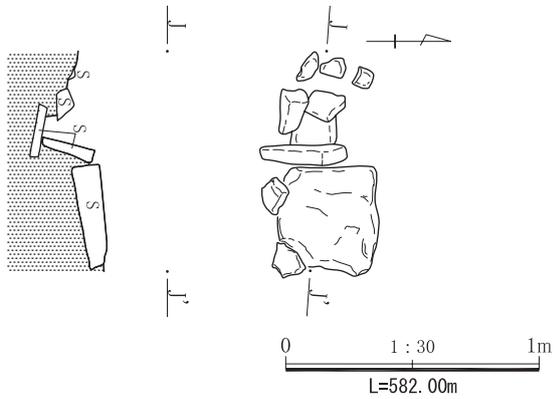


第158図 20区109号住居(1)



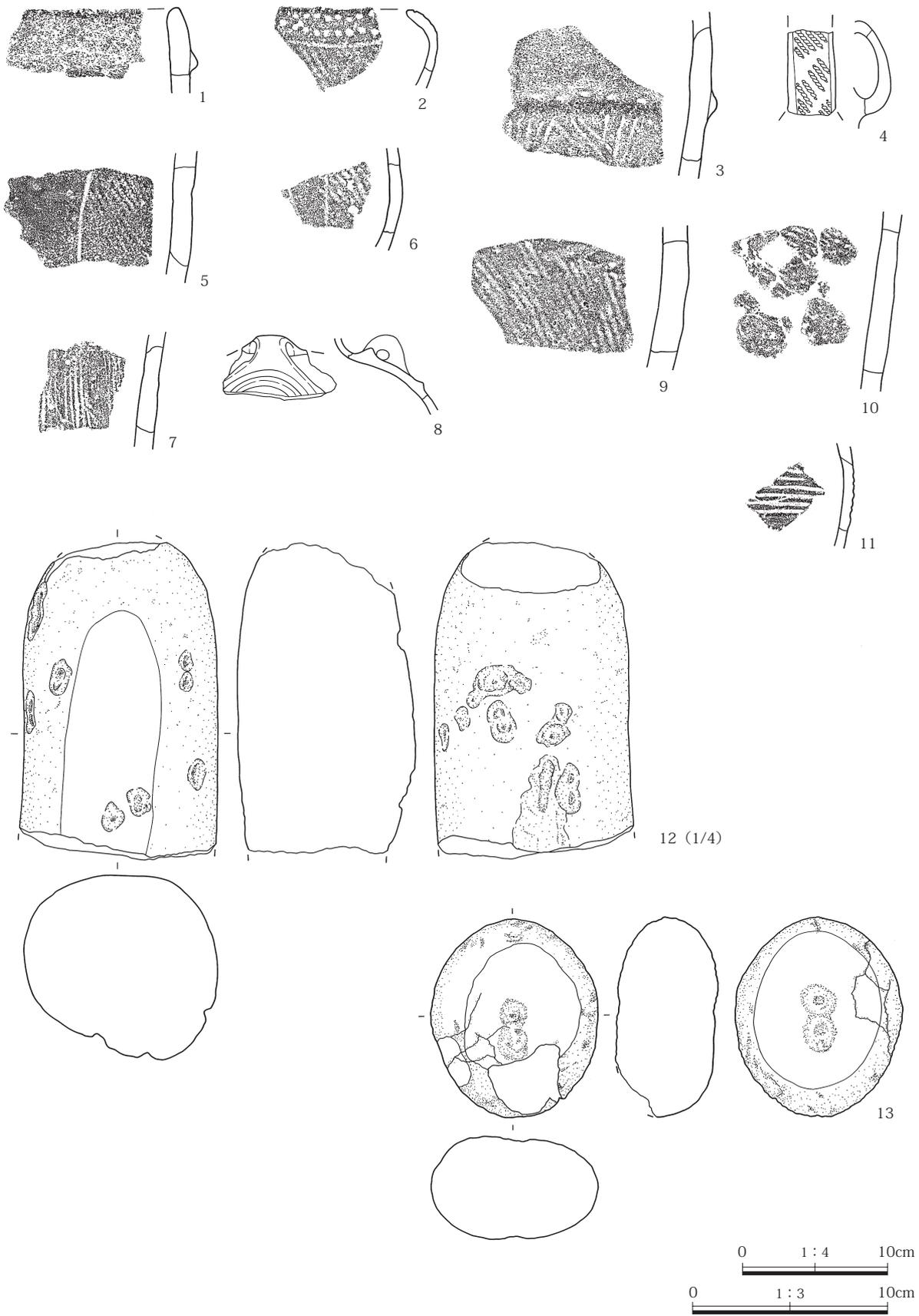
- 1、暗褐色土。しまりなし。～5mmの礫を多く含む。
- 2、黒褐色土。粘性あり。～1cmの礫を多く含む。
- 3、暗褐色土。粘性強い。～5mmの礫・黄褐色砂を多く含む。
- 4、暗褐色土。～5mmの礫をまばらに含む。
- 5、暗褐色土。粘性強い。～3mmの礫をまばらに含む。

連結部石囲い施設



連結部石囲い施設（東から）

第159図 20区109号住居（2）



第160図 20区109号住居出土遺物

囲い施設と認定した。

床面上では、出入り口部との接続部付近の住居跡中軸線上に鉄平石1石が縦位に設置されているのが確認されている。また、その南西20cmの位置にもう1石同様に縦位に設置された鉄平石が認められる。これら2石が本施設の石囲いの礎と考えられる。西側には偏平な地山礫が斜位で検出されているが、これも本施設の石囲いに使用された礫の可能性が高い。北側には礫は認められない。底面にも鉄平石が水平に敷かれ、底となっている。20区81号住居で検出された連結部石囲い施設に構造が類似している。

その規模(長辺×短辺×深さ)は35×30×22である。

**方位** N-90°-E

**柱穴** 柱1～11の計11本が検出された。ただし柱6・8はその形態からそれぞれ2本の柱穴の可能性が高い。柱10・11を出入り口部の対ピットとし、柱1～5が主体部の支柱穴であろう。ただし、柱2は位置が他の柱穴より炉に近く、確認された柱2のさらに西に本来の柱穴があった可能性がある。全体としては六角形を呈している。柱6～9は出入り口部の柱穴である。先述したように、柱6・8は2本の可能性があり、住居の建て替えがあった可能性がある。

それぞれの規模(長辺×短辺×深さ)は、柱1：49×46×29、柱2：62×60×30、柱3：92×78×50、柱4：75×73×58、柱5：59×50×38、柱6：110×84×70、柱7：74×71×41、柱8：115×80×78、柱9：91×82×57、柱10：70×59×61、柱11：80×67×55である。

**遺物** 土器は総数58点が出土しており、加曽利E4式期から称名寺1式期にかけての土器が主体となっている。

石器は磨石1点、台石1点、石核1点、剥片2点(黒曜石2点)がある。

**時期** 出土土器は加曽利E4式期から称名寺1式期が主体となっており、本住居跡は縄文時代中期の加曽利E4式期から後期の称名寺1式期に比定され

よう。ただし、住居の形状では連結部石囲い施設があることなど、称名寺1式期に比定した81号住居との類似点が認められる。

### 20区114号住居

**調査年度** 平成16年度

**位置** S-8グリッド

**経過** 表土掘削後、敷石および炉が検出されたため敷石住居跡と認定し、調査を実施した。

**重複** 588・589・591・592・642号土坑と重複するが、切り合い関係は不明である。

**形状** 柱穴配置から北東方向に出入り口部を有する柄鏡形敷石住居跡と想定される。主体部は、敷石と炉の位置関係から直径5.7mほどの円形を呈するものと想定される。出入り口部についての詳細は不明である。

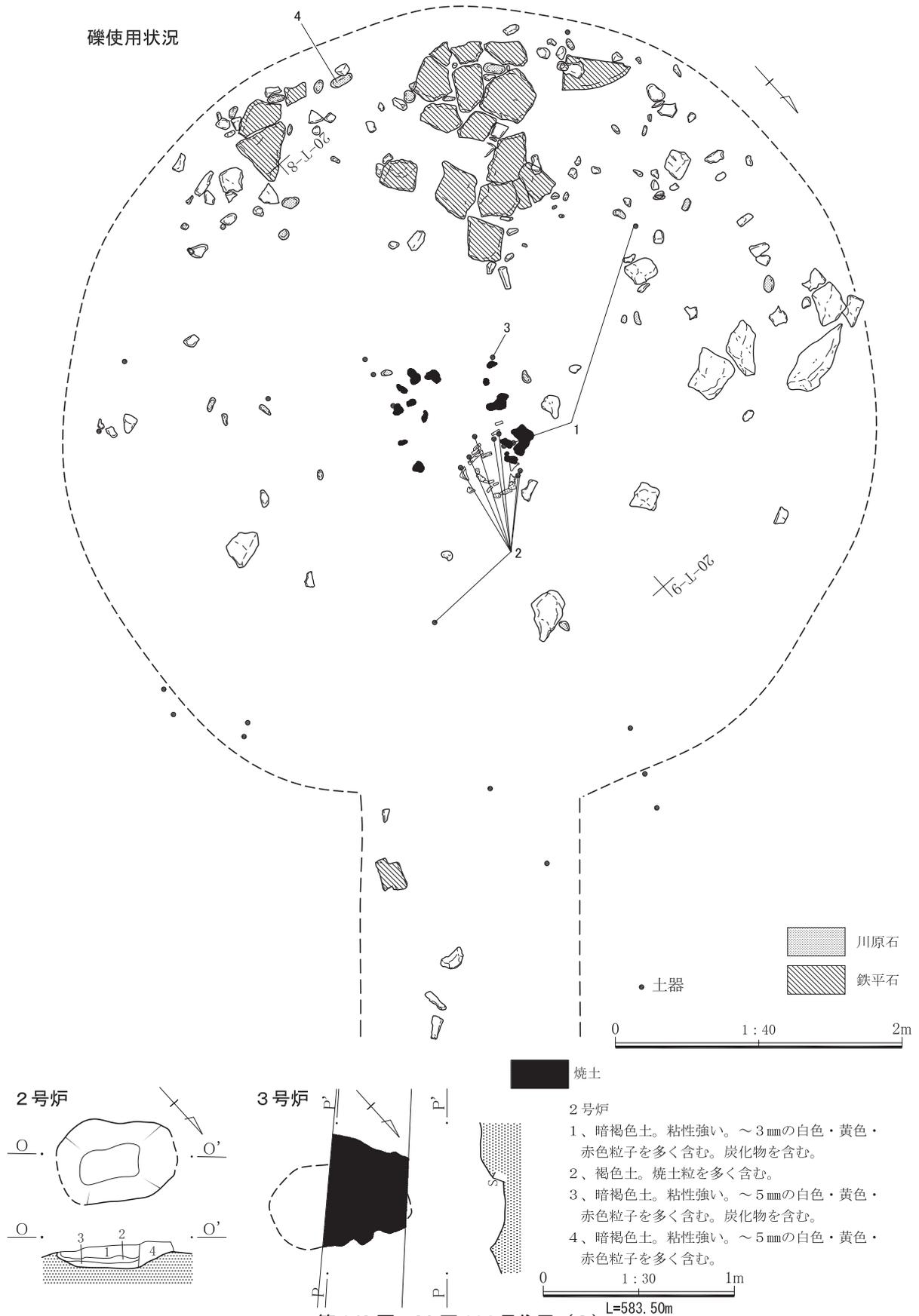
**床面** 標高の高い側にあたる炉の南西部で長さ3m、幅1.5mの範囲に鉄平石を用いた敷石を検出した。その間には小円礫が詰め込まれている。検出された敷石面はほぼ水平を保っており、攪乱を免れたものと思われる。また、敷石の認められない部分においても小円礫が点在しているため、本来は全面敷石であったものと考えられる。炉の北東4.5mにも1石であるが鉄平石が認められており、住居跡の範囲に含めた。

**炉** 炉石は残存しないが、焼土と炉内埋設土器を確認した。検出時には、1.1×1.0mの範囲に焼土がブロック状に点在し分布する状況であった。炉が攪乱を受けたものであろう。その後の調査で、本住居跡の炉は若干地点を異にしながら1号炉から3号炉までの3基が確認された。以下、順に記載する。

1号炉は、炉内埋設土器を伴うもので、3基の中では最も北側に検出された。堀之内1式に比定される大型深鉢の胴部下半(1)が斜位で設置され、その上に深鉢胴部(2)が載せられるように正位で出土した。大型深鉢は底部は残存しているが胴部は斜めにカットされたようになっている。この破断面にも強い被熱の痕跡が認められることから、斜めに設置さ

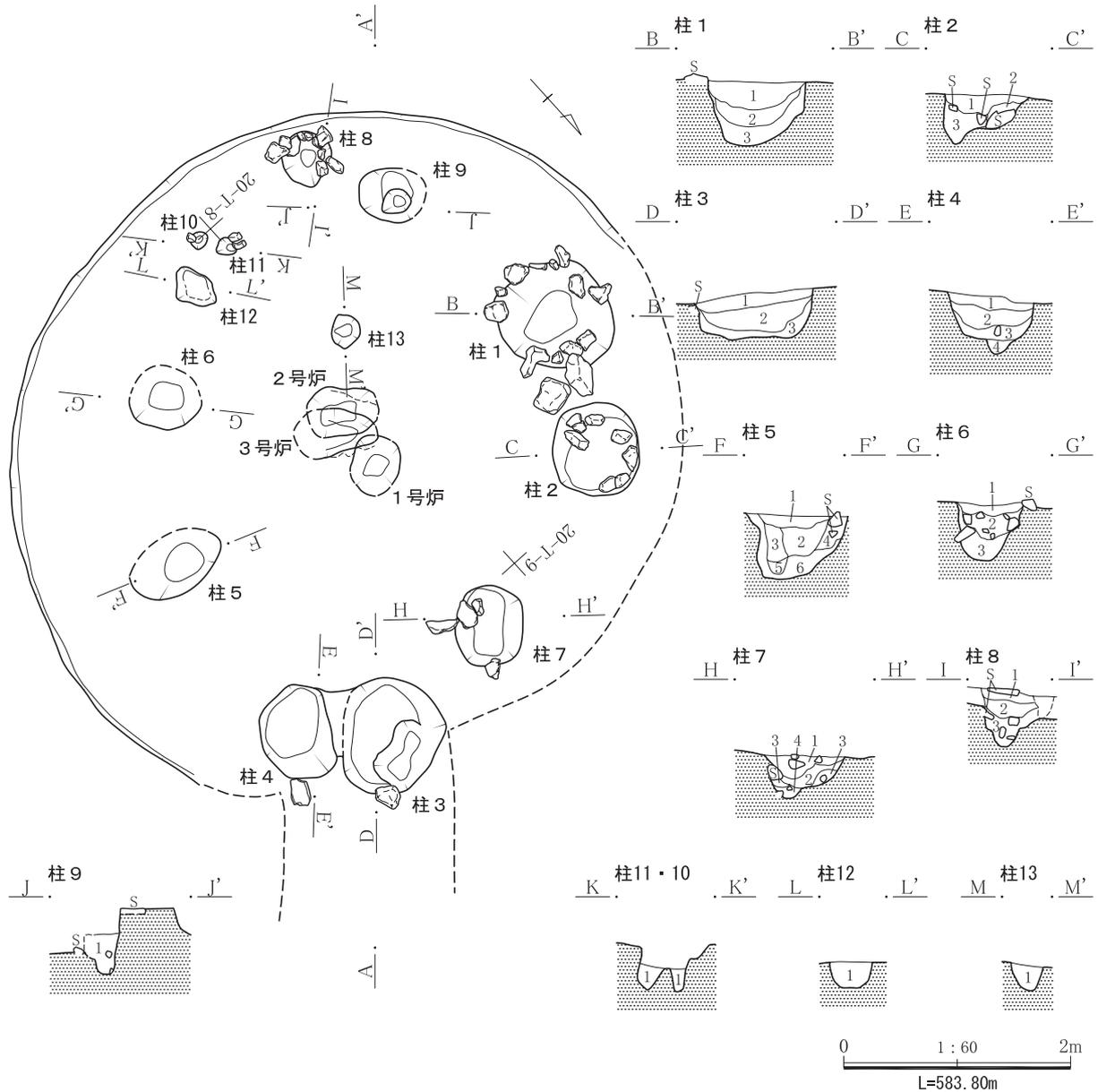


第161図 20区114号住居(1)



第162図 20区114号住居(2)

第3章 発見された遺構と遺物



柱1～4・6・7

- 1、黒褐色土。粘性強い。～5mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。
- 2、黒褐色土。粘性強い。～3mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。
- 3、暗褐色土。粘性強い。～5mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。
- 4、黒褐色土。粘性強い。～3mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。

柱5

- 1、黒褐色土。粘性やや強い。～5mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。
- 2、黒褐色土。粘性強い。～5mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。地山礫を含む。
- 3、暗褐色土。粘性強い。～3mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。黄褐色土ブロックを含む。
- 4、黒褐色土。粘性強い。～3mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。地山礫を多く含む。
- 5、黒褐色土。粘性強い。～3mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。
- 6、暗褐色土。粘性強い。～5mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。炭化物を含む。黄褐色土ブロックを含む。

柱8

- 1、黒褐色土。粘性強い。～5mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。
- 2、黒褐色土。粘性強い。～3mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。
- 3、暗褐色土。粘性強い。～3mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。黄褐色土ブロックを含む。

柱9

- 1、黒褐色土。粘性少ない。～3mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。黄褐色砂質土ブロックを含む。

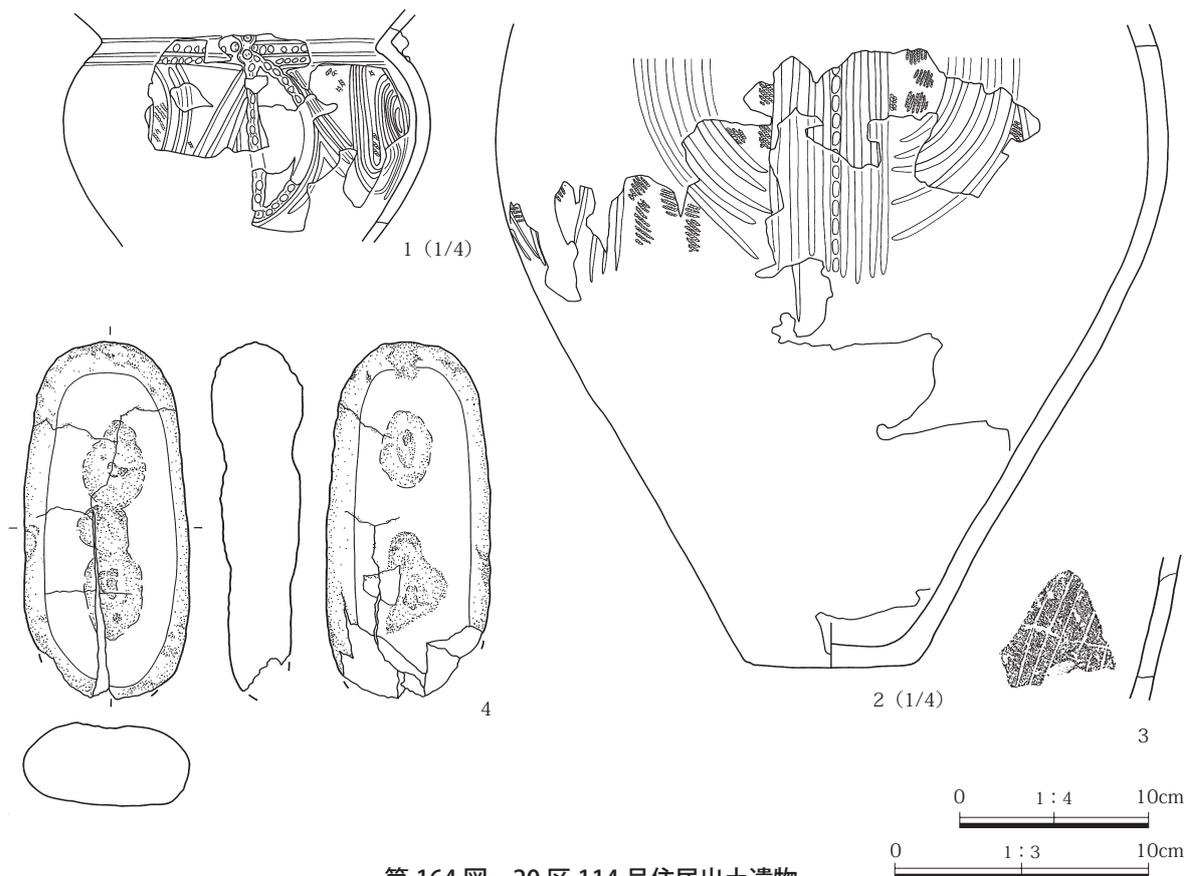
柱10・11

- 1、黒褐色土。粘性強い。～5mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。

柱12・13

- 1、暗褐色土。粘性なし。～5mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。

第163図 20区114号住居(3)



第164図 20区114号住居出土遺物

れた状態で使用されていたと推定される。上に載っている深鉢は底部と口頸部を欠損し、輪切りの状態で出土した。全体が強く被熱し、劣化および色調の変化が認められる。

2号炉は掘り方だけの検出である。住居跡の長軸方向に対して直行方向に長い長方形の掘り方を呈している。

3号炉は1・2号炉の調査終了後にさらに焼土が検出されたため炉として調査を実施した。トレンチで壊してしまっているため全体形状は把握できないが、2号炉と同様、住居跡の長軸方向と直行方向に長い長方形を呈しているようである。

床面との対応では、1号炉が敷石と対応するものであり、2・3号炉は重複や建て替えなどによる一段階古いものと考えたい。

それぞれの規模(長辺×短辺×深さ)は掘り方で1号炉：63×45×12、2号炉：54×43×19、3号炉：74×(42)×13である。

方位 N-42°-E

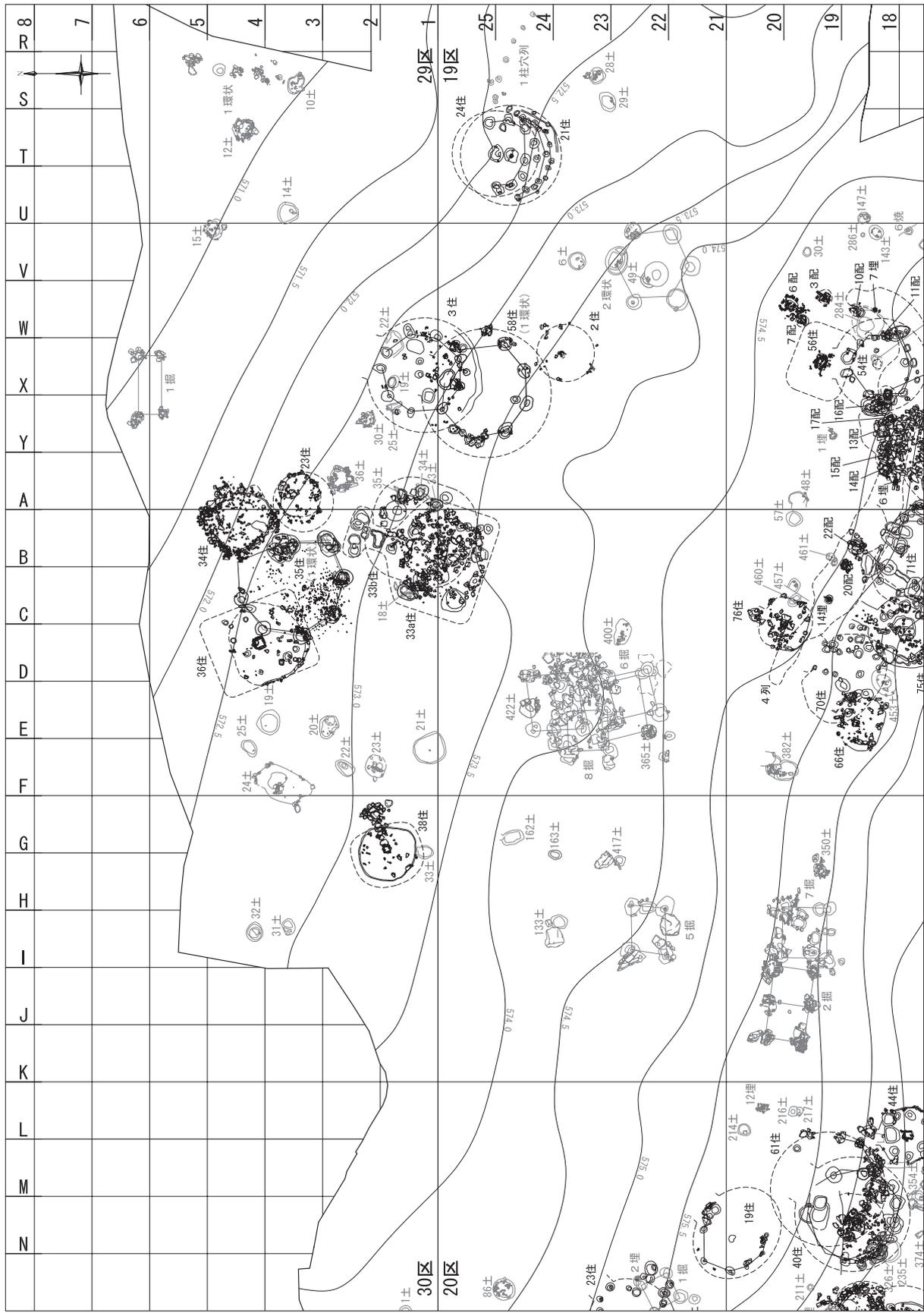
柱 穴 柱1～13の計13本が検出された。柱3・4が出入り口の対ピットと考えられるが、その他の柱穴は床面の敷石と対応せず、配置も規則性が乏しい。柱穴覆土と地山の土との判別が難しく、検出できなかった柱穴が多いものと思われる。

それぞれの規模(長辺×短辺×深さ)は柱1：137×90×66、柱2：82×75×55、柱3：100×90×48、柱4：83×62×57、柱5：75×(52)×58、柱6：63×(55)×52、柱7：71×59×43、柱8：50×45×52、柱9：(57)×49×40、柱10：15×13×43、柱11：17×15×38、柱12：35×30×24、柱13：29×25×25である。

遺物 土器は総数43点が出土し、点数は少ないが堀之内1が主体となっている。炉内埋設土器(1・2)も堀之内1式期に比定されよう。

石器は磨石1点、剥片4点が出土した。

時期 炉内埋設土器および住居跡出土土器は堀之内1式期を主体としており、本住居跡は当該期に比定されよう。



第165図 29・30区 縄文時代後期住居全体図

### 3、29・30区の縄文時代後期竪穴住居

ここでは、29・30区において確認された住居跡6軒について報告する。29・30区は平成10年度から平成11年度にかけて調査された一連の調査であること、そして調査された縄文時代後期の住居跡軒数が少ないことから両区を一括して扱う。

29・30区は区の北側を吾妻川が東流しているため、東西に長い調査区となっている。また、29区には中央部を山根沢が流れている。山根沢以东については『横壁中村遺跡(8)』において報告し、本報告では山根沢以西について扱う。

山根沢以西の29区は、後期後半の大規模な墓域として利用され、多くの配石墓が構築されているが、住居跡は少なく本報告で対象となる住居跡は1軒である。

30区は東西に長い調査区となっているが、縄文時代後期の住居跡は、その東側に偏って5軒が確認されている。第165図においては、30区の西側は住居跡がないため割愛した。第3図を参照していただきたい。

また、35号住居は『横壁中村遺跡(7)』において30区1号環状柱穴列として報告したものであるが、本報告にあたり再検討した結果、住居跡の柱穴に相当するものと判断した。ここに訂正したい。

29・30区の調査においては、地山および遺構覆土に非常に多くの礫が含まれ、遺構の認定を困難にしていた。そのため、遺物についてはできる限り出土位置を記録して取り上げ、後に住居跡などの遺構が判明した場合に、その帰属が明らかにできるように努めた。そのため、本調査区の住居跡出土遺物については、調査時に住居跡の遺物として取り上げられたものと、調査時には単に位置を記録して取り上げ、本整理においてその出土位置から住居跡の遺物として認定したものの両者が含まれている。ただし、層位的な発掘が困難であったため、本来その遺構に帰属するべきでない遺物も含んでしまっている可能性があることをご了解いただきたい。

なお、縄文時代後期の土坑や掘立柱建物、土器埋

設遺構、焼土痕など住居跡以外の遺構の詳細については、『横壁中村遺跡(6)』および『横壁中村遺跡(7)』においてすでに報告済みであるので、参照していただきたい。

#### 29区23号住居

調査年度 平成10年度

位置 Y-3グリッド

経過 敷石と炉状の石囲いを確認し、敷石住居跡として調査を実施した。しかし、その後の調査で、炉状の石囲いは、その礫に被熱痕跡が認められないことや、覆土から焼けていない人骨が出土したことから、炉ではなく中世以降の墓坑(1号墓)であることが判明した。そのため、本住居跡で検出できたのは敷石のみである。

重複 1号墓と重複し、これに切られる。

形状 柄鏡形敷石住居跡と想定されるが、敷石のみの検出であり詳細は不明である。平面図上では敷石の範囲から、直径4.2mの主体部を想定した。また、住居跡の主軸方向が不明なため、図上では北を上を図示している。

床面 鉄平石による敷石が検出された。また、所々に小円礫の出土があり、敷石の間に詰められていたものと推定される。敷石面はほぼ水平であり、残存している部分については攪乱を受けていないとみられる。また、床面と同一面から細形石棒が1点出土している。

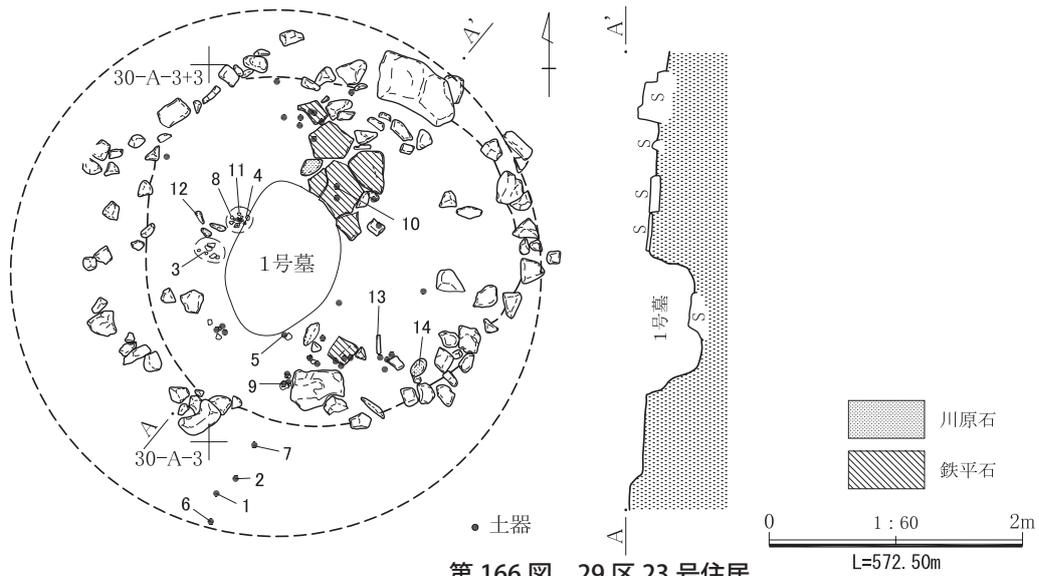
炉 検出されていない。当初、炉と想定した遺構は、その後の調査で中近世の墓坑と判明し、本住居跡を壊して構築されている。

方位 ー

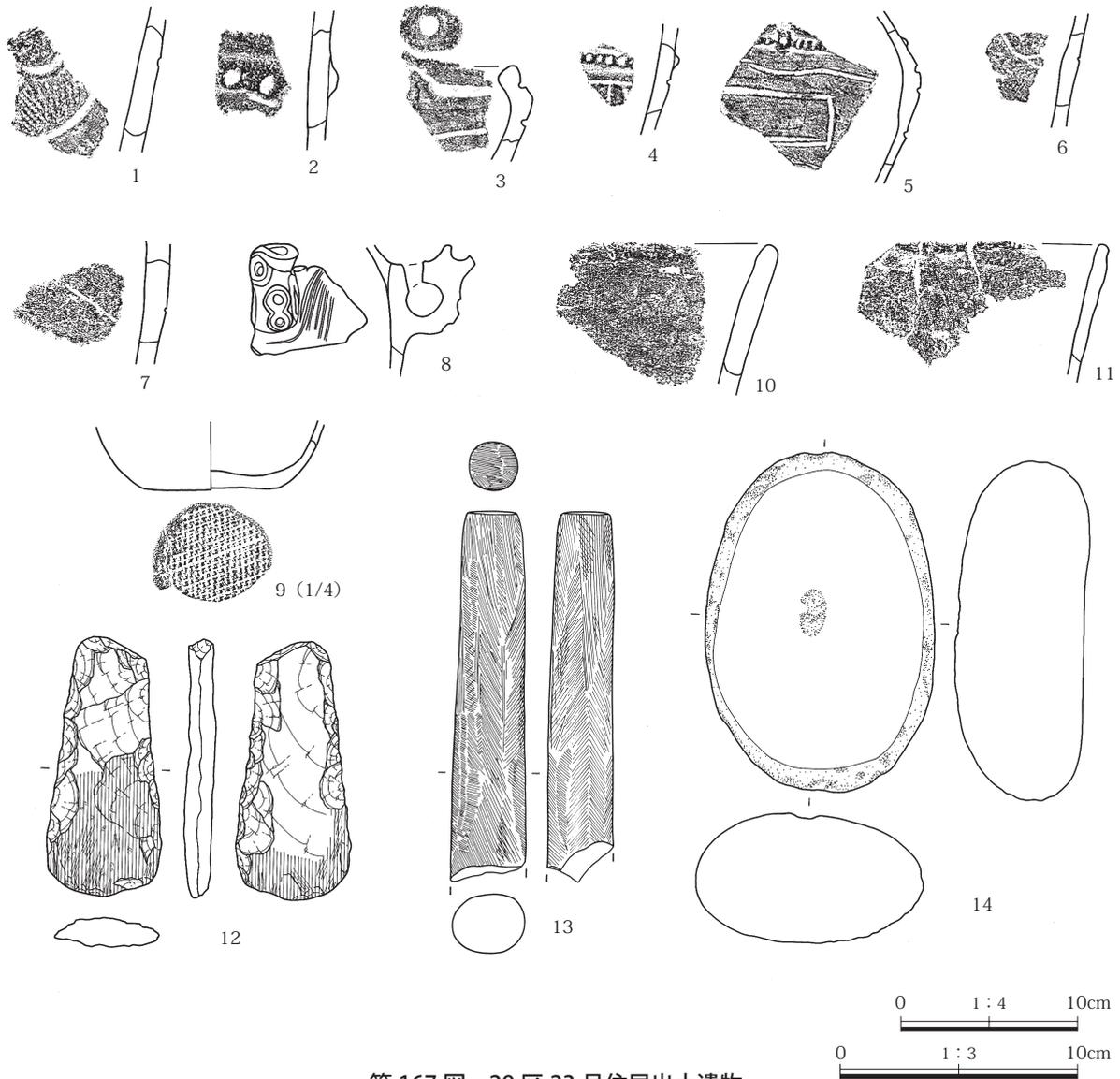
柱穴 柱穴は検出されなかった。

遺物 ここでは、23号住居として取り上げられた遺物と、出土位置の明らかなグリッド出土扱いの遺物のなかで本住居跡の範囲に含まれる遺物を対象とした。

土器は総数129点が出土しており、称名寺1式、堀之内1式、堀之内2式の土器片が出土している。



第166図 29区23号住居



第167図 29区23号住居出土遺物

石器は打製石斧1点、石棒1点、磨石1点、剥片2点がある。13は細形石棒であり、50%ほどの残存と考えられ、下半を欠損している。頭部は平坦に調整されており、基部の可能性もある。全面に擦痕が残り、丁寧な加工である。

**時期** 出土土器は称名寺1式期から堀之内2式期を主体としている。ただし、住居跡の明確な時期比定できる遺物に乏しい。また、遺構も敷石のみの検出であるため、本住居跡は、縄文時代後期前葉の住居跡とのみ捉えておきたい。

### 30区33号住居

**調査年度** 平成10・11年度

**位置** A-1グリッド

**経過** 表土掘削後、折り重なるように鉄平石が積み重なっている地点があり、敷石を伴う住居跡として調査を実施した。ただし、調査時には住居跡の範囲を明確にすることができず、敷石の範囲およびその下位の柱穴群というように調査がなされている。本整理において再検討し、敷石の分布および柱穴の配置、遺物の時期などから、2時期の住居跡が重複しているものと判断した。先行する住居跡を33a号住居、後出の住居跡を33b号住居と名称を付した。

なお、本住居跡は20区と30区にまたがる地点に位置するため、調査時に20区33号住居として調査されている時もあった。そのため、遺物や図面において一部混乱が認められた。

**重複** 33a号住居が先行し、33b号住居が後出である。

**形状** **33a号住居** 柱穴配置から長軸10m前後の柄鏡形敷石住居跡と想定した。出入り口部は主体部に対し標高の低い側にあたる北北東方向に接続している。

**33b号住居** 同じく柄鏡形敷石住居跡と想定されるが、出入り口部に相当する柱穴が不明であり、平面図上では、隅丸形状に示してある。図の下部(北北東)方向に出入り口部を有するものと推定される。

**床面** **33a号住居** 床面は不明である。33b号

住居により壊されたものと考えられる。

**33b号住居** 鉄平石による敷石を住居跡の南西部および北東部に検出した。北東部の第170図拡大部Aでは、柱穴に沿って鉄平石が直線状に配され、敷石の東側縁辺を示しているものと考えられる。また、この付近からは大量の焼骨が出土している。焼骨については、第4章を参照していただきたい。拡大部Bでは、鉄平石が斜位に折り重なって検出された。上位の斜位になっている鉄平石を取り除くと、水平に敷かれた鉄平石が認められ、これが本来の床面にあたる敷石と考えられる。上位の敷石は、本来全面敷石であったものを、住居廃絶時などに意図的に剥がして積み重ねられたものと思われる。また、床面相当の敷石は拡大部分Aでは隙間に小円礫が認められるが、拡大部分Bでは小円礫が認められないという相違点が認められる。

**炉** **33a号住居** 検出されなかった。

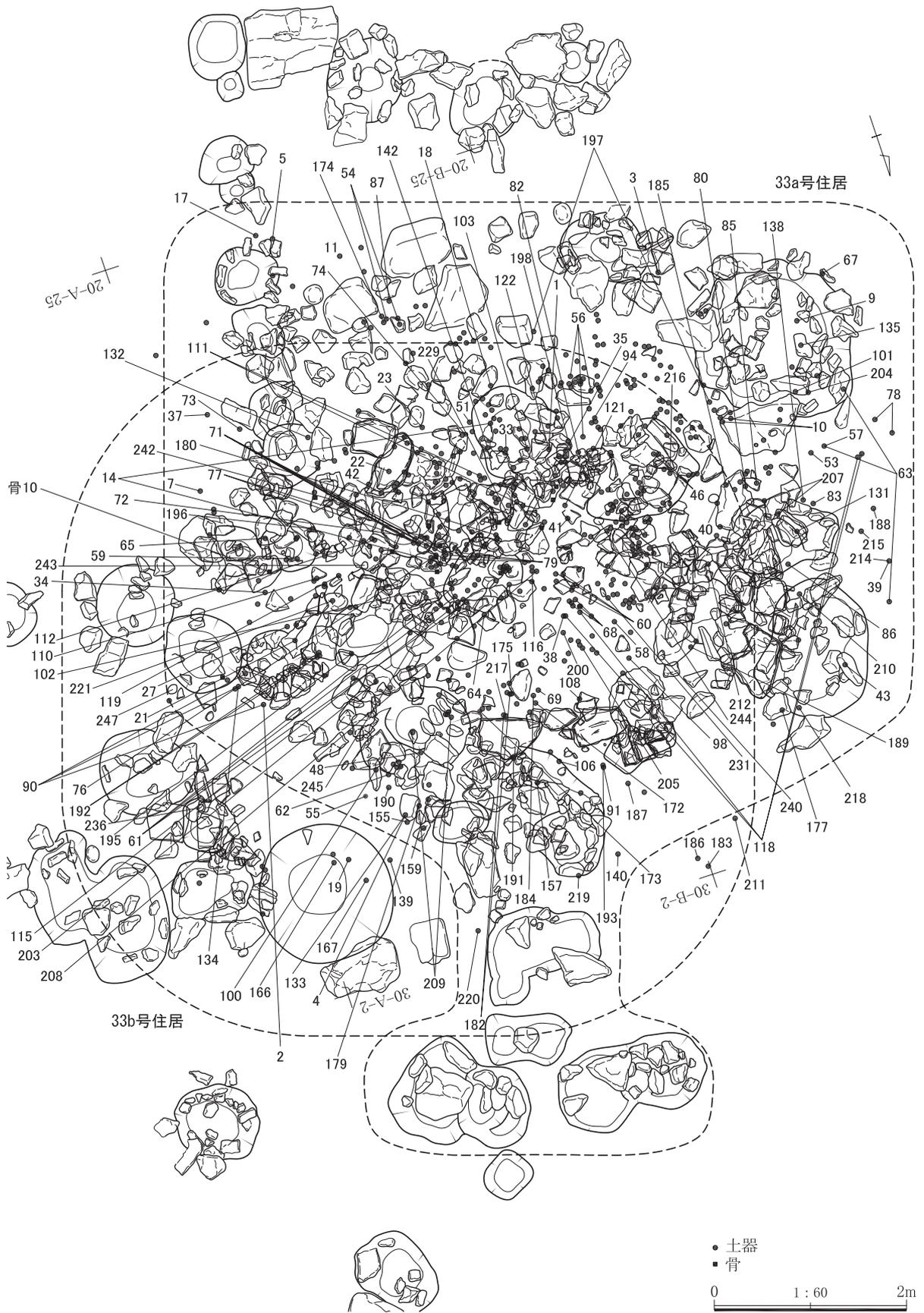
**33b号住居** 柱穴として調査されていた1基を、その配置から炉の掘り方に相当するものと判断した。断面の記録がないため覆土は不明である。

その規模(長辺×短辺×深さ)は116×90×64である。

**方位** N-19°-E

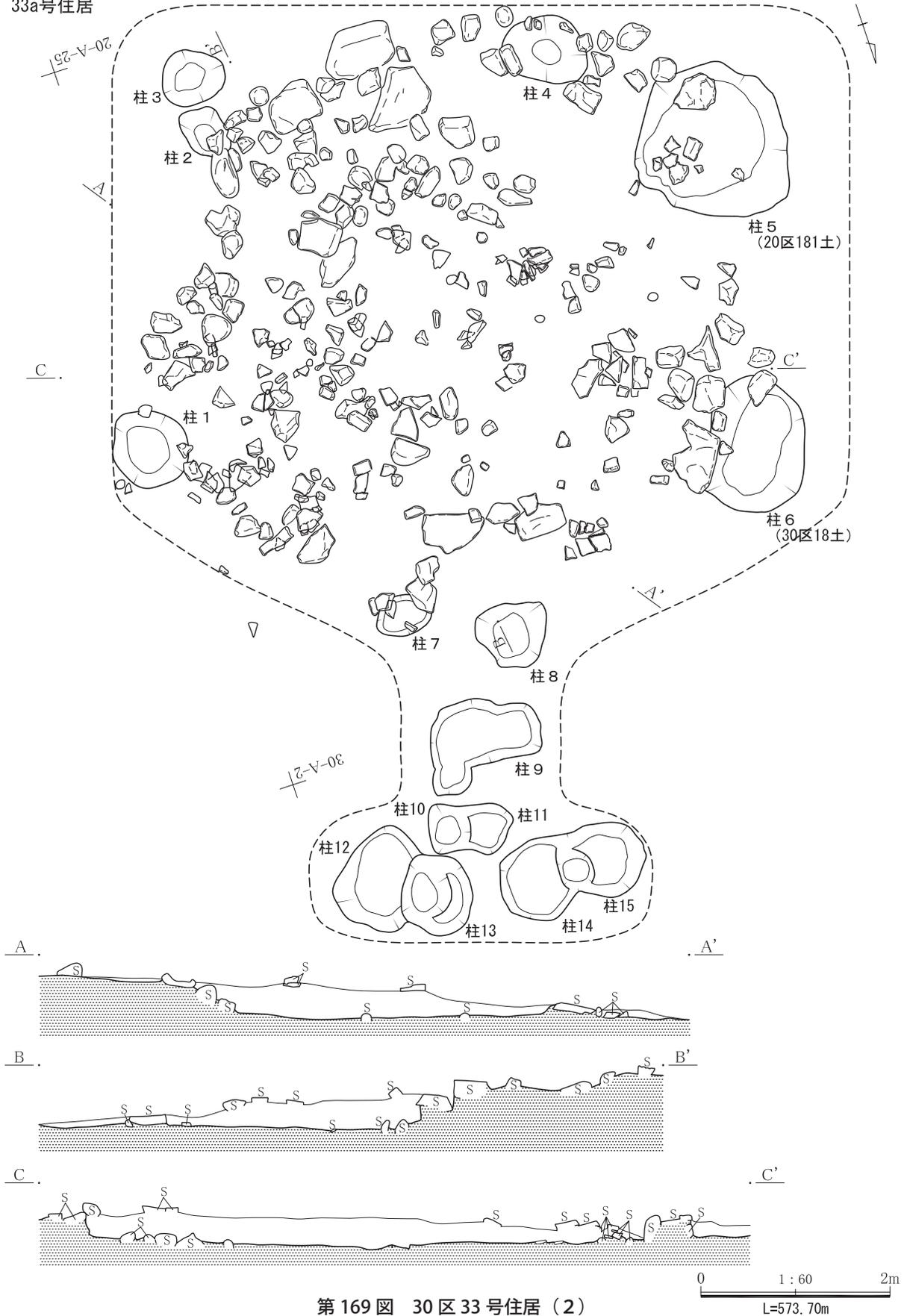
**柱穴** 柱1～24までの計24本である。このうち柱1～15までが33a号住居の柱穴、柱9・16～24が33b号住居の柱穴と判断したものである。なお、柱9については共有している。また、柱5と柱6については、『横壁中村遺跡(6)』にそれぞれ20区181号土坑、30区18号土坑として単独の土坑扱いで報告済みである。本整理において再検討した結果、本住居跡の柱穴と判断したため、ここに訂正したい。その他の柱穴についても、本整理にあたり33号住居の柱穴群とされていたものに新たに柱穴番号を付した。

それぞれの規模(長辺×短辺×深さ)は、柱1：98×86×61.5、柱2：62×37×49、柱3：67×57×38、柱4：91×60×39、柱5：182×160×38、柱6：141×120×65、柱7：61×40×8、



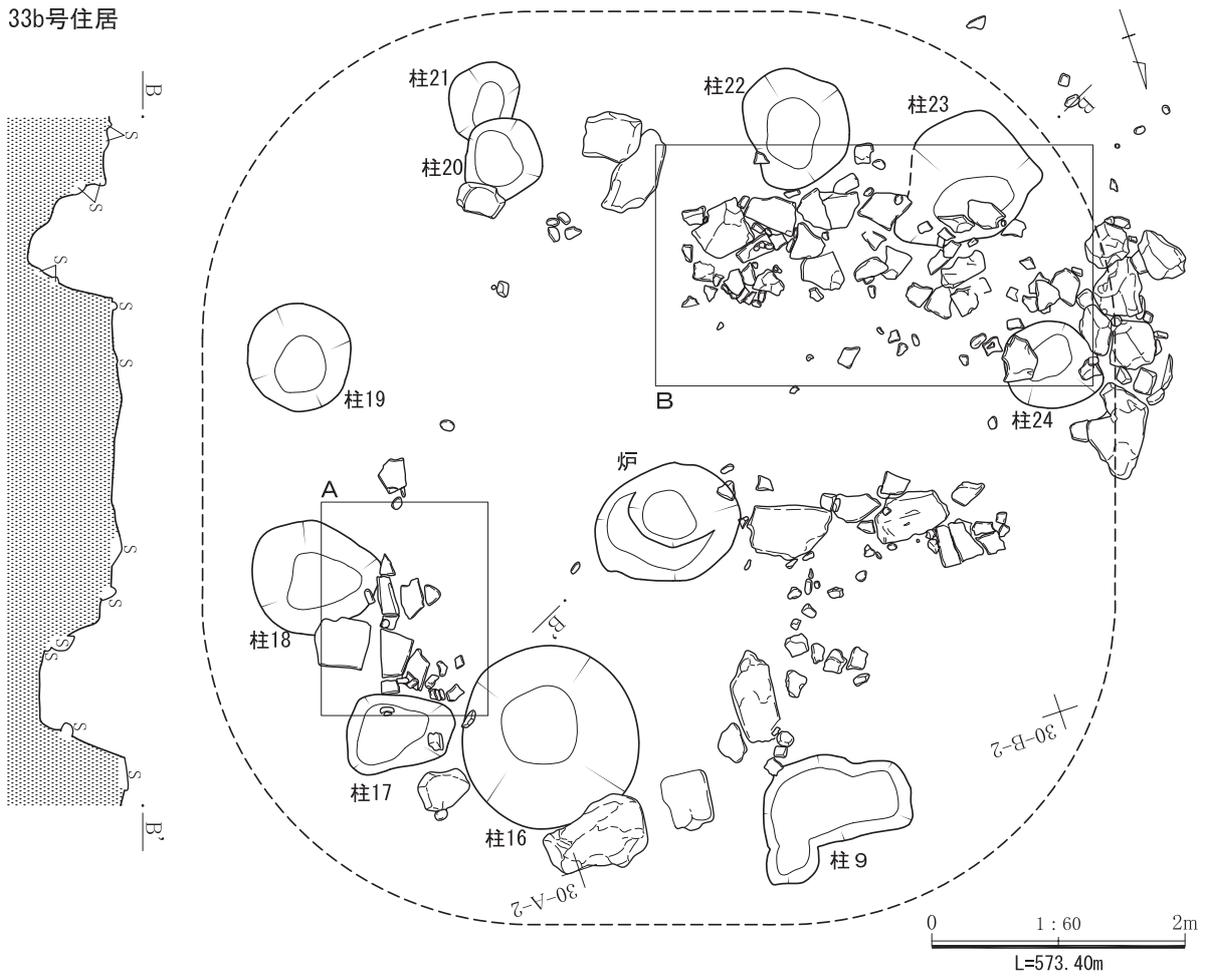
第168図 30区33号住居(1)

33a号住居



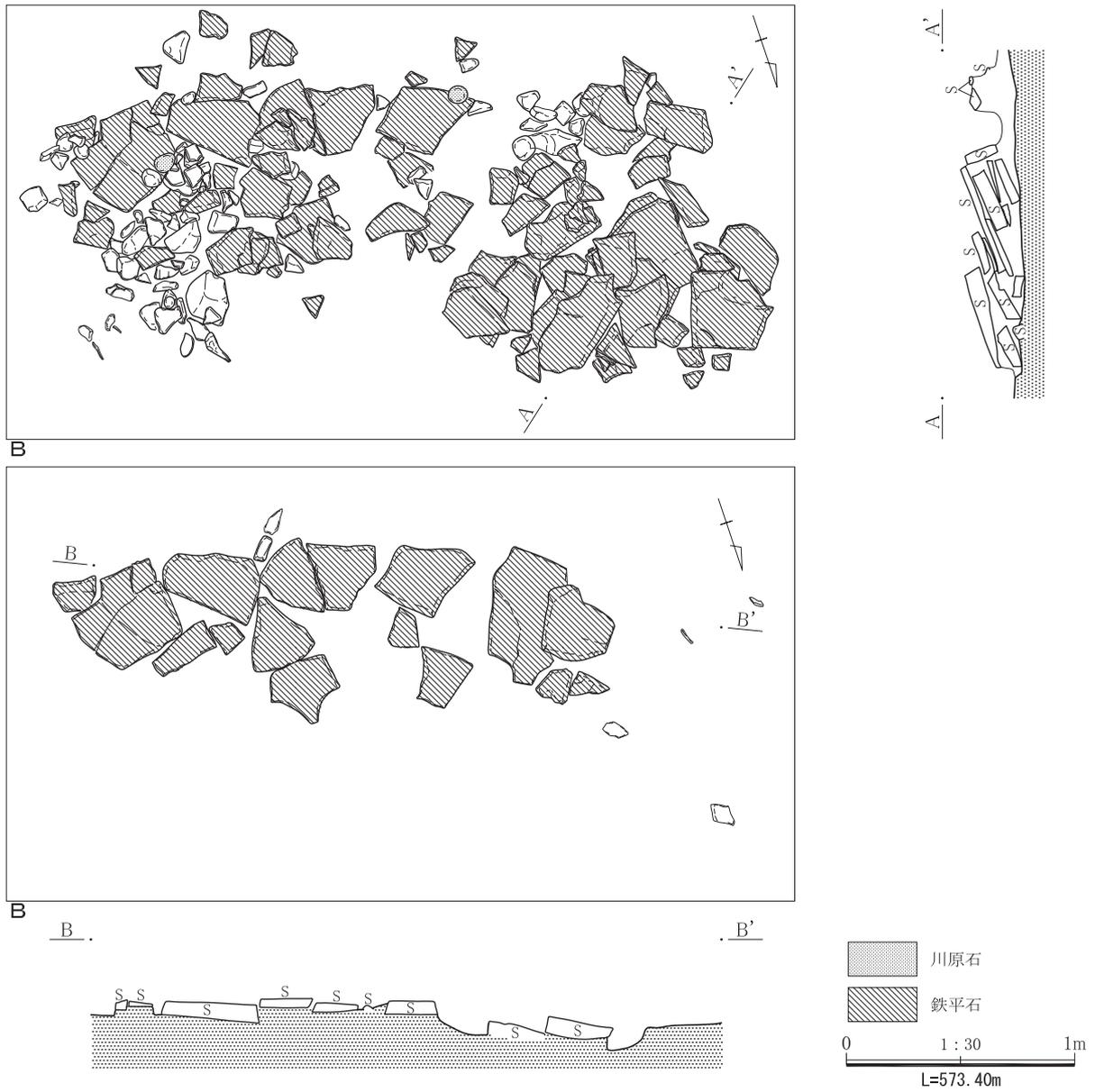
第169図 30区33号住居(2)

33b号住居



焼骨出土状況 (北から)

第170図 30区33号住居 (3)

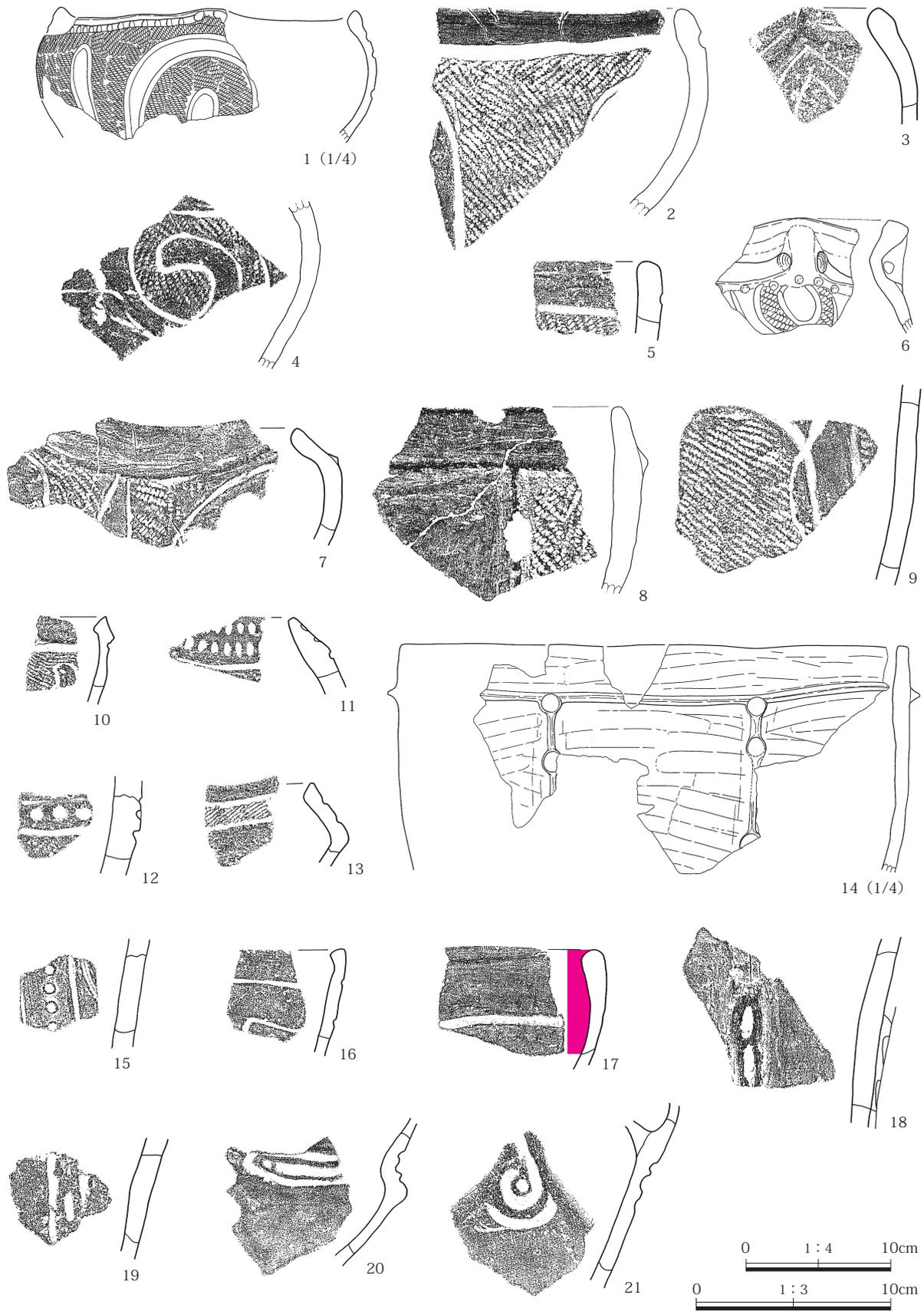


積み重なった敷石 (南東から)

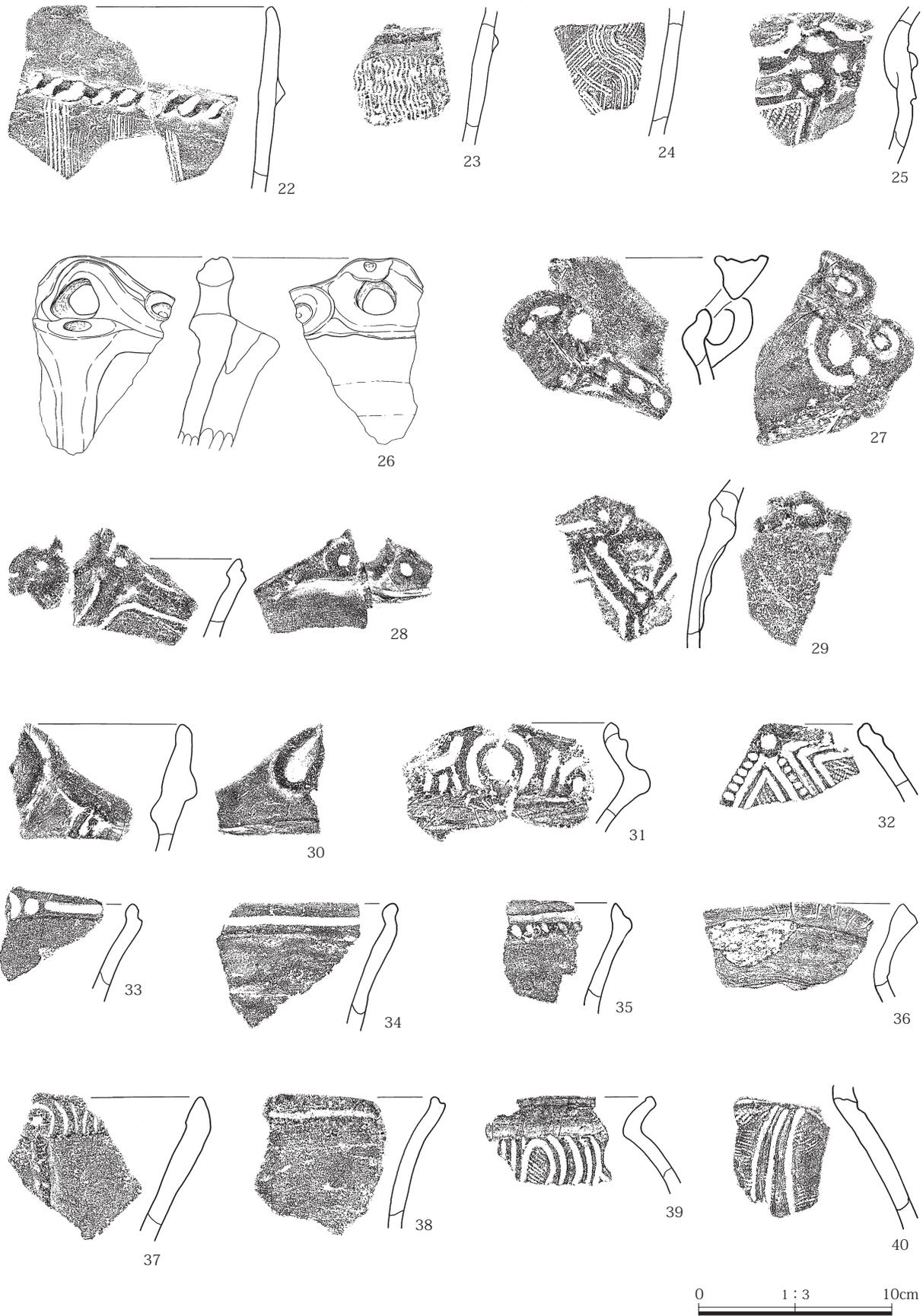


床面の敷石 (東から)

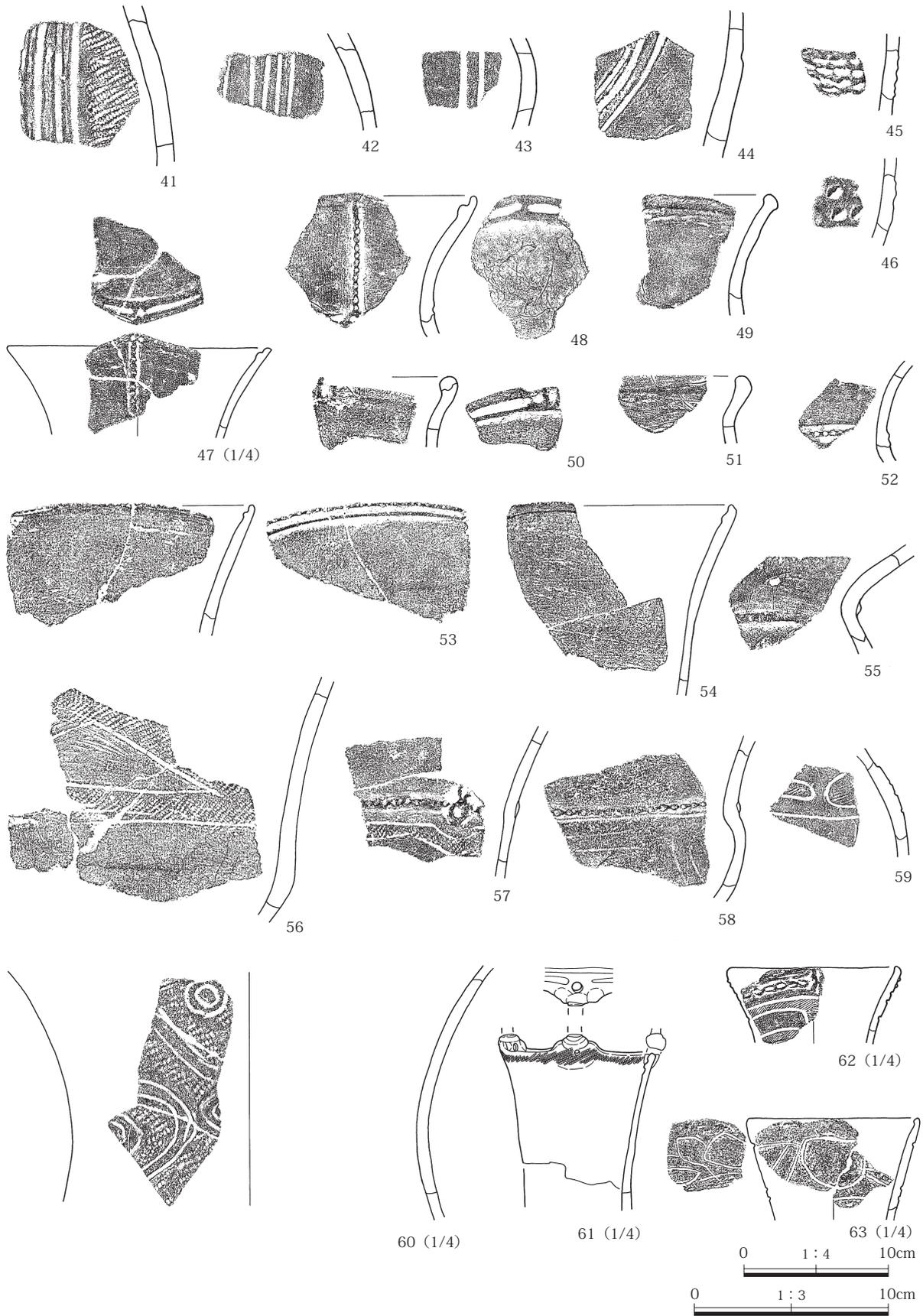
第171図 30区33号住居(4)



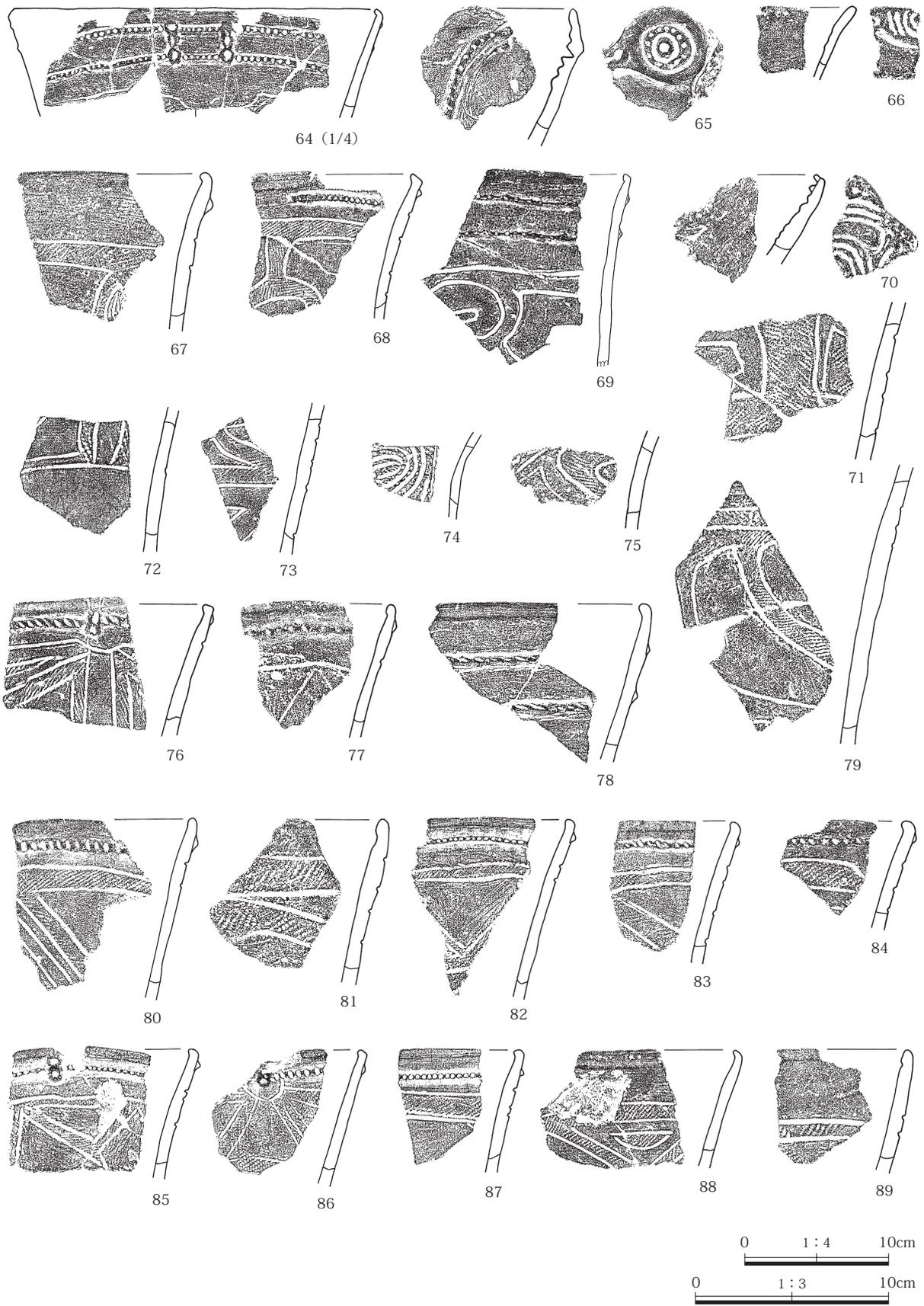
第172図 30区33号住居出土遺物(1)



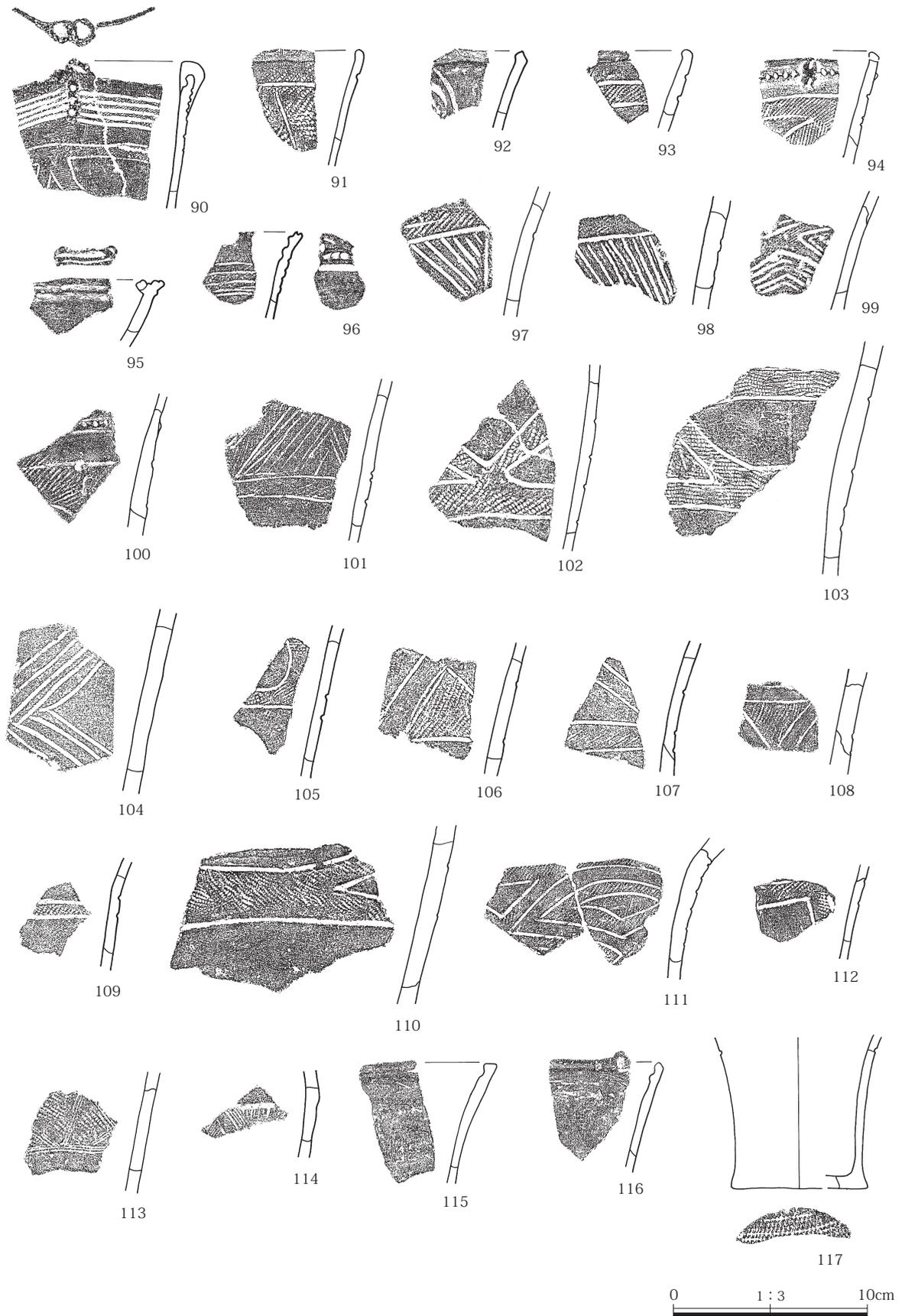
第 173 図 30 区 33 号住居出土遺物 (2)



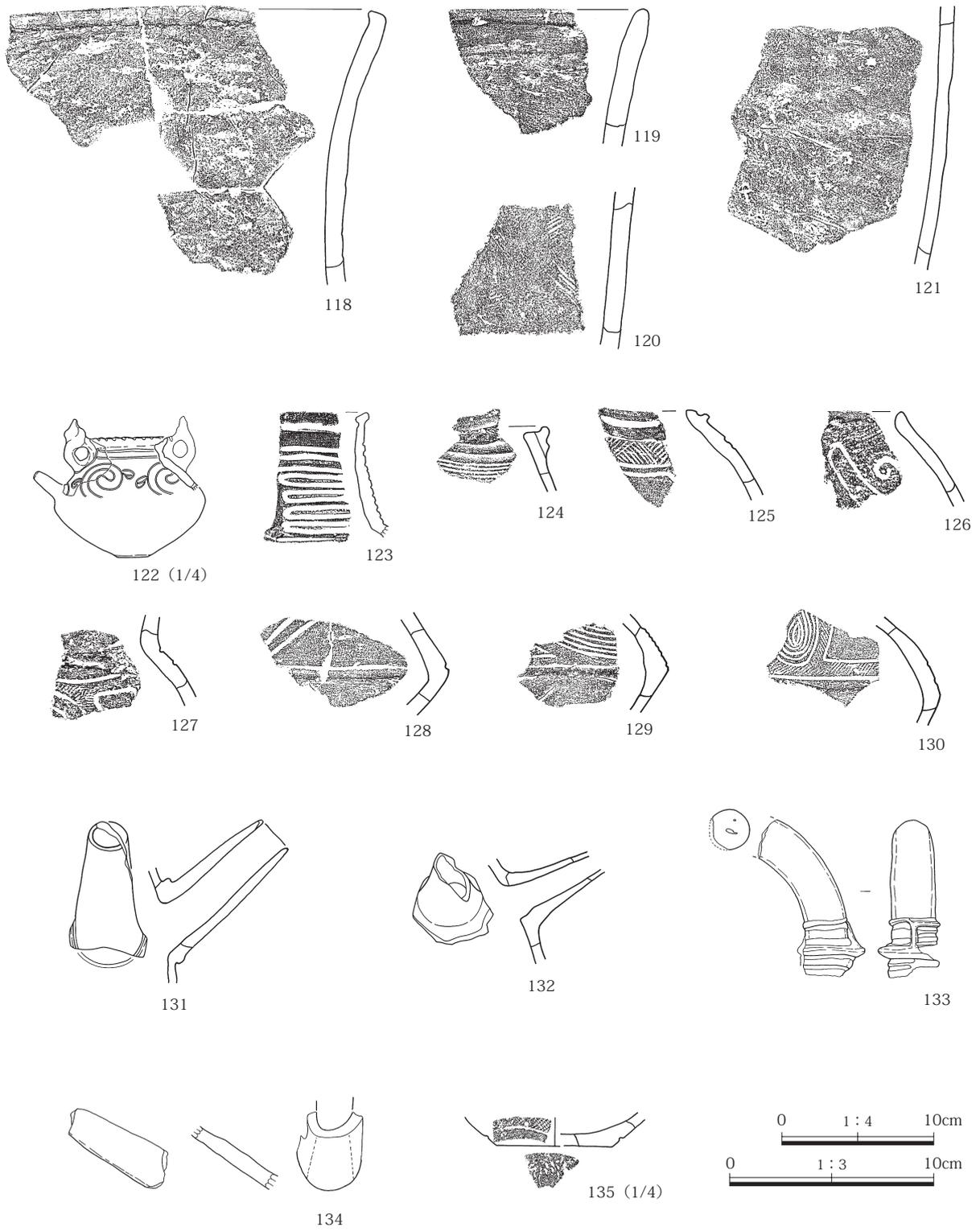
第174図 30区33号住居出土遺物(3)



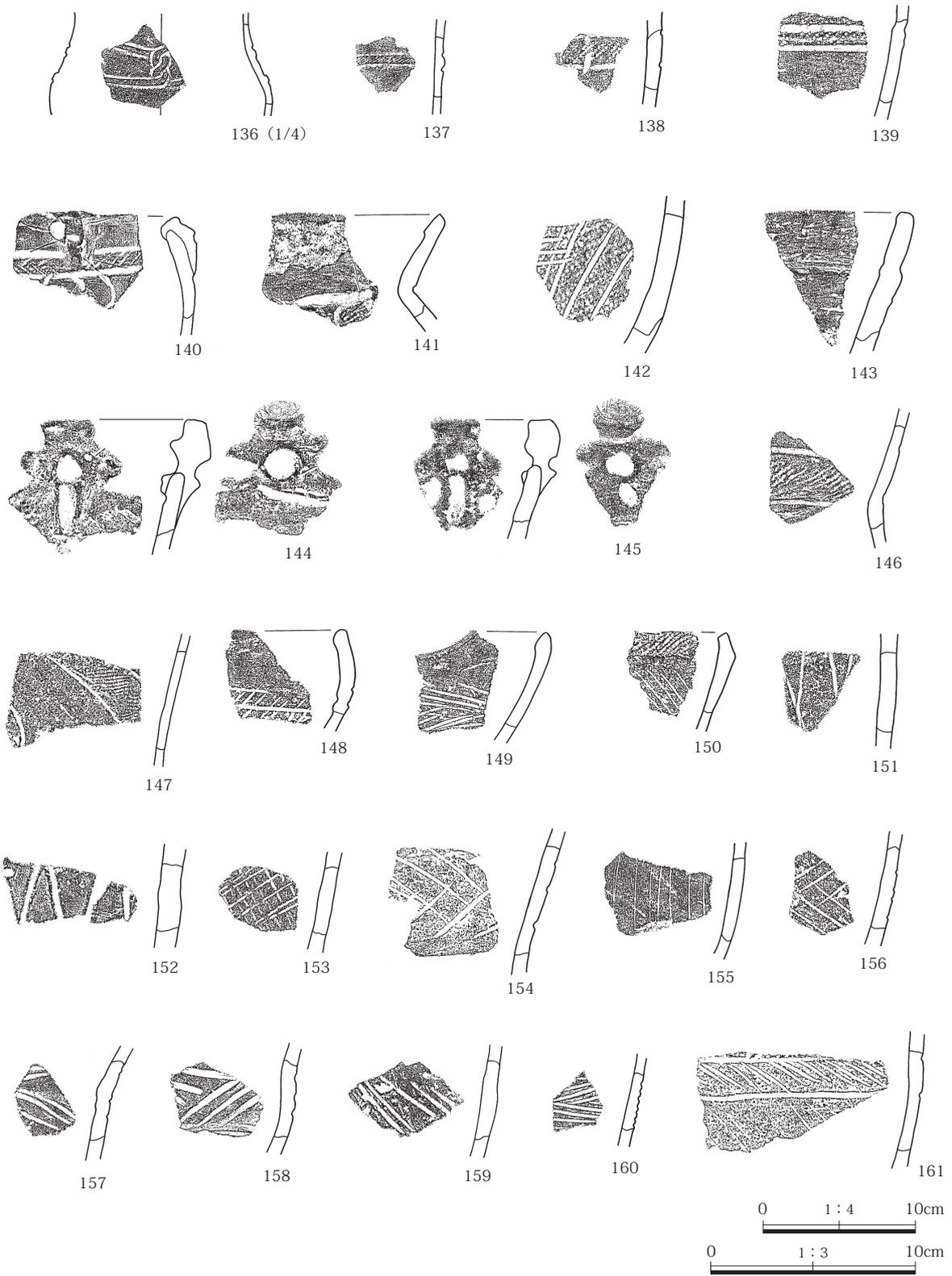
第175図 30区33号住居出土遺物(4)



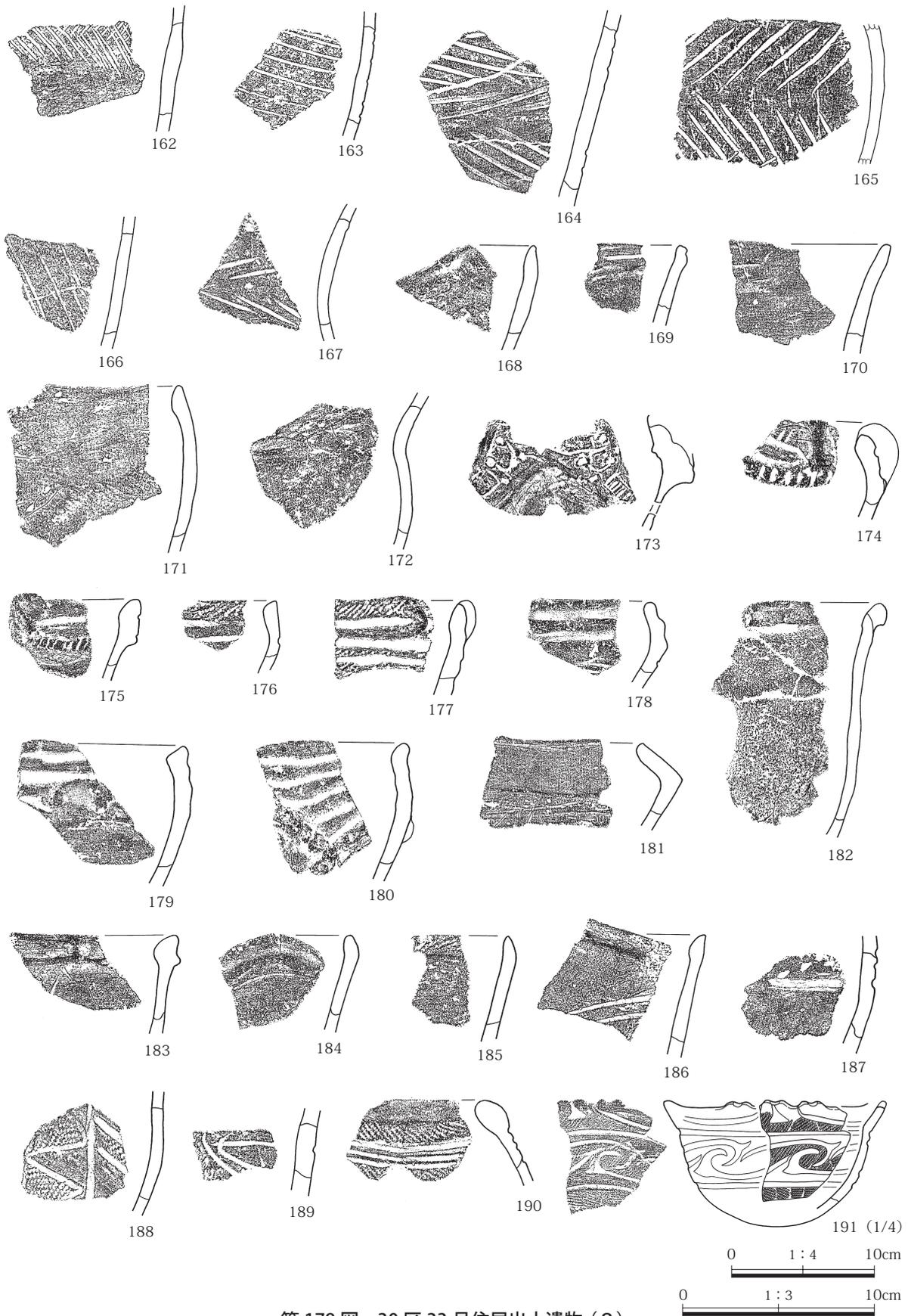
第176図 30区33号住居出土遺物(5)



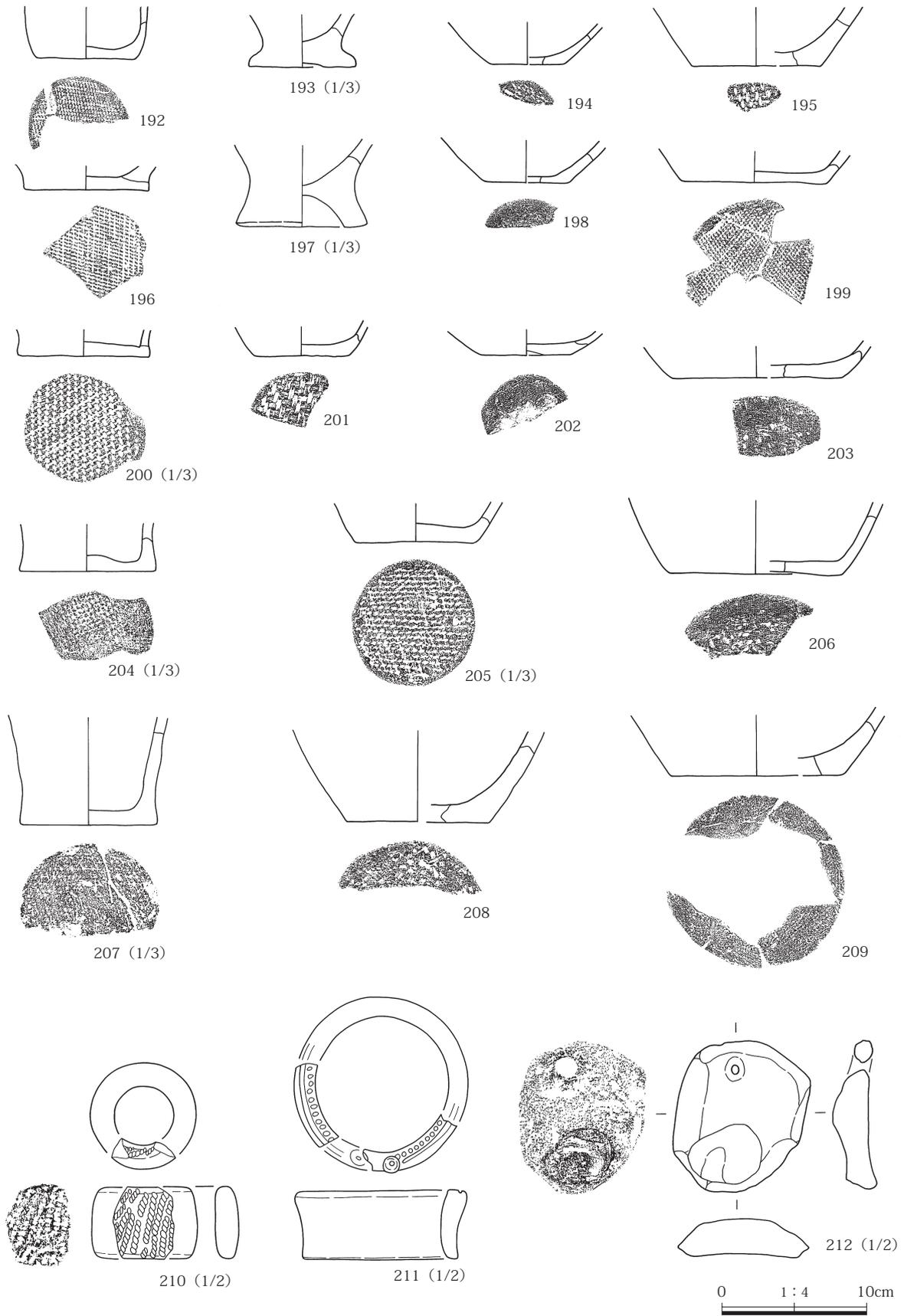
第 177 図 30 区 33 号住居出土遺物 (6)



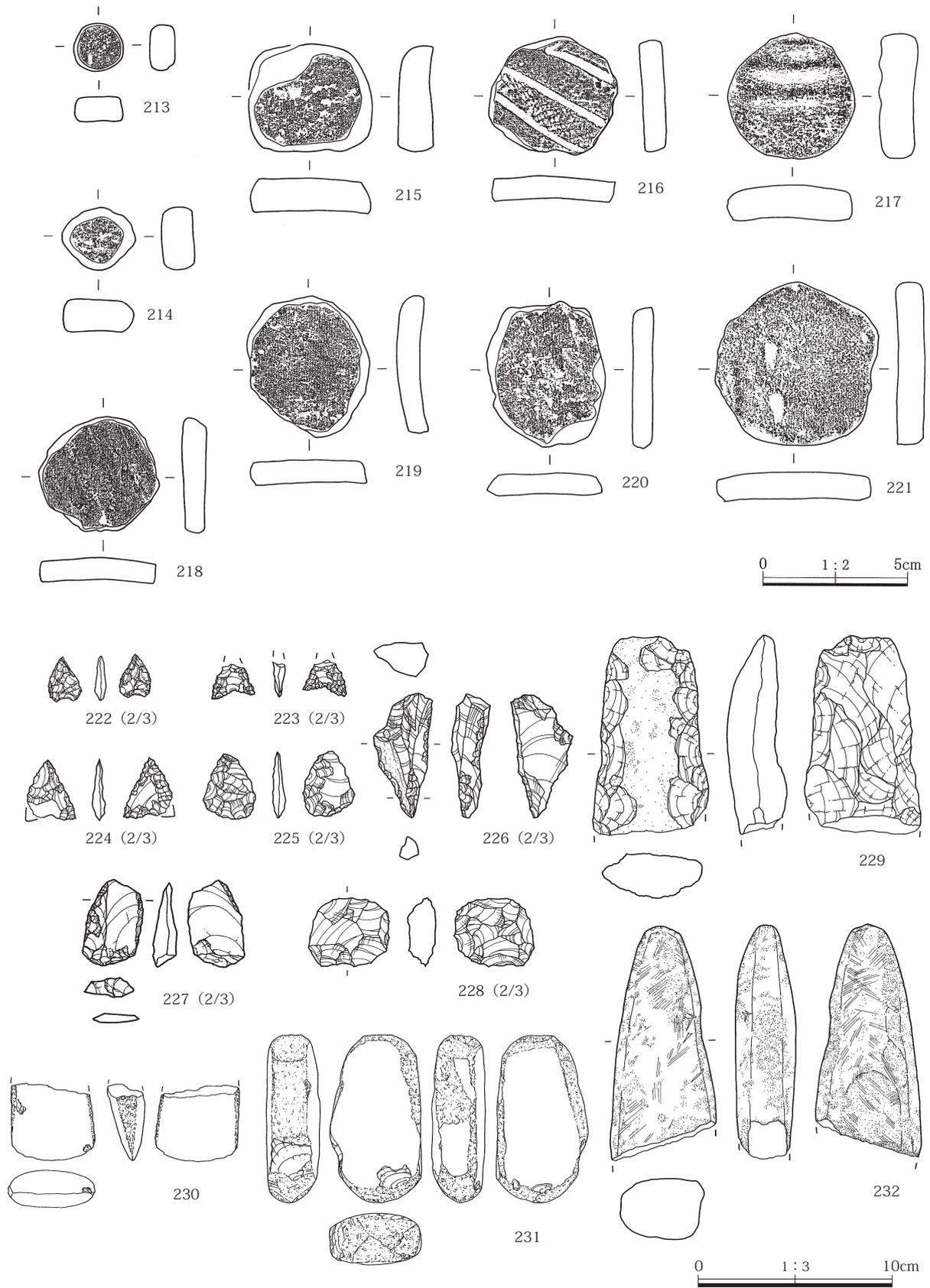
第178図 30区33号住居出土遺物(7)



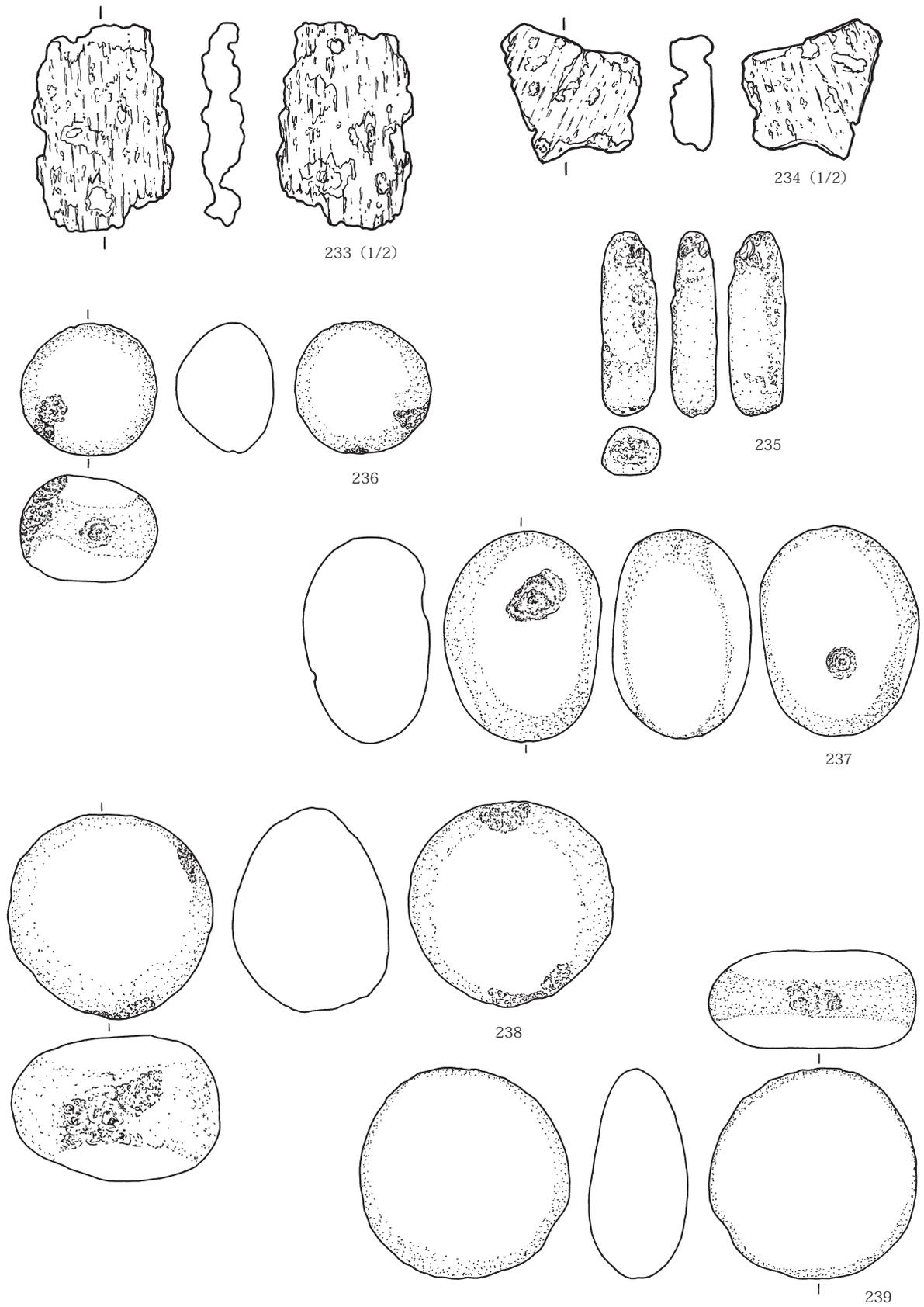
第179図 30区33号住居出土遺物(8)



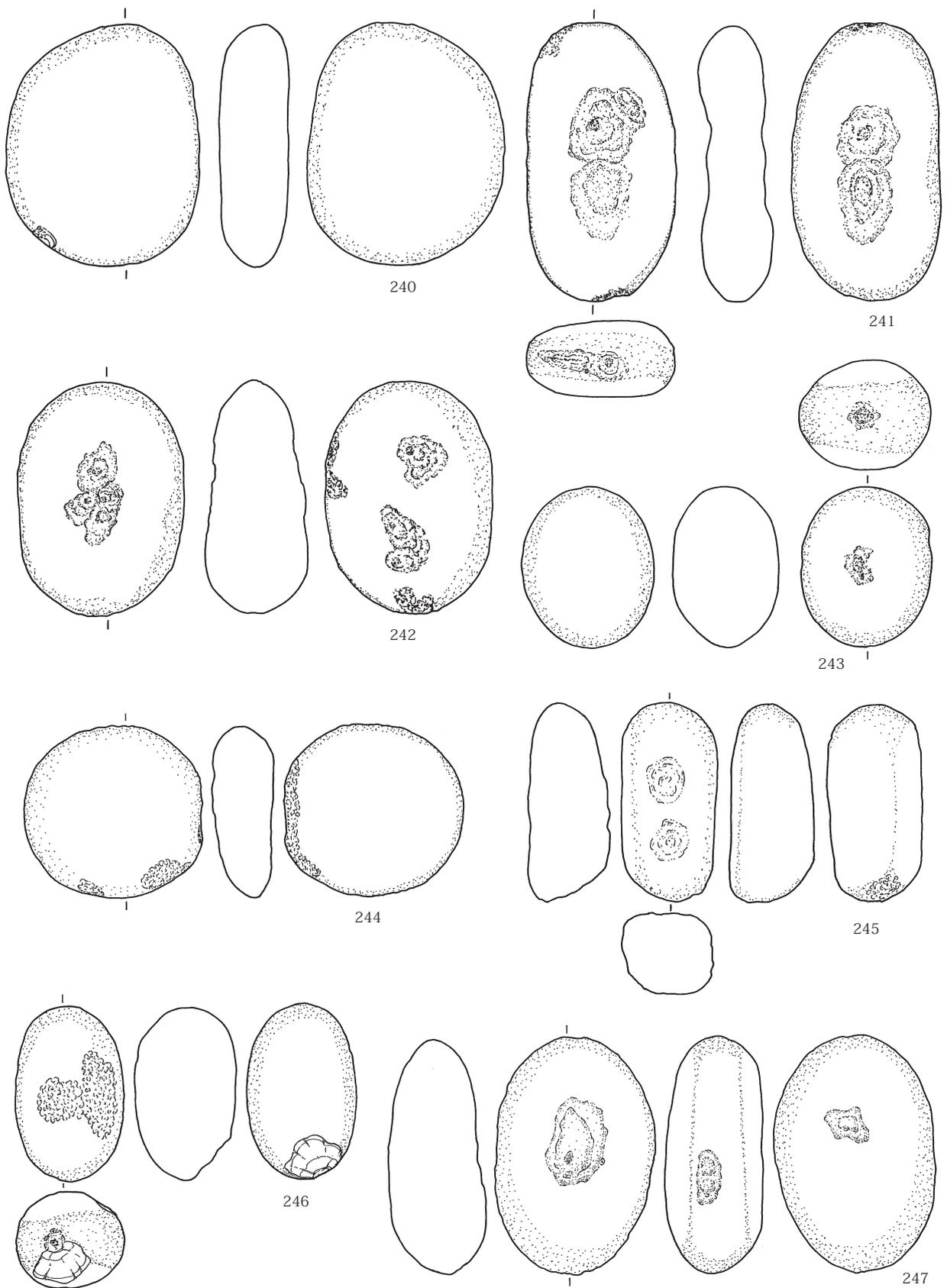
第180図 30区33号住居出土遺物(9)



第181図 30区33号住居出土遺物(10)



第182図 30区33号住居出土遺物(11)



第183図 30区33号住居出土遺物(12)

0 1:3 10cm

### 第3章 発見された遺構と遺物

柱 8 : 72×64×30.5、柱 9 : 119×92×29、柱 10 : 53×32×28、柱 11 : 54×40×17、柱 12 : 112×75×一、柱 13 : 84×76×一、柱 14 : 87×65×36.5、柱 15 : 94×82×一、柱 16 : 144×143×一、柱 17 : 87×60×38.5、柱 18 : 100×90×50.5、柱 19 : 85×83×50、柱 20 : 62×58×47、柱 21 : 55×44×21.5、柱 22 : 90×89×45、柱 23 : 106×98×45、柱 24 : 87×70×36である。

**遺物** ここでは、33号住居として取り上げられた遺物と、出土位置の明らかなグリッド出土扱いの遺物のなかで本住居跡の範囲に含まれる遺物を対象とした。住居跡を33a号住居と33b号住居の2軒の重複と判断したが、遺物についてはどちらに帰属するものか判断できないため一括して扱った。

土器は総数5,811点が出土し、中期加曽利E式期から晩期までの土器が多数出土している。その主体となる時期は後期の堀之内1式期から堀之内2式期にかけての土器である。加曽利B1式期以降の土器も比較的多く認められる。

土製品は、指輪状土製品1点、耳飾り1点、土製円盤10点が出土している。指輪状土製品は、土器の把手片の可能性もあるが、内面の調整が丁寧であるため、土製品の可能性があるものとして図化した。耳飾りは、接合しないが同一個体と考えられる2点の破片からなる。

石器は石鏃8点(黒曜石5点)、削器1点(黒曜石1点)、加工痕のある剥片7点(黒曜製3点)、使用痕のある剥片2点(黒曜石2点)、ピエス3点(黒曜石2点)、打製石斧2点、礫器1点、磨製石斧3点、敲き石3点、磨石27点、軽石製品2点、軽石原石1点があり、他に石核1点(黒曜石1点)、剥片78点(黒曜石44点)、碎片107点(黒曜石98点)がある。

また、本住居跡からは大量の焼骨が検出されている。他の遺物と同じく33a号住居と33b号住居のどちらに帰属するか分別できないため一括して扱う。詳細は第4章を参照していただきたい。

**時期** 出土土器は堀之内1式期から堀之内2式期を主体とし、本住居跡は当該期に比定されよう。

### 30区34号住居

**調査年度** 平成10年度

**位置** A-4グリッド

**経過** 表土掘削後、焼土と炉石が検出され住居跡と認定した。その後、住居跡の北東に長方形の石囲いが検出されたが、単独の配石として調査されている。本整理にあたり、写真および図面を再検討した結果、この配石は住居跡の出入り口部に相当するものであると判断し、図上で復元した。

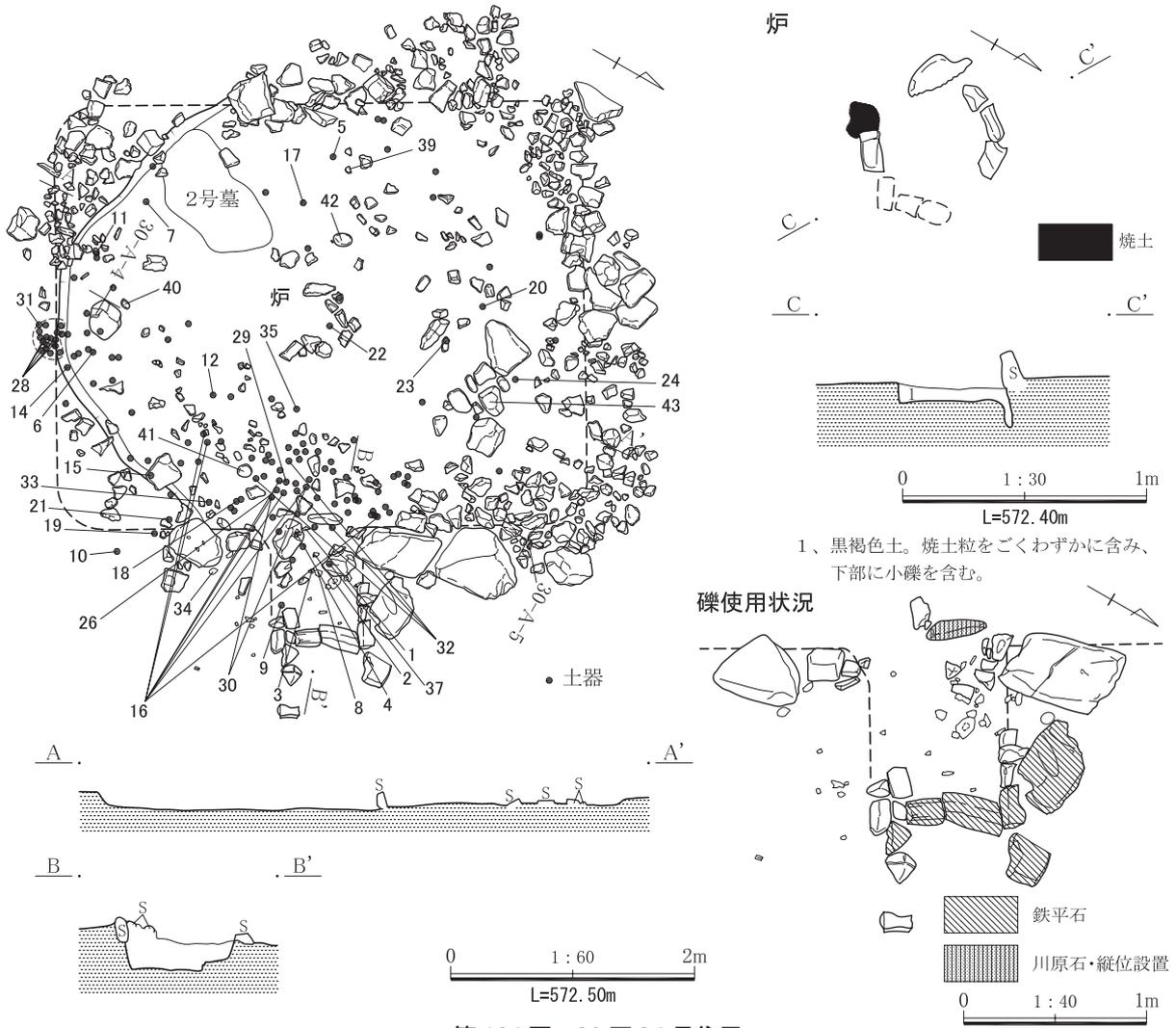
**重複** 2号墓と重複し、これに切られる。

**形状** 北東方向に出入り口部を有する全長4.5mの住居跡である。ただし、柱穴が不明なため、全体形状は推定である。住居跡の長軸と直交する方向に長い長形状に、地山に含まれる礫の量が少ない範囲が認められるため、その範囲が主体部の範囲を示している可能性がある。そこから推定される主体部形状は隅丸長形状で、最大幅4.3mほどである。

**床面** 炉検出面を中心に調査を行ったが、敷石や硬化面など明確な床面は検出されなかった。ただし、先述の通り、地山に礫の少ない範囲が認められ、これが住居跡主体部の範囲を示しているものと判断した。掘り方の記録がないが、住居構築時に地山に含まれる礫を除去した可能性があるものとして捉えられる。

**出入り口部** 主体部の北東に接続する。接続部には、1石の川原石が縦位で設置され、この礫が主体部と出入り口部の境界を示しているものと考えられる。また、その礫から約1m北東に鉄平石が直線状に配置されている。ここまでが出入り口部の範囲と考えられる。その内部には、明瞭な敷石の敷設は認められず、縄文時代後期前葉の柄鏡形敷石住居跡とは多少趣を異にしている。出入り口部全体の規模は、長さ113cm、幅84cmである。

**炉** 被熱痕跡のある礫と焼土を検出し、炉と認定した。ただし、炉石と考えられる被熱痕跡のある礫は本来の位置を保っていない可能性が高い。焼土は炉石と考えられる礫と接しているが、その範囲の外側である。また、炉内として掘り下げた部分には



第184図 30区34号住居

ごくわずかの焼土粒が含まれる程度である。攪乱を受けたものと思われる。

その規模(長辺×短辺×深さ)は確認面で60×(55)×20である。

方位 N-61°-E

柱穴 柱穴は検出されなかった。

遺物 ここでは、34号住居として取り上げられた遺物と、出土位置の明らかなグリッド出土扱いの遺物のなかで本住居跡の範囲に含まれる遺物を対象とした。

土器は総数421点が出土しており、堀之内2式期から安行式期の土器片が多く出土している。1～4が入り口部の遺物として取り上げられた遺物、6・8・13・16・21・26～28・30～36が主体

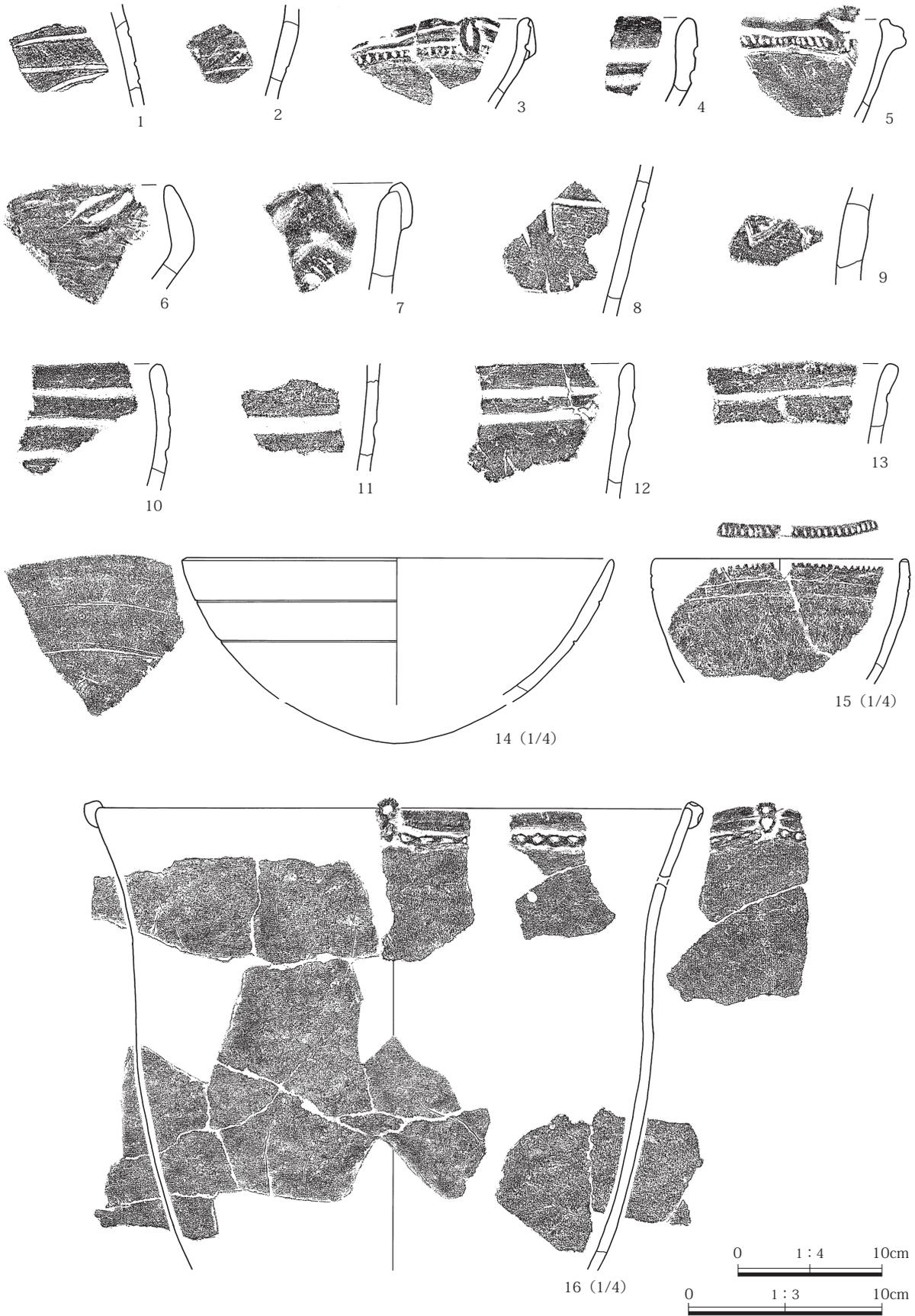
部から取り上げられた遺物、その他がグリッド出土扱いの遺物である。

土製品は、出入口部から耳飾りが1点出土している。破片であるが、推定直径5.5cmの滑車形を呈する。文様は欠損のため不明であるが、全体に赤色塗彩がなされている。

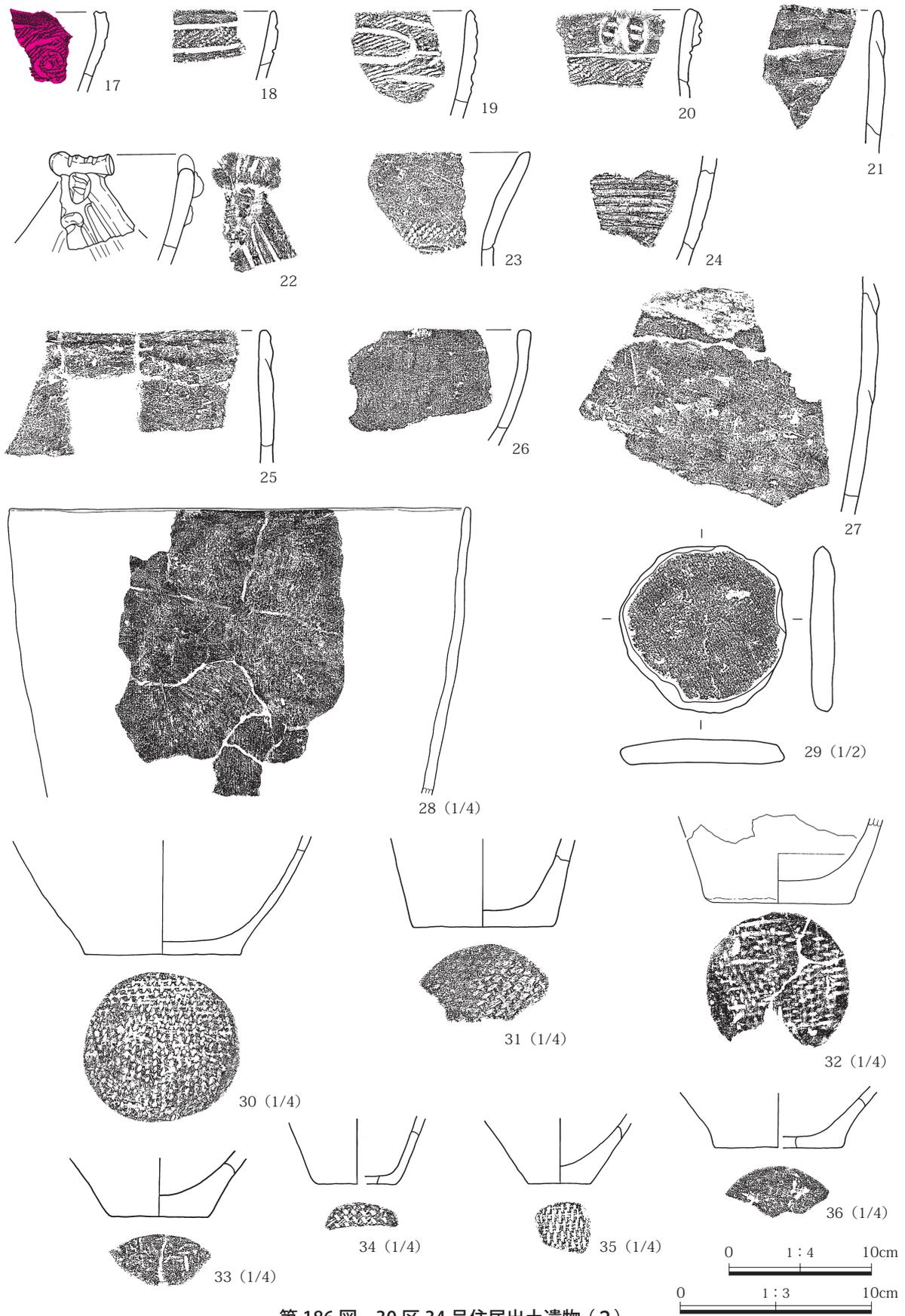
石器は石鏃2点(黒曜石1点)、加工痕のある剥片1点、磨石7点、凹石1点、石棒1点があり、他に剥片2点、碎片3点がある。

時期 出土土器は高井東式期を主体としており、本住居跡は当該期に比定されよう。

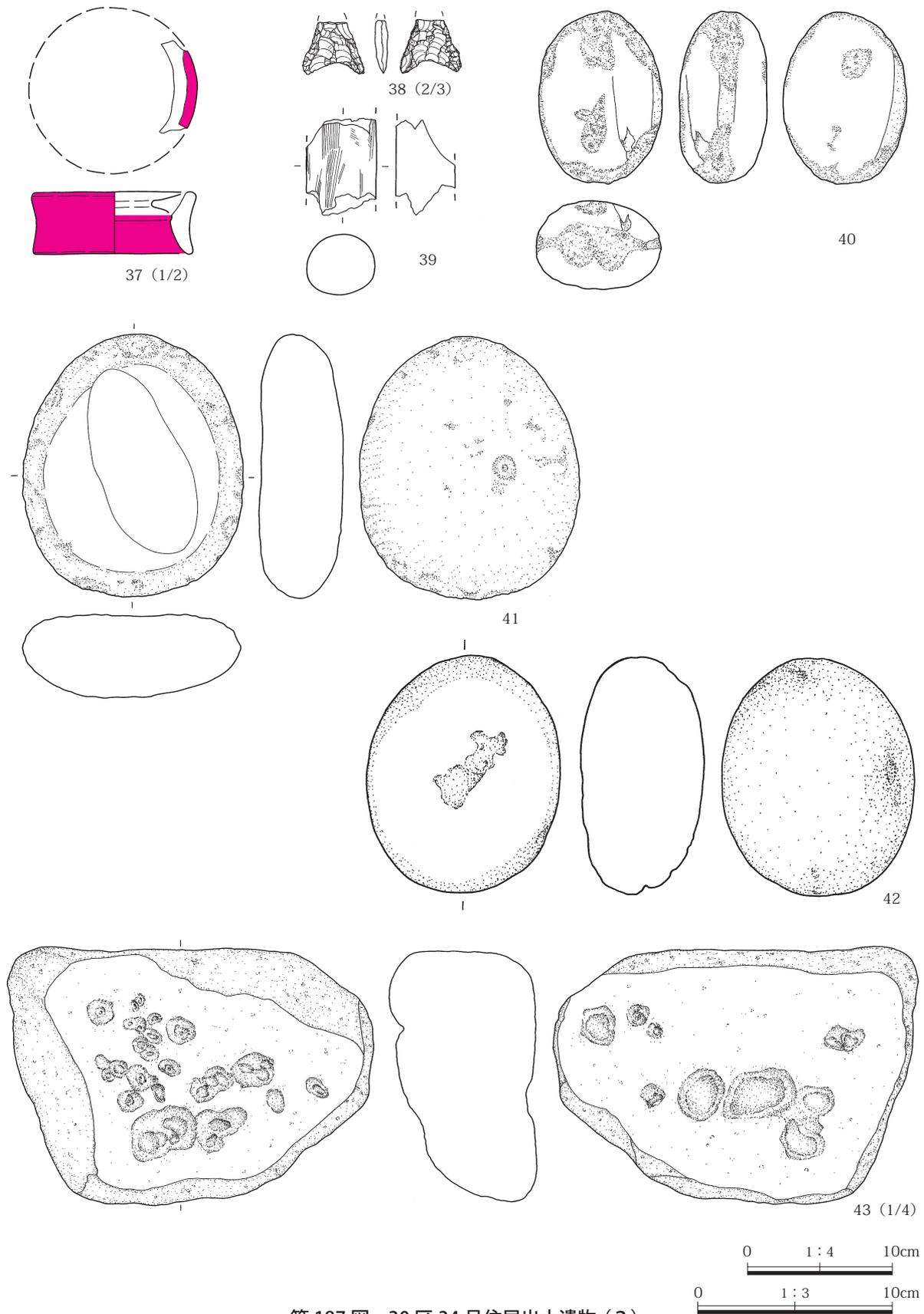
第3章 発見された遺構と遺物



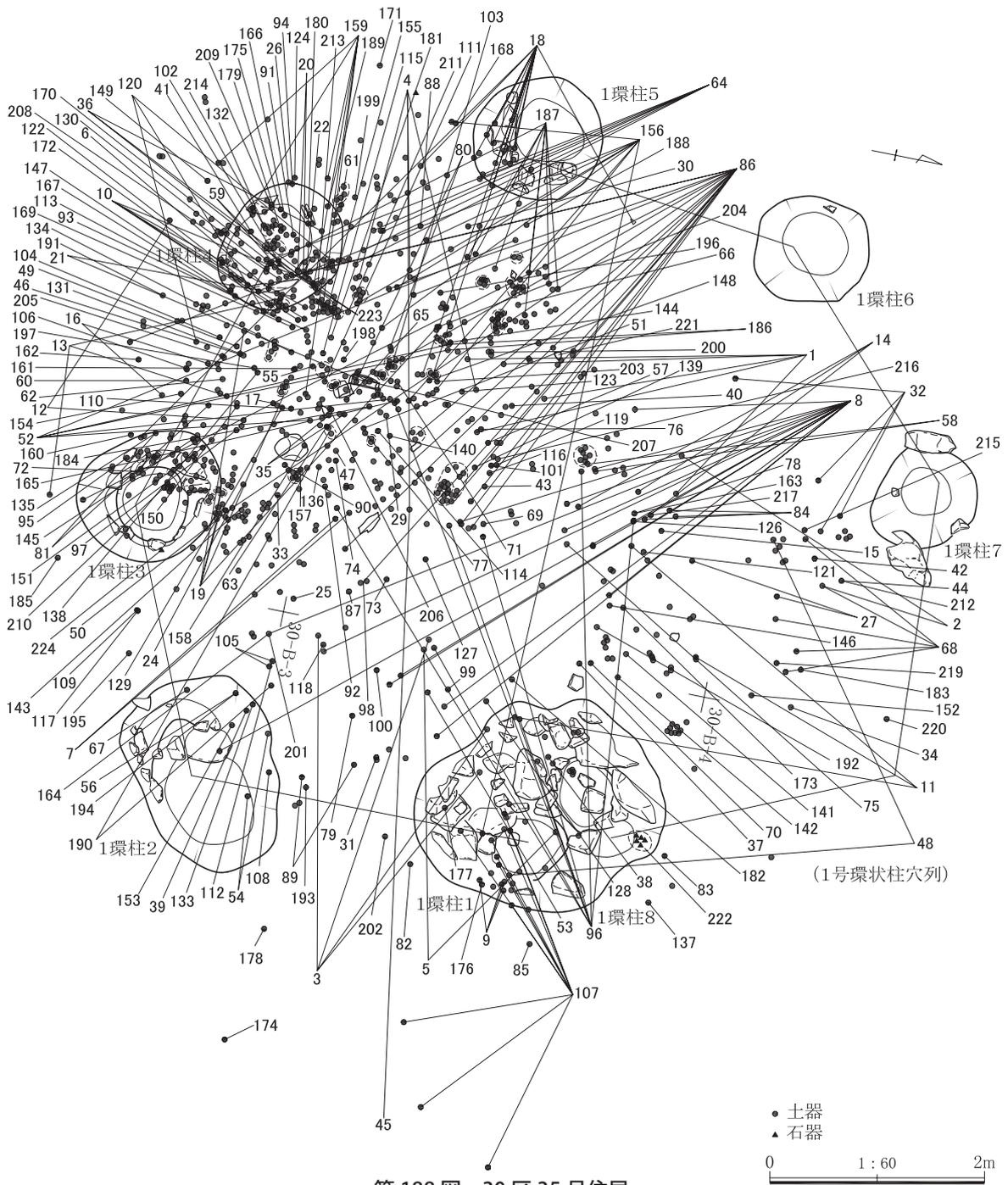
第185図 30区34号住居出土遺物(1)



第186図 30区34号住居出土遺物(2)



第187図 30区34号住居出土遺物(3)



第188図 30区35号住居

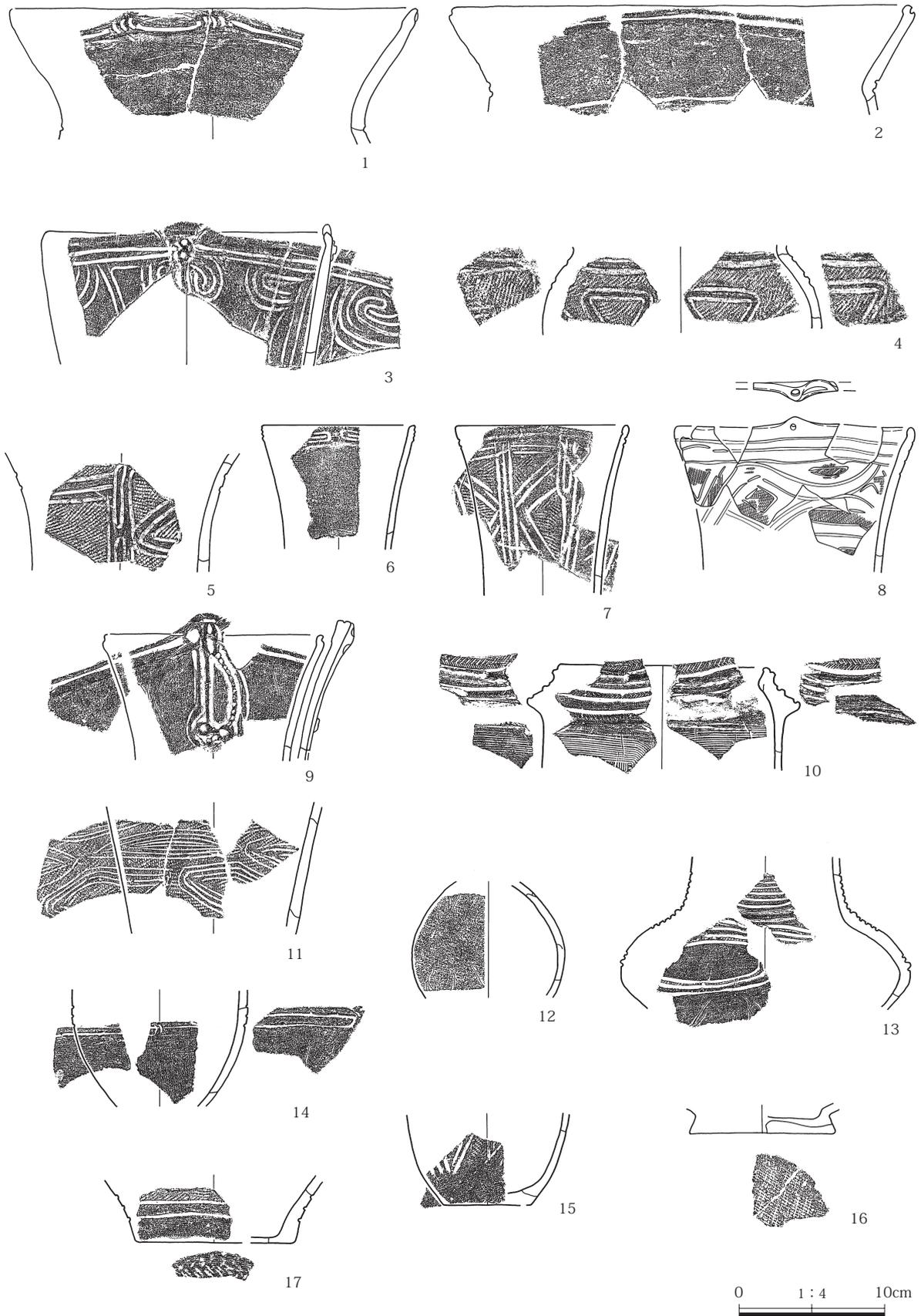
30区35号住居

調査年度 平成10年度

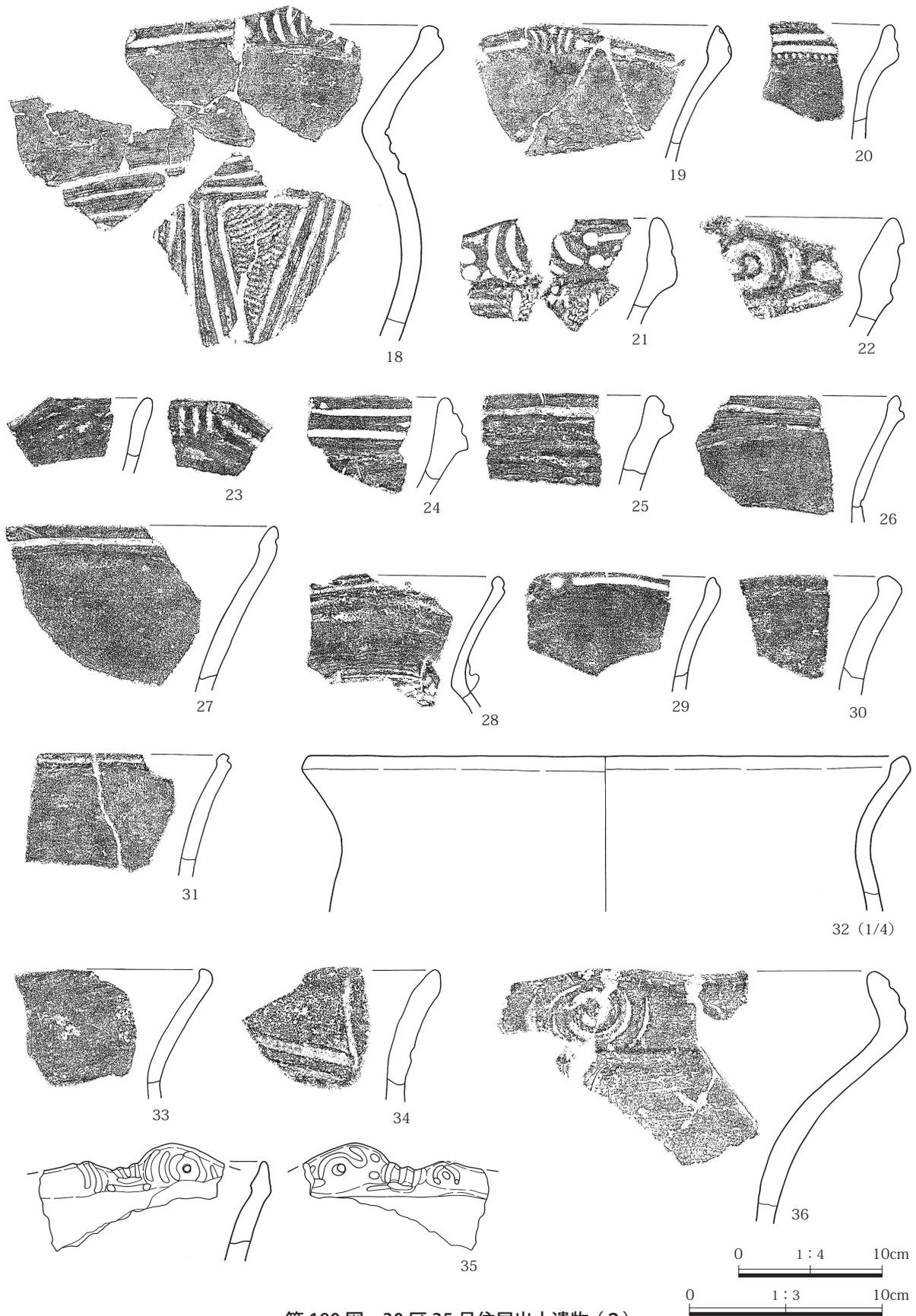
位置 B-3グリッド

経過 表土掘削後、遺物が集中する地点があり、住居跡の可能性を考え調査した。しかし、炉や柱穴など住居跡認定に必要な要素が確認できなかった。そのため遺物の取り上げ図があるのみで、写真記録

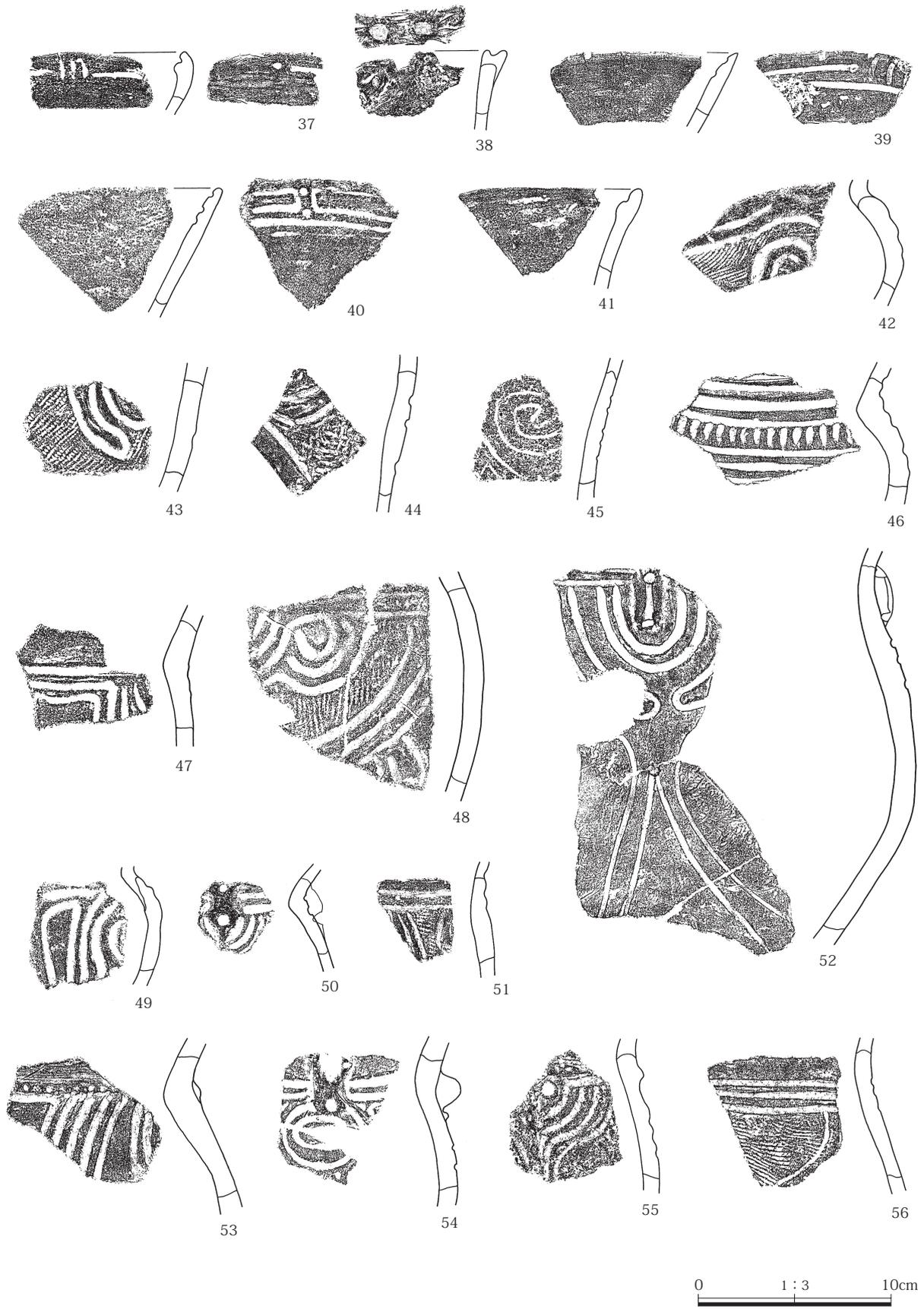
などは残っていない。本整理にあたり、本住居跡の遺物平面図と30区1号環状柱穴列の平面図を重ねたところ、その位置が符合した。ここで再度、30区1号環状柱穴列を検討したところ、本遺跡における他の縄文時代後期の住居跡の柱穴配置と類似していることが判明した。そのため、30区1号環状柱穴列は住居跡として扱うことが適当という判断に至った。



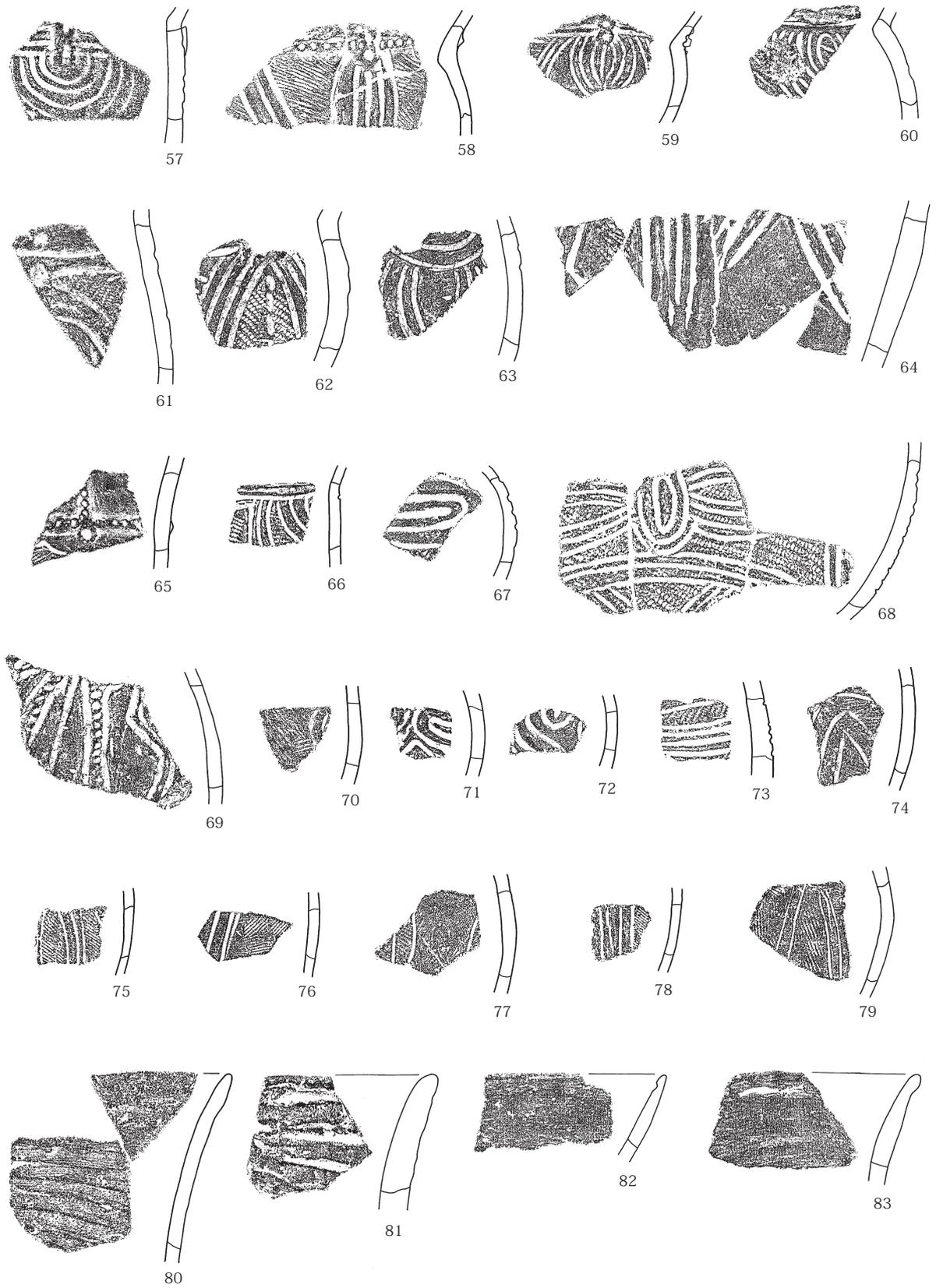
第189図 30区35号住居出土遺物(1)



第190図 30区35号住居出土遺物(2)

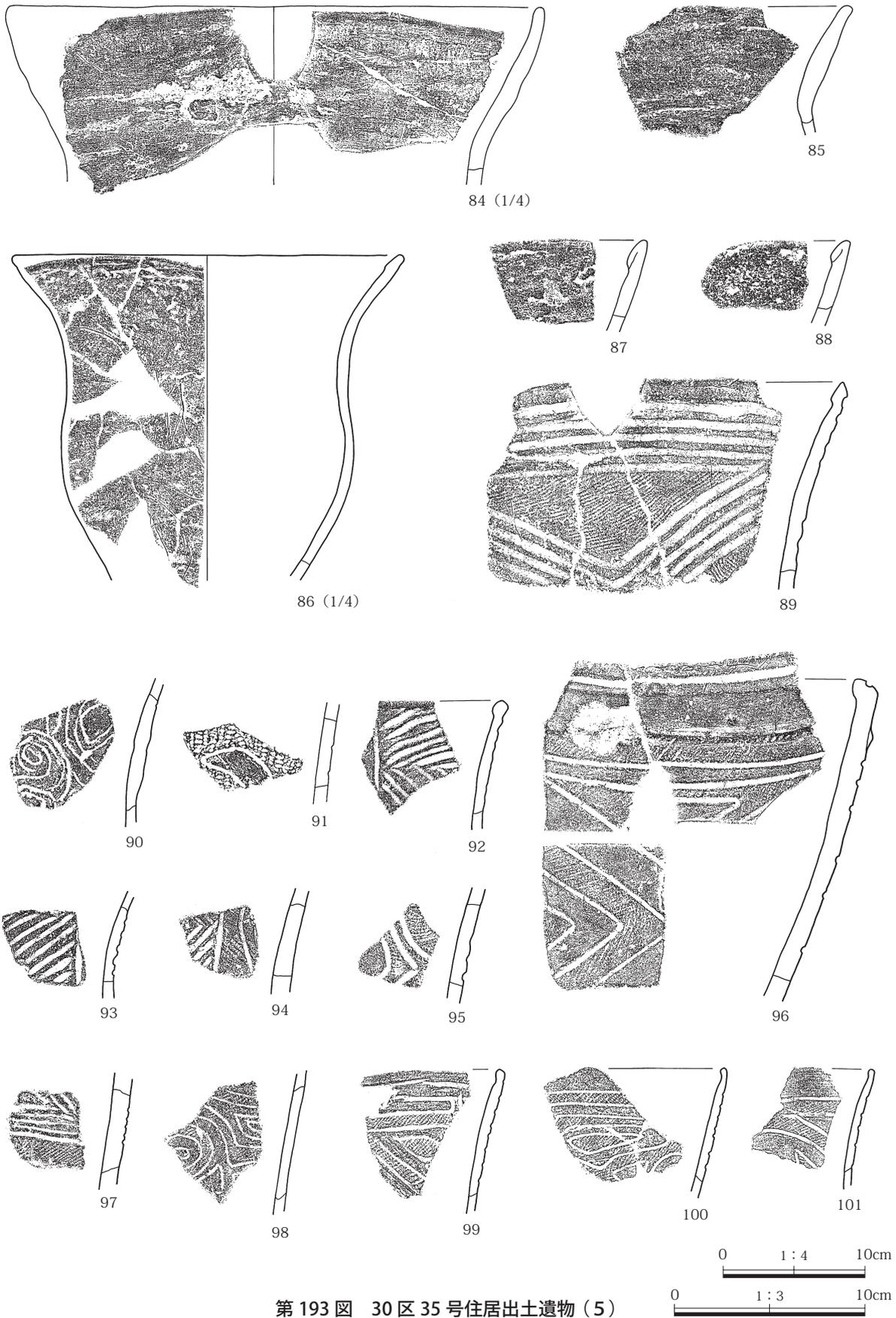


第191図 30区35号住居出土遺物(3)

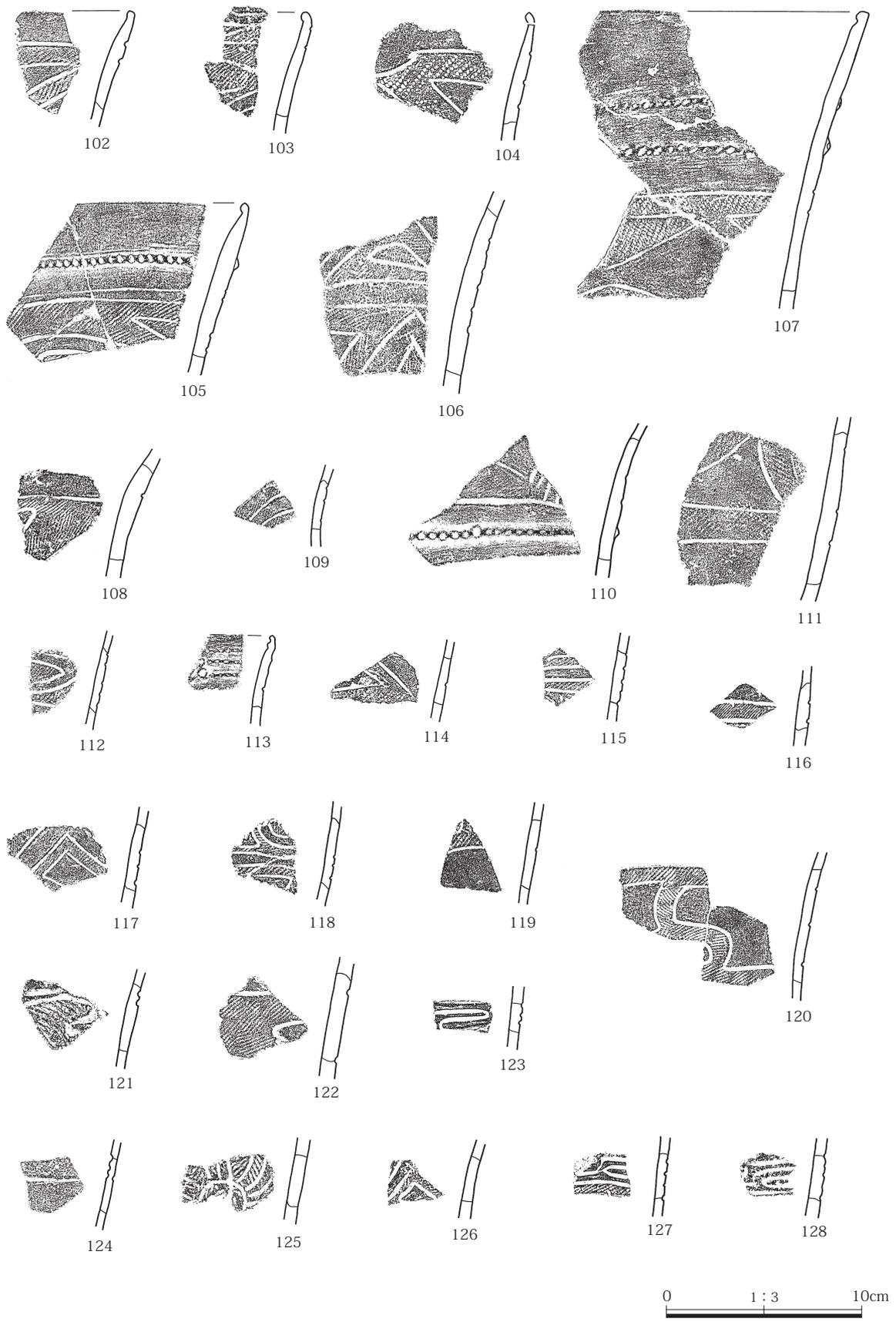


0 1:3 10cm

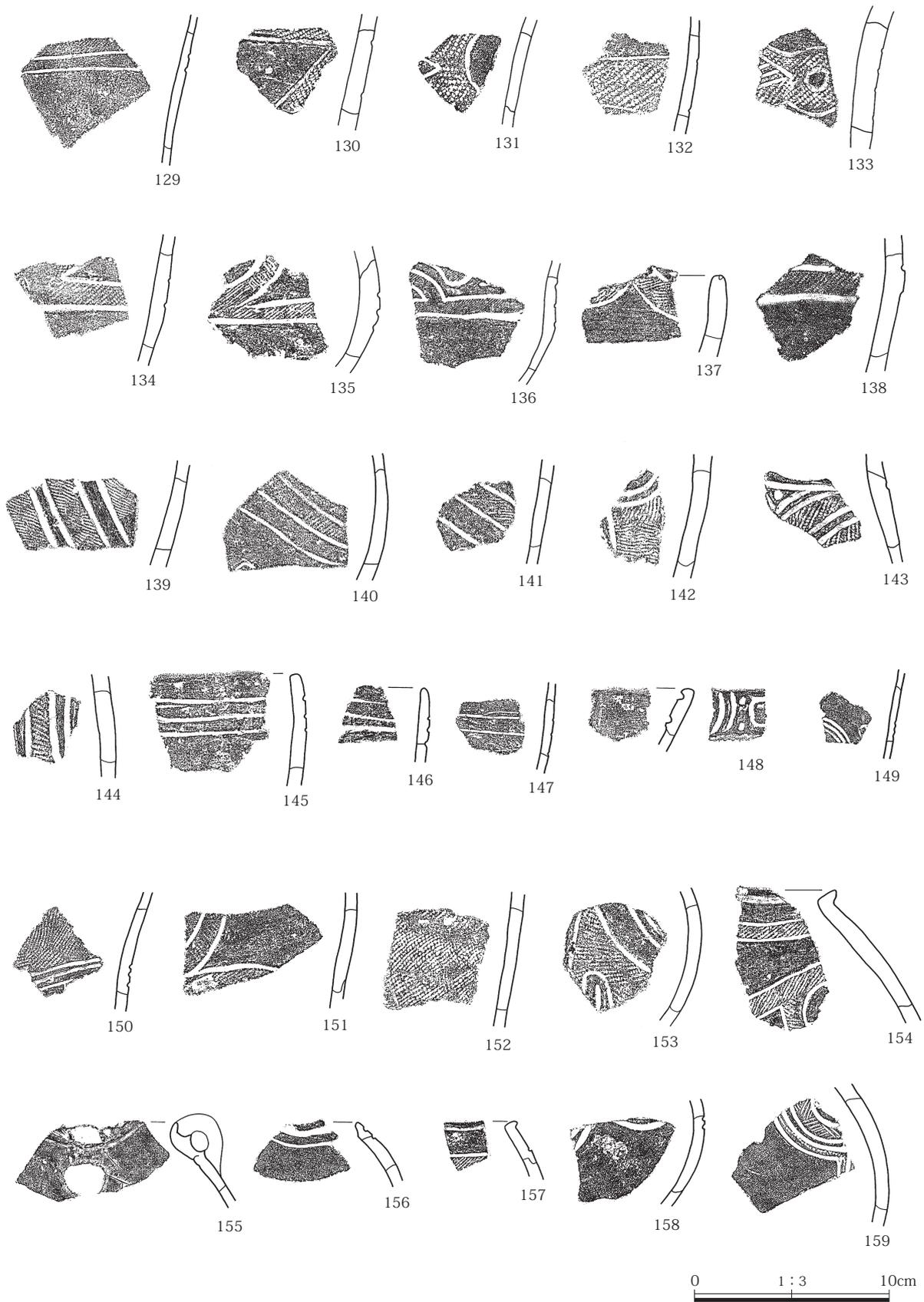
第192図 30区35号住居出土遺物(4)



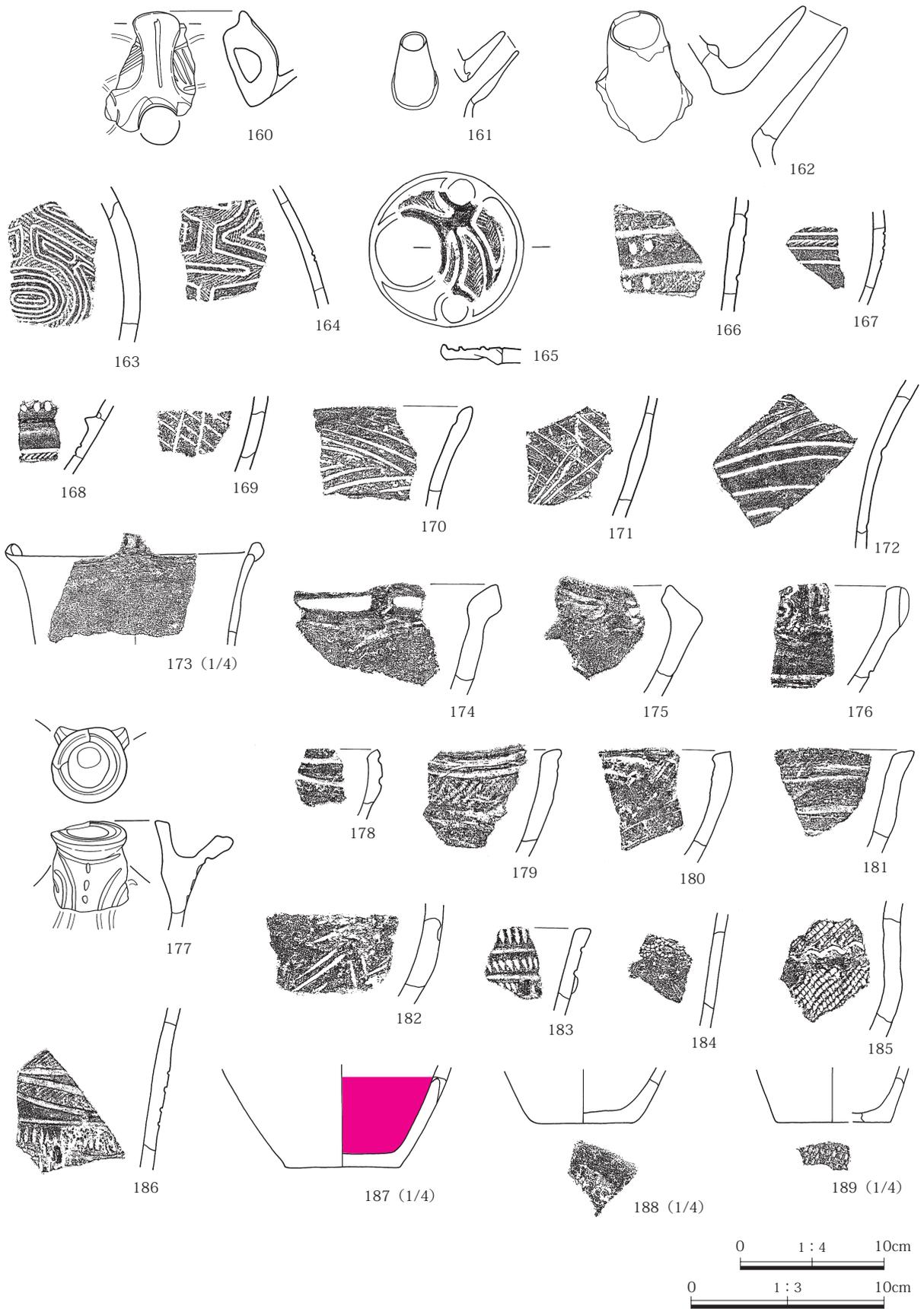
第193図 30区35号住居出土遺物(5)



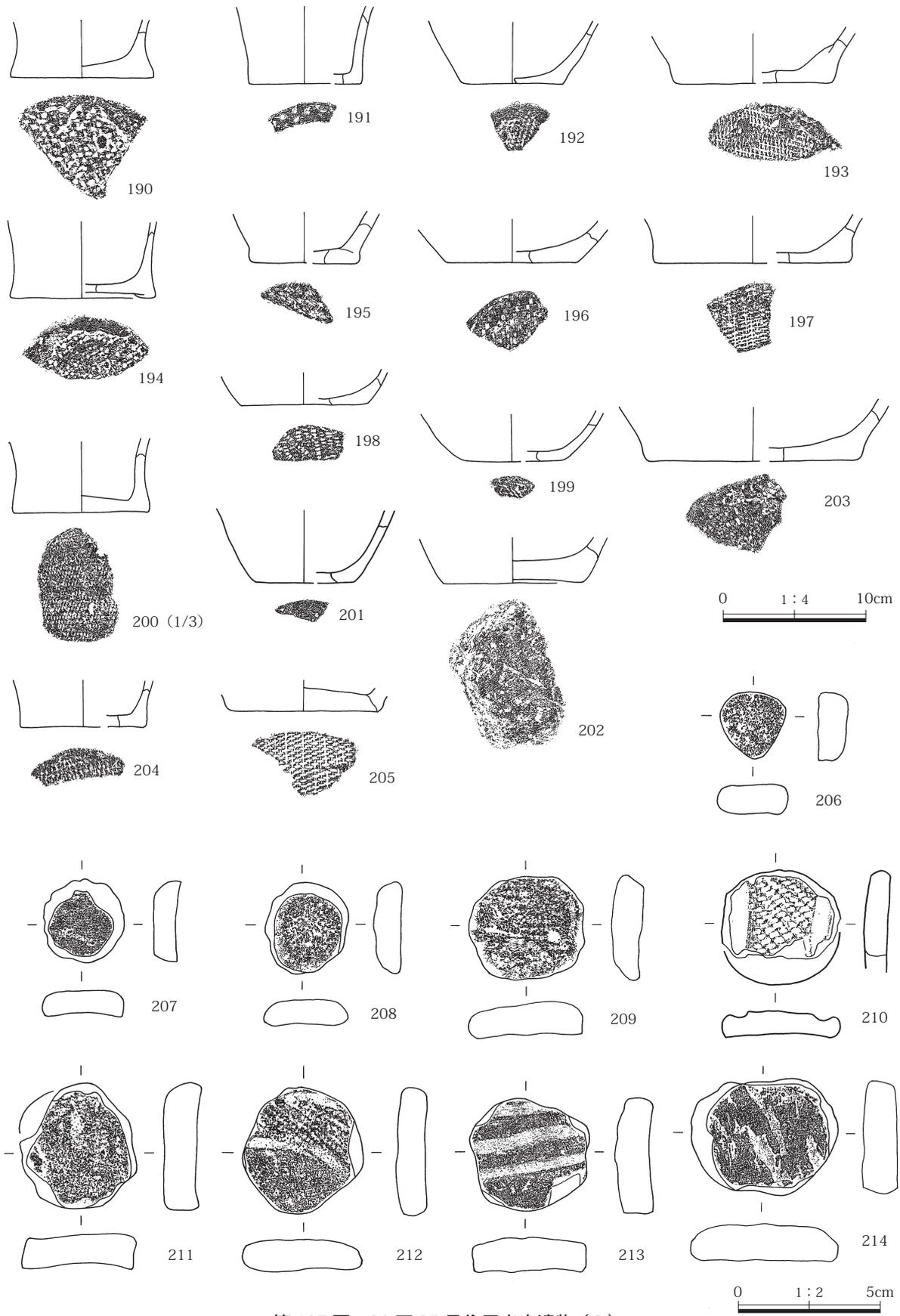
第194図 30区35号住居出土遺物(6)



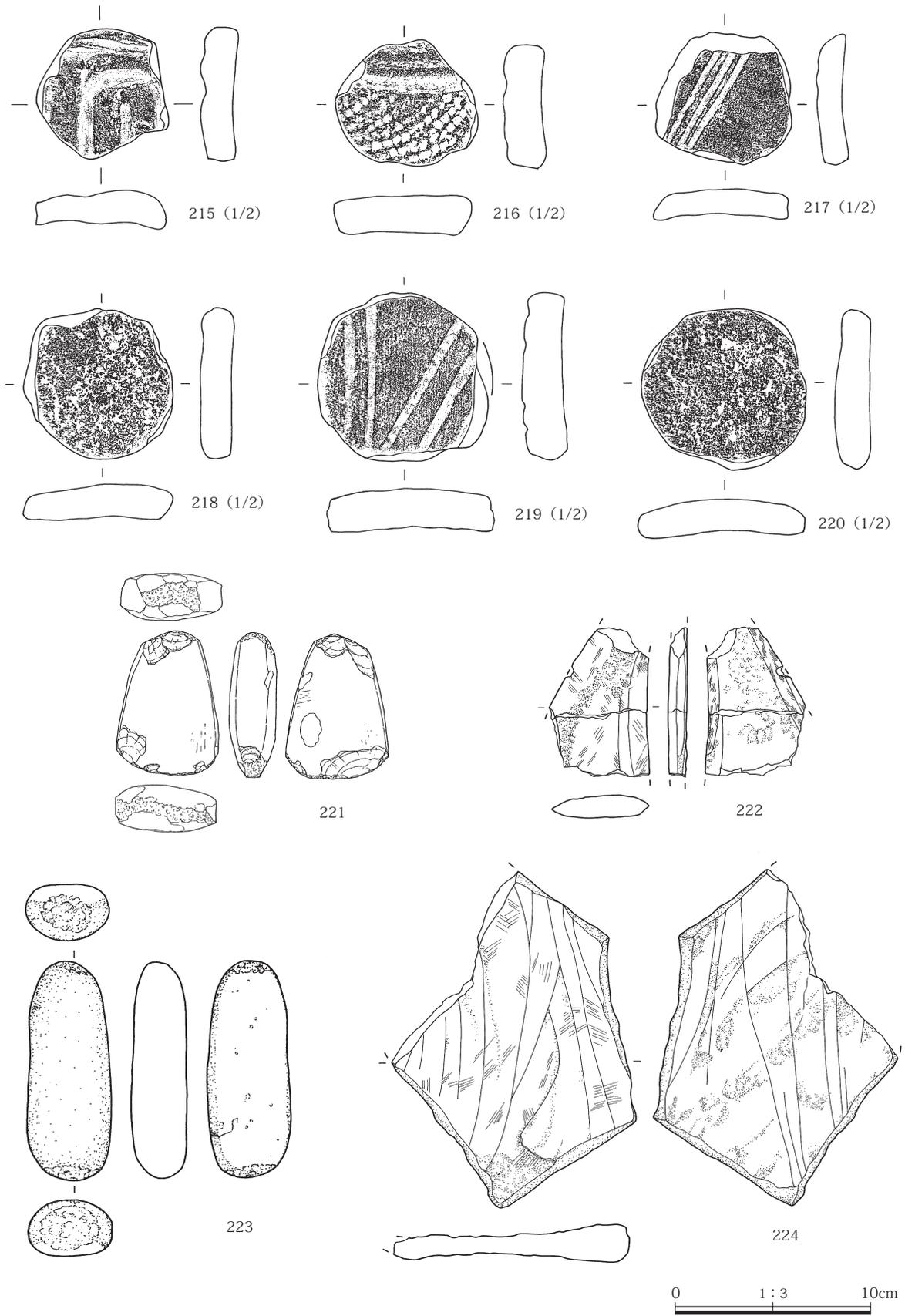
第195図 30区35号住居出土遺物(7)



第196図 30区35号住居出土遺物(8)



第197図 30区35号住居出土遺物(9)



第198図 30区35号住居出土遺物(10)

### 第3章 発見された遺構と遺物

30区1号環状柱穴列は『横壁中村遺跡(7)』です  
で報告済みであるが、住居跡の柱穴として訂正  
したい。なお、断面図および個別柱穴の説明や出土遺  
物については『横壁中村遺跡(7)』に詳細に記述  
されているので、そちらを参照していただきたい。

**重複** 36号住居、9号土器埋設遺構と重複し、  
これに切られる。

**形状** 東北東方向に出入り口部を有する柄鏡形敷  
石住居跡と想定される。主体部は柱3と柱7の芯芯  
距離で7.2mであり、直径8m以上の円形の主体部  
と想定される。出入り口部の詳細は不明である。

**床面** 検出されていない。

**炉** 検出されていない。

**方位** N-76°-E

**柱穴** 柱穴については、先述のように30区1号  
環状柱穴列の柱穴をあてる。個別の柱穴についての  
詳細は先の報告書を参照していただきたい。

それぞれの規模(長辺×短辺×深さ)は、柱1:  
162×123×132、柱2:174×120×138、柱3:  
136×115×168、柱4:125×107×168、柱5:  
124×116×183、柱6:110×107×152、柱7:  
105×92×132、柱8:145×-×128である。

**遺物** ここでは、35号住居として取り上げられ  
た遺物と、出土位置の明らかなグリッド出土扱いの  
遺物のなかで本住居跡の範囲に含まれる遺物を対象  
とした。グリッド上げ遺物のなかで、35・36号住  
居の重複する部分の遺物については、その帰属が分  
別できないため、35・36号住居出土遺物として、  
36号住居の後に一括して掲載した。

土器は総数2,144点が出土した。堀之内2式期を  
主体とし、堀之内1式新段階の土器が多く見られる。  
また、加曽利B式、高井東式、安行式も含まれている。  
各柱穴の遺物は『横壁中村遺跡(7)』に掲載して  
いる。そちらを参照していただきたい。柱穴からは、  
堀之内1式が最も多く出土し、堀之内2式がそれに  
次ぐ。また、加曽利B式、高井東式も含まれる。

土製品では、土製円盤が15点出土している。今  
回報告する住居跡の中では最多の出土量である。

石器は石鏃1点、削器1点、加工痕のある剥片2  
点、磨製石斧1点、磨石4点、石皿1点・砥石2点  
があり、他に剥片4点(黒曜石1点)、碎片1点(黒  
曜石1点)がある。

**時期** 覆土および柱穴からの出土土器は、堀之内  
1~2式期を主体としており、本住居跡は当該期に  
比定されよう。

### 30区36号住居

**調査年度** 平成10・11年度

**位置** C-3グリッド

**経過** 表土掘削後、石囲い炉を検出したため住居  
跡と認定し調査を実施した。炉および床面の調査終  
了後に掘り方の調査を実施し、その際、床下から埋  
設土器1基と半完形の土器を伴う土坑を確認した。  
しかし、この土坑は柱穴として調査されているため、  
本報告でも柱穴として扱っている。

**重複** 35号住居と重複し、これを切る。

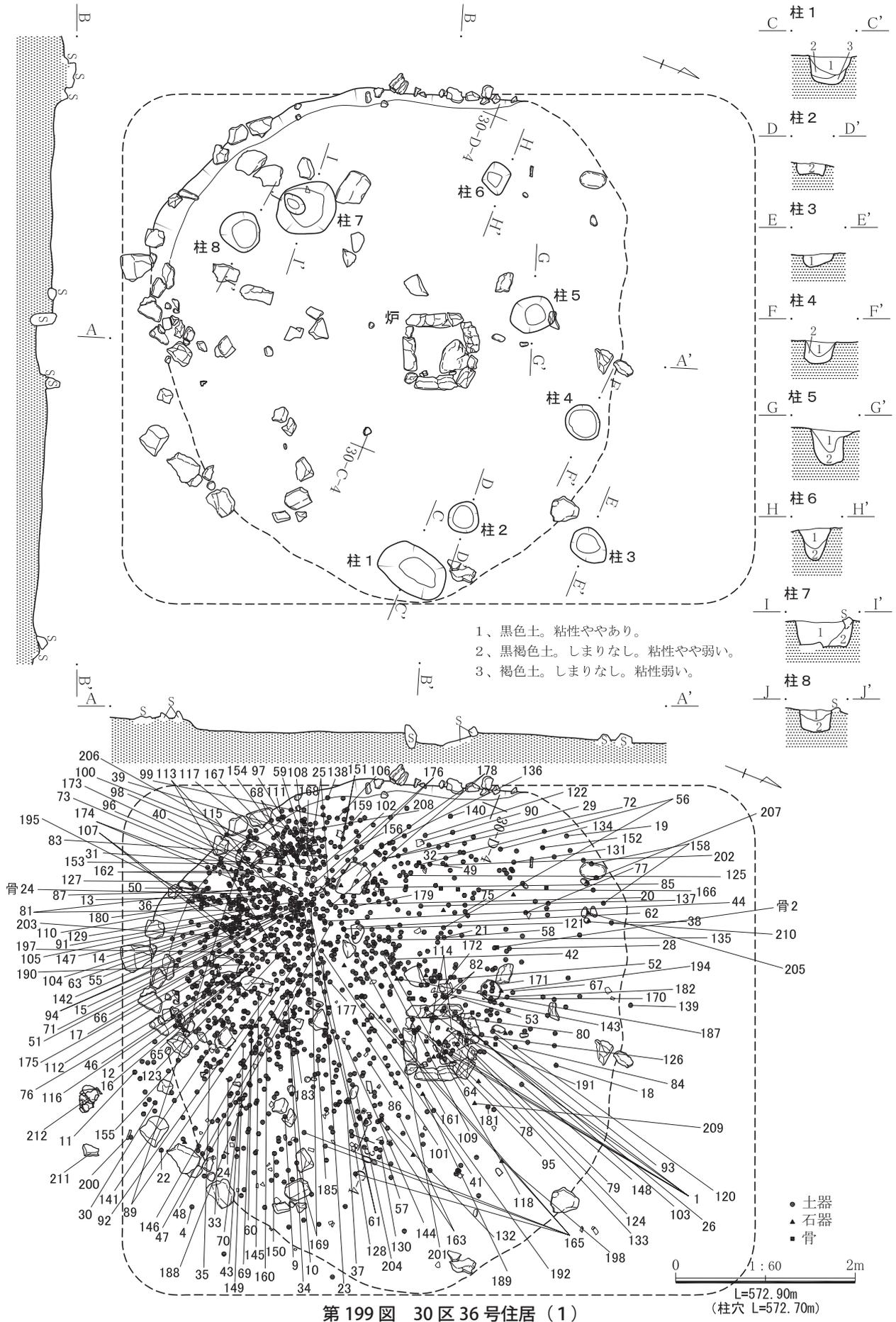
**形状** 敷石などはなく住居跡の範囲は不明瞭であ  
る。南西側にわずかな段差を確認し、調査時はこれ  
をもとに直径5mほどの円形の住居跡を想定した。  
しかし、本整理では、住居跡上位のグリッド出土遺  
物の分布や出土遺物の時期などを再検討し、南北に  
長い隅丸長方形を呈する住居跡と想定した。

**床面** 覆土には多数の礫が含まれるが、偏平な地  
山礫や鉄平石などは確認されず、敷石はなかったも  
のと考えられる。硬化面など明確な床面は検出でき  
なかったが、炉石から推定される床面は、周囲の地  
山と比較して礫が少なく、明らかに地山の礫を除去  
したように看取される。

**炉** 方形石囲い炉である。4辺とも偏平な地山  
礫を縦位に設置する。被熱によりブロック状に割れ  
ているが、東・南・西辺は1石の大型偏平礫を用い、  
北辺のみ2石を用いている。また、南東隅には、楕  
円体の川原石を縦位に設置している。その規模(長  
辺×短辺×深さ)は使用面で86×85×23である。

**1号埋甕** 掘り方調査中に炉の北西20cmに埋設土  
器(171)を検出した。床面では確認できていない。

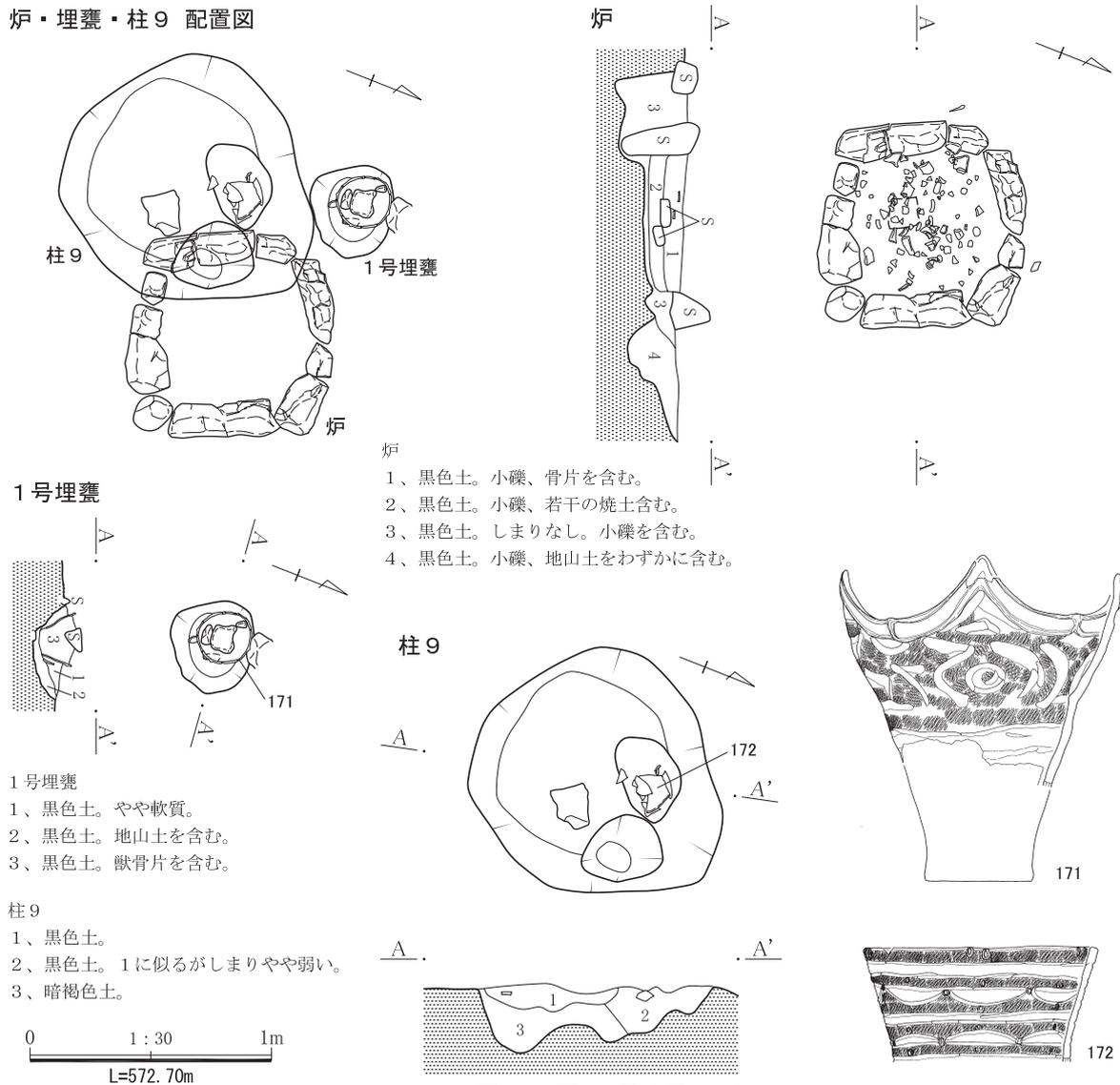
第3節 縄文時代後期の壑穴住居



第199図 30区36号住居(1)

第3章 発見された遺構と遺物

炉・埋甕・柱9 配置図



第200図 30区36号住居(2)

埋設土器は、縄文時代後期後半の深鉢の口縁部から胴部上半を正位に埋設している。胴部下半以下は残存しない。出土状況から埋設時から存在しなかったものと考えられる。また、土器の上面には数石の礫が載せられたように認められたが、意図的なものか、覆土に含まれたものかは判断できなかった。

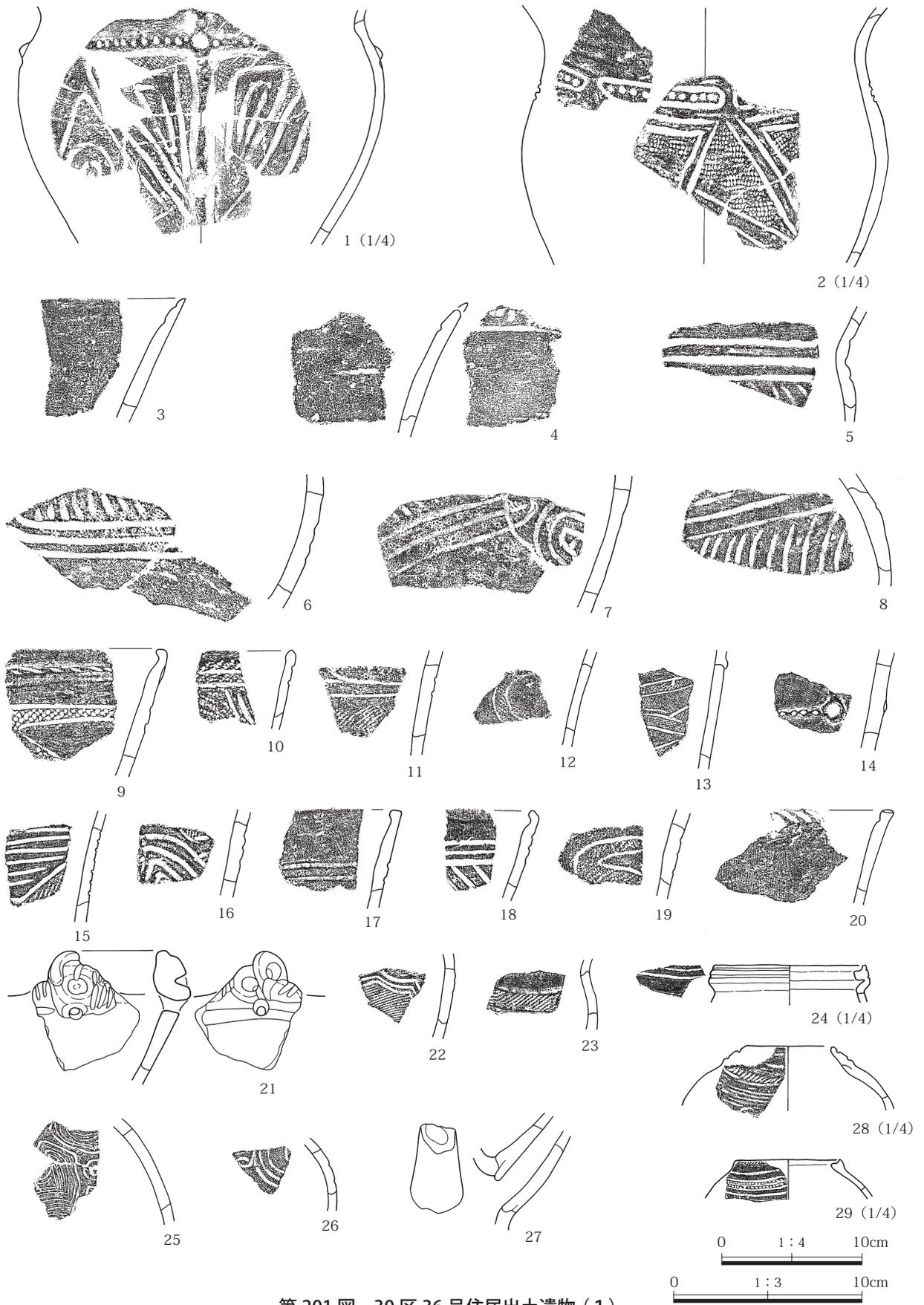
方位 N-71°-E

柱穴 柱1～柱9の計9本を検出した。柱9については、土坑とも考えられる遺構であり後述する。柱1～8は炉から30cmという至近距離のものも含まれ、柱穴配置に規則性が捉えがたい。また、その規模も小さく浅いものが多い。調査時に住居跡範囲と想定した範囲のさらに外側に柱穴があった可能性

も考えられよう。

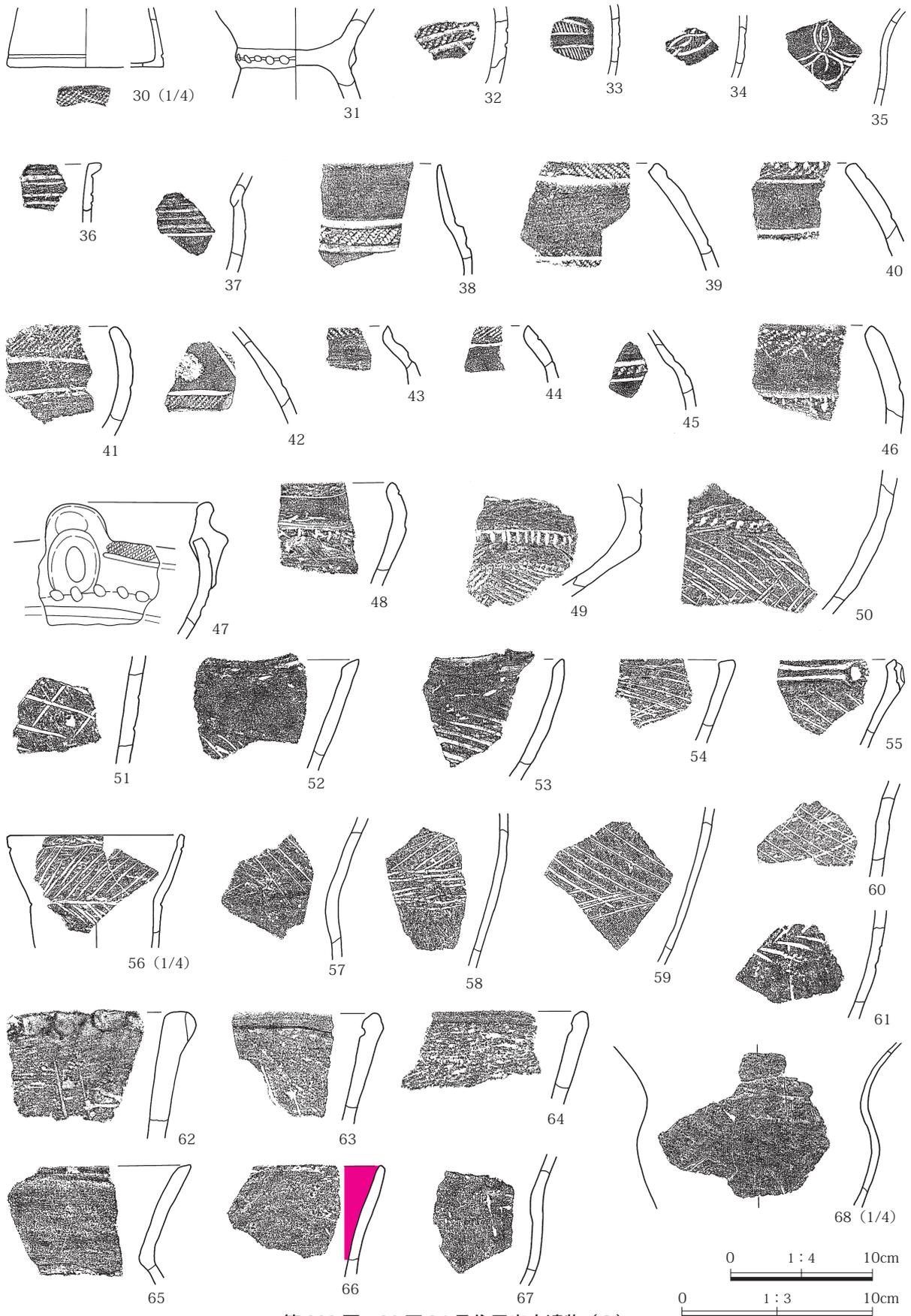
それぞれの規模(長辺×短辺×深さ)は、柱1:79×50×35、柱2:34×34×15、柱3:45×34×19、柱4:40×38×26、柱5:50×38×43、柱6:30×26×35、柱7:70×57×30、柱8:45×43×28である。

柱穴9は掘り方調査で確認された。炉と一部重複するが、炉石はすべて残存しているため、炉に先行するものと考えられる。その規模(長辺×短辺×深さ)は107×95×30であり、むしろ土坑とすべきものと考えられる。単独の土坑であるのか、住居内土坑であるのかは判断できなかった。遺物は、土坑の北東部よりの底面付近から、口縁部から胴部上



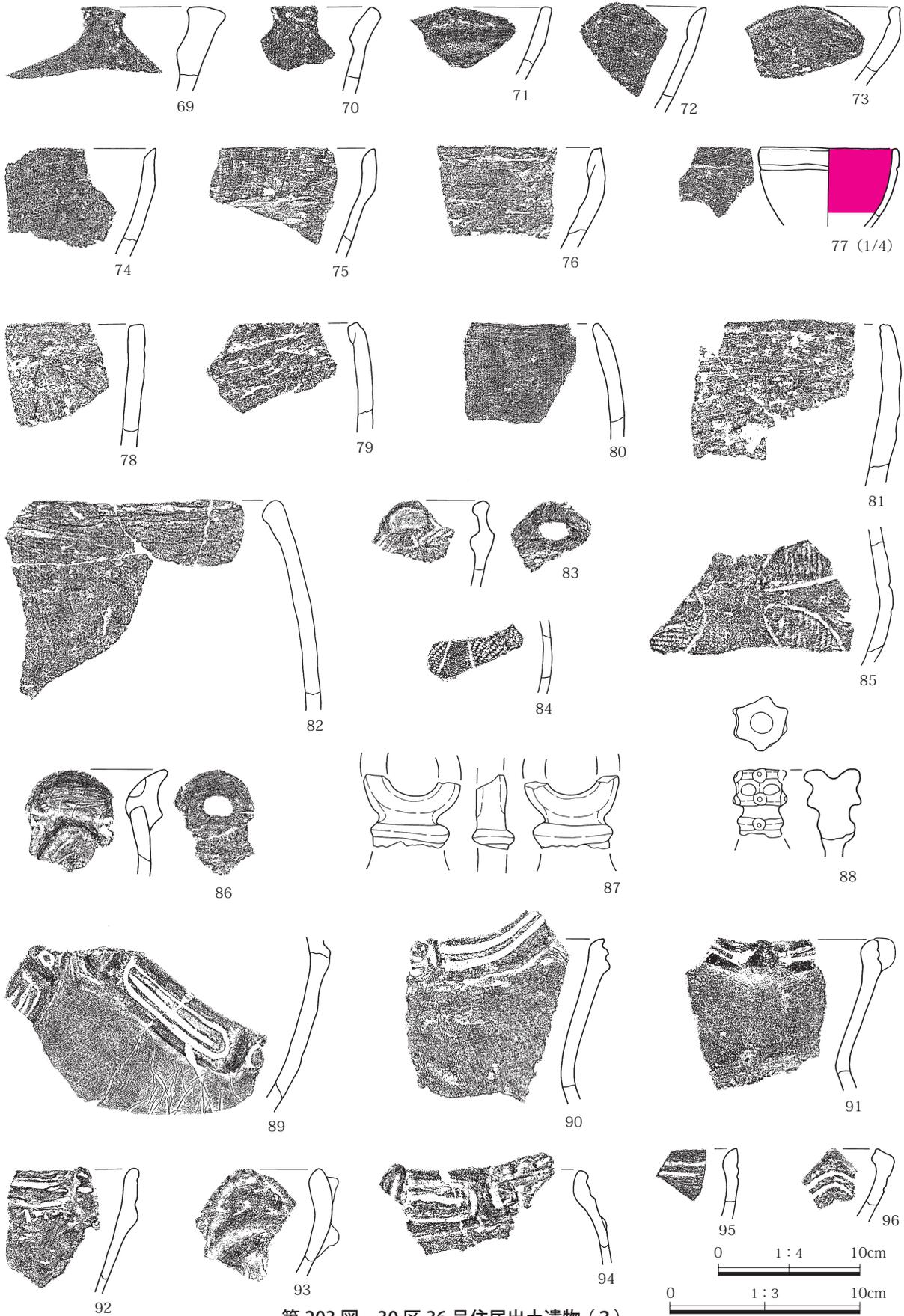
第201図 30区36号住居出土遺物(1)

第3章 発見された遺構と遺物



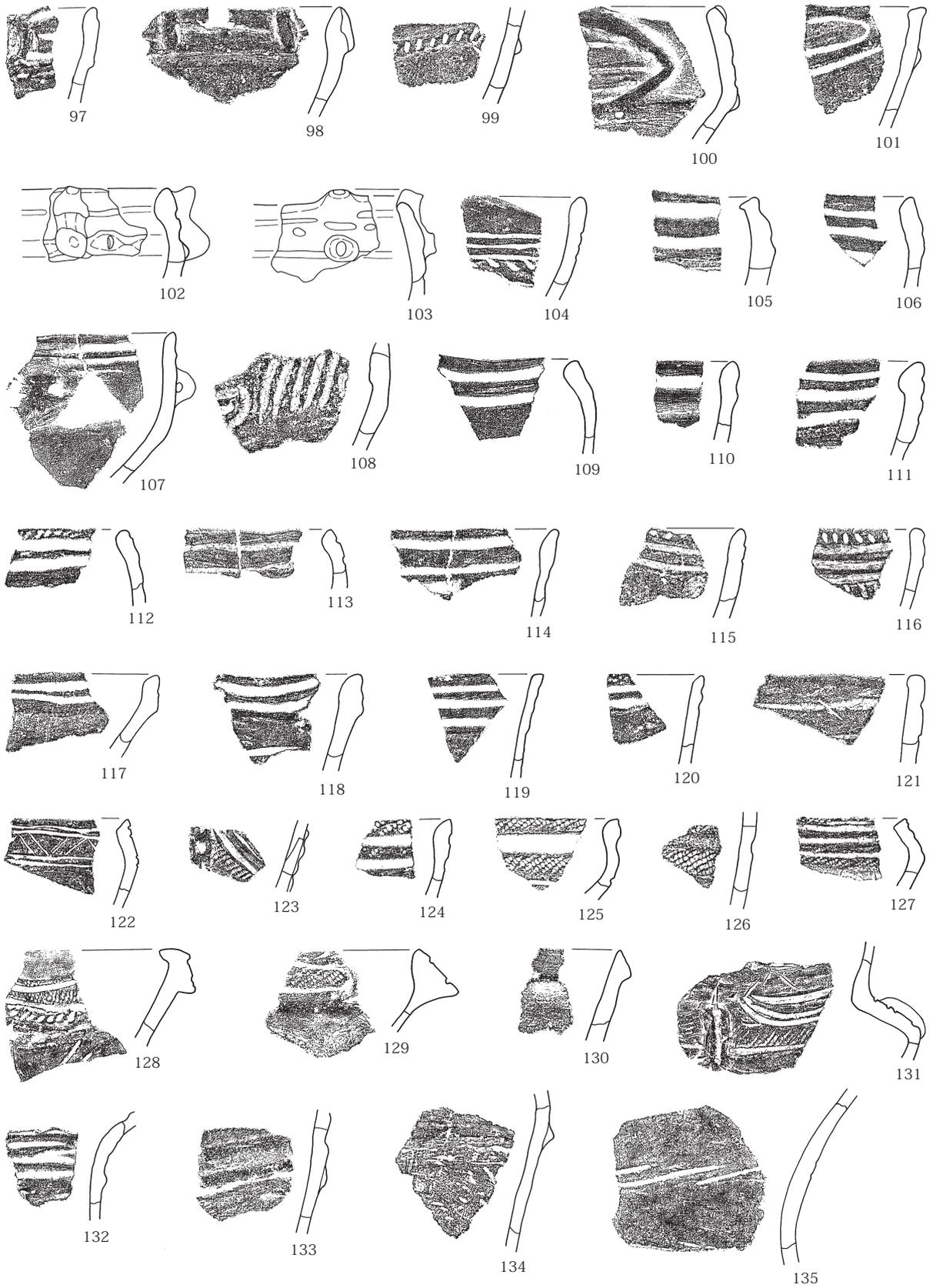
第202図 30区36号住居出土遺物(2)

第3節 縄文時代後期の壑穴住居

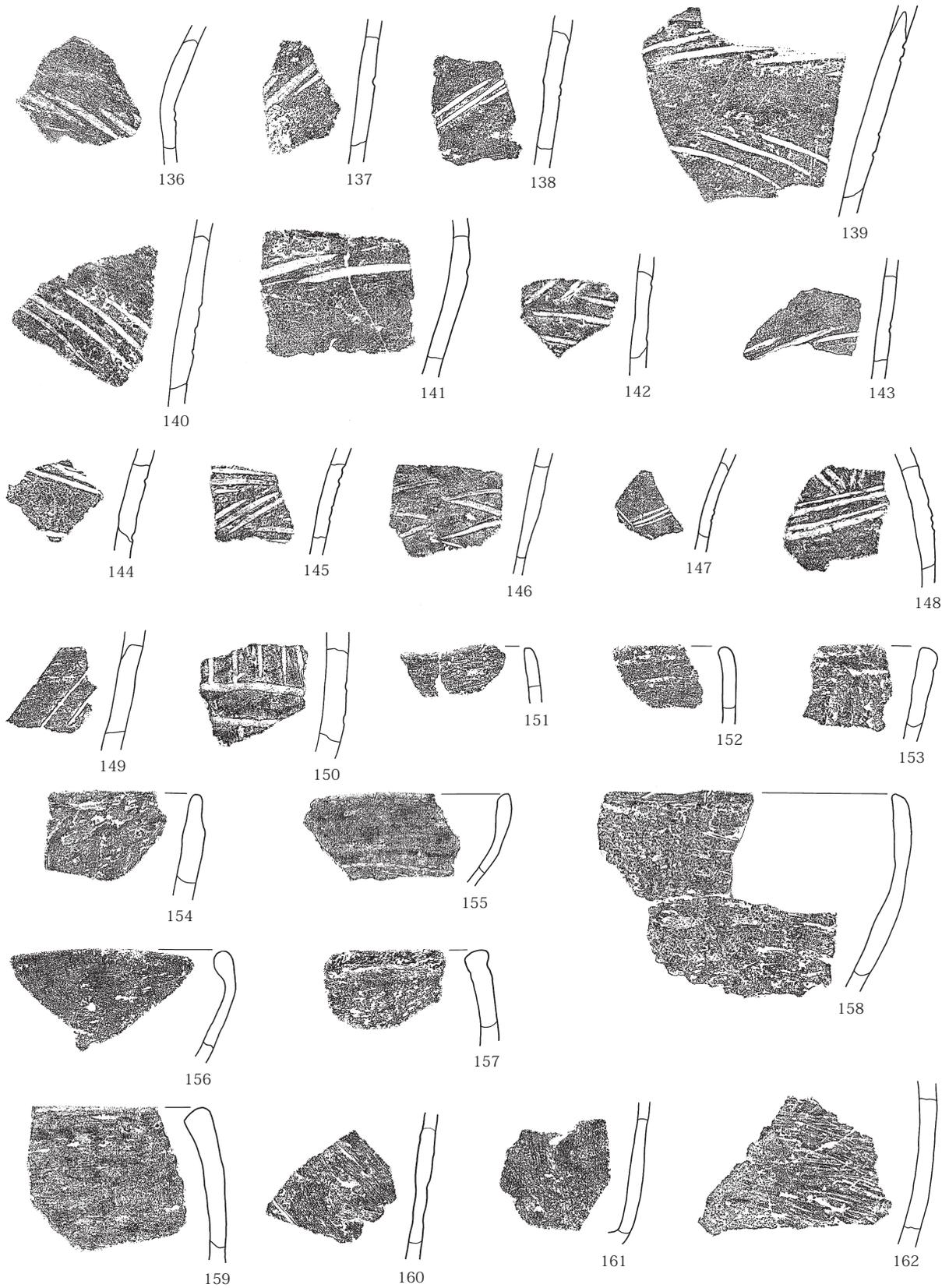


第203図 30区36号住居出土遺物(3)

第3章 発見された遺構と遺物



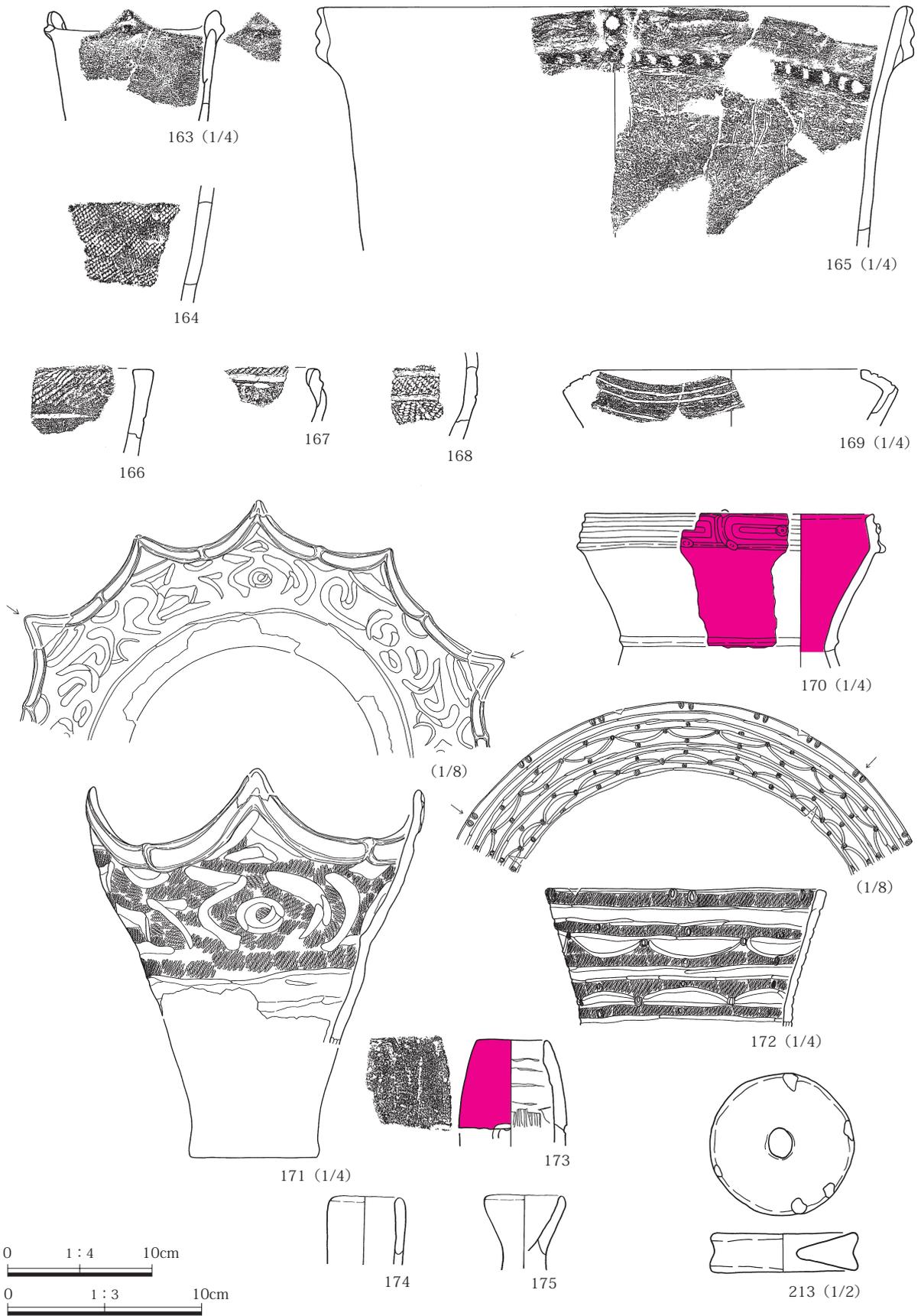
第204図 30区36号住居出土遺物(4)



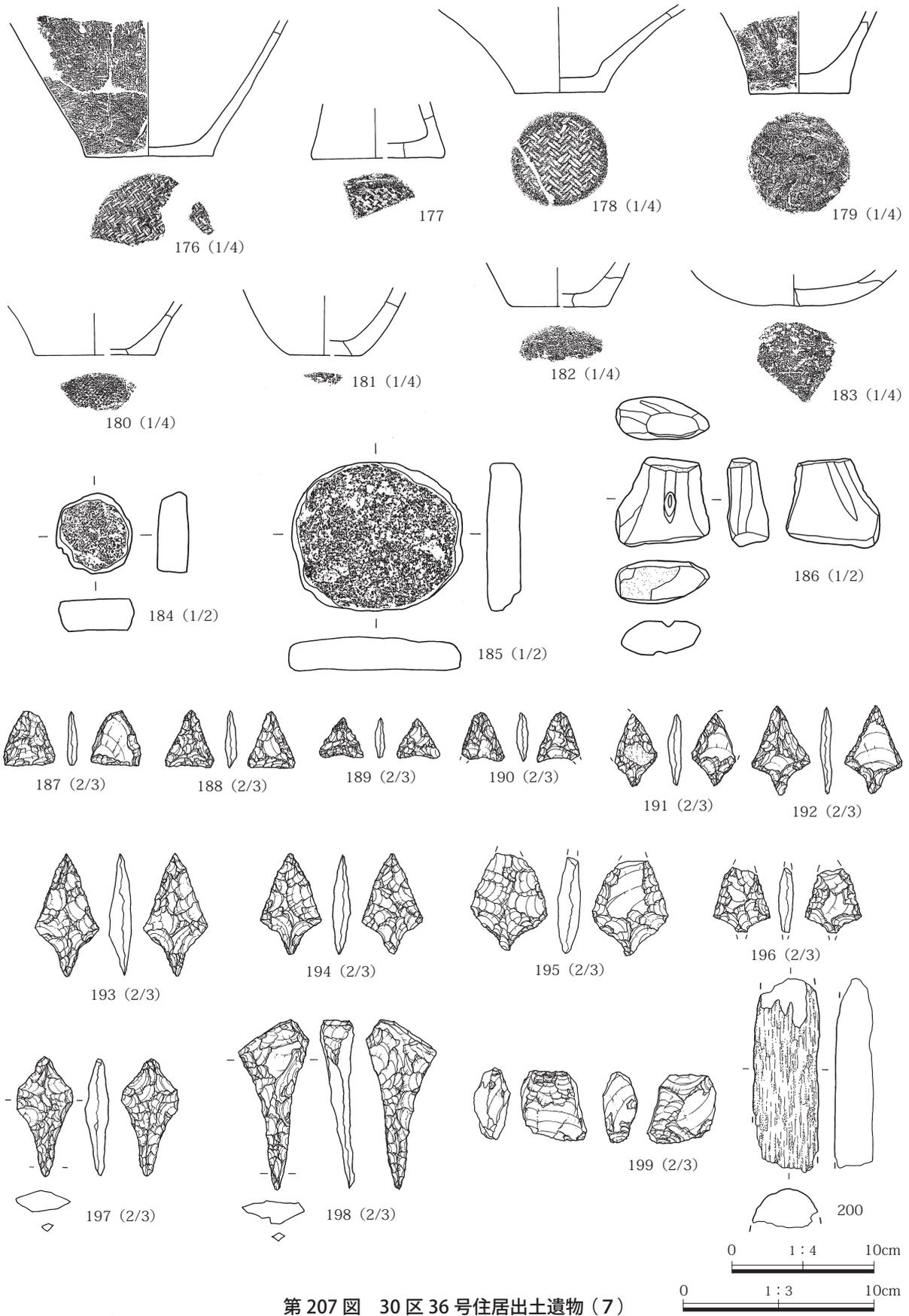
0 1:3 10cm

第205図 30区36号住居出土遺物(5)

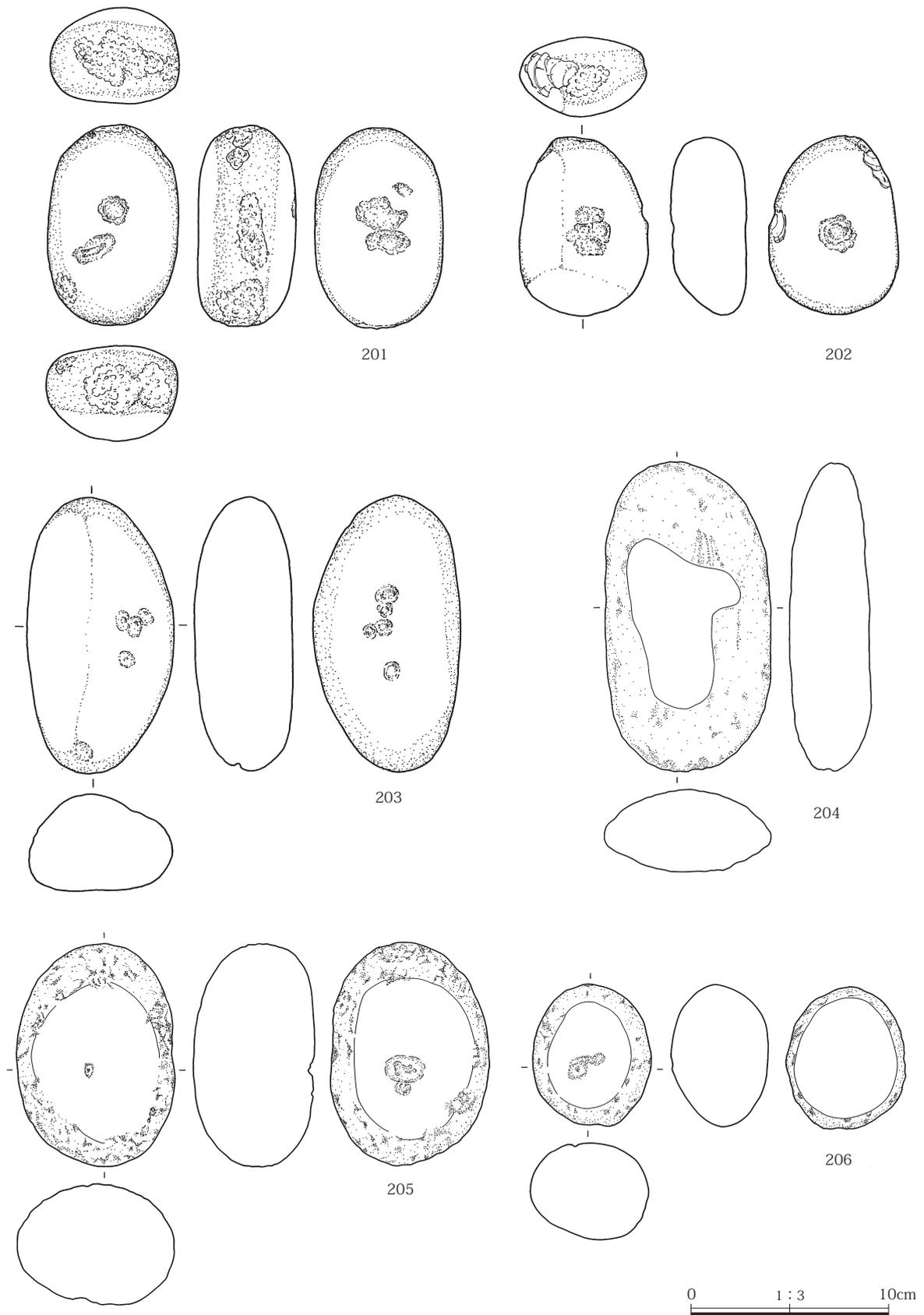
第3章 発見された遺構と遺物



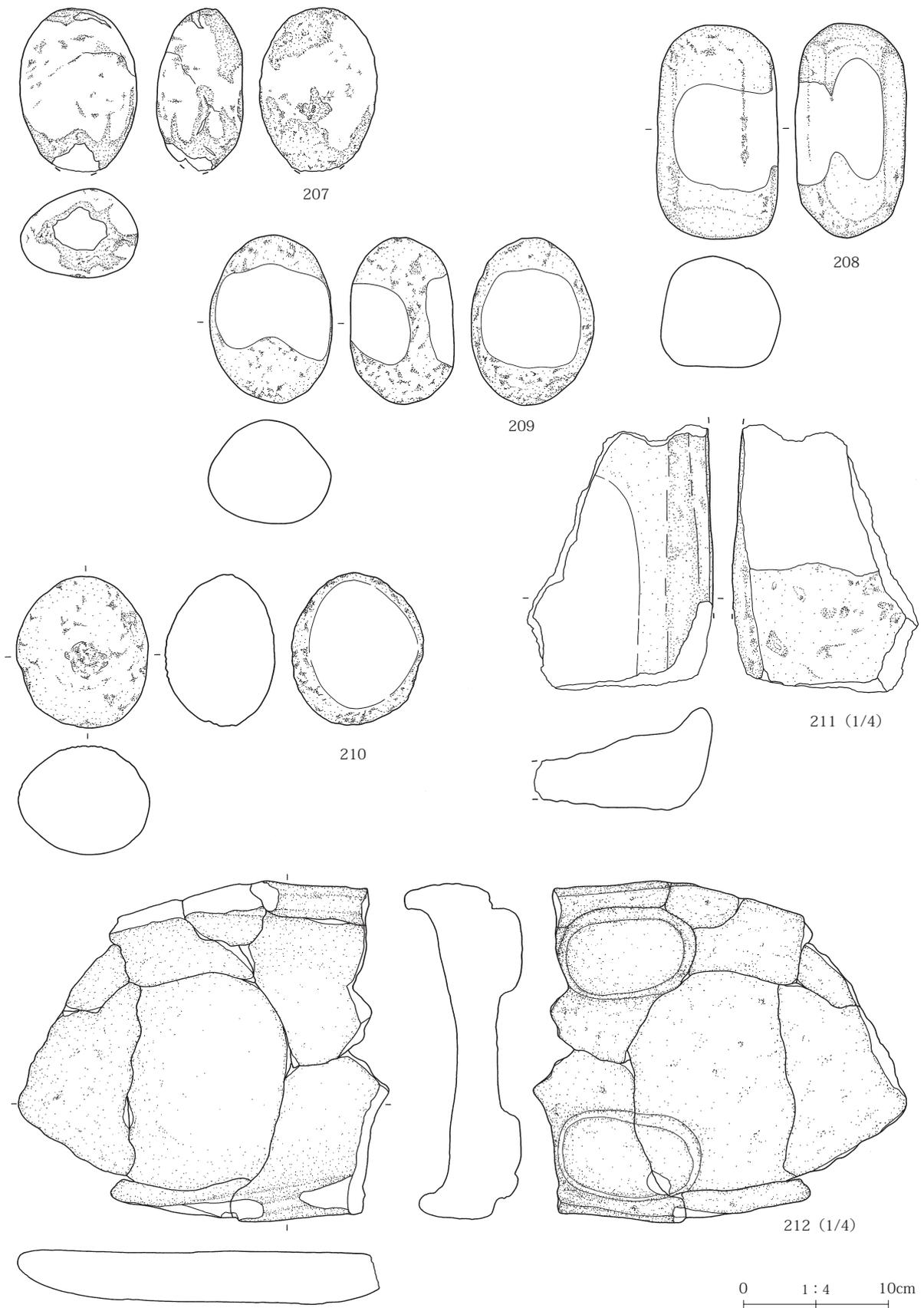
第206図 30区36号住居出土遺物(6)



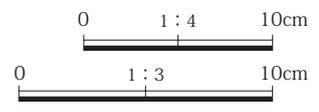
第207図 30区36号住居出土遺物(7)

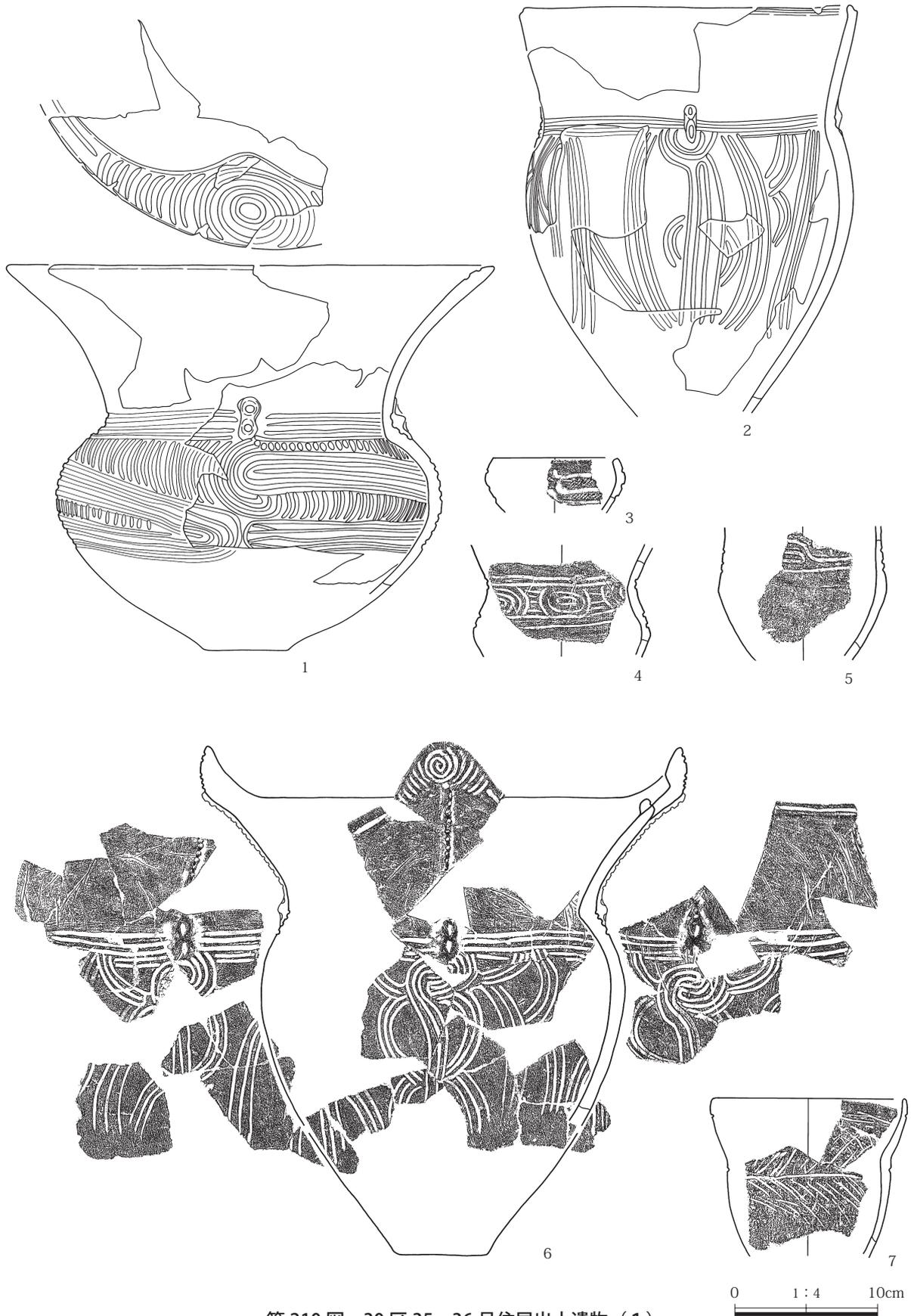


第208図 30区36号住居出土遺物(8)

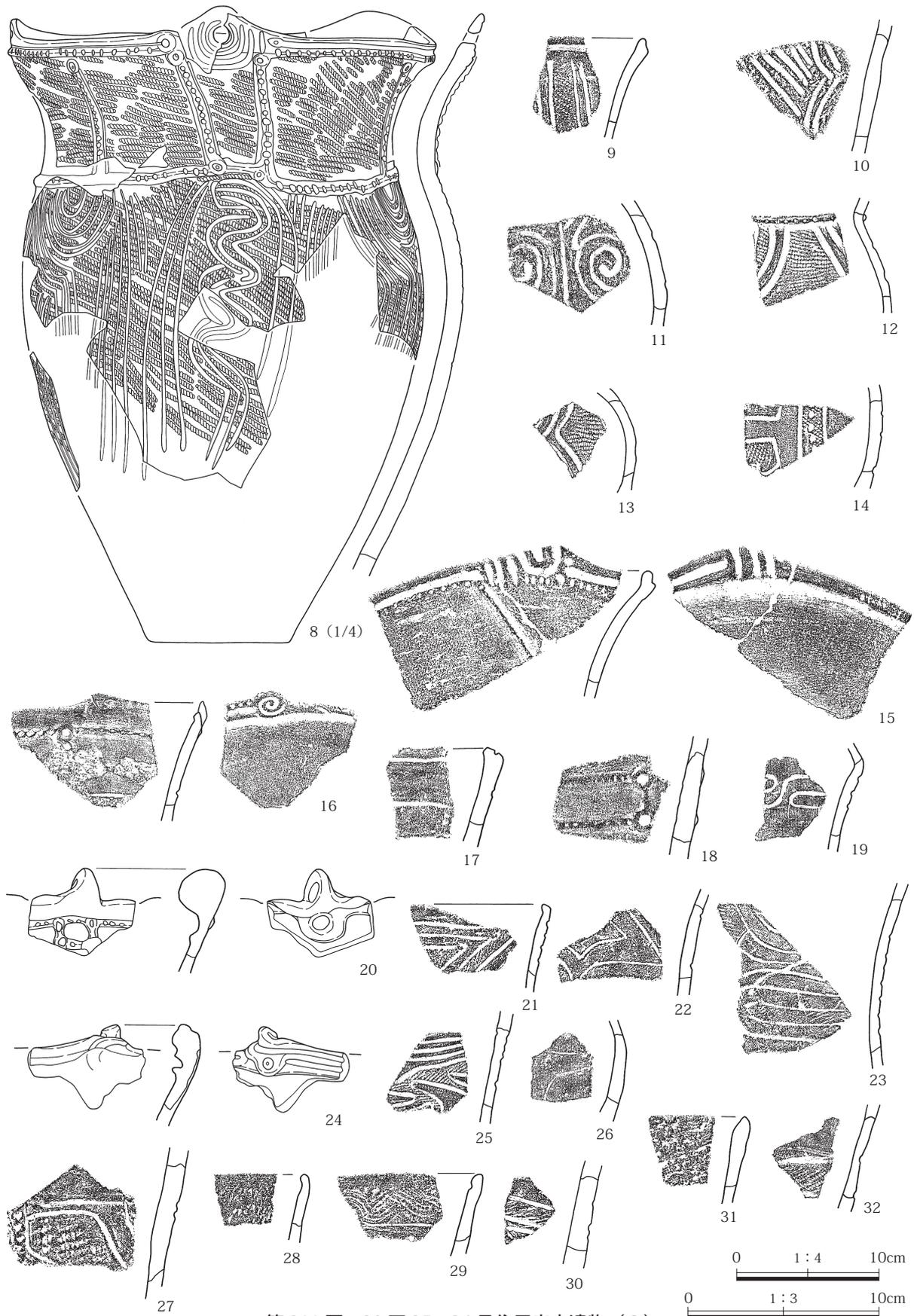


第209図 30区36号住居出土遺物(9)

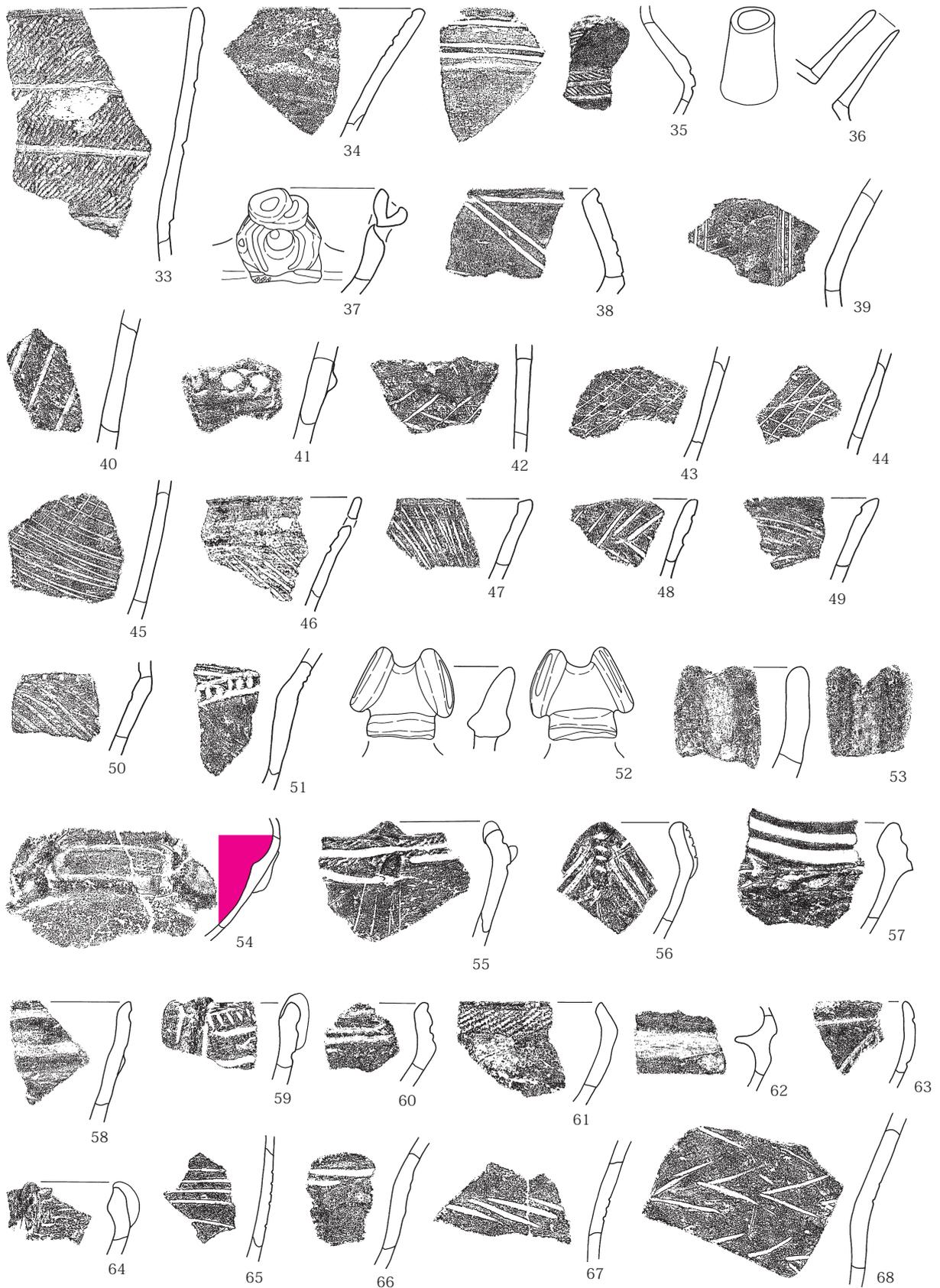




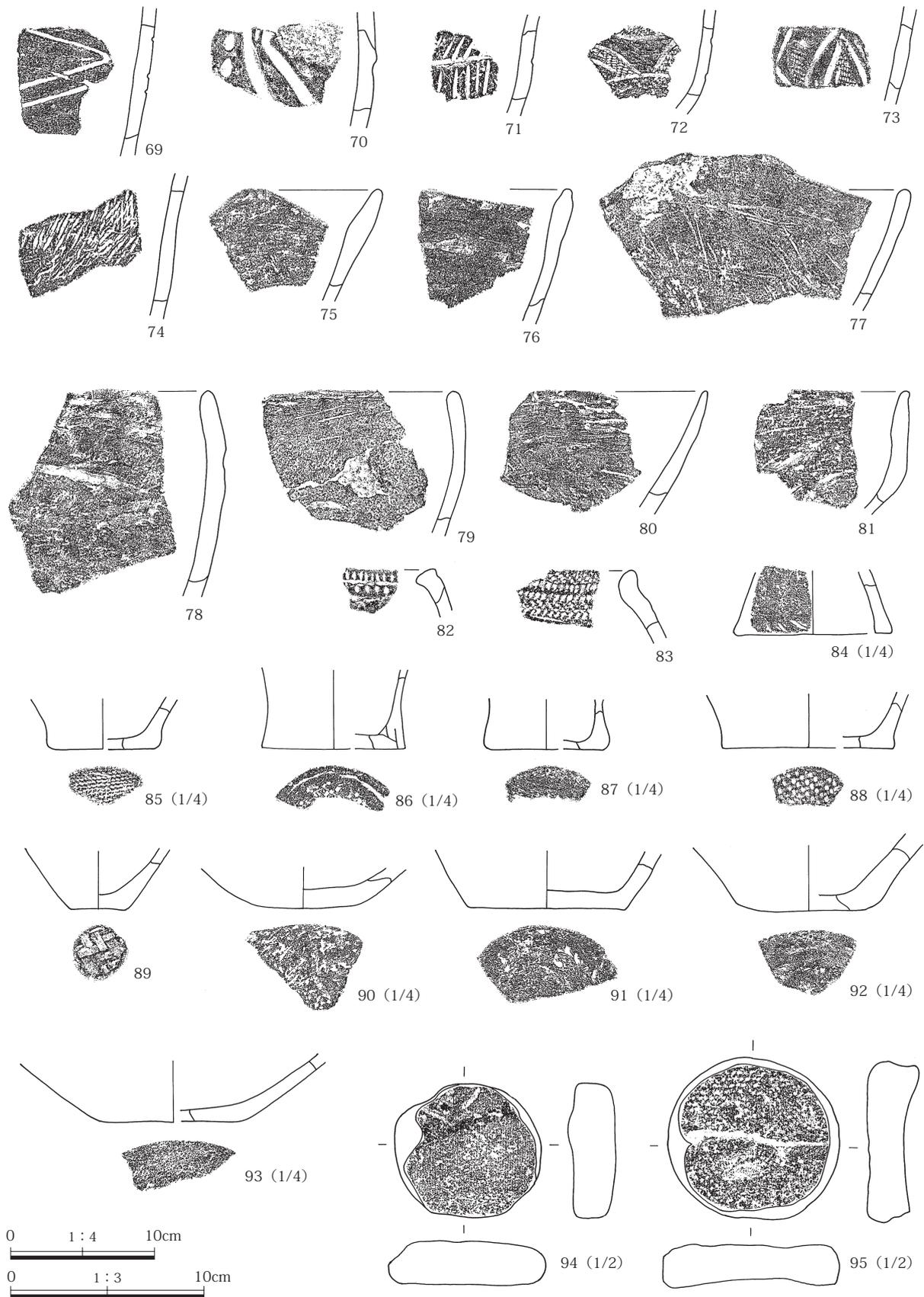
第210図 30区35・36号住居出土遺物(1)



第211図 30区35・36号住居出土遺物(2)



第212図 30区35・36号住居出土遺物(3)



第213図 30区35・36号住居出土遺物(4)

### 第3章 発見された遺構と遺物

半にかけての深鉢（172）が出土している。胴部下半以下はなく、横倒して潰れた状態で検出されている。遺構の形状および出土遺物の状況より墓坑の可能性も考えられよう。

**遺物** ここでは、本住居跡出土遺物として取り上げられた遺物と、出土位置の明らかなグリッド出土扱いの遺物のなかで本住居跡の範囲に含まれる遺物を対象とした。グリッド上げ遺物のなかで、35・36号住居の重複部分の遺物は、その帰属が分別できないため、35・36号住居出土遺物として、本住居跡の後に一括して掲載した。

土器は総数 2,581 点が出土している。主な土器は堀之内 1 式期から安行式期の土器であり、特に加曾利 B 3 式期から高井東式期が多く認められる。埋甕（171）は 4 単位の波状口縁を呈する深鉢形土器である。口縁部は隆帯を 1 条巡らし、波底部には突起を貼付している。口縁部には縄文は施文されず、研磨されている。胴部は、下端を 1 条の横位沈線で区画し、口縁部との間に沈線による円文や不規則な弧状の単位文様を充填している。その沈線で囲まれた内部は浅く凹まされ、文様外に充填された縄文部がわずかに隆起するようになっている。形態的には高井東式期の土器と考えられるが、高井東式には、本例のような胴部文様は認められず、東北系の瘤付土器の影響を多分に受けているものと思われる。ただし、瘤付土器の影響とした場合でも、本例の文様は大きく変容しているものと捉えるべきであろう。

柱 9 から出土した土器（172）は、東北系の瘤付土器と考えられる。本例は、器壁が薄く、焼成も良好である。全体に黒褐色を呈し光沢を伴っている。口縁部に縄文帯を有し 2 個 1 対の瘤を 6 単位貼付している。胴部は横位沈線と弧線による文様が 2 段施文されている。横位沈線と弧線の接点には瘤が付され、また、その上下の縄文帯の中間点にも瘤が付されている。胴部の文様帯は 8 単位である。時期は、171 よりやや後出の土器と考えられ、瘤付土器の第 2 段階に比定される可能性がある。

なお、炉内からは 53・64・78・80・82・95・251

114・123・133 が出土し、その時期は加曾利 B 2 式期から高井東式期にかけてである。

土製品は耳飾り 1 点、土製円盤 2 点が出土している。

石器は石鏃 14 点（黒曜石 4 点）、石鏃未製品 1 点、石錐 4 点、削器 1 点、加工痕のある剥片 10 点（黒曜石 4 点）、使用痕のある剥片 8 点、打製石斧 1 点、磨石 24 点、石皿 2 点、砥石 1 点、石棒 1 点、ピエス 3 点（黒曜石 2 点）があり、他に石核 1 点、剥片 74 点（黒曜石 20 点）、碎片 21 点（黒曜石 14 点）がある。

**時期** 覆土およびその上位のグリッド出土遺物は高井東式期を主体としている。また、埋甕の時期も高井東式併行と考えられることから、本住居跡は当該期に比定される可能性が高い。ただし、炉の下から検出され、土坑の可能性もある柱 9 から瘤付土器第 2 段階と考えられる土器が出土していることから、より後出の可能性もあり、安行 1 式期までを含めて考えておきたい。

**35・36号住居出土遺物** 35・36号住居とした遺物は、すべてグリッド上げ遺物である。住居跡の範囲と重複するグリッド上げ遺物の中から、住居跡に帰属する可能性が考えられる縄文時代後期の土器を中心に抽出した。グリッド上げの石器は、時期を決める根拠がないためここでは扱っていない。

抽出した遺物はすべて土器で、総数 991 点である。主な土器は、堀之内 1 式期から高井東式期の土器である。堀之内 1・2 式は 35 号住居、高井東式は 36 号住居に伴う遺物の可能性が高いと考えられよう。

### 30区 38号住居

**調査年度** 平成 9・10 年度

**位置** F-1 グリッド

**経過** 表土掘削後、炉およびそこから出入り口部にかけて敷設された敷石が検出されたため、柄鏡形敷石住居跡として認定し調査を実施した。炉および敷石の調査終了後に掘り方調査を実施したが、柱穴は検出できなかった。

**重複** 重複する遺構は認められない。

**形状** 東北東方向に出入り口部を有する柄鏡形敷石住居跡である。調査時には、炉を中心とした径4mの円形の範囲を主体部として調査を実施し、主体部に10cmほどの段差が認められている。ただし、これは炉石との位置関係から壁面ではなく、すでに掘り方に相当する部分と考えられる。検出時においてすでに床面あるいはその直上であり、壁面は残っていなかったものと考えたい。そのため主体部の範囲が不明瞭であるが、近似する時期の20区70・71号住居の形状から、円形ではなく、やや偏平な主体部を想定した。その規模は、全長が6m、主体部幅が4.8mほどである。

**床面** 炉から出入り口部に向かう主軸線上にある敷石をのぞき、明確な敷石は認められない。炉の南50cmほどに1石のみ鉄平石が検出されたが、他には偏平な地山礫も出土していない。敷石は主軸線上のみに敷設されていたものと考えたい。主軸線上には炉の東辺の炉石から3石の偏平地山礫が水平に敷設され、4石目が縦位に設置されている。この4石目が主体部と出入り口部の境界であろう。敷石の高さは、炉石脇の礫が最も低く、出入り口部に向かい若干ではあるが徐々に高くなるように敷設されている。

遺物は、覆土中および床面上から多くの遺物や礫が出土した。特に磨石や石皿などの礫石器が多く認められる点に特徴がある。

**出入り口部** 先述の縦位に設置された礫から東方に撥形に開くように敷石が認められる。敷石面は、炉石および主体部主軸線上の敷石より若干高く、ほぼ水平に敷設されている。

使用された礫は、偏平な地山礫を主体とし、川原石を含む。ただし鉄平石は含まれていない。特に主体部との境界部に縦位に設置された礫に接する1石目は川原石であり、意図的に配置したように観察される。最も大きい礫は出入り口部ほぼ中央にある礫で、一辺60cmを超える大型の礫を使用している。出入り口部敷石面の規模は、長さ1.8m、最大幅1.9mである。

また、住居跡の構築時期の近い20区70・71号住居には4号列石や多くの配石が伴っているが、本住居跡では付随する列石や配石は捉えられなかった。

**炉** 4石の偏平地山礫を用いた方形石囲い炉である。炉石は強く被熱し、ブロック状に砕けている。そのため判断が難しいが、偏平な礫をほぼ垂直に立てて炉石としているようである。炉内からは土器片が出土しているが、いずれも小破片であり、炉内埋設土器は確認されなかった。炉の規模（長辺×短辺×深さ）は使用面で63×60×25である。

**方位** N-68°-E

**柱穴** 柱穴は検出されなかった。

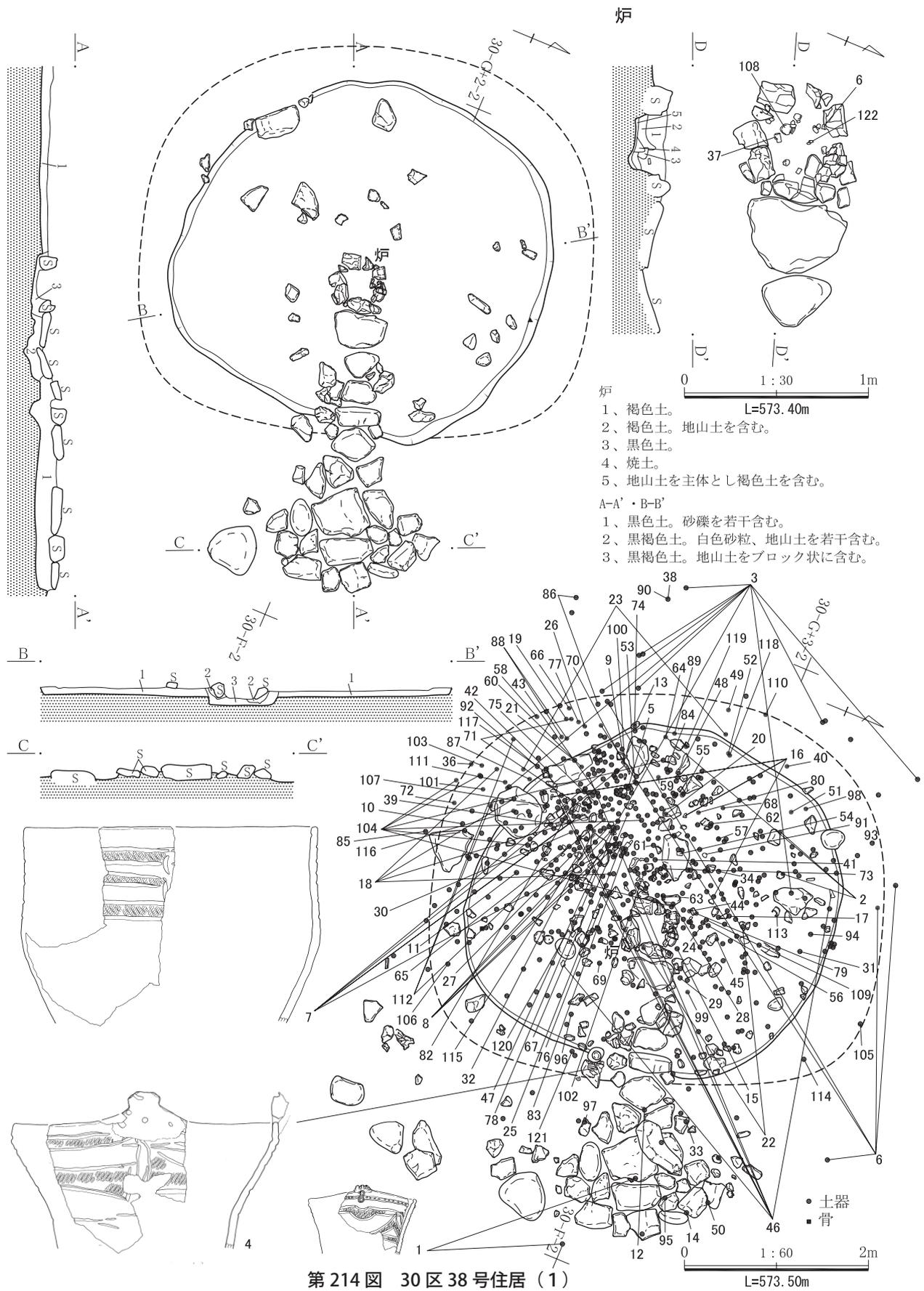
**遺物** ここでは、本住居跡出土遺物として取り上げられた遺物と、出土位置の明らかなグリッド出土扱いの遺物のなかで本住居跡の範囲に含まれる遺物を対象とした。

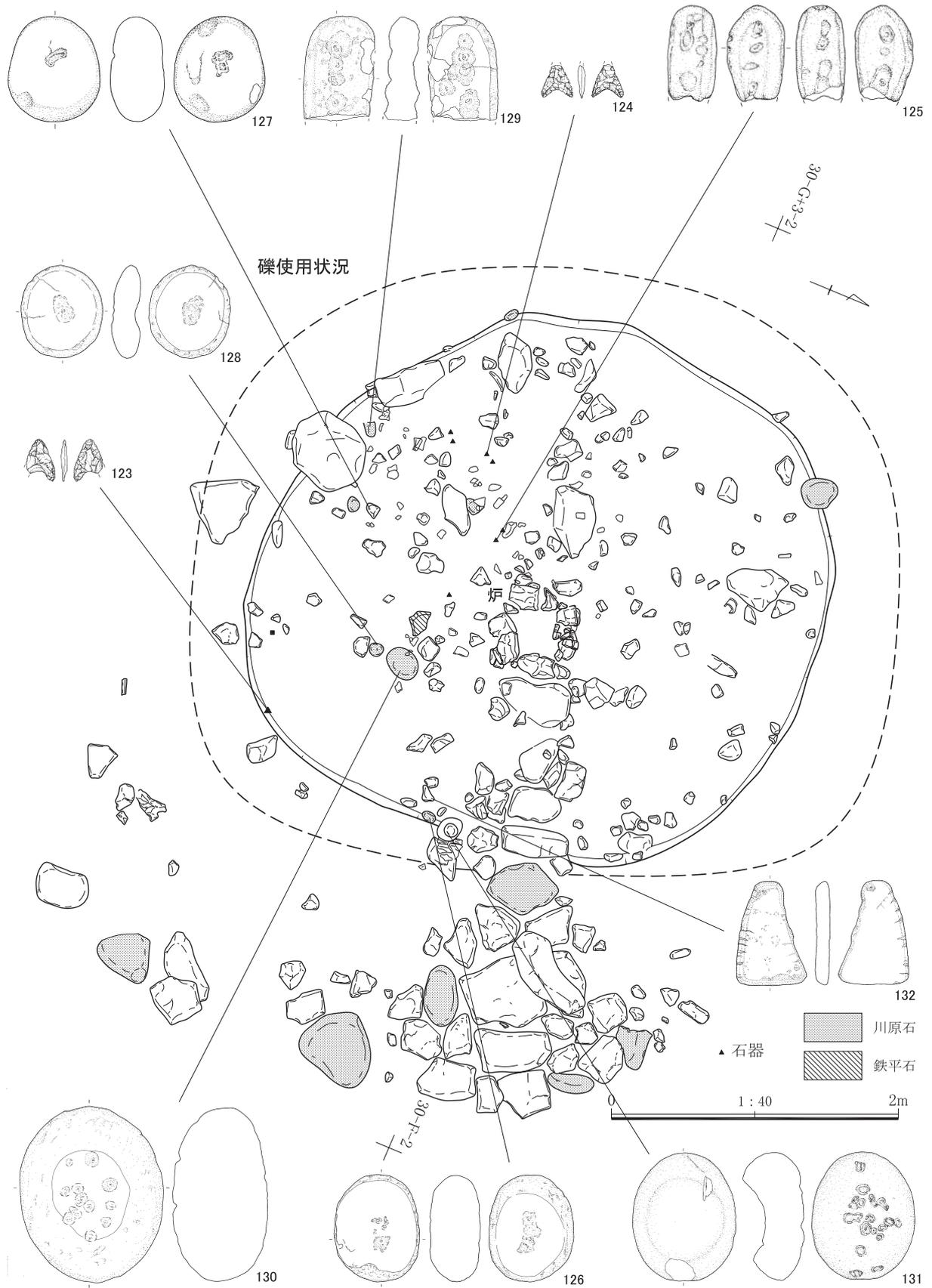
土器は総数1,813点が出土している。加曾利B2式が主体を占め、堀之内2式、加曾利B1式、高井東式も比較的多く含まれている。住居跡出土として取り上げた遺物は、1・3～11・16・17・21・22・28・29・31・34・37・39・42・43・46・54・56・61～63・70・75・76・71・83～85・91・92・100・104・107・108・112・113・115である。その他の土器はグリッド上げ遺物から抽出したものである。

土製品は、土製円盤が7点出土している。

石器は石鏃4点（黒曜石1点）、削器1点（黒曜石1点）、加工痕のある剥片5点、使用痕のある剥片2点、敲き石1点、磨石16点、石皿1点があり、他に石核3点、剥片17点（黒曜石1点）、碎片16点（黒曜石13点）が出土している。特に磨石は16点と多く、主体部の覆土中および床面上から多数が出土した。

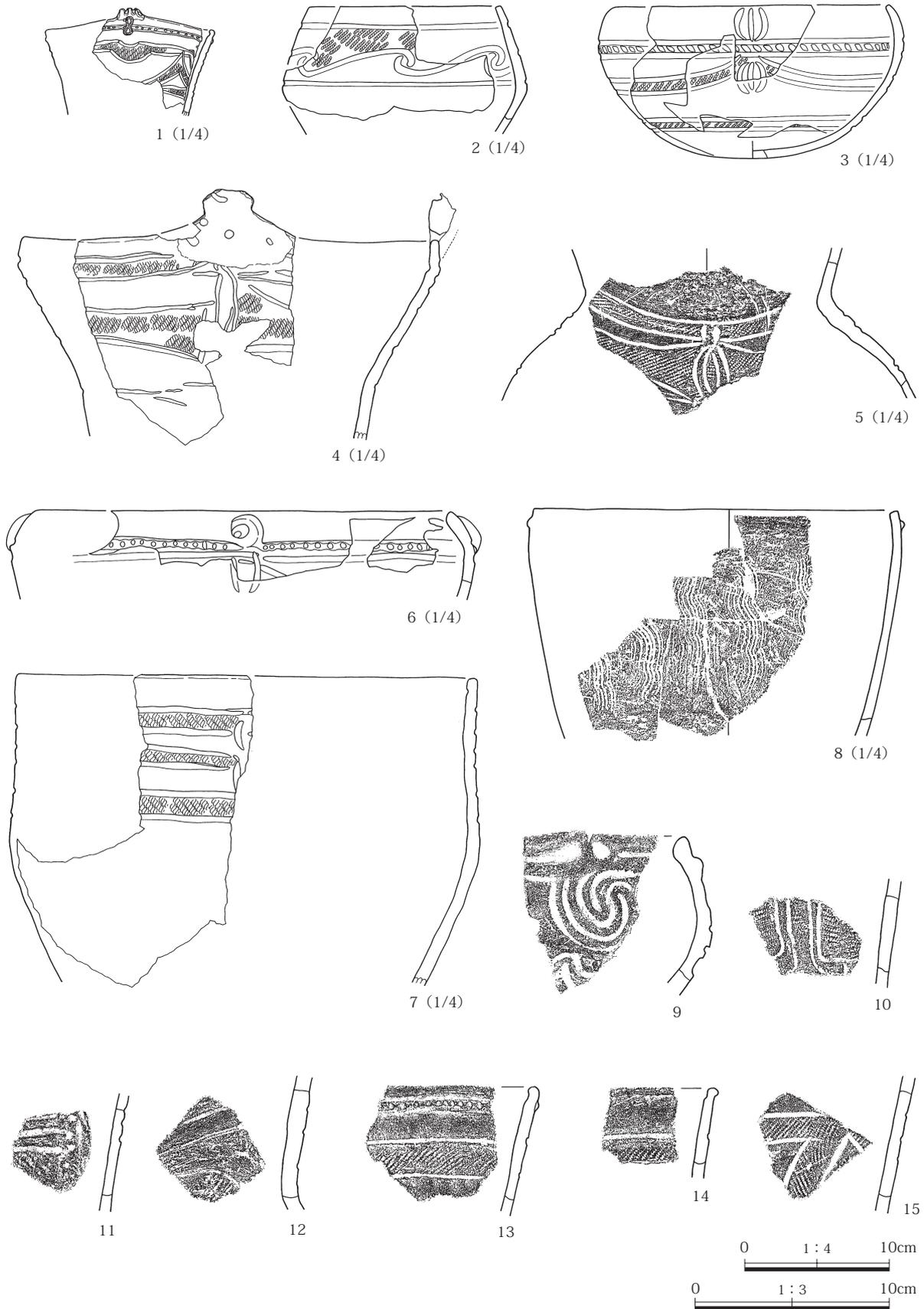
**時期** 出土土器は加曾利B1式期から加曾利B2式期を主体とし、本住居跡は当該期に比定されよう。ただし、住居形態からは、加曾利B2式期までは新しくならず、加曾利B1式期の範囲までで捉えることが、より妥当性の高いものと考えられる。



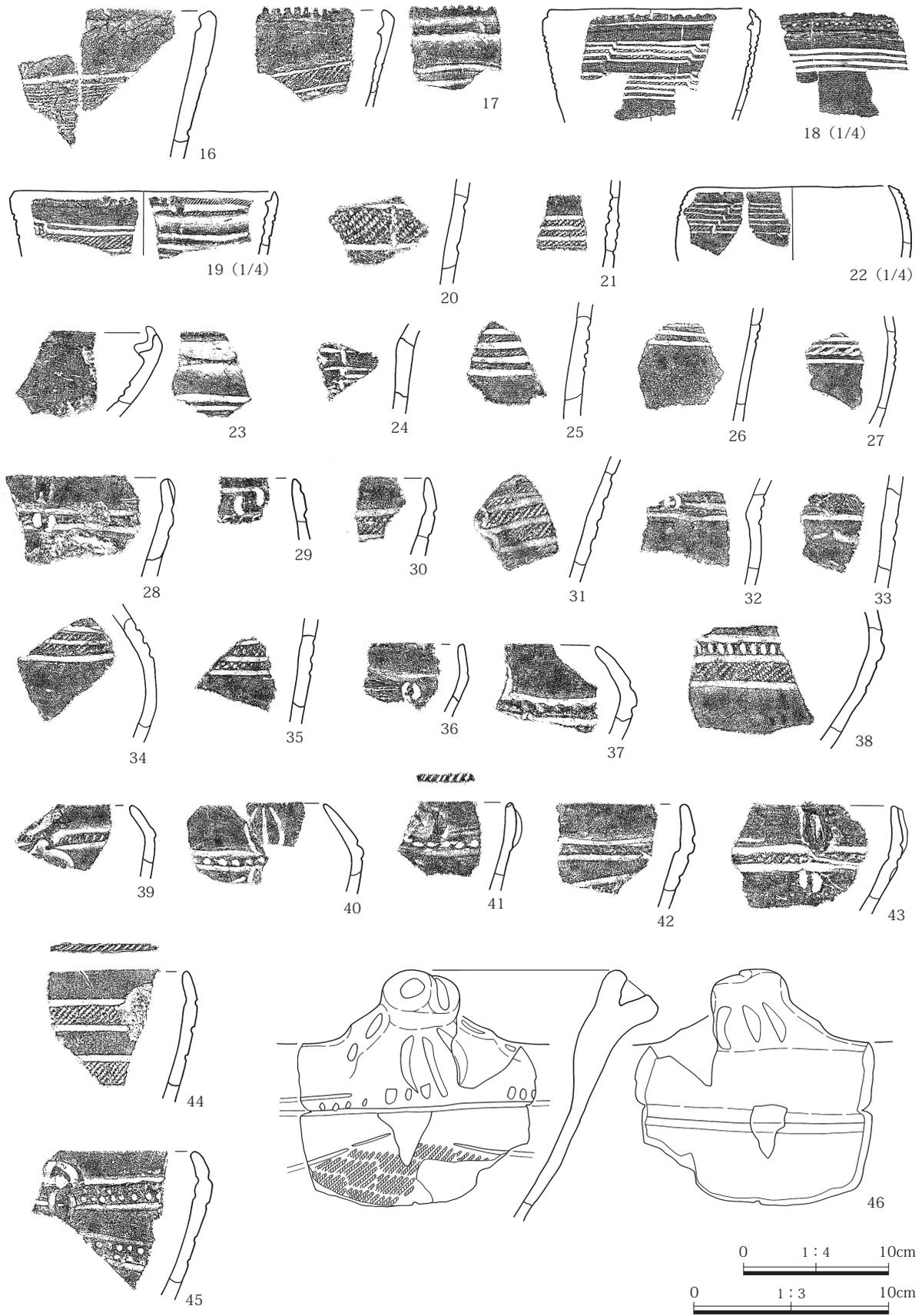


第215図 30区38号住居(2)

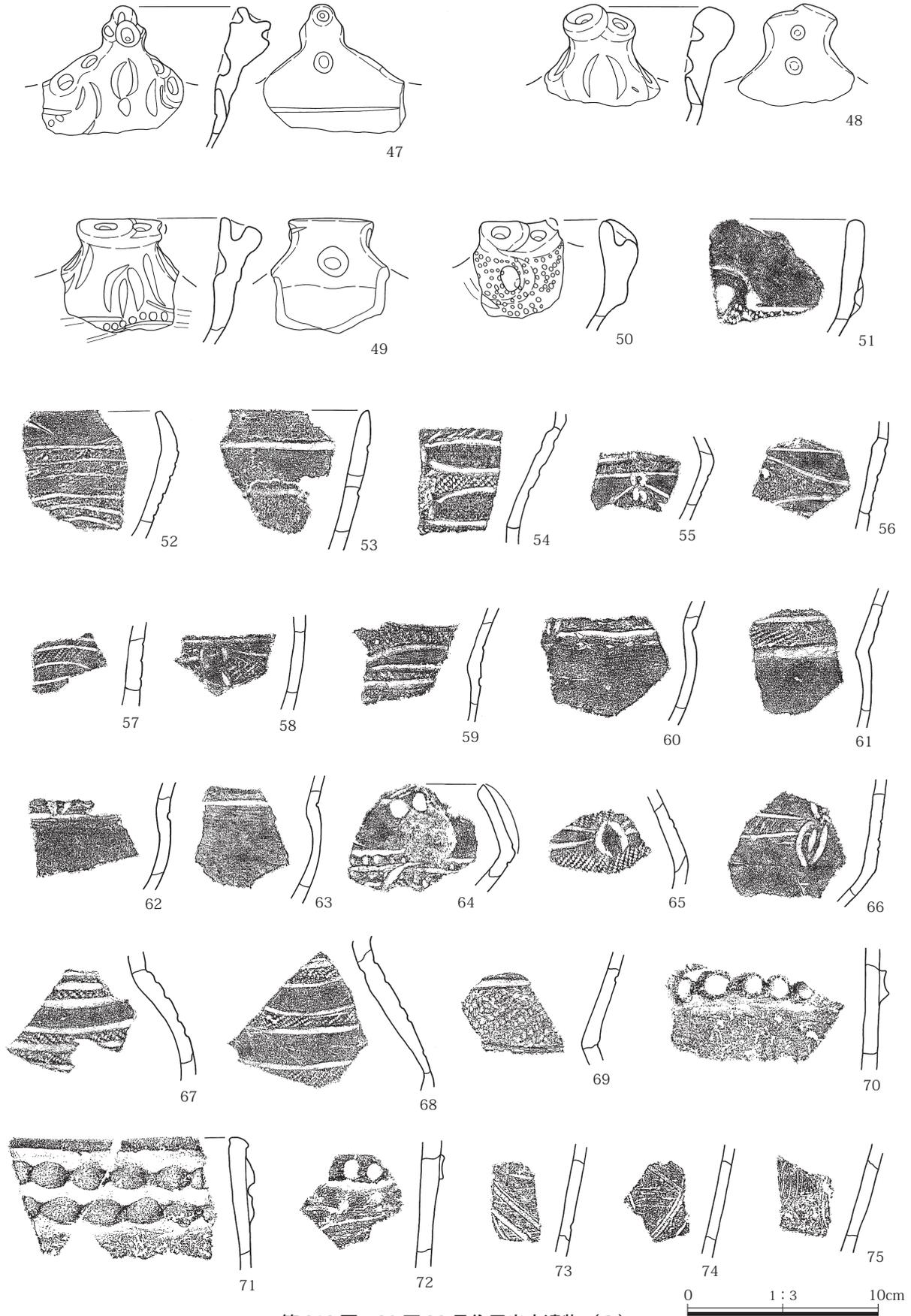
第3章 発見された遺構と遺物



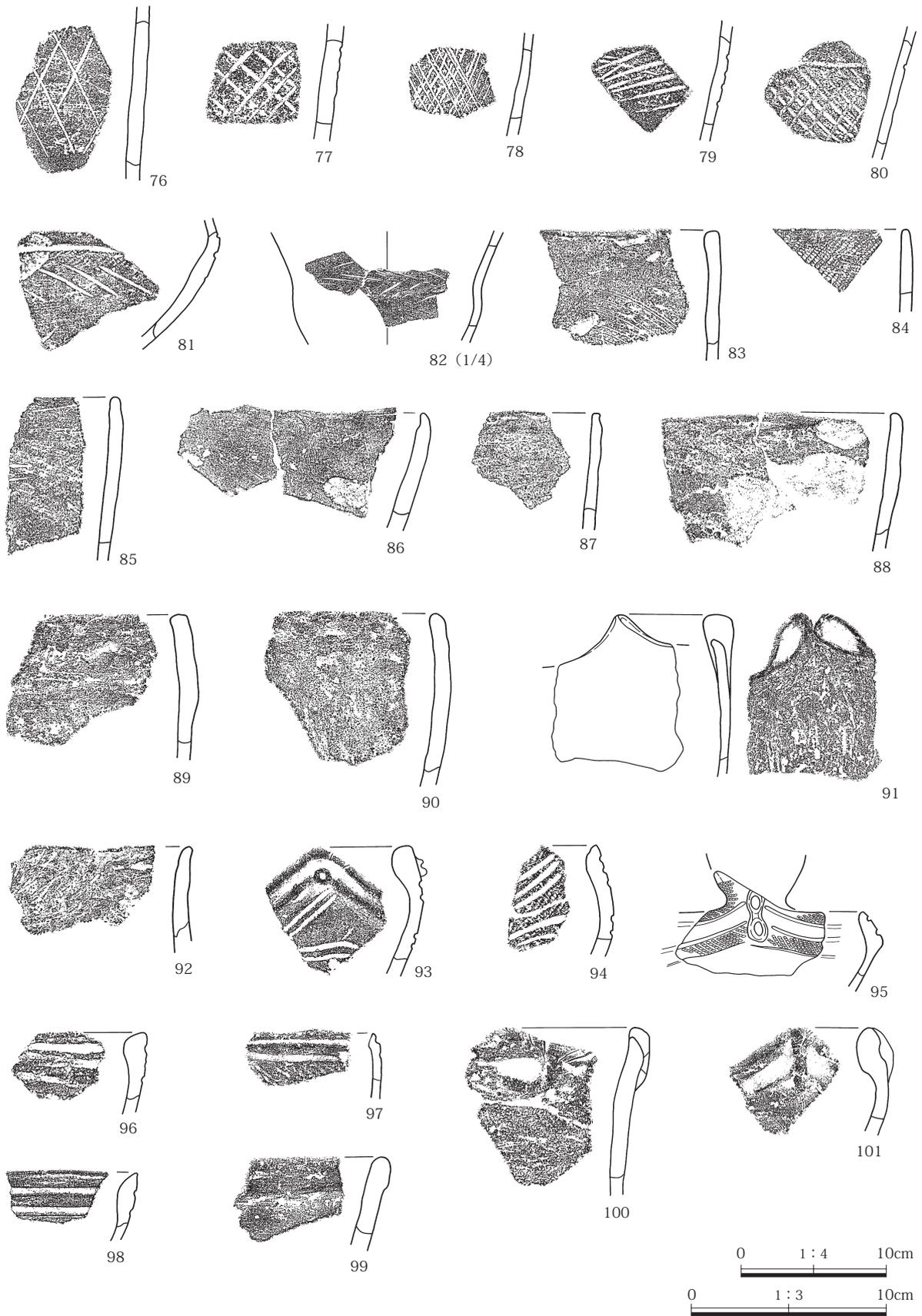
第216図 30区38号住居出土遺物(1)



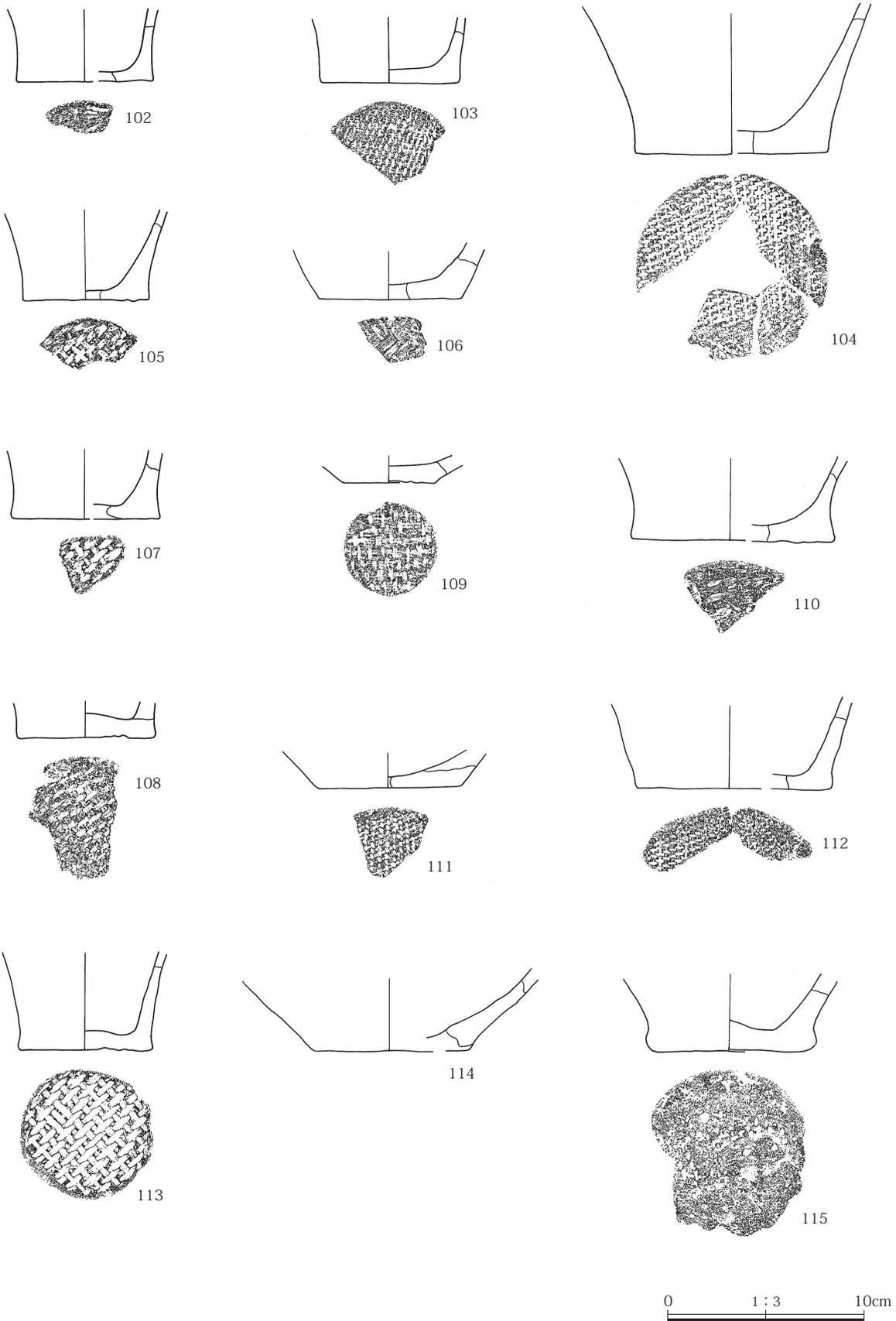
第217図 30区38号住居出土遺物(2)



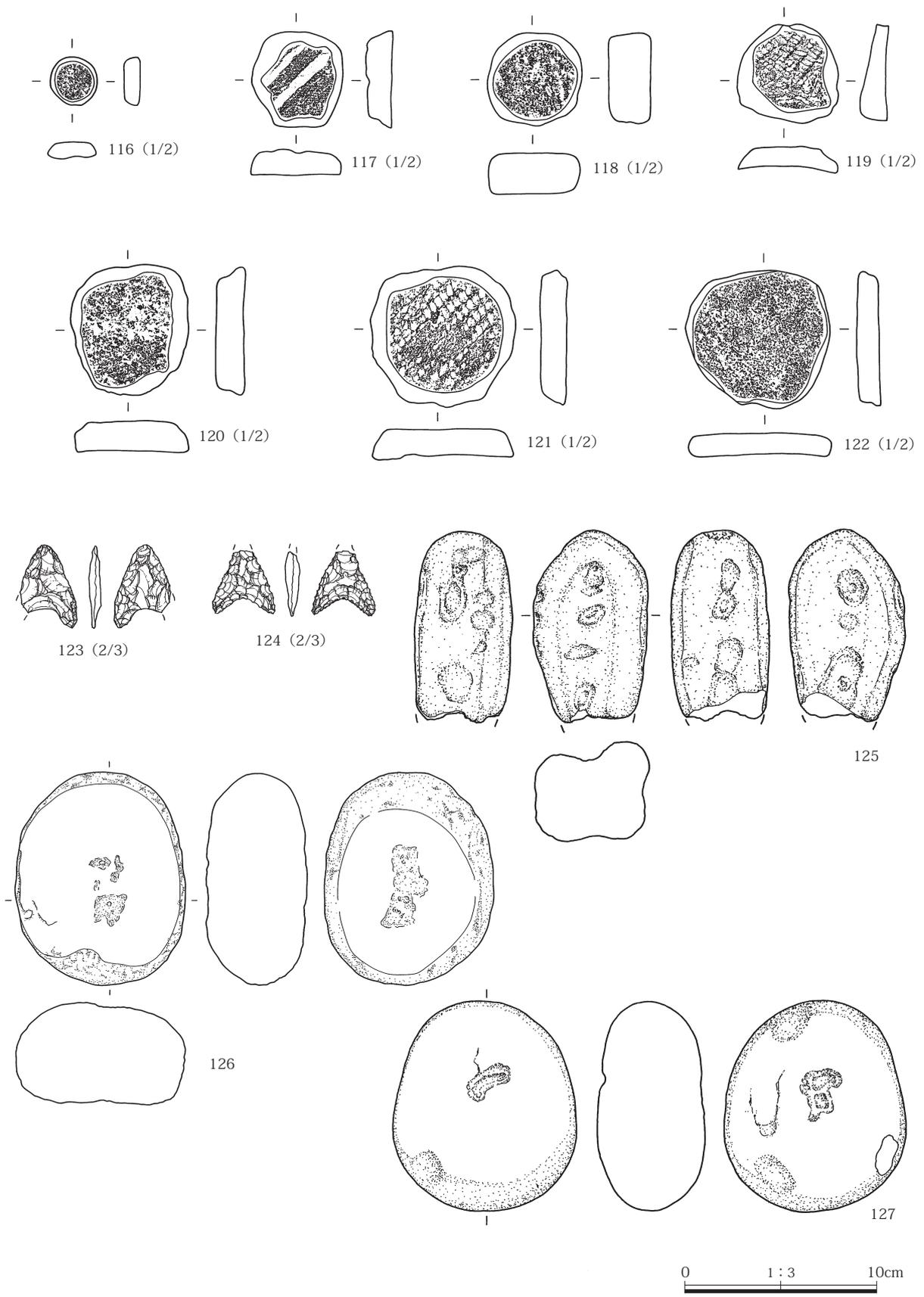
第218図 30区38号住居出土遺物(3)



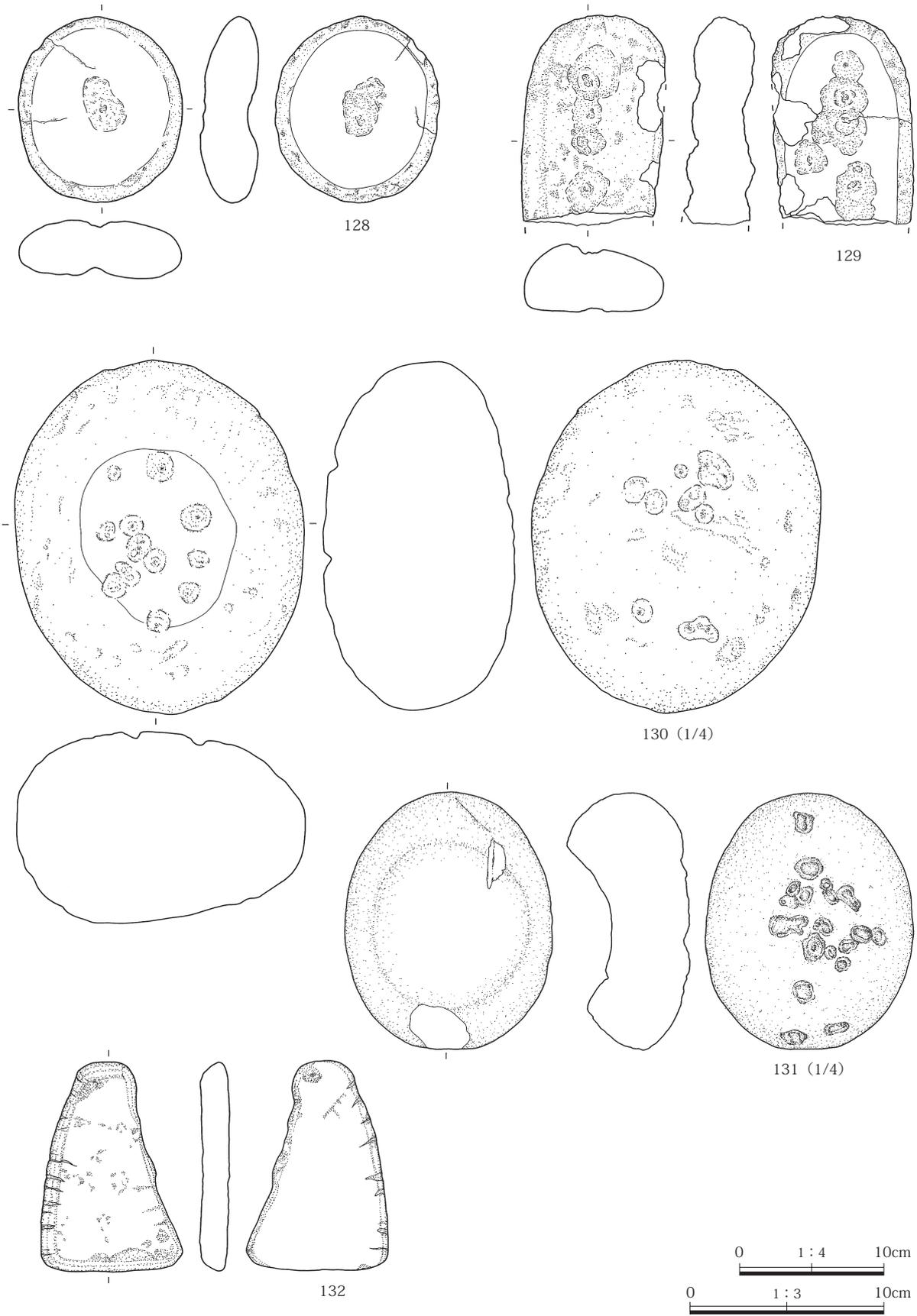
第219図 30区38号住居出土遺物(4)



第220図 30区38号住居出土遺物(5)



第221図 30区38号住居出土遺物(6)



第 222 図 30 区 38 号住居出土遺物 (7)

## 第4節 縄文時代後期の列石・配石

横壁中村遺跡では、各区から多くの列石・配石が検出されているが、その一部は明らかに縄文時代後期の住居跡に付随する状況で検出されている。遺跡中央を北に向かって流れる山根沢以東では18区5・6号列石や29区1・2号列石など、山根沢以西では20区4号列石が該当する。本報告では、山根沢以西の20区4号列石とその周辺の配石について扱う。なお、山根沢以東については『横壁中村遺跡(8)』において報告しているのでそちらを参照していただきたい。また、住居跡に付随しないその他の列石・配石については、今後、整理を行う予定である。

20区4号列石は、第3節の縄文時代の竪穴住居で先述したように、多数の住居跡と一体となった遺構と考えている。特に20区70・71号住居の出入り口部は4号列石と分離することができない検出状況であり、住居跡の出入り口部左右に弧状に列石が展開している。さらに、その弧の内側には、立石や丸石を伴う配石が点在しており、これらも住居跡や列石と一体となった遺構と考えられる。列石の時期は後述するように、およそ縄文時代後期堀之内1式期から加曾利B2式期の間と捉えられるが、長期にわたり作り直しあるいは礫の積み足しが行われたようである。また、配石同士でも重複関係にあるものがあり、数時期にわたり構築されたものと考えられる。

遺構認定では、本遺跡は地山にも多数の礫が含まれており、人為的な遺構であるのか、自然の営によるものなのか、その判断に困難が付きまとった。ただし、地山に含まれる礫は、背後の山地から供給された粗粒輝石安山岩などの垂角礫が主体であり、川原石はほとんど含まれない。そのため、礫の組み方や遺物の出土状況のみでなく、川原石や鉄平石のように意図的に遺跡外から運び込んだと考えられる礫が使用されていることも判断材料の1つとした。

以下、個別遺構ごとに報告する。なお、列石は20区4号列石の1基、配石は19区が11基、20区が2基の計13基である。

### 20区4号列石

調査年度 平成13・15年度

位置 19区V-18～20区C-20グリッド

経過 本遺構は平成13年度調査で検出したが、調査工程の都合により最終的に調査が終了したのは平成15年度である。その間、調査区の拡張や一部の調査区の先行引き渡し、あるいは別の工程調整で中断されるなど、複雑な調査経過をたどっている。

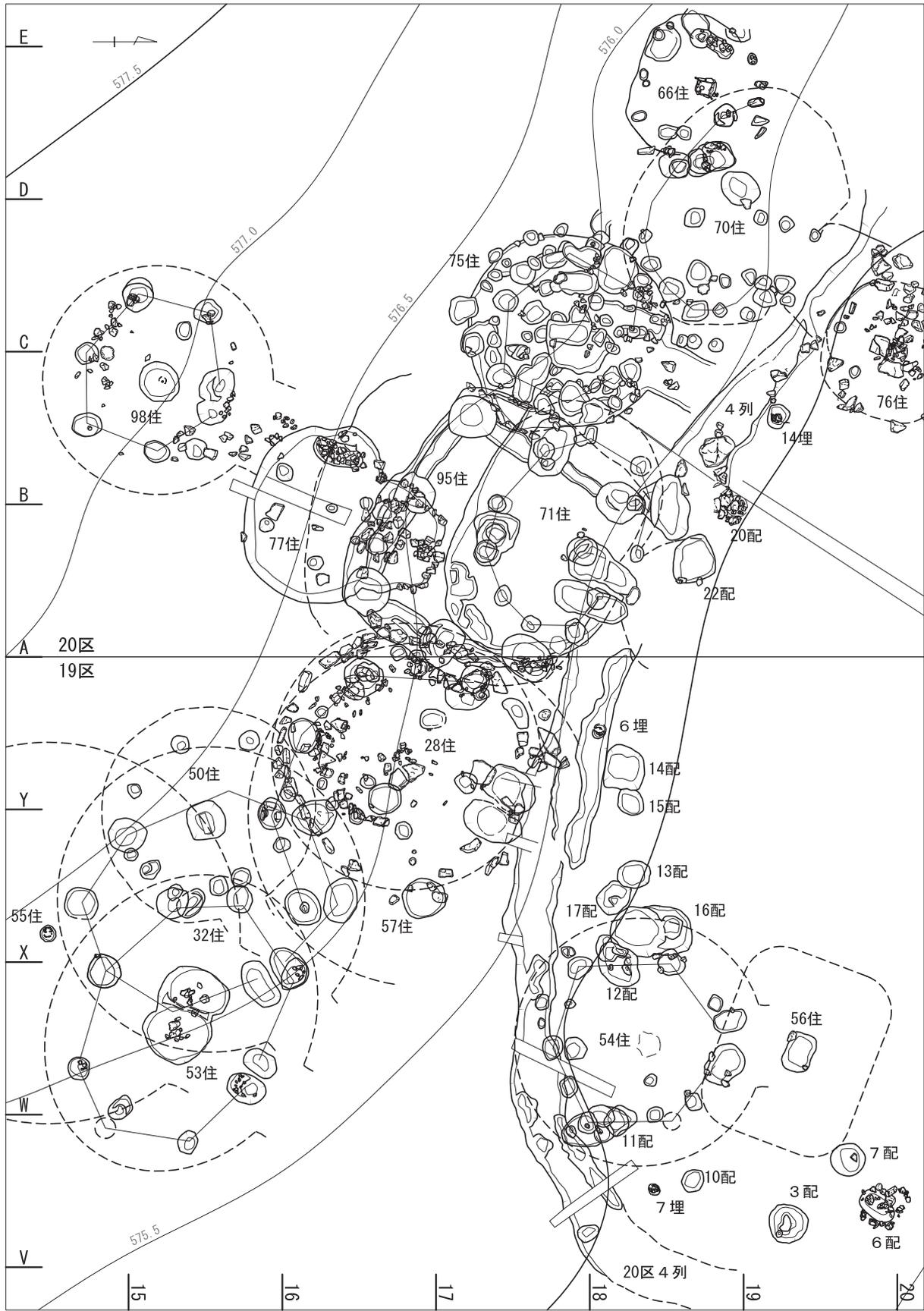
遺構名称についても同様に複雑なものとなっている。調査開始時は19区と20区の両区にまたがる遺構のため、19区部分を19区2号列石と、20区部分を20区4号列石と呼称した。その後、20区70・71号住居を間に挟みながら、両者は一体の遺構であることが判明した。そのため19区2号列石を欠番とし、20区4号列石に統一した。また、本列石周辺には多数の配石が存在するが、一度、配石として認定したが、その後に認定を取り消した配石もある。認定を取り消した配石は19区2・4号、20区18号配石である。これら認定を取り消した遺構は、20区4号列石の一部として扱い、遺物なども20区4号列石に統合した。

20区4号列石全体としてみた場合、まず平成13年度に、20区71号住居を中心に西は20区70号住居の西側にあたる20区D-20グリッド付近まで、東は19区X-17グリッド付近まで東西に弧状に展開していることが確認された。西側の20区D-20グリッド以西は、列石確認前に調査が終了した調査区であり、列石が続いていたかどうかは明らかではない。ただし20区71号住居との接続状況から考えて、さらに続いていた可能性は高いと思われる。

この年の調査では、20区B-19グリッド付近から西側が、工事側に先行して引き渡されることになり、掘り方調査まで実施された。東側はほぼ確認時のまま残され次年度調査されることとなった。

しかし、平成14年度は、山根沢以東の18・19区の調査が優先されることとなり、残りの20区4号列石の調査はさらに次年度に回されることとなった。

平成15年度は、確認されていた4号列石のさら



第223図 19・20区 列石・配石配置図

0 1:150 6m

に東に調査区が拡張され、やや北側に回り込みながら弧状に展開する列石の延長部分が確認された。ここにおいて、4号列石は19区V-19グリッドまで続いていることが明らかになった。この年の調査では、この拡張部分と先年度までに残された列石の掘り方までの調査が実施された。

各調査では、まず検出状態を記録し、その後、礫を除去することとした。しかし、多量の礫が積み重なるように出土し、すべてが構築時の状態を保っているわけではなく、後世の攪乱等により移動したのも多くあると考えられた。そのため、礫の積み重なり具合を観察しながら、移動した可能性の高いものから順次除去し、そのたびに平面図をとることとした。その回数は、平成13年度に調査した西側部分では計3回、平成15年度に調査した東側部分では計6回に達した。本報告においてはそれを再検討し、5面と捉え直し報告する。

出土遺物は、列石の範囲に限定せず、弧状に連なる列石の内側部分も含めて4号列石の遺物として取り上げた。遺物取り上げに際しては、列石の構築時期である縄文時代後期の遺物に関してはできる限り位置を記録し、中期以前については特徴的な遺物についてのみ位置を記録した。

**重複** 19区54号住居、20区75号住居と重複し、これを切る。その他、多くの住居跡および配石、土器埋設遺構と重複および併存関係にあるが、列石の構築時期が長期に及ぶと考えられるため、個別の遺構および第4章において改めて考察する。

**形状 1面目** 列石確認時の状況である。長さは住居跡の出入り口部も含め30m、幅は最も広い19区X-18グリッド付近で4.5mが確認された。

東からみていくと、19区V-19グリッド付近を起点とし、やや散漫な礫の集積状況から徐々に礫の密集度を高めながら、弧を描きつつ南西の20区71号住居の出入り口部に続く。その長さは約16mである。20区71号住居の西側は20区70号住居の出入り口部にむけて直線状に約6.5m、さらに71号住居の出入り口部をはさみ約2m続く。この西は、先述したよ

うに本列石確認以前に調査を終了しており、列石は確認されていない。ただし、地山・遺構覆土とも非常に礫の多い地区であり、列石として認識できなかった可能性もある。全体としては、20区71号住居を中心として北東方向に開く弧状を呈している。これは、住居跡と同様、地面の傾斜に沿って、その低い方にむけて開くように、構築したものと考えられる。

礫の検出状況およびその積み方は乱雑であり、規則的な積み方は観察されない。これは、攪乱などにより崩れた可能性と、最初から乱雑に積まれた可能性の両者が考えられるが、その断定はできなかった。恐らくその両者が関係しているものと思われる。

**2面目** 20区70・71号住居の出入り口部の調査が終了し、さらに列石の範囲の中で、礫が他の礫と接していないなど、明らかに二次的に移動していると判断できるものを除去した段階である。

この段階で、1つの弧状と見えていた列石は、いくつの変換点をもつことが判明し、特に19区X-18グリッド付近に大きな変換点があることが明らかとなった。この地点は、住居跡の調査では明確にはできなかったが、19区28号住居の出入り口部が存在したであろう地点であり、その関連が窺われる。

また、列石中の所々に丸石や列石が認められるようになり、一部に配石があることが判明した。礫の積み方は、まだ全体とすれば乱雑ではあるが、一部に長軸を揃えて礫が1列に並ぶ箇所や、斜位の礫が規則的に積み重ねられている箇所が認められるようになっている。特に71号住居より西側では、その傾向が強く、長軸を揃えて1列に並ぶ礫とほぼ等間隔に配置される丸石が確認できる。

**3面目** 2面目よりもう一段階、乱雑に積み重なった礫を除去した段階である。

19区を中心に立石や配石を伴う配石が検出された。配石は、一時期に構築されたものではなく、重複関係をもつものもあり、数次期にわたり構築されたものと考えられる。これらの配石の多くは、1・2面目では全く確認できないものも含まれ、4号列石の最終段階においては、列石中に完全に埋没し検

### 第3章 発見された遺構と遺物

出された。しかし、この段階での配石の配置は、弧状に展開する列石の内側に50～100cmほどの間隔をおいて構築されていることから、列石に伴って構築されたことは明らかであろう。

礫の積み方は、断面Pのように、4面目で述べる基礎となる石列に立て掛けるように連続して配置している箇所も認められる(PL.55-5・6)。

**4面目** 列石の基礎となる長軸を揃え一列に並ぶ石列のみを残した段階である。

東からみていくと、列石の起点となる19区V-19グリッド付近には、この基礎となる石列は捉えられず、後世の攪乱により、移動したものと思われる。基礎となる石列が確認されるのは、図中に①で示した19区V-18グリッド付近からである。緩い弧を描きつつ西に約10mの長さにわたり、長軸を揃えて一列に並ぶ礫を検出した。一部に隙間もあるが、若干移動した礫を調査の中で除去してしまったもので、構築時は隙間なく並べられていたものと推測される。また、断面Vにみるように長軸を立てて並べたとみられる礫もあり、基礎石列の中に一部立石を設けていた可能性がある。この列は、次の5面目の掘り方で考えると、列石の弧の最も外側にあたる石列と言うことができる。地山を100～150cmの幅で10cm程度掘り凹め、その最も外側に配置したものである。

②の石列は、この掘り方の弧に対する内側縁辺に配置されたものと考えられ、長さ5mである。掘り方だけからの観察であるが、さらに東側にも掘り方に列状に一段深い箇所が認められ、そこには同様な石列があったものと考えられる。

③の石列は、②との位置関係が微妙であるが、掘り方が異なるため別の石列と判断した。②の石列は①と対をなすように、溝状の掘り方に配置されている。それに対し、③の石列は弧に対するさらに内側に、①・②に対する掘り方より一段深く掘り凹められており、別の掘り方と判断したものである。

④の石列は、③とほぼ同じ地点から始まるが、③よりさらに内側に一段掘り下げられている。これまでの石列のなかでは、最も大きな礫を多用しており、

断面Wでは立石と考えられる礫も認められる。長さは、5.5mである。なお、71号住居の出入り口部の調査を先に実施してしまったため、この石列と住居跡出入り口部との関係は十分に把握できなかった。しかし、3面目までの調査では、列石と出入り口部は切り合っているものではなく、一体となっているものと考えられ、その場合、71号住居にはこの④の石列が対応していた可能性が高いと考える。

⑤の石列は、71号住居と70号住居の出入り口部を連結するように確認された。長さは8mである。④と同じく大型の礫を多く用いている。ただし後述する掘り方から考察すると、この石列は③と対応していた可能性が考えられる。④の石列の南に認められる段差が、⑤の石列北側に認められる段差に対応する可能性があるからである。

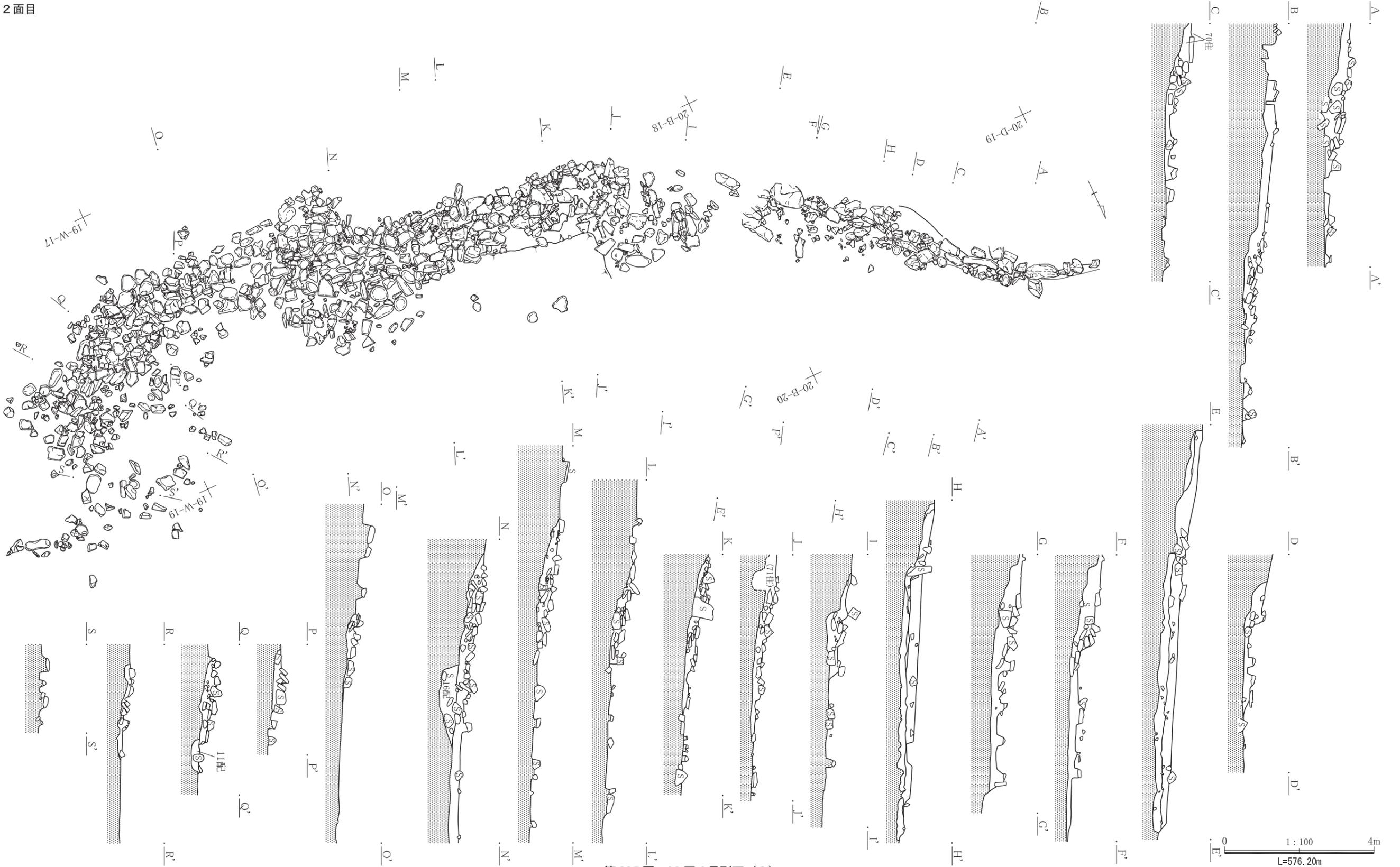
**5面目** 礫を除去した掘り方に相当する。4面目で触れたように、地山を溝状に掘り込み列石を構築している。ただし、これは4面目の石列②が認められる範囲までで、その西は列石を挟む南北が、段状あるいは階段状を呈し、60cm以上の標高差が認められる地点もある。特に4面目の石列⑤に対応する地点では、弧の外側にあたる南側と比較して10～20cmほど低い幅150cmほどの平地が造成され、さらにその北側が1段低くなっている。そのため全体として階段状を呈している。これは、列石構築に際し、平面図上で認められる以上に大規模な造成が行われた可能性を示唆していよう。本列石のある19・20区では、全体として山側の南南東から北北東方向に低くなるように傾斜している。しかし、本列石周辺では多少異なっている。列石以南は先の方向にならって傾斜しているが、列石以北、つまり弧の内側にあたる部分においてはその傾斜が緩くなっている。つまり、弧の内側を削り取って意識的に段差を作出し、そこに列石を構築した可能性が考えられる。土層観察でも、弧の外側では多様な堆積土層が観察できるのに対し、弧の内側は10cmほどで基盤となる黄褐色砂礫層になることからそのことが窺われる。

**下部遺構** 掘り方調査の後に、19区6・7号土器埋

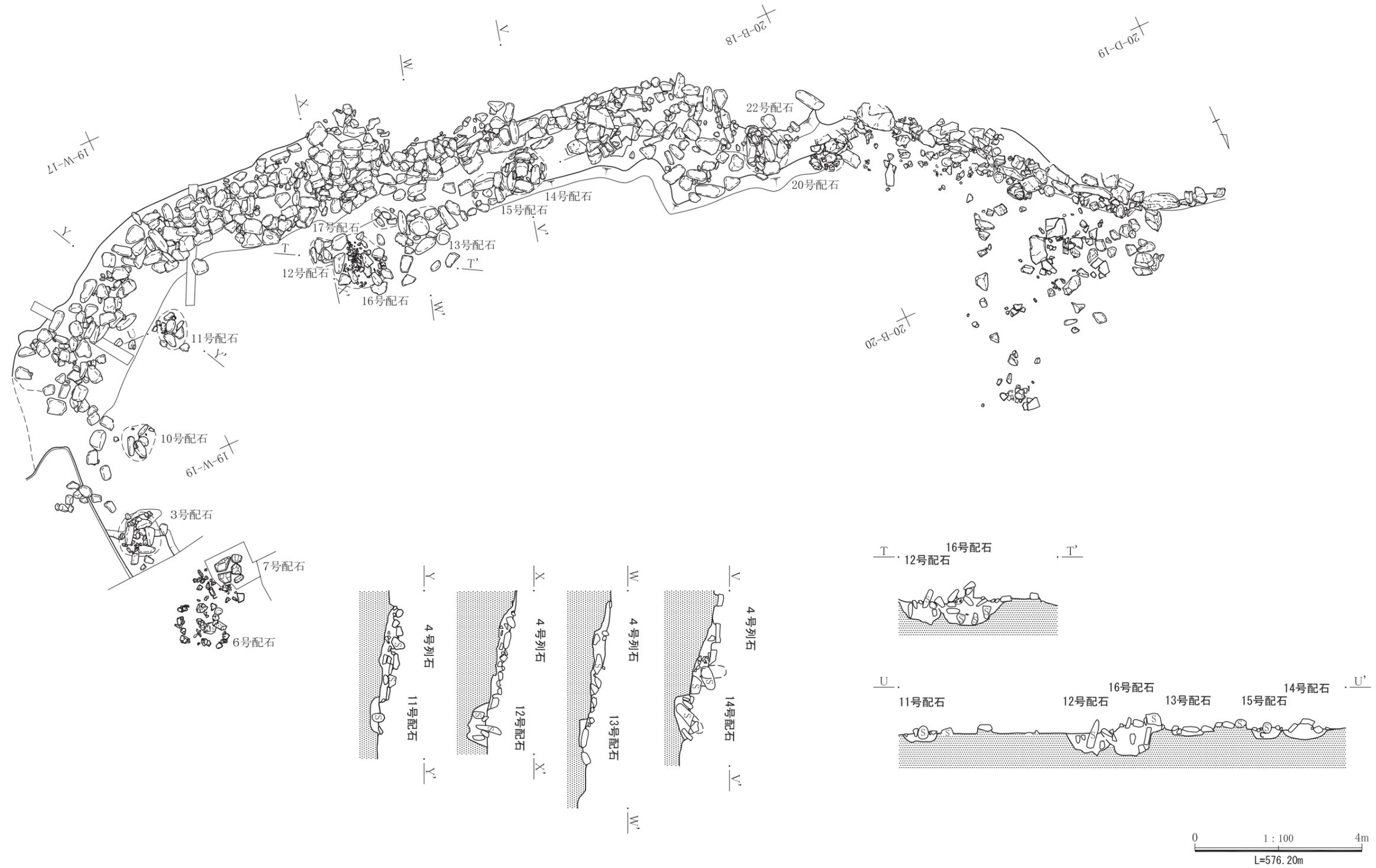
1 面目



第224图 20区4号列石(1)

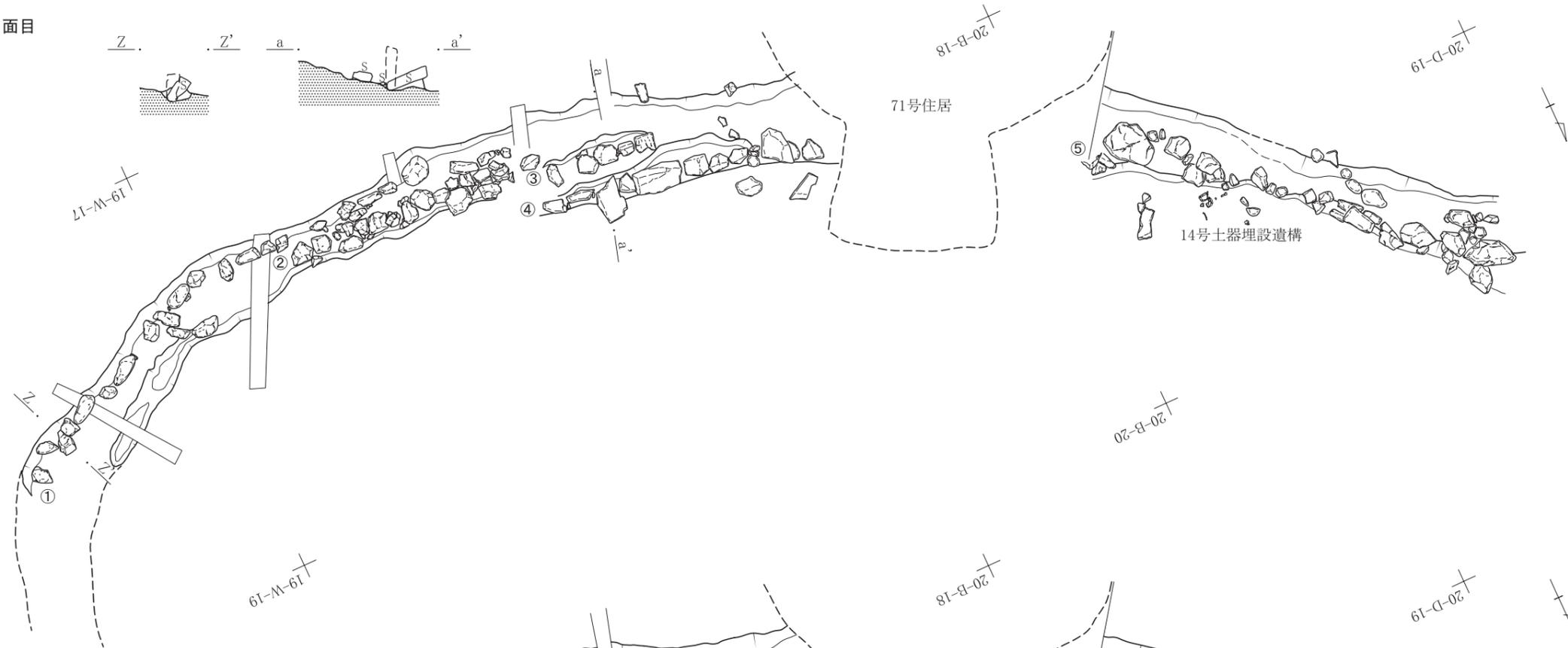
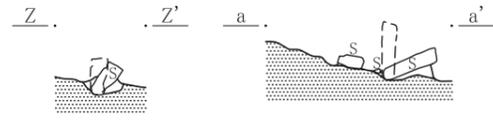


第 225 图 20 区 4 号列石 (2)

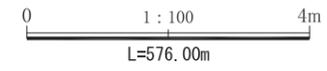
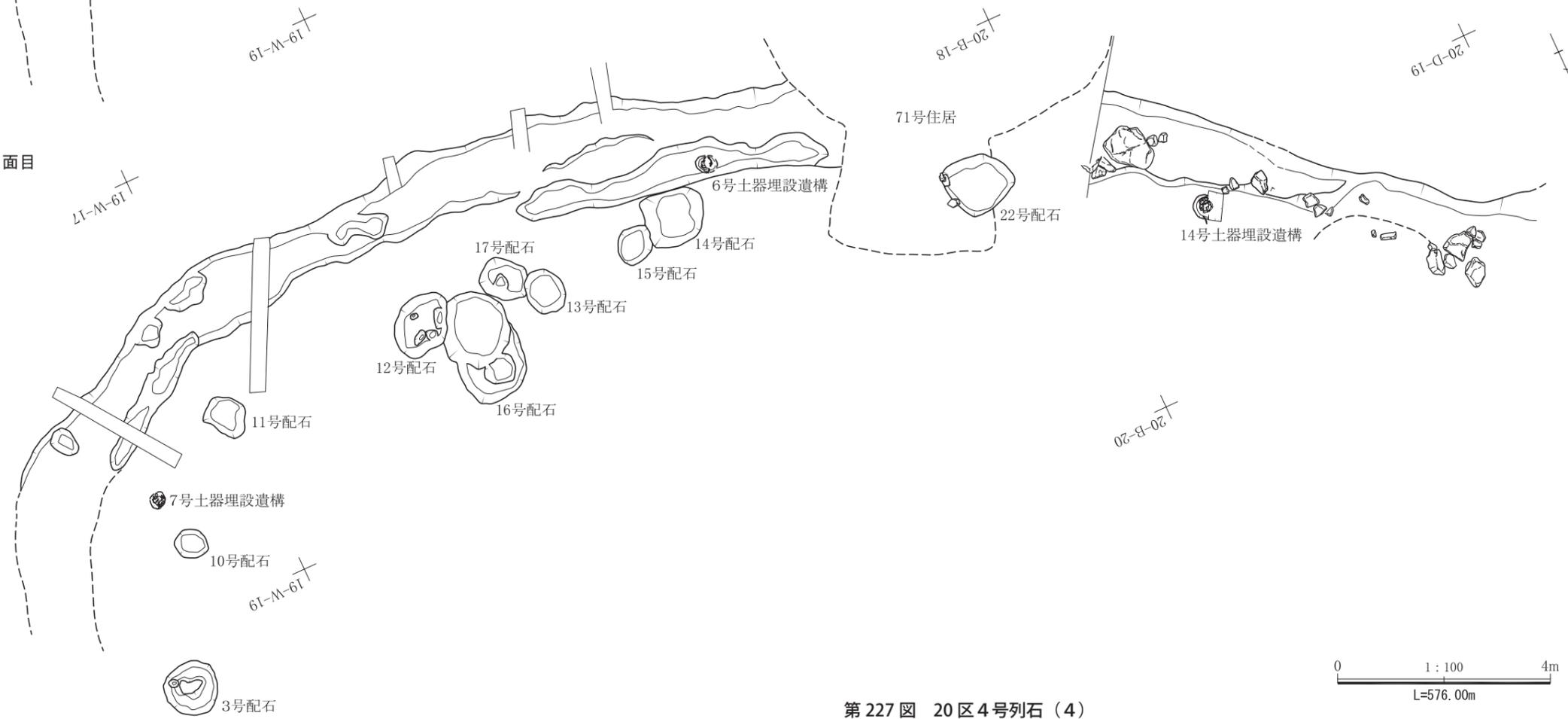


第 226 图 20 区 4 号列石 (3)

4 面目



5 面目



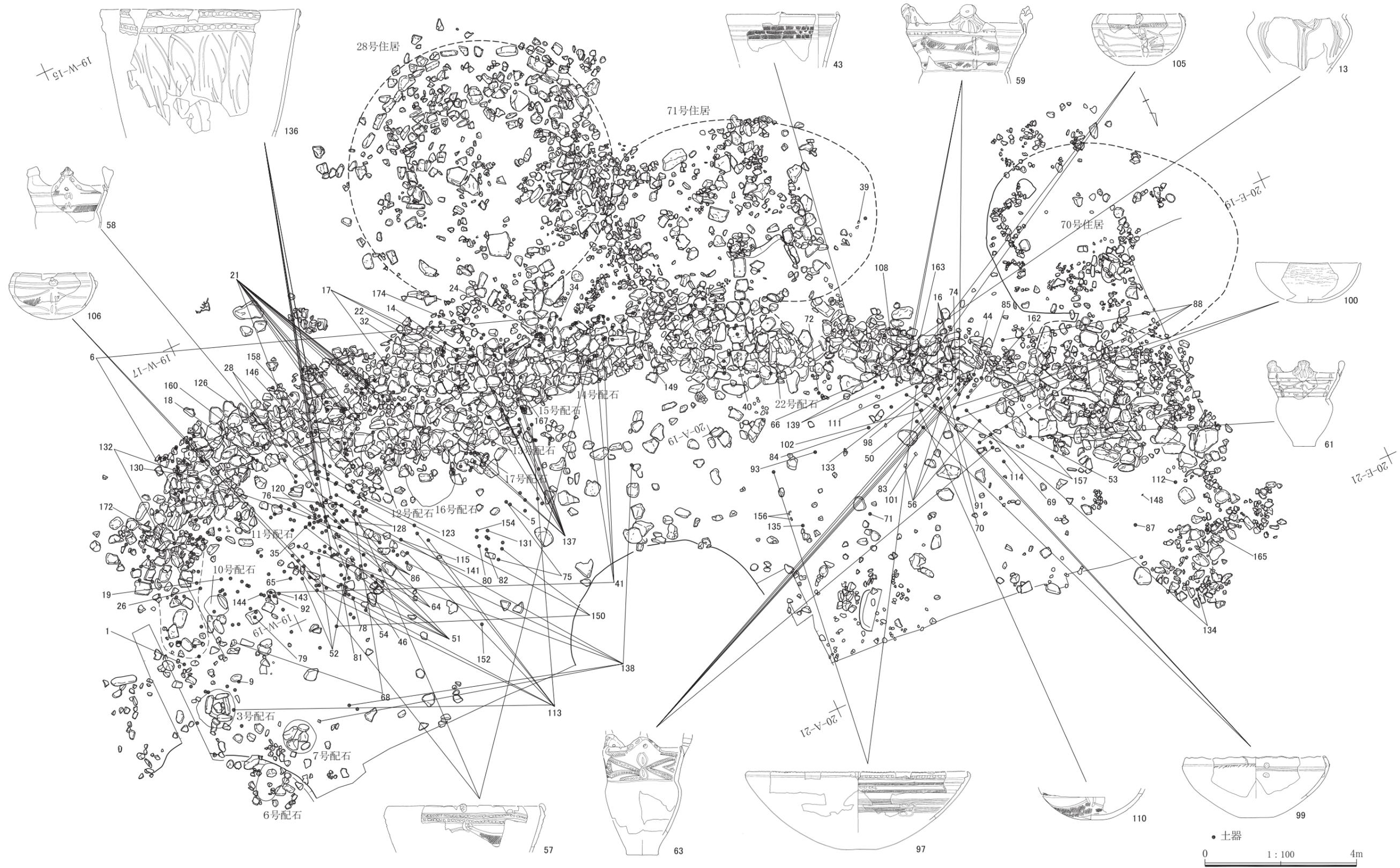
第 227 图 20 区 4 号列石 (4)

礫使用状況



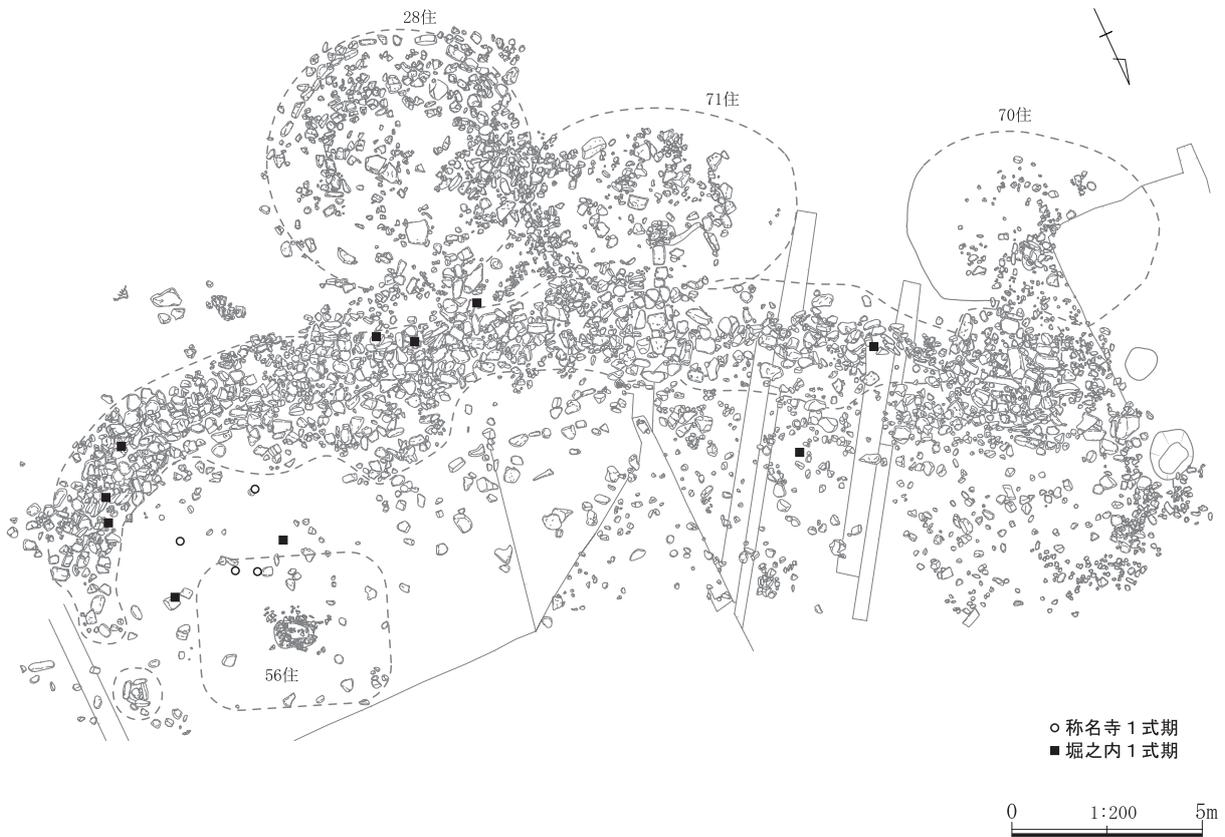
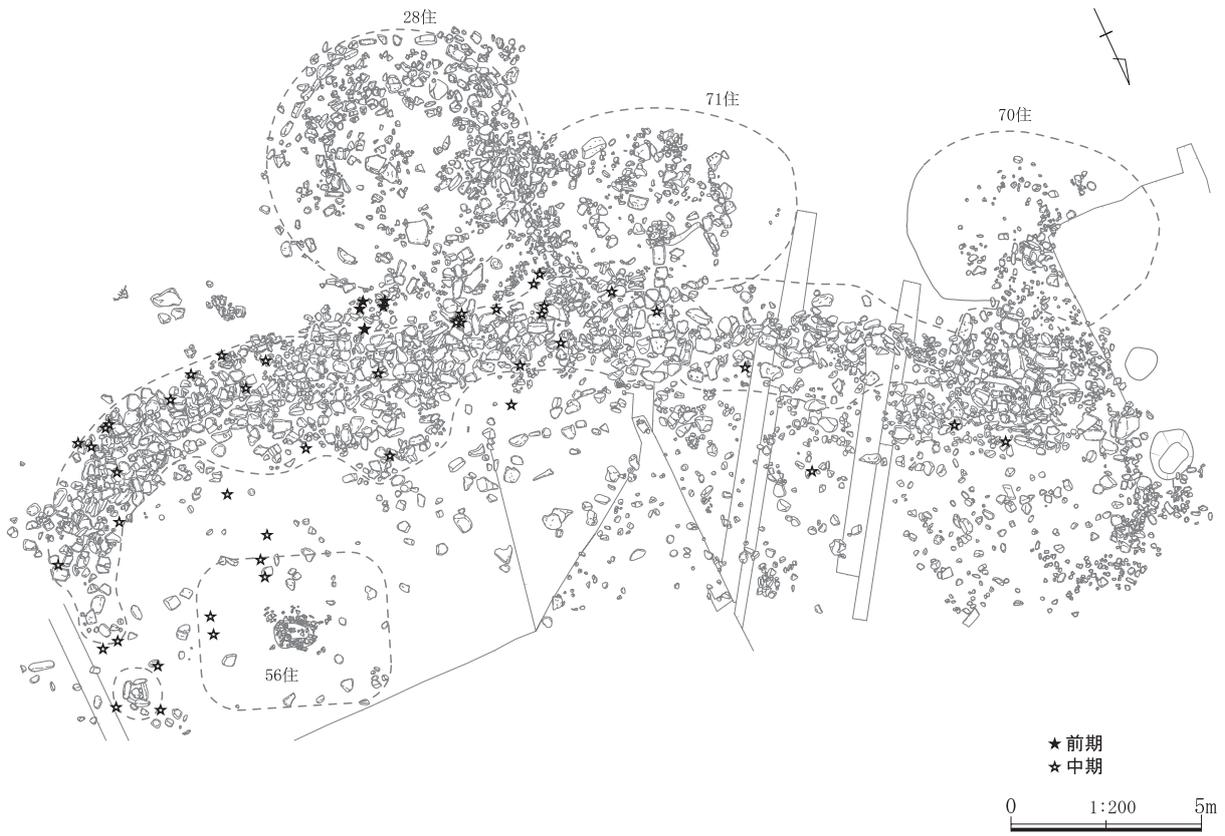
第 228 図 20 区 4 号列石 (5)

0 1 : 100 4m



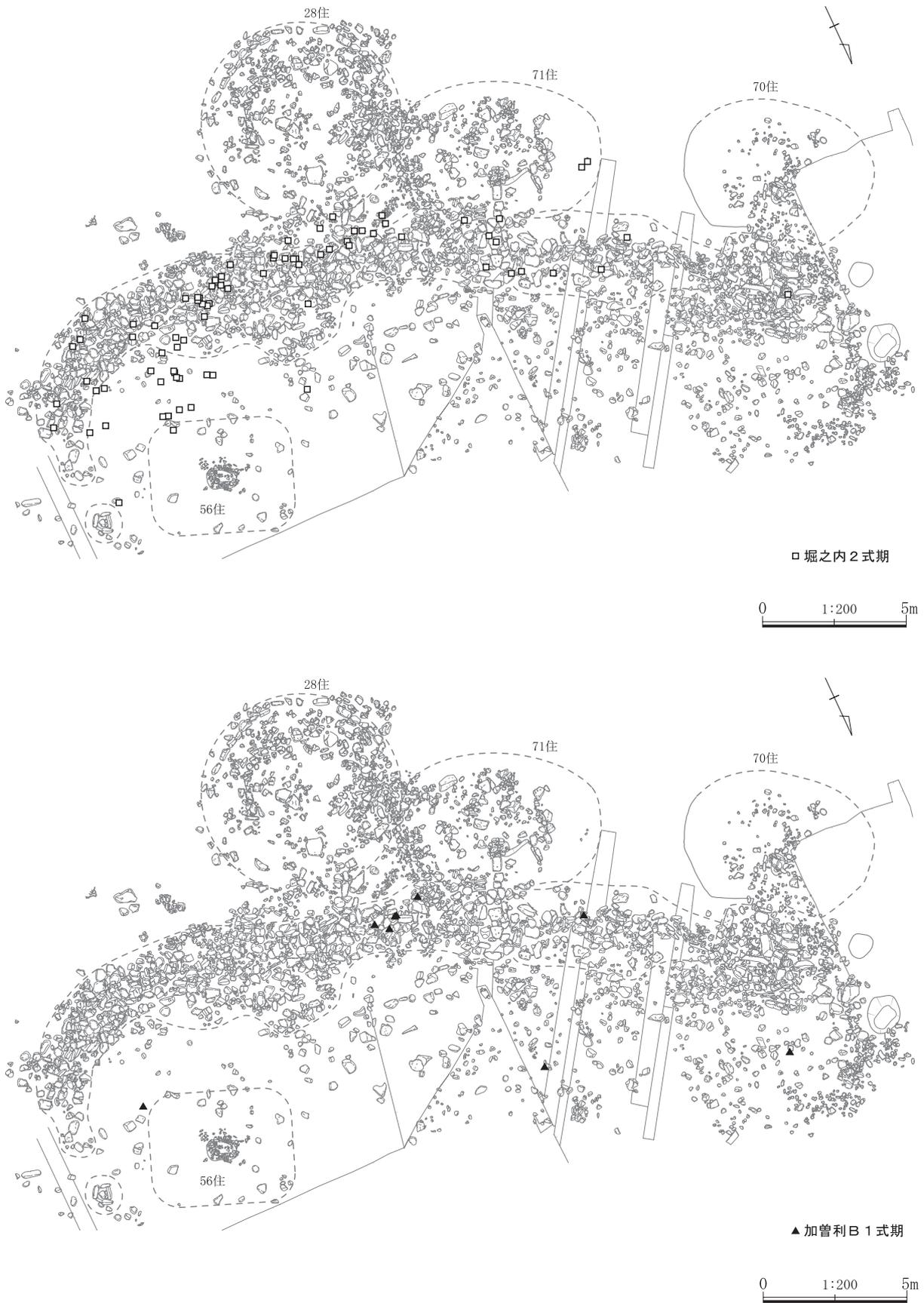
第229图 20区4号列石(6)

第4節 縄文時代後期の列石・配石



第230図 20区4号列石出土土器時期別分布図(1)

第3章 発見された遺構と遺物



第231図 20区4号列石出土土器時期別分布図(2)

第4節 縄文時代後期の列石・配石



第232図 20区4号列石出土土器時期別分布図(3)

### 第3章 発見された遺構と遺物

設遺構および20区14号土器埋設遺構が検出されている。本列石構築時期の手かかりとなるものであるため、遺構図・遺物図を第233図に再録する。詳細は『横壁中村遺跡(7)』で報告しているため参照していただきたい。なお、各土器埋設遺構の帰属時期は、19区6・7号土器埋設遺構が堀之内2式期、20区14号土器埋設遺構が堀之内1式期である。

**石材等** 石材については第228図に示した。また、石材ともに丸石、立石およびその可能性のあるものについても図示してある。列石を構築する礫の主体は、地山に含まれるものと同様な粗粒輝石安山岩の垂角礫である。特に扁平な礫を意識的に選択しているようであり、その割合が高い。

川原石は構成礫中の2～3割程度とみられ、花崗閃緑岩や安山岩、溶結凝灰岩などが含まれる。特に花崗閃緑岩の割合が高く、川原石全体の約半数を占める。また、円磨度の高いものを好んで持ち込んでいるようである。敷石住居跡に多用される鉄平石は、本列石中にはほとんど認められない。鉄平石の使用目的は限定されていたものと捉えられよう。

#### 方位

**遺物** 遺構規模が大規模なため大量の遺物が出土している。土器は総数3,824点が出土しているが、破片が多く、完形になる遺物は少量である。遺物の取り上げに際しては、後期の遺物は極力その位置の記録に努めたが、その他の時期については、一括で取り上げたものが多い。第230～232図にその分布を掲載したが、位置を記録して取り上げた556点を図示したものであり、一括取り上げの遺物が反映されていない。そのため偏りのある可能性はあるが、およその時期ごとの出土傾向は把握できるものと思われる。なお後期については、細別時期ごとに図にしたため、粗製土器のように後期の破片であるが、その細別時期が不明なものは、第229図には含めてあるが第230～232図からは除外してある。

第230図は、前期(5点)・中期(45点)と称名寺1式(4点)・堀之内1式(10点)の土器分布を示している。称名寺式期の遺物は全体でも5点だけの出土で

あり、この時期の遺物は非常に希薄である。次の堀之内1式段階になると列石本体と絡む遺物が認められるようになる。

第231図は堀之内2式期(83点)と加曾利B1式期(9点)の分布である。堀之内2式期は列石上の広い範囲にわたり分布が確認され、加曾利B1式期は71号住居の周囲にまとまりが見られる。

第232図は、加曾利B2式期(137点)と加曾利B3式期(4点)・高井東式期(1点)である。加曾利B2式期では、列石東側の弧の内部と列石上の西部と2地点に集中が認められる。

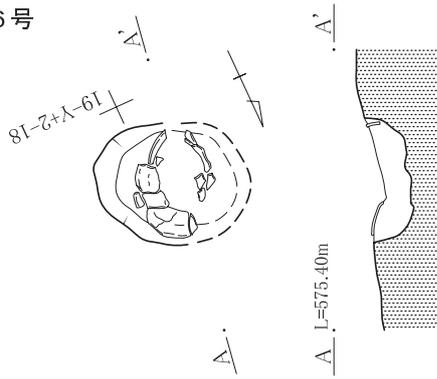
石器は、列石という遺構の特性上、非常に多くの遺物が出土した。特に磨石や台石、多孔石が多く認められる。また、石棒や石冠、軽石製品などいわゆる第2の道具の出土点数も多い。器種別では石鏃14点(黒曜石8点)、石鏃未製品2点(黒曜石2点)、削器2点、加工痕のある剥片18点(黒曜石9点)、使用痕のある剥片5点(黒曜石2点)、打製石斧21点、磨製石斧5点、敲き石1点、磨石34点、凹石7点、石皿6点、台石22点、砥石1点、石棒11点、多孔石30点、石冠1点、軽石製品5点があり、他に石核11点(黒曜石2点)、剥片243点(黒曜石93点)、碎片108点(黒曜石108点)、チャート原石1点が出土している。出土傾向は把握しづらいが、位置を記録したものを付図5に示した。

**時期** 出土遺物は長期にわたる土器が多数出土しているが、主体は堀之内1式期から加曾利B2式期である。本列石も当該期に比定されよう。

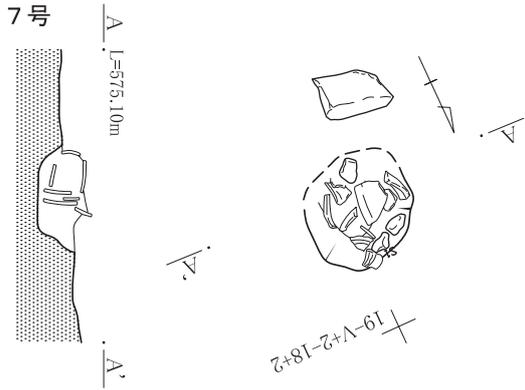
なお、4面目で記述した基礎となる石列から考察した場合、石列①・②による列石、石列③による列石、石列④による列石と少なくとも3時期があるものと考えたい。石列⑤は③と対応するものと考えられるが、④の可能性も否定できない。また、本列石の最終段階は石列を伴わず乱雑に礫を積み重ねたものである可能性があり、これを加えると4時期以上に細分されるものと考えられる。

なお、住居跡など他の遺構との関係は第4章において考察する。

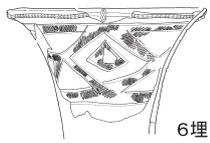
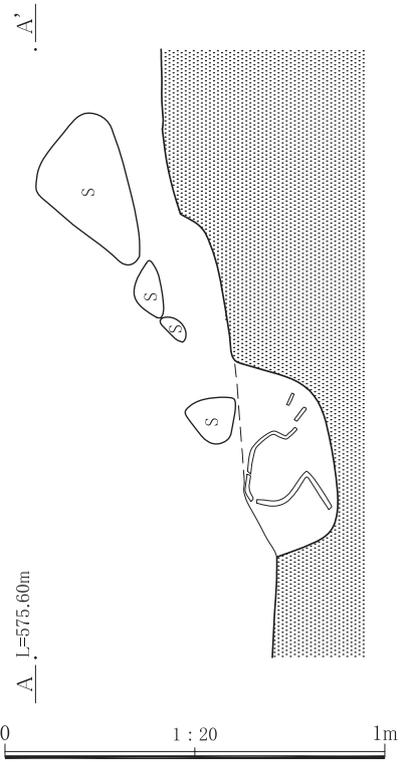
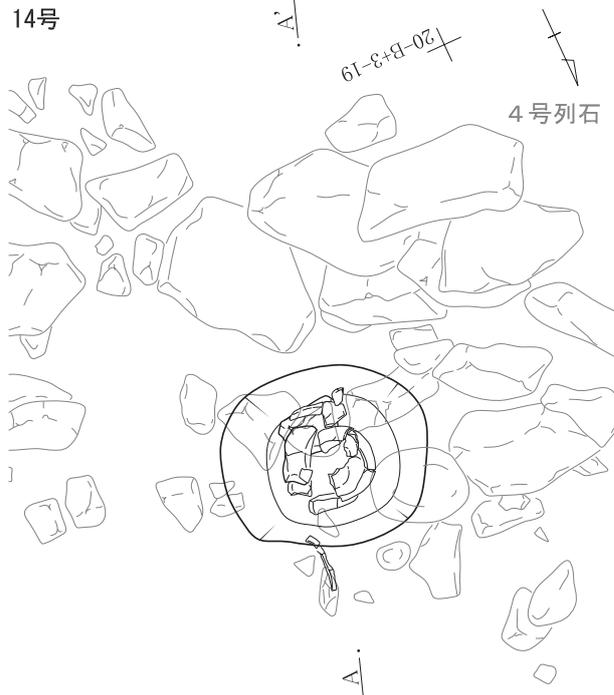
6号



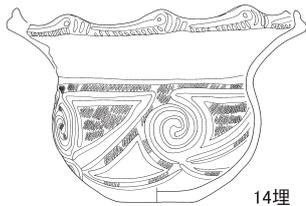
7号



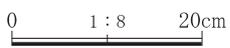
14号



6埋

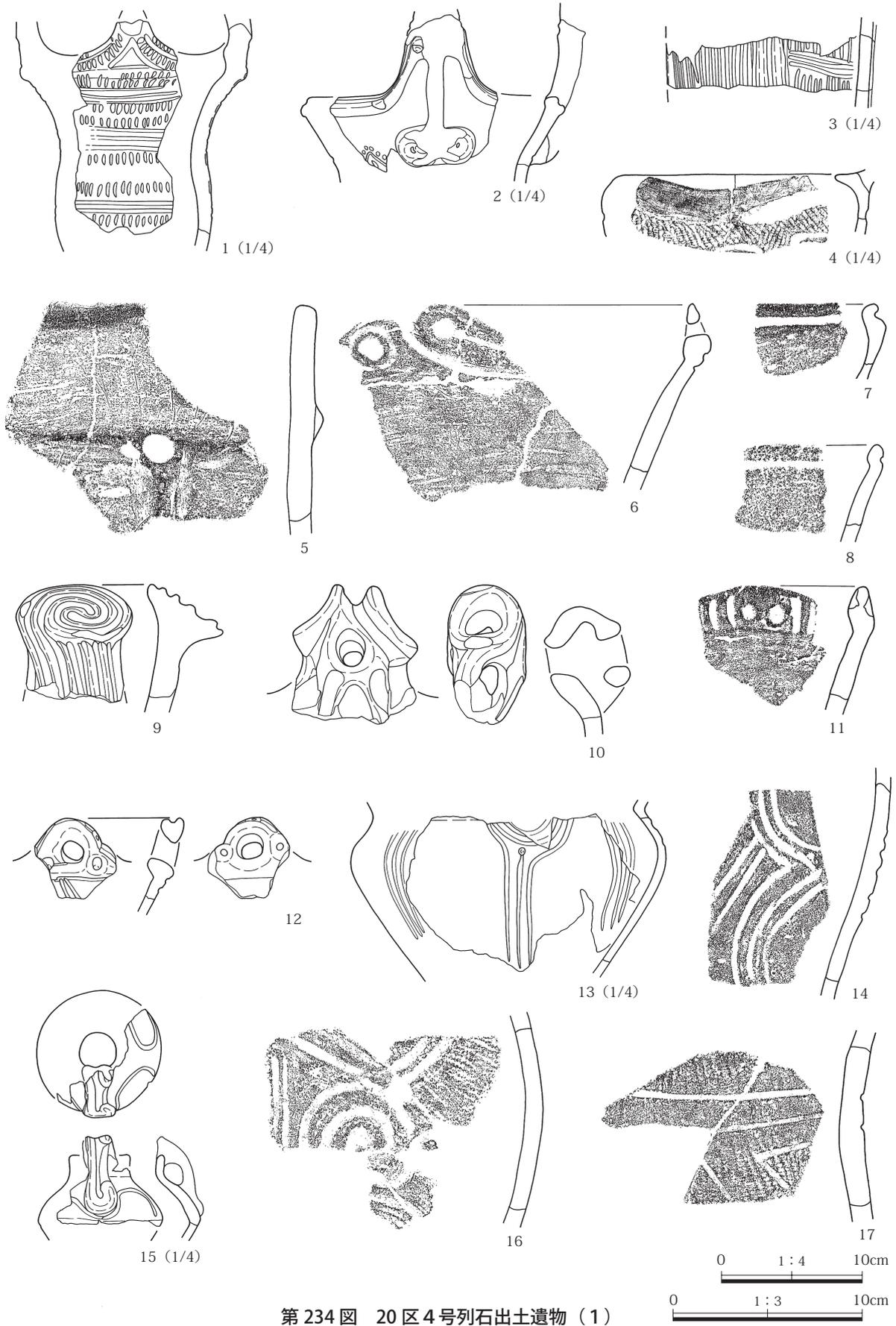


14埋

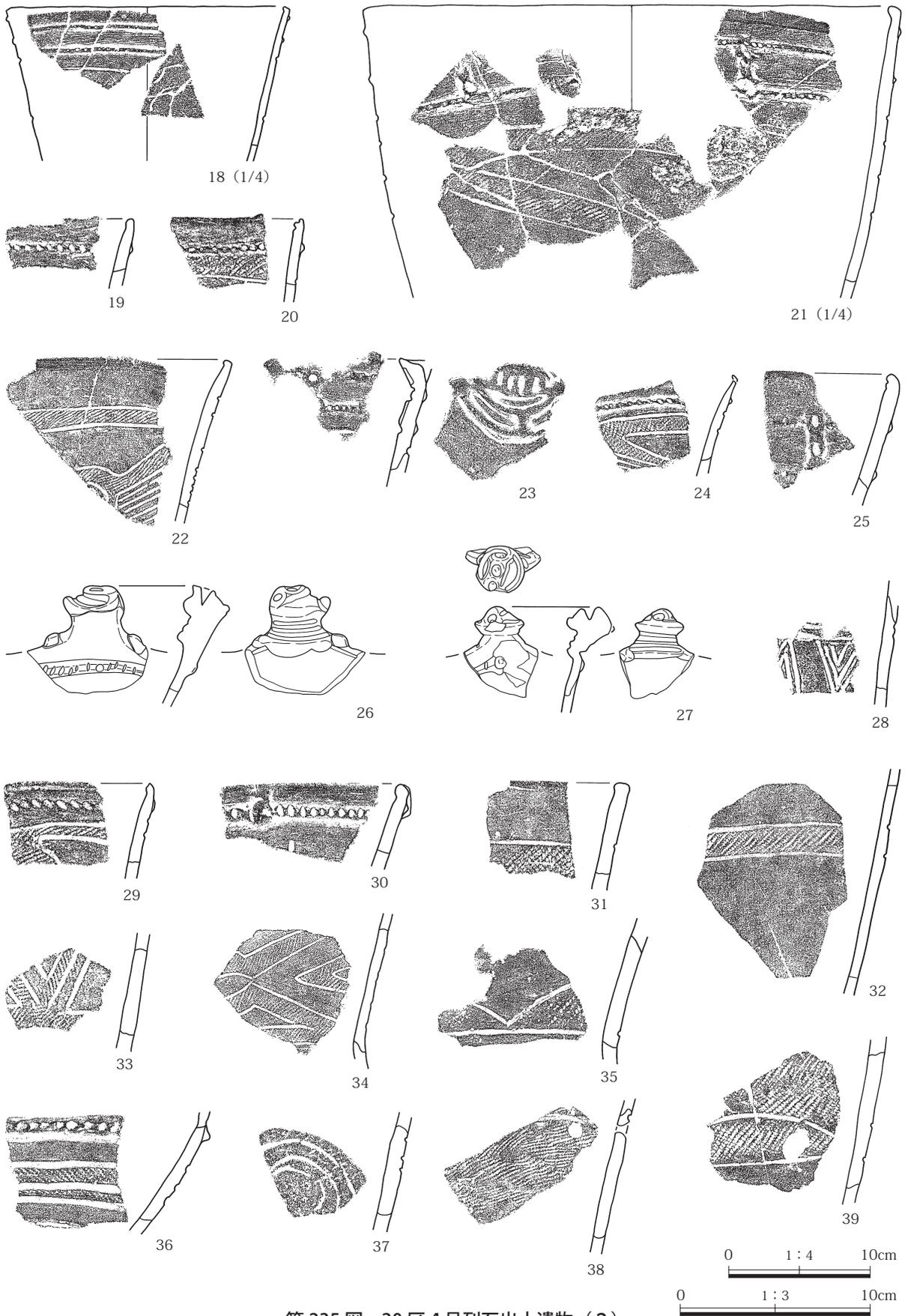


7埋

第233図 19区6・7号、20区14号土器埋設遺構

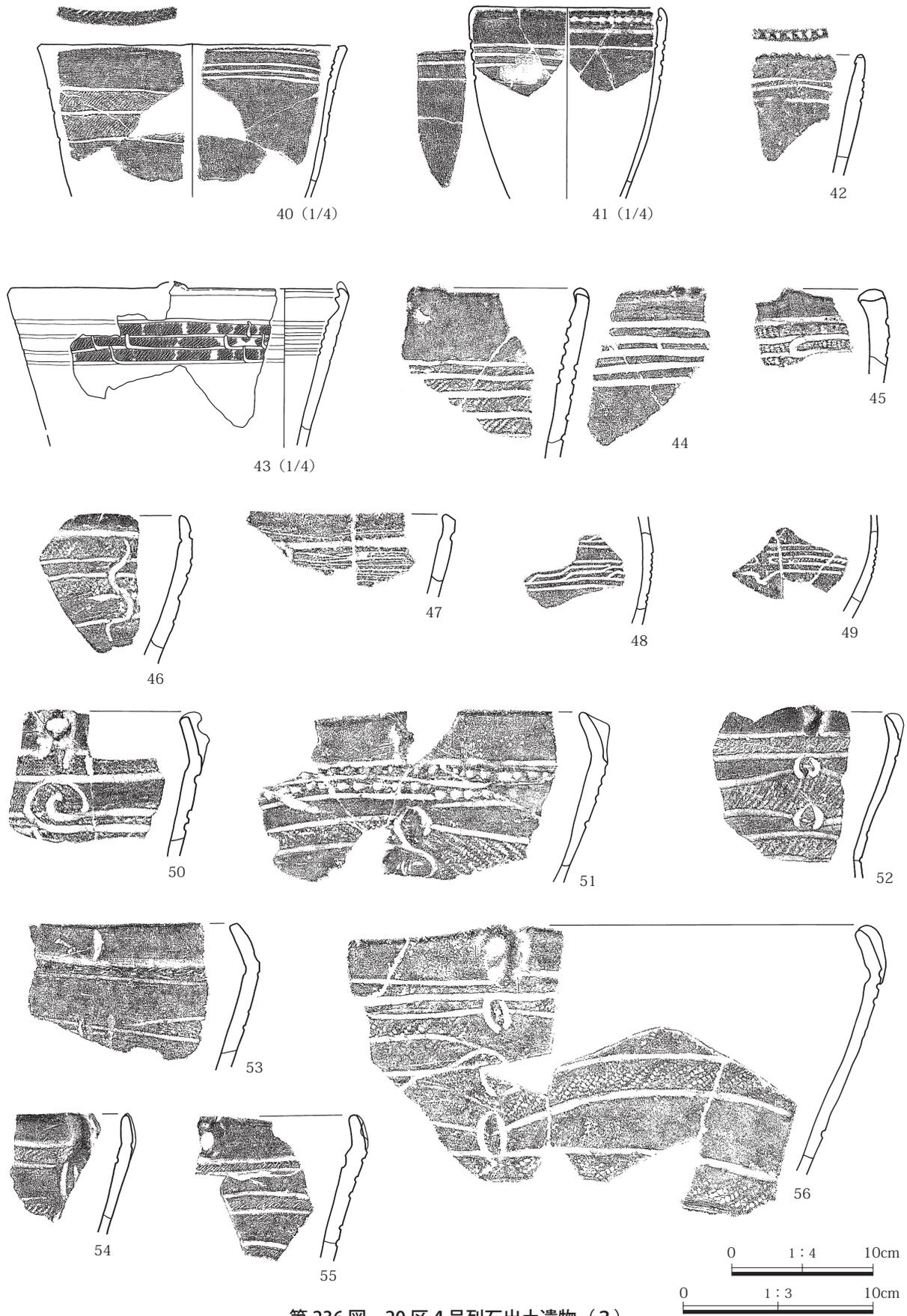


第234図 20区4号列石出土遺物(1)



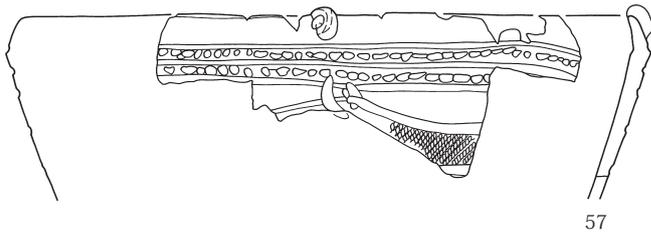
第235図 20区4号列石出土遺物(2)

第3章 発見された遺構と遺物

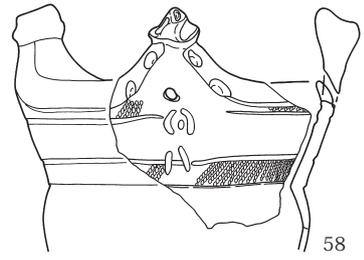


第236図 20区4号列石出土遺物(3)

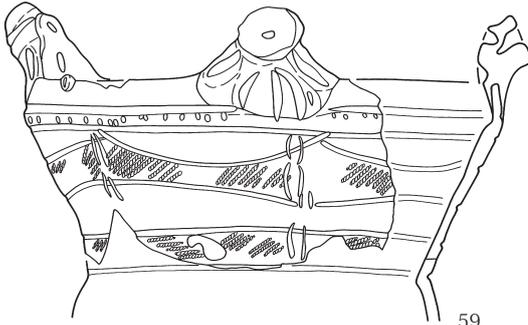
第4節 縄文時代後期の列石・配石



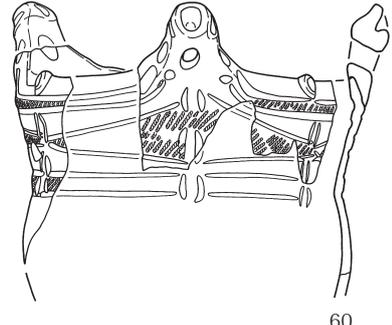
57



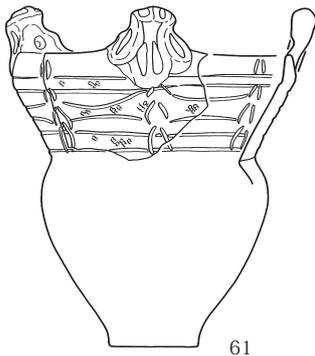
58



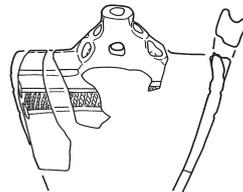
59



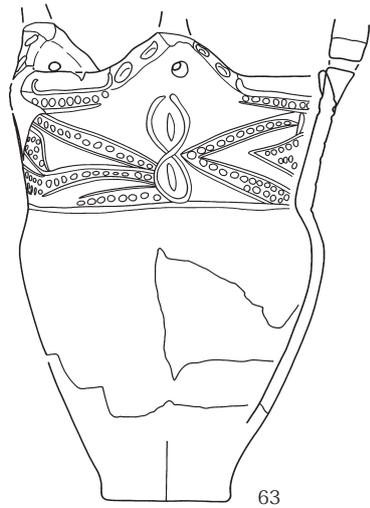
60



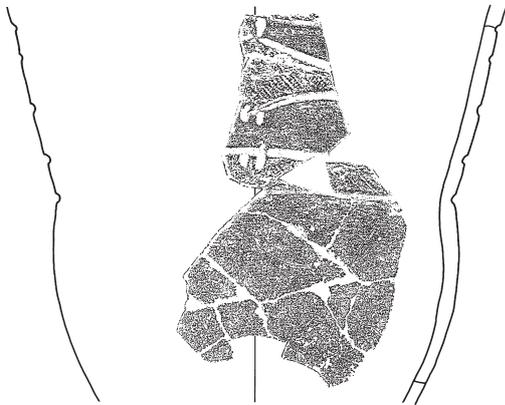
61



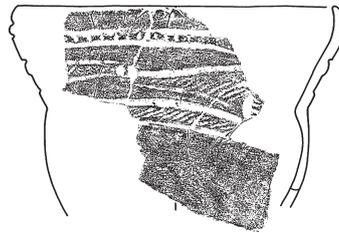
62



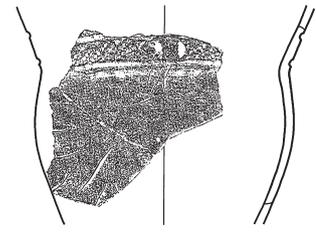
63



64



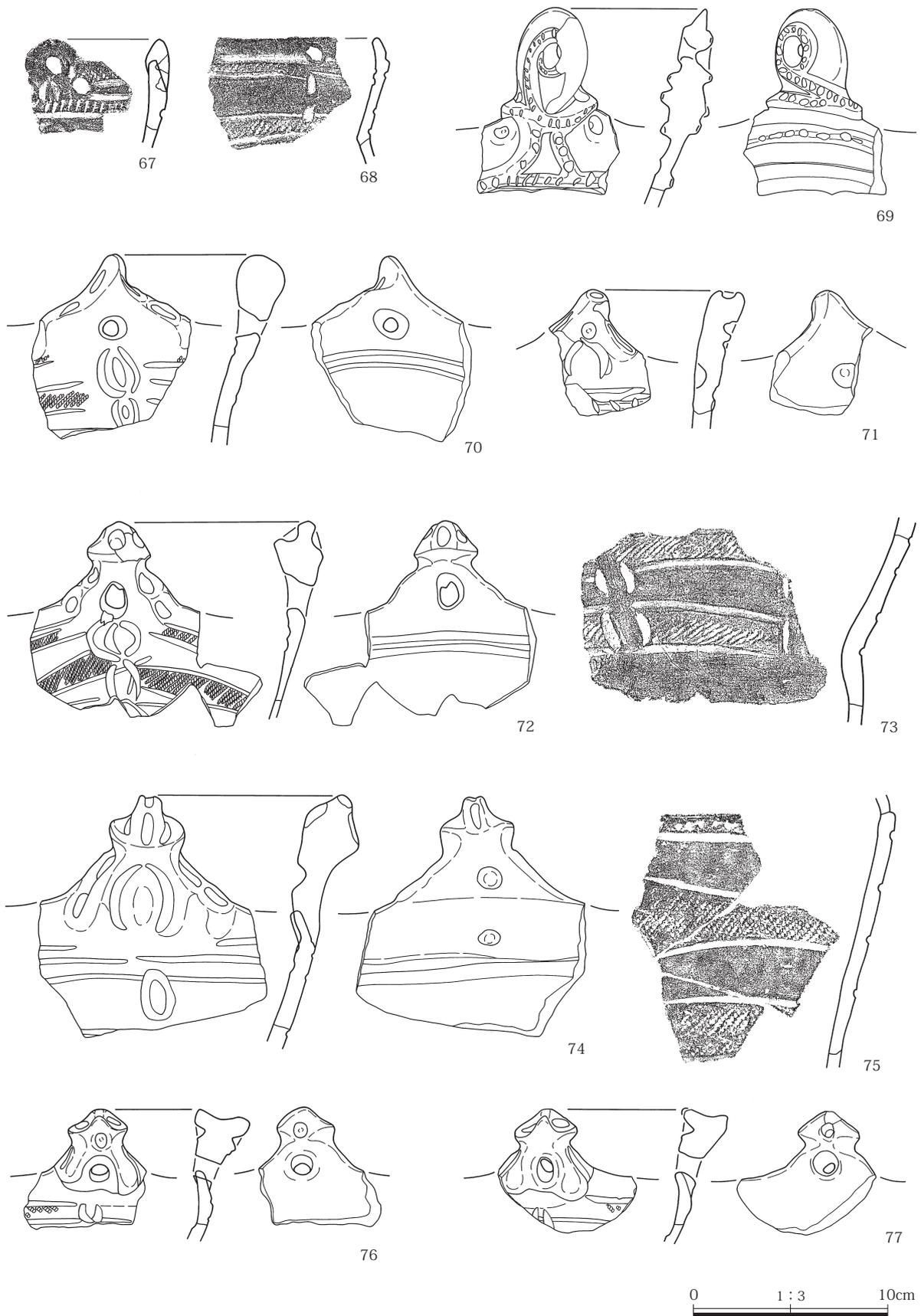
65



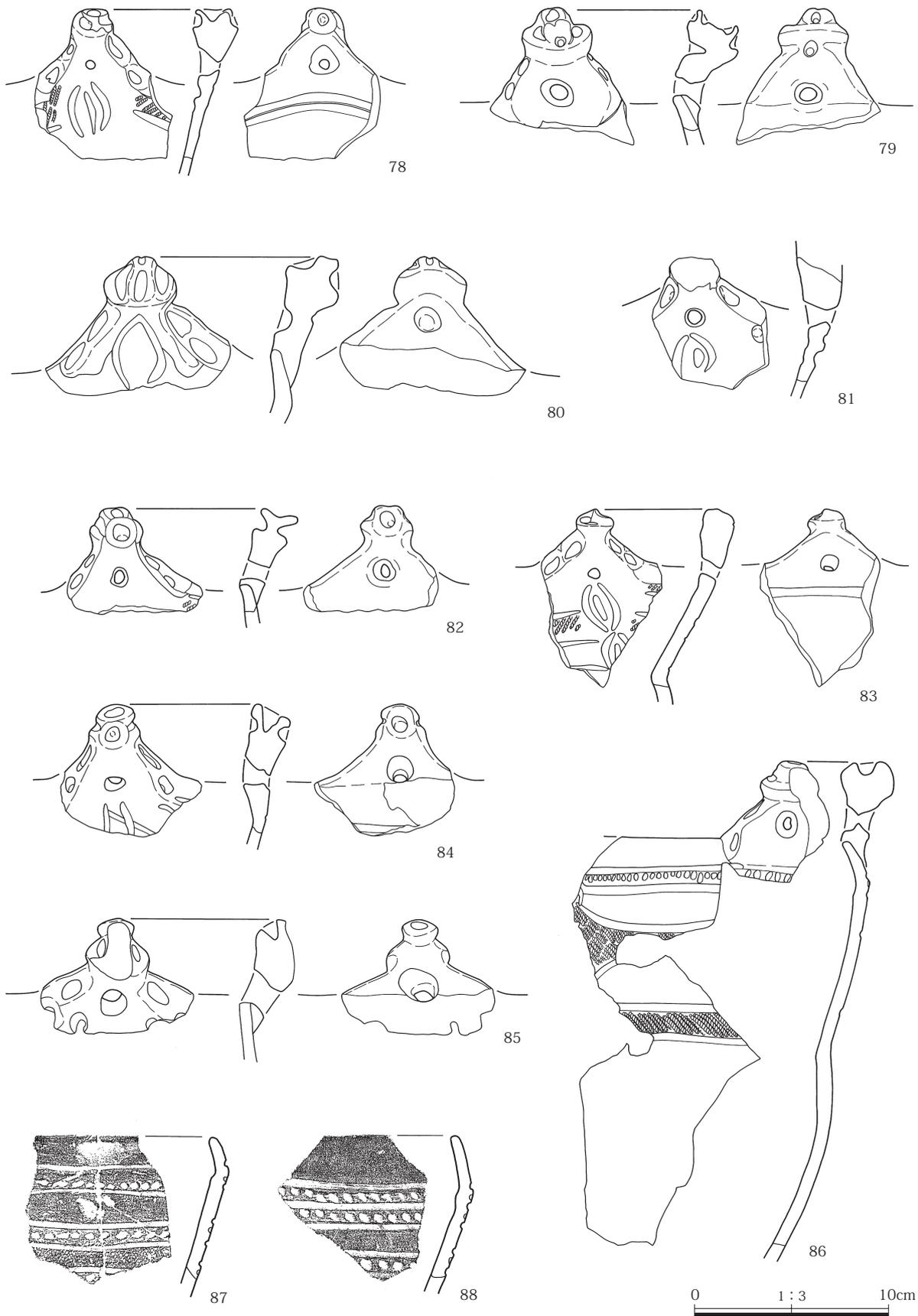
66

0 1:4 10cm

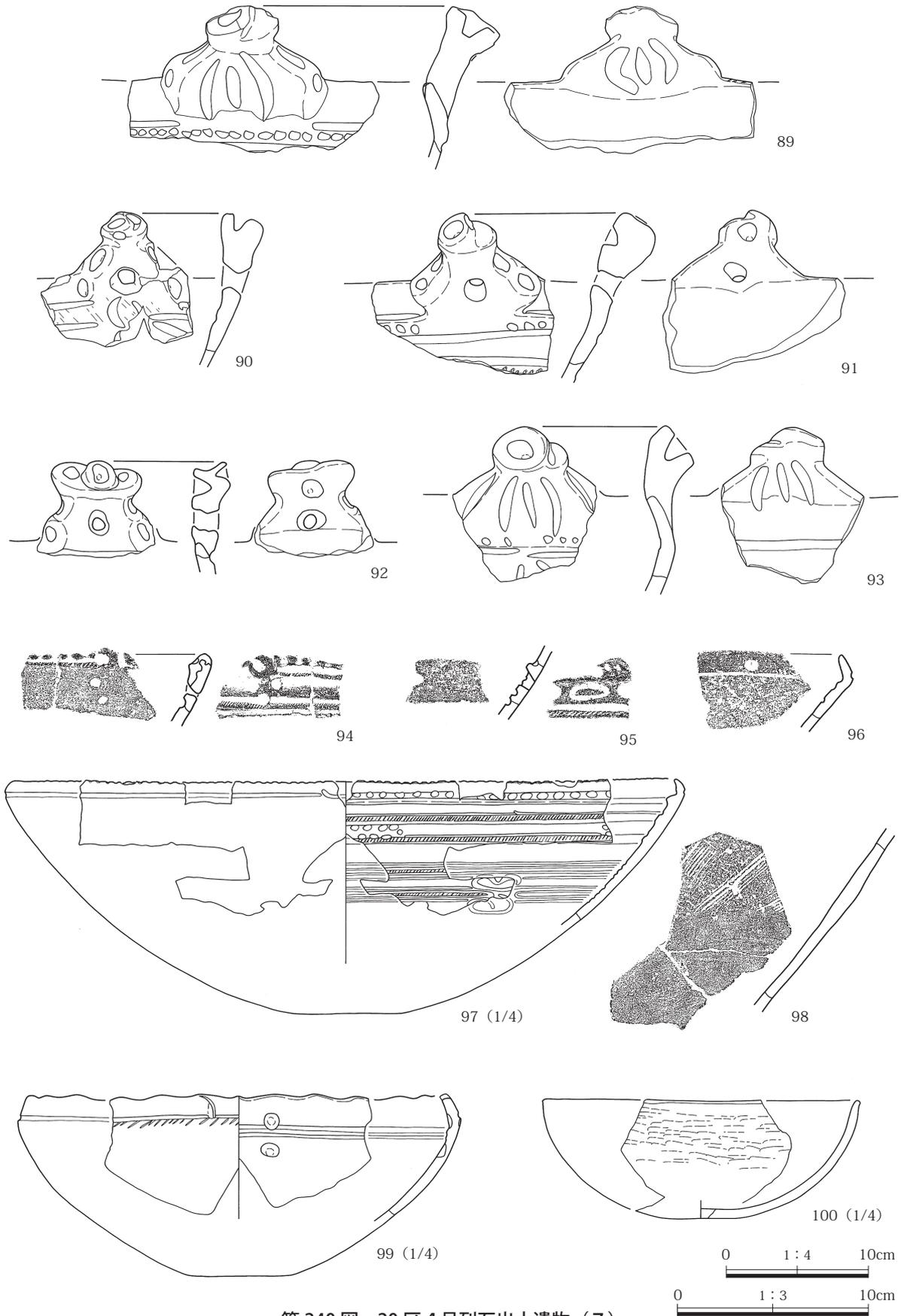
第237図 20区4号列石出土遺物(4)



第238図 20区4号列石出土遺物(5)

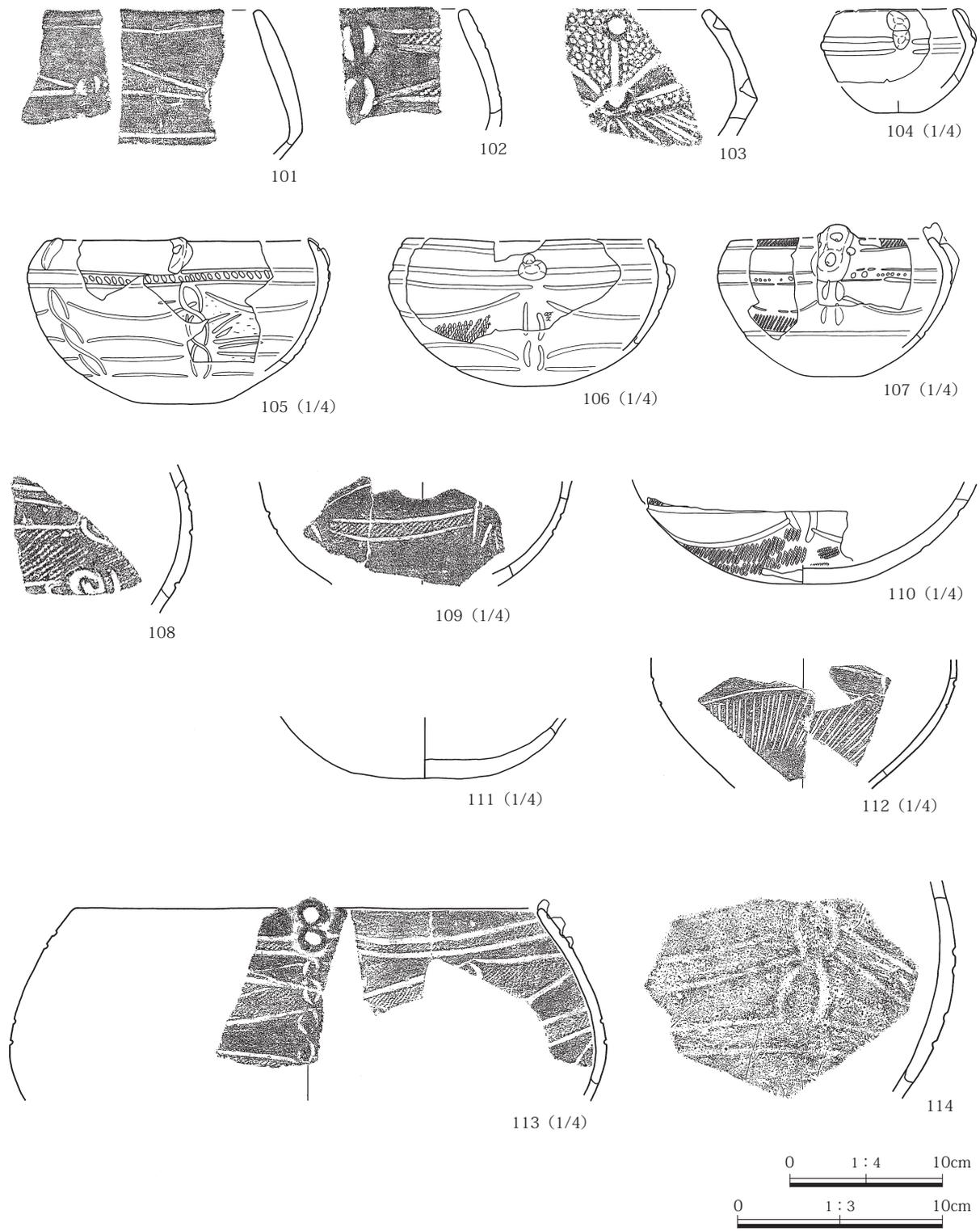


第239図 20区4号列石出土遺物(6)

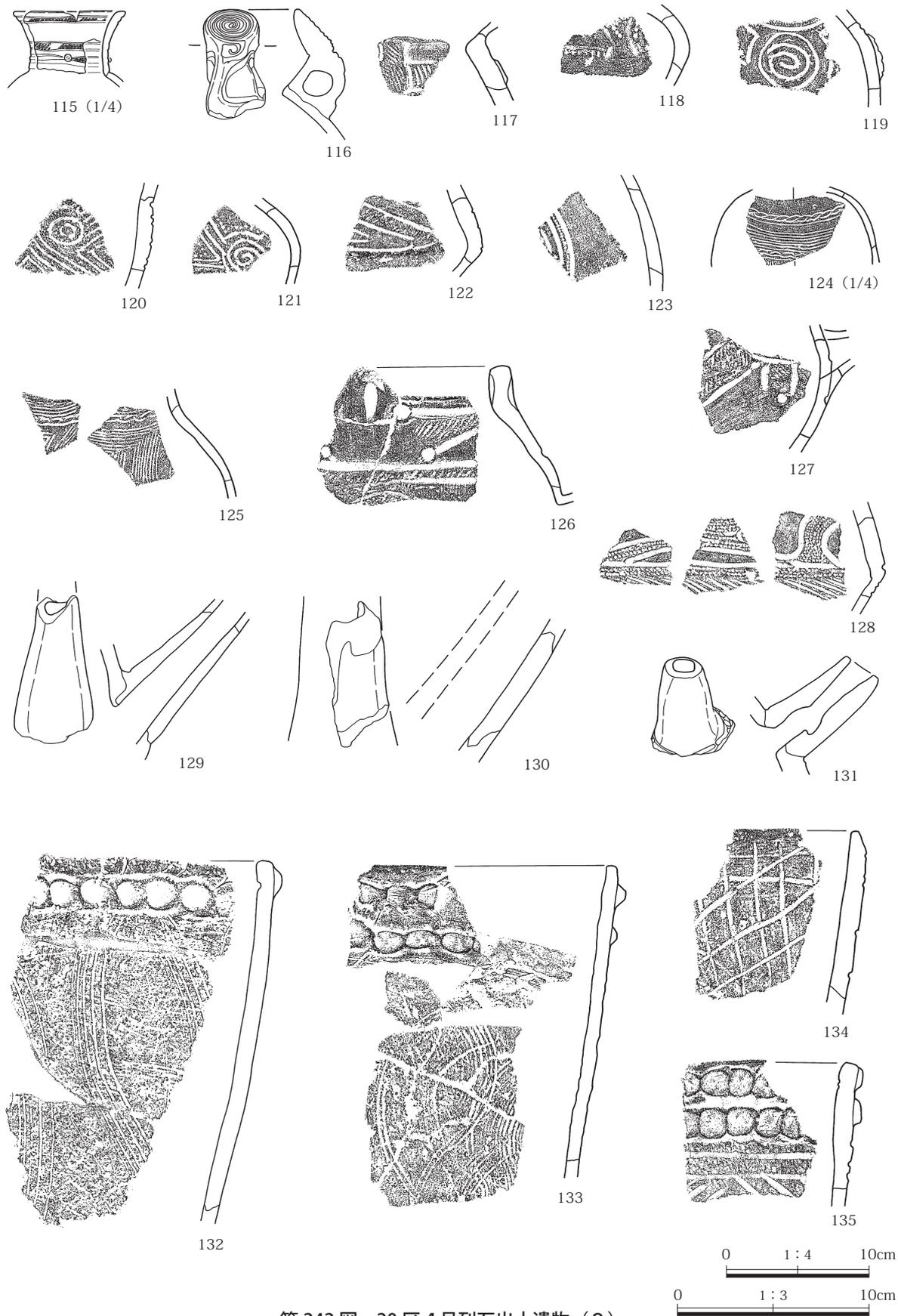


第240図 20区4号列石出土遺物(7)

第4節 縄文時代後期の列石・配石



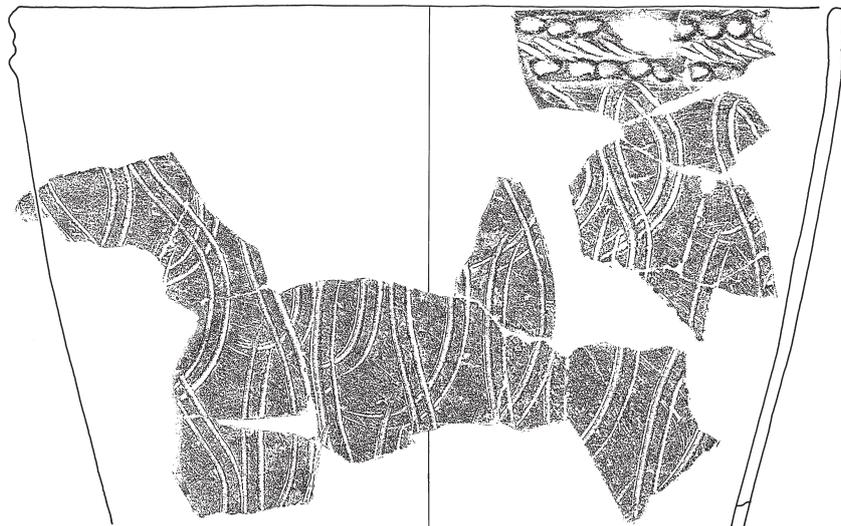
第241図 20区4号列石出土遺物(8)



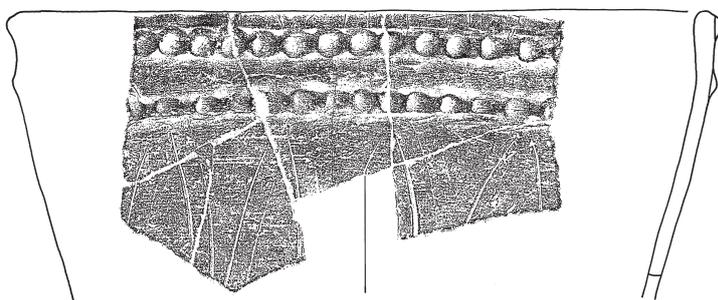
第242図 20区4号列石出土遺物(9)



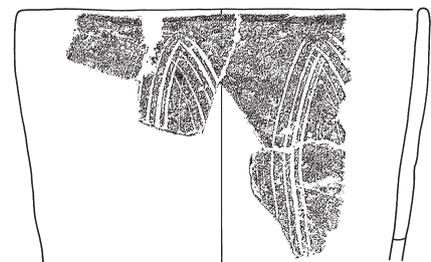
136



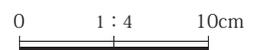
137



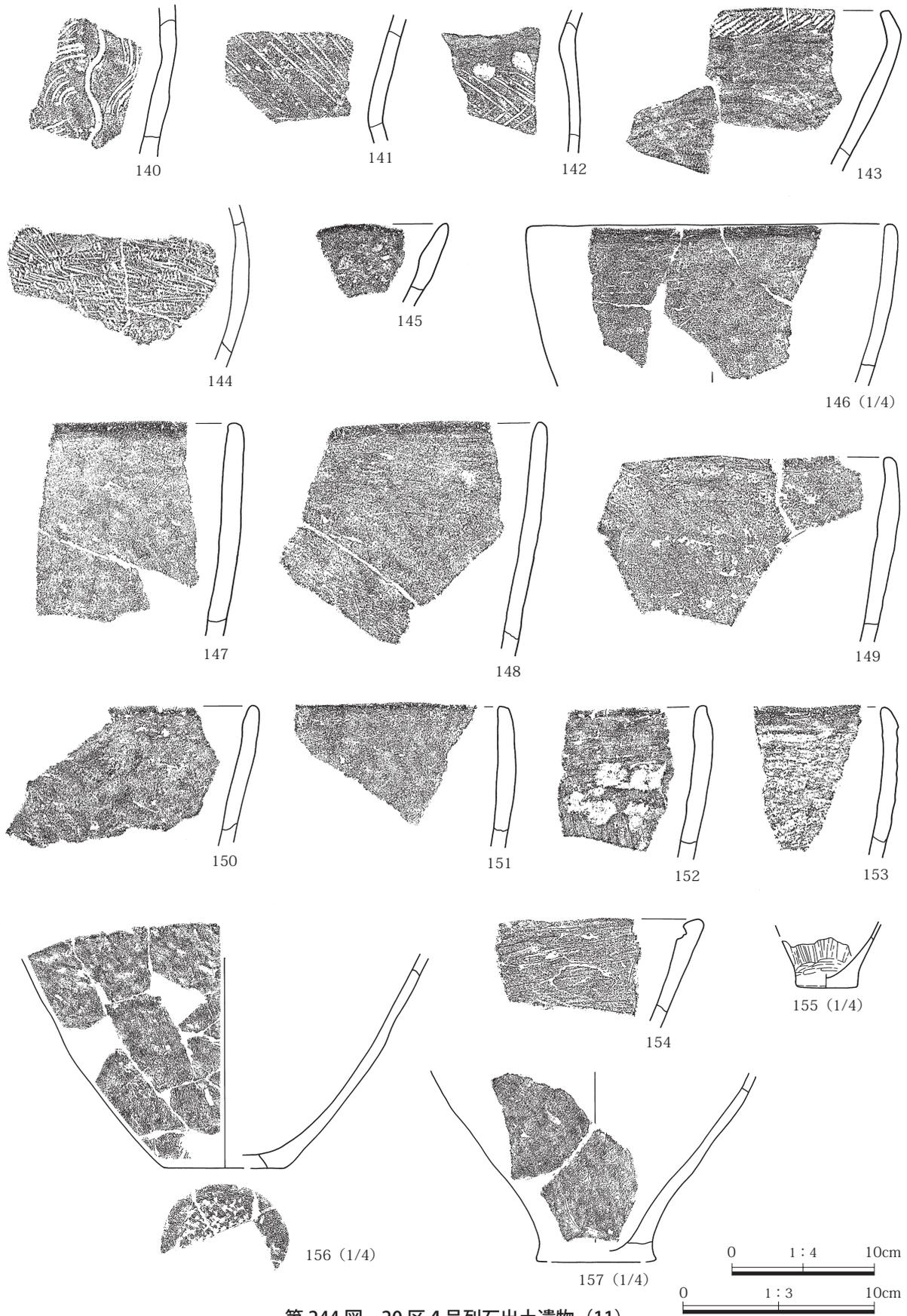
138



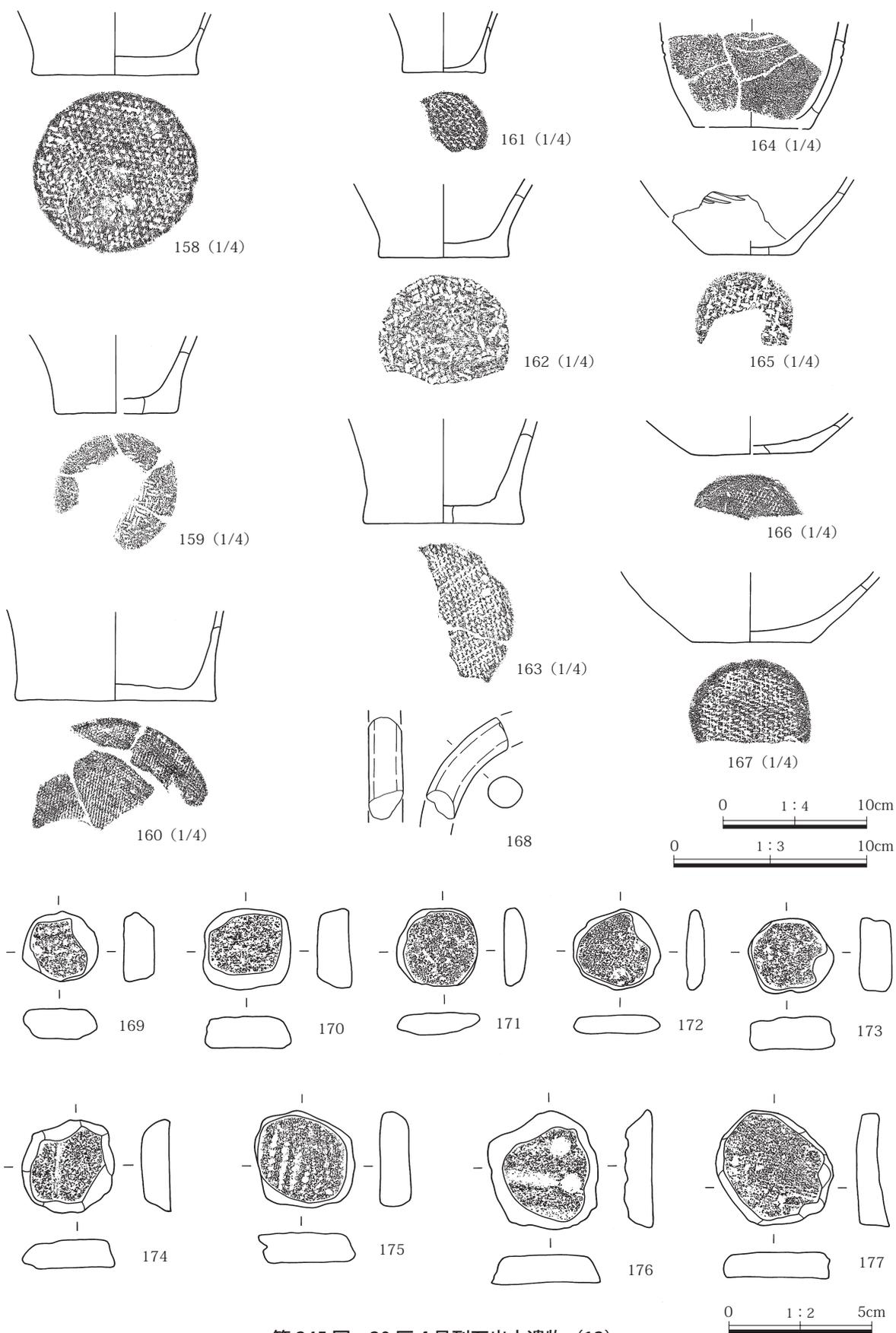
139



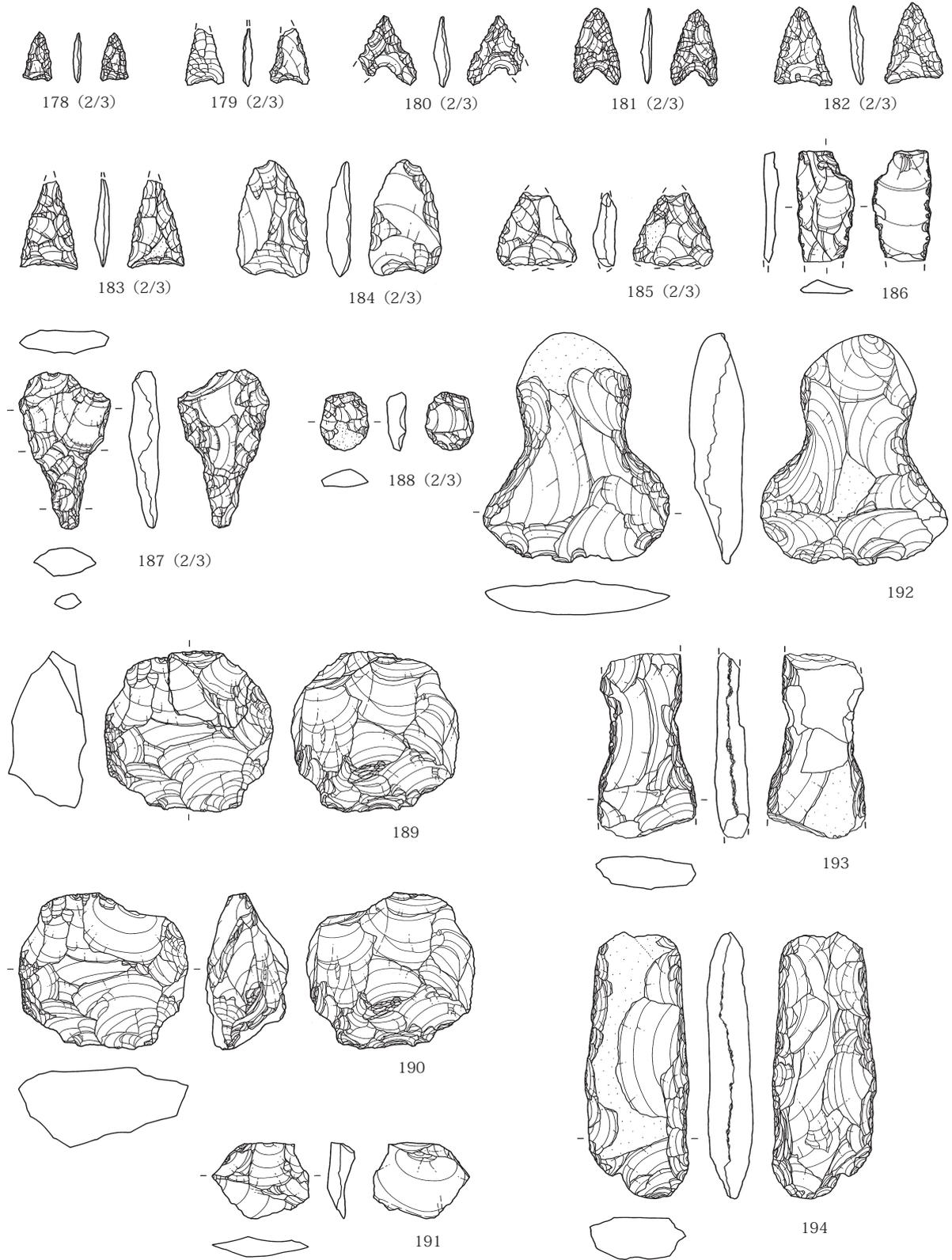
第243図 20区4号列石出土遺物(10)



第244図 20区4号列石出土遺物(11)



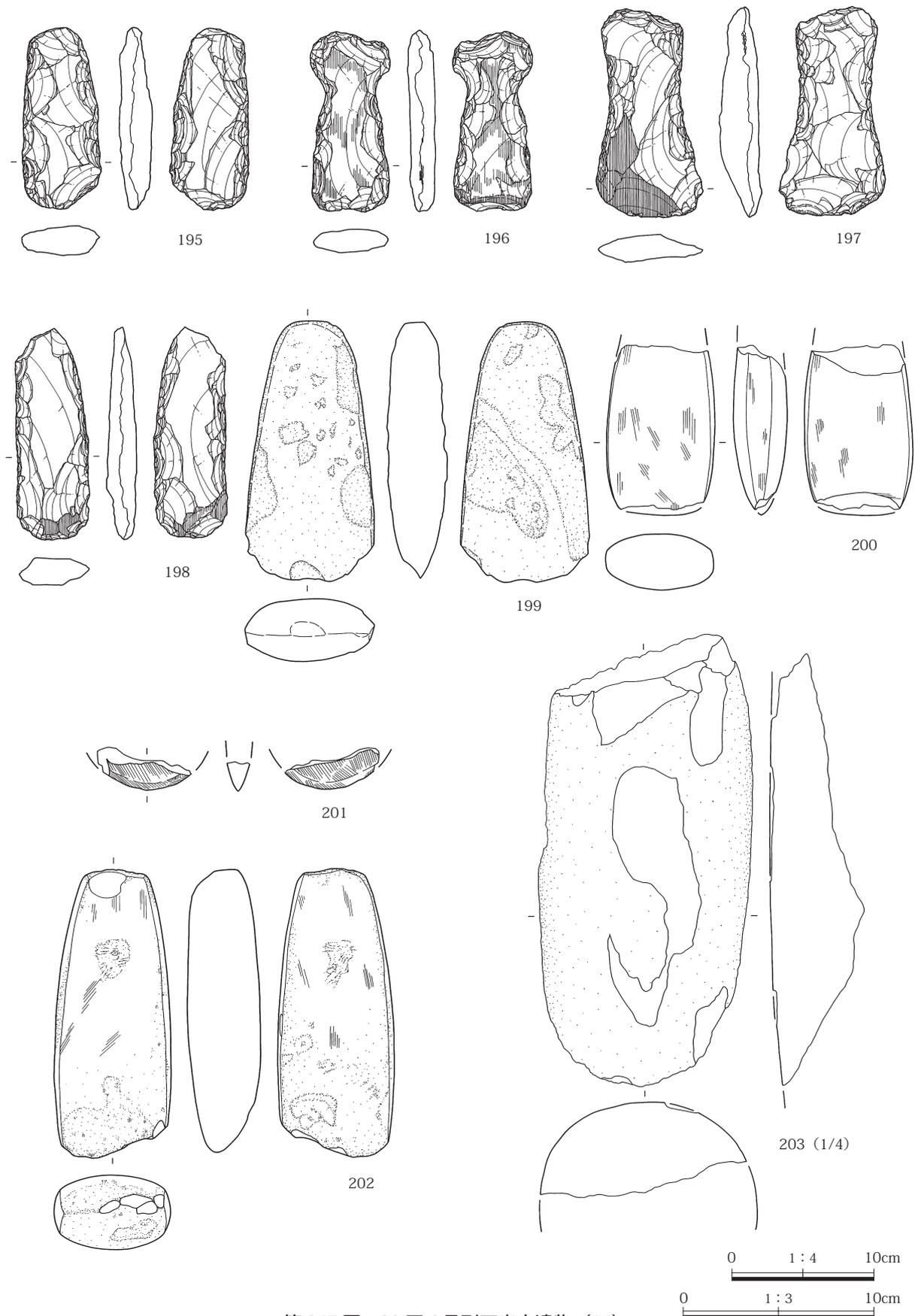
第 245 図 20 区 4 号列石出土遺物 (12)



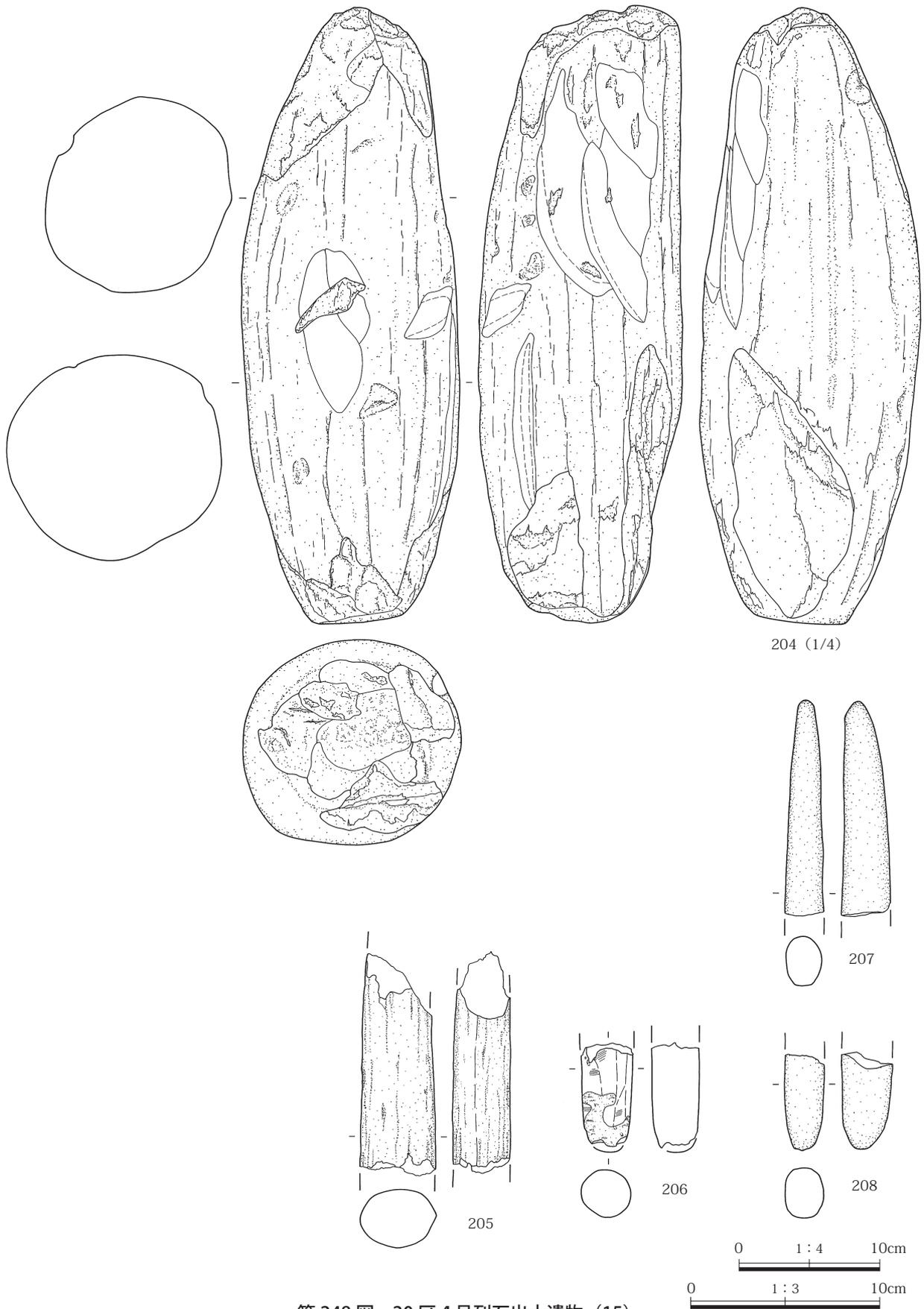
第246図 20区4号列石出土遺物(13)

0 1:3 10cm

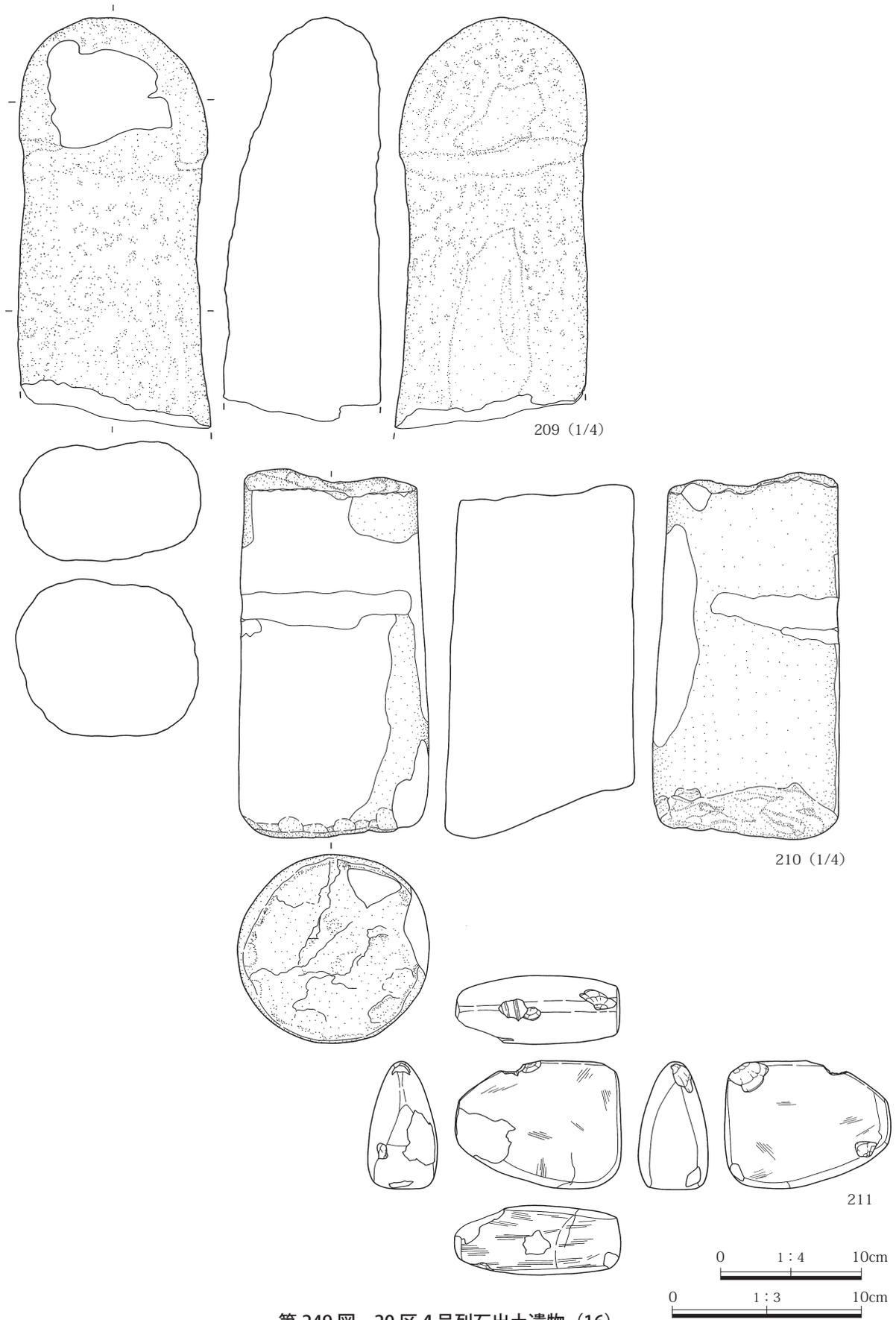
第4節 縄文時代後期の列石・配石



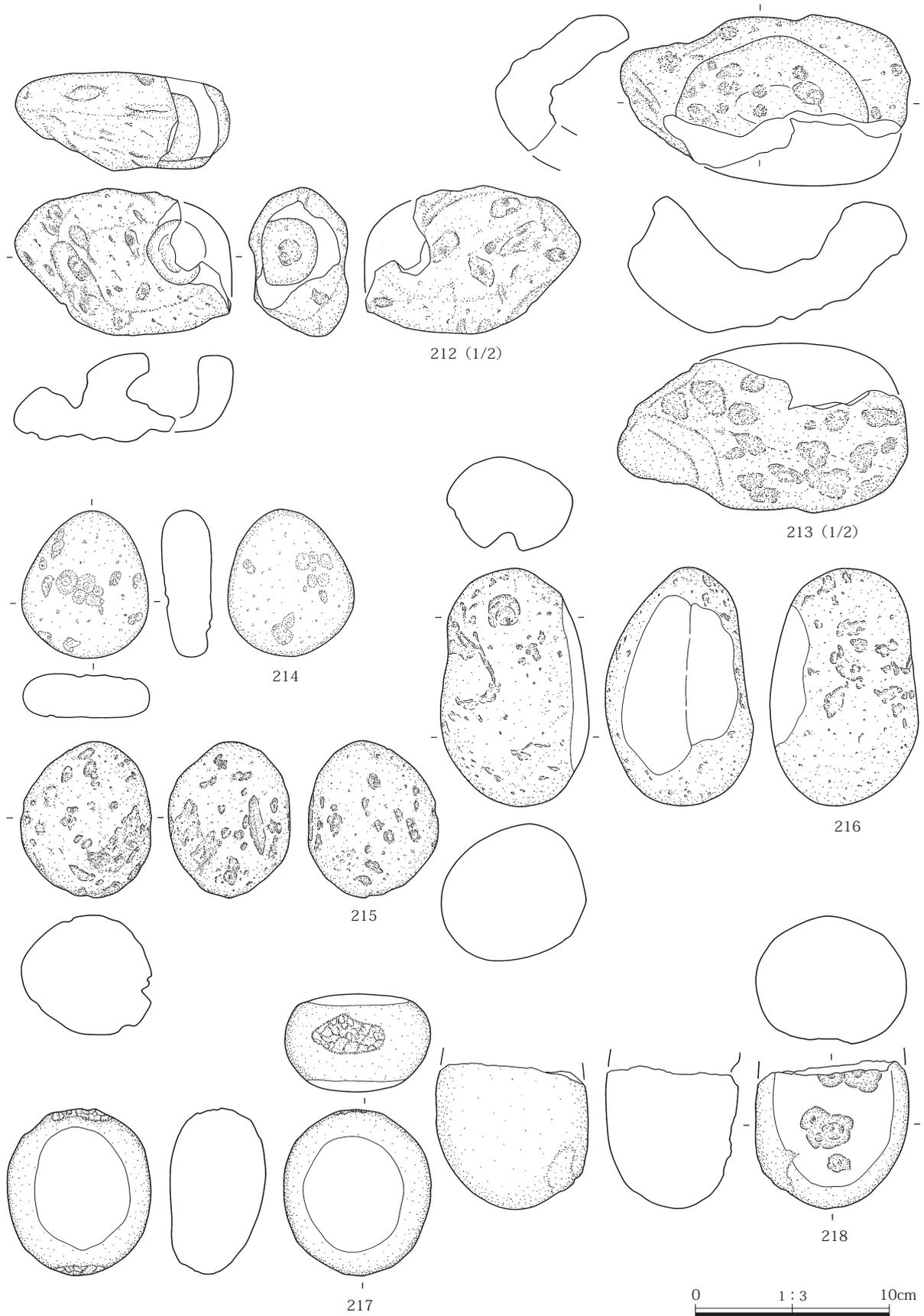
第 247 図 20 区 4 号列石出土遺物 (14)



第248図 20区4号列石出土遺物 (15)



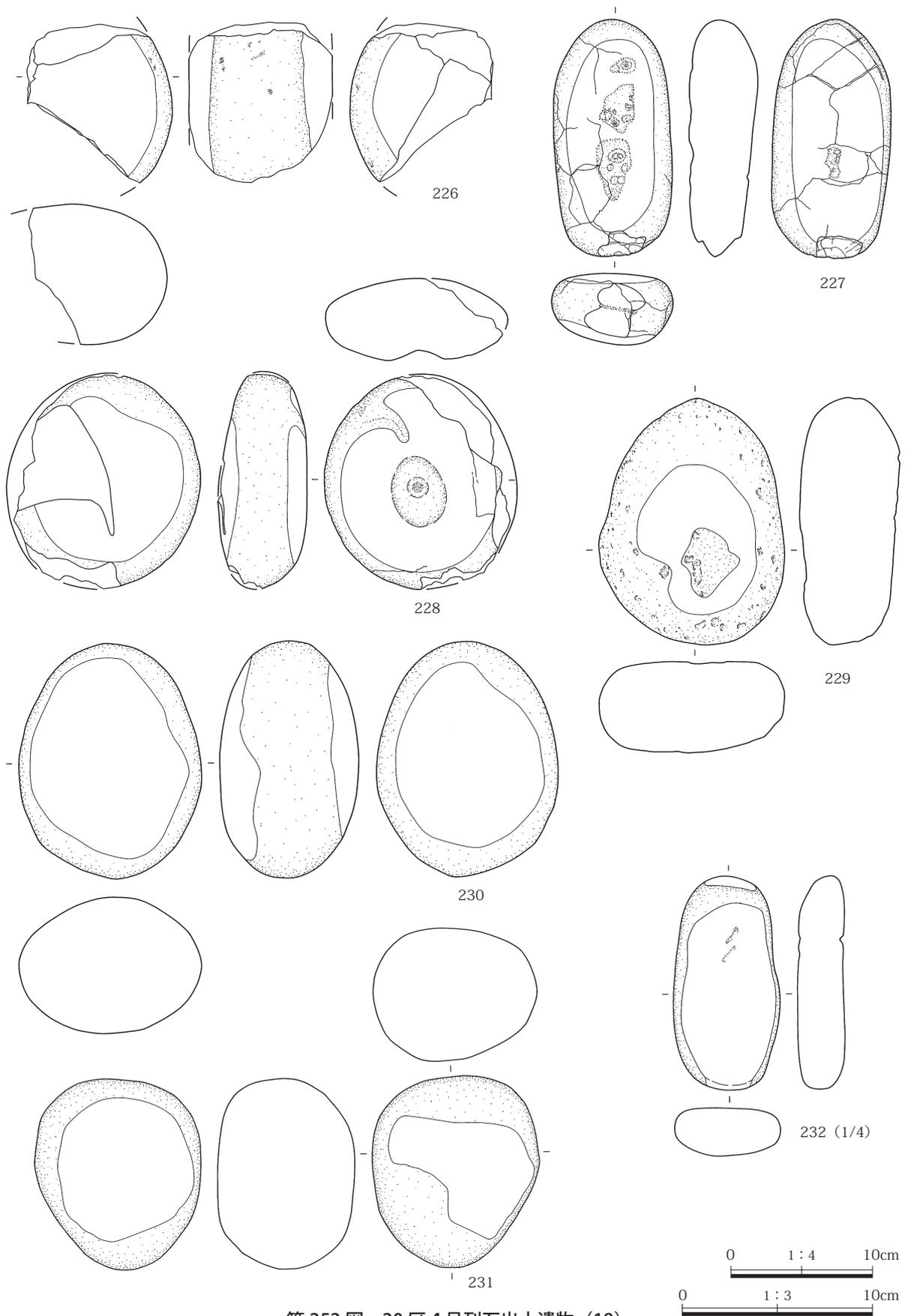
第249図 20区4号列石出土遺物(16)



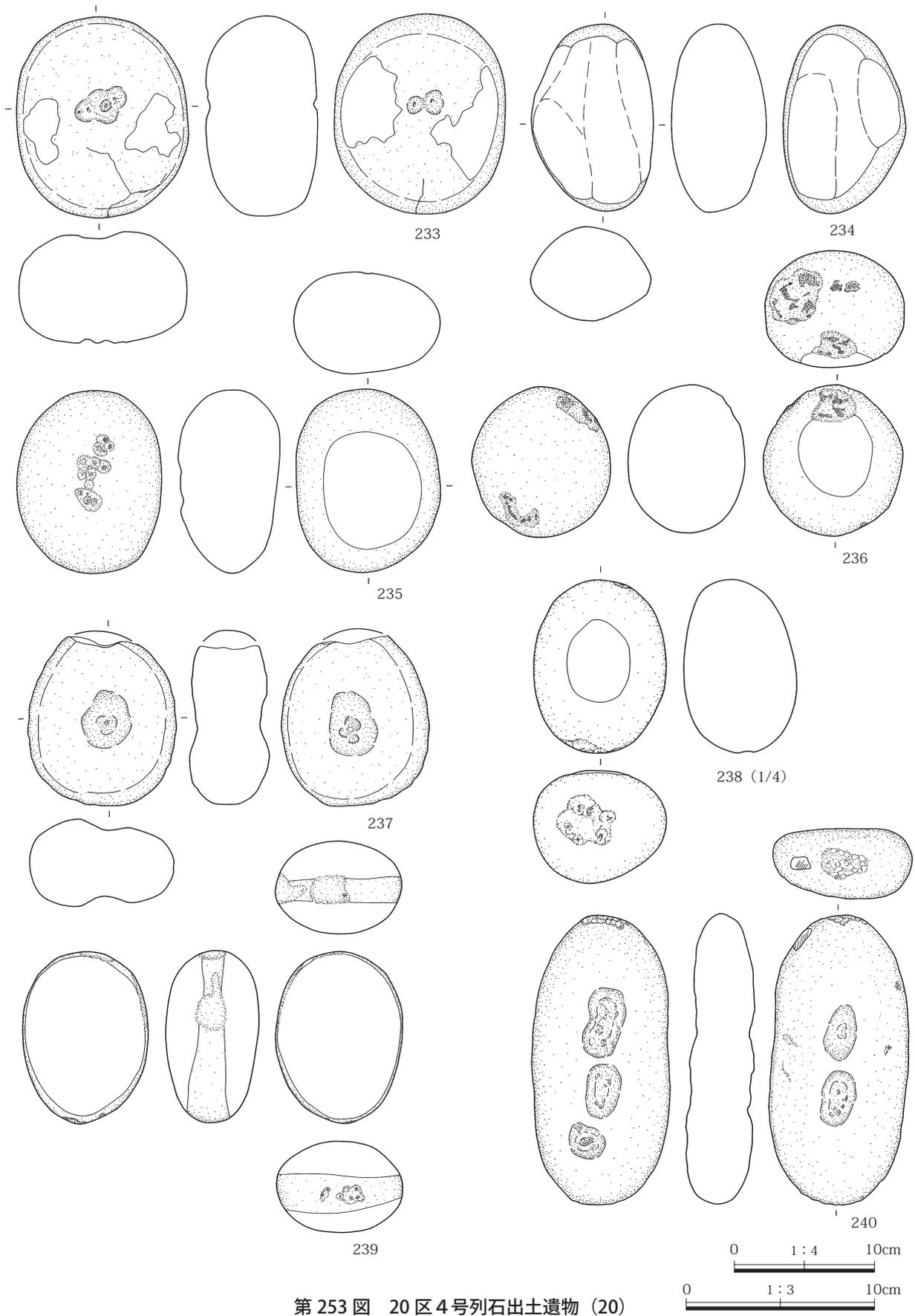
第250図 20区4号列石出土遺物(17)



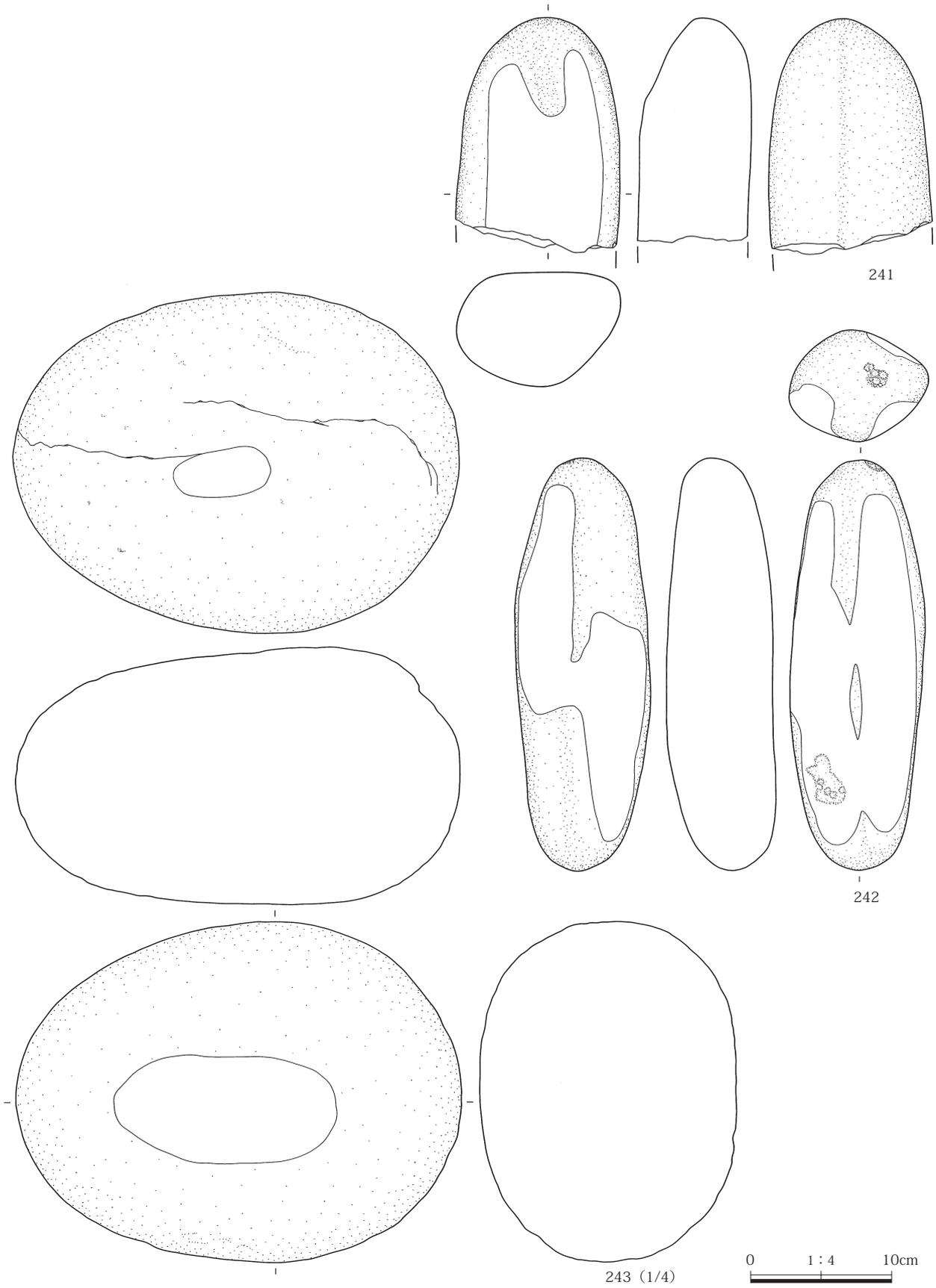
第251図 20区4号列石出土遺物(18)



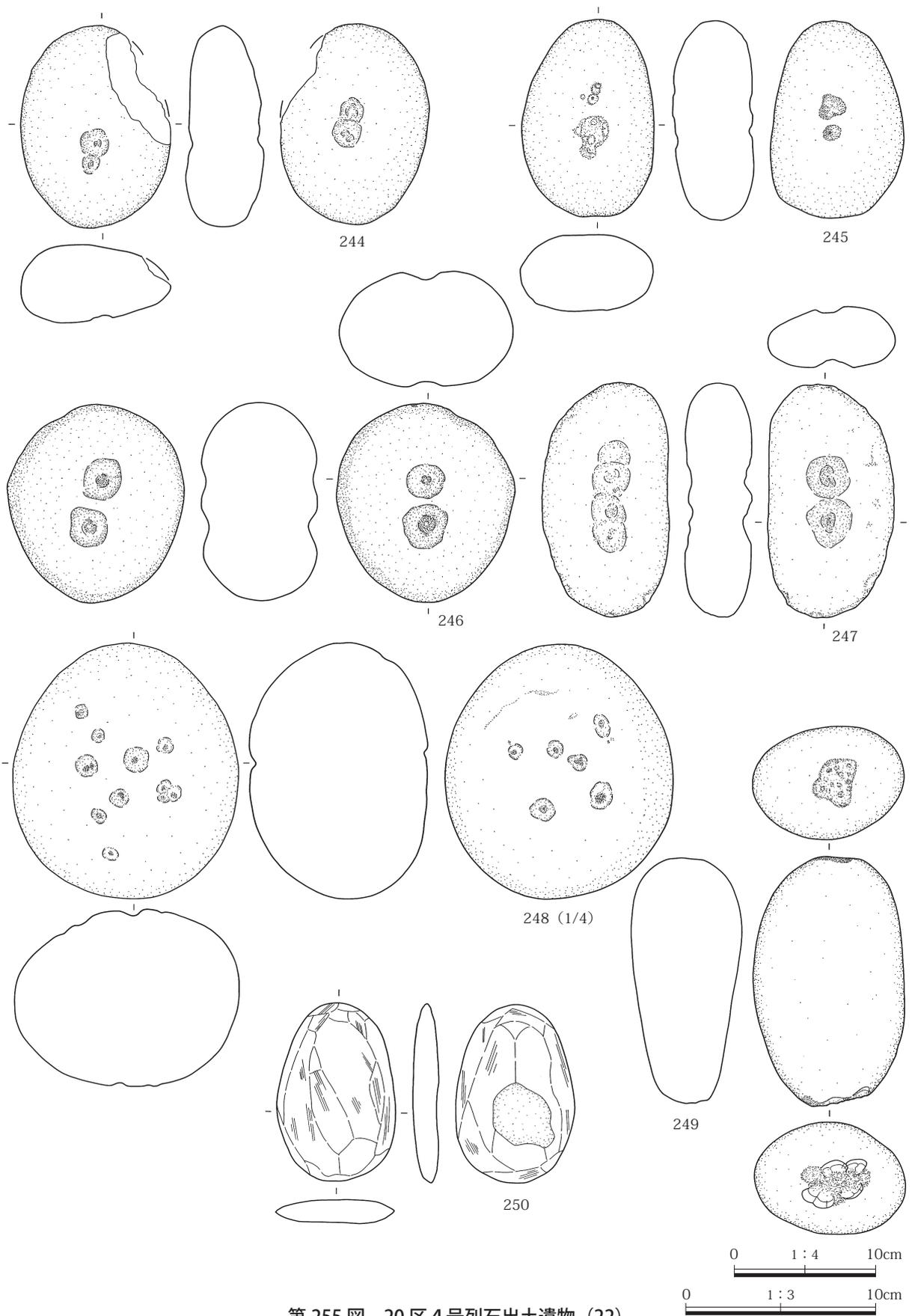
第252図 20区4号列石出土遺物(19)



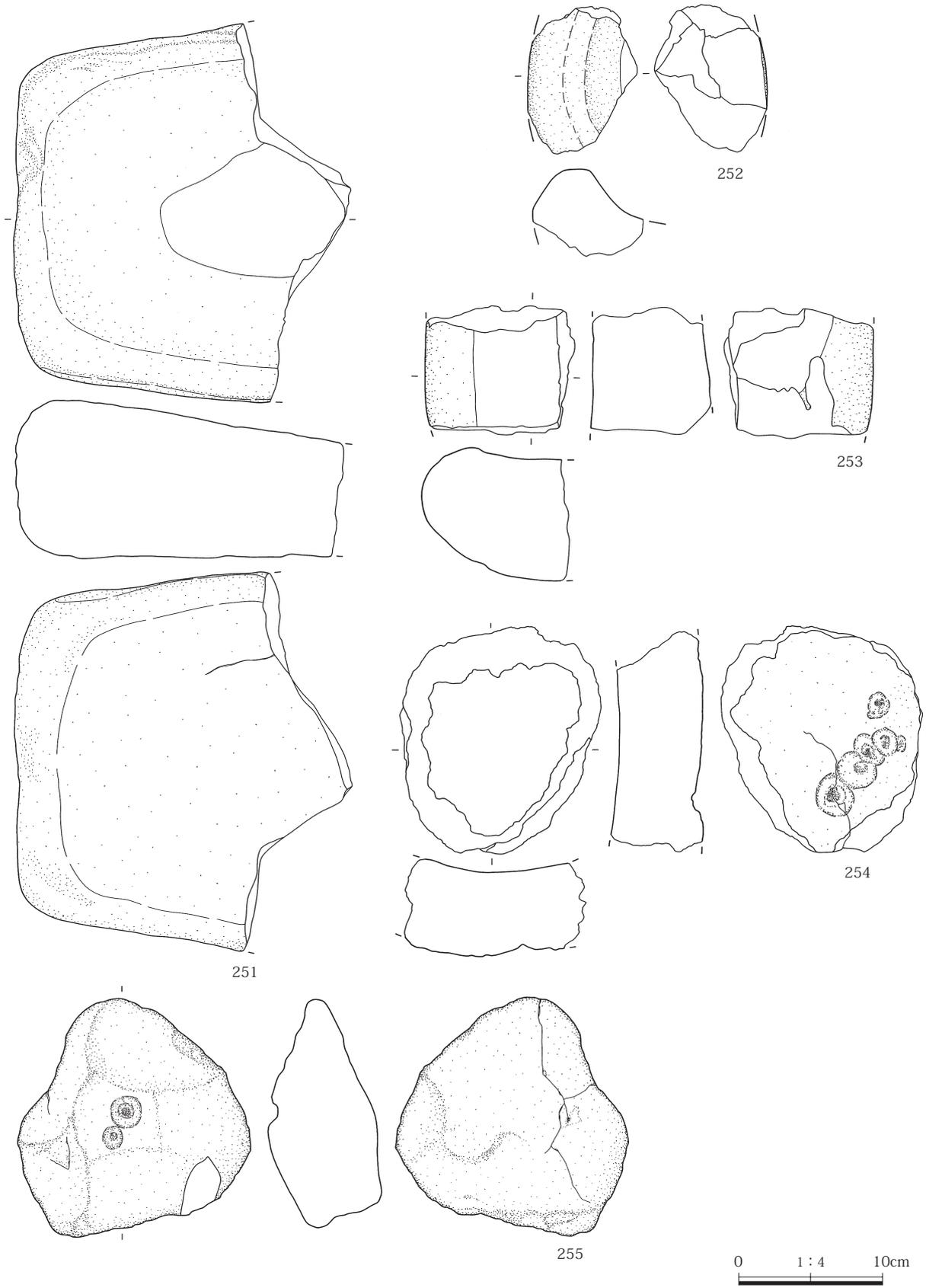
第253図 20区4号列石出土遺物(20)



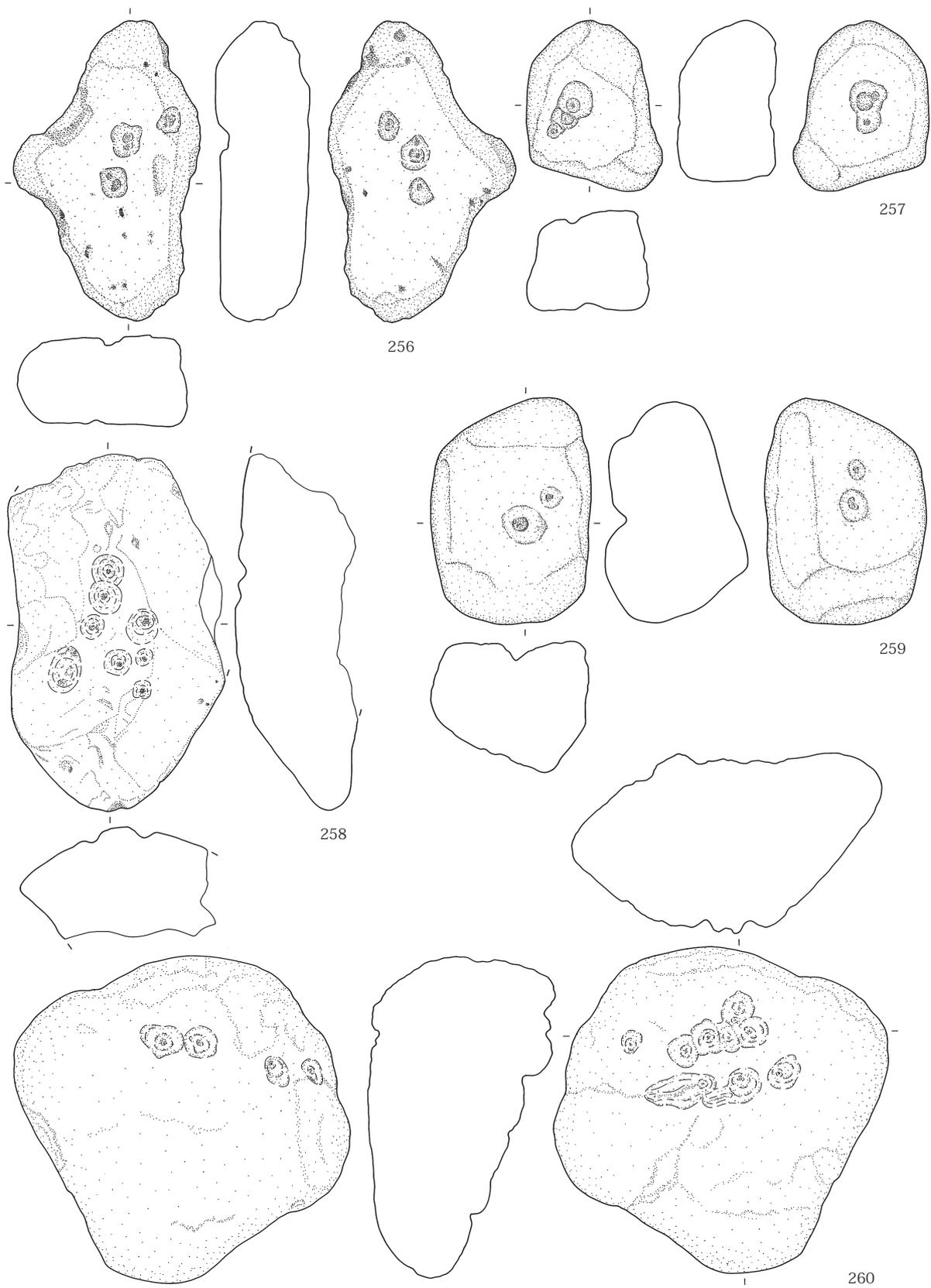
第254図 20区4号列石出土遺物(21)



第 255 図 20 区 4 号列石出土遺物 (22)



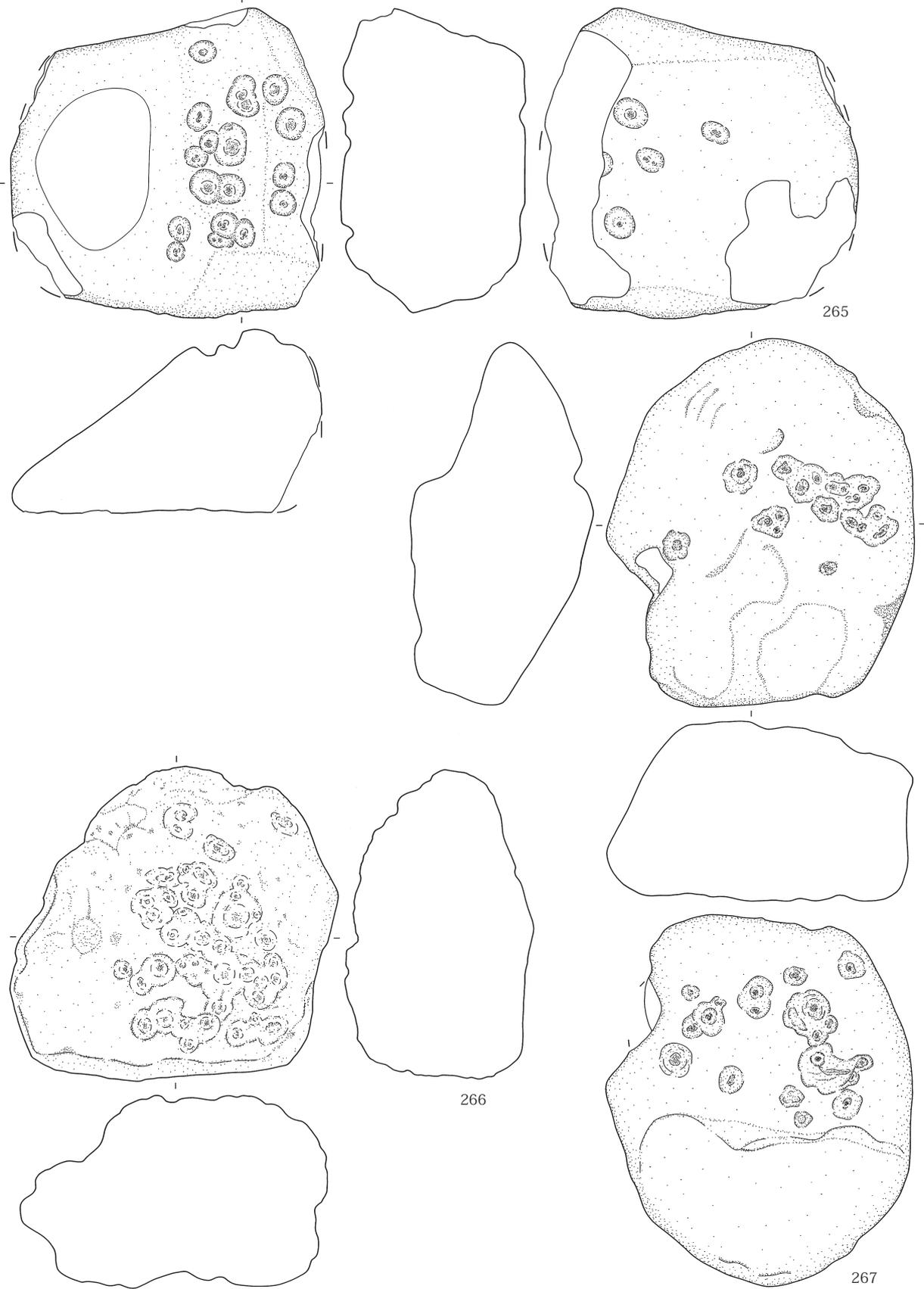
第256図 20区4号列石出土遺物(23)



第 257 図 20 区 4 号列石出土遺物 (24)

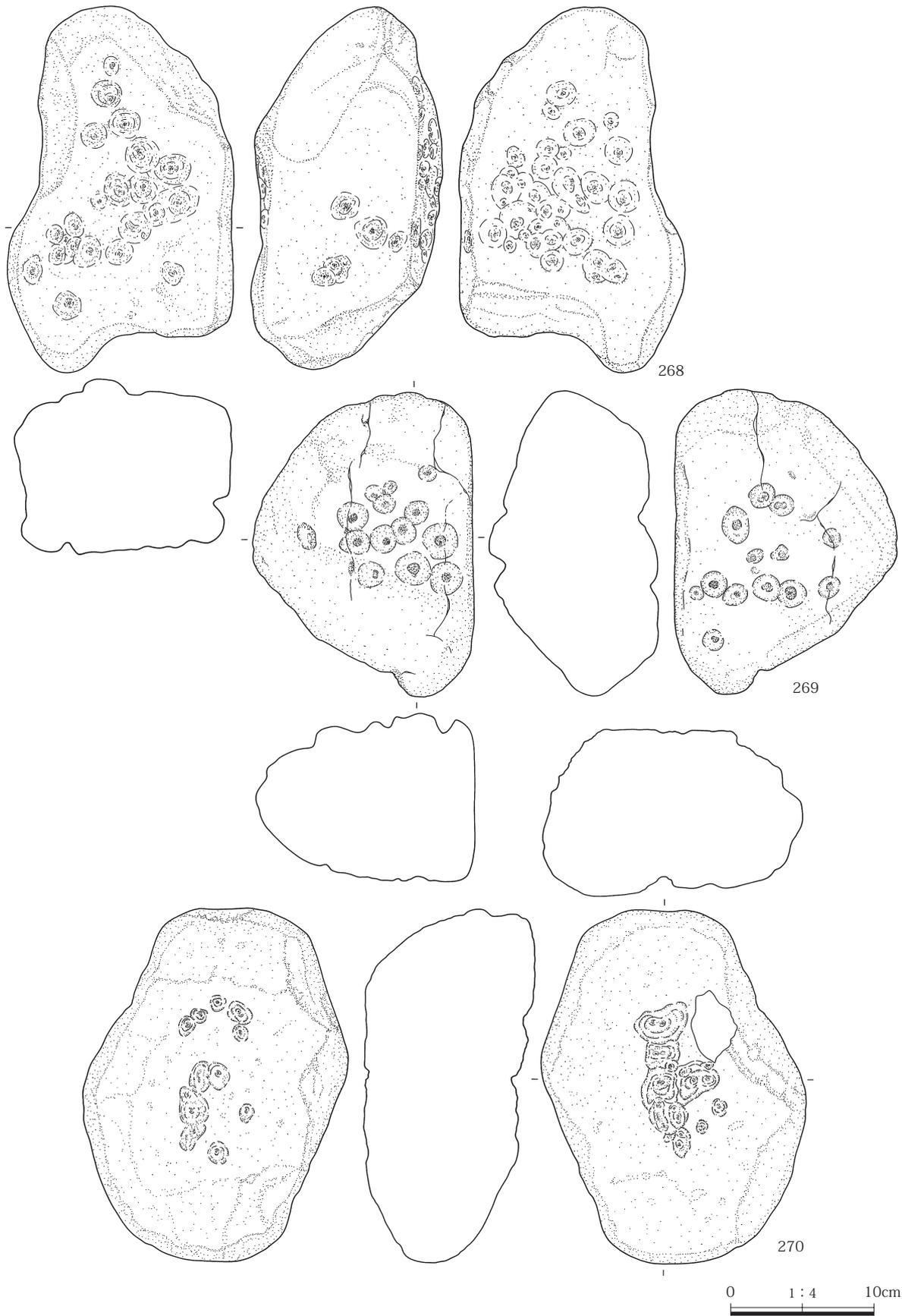


第258図 20区4号列石出土遺物(25)



第 259 図 20 区 4 号列石出土遺物 (26)

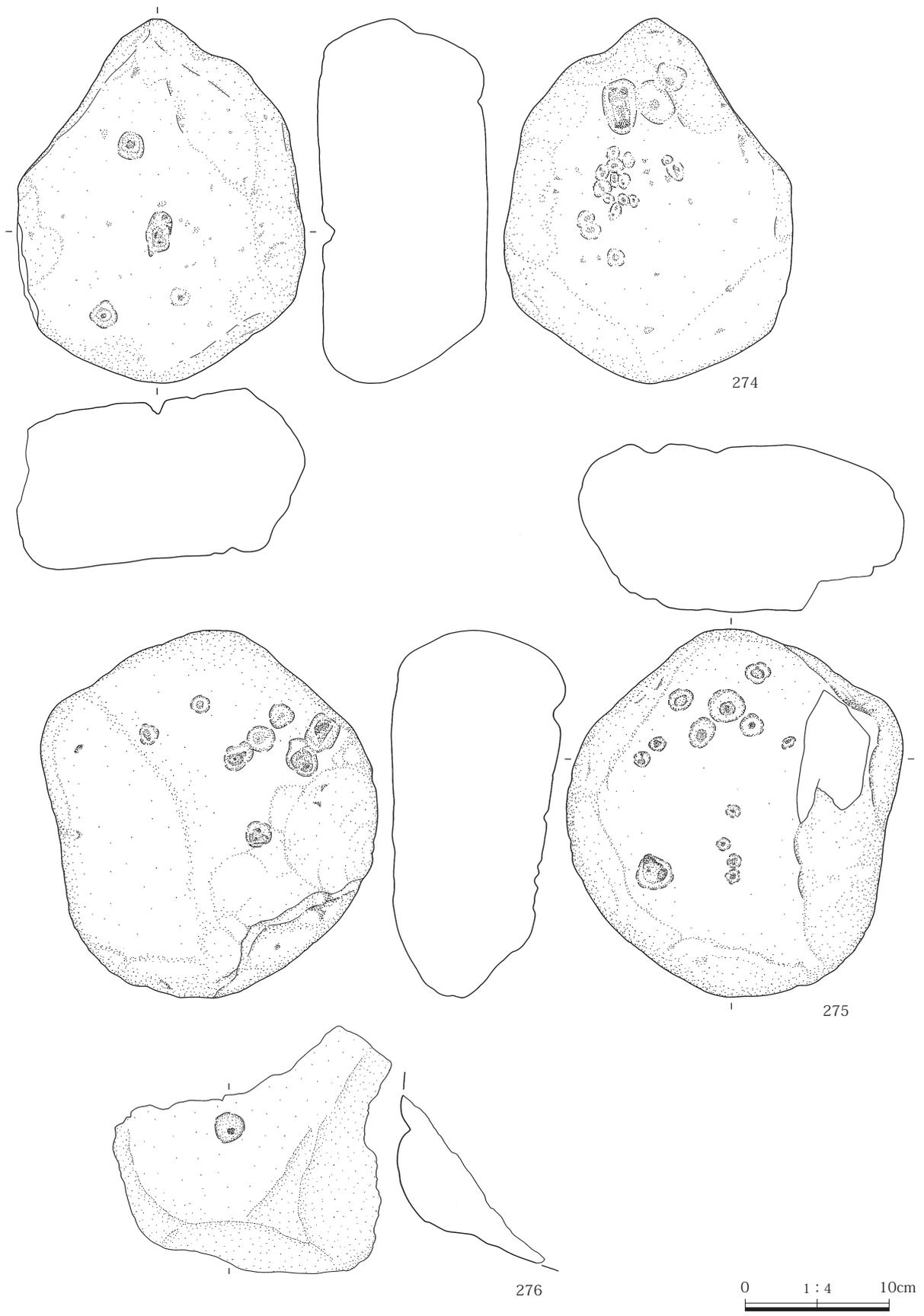
0 1:4 10cm



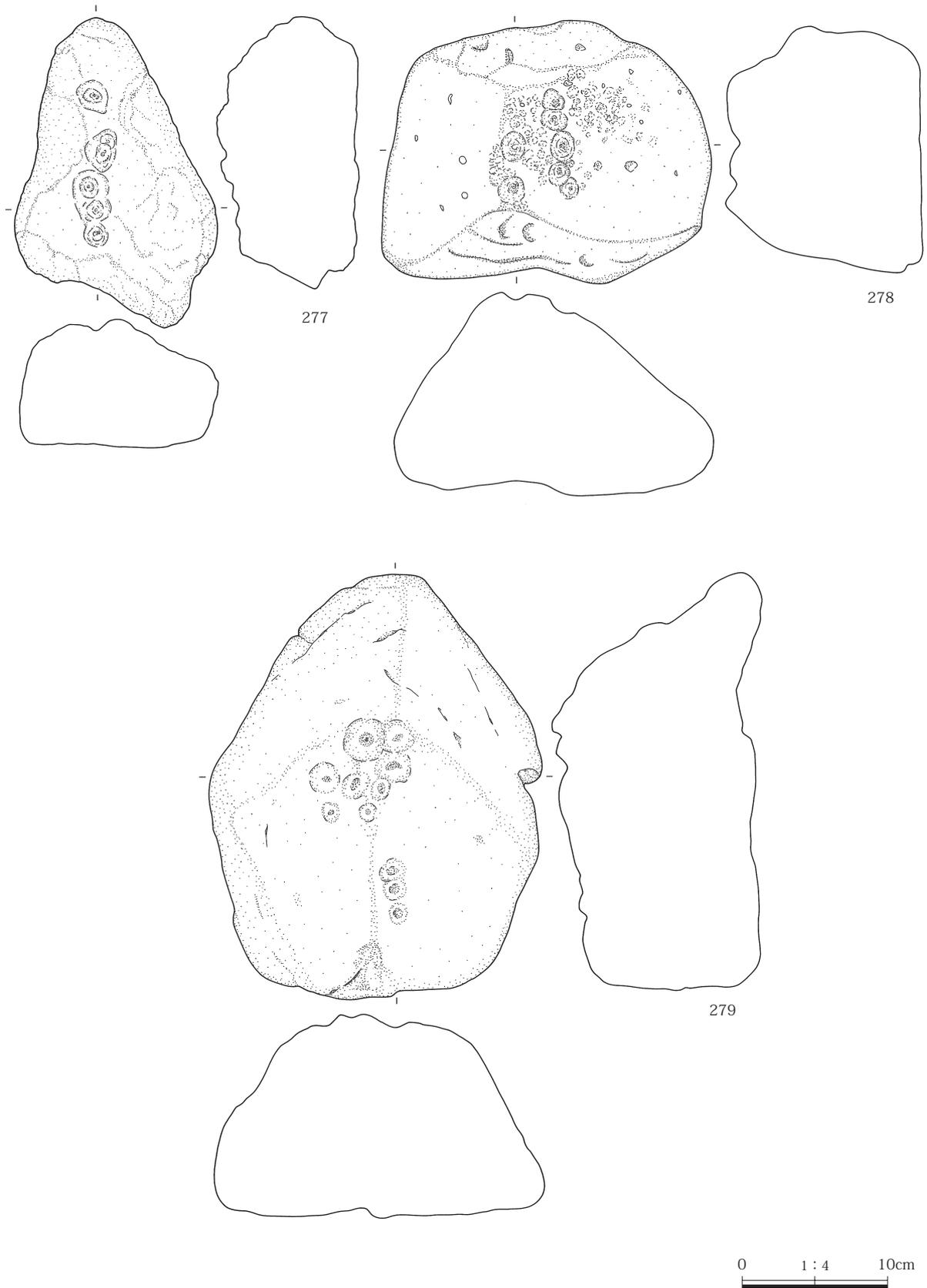
第260図 20区4号列石出土遺物(27)



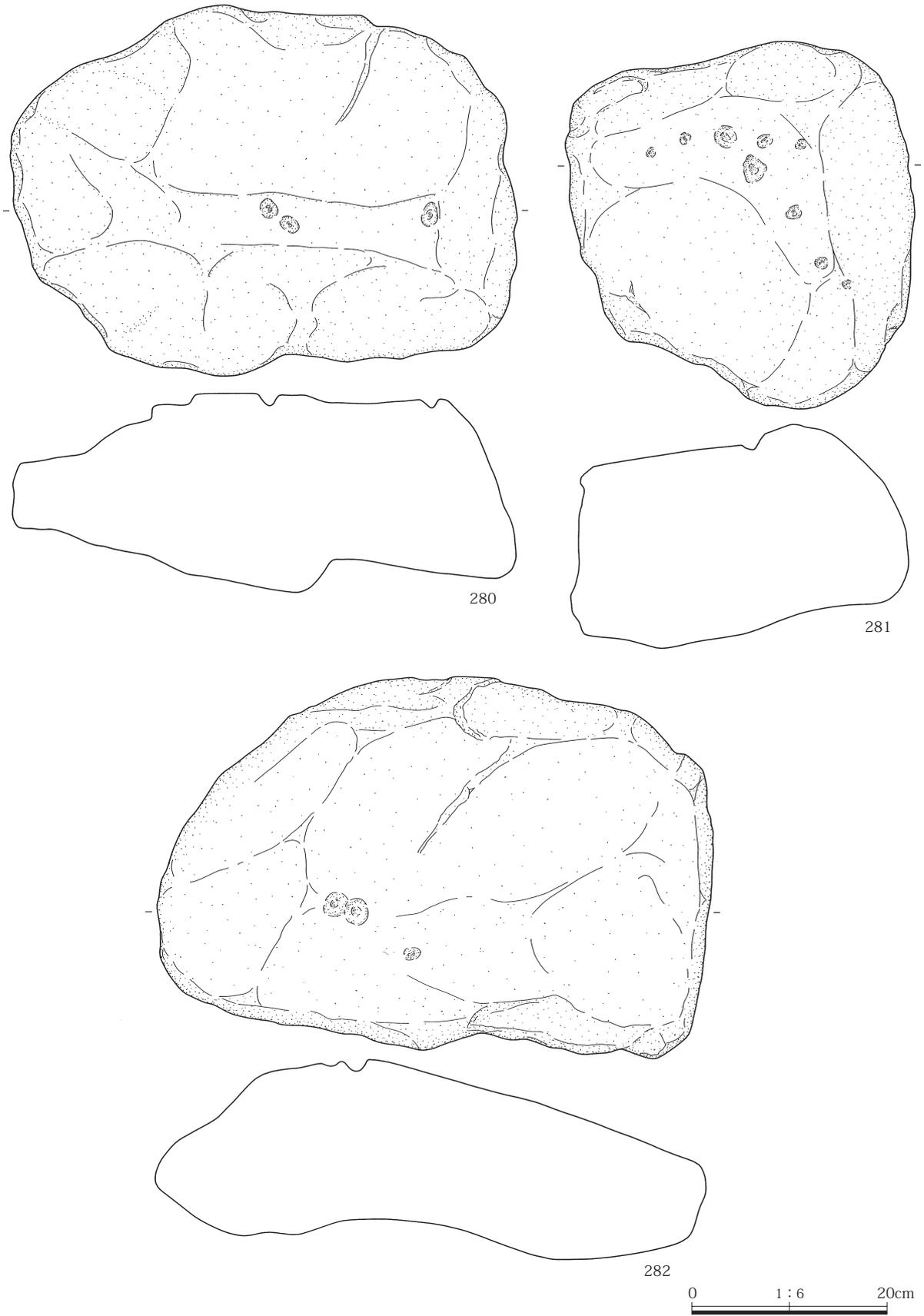
第 261 図 20 区 4 号列石出土遺物 (28)



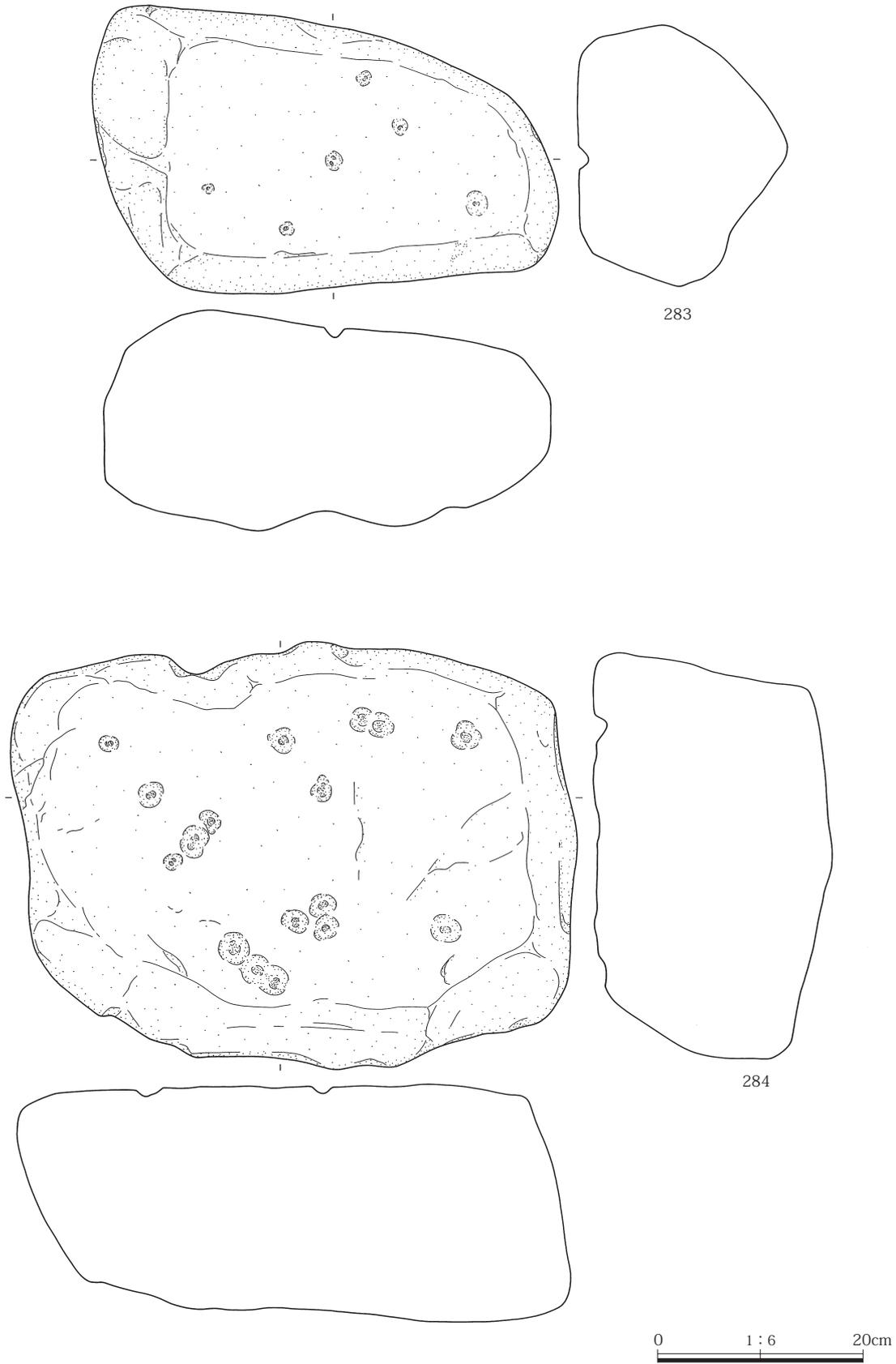
第262図 20区4号列石出土遺物(29)



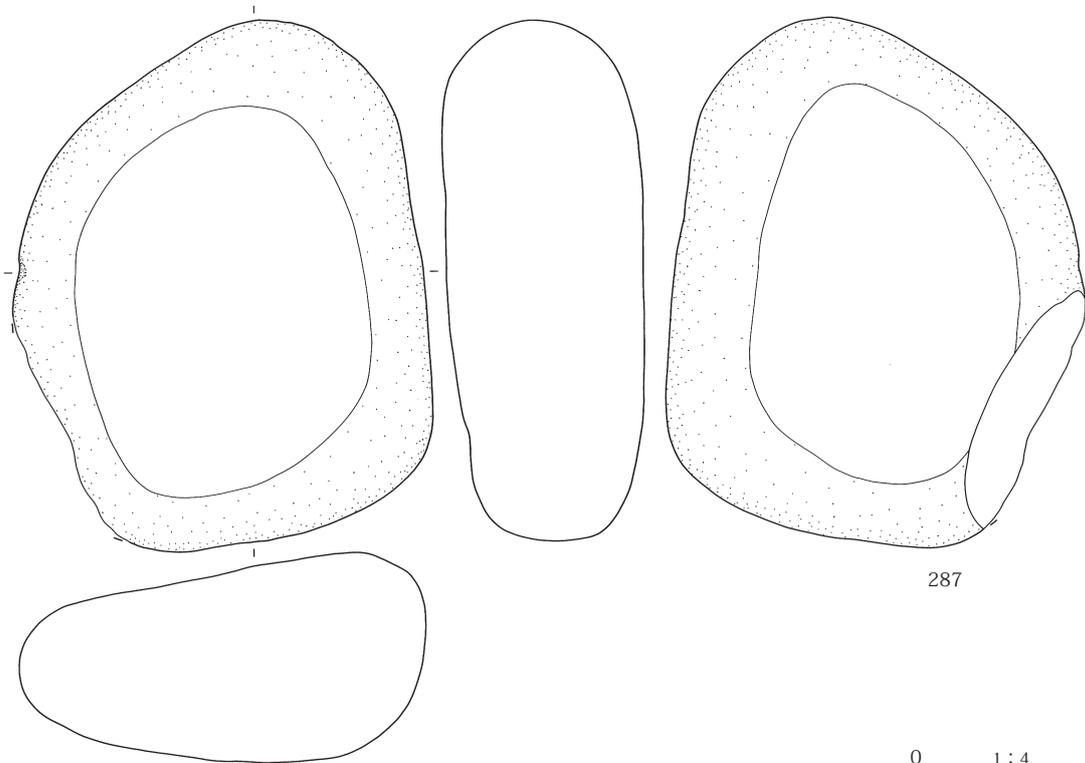
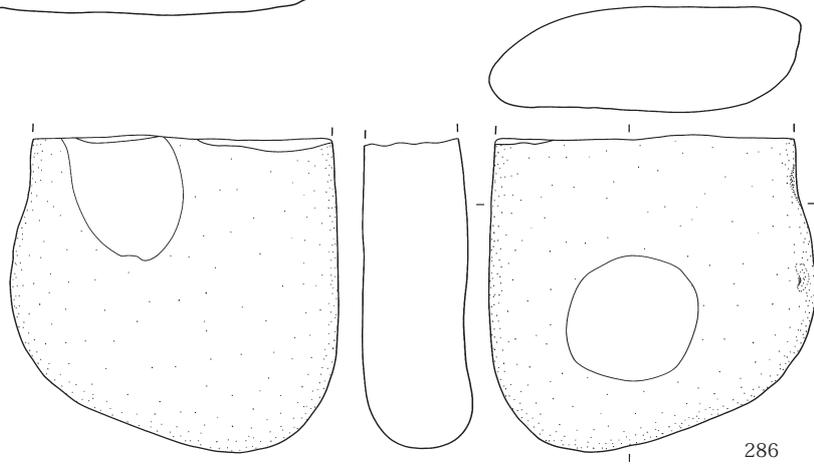
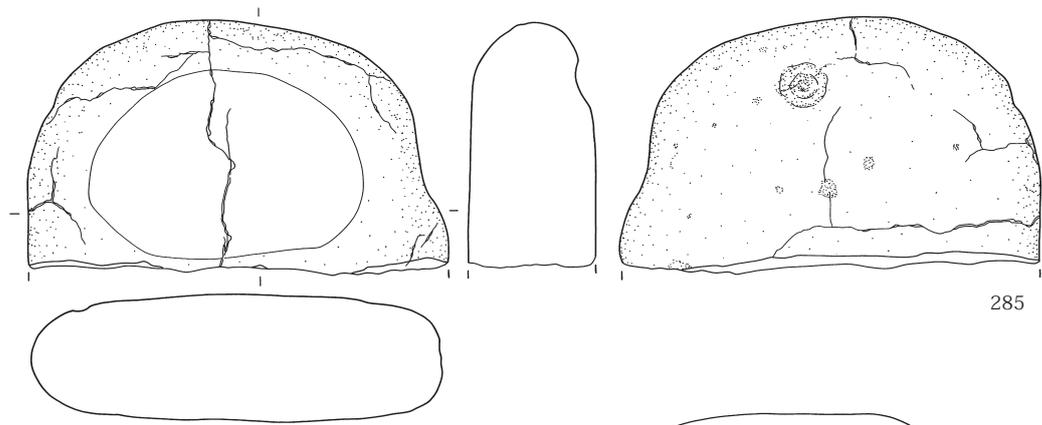
第263図 20区4号列石出土遺物(30)



第264図 20区4号列石出土遺物(31)

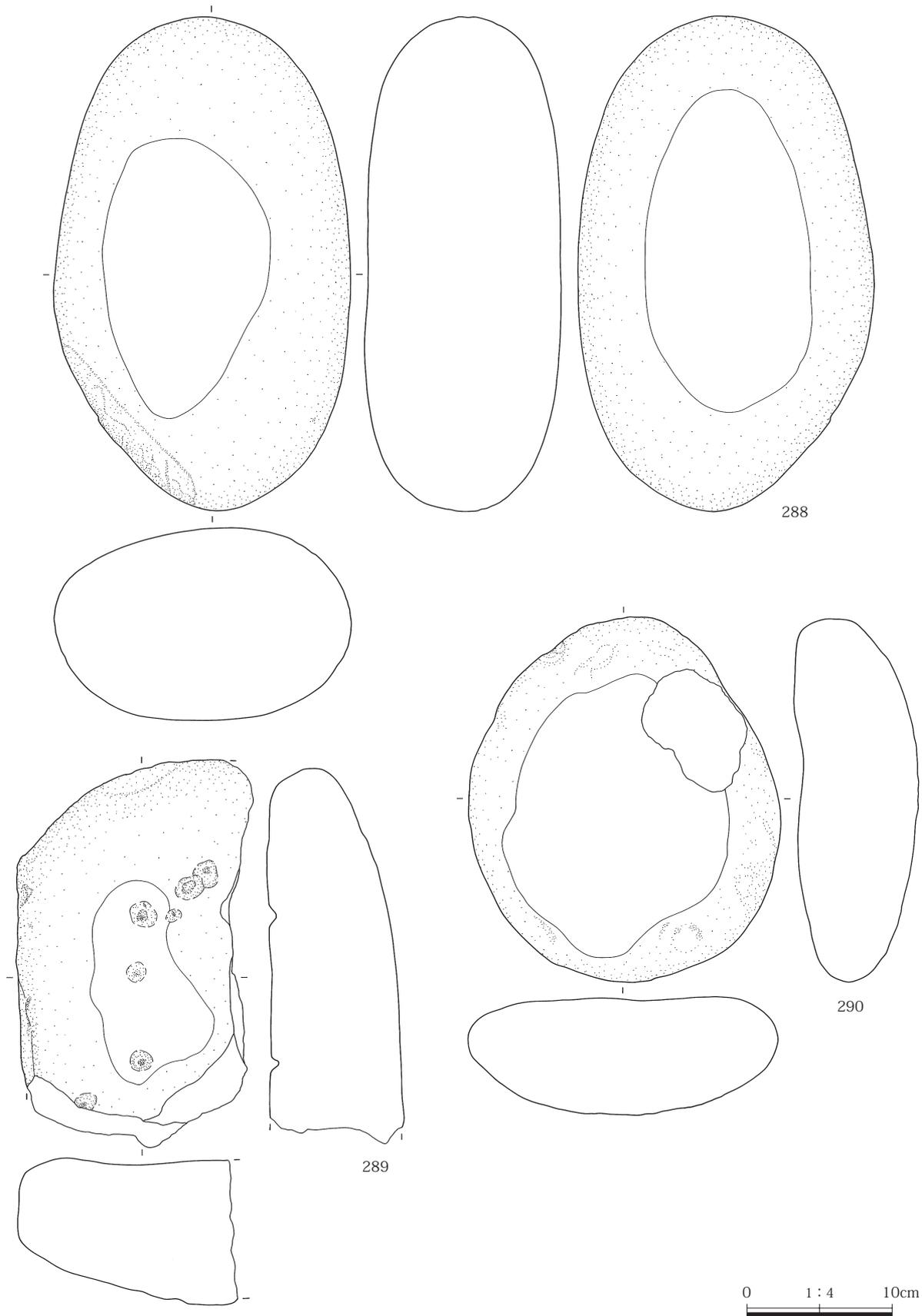


第265図 20区4号列石出土遺物(32)

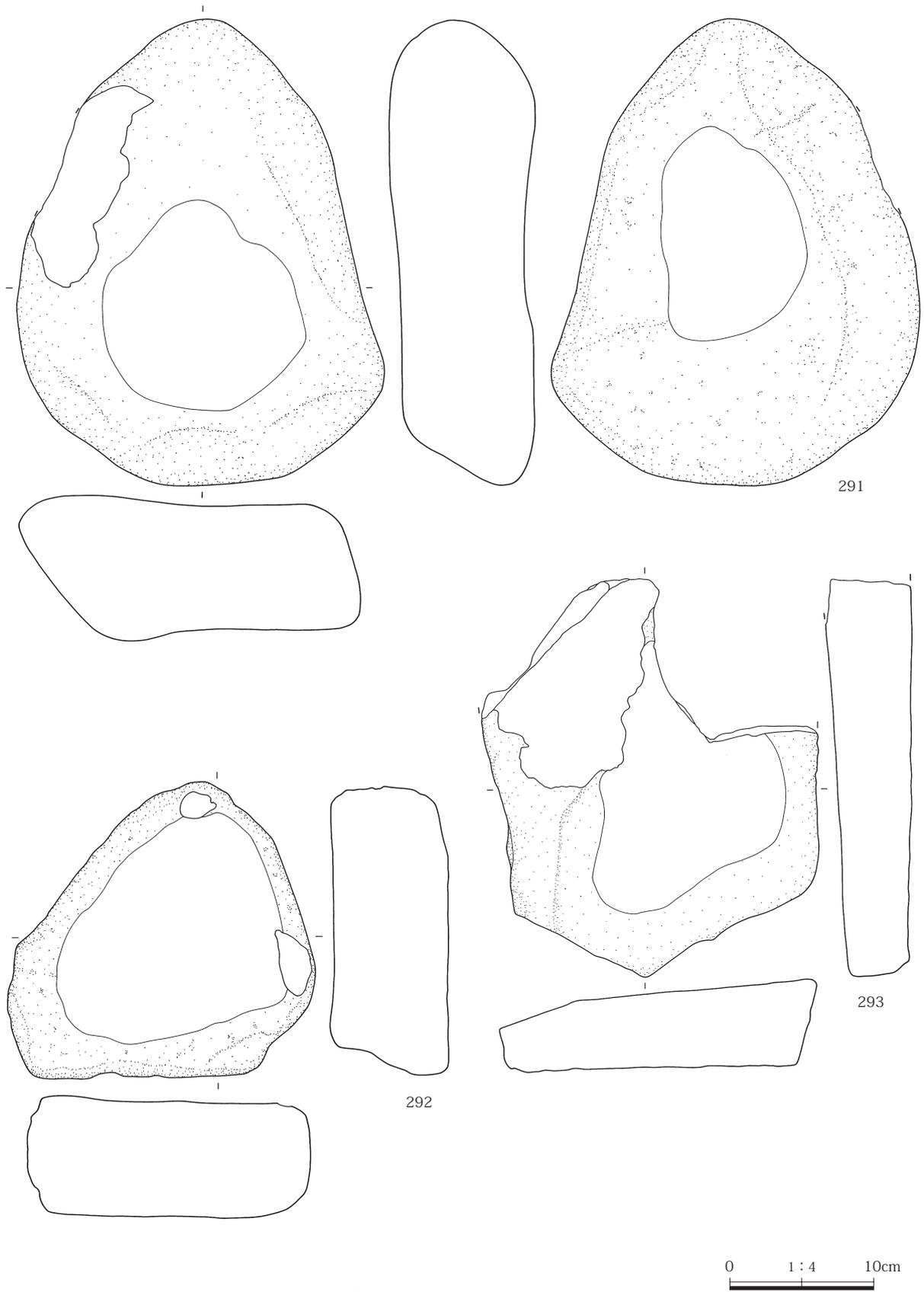


0 1:4 10cm

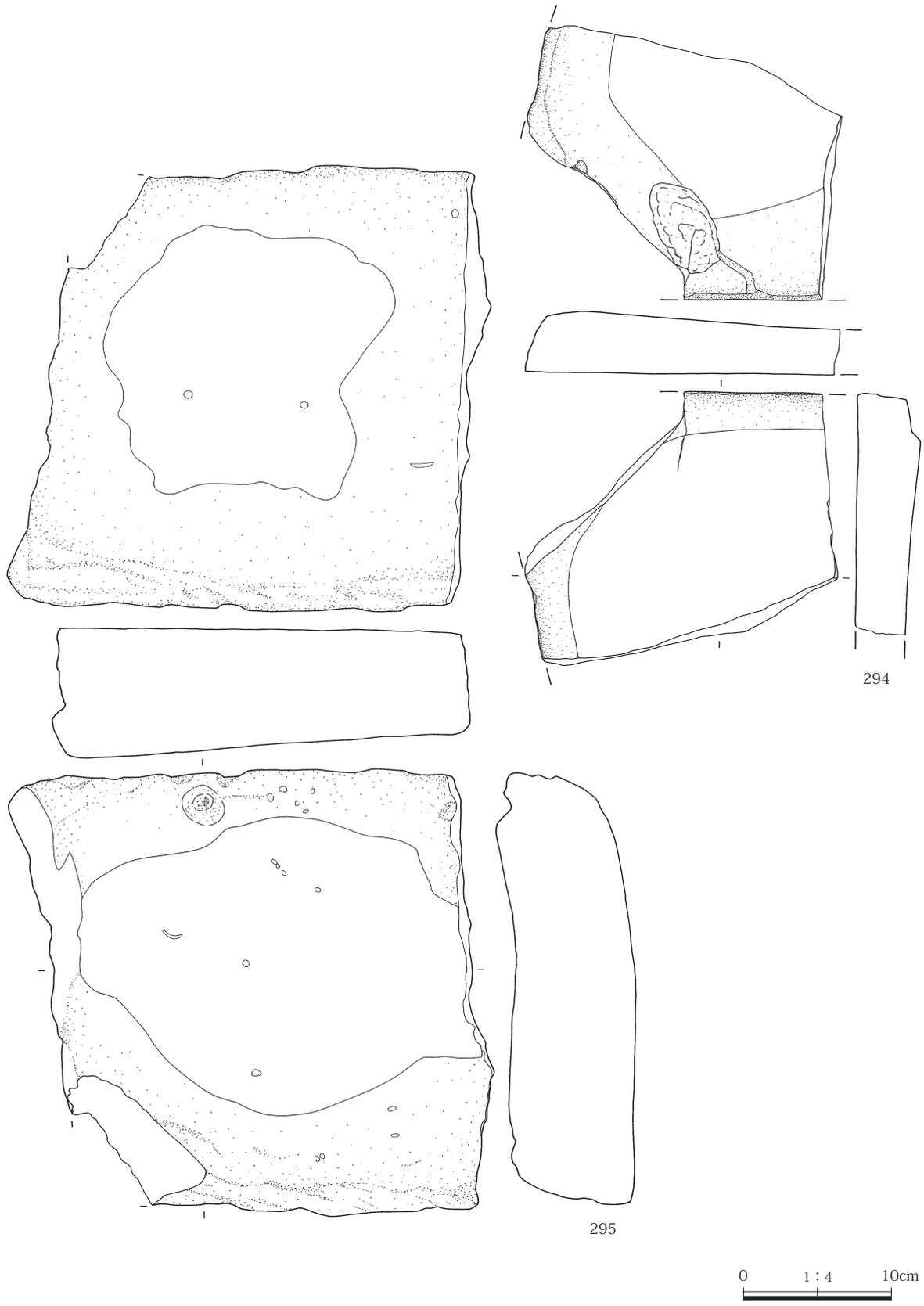
第266図 20区4号列石出土遺物(33)



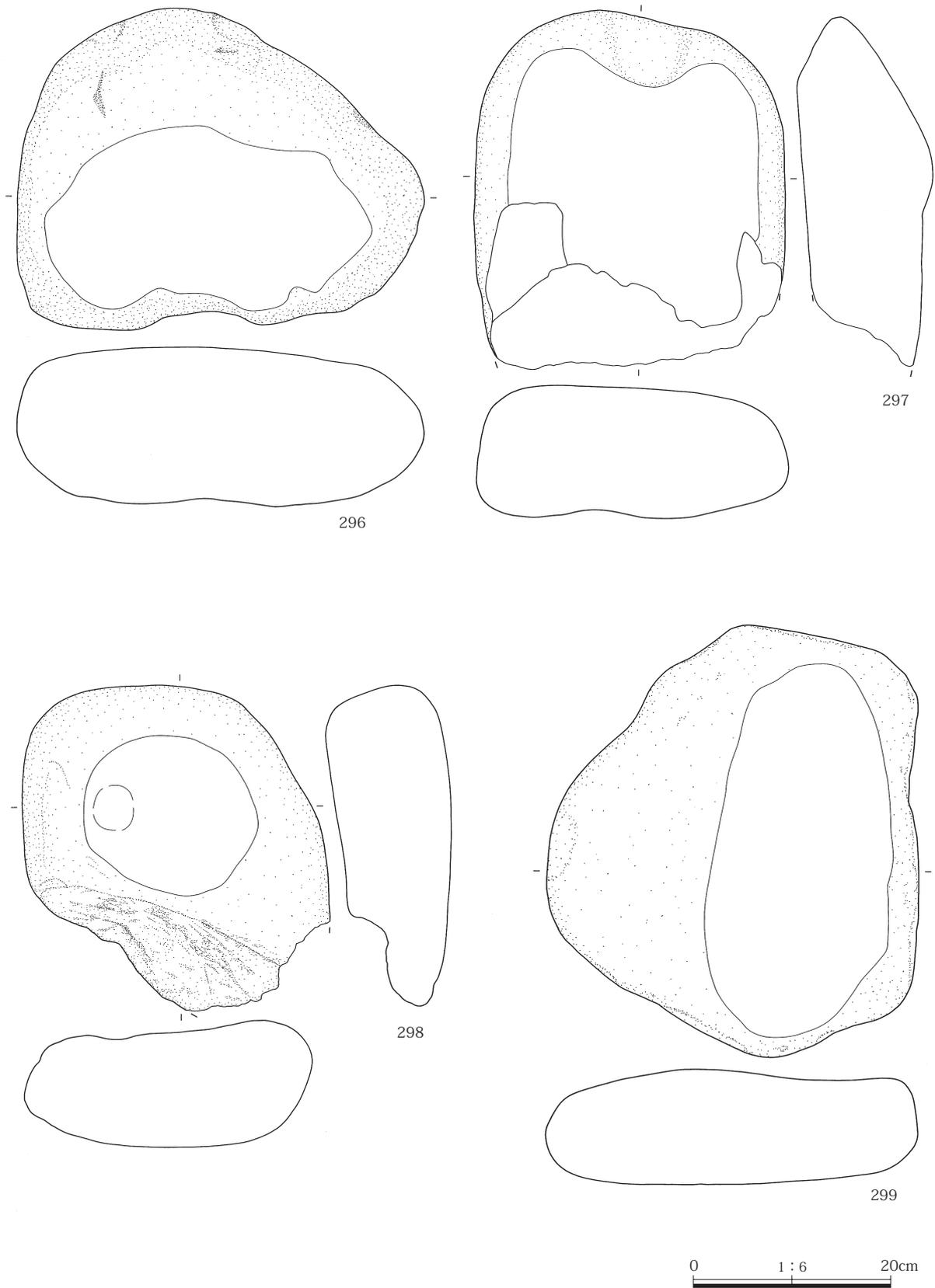
第 267 図 20 区 4 号列石出土遺物 (34)



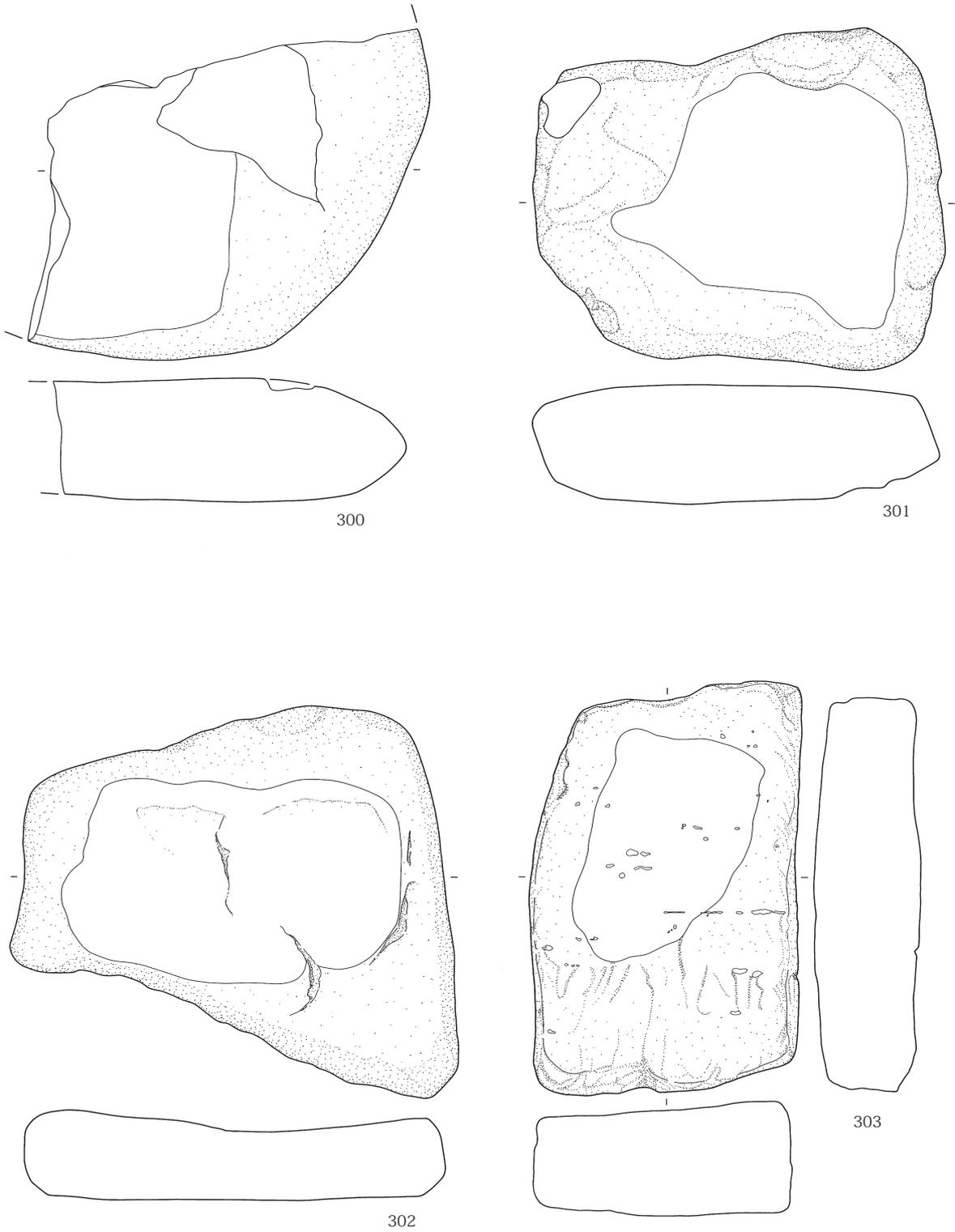
第268図 20区4号列石出土遺物(35)



第 269 図 20 区 4 号列石出土遺物 (36)

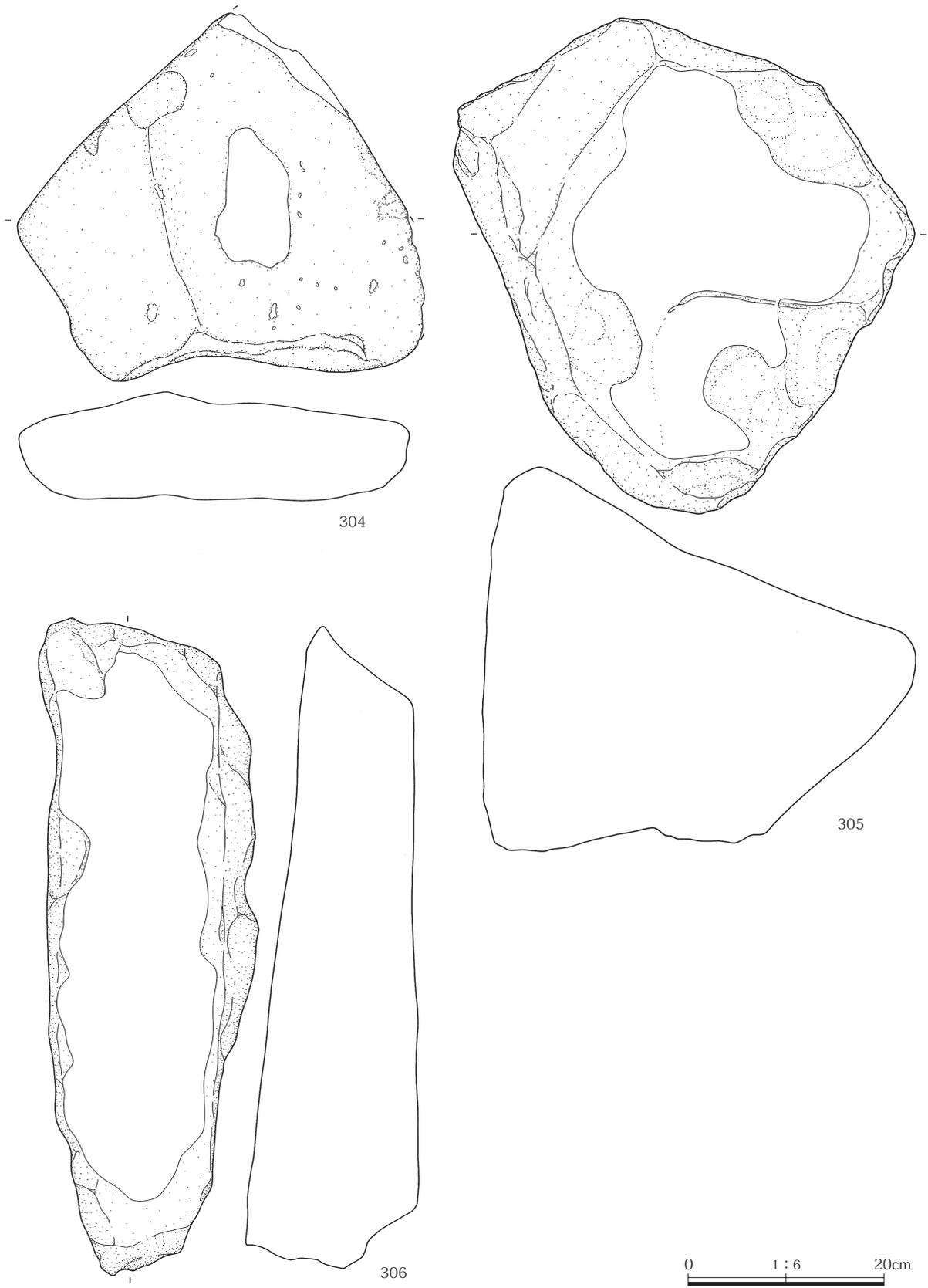


第270図 20区4号列石出土遺物(37)



0 1:6 20cm

第271図 20区4号列石出土遺物(38)



第272図 20区4号列石出土遺物(39)

### 19区3号配石

**調査年度** 平成13・15年度

**位置** V-19グリッド

**経過** 平成13年度に方形の石組みを確認したが、平成13・14年度は調査工程上の理由により調査が行えず、平成15年度に本調査を実施した。

**重複** 重複する遺構はない。20区4号列石の東端が北に湾曲した部分の延長線上に位置するが、4号列石とは重複しない。

**形状** 偏平な礫4石による方形石組みである。南辺は川原石を用い、東・西・北辺は偏平な地山礫を用いている。東・南・西辺の礫は平面形が三角形を呈しており、最大幅40～50cmの礫である。その礫の長辺を上面とし、上面の高さを揃えて垂直に据えている。北辺の礫は長方形を呈し同じく長辺を上にして据えている。検出段階では、南辺の礫は石組み内部である北方向に、西辺の礫は石組み内部である東方向に、北辺の礫は石組みの外である北方向に、東辺の礫は石組み内部である西方向にそれぞれ傾いていた。しかし、これらはその傾く方向が不規則であり、本来は垂直に据えられていたものと推測される。形状は石囲い炉と似るが、4石とも被熱は認められず、覆土にも焼土がほとんど含まれない。そのため炉ではなく配石と認定した。

石組み内部には、10～30cmほどの礫が多数認められるが、その礫には規則性が認められない。後述する本遺跡の他の配石の様相から類推すると、本配石本来の姿は、立石あるいは丸石などが中央部にあり、それを囲むように方形の石組みがなされていたものと考えられる。石組み内部のこれらの礫は、立石などが何らかの理由により取り除かれたのち、内部に詰め込まれたものである可能性がある。

**下部遺構** 長軸102cm、短軸101cmの円形の掘り方が確認された。底面は中央部が周囲と比較して若干浅く、環状を呈している。石組みの礫を据えるためのものであろう。

**石材等** 南辺の1石のみ川原石を用い、東・西・北辺の3石は地山に含まれるものと同様な亜角礫を用い

ている。

**方位** N-20°-E

**遺物** 土器は総数10点が出土している。中期前半1点、堀之内2式1点、加曾利B式1点、後期7点である。石器は出土していない。

**時期** 出土土器は数量が少なく、厳密な帰属時期は決定できない。ただし、20区4号列石や他の配石との関係から縄文時代後期、特に堀之内1式期から加曾利B2式期にかけて構築された遺構と考えておきたい。

### 19区6号配石

**調査年度** 平成13年度

**位置** V-19グリッド

**経過** 表土掘削後の精査中、石棒片や磨石を含む礫の集中する地点があり、配石として調査を実施した。

**重複** 本配石の直下に8号配石があり、さらにその下に59号土坑がある。本配石が両遺構を切る。

なお、8号配石は、分布では本報告で扱う配石の範囲に含まれるが、本配石の下にあり、その標高差も20cmほどあることから、4号列石に付随する配石とは位置づけられず、今回の報告からは除外し、別の機会に報告する。

**形状** 長軸142cm、短軸128cmの範囲に礫が集中して認められる。礫の配置は環状に巡る様子も認められるが不明瞭である。本来の形状からは崩れている可能性が考えられる。本配石の北西部に石棒(15)が出土している。破損品であり、横たわって出土しているが、立てられていた可能性もある。16は15と接合する破片であり、別に同一個体と考えられる石棒片がもう1点出土している。

**下部遺構** 環状に巡る礫の内部に楕円形の掘り込みが認められる。深さは石棒の出土面から30cmである。その規模は長軸79cm、短軸68cm、深さ41cmである。本配石は、土坑の上面に礫を配した配石墓の可能性も考えられよう。

**石材等** ほとんど地山に含まれるものと同様な亜角

### 第3章 発見された遺構と遺物

礫を使用しているが、扁平な礫などを選択して使用している様子は認められない。川原石の小礫が極少量含まれている。

**方位** N-46°-E(下部遺構)

**遺物** 土器は総数124点が出土している。縄文時代中期の土器片が主体を占めるが、加曽利B式土器も一定量出土している。配石下の掘り込みからも加曽利B2式土器が出土している。

1は加曽利B2式期の深鉢である。接合し全体の60%程度が復元されている。接合関係は、本配石出土の土器片が主体であるが、20区4号列石出土の土器片とも接合している。その位置関係は第275図に示した。後述する石棒とも関連し、その位置関係は注目される。

石器は石鏃1点、打製石斧1点、磨石2点、石棒3点があり、他に剥片1点がある。

本配石から出土した石棒3点はすべて同一個体であり、2点(15・16)は接合する。また、他に同一個体と考えられる破片が、19区10号配石(10配-5)および20区4号列石(4列-203)からも出土している。その出土位置は第275図に図示した。本配石出土の破片と4号列石の破片は接合する。その出土位置は直線距離で18.5mある。10号配石の破片は接合はしないが、礫の石質や形態、被熱の状況などから同一個体と同定した。これら破片の出土位置は、4号列石の第232図で加曽利B2式期の土器の出土位置を図示したが、その位置と符合する。加曽利B2式期の活動痕跡の一端を物語るものであろう。中央部および下端を欠失するが、図上で復元した長さで98cmを測る。下端も欠損していることから、本来の長さは1mを超える大型品である。さらに10号配石の破片の上部は、折れ面を再調整したものと考えられ、その本来のサイズはさらに長いことになるであろう。

この石棒は、裏面がやや平坦であり、その面に凹みが認められ多孔石としても使用されている。本配石出土の破片(6配-15)と10号配石出土の破片(10配-5)の両者に、その凹みが認められること

から、多孔石としての利用は欠損前であろう。また、この石棒は被熱し変色している。その部位は、表面側が被熱しており、裏面側は被熱していない。しかも中央の欠損部付近が最も強く被熱していることが観察される。上記のことから本石棒の経過をまとめると次のようになる。

- 1、石棒が製作される。
- 2、上端が欠損する。
- 3、欠損面を再調整する。
- 4、多孔石として利用する。
- 5、平坦な面を下にした横倒しの状態で被熱する。
- 6、破壊される。

7、各出土位置の配石に配られる。欠失する部位もあるため、その移動された範囲はさらに広い可能性がある。

なお、4の多孔石としての利用は2より以前の可能性もある。本例は、石棒の廃棄までの経過が推測できる重要な事例であろう。

**時期** 出土土器は加曽利B2式期を主体としており、本配石は当該期に比定されよう。

#### 19区7号配石

**調査年度** 平成13年度

**位置** V-19グリッド

**経過** 表土掘削後の精査中、5石の礫が密集して検出されたため配石として調査を実施した。

**重複** 重複する遺構はないが、北東に19区6号配石、南東に19区3号配石が隣接する。

**形状** 長軸74cm、短軸68cmの範囲に径25～50cmの礫5石が密集して認められる。北端の1石は川原石であり、やや北に傾くが縦位に据えられている。他の4石は地山に含まれるものと同様な亜角礫を水平に据えている。ただし、その高さは不揃いである。  
**下部遺構** 配石下部に、配石より一回り大きい長軸90cm、短軸85cmの円形の土坑が認められた。深さは18cmである。

**石材等** 1石のみ川原石であり、他の4石は地山に含まれるものと同様な亜角礫を使用している。

方位 ー

**遺物** 土器は総数11点が出土しているが、中期勝坂式を主体とする中期の土器片が多数であり、後期の土器片は1点のみである。位置を記録して取り上げた遺物の多くは本遺構の範囲外であり、ここに報告した遺物の多くは、本来は本遺構とは無関係のものが多くと思われる。また、中期前半の遺物がまとまっており、その時期の遺構を切って本遺構が構築されている可能性も考えられよう。

石器は出土しなかった。

**時期** 出土土器は中期前半を主体としているが、20区4号列石および他の配石との関係から縄文時代後期、特に堀之内1式期から加曽利B2式期にかけての時期に比定される遺構と考えておきたい。

19区10号配石

**調査年度** 平成15年度

**位置** V-18グリッド

**経過** 20区4号列石の調査中に、その移動したと考えられる礫を除去したところ、石棒や多孔石、川原石などが集中する状況が捉えられたため単独の配石として調査を行った。

**重複** 弧状に展開する20区4号列石が北に向き変える地点の内側に位置する。また、堀之内2式期の19区284号土坑の上に重複し、これを切る。

**形状** 石棒、多孔石、円形の偏平川原石、角柱状の地山礫が径80cmほどの範囲に集中して認められる。多孔石(8)以外は、確認面から浮いてしまっている。石棒(第281図10配-5)は6号配石の項で先述したように、6号配石出土の石棒と同一個体と考えられるものである。破損品であり横倒しの状態で出土した。角柱状の礫、川原石も水平に近い状況で出土している。本来は、これらの礫を利用し、石棒を中心とした石組みがなされていたものであろう。それが崩れて移動しているものと考えられる。6号配石において先述したように石棒の破壊行為が行われていることから意図的に破壊した可能性も考えられよう。やや深い位置から出土した多孔石(8)

については、原位置を保っている可能性がある。

**下部遺構** 上部の配石とは南西に若干ずれた位置に土坑が検出された。長軸66cm、短軸54cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは14cmである。多孔石はこの土坑の範囲内に入り、他の礫はこの土坑より北東方向にずれた位置から出土したことになる。

**石材等** 石棒や多孔石などの石器を転用し用いている。他に、長さ15cmほどの棒状の凹石(6・7)もあり、石組みに利用されていたものと思われる。

方位 ー

**遺物** 土器は総数4点である。堀之内2式2点と後期土器片2点である。

石器は石鏃1点(黒曜石1点)、石棒1点、凹石2点、多孔石1点があり、他に剥片3点(黒曜石2点)、碎片1点(黒曜石1点)がある。石棒は第281図にあわせて掲載している。

**時期** 出土土器が少なく、明確な時期比定はできない。ただし、石棒が6号配石出土の石棒と同一個体と考えられることから、6号配石と同一時期の加曽利B2式期と考えておきたい。ただし、石棒が破壊された時期が当該期であり、配石構築時期はそれより遡る可能性もあるが、遺構の重複関係では、堀之内2式期の19区284号土坑を切り、その上に構築されていることから、堀之内2式期よりは以後の構築である。

19区11号配石

**調査年度** 平成15年度

**位置** V-18グリッド

**経過** 20区4号列石の調査中にその移動したと考えられる礫を除去したところ、丸石を中心として偏平な礫が周囲を囲む部分があり、単独の配石として調査を行った。

**重複** 20区4号列石の北側、弧の内側に位置する。また、19区54号住居の上に重複し、これを切る。

**形状** 中心にやや偏平な丸石を立てて据え、その周囲を5石の偏平な礫が取り囲んでいる。その規模は長軸80cm、短軸56cmである。検出状況からは、

### 第3章 発見された遺構と遺物

これら周囲の5石の配置は若干移動している可能性が考えられ、本来は、方形あるいは円形に配置されていたものと推測される。また、周囲の礫は立っているもの、斜めになっているもの、横倒しのものが認められるが、本来はすべて立っていた可能性が高いと考えられる。

なお、本配石に接して、その東側に小型の丸石がもう1石認められる。

**下部遺構** 配石直下に長軸80cm、短軸68cmの不整な方形を呈した掘り込みが検出された。深さは検出面から24cmである。中央の丸石の下から掘り込み底面までは6cmほどである。配石構築のための掘り方に相当しよう。

**石材等** 中央の丸石は花崗閃緑岩の川原石。周囲を取り巻く5石は、鉄平石が1石、偏平な地山礫が4石である。その他に径5cmほどの小円礫が認められる。

**方位** N-23°-E

**遺物** 土器は総数6点が出土している。すべて縄文時代後期の土器片と考えられるが、小破片であり凶化は行っていない。

石器は磨石1点、剥片3点(黒曜石1点)、碎片1点がある。

**時期** 出土遺物から明確な時期比定はできないが、他の配石および列石、住居跡との関係から堀之内1式期から加曽利B1式期の間に構築されたものと考えたい。重複する19区54号住居は堀之内1式期の住居であり、これよりも後出である。また、4号列石の最終段階においては4号列石の中に完全に埋没するような状況で検出されているため、4号列石の継続期間内にはその役割を終えていたものと考えられよう。

#### 19区12号配石

**調査年度** 平成15年度

**位置** W・X-18グリッド

**経過** 20区4号列石の調査中、列石の礫を除去している段階で、立石を確認したため配石として調

査を実施した。配石としての認定は16号配石より先に行っているが、調査の進展に伴って16号配石が本配石を切っていることが判明した。そのため、一部開始していた調査を中止し、先に16号配石の調査を実施し、その後に調査を再開した。

**重複** 20区4号列石の礫の下から確認された。また、19区16号配石に切られ、19区54号住居の上に重複する。

**形状** 中央に立石を据え、その周囲に方形石組みを2重に巡らしている。中央の立石は、長さ70cm、太さ18cmの三角柱状を呈した礫を使用し、出土時は若干北に傾くが立ったままの状態であった。二重の方形石組みはすべて偏平な礫を使用している。まず、偏平な礫4石を垂直に立て方形に配し、その後、内側の石組みを行っている。なお外側の石組みの礫は長さ40～55cmの偏平な川原石を用い、規模は東西72cm、南北68cmである。また南東隅には棒状の川原石が直立で組み込まれている。内側の石組みは東・南・北辺の3石のみであり、西辺には礫が認められない。これは18区16号配石に切られるためであり、本来は方形に組まれていたものと考えられる。使用された礫の大きさは35～45cmであり、外側の石組みより一回り小さい礫を使用している。礫の傾きはすべて外開きに傾いた状態で出土している。これが本来の形状なのか、直立していたものが傾いたものかは判断できなかった。立石の高さは検出面で30cm、外側の石組みの上面が地上に露出していたと考えた場合には50cmほどが地上に屹立していたものと考えられる。

**下部遺構** 長軸130cm、短軸98cmの楕円形の掘り込みが確認された。深さは確認面から40cmである。配石の礫との位置関係から石組みを構築するための掘り方と想定されよう。

**石材等** 中心の立石と外側の石組み東辺の1石は地山に含まれるものと同様な亜角礫を用いている。その他の石組みに使用された礫はすべて川原石である。本遺跡の配石の中では、川原石の選択率が高い配石である。

**方位** N-10°-E

**遺物** 土器は総数7点が出土している。加曽利E3式4点、後期の土器片3点である。石器は削器1点のみである。

**時期** 出土遺物が少なく明確な時期比定はできない。他の配石および列石、住居跡との関係から堀之内1式期から加曽利B1式期の間に構築されたものと考えたい。重複する19区54号住居は堀之内1式期の住居であり、これよりも後出である。また16号配石は加曽利B2式期の配石と考えられ、これよりは以前である。さらに、4号列石の最終段階においては4号列石の中に完全に埋没するような状況で検出されているため、4号列石の継続期間内にはその役割を終えていたものと考えられよう。

#### 19区13号配石

**調査年度** 平成15年度

**位置** X-18グリッド

**経過** 20区4号列石の調査中、列石の礫を除去している段階で、円形の川原石を棒状の礫が取り囲む様子が確認され配石として調査を行った。

**重複** 20区4号列石の北に位置し、19区15・17号配石の間に位置する。

**形状** 中心に径48cm、厚さ14cmの偏平な円形川原石を水平に据え、その周囲を長さ20～30cmのやや細長い礫6石を用いて圍繞する。周囲の礫まで含めた規模は長軸84cm、短軸72cmの円形である。

中央の円形川原石の西隣にある礫は、19区14号配石の中心に据えられた立石の頂部が折られたものであり、接合することが確認されている。その位置関係は第277図に示した。意図的にこの位置に配置したのかどうかは不明である。

本配石の西部はこの立石の破片により乱されているものと考えられ、圍繞する礫も認められない。14号配石の西部は本来の形状を保っていないものと考えられよう。

なお、第274図の破線の外側に認められるその他の礫は、本配石とは関連のないものと判断したもの

である。20区4号列石の礫が崩れたもの、あるいは積み足されたものと考えられる。

**下部遺構** 長軸89cm、短軸71cmの楕円形の掘り込みが確認された。深さは確認面から14cmである。配石の礫との位置関係から配石の掘り方と考えられる。

**石材等** 中央の礫は川原石を用い、圍繞する礫も川原石を5石と多用し、1石のみ鉄平石を使用している。

**方位** N-15°-E

**遺物** 土器および石器は出土しなかった。

**時期** 出土遺物がなく明確な時期比定はできない。ただし、他の配石および列石、住居跡との関係から堀之内1式期から加曽利B1式期の間に構築されたものと考えたい。4号列石の最終段階においては4号列石の中に完全に埋没するような状況で検出されているため、4号列石の継続期間内にはその役割を終えていたものと考えられよう。

#### 19区14号配石

**調査年度** 平成15年度

**位置** Y-18グリッド

**経過** 20区4号列石の調査中、列石の礫を除去している段階で、棒状の川原石を偏平な川原石が取り囲む様子が確認され配石として調査を行った。

**重複** 20区4号列石の北に位置し、19区15号配石の西に位置する。15号配石とは一部重複していると考えられるが、切り合い関係は不明である。

**形状** 中央に立石を据え、その周囲に同心円状に礫を3重に配している。全体の規模は径120cmの円形である。中央の立石は、長さ90cm、太さ25cmの棒状の川原石を用いている。調査時は、この礫は3分割された状態で出土した。基部は、長さ約54cmが北に約45度傾いて埋まっていた。中位の部分は、ほぼ180度回転して基部の北に移動して出土した。また、最上部の破片は約250cm東に離れた19区13号配石の脇から出土している。その位置は第277図に示した。配石を構築後、列石が最終的に廃絶するまでのいずれかの段階で意図的に折られたものと考え

### 第3章 発見された遺構と遺物

えられる。立石の破片3点を復元し立てると60cmほどが地上に露出していたと考えられる。また、立石に用いられた礫の南側の面の中ほどには、1孔の凹みが認められる。この凹みは、人工的なものではなく自然の凹みであるが、当時の人々が意図的に選択して立石に用いた可能性も考えられよう。

立石周囲の石組みは、やや崩れているが3重に配されている。3重のなかで基本となっているものは2重目である。長さ40～50cmの偏平な川原石4石を立位で使用して方形に石組みを行っている。1重目は立石と2重目の間に充填されている。長さ15～20cmの礫6石が用いられている。立位のもの、横置きのもの両者がみられる。3重目は15～25cmの礫7石を立位で用いている。配置からは八角形を呈していたと考えられ、北東にもう1石あったものと思われる。

**下部遺構** 長軸110cm、短軸105cmの方形の掘り込みが確認された。深さは、確認面から36cmである。配石の礫との位置関係から、配石の掘り方と考えられよう。

**石材等** 中央の立石と2重目の石組みは川原石を使用している。また1重目の石組みには、川原石2石、鉄平石2石、地山礫2石と多様な石を用い、3重目は1石のみ川原石を用いるほかは偏平な地山石を使用している。

**方位** N-27°-E

**遺物** 土器は総数6点であり、中期が4点、後期が2点である。石器は台石1点がある。

**時期** 出土遺物が少なく明確な時期比定はできない。ただし、他の配石および列石、住居跡との関係から堀之内1式期から加曾利B1式期の間に構築されたものと考えたい。なお、本配石は4号列石の第227図で示した列石の基礎となる石列の④と接しており、この石列を構築する際に、本配石の立石を破壊した可能性も考えられる。そのように想定した場合、本配石は20区4号列石の①・②あるいは③のどちらかの石列に伴う配石と考えることができよう。

### 19区15号配石

**調査年度** 平成15年度

**位置** Y-18グリッド

**経過** 20区4号列石の調査中、列石の礫をはずしている段階で、丸石を中心に礫が方形に取り囲む様子が確認されたため配石として調査を行った。

**重複** 20区4号列石の北に位置し、19区14号配石の東に位置する。14号配石とは一部重複していると考えられるが、切り合い関係は不明である。

**形状** 径25cmのやや楕円体の丸石を中央に据え、その周囲を地山礫が囲んでいる。東側の礫が認められないが、方形に石組みされていたものと考えられる。全体の規模は長軸84cm、短軸82cmの方形である。中央の丸石の南に面する面の中央には、凹みが認められる。14号配石の立石にも南面に同様な凹みがあり類似性が窺える。

**下部遺構** 長軸75cm、短軸63cmの円形の掘り込みが配石直下に確認された。深さは確認面から28cmである。配石の礫は掘り込みの上位に認められ、下部土坑と考えられる。土坑内からは、丸石の直下にあたる箇所から堀之内2式期の鉢(15配-1)が横位で1点出土している。若干つぶれているがほぼ形状を保っており、空洞無く埋め戻されたのち、上位に配石が構築されたものと考えられる。

**石材等** 中央の丸石は川原石を用い、周囲の石組みは地山に含まれるものと同様な亜角礫を用いている。

**方位** N-13°-E

**遺物** 土器は総数7点が出土している。1は堀之内2式期の鉢であり、全面研磨され丁寧に作られている。内面に文様を施している。

石器は剥片4点(黒曜石2点)、碎片3点(黒曜石3点)が出土している。

**時期** 下部遺構から出土した土器は堀之内2式期に比定され、本配石は当該期に比定されよう。なお4号列石の最終段階では4号列石の中に完全に埋没しているため、4号列石の継続期間内にはその役割を終えていたものと考えられよう。

### 19区16号配石

**調査年度** 平成15年度

**位置** X-18グリッド

**経過** 20区4号列石の調査中、列石の礫をはずしている段階で、多数の偏平な礫の側面が立てられており、その内側に小円礫の集中が認められたことから、配石として調査を行った。

**重複** 20区4号列石の北、19区12号配石の西に位置し、12号配石を切る。

**形状 1面目** 偏平な礫が立っている、あるいは傾いている範囲を配石の範囲として扱った。当初20区4号列石の一部が崩れたものという見解であったため、本来は本配石に伴う礫を除去してしまっている可能性もある。配石として認定した時点での規模は、長軸140cm、短軸132cmの不整な円形を呈している。使用されている礫は30～50cmほどの偏平な礫であり、その多くが立位あるいは傾いて出土している。本来はすべて直立していた可能性もある。礫の立つ方向は不規則であるが、南北方向に長軸を取るものが比較的多く認められる。また、これらの礫の間には、径3～10cmほどの小円礫が多く認められる。特に中心部に密集している。

**2面目** 配石上位の礫を除去したところ、掘り込みが確認された。その掘り込み内にも多くの偏平な礫が認められ、やはり大部分は直立あるいは傾いた状態で出土した。ただし小円礫は認められない。

**3面目** 2面目の礫を除去したところ、さらに北側に直立状態の礫が検出された。使用される礫は1・2面目と比較しやや小ぶりなものが多く、小円礫は含まれない。

**下部遺構** 最終的に長径214cm、短径130cm、深さ43cmの楕円形の掘り方が検出された。掘り方の底面は3面目とした部分が浅く、1・2面目の範囲との境界に段差をもつことから、2基の配石が重複していた可能性も考えられるが、調査時点では判別できなかった。

**石材等** 直立あるいは傾いて出土したやや大型の礫のほとんどは地山に含まれるものと同様な垂角礫で

あり、最南端に位置する1石のみ川原石を使用している。小円礫はすべて川原石である。

**方位** N-2°-E

**遺物** 土器は総数38点が出土しており、中期土器片の他に堀之内1・2式、加曽利B2式の土器片が出土している。石器は剥片3点(黒曜石1点)、碎片5点(黒曜石5点)がある。

**時期** 出土土器は堀之内1式期から加曽利B2式期を含むが、配石上面だけでなく、配石下位の掘り込みからも加曽利B2式土器が出土していることから、本配石は加曽利B2式期に比定されよう。

### 19区17号配石

**調査年度** 平成15年度

**位置** X-18グリッド

**経過** 20区4号列石の礫をほぼ除去した段階で、偏平な円形川原石を検出し、その外側に掘り込みの輪郭が確認できるため配石として調査を行った。

**重複** 20区4号列石の北、19区13号配石と16号配石の間に位置する。13号配石とは掘り方が重複するが切り合いは不明である。

**形状** 径39cm、厚さ11cmの偏平な円形川原石を中心とし、その東に直立状態の川原石、北に偏平な地山礫が認められる。円形川原石は約45度傾いて出土しているが、本来は水平に据えられていたものと考えられる。周囲の礫も2石だけではあるが、他の配石から類推すると、方形に石組みされていた可能性が考えられよう。

**下部遺構** 長軸94cm、短軸74cm、深さ36cmの掘り込みが検出された。配石の礫は掘り込み上位に認められるため、下部土坑と考えられる。

**石材等** 中心に偏平な円形川原石、周囲に川原石と地山に含まれるものと同様な垂角礫を使用して構築している。

**方位** N-45°-E

**遺物** 遺物は出土しなかった。

**時期** 出土遺物がなく明確な時期比定はできない。ただし、他の配石および列石、住居跡との関係

### 第3章 発見された遺構と遺物

から堀之内1式期から加曾利B1式期の間に構築されたものと考えたい。4号列石の最終段階においては4号列石の中に完全に埋没するような状況で検出されているため、4号列石の継続期間内にはその役割を終えていたものと考えられよう。

#### 20区20号配石

**調査年度** 平成13年度

**位置** A・B-18グリッド

**経過** 4号列石調査中、上部の礫を除去している段階で、立石を確認したため配石として調査を実施した。

**重複** 20区4号列石の北に位置するが、4号列石の最終段階では、その中に完全に埋没している。

**形状** 中心に長さ40cm、径18cmの礫を立て立石とし、その周囲に10～15cmの礫5石を配している。南側は4号列石の基礎と考えられる石列⑤に接して構築され、立石を囲繞する礫は認められない。石列⑤構築時に破壊された可能性も考えられる。全体の規模は長軸52cm、短軸50cmである。

**下部遺構** 立石の掘り方のみで、土坑などは確認されていない。

**石材等** 立石は川原石を用い、周囲の5石は地山に含まれるものと同様な亜角礫である。

**方位** —

**遺物** 遺物は出土しなかった。

**時期** 出土遺物がなく明確な時期比定はできない。ただし、他の配石および列石、住居跡との関係から堀之内1式期から加曾利B1式期の間に構築されたものと考えたい。

なお形状の項でも記述したように4号列石の基礎となる石列⑤により破壊された可能性も考えられ、それ以前の構築の可能性が高い。また4号列石の最終段階においては4号列石の中に完全に埋没するような状況で検出されているため、4号列石の継続期間内にはその役割を終えていたことは明らかであろう。

#### 20区22号配石

**調査年度** 平成15年度

**位置** A-18グリッド

**経過** 20区4号列石および71号住居の敷石を除去中に横倒しになった棒状礫を偏平な礫4石が取り囲む様子が確認されたため配石として調査を実施した。

**重複** 71号住居の出入り口部と重複し、これに切られる。

**形状** 中央の棒状礫は長さ58cm、径24cmの川原石である。南北方向に横倒しの状態で検出された。周囲の礫は、4石とも偏平な礫であり、東西南北の4辺を区画している。礫の出土状態は、東辺礫は若干西側に傾くがほぼ直立、西辺は西に傾く斜位、南辺・北辺の礫はほぼ水平に検出された。配石には、径10～20cmほどのその他の礫も伴うが、これらは4号列石に伴う可能性が高く、本配石は基本的にこの5石で構成されていると考えられる。また、構築時は、中央の棒状礫と周囲の4石は垂直に立てられていたものと想定され、立石を中心とした配石と考えられる。それが、後に4号列石の礫の積み足しあるいは71号住居構築時に破壊されたものであろう。

**下部遺構** 配石下部に土坑状の掘り込みが確認された。長軸132cm、短軸128cmの不整な方形を呈する。配石の礫は、この掘り込み底面より若干浮いた位置から検出されているが、配石が倒れていることに起因するものと考えられ、この掘り込みは配石の掘り方に相当するものと想定される。

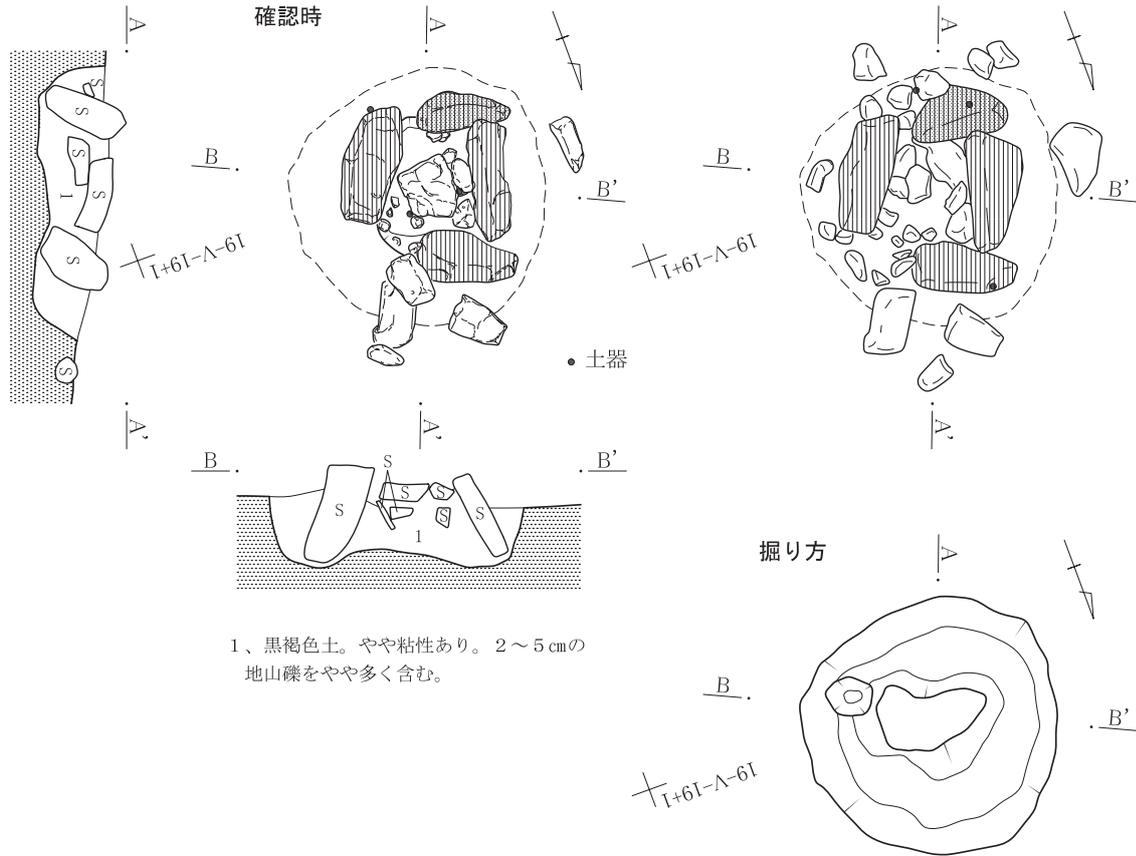
**石材等** 中央の棒状礫と南・北辺の礫は川原石、東・西辺の礫は地山礫を使用している。

**方位** N-21°-E

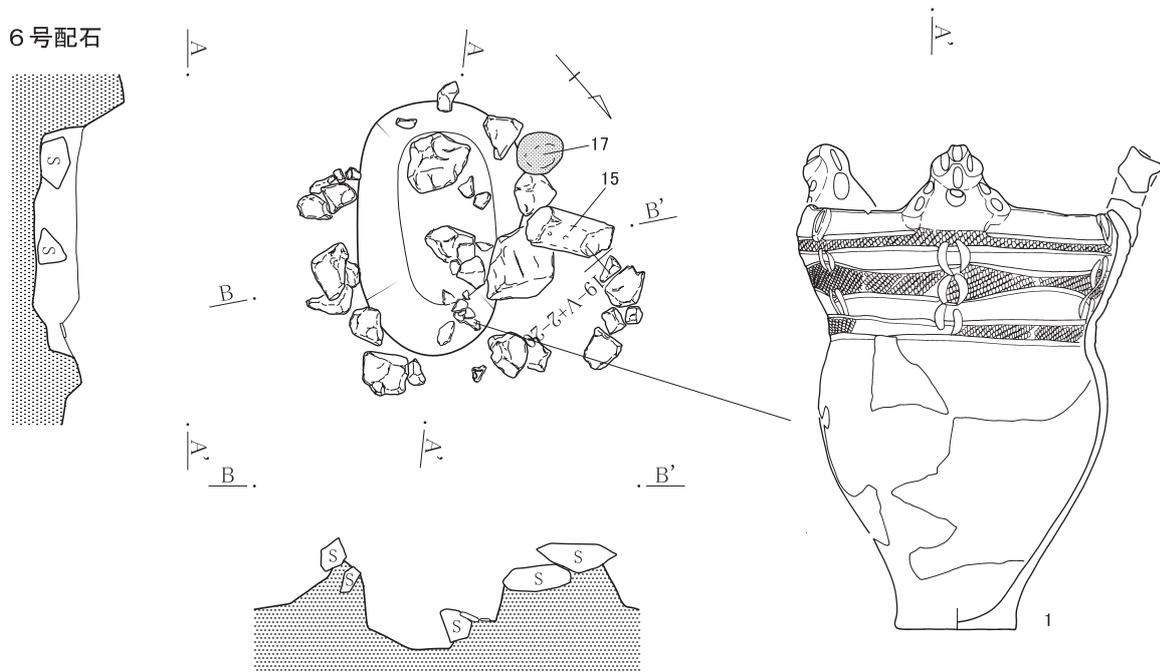
**遺物** 土器は総数7点が出土し、堀之内2式期の遺物が確認されている。石器は出土しなかった。

**時期** 出土遺物が少なく明確な時期比定はできない。ただし、堀之内2式期の土器が出土しているため、それ以降の構築と考えられる。また、71号住居の出入り口部の下位に重複しているため、71号住居の帰属時期である加曾利B1式期よりは以前の構築と言える。

3号配石



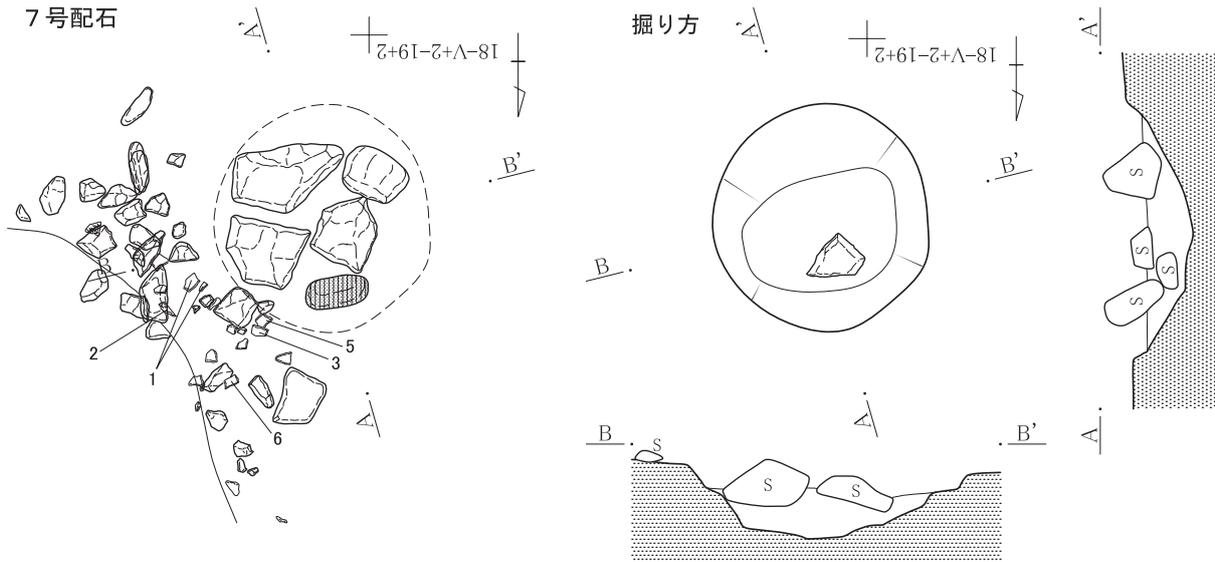
6号配石



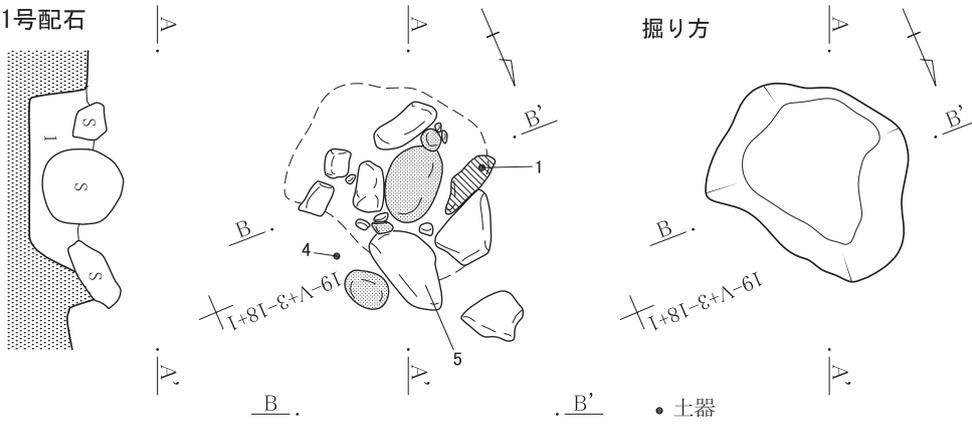
第273図 19区3・6号配石

第3章 発見された遺構と遺物

7号配石

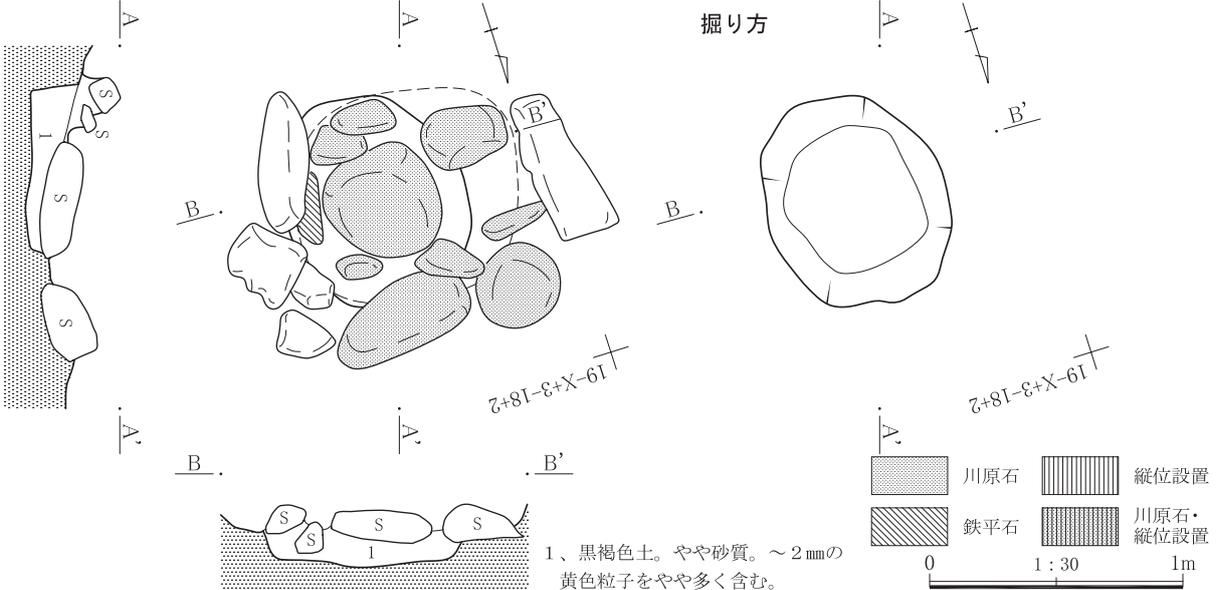


11号配石



1、黒褐色土。やや粘性あり。炭化物を少量含む。

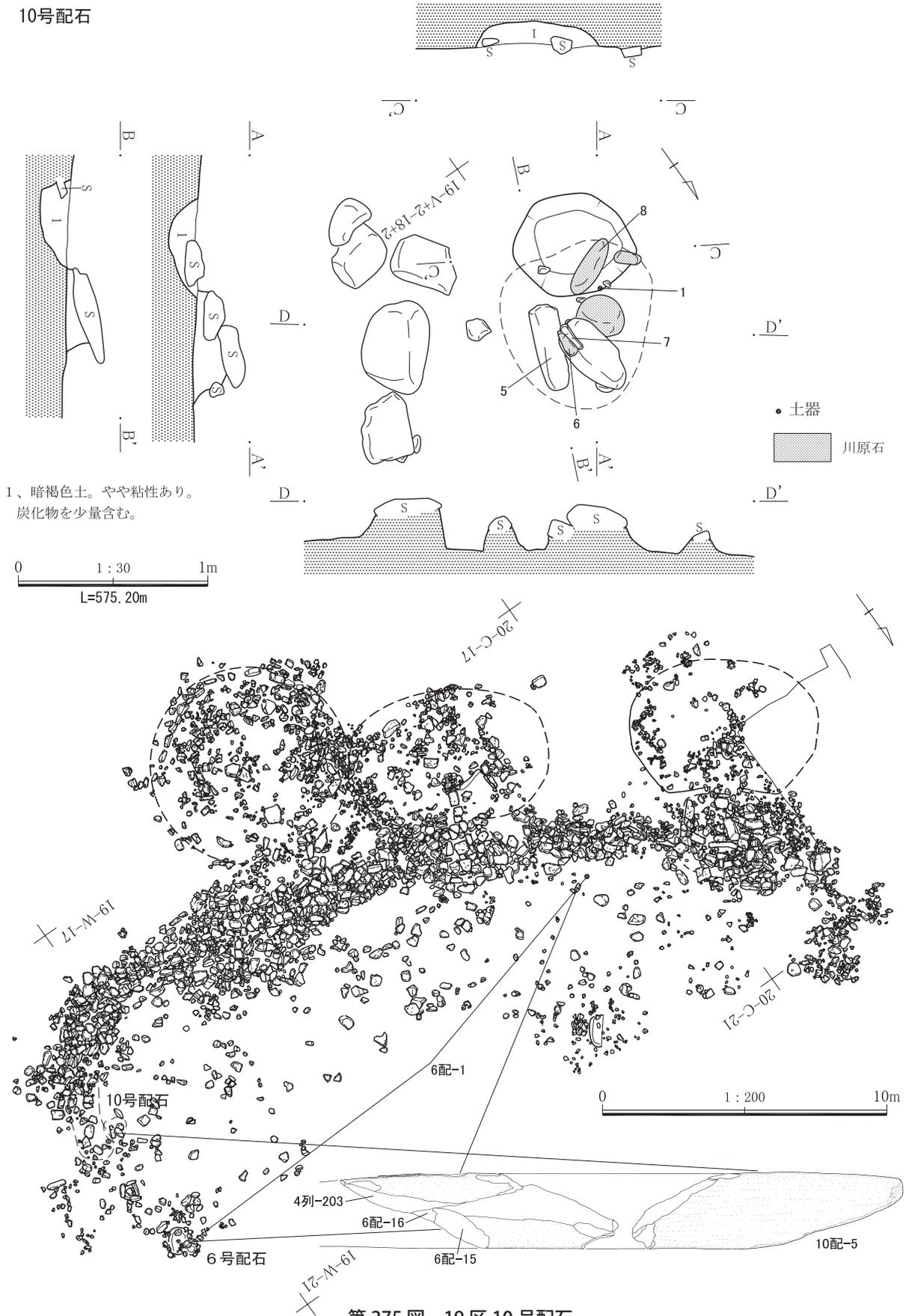
13号配石



1、黒褐色土。やや砂質。～2mmの黄色粒子をやや多く含む。

第274図 19区7・11・13号配石

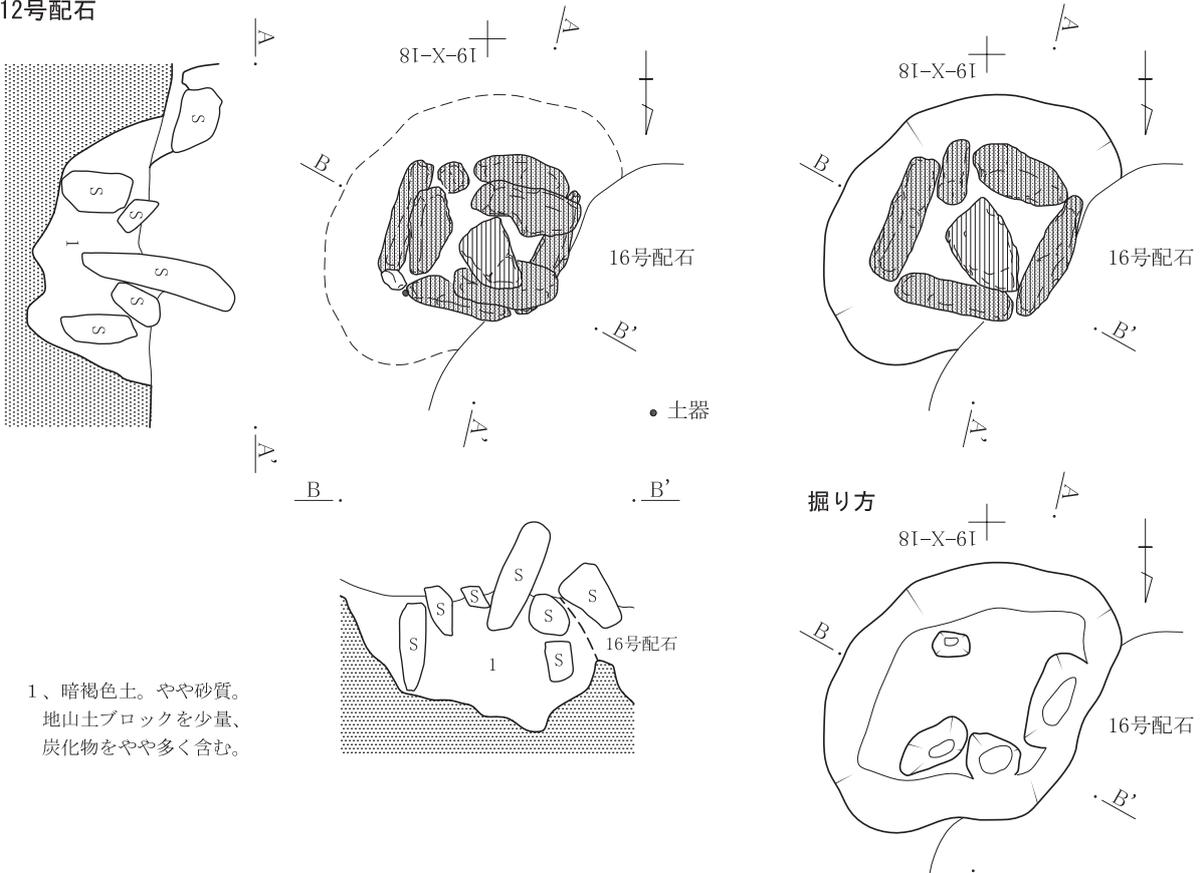
10号配石



第275図 19区10号配石

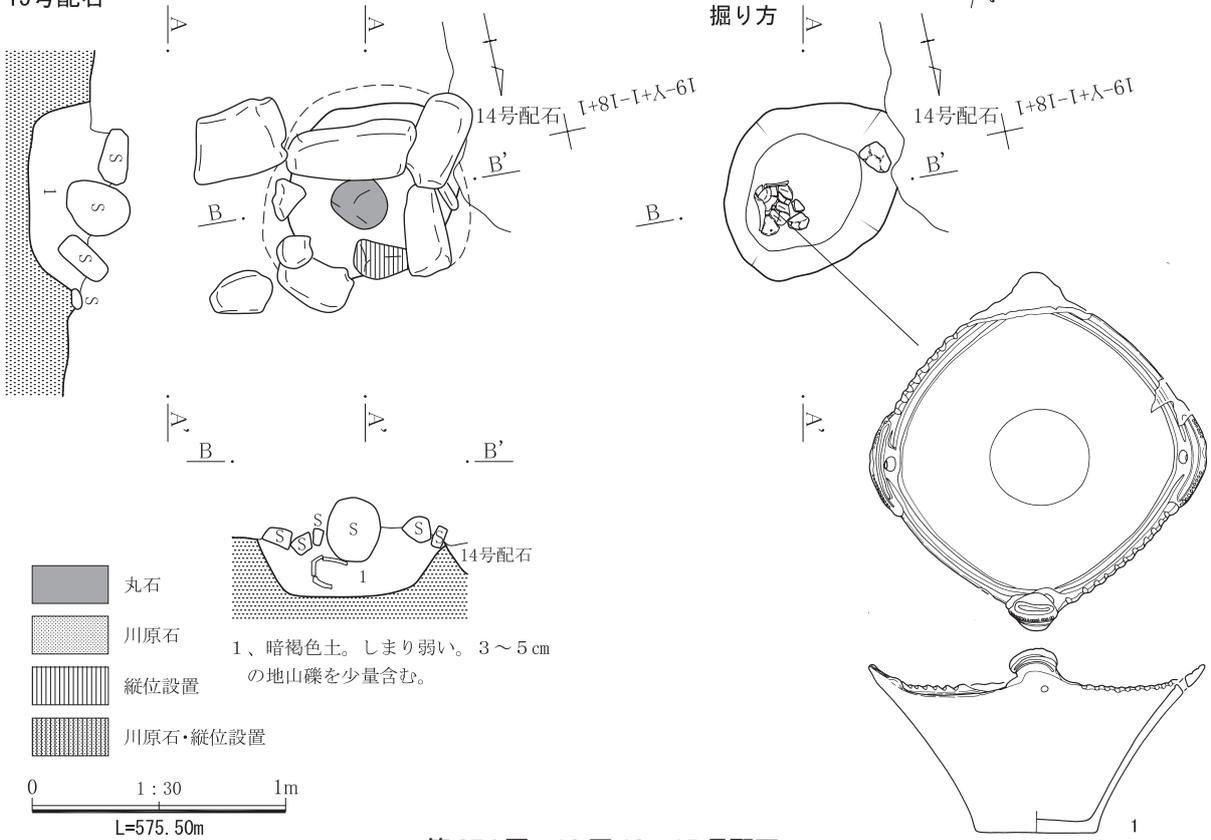
第3章 発見された遺構と遺物

12号配石



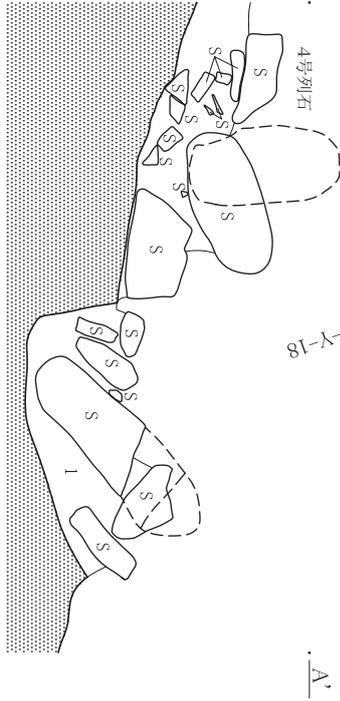
1、暗褐色土。やや砂質。  
地山土ブロックを少量、  
炭化物をやや多く含む。

15号配石

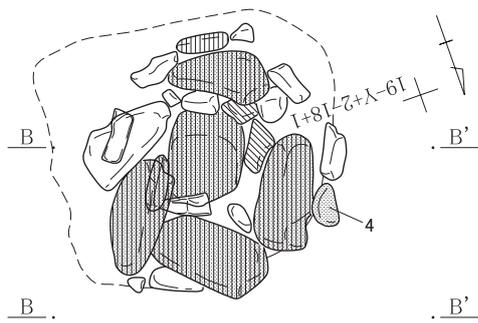
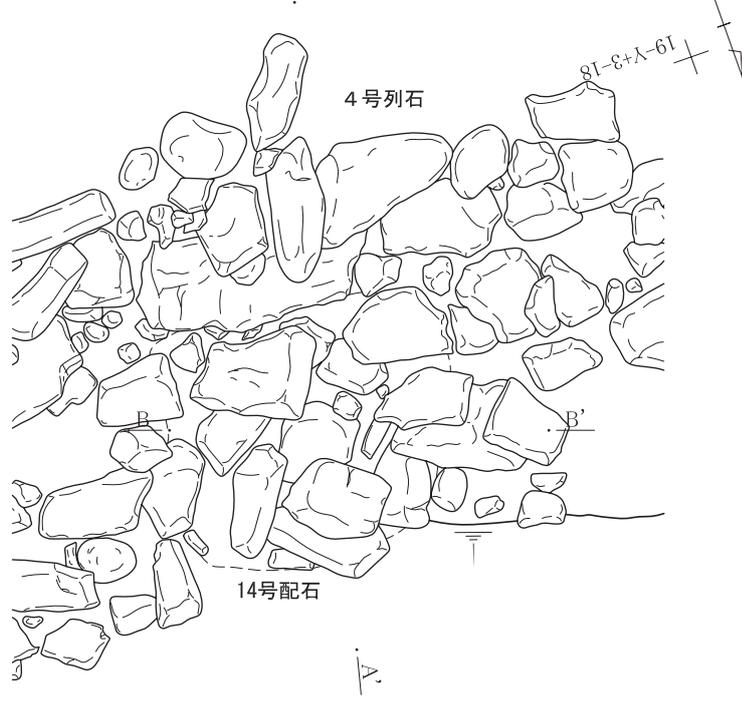


第276図 19区12・15号配石

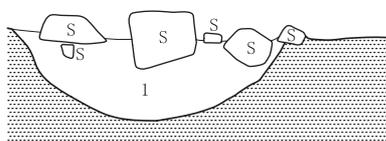
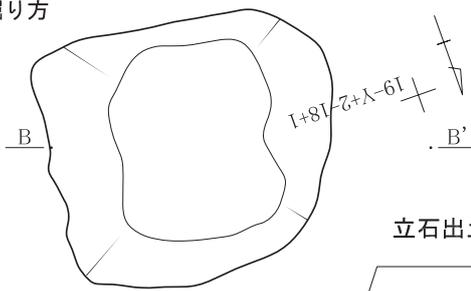
14号配石



確認時



掘り方

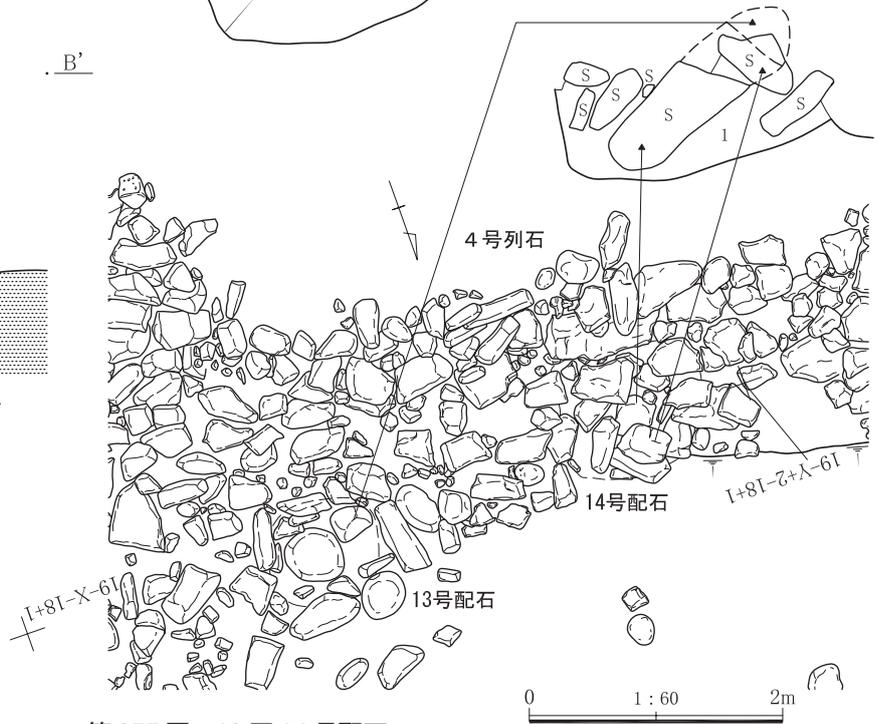


1、黒褐色土。地山土ブロックを少量、  
3~5cmの地山礫をやや多く含む。

-  川原石
-  鉄平石
-  縦位設置
-  川原石・縦位設置

0 1:30 1m  
L=576.00m

立石出土位置

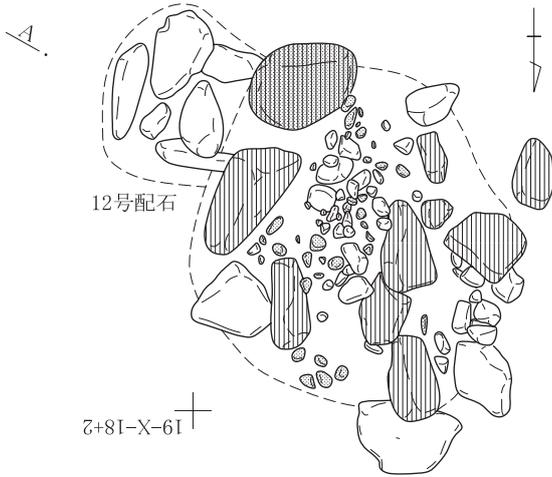


第277図 19区14号配石

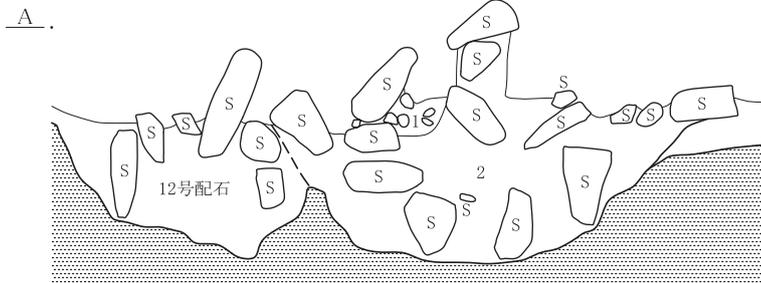
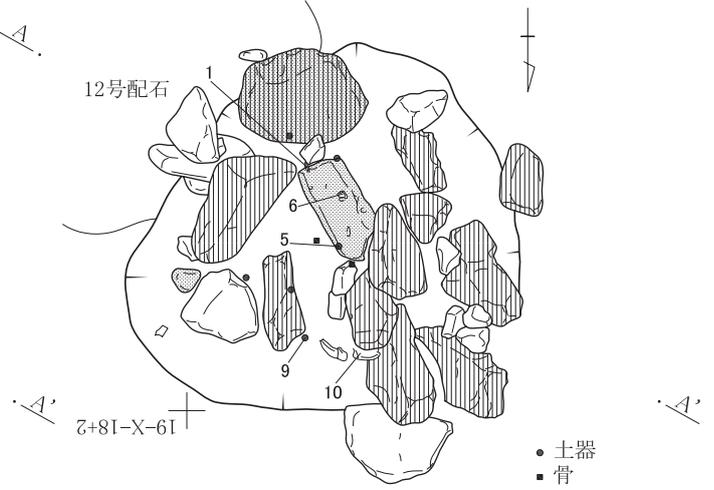
0 1:60 2m

第3章 発見された遺構と遺物

1 面目

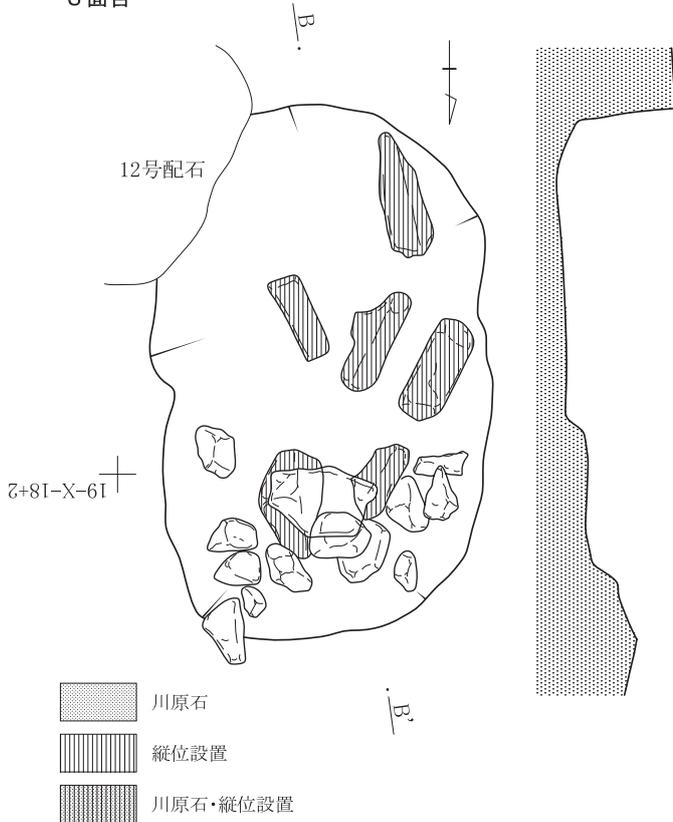


2 面目

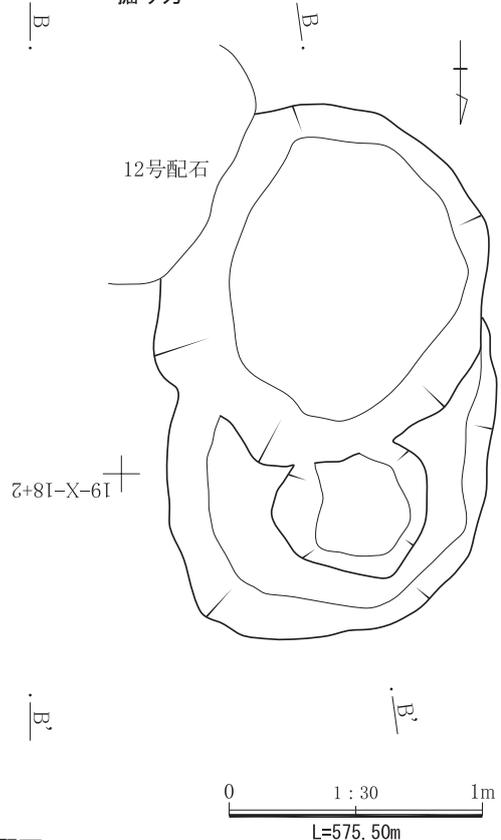


- 1、黒褐色土。5～10cmの円礫を多く含む。  
 2、黒褐色土。不均質に地山土ブロックを含む。  
 10～20cmの地山礫を多く含む。

3 面目

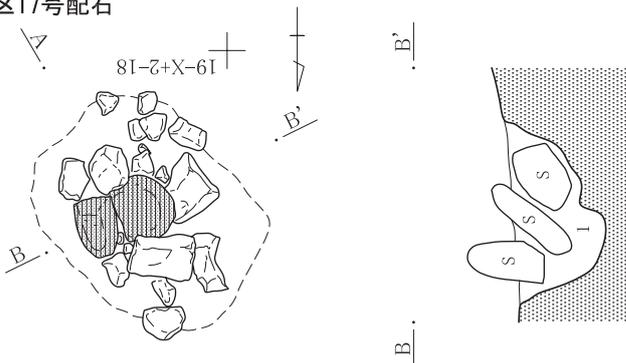


掘り方

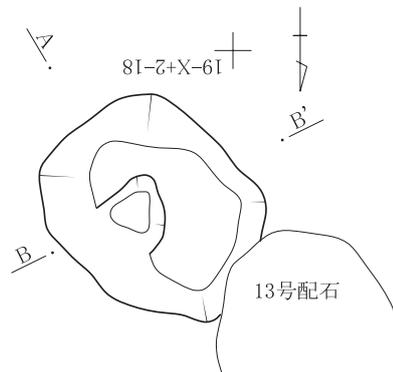


第278図 19区16号配石

19区17号配石

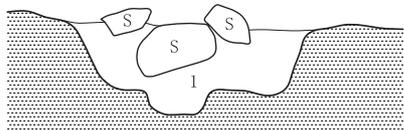


掘り方



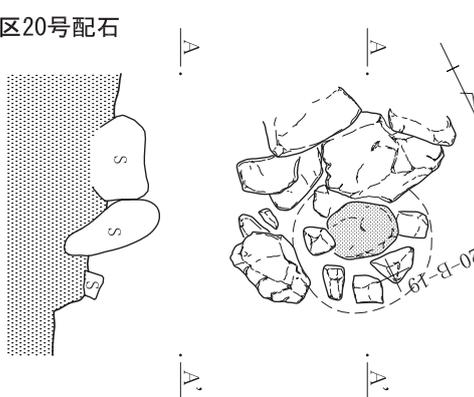
A.

A'



1、黒褐色土。やや砂質。地山土ブロックを少量含む。

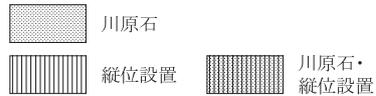
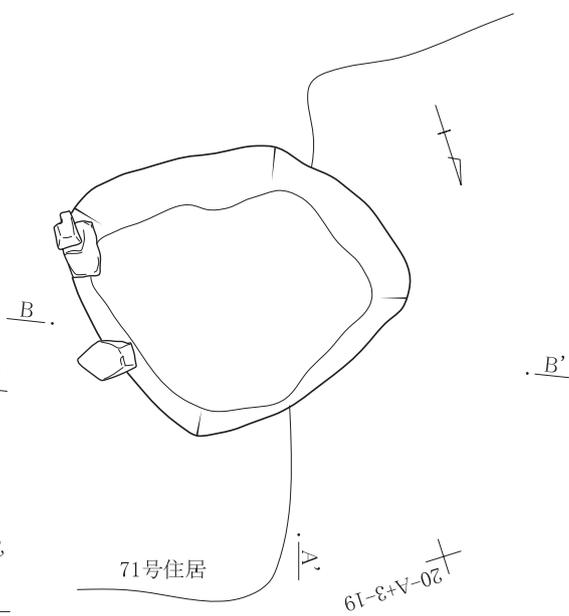
20区20号配石



20区22号配石



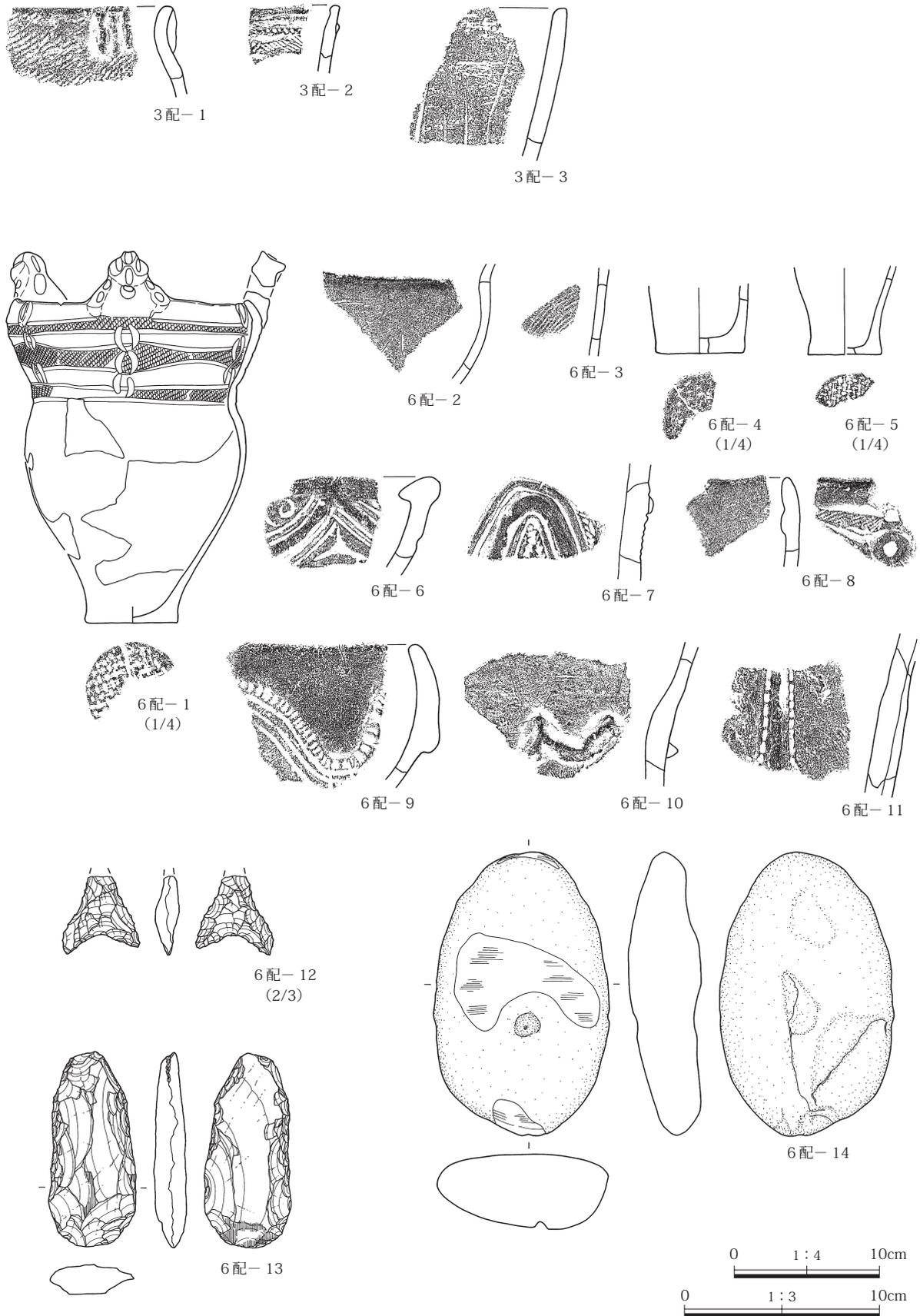
1、暗褐色土。しまり弱い。炭化物、5~10cmの亜角礫を少量含む。



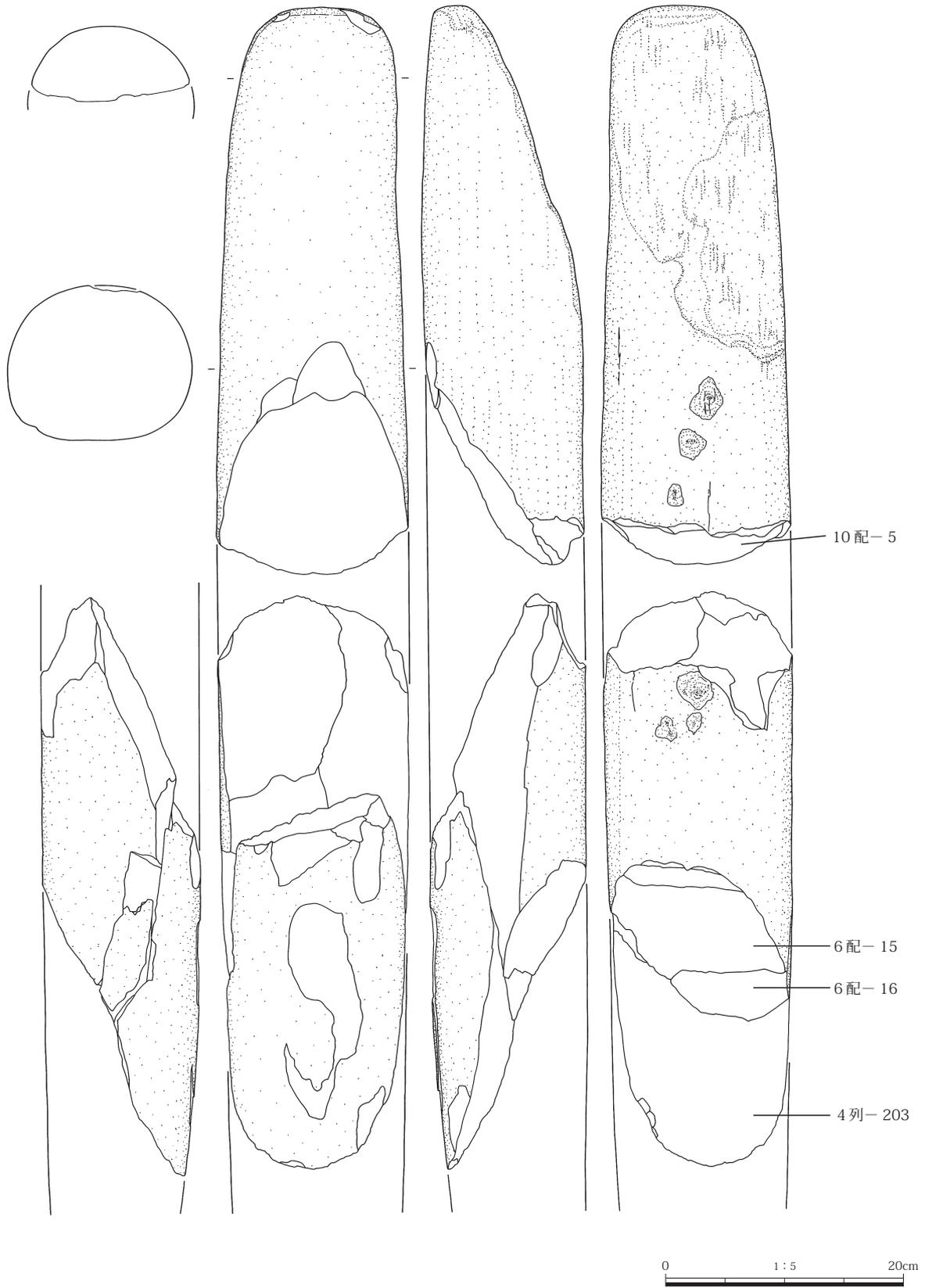
0 1:30 1m  
L=575.50m

第279図 19区17号配石、20区20・22号配石

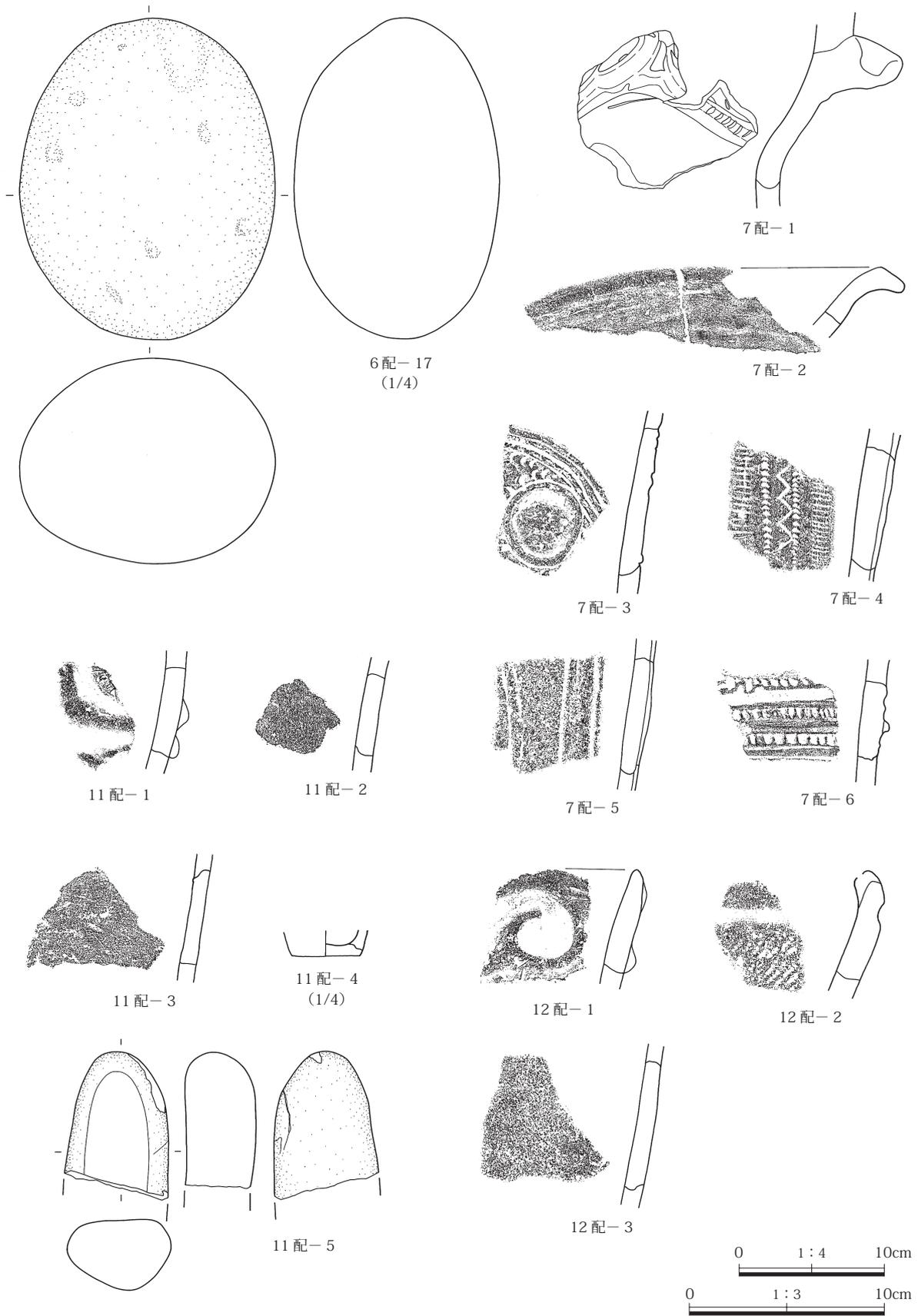
第3章 発見された遺構と遺物



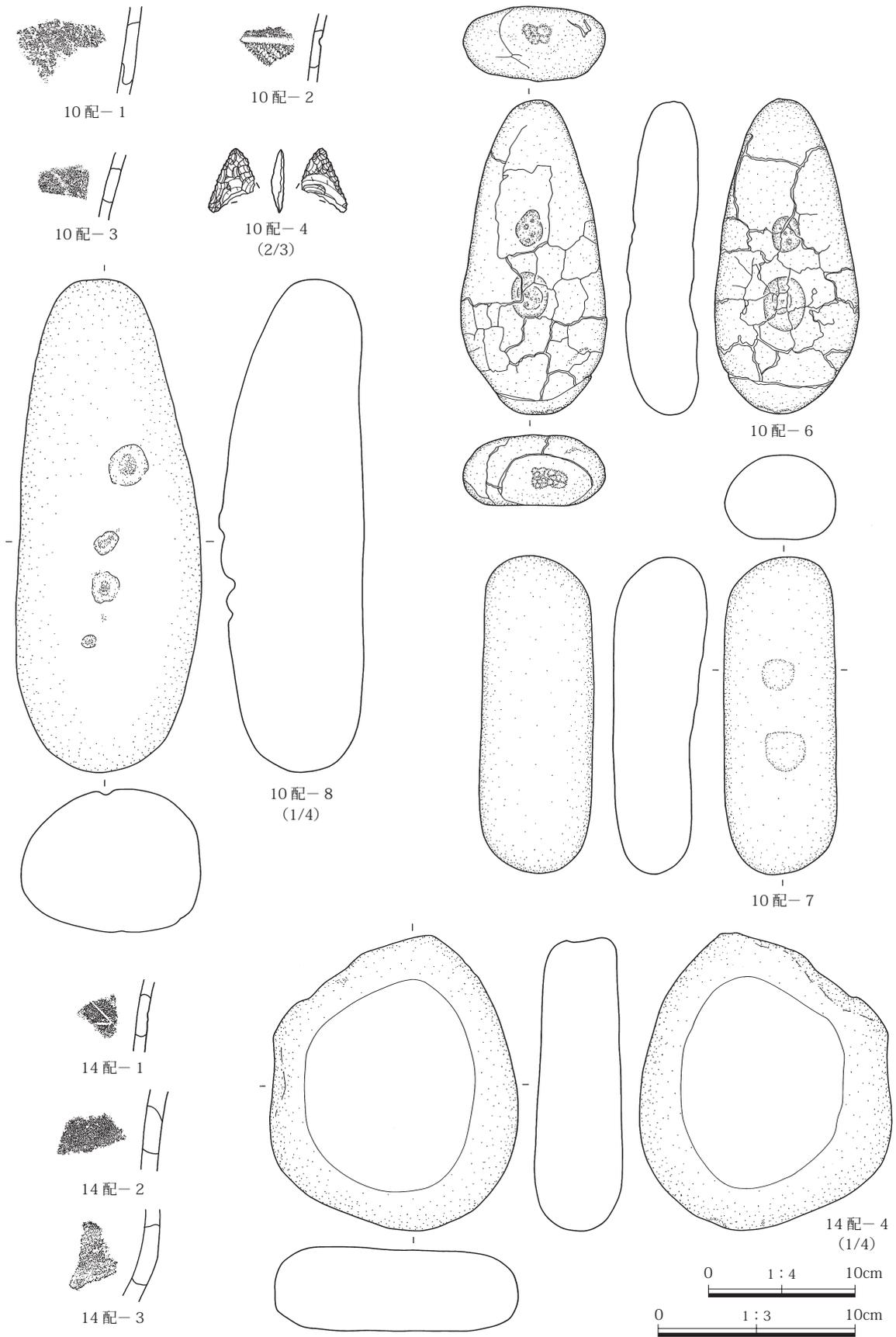
第280図 19区3号配石出土遺物、6号配石出土遺物(1)



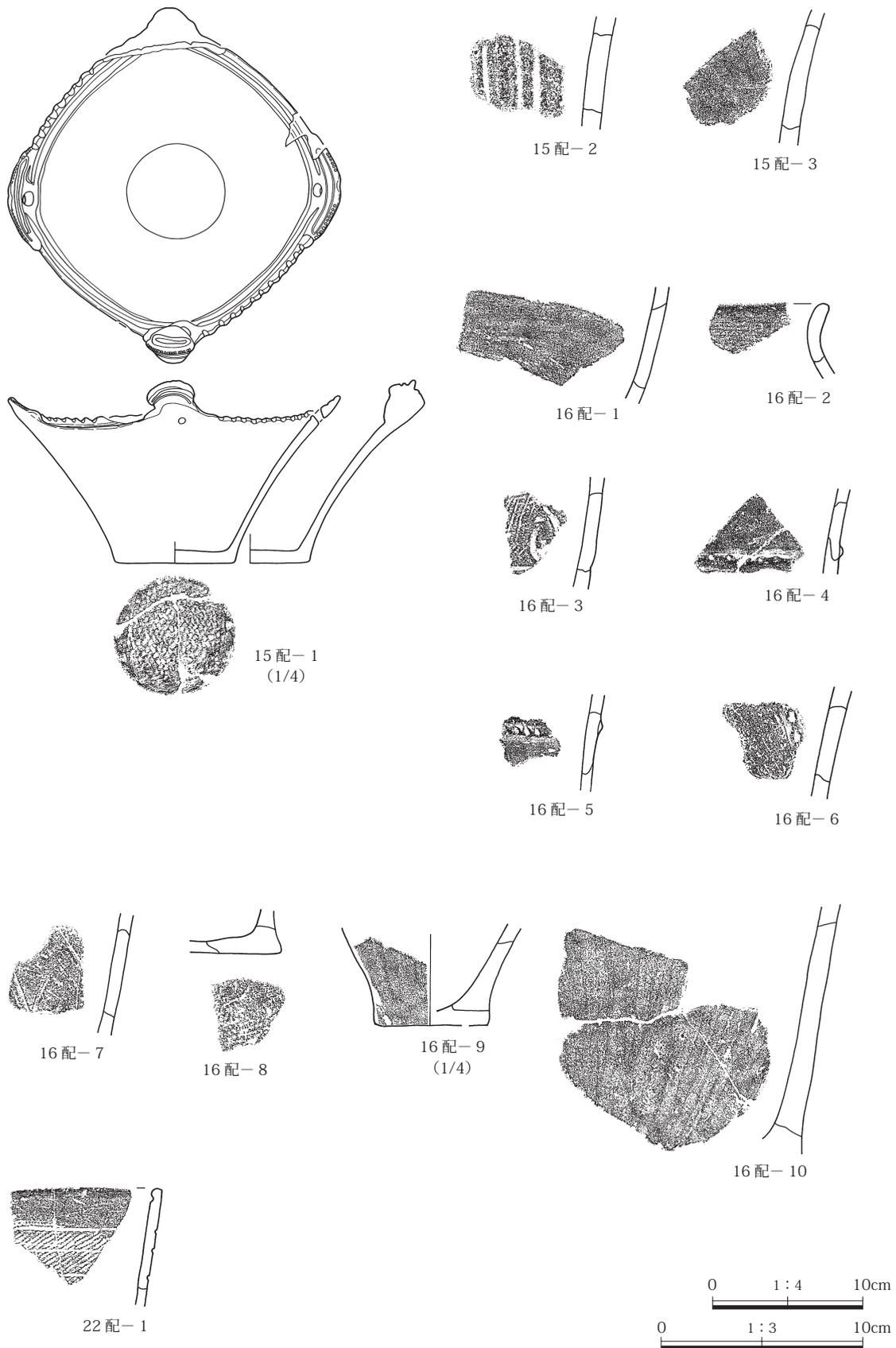
第281図 19区6号配石出土遺物(2)



第282図 19区6号配石出土遺物(3)、7・11・12号配石出土遺物



第283図 19区10・14号配石出土遺物



第 284 図 19 区 15・16 号配石出土遺物、20 区 22 号配石出土遺物

## 第4章 調査成果のまとめ

### 第1節 堅穴住居について

本報告は、横壁中村遺跡報告書の9冊目である。『横壁中村遺跡(1)』(以下、横壁中村遺跡は略)で近世の畑跡、『(2)』～『(5)』で縄文時代中期の住居跡152軒、『(6)』で各時代の土坑1,006基、『(7)』で縄文時代の土器埋設遺構や掘立柱建物、環状柱穴列、焼土遺構などを報告した。本年度は縄文時代後期住居編2冊(『(8)』・『(9)』)を整理・刊行し、本報告はその中の1冊である。

本報告では、本遺跡の中央を北流する山根沢以西で検出された縄文時代後期の住居跡36軒を扱った。時期別では、称名寺1式期が3軒、称名寺2式期が1軒、称名寺式期?が1軒、堀之内1式期が15軒、堀之内1～2式期が2軒、堀之内2式期が3軒、加曾利B1式期が2軒、加曾利B1～2式期が1軒、加曾利B2式期が1軒、高井東式期が2軒、その他後期の住居跡が5軒である(表3)。

本報告で対象とした地区は、縄文時代中期後半の加曾利E1～E3式期を中心とする大規模な環状集落が展開していた(『(2・3・5)』)。しかし、加曾利E3式新段階になると柄鏡形敷石住居跡が出現し、これ以降、環状集落としての住居跡分布に崩壊のきざしが認められる。環状集落域から外側に離れ構築される住居跡や、その内側に侵入する住居跡が出現する。この傾向は後期ではさらに明確になり、環状集落と無関係に遺跡内の所々にブロック状に分布する傾向を示す。南から①20区81・82号住居などを含む一群、②20区114号住居などを含む一群、③19区28号、20区70・71号住居などを含む一群、④20区47・52号住居を含む一群、そして⑤19区21・24号住居から30区38号住居にかけての一群である。重複は、③は著しいが、その他では少ない。なお、各群は後期住居跡だけでなく、本報告では図示できなかったが中期終末期の住居跡も含み把握することが妥当と考えらる。

各住居跡の特徴は多様であるが、概観すると次のようにまとめられる。

床面は、堀之内2式期までは敷石自体の残存状況は良くないが、その隙間に詰めたと考えられる小円礫の分布状況から、全面敷石と捉えられるものが多い。加曾利B1式期では出入り口部から炉にかけての部分敷石の住居跡が認められる。

炉は、その多くが方形石囲い炉である。称名寺式期は、炉内埋設土器を伴うものは少なく1軒のみである。対して、堀之内式期では、炉が確認された住居跡のほとんどが炉内埋設土器を伴う。加曾利B1式期では、炉自体が小型化し埋設土器は伴わない。炉石は、堀之内式期までは垂直に設置するが、加曾利B1式期では斜位に設置するように変化している。

柱穴配置は、称名寺式期では対ピットを含む7本を六角形状に配置するものが多く、堀之内1式期に9本を八角形状に配置するものが登場する。加曾利B1式期では、多数の柱穴を楕円形状に配置するものと捉えられた。

その他の施設では、周礫が19区21・24号、20区47号住居、周堤礫が19区28・32号、20区95号住居、連結部石囲い施設が20区81・109号住居、「柱穴連結溝」と仮称した施設が20区95号住居で検出された。また、先の③の群では、住居跡に付随して20区4号列石や多数の配石が確認された。これについては、次節で扱う。

なお、各住居跡出土土器は、『(8)』のまとめにその内容をあわせて掲載する。ご参照いただきたい。

### 第2節 20区4号列石の構造と変遷

#### 1、20区4号列石周辺の遺構

19区V-14～20区D-19グリッドにかけて、縄文時代後期の多くの遺構を検出した。その数は住居跡13軒と列石1基、配石13基、土器埋設遺構3基である。

20区4号列石は、4期以上にわたり構築された可能性があることを第3章第4節において先述した。それは、第227図に示した列石の基礎となる

#### 第4章 調査成果のまとめ

石列①・②に対応する時期、石列③に対応する時期、石列④に対応する時期、そして最終段階の礫の積み足しが行われた時期である。ここでは、本列石と住居跡や配石との関係および変遷について、その重複関係や出土遺物から考察する。

各遺構の重複関係を第285図に示す。なお、19区50号住居は未報告、20区66・76号住居は『(2)』、19区6・7号、20区14号土器埋設遺構は『(7)』において報告したものである。また、図中の矢印は、重複関係のみを示すものであり、各遺構の系統関係を示すものではないことをご了解いただきたい。

#### 2、時期ごとの変遷

第286～290図に各時期ごとの変遷を示した。以下、各時期ごとに概観する。

##### ・中期加曾利E4式期（第286図）

まず、中期終末から確認する。加曾利E4式期には、3軒の柄鏡形敷石住居跡が認められる。なお20区76号住居は本列石と重複し切られている。

本遺跡では縄文時代中期後半の環状集落が検出されているが、20区66・76号住居が位置する地点は、その環状集落域の内部空間に進入してきており、当該期には環状集落としての形態はすでに崩壊しているものと捉えられる。

##### ・称名寺式期

当該期の遺構は、数基の土坑が認められるのみであり、遺物も少ない。本列石周辺では加曾利E4式期と堀之内1式期以降には断絶があると言えよう。

##### ・堀之内1式期（第287図）

住居跡6軒と土器埋設遺構1基がある。

19区54号住居南部は本列石と重複する。この住居跡は、柱穴と炉下半のみが確認され、床面は検出されていない。第3章で述べたように、弧状に展開する本列石内側は大規模に削平されたと考えられ、本住居跡もその際に壊された可能性がある。本住居跡は堀之内1式古段階に比定されるため、本列石が構築されたのは堀之内1式古段階以降と言えよう。20区95号住居は本列石と接続していた可能性が

ある住居跡である。重複する20区71号住居のため、その接続関係が明確ではないが、対ピットの位置と列石が重複し、列石の弧の向きとも整合性がとれている。本列石構築の契機となった住居跡の可能性があると考えておきたい。なお、19区32・53・57号、20区98号住居については、その位置関係から判断し、本列石との関連性は薄いものと考えられる。

20区14号土器埋設遺構は、本列石の掘り方調査で検出された遺構である。本列石構築に伴う祭祀的な遺構の可能性も考えられよう。

配石は、この段階で構築された可能性もあるが、ほとんどの配石は詳細な時期比定ができていない。その可能性があるものを図示した。

##### ・堀之内2式期（第288図）

住居跡3軒と土器埋設遺構2基、配石1基がある。

19区28号住居は明確な出入り口部や対ピットは確認されていない。しかし、他の柱穴や敷石の状況から想定される住居跡範囲と本列石の位置関係が対応しており、接続していた可能性が高い。その場合、本列石の石列①・②あるいは③の時期と対応するものと想定される。また、19区55号、20区77号住居も当該期の住居跡であるが、その位置関係から、本列石との関連性は薄いものと考えられる。

19区6・7号土器埋設遺構は、本列石の掘り方調査で検出された。特に、6号土器埋設遺構は、石列④の直下で検出され、石列④は当該期以降の構築とする根拠となろう。

19区15号配石は、その下部遺構から完形の鉢が出土し、墓坑の可能性もある遺構である。配石では唯一、時期を特定できる遺構となっている。20区22号配石は次期の20区71号住居に切られるため当該期と考えておきたい。その他の配石は詳細な時期比定ができないため、その可能性があるものを図示した。

##### ・加曾利B1式期（第289図）

20区70・71号住居の2軒であるが、両住居跡とも堀之内2式期の遺物も多く出土し、堀之内2式期に比定される可能性もある。ただし、その場合で

も遺構の重複関係から第288図に示す遺構よりは後出である。両者は、出入り口部と列石が接続し、その境が明確にできないほどである。列石では基礎となる石列④と対応するものと考えられ、古い列石の弧の内側に礫を積み足し再構築したものと捉えられよう。配石は詳細な時期比定ができないため、その可能性があるものを図示した。

・加曾利B2式期(第290図)

19区56号住居と19区6・10・16号配石が当該期に比定される。いずれも本列石の弧内部に位置する。列石内部の削平された平坦面を利用したものであろう。当該期の遺物は第232図に見るように、2地点に集中し分布する。この2地点は19区6号配石でみたように遺物の接合関係が認められている。

なお、本列石の最終段階では、その弧内側の配石が完全に埋没するほど、礫が積み足されている。本列石周辺では当該期以降の遺物はほとんど出土していないため、この行為は前段階の住居廃絶後から当該期までの間に行われた可能性が高いと考えられる。その点では、本列石のもつ役割・意義において

大きな変化があったものと考えられよう。

3、まとめ

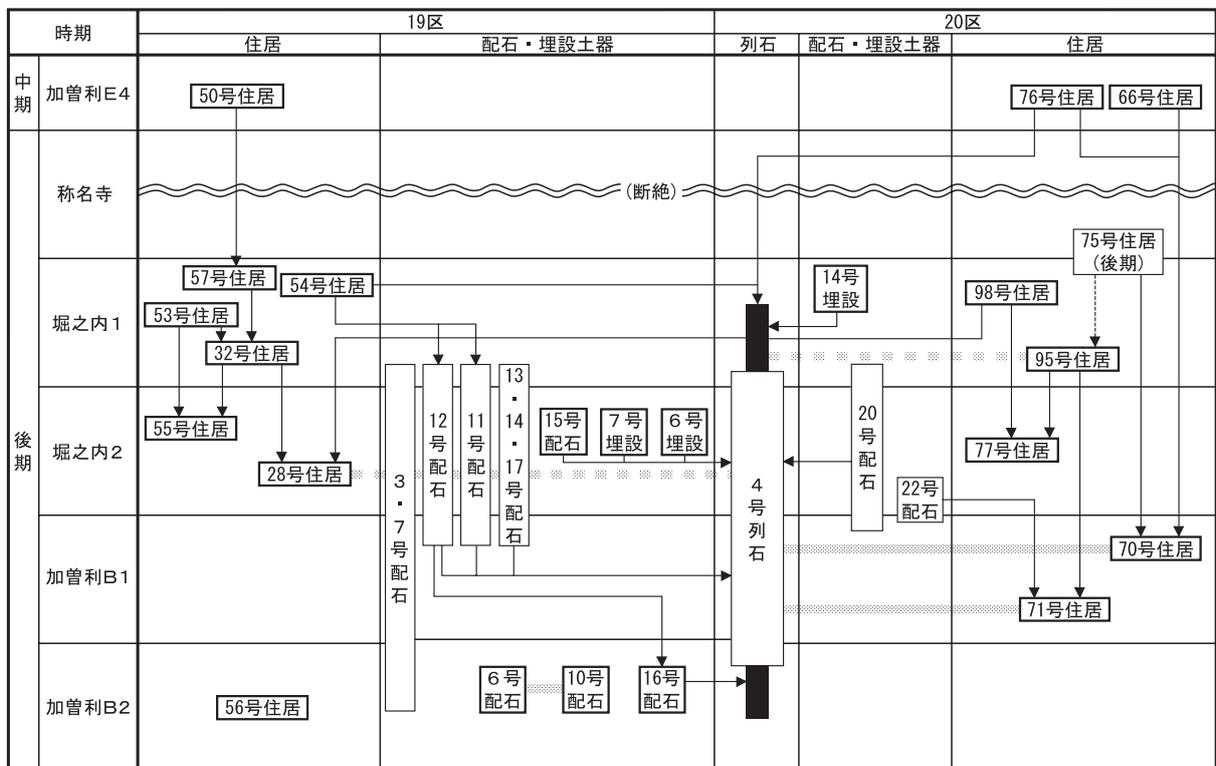
縄文時代後期の住居跡に列石や配石が付随する例は、群馬県内では暮井遺跡や浅田遺跡、前中後遺跡、行田梅木平遺跡などで、堀之内1式期や堀之内2式期の事例が知られている。ただし、これらは本遺跡のような住居跡同士の重複関係をもたず、特定の住居跡のみに付随する様子が捉えられている。

今回の報告では36軒を扱ったが、確実に列石を伴うものが2軒、その可能性があるものが2軒に過ぎない。同時期でも列石を伴う住居跡と伴わない住居跡があり、その性格が問題となるであろう。

また本列石周辺は、特に住居跡の重複や建て替えが著しい地区であり、「核家屋」(石井1994)として位置付けることも可能であろう。

参考文献

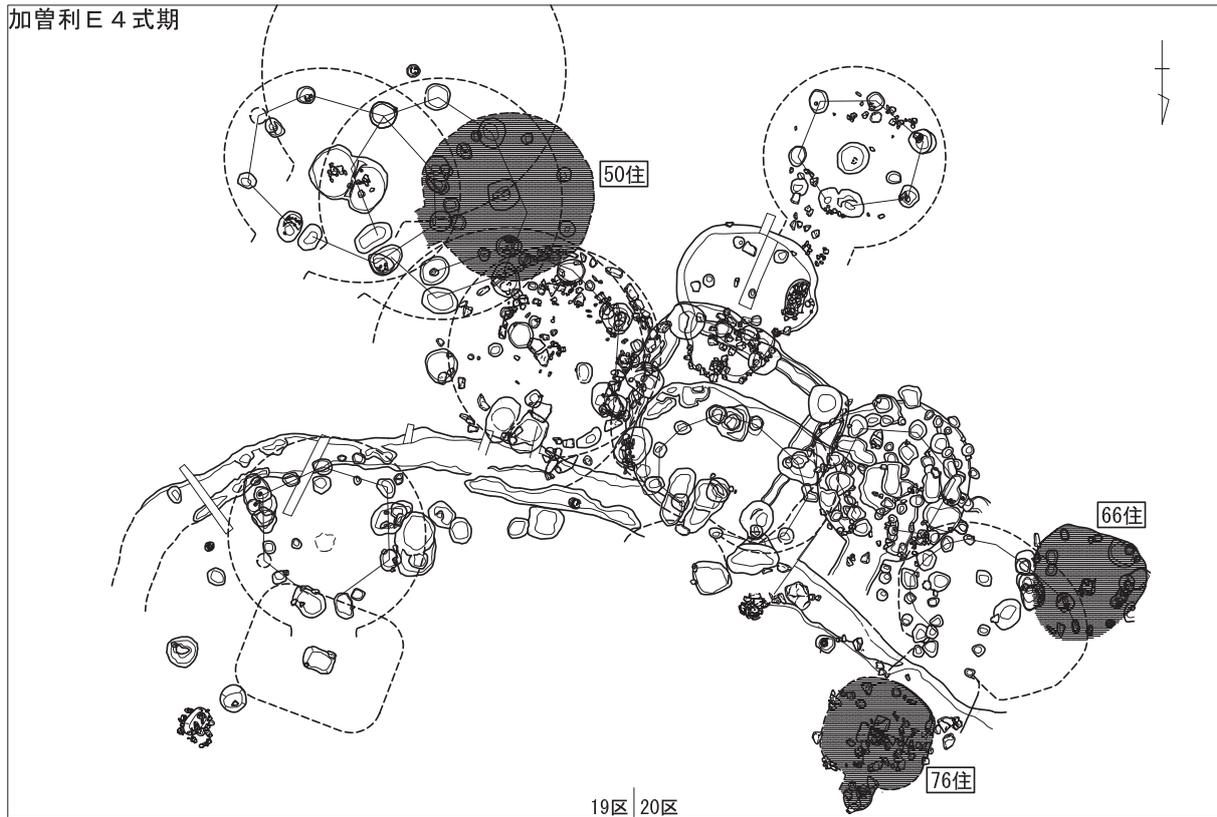
石井 寛 1994「縄文時代後期集落の構成に関する一試論 - 関東地方西部域を中心に -」『縄文時代』5 pp.77-110  
 石坂 茂 2002「縄文時代中期末葉の環状集落の崩壊と環状列石の出現」『群馬県埋蔵文化財調査事業団 研究紀要』20 pp.71-102



は時期の確定しているもの  
 は可能性のある範囲  
 重複関係(破線は可能性あり)  
 併行関係(破線は可能性あり)

第285図 20区4号列石周辺遺構重複関係図

加曾利E4式期

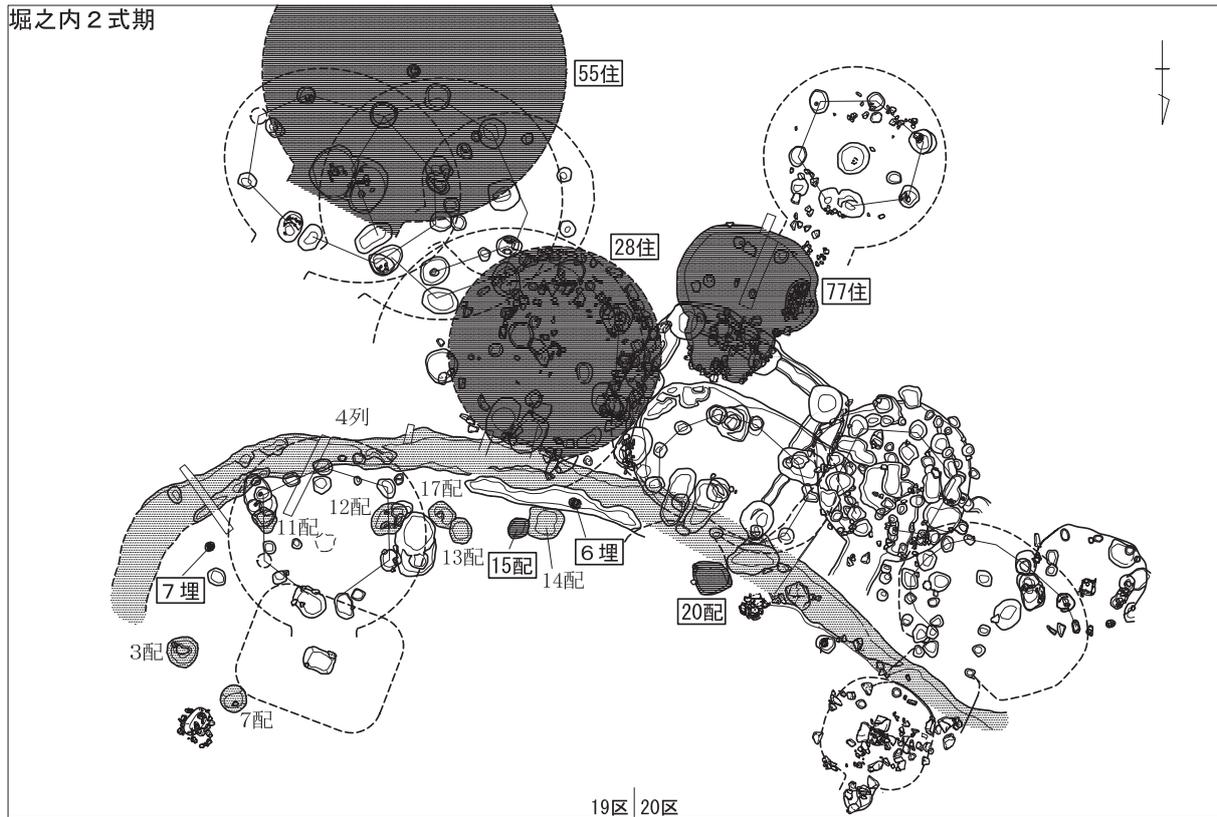


第286図 20区4号列石周辺遺構変換図(1) 0 1:250 10m

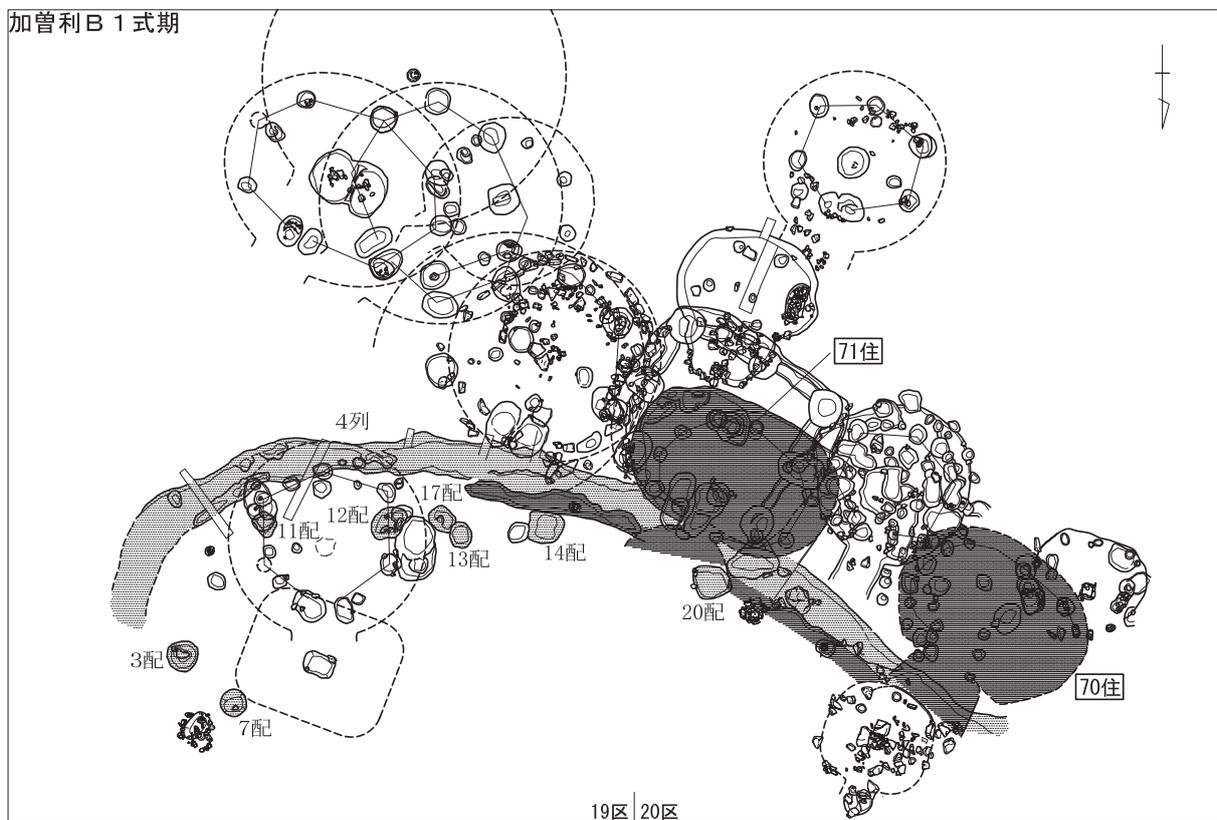
堀之内1式期



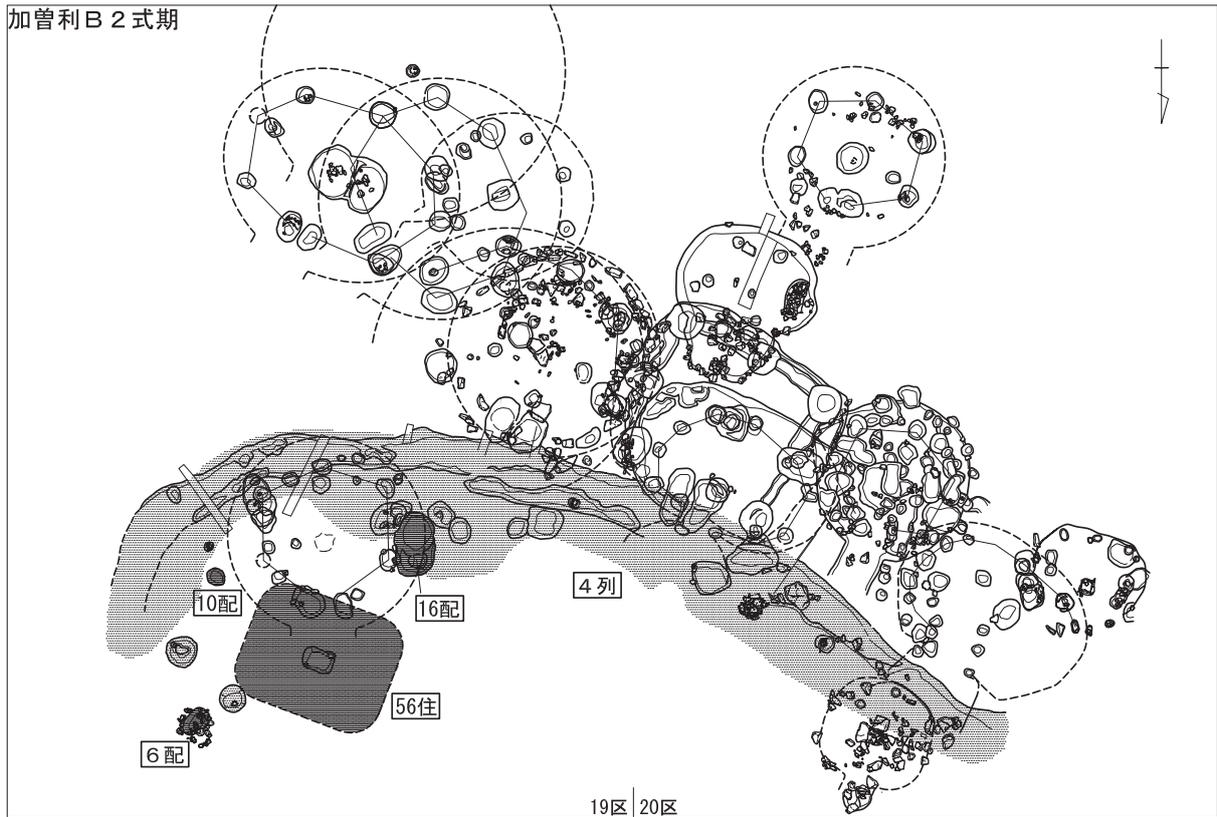
第287図 20区4号列石周辺遺構変換図(2) 0 1:250 10m



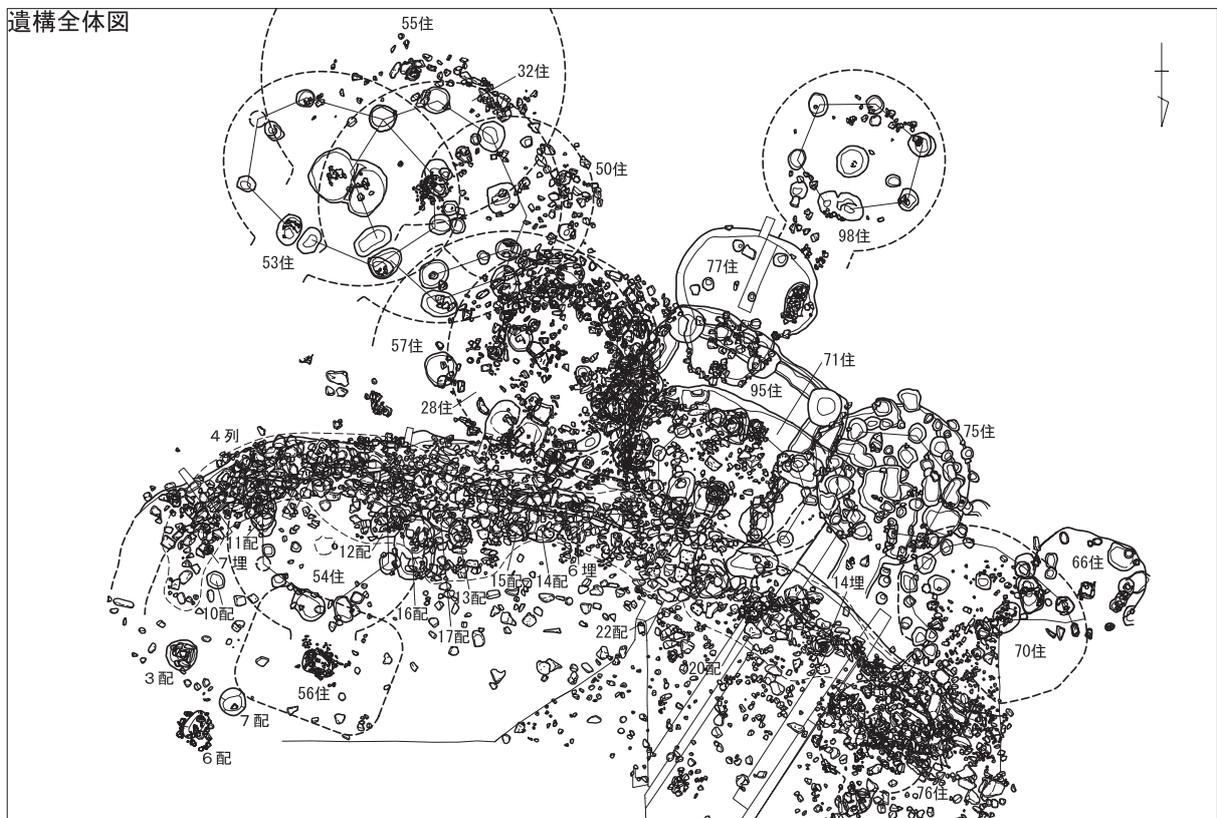
第288図 20区4号列石周辺遺構変換図(3) 0 1:250 10m



第289図 20区4号列石周辺遺構変換図(4) 0 1:250 10m



第290図 20区4号列石周辺遺構変換図(5) 0 1:250 10m



第291図 20区4号列石周辺遺構変換図(6) 0 1:250 10m

## 横壁中村遺跡30区33号住居出土焼人骨

梶崎修一郎

### はじめに

横壁中村遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町に所在する。今回報告する住居及び土坑は、ハッ場ダム建設に伴う発掘調査で、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団により、平成8(1996)年より同18(2006)年まで実施された。

本遺跡では、住居及び土坑が多数検出されている。縄文時代の30区33号住居[旧20区33号住居]から、ニホンジカやイノシシの多数の「焼獣骨」に混じって、「焼人骨」が出土したので以下に報告する。残念ながら、出土位置は特定できない。なお、通常は、「火葬人骨」と呼称するが多いが、明確な意図を持って火葬にしたのか否かが判断できないために、ここでは「焼人骨」と記載することにする。

### 1. 焼人骨の色と火葬温度

焼人骨の色は、白色を呈しており、明らかに約900℃以上で焼かれたと推定される。

### 2. 焼人骨の火葬方法

一部の頭蓋骨片しか出土していないため、残念ながら、死体をそのまま焼いたか、あるいは白骨化したものを焼いたかの火葬方法は不明である。

### 3. 焼人骨の出土部位

側頭骨の岩様部及び後頭骨片が出土している。

### 4. 焼人骨の個体数

出土した破片には重複部位が認められないため、焼人骨の個体数は1個体であると推定される。

### 5. 焼人骨の性別

出土した後頭骨片は、比較的骨壁が薄く女性である可能性もあるが、残存部が少ないため不明である。

### 6. 焼人骨の死亡年齢

出土した後頭骨は、ラムダ(人字)縫合の、三角部と下部にあたる。これらの縫合が癒合する時期は、三角部が約50歳～60歳・下部が約40歳～50歳である。出土した後頭骨片は成人で癒合していない状態であるので、約20歳～30歳代であると推定される。

### 7. まとめ

横壁中村遺跡の30区33号住居から、縄文時代の焼人骨が出土した。人骨は、約20歳～30歳代の女性1個体であると推定された。このような焼人骨は、横壁中村遺跡では初めての出土であり、当事業団が調査した中では、深沢遺跡(みなかみ町)の20号・21号配石遺構出土縄文時代後期の焼人骨に次いで3例目である(宮崎,1987)。

深沢遺跡においては、配石遺構と呼ぶ、石囲いの墓坑からの出土であるが、今回は住居からの出土であるため性格が一部異なる。報告書担当者の石田 真氏に確認したところ、住居と検出できなかった配石遺構との重複の可能性もあるという。



写真1. 横壁中村遺跡30区33号住居出土焼人骨[後頭骨]

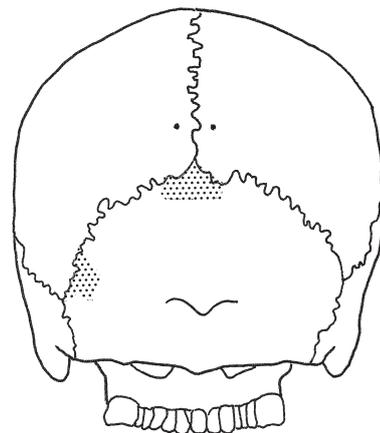


図1. 横壁中村遺跡30区33号住居出土焼人骨出土部位図  
引用文献

宮崎重雄 1987 「利根郡月夜野町深沢遺跡出土の骨類について」,『深沢遺跡・前田原遺跡』,群馬文,p.263-264.

## 横壁中村遺跡(9)住居出土獣骨

榑崎修一郎

はじめに

横壁中村遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町に所在する。今回報告する住居及び土坑は、八ッ場ダム建設に伴う発掘調査で、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団により、平成8(1996)年より同18(2006)年まで実施された。

本遺跡では、住居及び土坑が多数検出されている。今回は、20区95号住居・30区33号住居及び同36号住居出土獣骨を報告する。これらの獣骨は、縄文時代後期に属する。すべての獣骨は、白色を呈しており、約900℃以上の被熱を受けた焼獣骨である。

なお、本報告者により、横壁中村遺跡出土獣骨がすでに報告されているので、参照されたい(榑崎,2008)。

### 1. 20区95号住居出土獣骨[旧20区480号土坑]

獣骨は、住居の炉から検出されている。5mm～1cmの細片が多く、獣骨の種及び部位同定は不可能であった。ただ、本遺跡の事例から、イノシシ・ニホンジカであると推定される。恐らく、食物として調理された残滓であろう。

### 2. 30区33号住居出土獣骨[旧20区33号住居]

本住居出土獣骨のNo.付きの中で、同定可能であったのは、「骨No.10」のみであった。それ以外は、残念ながら一括で取り上げられている。以下のように、ニホンジカ及びニホンイノシシが同定された。

#### (1)ニホンジカ[*Cervus nippon*]

ニホンジカの角及び橈骨遠位端が、同定された。ニホンジカの場合、角はオスにしか無い。

#### (2)ニホンイノシシ[*Sus scrofa*]

ニホンイノシシの第3・4基節骨及び第2中足骨が、同定された。

### 3. 30区36号住居出土獣骨

本住居出土獣骨で同定可能であったのは、「骨No.2」及び「骨No.24」のみであった。

#### (1)ニホンジカ[*Cervus nippon*] (骨No.24)

ニホンジカの角が、同定された。ニホンジカの場合、

角はオスにしか無い。

#### (2)ニホンイノシシ[*Sus scrofa*] (骨No.2)

ニホンイノシシの手の骨と肋骨が同定された。



写真1. 30区33号・36号住居出土ニホンジカ

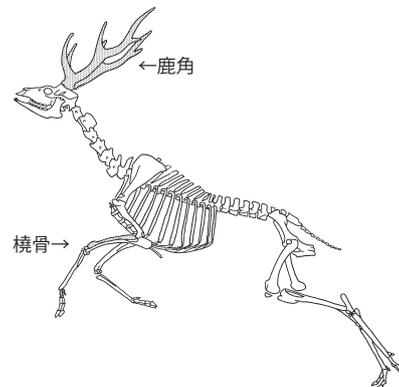


図1. 30区33号・36号住居出土ニホンジカ出土部位図



写真2. 30区33号・36号住居出土ニホンイノシシ

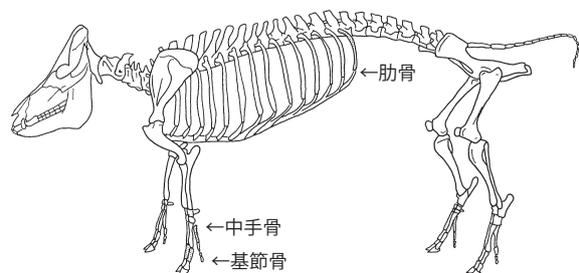


図2. 30区33号・36号住居出土ニホンイノシシ出土部位図

#### 引用文献

榑崎修一郎 2008 「横壁中村遺跡土坑出土獣骨」、『横壁中村遺跡(6)』,群馬文,p.293-296.

表3 遺構一覽表

区	遺構名称	グリッド	時期	焼骨(g)	形状 ( )は推定	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	炉	柱(本)	切合関係(古)	切合関係(新)	備考
19	2号住居	W-23	後期	0.3	-	-	-	-	(方形石囲い炉)	-	4号住居	-	-
19	3号住居	W-25	堀之内1式(前期)	23.0	(橢圓形)	(780)	(740)	-	(土器埋設)	14	29区19・21・22・25号土坑、44・47号配石	58号住居との切り合い関係不明。	-
19	21号住居	S-24・25	堀之内1式(中期)	31.0	(橢圓形)	(495)	(630)	-	(土器埋設)	12	21号住居・1号配石	周隣を伴う。	-
19	24号住居	S-24・25	称名寺2式(前期)	6.5	(橢圓形)	(410)	(675)	-	(石囲い炉)	12	20区71号住居	周隣を伴う。	-
19	28号住居	X・Y-16・17	堀之内2式(前期)	2.7	(橢圓形)	970	660	-	(石囲い炉)	8	32・50・51・57号住居、331号土坑	周隣を伴う。	-
19	32号住居	W~Y-14・15	堀之内1式(前期)	1.1	(橢圓形)	(640)	(790)	-	(土器埋設)	6	28・55号住居、276号土坑	周隣を伴う。	-
19	36号住居	T・U-12・13	後期	-	(橢圓形)	(575)	(700)	-	(土器埋設)	9	1号墓	柱穴のみ。	-
19	53号住居	W・X-15	堀之内1式(前期)	-	(橢圓形)	(545)	(560)	-	(土器埋設)	22	56号住居、11・12・16号配石、277・278・279・280・284号土坑、20区4号列石	柱穴のみ。9号埋設が跡に相当か。	-
19	54号住居	W-17~19	堀之内1式(古)期	-	(橢圓形)	-	-	-	(土器埋設)	2	32・53号住居	堀のみ。	-
19	55号住居	W-15	堀之内2式(前期)	15.7	(橢圓形)	-	-	-	(土器埋設)	-	-	-	-
19	56号住居	W-19	加曾利B2式(前期)	-	-	-	-	-	長方形石囲い炉	-	-	-	-
19	57号住居	X・Y-16・17	堀之内1式(前期)	-	(橢圓形)	(660)	(840)	-	-	15	50・51号住居、276・331・332号土坑	堀り方・柱穴のみ。	-
19	58号住居	W・X-24・25	堀之内1式(前期)	-	-	(690)	(795)	-	-	9	5号住居	1号環状柱穴列より変更。3号住居との切り合い関係不明。	-
20	11号住居	U-21	称名寺1式(前期)	-	(橢圓形)	(320)	(295)	-	(土器埋設)	-	30・53号土坑	22号土坑	-
20	19号住居	M-20	後期	-	(橢圓形)	(535)	(460)	-	-	8	1号廂	-	-
20	40号住居	M-18	堀之内1式(前期)	0.6	(橢圓形)	(850)	810	-	-	24	61号住居	198・201・208号土坑との切り合い関係不明。	-
20	47号住居	O-17	堀之内1式(前期)	23.8	橢圓形	760	505	70	土器埋設方形石囲い炉	47	53・60号住居、327・356号土坑	周隣を伴う。10号埋設土器と近接。	-
20	52号住居	P-16	称名寺1式(前期)	40.8	橢圓形	665	445	55	長方形石囲い炉	11	48・49・50・53・60・65号住居、339・347・356号土坑	柱穴のみ。	-
20	61号住居	L-18	堀之内1式(前期)	0.3	(橢圓形)	(610)	(750)	-	-	5	40号住居	柱穴のみ。	-
20	70号住居	C-19	加曾利B1式(前期)	0.4	橢圓形	725	(530)	28	方形石囲い炉	28	66・67・75号住居、453号土坑	20区4号列石と接続する。	-
20	71号住居	A-17	加曾利B1式(前期)	43.0	橢圓形	735	(630)	35	方形石囲い炉	15	75・95号住居、557・558号土坑	20区4号列石と接続する。	-
20	75号住居	C-17	後期	0.5	(橢圓形)	(645)	517	12	-	52	70・71号住居	-	-
20	77号住居	A-16	堀之内2式(前期)	0.8	橢圓形	520	485	-	(土器埋設)	8	98・95号住居、559号土坑	-	-
20	81号住居	C-2	称名寺1式(前期)	1.9	橢圓形	(748)	(522)	15	方形石囲い炉	16	-	土製陶輪3点出土。	-
20	82号住居	C-4	堀之内1式(前期)	-	(橢圓形)	(625)	(645)	-	-	9	-	周隣を伴う。	-
20	95号住居	A-17	堀之内1式(前期)	0.2	(橢圓形)	(890)	(785)	70	土器埋設方形石囲い炉	9	75号住居	周隣を伴う。	-
20	98号住居	B-15	堀之内1式(前期)	2.6	(橢圓形)	(578)	(482)	-	(土器埋設)	9	87号住居	-	-
20	108号住居	A-3	堀之内1式(前期)	-	(橢圓形)	(540)	(420)	-	土器埋設方形石囲い炉	11	19区28号・20区71・77号住居	周隣を伴う。	-
20	109号住居	G-1	称名寺1式(前期)?	-	(橢圓形)	(660)	(500)	-	方形石囲い炉	4	-	-	-
20	114号住居	S-8	堀之内1式(前期)	-	(橢圓形)	(737)	(587)	-	(土器埋設)	13	-	588・589・591・592・642号土坑との切り合い関係不明。	-
29	23号住居	Y-3	後期	-	-	-	-	-	-	-	1号墓	敷石のみ。	-
30	33a号住居	A-1	堀之内1~2式(前期)	1080.0	橢圓形	(1000)	(745)	-	-	16	33b号住居	焼骨多量出土。	-
30	33b号住居	A-2	堀之内1~2式(前期)	-	(橢圓形)	(740)	(720)	-	-	11	33a号住居	-	-
30	34号住居	A-4	高井球式(前期)	-	橢圓形	450	430	13	(方形)石囲い炉	-	-	2号墓	-
30	35号住居	B-3	堀之内1(新)~2式(前期)	7.9	(橢圓形)	(785)	(825)	-	-	8	36号住居	9号土器埋設遺構	1号環状柱穴列より変更。
30	36号住居	C-3	高井球式(前期)	134.6	(圓長方形)	(525)	570	10	方形石囲い炉	8	35号住居	-	-
30	38号住居	F-1	加曾利B1~2式(前期)	6.1	橢圓形	565	410	-	方形石囲い炉	-	-	-	-

列石・配石

区	遺構名称	グリッド	時期	焼骨(g)	形状	配石根幅(cm)		最大幅	長軸	短軸	深さ	備考
						長軸	短軸					
20	4号列石	19区V-18~20区C-20	堀之内1~加曾利B2式(前期)	12.1	弧状	3000	450	-	-	-	-	切合関係(新) 20区70・71号住居と接続する。19区28号住居、20区95号住居とも接続していた可能性あり。
19	3号配石	V-19	堀之内1~加曾利B2式(前期)	-	方形石組み	76	67	102	101	29	-	石櫛片出土。
19	7号配石	V-19	加曾利B2式(前期)	26.8	集石状	142	128	79	68	41	-	石櫛片出土。
19	10号配石	V-18	加曾利B2式(前期)	-	集石状	80	60	66	54	14	-	石櫛片出土。
19	11号配石	W-18	堀之内1~加曾利B1式(前期)	-	石組み(丸石中心)	80	56	80	68	24	-	16号配石
19	12号配石	W・X-18	堀之内1~加曾利B1式(前期)	0.2	2重方形石組み(立石中心)	72	68	130	98	40	-	15号配石との重複関係不明。
19	13号配石	X-18	堀之内1~加曾利B1式(前期)	-	石組み(円形凹石中心)	84	72	89	71	14	-	14号配石との重複関係不明。完形土器出土。
19	14号配石	Y-18	堀之内1~加曾利B1式(前期)	-	3重石組み(立石中心)	108	107	110	115	36	-	小刀鏝を多数伴う。2基の重複の可能性あり。
19	15号配石	Y-18	堀之内2式(前期)	-	石組み(丸石中心)	84	82	75	63	28	-	-
19	16号配石	X-18	加曾利B2式(前期)	0.9	集石状	140	132	214	130	43	-	-
19	17号配石	X-18	堀之内1~加曾利B1式(前期)	-	石組み(円形凹石中心)	70	54	94	74	36	-	-
20	20号配石	A・B-18	堀之内1~加曾利B1式(前期)	-	石組み(立石中心)	52	50	-	-	-	-	-
20	22号配石	A-18	堀之内2~加曾利B1式(前期)	-	方形石組み(立石中心)	130	98	132	128	38	-	71号住居

表4 出土土器総量一覧表

区	遺構名称	時期	勝坂	阿	魏町	加E1	加E2	加E3	加E4	曹新	唐新	中期	称1	称2	称	堀1	堀2	堀	加B1	加B2	加B3	加B	高	後期	不明	計	備考	
19	2号住居	後期																							5			
19	3号住居	堀1	3	3	2	2		43	11	8	14	4	23	239	6	4	57	33	43	5	74	1	575	17	1167	神ノ木式1点、中峰式1点、安3a式1点、陶磁器1点、土門1点		
19	21号住居	(グリッド)	23	3	5	11	20	20	2	8		8	14	11	5	38	139			92	113	1335			1827	後期安式1点、晚期安式4点、土門3点		
19	24号住居	堀2	1				10	40	17	15	133	7	563	91	126	3	76	3	2				9	1084	2191	團Ⅱ式1点、諸磯c式1点、五式2点、土門2点		
19	28号住居	堀1	36	9	3	11	1				1		2	8	8	17						1	61		92	五式2点、前期前半2点、堀2～加B式1点		
19	32号住居	堀1	56	6	21	61	36	5	3			91	305	6	2	23	50	1	1	12			80	68	776	前期前半3点、前期後半1点、前期末2点、唐草文系2点、平安(土師器)1点		
19	36号住居	後期																					1	17	18	前期前半8点、平安(須恵器)1点		
19	53号住居	堀1			2																				44			
19	54号住居	堀1(古)	1		2	1	6															11	4	10	44			
19	55号住居	堀2	1	1	3	4	13	1	2		2	31				11	512					11	321		913			
19	56号住居	加B2	13	4		2	1				4	25				2	8		37	4	38	278			3100	五式3点、新地系6点		
19	57号住居	堀1				1	10	1				15	5			12	4					1	21	33	103	前期前半1点		
19	58号住居	堀1																										
20	11号住居	堀1	6	2	1	6	62	31	2	2	9	10	307	3	25			4								472	五式1点、三原田式2点、中峰式1点、土門1点	
20	19号住居	後期																								751		
20	40号住居	堀1	35	3	2	2	7	62	12	2	2	19	374	1	1	24	18	52	2				56	77		3100	前期1点	
20	47号住居	堀1	37	13	11	1	16	239	38	1	3	1	2078	1	412	3	3						243					
20	52号住居	堀1	72	33	13	4	31	442	55	17	8	13	50	1762	7	1	4	1	1				5			2519		
20	61号住居	堀1					6	3	2	2			23	1		2										39		
20	70号住居	加B1					20			19			97			6	8	14	14				136			314	焙烙2点、陶磁器1点	
20	71号住居	加B1	16	10	14	8	8	30	9	1	77	30	678			19	98	3	23			332	173		1529	前期前半2点、土門1点		
20	75号住居	後期	1				67	2	32			99				5		7				46			259	團式1点、大木8a式1点、晚期4点、焙烙1点		
20	77号住居	堀2	6			8	5	51	6	2		45	142	2	25	14						103	94		503	唐草文系1点		
20	81号住居	堀1	6	5	2		1	3			2	36	12		2							1	129	88	287	唐草文系1点、近世陶磁器1点		
20	82号住居	堀1	1				1					7	5	4	78							544			641	三十稲場式3点、土門13点、土製陶輪3点		
20	95号住居	堀1	19			14	3	49	2	6		127	217	6	1	113	27	1	1			202	207	995	551	中世内耳1点、近世火鉢1点		
20	98号住居	堀1	3			2	10	2		2	13	8	1		6	2						19	80		146	前期末1点		
20	108号住居	堀1										1			3							31			35	堀2式?2点		
20	109号住居	称?	1									1			3							13	32		54	加E4～称式3点、唐草文系1点		
20	114号住居	堀1	3			3	2	1		1		5	17		2	4					2	3	69	4	94	加B2～3式1点		
29	23号住居	後期										1	4		2	4						2	1	21	4	35		
	33号住居	後期										1	4		4							2	1	4	35			
30	34号住居	堀1～2	5	5	9	11	397	51	1	3	1	2626	5	7	13	29	111	27	15		35	158			3509	土門1点		
30	(グリッド)		6	5	6	7	254	41	5			60	157	13	16	53	237	2	1	38	56	1240	103	2300	安1・2式1点、安3a式2点、土門9点、耳飾?2点、指輪状土製品1点			
30	34号住居	高	1				3					8				2	192						190		205	耳飾?1点		
30	35号住居	堀1(新)～2	1				11		4		1	4	1	27		2						476			198	高～安1・2式18点		
30	36号住居	高	6	1	2		15	8		4		9	4	4	145	395						705			705	土門8点		
30	(グリッド)		6	2	1		13	5		32		1	95		60	56		43	128	104	13	825		1435	安1・2式4点、土門7点			
30	35・36住	(グリッド)	4	1	5		8				6	11			6	18						1	15		2026	團式1点、晚期1点、耳飾?1点、土門2点		
30	38号住居	加B1～2				7	3	2	1			1	5		61	86	4	2				67	83		1068	加B～高式16点、安行式5点、土門2点		
20	4号列石	堀1～加B2	60	12	7	33	12	87	10	16		389	543	2	3	41	157					149	26	765	1049	中世内耳6点、土門4点		
19	3号配石	加B2	36	8								66										1		7	10	124	前期末1点、五式4点、晚期1点	
19	7号配石	堀1～加B2	6	2								2										11				11		
19	10号配石	加B2																								4		
19	11号配石	堀1～加B1																								6		
19	13号配石	堀1～加B1																								6		
19	14号配石	堀1～加B1																								7		
19	15号配石	堀2	2																							6		
19	16号配石	加B2	1	1								11			2	4						1	15		38	7		
19	17号配石	堀1～加B1																										
20	20号配石	堀1～加B1																										
20	22号配石	堀2～加B1																										
総計			485	124	113	189	112	2079	336	109	331	40	1012	10844	175	222	41	1399	2429	90	101	279	133	1663	395	13273	1765	37739

註：各土器型式などは次のように名略している。堀＝堀山、五＝五箇ヶ谷、阿＝阿玉台、加E＝加曾利E、曹＝曹利、唐＝唐草文系、称＝称名寺、堀＝堀之内、加B＝加曾利B、高＝高井東、安＝安行、土門＝土製陶輪。  
※1 團式2点、黒沢式7点、前期前半9点、晩期後半1点、釣手土器2点、土門11点、平安(土師器)2点

表5 出土石器総量一覧表

区	遺構名称	石鏃		石錐		石匙		撻器・削器		加工		使用痕		打製石斧		礮器		磨製石斧		敲き石		磨石		凹石		石皿		台石		砥石		石棒		多孔石		石核		薄片		軽石製品		その他		計				
		総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完							
19	2号住居																																											0				
19	3号住居	2						1	1	4																																			64			
19	21号住居	11	2					1	1	4	4	2																																	212			
19	24号住居																																												6			
19	28号住居	3	1					1	1	4	2	1																																	176			
19	32号住居	2	1									5	2																																107			
19	36号住居									1																																			10			
19	53号住居	4																																											0			
19	54号住居									1																																			16			
19	55号住居	2	1					1	1	2	2																																		85			
19	56号住居	2	1					1	1	1																																			15			
19	57号住居	1						1	1	2	1																																		39			
19	58号住居																																													0		
20	11号住居							1	1			3	1																																	31		
20	19号住居																																														1	
20	40号住居	1								3	1	2	1	1	1																																59	
20	47号住居	1	1	4	1			5	5	3	3	7	3	1	1	2	2	3	6	23	3	1	2	5	1																				243			
20	52号住居	14	1	8	2	2				8	7	2																																		398		
20	61号住居																																													10		
20	70号住居	2						1	1	1																																				47		
20	71号住居	3	2					2	2	2	3	4	1	1	1																															270		
20	75号住居	2								4																																				64		
20	77号住居											3	1																																	70		
20	81号住居	4								7	2	2	2																																	130		
20	82号住居											1																																		52		
20	95号住居	5	2	3	1					1	2																																			119		
20	98号住居	1	1							1																																				21		
20	109号住居																																													8		
20	114号住居																																														5	
29	23号住居																																														5	
30	33号住居	8	3					1	1	7	2	2																																				246
30	34号住居	2								1																																					17	
30	35号住居	1						1	1	2																																					17	
30	36号住居	14	9	1	4	2				1	1	10	8	1	1	2																															166	
30	38号住居	4	1					1	1	1	5	2																																			66	
30	総計	89	25	22	13	7	0	0	18	17	78	36	43	12	3	13	7	13	13	292	215	10	7	19	4	24	6	6	0	15	0	24	18	37	1043	938	6						2780					

区	遺構名称	石鏃		石錐		石匙		撻器・削器		加工		使用痕		打製石斧		礮器		磨製石斧		敲き石		磨石		凹石		石皿		台石		砥石		石棒		多孔石		石核		薄片		軽石製品		その他		計							
		総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完	総量	完								
20	4号配石	14	4	2				2	1	18	5	21	10																																			548			
19	3号配石	1																																															8		
19	6号配石																																																0		
19	7号配石																																																9		
19	10号配石	1																																															5		
19	11号配石																																																1		
19	12号配石																																																0		
19	13号配石																																																1		
19	14号配石																																																7		
19	15号配石																																																8		
19	16号配石																																																0		
19	17号配石																																																0		
20	20号配石																																																	0	
20	22号配石																																																		0
20	総計	16	4	2	0	0	0	0	3	2	18	5	22	11	0	5	1	1	1	37	26	9	7	6	0	23	12	1	1	15	0	31	25	11																	

黒曜石出土総量一覧表

表6 黒曜石出土総量一覧表(※重さ:g)

区	遺構名称	石籬		石籬未製品		石匙	石器・削器		加工痕		使用痕		打製石斧		石核		剥片		碎片		その他		合計		
		個数	重さ	個数	重さ		個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数
19	2号住居																							0	0.0
19	3号住居	7	4.0						1	1.1						1	7.9	8	14.9					10	23.9
19	21号住居										3	4.6				3	8.1	26	36.4	90	22.1			129	75.2
19	24号住居																							0	0.0
19	28号住居	1	0.9					1	3.5	3	12.5	1	1.9			2	7.3	32	44.0	96	22.3			136	92.4
19	32号住居	1	0.5						2	3.3							15	17.3	40	8.7			58	29.8	
19	36号住居								1	1.0							2	1.1	2	0.4			5	2.5	
19	53号住居																						0	0.0	
19	54号住居	4	1.6																				4	1.6	
19	55号住居								2	2.1							17	17.2	18	2.0			37	21.3	
19	56号住居	2	1.7						1	1.0							1	1.0	2	8.0			6	11.7	
19	57号住居	1	0.9					1	3.5	1	3.4						6	12.7	19	2.6			28	23.1	
19	58号住居																4	9.7	2	1.2			6	10.9	
20	19号住居																							0	0.0
20	40号住居	1	1.0																					0	0.0
20	47号住居			3	2.1				1	2.2	1	1.3					9	10.2	19	4.7			31	19.4	
20	52号住居	11	6.6	8	8.2	2	2.3		7	5.6	6	11.0					1	4.9	29	44.8	64	12.8	ピエス1点・0.7g	101	68.4
20	61号住居																5	18.2	79	115.3	202	47.6	ピエス3点・2.5g	323	217.3
20	70号住居	2	1.4														2	4.0	7	12.5	7	1.4		3	4.1
20	71号住居	2	2.7						1	1.4							1	6.0	7	12.5	84	15.2	ピエス1点・2.2g	151	89.3
20	75号住居	2	0.8						1	2.5							1	8.1	12	20.8	19	5.4		35	37.6
20	77号住居																							27	13.2
20	81号住居	1	1.3	3	4.9				7	16.4	2	4.1					38	101.0	21	3.8			72	131.5	
20	82号住居																2	13.5	3	3.0	7	1.8		12	18.3
20	95号住居	1	0.3	3	0.7				1	0.7							3	28.1	25	4.0			60	33.1	
20	98号住居																1	1.1	6	1.5			10	6.1	
20	108号住居																							1	1.1
20	109号住居																2	1.6						2	1.6
20	114号住居																							0	0.0
29	23号住居																							0	0.0
30	33号住居	5	2.1						1	0.9	3	5.9	2	4.1			1	2.3	44	58.4	98	21.9	ピエス2点・2.7g	156	98.3
30	34号住居	1	0.6																					1	0.6
30	35号住居																							2	2.0
30	36号住居	4	1.8						4	6.9														44	33.0
30	38号住居	1	0.6						1	7.0							1	0.5	13	3.6			16	11.7	
	総計	47	28.8	17	15.9	3	2.6		36	66.0	18	30.1				17	76.3	463	655.1	869	198.9			1483	1100.3

区	遺構名称	石籬		石籬未製品		石匙		石器・削器		加工痕		使用痕		打製石斧		石核		剥片		碎片		その他		合計	
		個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ
20	4号列石	8	4.7	2	3.1					9	14.7	2	12.5			2	9.8	93	115.1	108	28.7			224	188.6
19	3号配石																							0	0.0
19	6号配石																							0	0.0
19	7号配石																							0	0.0
19	10号配石	1	3.0																					4	4.5
19	11号配石																							1	1.0
19	12号配石																							0	0.0
19	14号配石																							0	0.0
19	15号配石																							5	3.0
19	16号配石																							6	3.0
19	17号配石																							0	0.0
20	20号配石																							0	0.0
20	22号配石																							0	0.0
	総計	9	7.7	2	3.1				9	14.7	2	12.5				2	9.8	99	120.8	117	31.5			240	200.1

表7 遺構名称振替表

## 19区3号住居

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱1	29区	20号土坑	
柱3	29区	17号土坑	
柱4	19区	16号土坑	
柱4	29区	16号土坑	
柱5	19区	15号土坑	
柱6	19区	12号土坑	既報告(6)
柱8	19区	14号土坑	

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱9	19区	18号土坑	58住柱6と共有
柱10	29区	29号土坑	
柱11	29区	28号土坑	
柱14	19区	13号土坑	58住柱7・8と共有
柱15	29区	26号土坑	
炉掘り方	29区	27号土坑	

## 19区21号住居

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱1	19区	21号住居 pit4	
柱2	19区	21号住居 pit14	
柱3	19区	21号住居 pit21(b)	
柱4	19区	21号住居 pit17	
柱5	19区	21号住居 pit21(a)東	
柱6	19区	21号住居 pit9	
柱7	19区	21号住居 pit26	
柱8	19区	21号住居 pit23	
柱9	19区	21号住居 pit12	
柱10	19区	21号住居 pit11	

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱11	19区	21号住居 pit10	
柱12	19区	21号住居 pit22	
柱13	19区	21号住居 pit21(a)西	
柱14	19区	21号住居 pit3	
柱15	19区	21号住居 pit7	
柱16	19区	21号住居 pit24	
柱17	19区	21号住居 pit25	
柱18	19区	21号住居 pit27	
柱19	19区	21号住居 pit13	
柱20	19区	21号住居 pit2	

## 19区24号住居

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱1	19区	21号住居 pit1	
柱2	19区	21号住居 pit19	
柱3	19区	21号住居 pit5	
柱4	19区	24号住居 pit3	
柱5	19区	24号住居 pit1	
柱6	19区	21号住居 pit15	

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱7	19区	21号住居 pit20	
柱8	19区	21号住居 pit18	
柱9	19区	21号住居 pit8	
柱10	19区	21号住居 pit6	
柱11	19区	24号住居 pit2	
柱12	19区	21号住居 pit16	

## 19区32号住居

報告遺構名	調査時遺構名		備考
炉掘り方	19区	288号土坑	

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱6	19区	325号土坑	

## 19区54号住居

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱1	19区	306号土坑	
柱2	19区	307号土坑	
柱3	19区	303号土坑	
柱4	19区	297号土坑	
柱5	19区	308号土坑	
柱6	19区	309号土坑	
柱7	19区	310号土坑	
柱8	19区	326号土坑	
柱9	19区	312号土坑	
柱10	19区	319号土坑	
柱11	19区	311号土坑	
柱12	19区	327号土坑	

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱13	19区	313号土坑	
柱14	19区	314号土坑	
柱15	19区	315号土坑	
柱16	19区	316号土坑	
柱17	19区	317号土坑	
柱18	19区	304号土坑	
柱19	19区	318号土坑	
柱20	19区	305号土坑	
柱21	19区	278号土坑	
柱22	19区	298号土坑	
炉内埋設土器	19区	8号埋襲	
炉掘り方	19区	12号焼土	

## 19区55号住居

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱1	19区	142号土坑	

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱2	19区	142号土坑	

## 19区56号住居

報告遺構名	調査時遺構名		備考
炉	19区	5号配石	

## 19区57号住居

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱1	19区	28号住居 柱穴12	
柱2	19区	28号住居 柱穴11	
柱3	19区	28号住居 柱穴10	
柱4	19区	28号住居 柱穴9	
柱5	19区	28号住居 番号なし	
柱6	19区	28号住居 柱穴15	
柱7	19区	28号住居 柱穴14	
柱8	19区	28号住居 柱穴13	
柱9	19区	330号土坑	

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱10	19区	329号土坑	
柱11	19区	28号住居 住居内土坑1	
柱12	19区	343号土坑	
柱13	19区	320号土坑	
柱14	19区	28号住居 柱穴16	
柱15	19区	339号土坑	
炉上半	19区	282号土坑	
炉下半	19区	328号土坑	

## 19区58号住居

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱1	19区	1号環状柱穴列 柱1	
柱2	19区	1号環状柱穴列 柱2	
柱3	19区	1号環状柱穴列 柱3	
柱4	19区	1号環状柱穴列 柱4	
柱5	19区	X-25c号pit	

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱6	19区	18号土坑	3住柱9と同一
柱7	19区	13号土坑	3住柱14と同一
柱8	19区	13号土坑	3住柱14と同一
柱9	19区	W-25a号pit	

遺構名称振替表

20区11号住居

報告遺構名	調査時遺構名		備考
埋裏	20区	1号埋設土器	

20区19号住居

報告遺構名	調査時遺構名		備考
炉	20区	2号焼土	

20区40号住居

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱2	20区	326号土坑	既報告(6)
柱3	20区	329号土坑	既報告(6)
柱4	20区	330号土坑	既報告(6)
柱10	20区	328号土坑	既報告(6)
柱11	20区	337号土坑	既報告(6)
柱12	20区	336号土坑	
柱17	20区	323号土坑	既報告(6)

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱19	20区	199号土坑	
柱20	20区	200号土坑	
柱21	20区	204号土坑	
柱22	20区	203号土坑	
柱23	20区	205号土坑	
柱24	20区	206号土坑	

20区47号住居

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱1	20区	47号住居 大pit1	
柱2	20区	47号住居 大pit6	
柱3	20区	47号住居 大pit3	
柱4	20区	47号住居 大pit4	
柱5	20区	47号住居 大pit5	
柱6	20区	47号住居 大pit7	
柱7	20区	47号住居 大pit8	
柱8	20区	47号住居 小pit4	
柱9	20区	47号住居 小pit1	
柱10	20区	47号住居 小pit2	
柱11	20区	47号住居 番号なし	
柱12	20区	47号住居 大pit2	
柱13	20区	47号住居 小pit3	
柱14	20区	47号住居 小pit5	
柱15	20区	47号住居 小pit6	
柱16	20区	47号住居 番号なし	
柱17	20区	47号住居 小pit7	
柱18	20区	47号住居 小pit8	
柱19	20区	47号住居 小pit9	
柱20	20区	47号住居 小pit10	
柱21	20区	47号住居 小pit11	
柱22	20区	47号住居 小pit12	
柱23	20区	47号住居 小pit19	
柱24	20区	47号住居 小pit16	

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱25	20区	47号住居 小pit13	
柱26	20区	47号住居 小pit14	
柱27	20区	47号住居 小pit15	
柱28	20区	47号住居 小pit22	
柱29	20区	47号住居 小pit23	
柱30	20区	47号住居 小pit17	
柱31	20区	47号住居 小pit20	
柱32	20区	47号住居 小pit24	
柱33	20区	47号住居 小pit21	
柱34	20区	47号住居 小pit18	
柱35	20区	47号住居 大pit10	
柱36	20区	47号住居 大pit11	
柱37	20区	47号住居 大pit9	
柱38	20区	47号住居 pit10	
柱39	20区	47号住居 pit9	
柱40	20区	47号住居 pit8	
柱41	20区	47号住居 pit7	
柱42	20区	47号住居 pit6	
柱43	20区	47号住居 pit5	
柱44	20区	47号住居 pit4	
柱45	20区	47号住居 pit3	
柱46	20区	47号住居 pit2	
柱47	20区	47号住居 pit1	

20区52号住居

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱1	20区	60号住居 柱6	60住と共有
柱2	20区	52号住居 pit3	
柱3	20区	52号住居 pit6	
柱4	20区	52号住居 pit5	
柱5	20区	65号住居 柱	65住と共有
柱6	20区	52号住居 pit2	

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱7	20区	52号住居 pit4	
柱8	20区	52号住居 pit8	
柱9	20区	52号住居 pit7	
柱10	20区	52号住居 pit9	
柱11	20区	52号住居 pit10	

20区70号住居

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱27	20区	66号住居 柱	66住と共有

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱28	20区	66号住居 柱	66住と共有

20区71号住居

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱14	20区	556号土坑	

20区81号住居

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱16	20区	81号住居 住居内土坑	

20区82号住居

報告遺構名	調査時遺構名		備考
炉掘り方	20区	81号住居 柱穴10	

20区98号住居

報告遺構名	調査時遺構名		備考
炉(上半)	20区	28号焼土	
柱3	20区	563号土坑	既報告(6)
柱7	20区	544号土坑	既報告(6)

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱8	20区	530号土坑	既報告(6)
柱9	20区	529号土坑	既報告(6)

30区33号住居

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱5	20区	181号土坑	既報告(6)

報告遺構名	調査時遺構名		備考
柱6	30区	184号土坑	既報告(6) 18号土坑

30区34号住居

報告遺構名	調査時遺構名		備考
出入り口部	29区	53号配石	

遺物観察表(土器・土製品)

横壁中村遺跡 19区 2号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
7	1	深鉢	胴部片	砂粒多。良。明褐色。	内面粗い研磨。外面縦位のケズリ痕を残す。	後期

横壁中村遺跡 19区 3号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
10	1	深鉢	胴部片	砂粒少。良。明褐色。	内面粗い研磨。単節LR縄文。	堀之内1
10	2	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面ナデ。単節LR縄文。	堀之内1
10	3	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。灰褐色。	内面研磨。単節LR縄文。	称名寺1
10	4	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。橙色。	内面粗い研磨。単節LR縄文。	称名寺1
10	5	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	称名寺2
10	6	深鉢	口縁部片	細砂粒少。良。灰黄褐色。	内面粗い研磨。外面ナデ。	称名寺
10	7	深鉢	胴部片	砂粒やや多。良。褐色。	内外面研磨。	称名寺
10	8	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒色。	内面研磨。	後期
10	9	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨。	堀之内1
10	10	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	堀之内1
10	11	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内1
10	12	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内2
10	13	深鉢	口縁部片	砂粒やや多。良。にぶい黄褐色。	外面粗い研磨。	堀之内2
10	14	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。橙色。	内面粗い研磨。外面粗いナデ。	堀之内1
10	15	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内1
10	16	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。淡黄色。	内外面ナデ。17と同一個体。	堀之内1(越後系)
10	17	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面ナデ。16と同一個体。	堀之内1(越後系)
10	18	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。黒褐色。	内外面粗い研磨。単節LR縄文。	堀之内1
10	19	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面研磨。単節LR縄文。	堀之内1
10	20	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面研磨。	唐草文系新
10	21	深鉢	胴部片	砂粒少。良。明赤褐色。	内面研磨。	堀之内1
10	22	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。黒色。	内外面研磨。内面炭化物付着。	加曾利B1
10	23	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面研磨。	堀之内1
10	24	注口	口縁・注口部片	砂粒少。良。褐色～橙色。	外面粗い研磨。25と同一個体。	堀之内1
10	25	注口	口縁・把手部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	外面粗い研磨。24と同一個体。	堀之内1
11	26	深鉢	口縁部片	細砂粒やや多。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。口径(13.0)。	堀之内2
11	27	深鉢	口縁部片	細砂粒やや多。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。単節LR縄文。口径(13.6)。	堀之内2
11	28	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。	堀之内2
11	29	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨・光沢。単節LR縄文。	堀之内2
11	30	深鉢	胴部片	砂粒少。良。灰褐色。	内外面研磨。	堀之内2
11	31	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理。	堀之内2
11	32	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰褐色。	内外面研磨・光沢。単節LR縄文。	堀之内2
11	33	深鉢	口縁部片	細砂粒少。良。黒色。	内外面研磨・光沢。単節LR縄文。	堀之内2
11	34	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨・光沢。単節LR縄文。	堀之内2
11	35	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
11	36	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内面粗い研磨。単節LR縄文。	堀之内2
11	37	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内面研磨・光沢。	堀之内2
11	38	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理。単節LR縄文。	堀之内2
11	39	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理。	堀之内2
11	40	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理。	堀之内2
11	41	深鉢	口縁部片	砂粒多。普通。にぶい黄褐色。	内外面丁寧なナデ。	堀之内2
11	42	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。浅黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
11	43	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	加曾利B1
11	44	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理。単節LR縄文。	堀之内2
11	45	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。単節LR縄文。	堀之内2
11	46	深鉢	胴部片	砂粒少。良。灰褐色。	内外面ナデ。	堀之内2
11	47	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
11	48	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。	堀之内2
11	49	深鉢	胴部片	細砂粒やや多。良。黒褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
11	50	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
11	51	深鉢	胴部片	砂粒少。良。明黄褐色。	外面粗いナデ。	後期
11	52	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。単節LR縄文。	堀之内2
11	53	深鉢	胴部片	砂粒多。良。暗褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
11	54	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
11	55	深鉢	胴部片	砂粒少。良。暗褐色。	内外面研磨・光沢。単節LR縄文。	堀之内2
11	56	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。単節LR縄文。	堀之内2
12	57	注口	把手部片	細砂粒少。良。にぶい赤褐色。	器面劣化により調整不明。	堀之内2
12	58	注口	胴部片	細砂粒多。普通。黄灰色。	内面ナデ。外面研磨。	堀之内2
12	59	注口	注口部片	細砂粒少。普通。黒褐色。	外面黒色処理・粗い研磨。	堀之内2
12	60	注口	注口部片	細砂粒少。良。にぶい黄褐色。	外面研磨。	堀之内2
12	61	深鉢	胴部片	砂粒少。普通。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節LR縄文。	堀之内2
12	62	注口	胴部片	砂粒少。普通。褐灰色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	堀之内2
12	63	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黄灰色。	内外面粗い研磨。	堀之内2
12	64	蓋?	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内2
12	65	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。	加曾利B1
12	66	深鉢	胴部片	砂粒少。良。褐灰色。	内外面研磨。	加曾利B1
12	67	深鉢	胴部片	砂粒少。良。褐灰色。	内外面研磨。	加曾利B1
12	68	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理。	堀之内2
12	69	深鉢	口縁～胴部	細砂粒少。良。黒色。	内面、外面無文部研磨・黒色処理・光沢。外面文様部磨き残す。口径13.1。	加曾利B1
12	70	注口	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。	加曾利B1
12	71	注口	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内面丁寧なナデ。外面研磨・光沢。	加曾利B1
12	72	注口	底部片	砂粒少。普通。にぶい黄褐色。	内面ナデ。外面研磨・光沢。内外面黒色処理。底面ナデ痕残す。	加曾利B1
12	73	深鉢	底部片	細砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。底面に網状痕。	堀之内2
12	74	鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	加曾利B2
12	75	鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	加曾利B2
12	76	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面粗い研磨。	加曾利B2
12	77	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。暗褐色。	内外面研磨。	加曾利B2
12	78	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面研磨。	加曾利B1
12	79	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内面研磨。	加曾利B1
12	80	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面研磨。	加曾利B2
12	81	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐灰色。	内面粗い研磨。	加曾利B
12	82	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面研磨。	加曾利B2

遺物観察表

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
12	83	深鉢	底部片	砂粒多。良。橙色。	内面粗いナデ。外面研磨。底面網代痕。底径11.4。残存高4.5。	後期
12	84	注口	底部片	細砂粒少。普通。黒褐色。	内面有段。内外面研磨・黒色処理・光沢。底面網代痕。底面磨減著しい。底径(9.0)。残存高1.6。	堀之内2
12	85	深鉢	底部片	細砂粒多。良。灰褐色。	外面研磨・黒色処理。内面ナデ。底面に網代痕。	後期
12	86	深鉢	底部片	細砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。底面網代痕。底部端が肩状に突出。底径(10.8)。残存高3.8。	堀之内2
12	87	鉢	底部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。底面網代痕。	後期
13	88	深鉢	口縁～胴部	砂粒多。良。灰褐色。	外面粗い研磨。内面ナデ。	高井東
13	89	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。明赤褐色。	内外面ナデ。単節LR縄文。	高井東
13	90	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面ナデ。	高井東
13	91	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面ナデ。	高井東
13	92	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面ナデ。	高井東
13	93	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面研磨。外面ナデ。	高井東?
13	94	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。	高井東
13	95	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。赤褐色。	内外面粗い研磨。	高井東
13	96	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。明赤色。	内外面ナデ。単節LR縄文。	高井東
13	97	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面ナデ。内面粗い研磨。	高井東
13	98	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面ナデ。	高井東
13	99	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面ナデ。外面に粗いナデ痕を残す。	高井東
13	100	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面ナデ。内外面に粗いナデ痕を残す。	高井東
13	101	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面ナデ。	高井東
14	102	深鉢	口縁～胴部	細砂粒やや多。良。褐色。	内外面研磨。口径46.0。	高井東
14	103	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内面粗い研磨。単節LR縄文。	安行2
14	104	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。黒褐色。	内面研磨・光沢。単節LR縄文。	安行3a
14	105	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面粗い研磨。	安行1～2
14	106	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節LR縄文。	大洞BC(安行3b)
14	107	深鉢	口縁～胴部	細砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節LR縄文。	安行3a
14	108	土製円盤	完形	砂粒多。良。にぶい褐色。	調整良。側縁打ち欠き。最大径3.0。	後期
14	109	土製円盤	完形	砂粒やや多。良。褐色。	調整良。側縁打ち欠き。最大径2.7。	後期
14	110	土製円盤	完形	砂粒やや多。良。明褐色。	調整良。側縁研磨か。最大径3.5。	後期
14	111	土製円盤	完形	細砂粒多。良。にぶい褐色。	調整良。側縁打ち欠き。最大径4.7。	堀之内1

横壁中村遺跡 19区 21号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
20	1	深鉢	胴～底部	細砂粒多。良。橙～褐灰色。	被熱により劣化著しい。底部付近に白色シルト付着。底径7.0。	堀之内1
20	2	深鉢	口縁～胴部	細砂粒やや多。良。にぶい赤褐色。	口縁部無文部・内面研磨。単節LR縄文。口径(11.2)。	堀之内1
20	3	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。にぶい橙～黒褐色。	表面風化著しい。単節LR縄文充填。	堀之内1
20	4	深鉢	胴～底部	砂粒多。良。赤褐色。	欠損部付近被熱により劣化。底径9.5。	三十稲場
20	5	深鉢	口縁～底部	砂粒多。良。明黄褐色。	内外面・底面研磨。口径33.1。底径(11.2)。	称名寺2
20	6	深鉢	口縁～胴部	砂粒多。赤色粒子多。良。橙～黒褐色。	内外面研磨。口径32.0。	称名寺2
21	7	深鉢	口縁部片	砂粒やや多。良。にぶい黄褐色。	波状口縁。内外面研磨。	称名寺2
21	8	深鉢	胴部片	粗砂粒やや多。赤色粒子含む。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	称名寺2
21	9	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	称名寺2
21	10	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい橙～黒褐色。	内外面研磨。	称名寺2
21	11	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。暗褐色。	把手部片。単節LR縄文か。	後期
21	12	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。波状口縁。波状部の口唇部に文様施文。	称名寺2
21	13	深鉢	口縁部片	細砂粒やや多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。刺突列。	称名寺2
21	14	深鉢	口縁部片	砂粒多。普通。にぶい赤褐色。	内外面研磨。単節LR縄文充填。	称名寺2
21	15	注口	完形	細砂粒多。良。にぶい黄褐色。	外面無文部粗い研磨。内面丁寧なナデ。単節LR縄文充填。文様2単位。底面摩滅。口径4.8。底径4.5。高さ9.7。	称名寺2～堀之内1
21	16	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	堀之内1
21	17	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内面粗い研磨。	称名寺2
21	18	深鉢	胴部片	細砂粒やや多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。19と同一個体。	称名寺2
21	19	深鉢	胴部片	細砂粒やや多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。18と同一個体。	称名寺2
21	20	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。浅黄色。	器面劣化により調整不明。外面円形刺突。被熱著しく炉内埋設土器の可能性あり。	三十稲場
21	21	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内面研磨。外面刺突列。22と同一個体。	三十稲場
21	22	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内面研磨。外面刺突列。21と同一個体。	三十稲場
22	23	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐灰色。	内外面粗い研磨。	堀之内1
22	24	深鉢	口縁部片	砂粒やや多。良。褐灰色。	内外面研磨。	堀之内1
22	25	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。黒褐～にぶい黄褐色。	内外面研磨。	称名寺2
22	26	深鉢	胴部片	細砂粒やや少。良。にぶい黄褐色。	内面研磨。外面粗い研磨。単節LR縄文。	堀之内1
22	27	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。灰褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内1
22	28	注口付鉢	口縁部片	砂粒多。赤色粒子含む。良。褐色。	内外面研磨。	堀之内1
22	29	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面ナデ。無節LR縄文。	堀之内1
22	30	浅鉢	口縁部片	細砂粒やや多。良。赤褐色。	内外面研磨。単節LR縄文充填。円形刺突。口径(24.8)。	堀之内1
22	31	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。隆帯・瘤状の突起添付。	高井東
22	32	深鉢	口縁部片	砂粒やや少。良。黒褐色。	波状口縁。内外面研磨。	高井東
22	33	深鉢	口縁部片	粗砂粒やや多。良。黒褐色。	波状口縁。内外面研磨。	高井東
22	34	深鉢	口縁部片	細砂粒やや多。良。灰黄褐色。	波状口縁。内外面研磨。	高井東
22	35	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面研磨。外面ナデ。	後期
22	36	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内面研磨。外面ナデ。	後期
23	37	深鉢	口縁～胴部	細砂粒多。良。明赤褐～黒褐色。	内外面研磨。口径(41.0)。	堀之内2
23	38	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面丁寧なナデ。補修孔か。	後期
23	39	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面丁寧なナデ。単節LR縄文。	安行1
23	40	土製円盤	完形	粗砂粒多。良。明赤褐色。	調整良。側縁打ち欠き。最大径3.6。	後期
23	41	土製円盤	完形	細砂粒やや多。良。にぶい黄褐色。	調整良。側縁打ち欠き後に研磨。単節LR縄文。最大径4.3。	後期

遺物観察表

横壁中村遺跡 19 区 24 号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
29	1	鉢	口縁部片	砂粒やや多。良。褐色。	沈線文に刺突充填。内外面研磨。	称名寺2
29	2	深鉢	胴部片	細砂粒少。良。にぶい橙色。	内外面研磨。単節LR縄文充填。	称名寺2
29	3	注口	完形	細砂粒多。良。にぶい黄褐色。	外面無文部研磨。内面丁寧なナデ。文様2単位。単節LR縄文充填。底面縁辺の摩滅顕著。口径7.7。底径5.0。高さ12.2。	称名寺2
29	4	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	称名寺2
29	5	深鉢	胴部片	細砂粒やや多。良。にぶい黄褐色。	被熱により劣化著しい。調整不明。単節LR縄文。	称名寺2
29	6	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。内面上端部に強い被熱痕があり、劣化著しい。炉内埋設土器に使用した土器の可能性ある。	称名寺2 (茂沢類型)
29	7	深鉢	胴部片	細砂粒やや多。良。にぶい黄色。	被熱により劣化著しい。外面白色シルト付着。単節LR縄文充填。炉内埋設土器の可能性あり。8と同一個体。	称名寺2
29	8	深鉢	胴部片	細砂粒やや多。良。にぶい黄色。	被熱により劣化著しい。外面白色シルト付着。単節LR縄文充填。炉内埋設土器の可能性あり。7と同一個体。	称名寺2
29	9	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。にぶい黄褐色。	縄文有無不明。内面研磨。	堀之内1
29	10	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	高井東

横壁中村遺跡 19 区 28 号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
34	1	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	堀之内1
34	2	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。	堀之内2
34	3	鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	堀之内1
34	4	鉢	胴~底部	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。単節RL縄文。	後期?
34	5	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。	堀之内2
34	6	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	波状口縁。内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
34	7	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面黒色処理・研磨。単節LR縄文。	堀之内2
34	8	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨。	堀之内2
34	9	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	波状口縁。内外面研磨。	堀之内2
34	10	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰黄色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
34	11	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
34	12	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
34	13	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
34	14	深鉢	口縁部片	砂粒少。雲母含む。良。黒褐色。	内外面研磨。口唇肥厚。隆帯を貼付し沈線による渦巻紋。	堀之内2
34	15	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
34	16	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐色。	内面粗い研磨。単節LR縄文。	堀之内2
35	17	注口	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面ナデ。外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
35	18	注口?	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
35	19	注口	口縁~胴部	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。半肉彫的な文様。単節LR縄文充填。	堀之内2
35	20	注口	口縁部片	細砂粒少。良。褐色。	把手片。内外面丁寧な研磨。頂部・内面に盲孔。外面に「ノ」字状沈線。	加曾利B1
35	21	小型壺	胴~底部	細砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面ナデ。外面丁寧な研磨。底部外面突出。底面網代痕。底径4.6。	堀之内2
35	22	深鉢	口縁部片	砂粒多。雲母含む。良。黒褐色。	内面研磨。把手部。	勝坂3
35	23	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。三叉状沈線。	勝坂3
35	24	深鉢	胴部片	砂粒多。良。赤褐色。	内外面研磨。	勝坂1
35	25	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。暗褐色。	内外面研磨。	勝坂2
35	26	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	堀之内1
35	27	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	加曾利E3
35	28	鉢?	底部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内面黒色処理・研磨・光沢。外面劣化。底径8.0。残存高2.0。	堀之内2~加曾利B
35	29	注口	底部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面粗いナデ。外面研磨。底面網代痕。底径7.0。残存高1.3。	後期
35	30	深鉢	底部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨。底面に網代痕。底径11.0。残存高2.2。	後期
35	31	深鉢	底部片	砂粒少。良。褐色。	内外面粗い研磨。底面に網代痕。底径9.0。残存高3.7。	後期

横壁中村遺跡 19 区 32 号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
42	1	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	称名寺2
42	2	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内1
42	3	深鉢	口縁~胴部	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	堀之内1
42	4	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。	堀之内1
42	5	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。波状口縁。	堀之内1
42	6	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	堀之内1
42	7	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。	堀之内1
42	8	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内1
42	9	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内1
42	10	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内1
42	11	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内1
42	12	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	堀之内1
42	13	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
42	14	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
42	15	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内2
42	16	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内2
43	17	深鉢	口縁部片	砂粒やや多。良。赤褐色。	撫系Lを地文とし、隆帯貼付。一部隆帯上に刻み。口径(33.0)。	加曾利E1
43	18	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面粗い研磨。	唐草文系
43	19	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	把手剥落。隆帯による区画。斜位沈線充填。	加曾利E3
43	20	深鉢	口縁部片	砂粒多。雲母含む。良。にぶい赤褐色。	内面粗い研磨。	唐草文系
43	21	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。単節LR縄文。	加曾利E4
43	22	深鉢	口縁~胴部	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。単節LR縄文。	加曾利E4
43	23	深鉢	底部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。底面網代痕。底径15.0。残存高4.3。	堀之内
43	24	深鉢	底部片	砂粒多。良。赤褐色。	内外面研磨。底面網代痕。底径8.4。残存高1.8。	堀之内2
43	25	注口?	底部片	細砂粒少。良。褐色。	内面ナデ。外面研磨・光沢。底面網代痕。底部内面有段。底部使用による摩滅著しい。	堀之内2

遺物観察表

横壁中村遺跡 19 区 36 号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
47	1	深鉢	底部片	砂粒多。普通。明黄褐～灰黄色。	被熱により著しい劣化。調整不明。	後期

横壁中村遺跡 19 区 54 号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
51	1	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	外面やや粗いナデ。単節LR縄文。上位内外面被熱により劣化、白色化顕著。口径(18.6)。	堀之内 1
51	2	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。橙色。	内外面ナデ。	堀之内 1
51	3	深鉢	胴～底部	細砂粒多。良。明褐色。	3本単位の沈線紋。単節LR縄文。底面網代痕。上位内外面被熱により白色化・著しい劣化。胴下位から底部に白色シルト付着。底径7.6。	堀之内 1
51	4	注口	胴部片	砂粒多。良。褐灰色。	内外面研磨。隆帯文。把手部欠損。	堀之内 2
51	5	深鉢	底部片	細砂粒多。良。橙色。	内面丁寧なナデ。外面粗い研磨。底面網代痕。底径7.8。	堀之内 1
51	6	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内面研磨。単節LR縄文。隆帯貼付。半截竹管による沈線。	加曽利 E 1
51	7	深鉢	胴部片	砂粒少。普通。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。単節LR縄文。	堀之内 1
51	8	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。無節LR縄文。	高井東
51	9	注口付鉢	口縁～底部	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面ナデから粗い研磨。底面網代痕なし。口縁部被熱により劣化・白色化。一部に白色シルト付着。口径(27.7)。底径6.6。高さ22.5。	堀之内 1

横壁中村遺跡 19 区 55 号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
53	1	深鉢	口縁～胴部	砂粒多、岩片含む。良。橙～黒褐色。	内面、外面無文部研磨。無節LR縄文充填。	堀之内 2
53	2	深鉢	口縁～胴部	細砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨。外面スス付着。口径(15.0)。	堀之内 2
53	3	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。橙色。	内外面研磨。単節LR縄文。被熱で劣化。	堀之内 2
53	4	深鉢	口縁～胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内 2
53	5	深鉢	口縁～胴部	砂粒多、軽石粒含む。良。にぶい黄褐色。	内外面横位のナデから粗い研磨。口径30.5。残存高22.3。	堀之内 2
53	6	注口	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	把手片。器面劣化。口径(6.0)。残存高5.1。	堀之内 2
53	7	注口	口縁部片	細砂粒多。良。にぶい赤褐色。	把手片。内外面研磨。口径(8.9)。	堀之内 2
53	8	注口	把手部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	器面劣化のため調整不明。	堀之内 2
53	9	注口	口縁～胴部	細砂粒多、赤色粒子含む。良。黒褐色。	内面口縁部、外面丁寧な研磨。内面胴部ナデ。単節LR縄文。	堀之内 2
53	10	注口	胴～底部	砂粒やや多。良。灰褐色。	内面ナデ。外面研磨。底面網代痕。底面著しい摩滅。11と同一個体。	堀之内 2
53	11	注口	注口部片	砂粒やや多。良。灰褐色。	全面研磨。10と同一個体。	堀之内 2
53	12	注口	注口部片	細砂粒少。良。明褐色。	全面研磨。	堀之内 2
53	13	注口?	底部片	砂粒多。良。明褐色。	内面ナデ。外面研磨。内面有段。	後期
54	14	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内 1
54	15	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内 1
54	16	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内 1
54	17	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。橙色。	器面劣化。	堀之内 1
54	18	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。隆帯貼付。	堀之内 2
54	19	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨。	堀之内 2
54	20	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。隆帯貼付。	堀之内 2
54	21	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。口唇部小波状。	堀之内 2
54	22	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐。	器面劣化。隆帯貼付。	堀之内 2
54	23	深鉢	口縁部片	細砂粒少。良。明黄褐色。	内外面研磨。隆帯貼付。	堀之内 2
54	24	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。橙色。	内外面研磨。隆帯貼付。	堀之内 2
54	25	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。隆帯貼付。	堀之内 2
54	26	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。隆帯貼付。	堀之内 2
54	27	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内 2
54	28	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。明赤褐色。	内外面研磨。	堀之内 2
54	29	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面ナデ。	堀之内 2
54	30	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐～にぶい褐色。	内外面研磨。口縁に棒状粘土貼付。	堀之内 2
54	31	深鉢	胴部片	砂粒少。良。赤褐色。	内外面研磨。	堀之内 2
54	32	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。隆帯貼付。	堀之内 2
54	33	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。	堀之内 2
54	34	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面ナデ。	堀之内 2
54	35	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨。	堀之内 2
54	36	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内 2
54	37	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	堀之内 2
54	38	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内 2
54	39	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	堀之内 2
54	40	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内 2
55	41	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	堀之内 2
55	42	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨。縦位隆帯貼付。	堀之内 2
55	43	深鉢	胴部片	砂粒少。普通。にぶい褐色。	内外面研磨。刻みを伴う隆帯。	堀之内 2
55	44	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。隆帯貼付。	堀之内 2
55	45	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨。隆帯貼付。	堀之内 2
55	46	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。隆帯貼付。	堀之内 2
55	47	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。	堀之内 2
55	48	鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨。	堀之内 2
55	49	浅鉢	口縁部片	細砂粒多。良。明赤褐色。	内外面研磨。透かし孔を伴う台形状の突起。内面に沈線文、盲孔。	堀之内 2
55	50	注口	底部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。底面磨滅著しい。	堀之内 2
55	51	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨。	堀之内 2
55	52	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内 2
55	53	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰褐色。	内外面研磨。	堀之内 2
55	54	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰褐色。	内面粗い研磨。外面ナデ。	堀之内 2
55	55	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。橙～灰褐色。	内外面ナデ。	後期
55	56	深鉢	胴部片	粗砂粒多。良。明黄褐色。	内面ナデ。外面研磨。	後期
55	57	深鉢	底部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。底面に網代痕。底径(15.0)。残存高5.2。	堀之内 2
55	58	深鉢	底部片	砂粒多。良。明赤褐色。	内外面研磨。底面に網代痕。底径(10.0)。残存高5.5。	堀之内 2
55	59	深鉢	底部片	砂粒多。良。明赤褐色。	内外面研磨。底面に網代痕。底径(10.9)。	後期
55	60	深鉢	底部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	底面網代痕。底径(7.6)。	後期

遺物観察表

横壁中村遺跡 19 区 56 号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
58	1	深鉢	口縁部片	砂粒やや多。良。暗褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節L R 縄文。	加曾利 B 2
58	2	注口?	口縁部片	細砂粒少。普通。にぶい黄色。	瘤付土器。内面ナデ。外面劣化。わずかに赤色顔料残存。口径 6.4。残存高 4.4。	安行 1
58	3	注口	胴部片	砂粒やや多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。刺突充填。注口部下部「U」字状貼付。	加曾利 B 2 ~ 3
58	4	深鉢	口縁部片	砂粒多。岩片含む。良。橙色。	内面研磨。単節 L R 縄文。	五領ヶ台
58	5	深鉢	胴部片	砂粒多。雲母含む。良。褐色。	内外面ナデ。横位連続刺突列。	阿玉台
58	6	深鉢	胴部片	砂粒多。良。暗褐色。	内外面研磨。単節 R L 縄文。	堀之内 1
58	7	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	堀之内 1
58	8	深鉢	口縁部片	砂粒多。雲母含む。良。褐色。	内外面ナデ。	焼町
58	9	深鉢	胴部片	砂粒多。雲母含む。良。にぶい赤褐色。	内外面ナデ。単節 R L 縄文。	焼町
58	10	深鉢	胴部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。無節 L 縄文。	加曾利 B 2
58	11	深鉢	口縁部片	細砂粒。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	加曾利 B 2
58	12	深鉢	胴部片	細砂粒。良。にぶい黄褐色。	内面研磨。外面文様部ケズリ痕を磨き残す。	加曾利 B 2
58	13	深鉢	頸部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節 L R 縄文。	加曾利 B 2
58	14	注口	胴部片	砂粒やや多。良。にぶい褐色。	内面粗い研磨。外面研磨。環状粘土貼付。	加曾利 B 2
58	15	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内面研磨。外面ケズリ後に斜位の沈線。内面炭化物付着。	加曾利 B 2
58	16	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。明赤褐色。	内外面研磨。	堀之内 1
58	17	深鉢	口縁部片	砂粒やや多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	後期
58	18	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。	高井東
58	19	深鉢	口縁~胴部	砂粒多。赤色粒子含む。良。暗赤褐色。	内外面研磨。	後期

横壁中村遺跡 19 区 57 号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
60	1	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。単節 R L 縄文。	加曾利 E 3
60	2	深鉢	底部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外底面研磨。縦位沈線。底径 7.6。	加曾利 E 3
60	3	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内面研磨。単節 L R 縄文。	加曾利 E 3
60	4	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐色。	内面研磨。外面縦位羽状線。	唐草文系
60	5	深鉢	口縁~胴部	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。縦い波状口縁。波頂部間に沈線。	堀之内 1
60	6	深鉢	口縁~胴部	細砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨。単節 L R 縄文。縄文を伴う横位隆帯。	堀之内 2

横壁中村遺跡 20 区 11 号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
64	1	深鉢	口縁~胴部	粗砂粒少。良。明赤褐色。	内外面研磨。無節 L 縄文充填。口径 (28.5)。残存高 12.8。	加曾利 E 4 ~称名寺 1
64	2	深鉢	口縁~胴部	粗砂粒多。白色粒子多。良。赤褐色。	内面、外面無文部研磨。単節 L R 縄文充填。刻みを伴う隆帯。把手 2 単位か。口径 (27.6)。残存高 19.7。	称名寺 1
64	3	深鉢	口縁~胴部	砂粒やや多。良。褐色。	内面、口縁無文部研磨。無節 L 縄文。口径 (27.0)。残存高 17.4。	加曾利 E 4 ~称名寺 1
64	4	深鉢	胴部片	砂粒多。普通。褐色。	器面劣化著しい。残存高 10.5。	加曾利 E 4 ~称名寺 1
64	5	深鉢	口縁~胴部	砂粒多。雲母含む。良。明褐~黒褐色。	内面研磨。隆帯貼付。沈線充填。	曾利古
64	6	深鉢	底部片	砂粒やや多。良。黒褐~褐色。	内外面研磨。底面粗い研磨(網代痕残存)。底径 9.2。残存高 5.8。	中期
64	7	深鉢	胴部片	砂粒やや多。良。にぶい褐色。	内面研磨。隆帯文。単節 L R 縄文充填。	加曾利 E 4
64	8	深鉢	口縁~胴部	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節 R L 縄文。	加曾利 E 3
65	9	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。赤褐色。	内面研磨。隆帯貼付。	勝坂
65	10	深鉢	胴部片	砂粒多。良。赤褐色。	内面研磨。単節 L R 縄文を地文とし、隆帯貼付。	後期
65	11	深鉢	口縁部片	砂粒多。雲母含む。良。黒褐色。	内面、外面無文部研磨。	唐草文系新
65	12	深鉢	口縁部片	砂粒多。普通。赤褐色。	内面粗い研磨。	唐草文系新
65	13	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面研磨。隆線文。単節 L R 縄文充填。	加曾利 E 4
65	14	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内面研磨。単節 R L 縄文。	加曾利 E 3
65	15	深鉢	胴部片	砂粒多。雲母含む。良。赤褐色。	内面研磨。外面無文部研磨。	加曾利 E 3
65	16	深鉢	胴部片	砂粒やや多。普通。明褐色。	内面研磨。隆帯貼付。	唐草文系古
65	17	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	波状口縁。内面研磨。刺突列。	称名寺 1
65	18	深鉢	胴部片	砂粒やや多。良。黒褐~赤褐色。	内面粗い研磨。単節 R L 縄文。刺突列。	称名寺 1
65	21	土偶	胴部片 50%	砂粒やや多。良。褐色。	表裏、側面に沈線文。表面に正中線表現あり。乳房剥落。内部に細い軸状の穴あり。	中期

横壁中村遺跡 20 区 40 号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
73	1	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	称名寺
73	2	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐色。	内面研磨。外面ナデ。横位隆帯。	称名寺
73	3	深鉢	胴部片	細砂粒やや多。良。黒褐色。	内面剥落。外面研磨。	称名寺
73	4	深鉢	胴部片	細砂粒少。普通。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。単節 L R 縄文。	堀之内 1 (茂沢類型)
73	5	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。	堀之内
73	6	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	堀之内
73	7	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内 1 (北陸系)
73	8	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内 1
73	9	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内 1
73	10	深鉢	胴部片	粗砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。	堀之内 1
73	11	深鉢	口縁~胴部	砂粒多。良。黒~灰褐色。	内外面研磨。単節 L R 縄文充填。	堀之内 1
73	12	深鉢	口縁~胴部	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨。口径 (16.3)。残存高 11.0。	堀之内 1
73	13	深鉢	口縁部片	細砂粒少。良。灰褐色。	内外面研磨。口縁部内面に漆黒のひまぐ。	堀之内 1
73	14	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内 1
73	15	深鉢	口縁部片	砂粒やや多。良。明黄褐色。	内外面研磨。	堀之内 1
73	16	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内 1
73	17	深鉢	胴部片	砂粒多。良。明赤褐色。	内面研磨。単節 L R 縄文充填。	堀之内 1
73	18	深鉢	胴部片	砂粒やや多。良。にぶい褐色。	内面研磨。縄文原体不明。	堀之内 1
73	19	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面粗い研磨。外面研磨。単節 L R 縄文。	堀之内 1
73	20	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内
73	21	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内面ナデ。単節 L R 縄文。	堀之内
74	22	深鉢	胴部片	砂粒多。良。赤褐色。	内面研磨。	唐草文系
74	23	深鉢	胴部片	砂粒多。雲母含む。良。赤褐色。	内面研磨。	唐草文系新
74	24	深鉢	口縁~胴部	細砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。	中期
74	25	深鉢	底部片	砂粒多。普通。黒褐色。	底面網代痕。	後期
74	26	深鉢	底部片	粗砂粒多。良。褐色。	底面木葉痕。	後期
74	27	深鉢	底部片	砂粒多。良。赤褐色。	内外面粗い研磨。底面網代痕。底径 12.0。	堀之内

遺物観察表

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
74	28	深鉢	胴～底部	砂粒多。良。明黄褐色。	内外面研磨。底面研磨(網代痕残存)。底径7.4。残存高11.8。	後期
74	29	深鉢	胴～底部	砂粒多。良。褐～黒褐色。	内外面研磨。底径(8.0)。残存高14.0。	後期
74	30	深鉢	底部片	砂粒やや多。良。にぶい赤褐色。	内外面、底面研磨。	後期

横壁中村遺跡 20区 47号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
83	1	深鉢	口縁～胴部	砂粒多。良。明黄褐色。	内外面研磨。L R縄文充填。口径(50.5)。残存高41.0。	堀之内 1
83	2	深鉢	口縁～胴部	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面、外面無文部研磨。単節L R縄文充填。口径(39.2)。残存高22.5。	堀之内 1
83	3	深鉢	胴～底部	細砂粒多。良。にぶい赤褐色。	被熱により器面劣化。外面研磨。底面網代痕。底径5.8。残存高8.1。	堀之内 1
83	4	深鉢	胴部片	砂粒やや多。良。橙色。	内面、外面無文部研磨。単節R L縄文充填。外面白色シルト付着。残存高10.5。	堀之内 1
83	5	深鉢	胴～底部	細砂粒多。良。橙～赤褐色。	単節L R縄文充填。外面無文部、内面研磨。底面網代痕。底面白色シルト付着。底径8.2。残存高10.3。	堀之内 1
83	6	深鉢	底部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。底面網代痕。底径9.8。残存高5.9。	堀之内 1
84	7	深鉢	口縁～胴部	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	突起、文様3単位。内外面研磨。単節L R縄文充填。口径30.4。底径(8.0)。残存高47.1。	堀之内 1
85	8	深鉢	口縁～底部	細砂粒多。良。褐灰色。	内外面研磨。底面網代痕。口径41.5。底径8.5。高さ45.9。	堀之内 1
86	9	深鉢	口縁部片	砂粒やや多。良。明黄褐色。	突起4単位。文様3単位。内面口縁部研磨。内面胴部粗い研磨。底面粗い研磨。口径(39.0)。残存高13.3。	堀之内 1
86	10	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	突起3単位。内外面研磨。口径(20.8)。残存高8.6。	堀之内 1
86	11	深鉢	口縁～胴部	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。口縁部に1条の沈線。口径37.0。残存高20.1。	堀之内 1
86	12	深鉢	胴部片	粗砂粒多。良。にぶい褐色。	内面研磨。単節L R縄文充填。残存高4.8。	堀之内 1
86	13	深鉢	口縁～胴部	砂粒やや多。良。にぶい赤褐色。	口唇やや肥厚。内面横位研磨。外面口縁部横位研磨、胴部縦位研磨。口径(46.0)。残存高46.6。	堀之内 1
86	14	深鉢	胴～底部	細砂粒やや多。良。黒褐色。	内外面研磨。底面網代痕。底径(6.0)。残存高8.2。	堀之内 2
86	15	深鉢	頸～胴部	細砂粒多。良。黒褐～にぶい赤褐色。	内面、外面無文部研磨。単節L R縄文充填。残存高13.0。	堀之内 1
86	16	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。にぶい黄褐～褐灰色。	内面研磨。単節L R縄文充填。外面炭化物付着。残存高7.2。	堀之内 1
87	17	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。赤褐色。	内面研磨。	唐草文系
87	18	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面粗い研磨。	堀之内 1
87	19	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐灰～にぶい褐色。	刺突充填。内面研磨。口径(23.2)。残存高9.0。	称名寺 2
87	20	深鉢	口縁～胴部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内 1 (三十稲場)
87	21	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。明赤褐色。	内面粗い研磨。外面ナデ。	称名寺
87	22	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。単節L R縄文。	称名寺 1
87	23	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。口縁部刺突4単位。口径(25.5)。残存高13.5。	堀之内 1
87	24	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。黒褐色。	内面、外面無文部研磨。単節L R縄文充填。内外面炭化物付着。	堀之内 1
87	25	深鉢	口縁部片	砂粒やや多。良。黒褐色。	内面研磨。単節L R縄文を地文とし沈線文。	堀之内 1
87	26	深鉢	口縁～胴部	砂粒多。良。灰褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内 1
87	27	深鉢	口縁～胴部	細砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。外面炭化物付着。	堀之内 1
87	28	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。褐色。	内面、外面無文部研磨。単節L R縄文充填。内外面炭化物付着。	堀之内 1
87	29	深鉢	胴部片	砂粒少。良。褐色。	強い被熱痕。炉内埋設土器か。	堀之内 1
88	30	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。明赤褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内 1
88	31	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。暗赤褐色。	内外面研磨。	堀之内 1
88	32	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨。	堀之内 1
88	33	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内 1
88	34	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内 1
88	35	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内 1
88	36	深鉢	口縁～胴部	砂粒少。良。灰褐色。	内外面研磨。内面に沈線文。	堀之内 1
88	37	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内 1
88	38	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。単節L R縄文。	堀之内 1
88	39	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面粗い研磨。外面ナデ。単節L R縄文。	堀之内 1
88	40	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内 1
88	41	深鉢	胴部片	砂粒多。良。赤褐色。	内外面研磨・光沢。単節L R縄文。	堀之内 1
88	42	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨・光沢。単節L R縄文。	堀之内 1
88	43	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐灰色。	内外面研磨。単節L R縄文。	堀之内 1
88	44	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨・光沢。単節L R縄文。	堀之内 1
88	45	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。横位隆帯。	堀之内 2
88	46	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	堀之内
88	47	浅鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内
89	48	深鉢	胴～底部	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面ナデ。外面粗い研磨。底面に網代痕。底径8.0。残存高11.2。	後期
89	49	深鉢	胴～底部	細砂粒多。良。橙～褐灰色。	内面ナデ。外面ケズリ後に粗い研磨。底面網代痕。底面白色シルト付着。底径9.4。残存高16.8。	堀之内 1

横壁中村遺跡 20区 52号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
98	1	深鉢	口縁部片	細砂粒多、雲母含む。良。褐色。	内面研磨。撚糸L。	加曾利 E 2
98	2	深鉢	口縁部片	砂粒多、雲母含む。良。にぶい黄褐色。	内面研磨。単節L R縄文。	唐草文系古
98	3	深鉢	胴部片	砂粒多、雲母含む。良。にぶい褐色。	内面ナデ。隆帯貼付。沈線文充填。	曾利古
98	4	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。	加曾利 E 4
98	5	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。口縁部に斜位沈線を施文後、逆の斜位隆帯を貼付し格子目状文。口径17.6。残存高7.7。	曾利古
98	6	深鉢	口縁部片	細砂粒やや多。良。褐色。	内面研磨。口径(15.5)。残存高7.5。	唐草文系新
98	7	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	唐草文系
98	8	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	曾利V
98	9	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐色。	内面粗い研磨。単節R L縄文。波状口縁。	加曾利 E 3
98	10	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。にぶい黄褐～黒褐色。	内面研磨。単節L R縄文充填。	加曾利 E 3
98	11	深鉢	口縁部片	砂粒やや多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	加曾利 E 4
98	12	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。横位隆帯。	加曾利 E 4
98	13	深鉢	口縁部片	砂粒多。普通。褐灰～褐色。	内外面研磨。単節L R縄文充填。	加曾利 E 4
98	14	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。隆線文。単節L R縄文。	加曾利 E 4
98	15	深鉢	口縁部片	砂粒やや多。良。明赤褐色。	内外面研磨。隆線文。無節L R縄文。	加曾利 E 4
98	16	深鉢	胴部片	粗粒やや多。良。にぶい褐色。	内面研磨。隆線文。単節L R縄文。	加曾利 E 4
99	17	深鉢	口縁部片	砂粒多、雲母含む。良。灰褐色。	内面ナデ。	勝坂 3
99	18	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	波状口縁。内面研磨。口縁部刺突列。	加曾利 E 4
99	19	深鉢	口縁部片	砂粒やや多。良。黒色。	環状把手。内外面研磨。	称名寺 1

遺物観察表

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
99	20	深鉢	口縁部片	粗砂粒多、赤色粒子含む。良。黄褐色。	内面研磨。隆帯貼付。単節LR縄文。円形刺突。	称名寺1
99	21	深鉢	口縁部片	砂粒やや多。良。褐灰〜にぶい褐色。	内面研磨。単節LR縄文。	加曾利E4
99	22	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内面研磨。無節LR縄文。	加曾利E4
99	23	深鉢	口縁部片	砂粒多。普通。にぶい黄褐色。	波状口縁。内外面研磨。	称名寺
99	24	深鉢	口縁部片	砂粒多。普通。にぶい褐色。	内面ナデ。外面研磨。内面炭化物付着。	加曾利E4
99	25	深鉢	口縁部片	細砂粒やや多。良。黒褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	加曾利E4
99	26	深鉢	口縁部片	粗砂粒多。普通。明黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	加曾利E4
99	27	深鉢	胴部片	粗砂粒やや多。良。明赤褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	加曾利E4
99	28	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面研磨。外面丁寧な研磨。単節LR縄文。	加曾利E4
99	29	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面研磨。単節LR縄文。内外面炭化物付着。	加曾利E4
99	30	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。明褐色。	内面研磨。外面ナデ。	加曾利E4
99	31	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面粗い研磨。外面研磨。	加曾利E4
99	32	鉢	胴部片	細砂粒多。良。にぶい黄褐色。	横位橋状把手。器面劣化のため調整不明。	加曾利E4
99	33	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面研磨。単節LR縄文。	堀之内1
99	34	深鉢	口縁部片	細砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面丁寧な研磨。外面焼ハジケ。単節LR縄文充填。	称名寺1
99	35	深鉢	胴部片	細砂粒やや少。良。にぶい褐色。	内面研磨。単節LR縄文。	堀之内1
99	36	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐色。	中空把手。無文部研磨。単節LR縄文充填。	称名寺1

横壁中村遺跡 20区 61号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
102	1	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面研磨。縄文原体不明。	加曾利E3
102	2	深鉢	口縁部片	細砂粒やや多。良。褐灰色。	環状口縁。内面、外面口縁部粗い研磨。単節LR縄文充填。	加曾利E4
102	3	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐灰色。	内外面研磨。	中期
102	4	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨。	堀之内1
102	5	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。外面炭化物付着。	堀之内1

横壁中村遺跡 20区 70号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
108	1	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内面、外面無文部丁寧な研磨。沈線による幾何学文。細かい単節LR縄文充填。残存高11.9。	堀之内2
108	2	深鉢	釣手部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	環状粘土紐を貼付し、「X」字状に隆帯。	加曾利B1
108	3	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
108	4	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面いぶし・研磨・光沢。	堀之内2
108	5	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内2
108	6	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面いぶし・研磨・光沢。単節LR縄文。	堀之内2
108	7	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面いぶし・研磨・光沢。	堀之内2
108	8	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐色。	内外面粗い研磨。単節LR縄文。	堀之内2
108	9	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	把手片。内外面研磨。	加曾利B1
108	10	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面いぶし・研磨・光沢。	堀之内2
108	11	鉢	口縁部片	細砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。刺突充填。	中期
108	12	鉢	胴部片	砂粒やや多。良。褐灰色。	内外面研磨。隆線文。内外面赤色塗彩。	加曾利E3
108	13	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内2
108	14	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	加曾利B1
108	15	注口	胴部片	細砂粒多。良。灰褐色。	内面ナデ。外面研磨。	加曾利B1
108	16	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。黒褐色。	波状口縁4単位。内外面丁寧な研磨。単節LR縄文。	加曾利B1
108	17	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	把手片。内外面丁寧な研磨・黒色処理・光沢。単節LR縄文。	加曾利B2
108	18	深鉢	口縁〜胴部	細砂粒多。良。褐色。	内面、外面無文部研磨。横位羽状沈線。口径(19.6)。残存高9.8。	加曾利B2
108	19	深鉢	口縁部片	細砂粒多、赤色粒子含む。良。にぶい褐色。	内面粗い研磨。外面ケズリ後粗い研磨。	加曾利B2

横壁中村遺跡 20区 71号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
115	1	鉢	口縁〜胴部	細砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。単節LR縄文充填。外面炭化物付着。口径(18.0)。	堀之内2
115	2	注口	口縁〜胴部	細砂粒少。良。黒褐色。	内面口縁部研磨、胴部ナデ。外面丁寧な研磨。集合沈線。口径(8.0)。残存高4.8。	加曾利B1
115	3	注口	口縁部片・胴部片	細砂粒少。堅緻。にぶい褐色。	内外面丁寧な研磨・黒色処理・光沢。内面ナデ。口径(8.4)。	加曾利B1
115	4	深鉢	口縁部片	砂粒やや多。良。にぶい黄褐色。	突起4単位。内面、外面無文部研磨。上下を沈線で区画し対向する弧線文。口径(24.8)。残存高11.5。	堀之内2
115	5	深鉢	口縁〜胴部	細砂粒少。良。黒色。	口縁部突起3単位。単節LR縄文。丁寧な研磨・黒色処理・光沢。	加曾利B2
115	6	鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐灰色。	内外面研磨・光沢。突起周辺の口唇部に刻目。	堀之内2
115	7	小型鉢	口縁〜胴部	細砂粒少。良。黒褐色。	内面口縁部研磨、胴部ナデ(輪積痕残す)。外面丁寧な研磨。口径(6.6)。残存高6.2。	堀之内2
115	8	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	堀之内1
115	9	深鉢	口縁部片	細砂粒やや多。良。灰黄褐色。	内外面研磨。	堀之内1
115	10	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。縦位隆帯貼付。	堀之内1
115	11	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。にぶい赤褐色。	「X」字状把手。内面研磨。	加曾利E1
115	12	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨。	堀之内1
115	13	深鉢	胴部片	砂粒やや多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。外面炭化物付着。単節LR縄文。	堀之内2
115	14	深鉢	胴部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内1
116	15	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。刻みを伴う横位隆帯。	堀之内1
116	16	深鉢	胴部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内1
116	17	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐灰色。	内外面研磨・光沢。	堀之内2
116	18	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内1
116	19	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐灰色。	内外面研磨。刻みを伴う横位隆帯。単節LR縄文。	堀之内2
116	20	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐灰色。	内外面研磨。刻みを伴う横位隆帯。単節LR縄文。	堀之内2
116	21	深鉢	口縁部片	細砂粒やや多。良。黒褐色。	外面無文部、内面研磨。単節LR縄文。	加曾利B2
116	22	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐灰色。	内外面研磨。刻みを伴う横位隆帯。単節LR縄文。	堀之内2
116	23	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
116	24	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面研磨。単節LR縄文充填。	堀之内2
116	25	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内1
116	26	鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。内面に文様帯。	加曾利B1
116	27	注口	胴部片	砂粒やや多。良。明黄褐色。	内面ナデ。単節LR縄文充填。	堀之内2
116	28	注口	注口部片	細砂粒少。良。にぶい褐色。	全面研磨。	堀之内2
116	29	深鉢	底部片	細砂粒やや多。良。黒褐色。	内面粗い研磨。外面研磨。底面網代痕。	加曾利B2
116	30	深鉢	底部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨。底面網代痕。底径5.6。	堀之内2

遺物観察表

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
116	31	深鉢	底部片	砂粒多。良。にぶい橙色。	内面ナデ。外面研磨。底面網代痕。	後期
116	32	深鉢	底部片	砂粒少。良。灰褐色。	内外面研磨。内外面に粗いナデ痕を残す。底面網代痕。底径9.0。残存高2.5。	後期

横壁中村遺跡 20 区 75 号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
123	1	深鉢	胴部片	砂粒多。良。明赤褐色。	内面研磨。隆帯貼付。沈線充填。	曾利新
123	2	深鉢	口縁部片	砂粒やや多。良。にぶい橙色。	内面研磨。単節 R L 縄文充填。	加曾利 E 3
123	3	深鉢	胴部片	砂粒多。良。明赤褐色。	内面研磨。糸線文。	加曾利 E 3
123	4	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節 L R 縄文。	加曾利 E 3
123	5	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。にぶい褐色。	内面研磨。単節 R L 縄文充填。	加曾利 E 3
123	6	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。単節 R L 縄文。	加曾利 E 3
123	7	深鉢	胴部片	砂粒やや多。良。にぶい橙色。	内面研磨。単節 L R 縄文。円形刺突。	加曾利 E 3
123	8	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面いぶし・研磨・光沢。	堀之内 2
123	9	注口	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面ナデ。外面研磨。	堀之内 2
123	10	注口?	口縁部片	細砂粒多。良。黒褐色。	内外面丁寧な研磨。外面に突起。口径(7.5)。残存高3.4。	堀之内 2
123	11	鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	晩期後半
123	12	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨。	堀之内
123	13	鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面ナデ。外面横位羽状沈線。	加曾利 B 2~3
123	14	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	堀之内 2
123	15	深鉢	口縁部片	砂粒やや多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。口径(35.0)。	晩期後半

横壁中村遺跡 20 区 77 号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
127	1	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい橙色。	内外面研磨・光沢。単節 L R 縄文。	堀之内 2
127	2	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい橙色。	内面ナデ。	堀之内 1
127	3	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内 1
127	4	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨・光沢。単節 L R 縄文。	堀之内 2
127	5	深鉢	頸部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内 1
127	6	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面粗い研磨。	堀之内 1
127	7	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内 2
127	8	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内 1
127	9	深鉢	胴~底部	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面、底面研磨。単節 L R 縄文。胴部欠損部付近、被熱により劣化。底面白色シルト付着。底径10.4。残存高10.6。	堀之内 2
127	10	深鉢	口縁~胴部	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。単節 L R 縄文。	堀之内 2
127	11	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。灰褐色。	内外面研磨。三角形文。単節 L R 縄文充填。外面炭化物付着。	堀之内 2
127	12	鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節 L R 縄文。	堀之内 2
127	13	ミニチュア	口縁~底部 70%残存	細砂粒やや多。良。にぶい褐色。	内面ナデ。外面、底面研磨。無文。口径3.4。底径3.5。高さ5.6。	後期
127	14	注口	胴部片・底部片	砂粒やや多、赤色粒子含む。良。褐色。	内外面研磨。底面網代痕。半肉彫的な文様。単節 L R 縄文充填。底面の摩滅著しい。胴径(28.2)。底径(11.0)。	堀之内 2
127	15	注口	胴部片	砂粒多。良。黒色。	内面粗いナデ。外面研磨・光沢。単節 L R 縄文。	堀之内 2
127	16	鉢	胴部片	砂粒多。良。黒色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	堀之内 1
127	17	鉢	胴部片	砂粒少。良。灰褐~黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節 L R 縄文。	堀之内 2
128	18	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内面粗い研磨。撫糸 L。	加曾利 E 1
128	19	深鉢	胴部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨。単節 R L 縄文。	加曾利 E 3
128	20	深鉢	胴部片	砂粒多。良。明赤褐色。	内面粗い研磨。	唐草文系
128	21	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	曾利古
128	22	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒色。	内外面研磨・光沢。	堀之内 1
128	23	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内 1
128	24	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒色。	内外面研磨・光沢。口縁に刻目。	堀之内 1
128	25	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内面粗い研磨。単節 L R 縄文。	堀之内 1
128	26	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨・光沢。単節 R L 縄文。	堀之内 1
128	27	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。単節 L R 縄文。	堀之内 1
128	28	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰褐色。	内面ナデ。外面ナデ痕を残す。	堀之内 2
128	29	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐色。	内面粗い研磨。単節 L R 縄文。	中期

横壁中村遺跡 20 区 81 号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
134	1	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰褐色。	内外面粗い研磨。	勝坂 2
134	2	深鉢	胴部片	砂粒多、雲母含む。良。灰赤色。	内外面研磨。隆帯による突起。縦位沈線充填。	焼町
134	3	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。単節 R L 縄文。	加曾利 E 1
134	4	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面粗い研磨。	焼町
134	5	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面粗い研磨。	勝坂 3
134	6	鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面粗い研磨。内面赤色塗彩。	勝坂
134	7	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面粗い研磨。	勝坂 3
134	8	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	器面劣化により調整不明。隆線文。	加曾利 E 4
134	9	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	器面劣化により調整不明。隆線文。	称名寺 1
134	10	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	器面劣化により調整不明。隆線文。	称名寺 1
134	11	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	器面劣化により調整不明。	称名寺 1
134	12	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐色。	内外面粗い研磨。	勝坂 3
134	13	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	器面劣化により調整不明。	称名寺 1
134	14	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	単節 L R 縄文。	称名寺 1
134	15	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	単節 L R 縄文。	称名寺 1
134	16	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	縄文有無不明。内面研磨。	称名寺 1
134	17	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	器面劣化により調整不明。	堀之内 1
134	18	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面ナデ。	高井東

遺物観察表

横壁中村遺跡 20 区 82 号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
140	1	深鉢	口縁~胴部	砂粒多、白色粒子多。良。にぶい赤褐色。	突起4単位。内面、外面無文部研磨。単節R L 縄文を地文とし沈線文。口径(21.7)。残存高16.5。	堀之内1
140	2	鉢	口縁~胴部	細砂粒やや多。良。明褐色。	内外面研磨。縄文有無不明。口径(8.0)。残存高5.5。	堀之内1
140	3	深鉢	口縁~胴部	砂粒やや多。良。にぶい黄褐色。	表面劣化。調整不明。単節L R 縄文。口径(26.0)。残存高13.6。	堀之内1
140	4	鉢	口縁~底部	細砂粒多。良。にぶい褐色。	突起3単位。外面、底面研磨。頸部に太い凹線。内面に凹凸残り手捏ね状。口径9.8。底径5.0。残存高6.8。	堀之内1
140	5	壺	口縁~底部80%	砂粒多。良。橙色。	頸部に隆帯を回し2単位の突起。突起から2条の隆帯を垂下させ、胴最大径部に横位橋状把手。間に沈線文、刺突充填。口径4.0。高さ15.4。	堀之内1
140	6	深鉢	胴部片	粗砂粒多、赤色粒子含む。良。褐色。	内面、外面無文部研磨。頸部に橋状突起。単節L R 縄文充填。残存高11.4。	堀之内1
140	7	鉢	口縁~胴部	粗砂粒やや多。良。暗褐色。	表面劣化により調整不明。単節L R 縄文充填。口径(18.0)。	堀之内1
140	8	深鉢	口縁~胴部	砂粒多、白色粒子多。良。にぶい黄褐色。	突起。内外面研磨。沈線文。口径(33.0)。残存高45.5。	堀之内1
141	9	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。暗褐色。	器面劣化。	堀之内1
141	10	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐色。	器面劣化。	堀之内1
141	11	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	器面劣化。	堀之内1
141	12	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面粗い研磨。外面ナデ。	堀之内1
141	13	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。黄褐色。	内外面研磨。単節R L 縄文。	堀之内1
141	14	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。単節L R 縄文。	称名寺1?
141	15	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面粗い研磨。外面ナデ。	称名寺1
141	16	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面粗い研磨。外面ナデ。	堀之内1
141	17	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。単節L R 縄文。	堀之内1
141	18	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節L R 縄文。	堀之内1
141	19	深鉢	胴部片	砂粒多。良。明赤褐色。	器面劣化。	堀之内1
141	20	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐色。	内外面粗い研磨。単節L R 縄文。	堀之内1
141	21	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面粗い研磨。単節L R 縄文。	堀之内1
142	22	深鉢	口縁~胴部	砂粒多。普通。黒褐色。	器面調整やや雑で凹凸が残る。	堀之内1
142	23	深鉢	口縁~胴部	粗砂粒やや多。良。褐色。	内外面研磨。指頭押圧を伴う横位隆帯。口径33.0。残存高30.0。	堀之内1
142	24	深鉢	胴部片	砂粒多。良。明黄褐色。	器面劣化。	堀之内1
142	25	深鉢	胴部片	砂粒少。良。明黄褐色。	器面劣化。	堀之内1
142	26	深鉢	胴部片	砂粒多。良。明黄褐色。	器面劣化。	堀之内1
142	27	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。	堀之内1
142	28	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内面粗い研磨。外面ナデ。	堀之内1
142	29	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内1
142	30	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。波状口縁。	堀之内1
142	31	土製円盤	完形	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	調整良。側縁打ち欠き。最大径2.1。	後期
142	32	土製円盤	完形	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	調整良。側縁打ち欠き後研磨。最大径2.6。	後期
142	33	土製円盤	ほぼ完形	砂粒多。良。にぶい褐色。	調整良。側縁打ち欠き。最大径3.7。	後期
142	34	土製円盤	完形	砂粒やや多。良。にぶい褐色。	磨滅により、調整不明。最大径2.7。	後期
142	35	土製円盤	完形	細砂粒多。良。褐色。	磨滅により調整不明。最大径3.1。	後期
142	36	土製円盤	完形	砂粒多。普通。にぶい黄褐色。	調整良。側縁打ち欠き。最大径3.6。	後期
142	37	土製円盤	完形	砂粒多。良。明赤褐色。	調整良。側縁打ち欠き。最大径3.6。	堀之内1
143	38	土製腕輪	60%	砂粒やや多。良。褐色。	器面劣化により調整不明。無文研磨か。白色塗彩などは確認できない。長軸外径(10.8)、残存9.9。短軸外径(8.5)、残存(8.1)。厚さ(2.2)。39とセットか。	堀之内1
143	39	土製腕輪	80%	砂粒やや多、赤色粒子を多く含む。良。褐色。	器面劣化により調整不明。無文研磨か。白色塗彩などは確認できない。長軸外径10.7、内径7.2。短軸外径8.3、内径5.6。厚さ2.4。38とセットか。	堀之内1
143	40	土製腕輪	80%	砂粒多。良。赤褐色。	内外面無文研磨。白色塗彩などは確認できない。長軸外径10.6、内径7.5。短軸外径(7.4)、内径(4.6)。厚さ4.25。	堀之内1
143	41	土製円盤	ほぼ完形	砂粒多、赤色粒子含む。にぶい褐色。	側縁打ち欠き。最大径5.4。	後期
143	42	土製円盤	ほぼ完形	砂粒多。良。褐色。	調整良。側縁打ち欠き。最大径4.0。	後期
143	43	土製円盤	ほぼ完形	砂粒多。良。明赤褐色。	磨滅により調整不明。最大径3.8。	後期
143	44	土製円盤	完形	砂粒多。良。にぶい褐色。	調整良。側縁打ち欠き。最大径6.3。	堀之内1
143	45	土製円盤	ほぼ完形	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	調整良。側縁打ち欠き。最大径5.9。	後期
143	46	土製円盤	ほぼ完形	砂粒多、赤色粒子含む。良。にぶい褐色。	調整良。側縁打ち欠き。最大径5.4。	堀之内1

横壁中村遺跡 20 区 95 号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
151	1	深鉢	口縁部片	粗砂粒多、白色粒子多、雲母含む。良。灰黄褐色。	把手片。指頭押圧を伴う縦位隆帯。	中期
151	2	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	不明
151	3	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。	不明
151	4	注口	釣手部片	砂粒多。良。黒褐色にぶい褐色。	釣手部片。全面研磨。	後期
151	5	深鉢	口縁部片	砂粒やや多。良。にぶい褐色。	中空状把手。粗い研磨。内面は未調整。	堀之内1
151	6	深鉢	口縁部片	細砂粒やや多。良。にぶい黄褐色。	把手片。内外面研磨。	堀之内1
151	7	深鉢	口縁部片	細砂粒やや多。良。にぶい黄褐色。	把手片。内外面研磨。	堀之内1
151	8	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	堀之内1
151	9	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	堀之内1
151	10	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内1
151	11	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内1
151	12	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。暗褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内1
151	13	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内1
151	14	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内1
151	15	深鉢	口縁部片	砂粒少。普通。黒褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内1
151	16	鉢	口縁部片	砂粒少。普通。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内1
151	17	鉢	口縁部片	砂粒少。普通。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内1
151	18	鉢	胴部片	砂粒多。良。灰褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内1
151	19	鉢	口縁部片	細砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内2
151	20	鉢	口縁部片	砂粒多。良。黄褐色。	内外面研磨。単節L R 縄文。	堀之内1
151	21	深鉢	頸部片	砂粒多。良。褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内1
151	22	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	堀之内1
151	23	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。単節L R 縄文。	堀之内2
151	24	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰褐色。	内外面粗い研磨。単節L R 縄文。	堀之内1
151	25	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節L R 縄文。	堀之内1
151	26	深鉢	胴部片	砂粒多、赤色粒子多。良。にぶい褐色。	内面研磨。文様3単位。3条単位の沈線文。単節L R 縄文充填。残存部上半は被熱により劣化。残存高6.7。	堀之内1

遺物観察表

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
151	27	深鉢	胴～底部	粗砂粒やや多。良。にぶい橙色。	内面粗い研磨。外面研磨。底面無文。底径9.0。残存高13.7。	堀之内1
152	28	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内1
152	29	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨。単節RL縄文。	堀之内1
152	30	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい橙色。	内外面粗い研磨。	堀之内1
152	31	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内1
152	32	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内1
152	33	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内1
152	34	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。単節LR縄文。	堀之内1
152	35	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内1
152	36	注口	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内面粗いナデ。外面研磨・光沢。	堀之内2
152	37	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
152	38	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内2
152	39	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面粗い研磨。単節LR縄文。	堀之内2
152	40	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
152	41	深鉢	胴部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内2
152	42	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内2
152	43	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰褐色。	内外面粗い研磨。単節LR縄文。	堀之内2
152	44	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	加曾利B1
152	45	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	加曾利B2～3
152	46	注口	胴～底部	砂粒多。良。褐色。	内面ナデ。外面丁寧な研磨。底面不明。底径8.0。残存高7.1。	後期
152	47	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐灰色。	内面粗い研磨。外面ナデ。	堀之内2
152	48	深鉢	底部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨・光沢。底面に網代痕。底径(9.0)。残存高3.0。	堀之内2
152	49	深鉢	底部片	砂粒少。良。明赤褐色。	内外面研磨・光沢。底面に網代痕。底径(10.0)。残存高3.3。	堀之内2
152	50	深鉢	底部片	砂粒少。良。灰褐色。	内外面研磨・光沢。底面に網代痕。底径(8.0)。残存高4.3。	堀之内2
152	51	土製円盤	完形	細砂粒やや多、赤色粒子含む。良。明褐色。	調整良。側縁打ち欠き後研磨。最大径5.8。	堀之内1

横壁中村遺跡 20区 98号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
155	1	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。明赤褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。残存高11.5。	堀之内1
155	2	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節RL縄文。	称名寺2(茂沢類型)
155	3	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。	堀之内1
155	4	深鉢	胴部片	砂粒少。良。明赤褐色。	内外面研磨。	称名寺2
155	5	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。	後期
155	6	深鉢	胴部片	砂粒多。良。明赤褐色。	内外面研磨。	中期
155	7	浅鉢	胴部片	砂粒やや多。良。灰褐～黒褐色。	内外面丁寧な研磨。内外面に赤色塗彩あり。	中期
155	8	深鉢	口縁部片	砂粒多、雲母含む。良。暗褐色。	内外面研磨。9と同一個体。	阿玉台II
155	9	深鉢	口縁部片	砂粒多、雲母含む。良。暗褐色。	内外面研磨。ひだ状隆帯。8と同一個体。	阿玉台II
155	10	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	器面劣化により調整不明。	唐草文系
155	11	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内面研磨。	唐草文系
155	12	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	器面劣化により調整不明。	唐草文系

横壁中村遺跡 20区 108号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
157	1	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面粗い研磨。5と同一個体。	堀之内2?
157	2	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内1
157	3	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内1
157	4	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐色。	内外面粗い研磨。単節LR縄文。	堀之内1
157	5	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面粗い研磨。1と同一個体。	堀之内2?
157	6	深鉢	底部片	砂粒多。良。褐色。	器面劣化。底面網代痕。底径8.4。残存高2.4。	後期

横壁中村遺跡 20区 109号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
160	1	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。器面劣化。	加曾利E4
160	2	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	器面劣化。	加曾利E4
160	3	深鉢	胴部片	砂粒多、雲母多。良。褐色。	器面劣化により調整不明。	唐草文系
160	4	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。黒褐色。	把手片。単節LR縄文。	加曾利E4～称名寺
160	5	深鉢	胴部片	砂粒多。良。明赤褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	加曾利E4
160	6	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。器面劣化。	加曾利E4
160	7	深鉢	胴部片	砂粒多。良。明赤褐色。	器面劣化。	加曾利E4～称名寺
160	8	壺	胴部片	砂粒多、赤色粒子含む。良。赤褐色。	橋状把手。隆線文。器面劣化により調整不明。	加曾利E4
160	9	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	単節LR縄文。	中期後半
160	10	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐灰色。	内外面研磨。無節LR縄文。	加曾利E4～称名寺
160	11	深鉢	胴部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面粗い研磨。	後期

横壁中村遺跡 20区 114号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
164	1	深鉢	胴部片	細砂粒やや多。良。にぶい褐色。	器面劣化により調整不明。単節LR縄文充填。残存高10.7。	堀之内1
164	2	深鉢	胴～底部	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内面粗い研磨。外面研磨。底面研磨(網代痕あり)。単節LR縄文充填。底径8.4。残存高32.6。	堀之内1
164	3	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内面粗い研磨。外面ナデ痕を残す。	加曾利B2～3

横壁中村遺跡 29区 23号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
167	1	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。単節LR縄文。	称名寺1
167	2	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐色。	内外面粗い研磨。	称名寺1
167	3	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐灰色。	内外面粗い研磨。	堀之内1
167	4	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内2
167	5	深鉢	胴部片	細砂粒少。良。褐灰色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	堀之内2
167	6	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内2
167	7	深鉢	胴部片	砂粒多。良。赤褐色。	内面研磨。外面粗い研磨。	後期
167	8	注口	把手部片	細砂粒微。良。褐色。	内面ナデ。外面研磨。9と同一個体。	加曾利B1
167	9	注口	底部片	細砂粒微。良。褐色。	内面ナデ。外面研磨・光沢。底面に網代痕。8と同一個体。	加曾利B1
167	10	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面ナデ。	堀之内2
167	11	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面粗い研磨。	後期

遺物観察表

横壁中村遺跡 30区 33号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm.( )は推定値)	時期・備考
172	1	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面研磨。単節L R縄文充填。	加曾利E 4
172	2	深鉢	口縁部片	粗砂粒多。良。黒褐色。	内面研磨。単節L R縄文充填。	加曾利E 4
172	3	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面ナデ。波状口縁。	加曾利E 4
172	4	深鉢	胴部片	粗砂粒やや多。良。明褐色。	内外面研磨。単節L R縄文充填。	加曾利E 4
172	5	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面ナデ。	加曾利E 4
172	6	鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	加曾利E 4
172	7	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面ナデ。単節L R縄文。波状口縁。	加曾利E 4
172	8	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節L R縄文充填。	加曾利E 4
172	9	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。単節L R縄文。	加曾利E 4
172	10	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。暗灰黄色。	内外面粗い研磨。単節L R縄文。	加曾利E 4
172	11	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒色。	内外面粗い研磨。波状口縁。	加曾利E 4
172	12	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	称名寺1
172	13	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰黄色。	内外面粗い研磨。	称名寺1
172	14	鉢	口縁~胴部	砂粒やや多。良。にぶい黄褐色。	内面粗い研磨。外面ケズリ後粗い研磨。	称名寺
172	15	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面粗い研磨。	称名寺2
172	16	深鉢	口縁部片	細砂粒多。普通。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	称名寺2
172	17	鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒色。	内外面研磨・光沢。全面赤色塗彩。	加曾利E 4
172	18	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐灰色。	内外面ナデ。	称名寺2
172	19	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	称名寺2
172	20	注口付浅鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面粗い研磨。	称名寺2
172	21	浅鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	称名寺2
173	22	深鉢	口縁~胴部	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	称名寺2
173	23	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	後期
173	24	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	後期
173	25	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。単節L R縄文。	堀之内1 (茂沢類型)
173	26	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨。	堀之内1
173	27	浅鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	把手。内外面研磨。	堀之内1
173	28	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨。	堀之内1 (茂沢類型)
173	29	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	磨滅により調整不明。	堀之内2
173	30	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨。	堀之内1
173	31	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	堀之内2
173	32	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	堀之内2
173	33	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内1
173	34	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。	堀之内1
173	35	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	堀之内1
173	36	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。	堀之内1
173	37	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内1
173	38	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	堀之内1
173	39	鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内1
173	40	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。	堀之内1
174	41	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰褐色。	内外面ナデ。	堀之内1
174	42	深鉢	胴部片	砂粒多。良。いぶい黄褐色。	内外面研磨。	堀之内1
174	43	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	堀之内1
174	44	深鉢	胴部片	砂粒少。良。褐灰色。	内外面研磨。	堀之内1
174	45	深鉢	胴部片	砂粒少。良。褐色。	内面粗い研磨。外面ナデ。	三十稲場
174	46	深鉢	胴部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内面粗い研磨。外面ナデ。	三十稲場
174	47	深鉢	口縁~胴部	細砂粒多。普通。灰黄褐色。	内外面研磨。	堀之内2
174	48	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨・光沢。単節L R縄文。	堀之内2
174	49	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨。	堀之内2
174	50	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨。	堀之内2
174	51	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨。	堀之内1
174	52	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨。	堀之内2
174	53	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨。口縁部内面に刻目。	堀之内2
174	54	深鉢	口縁~胴部	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	堀之内2
174	55	壺	頸部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	堀之内2
174	56	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	堀之内2
174	57	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	堀之内2
174	58	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内2
174	59	注口	胴部片	砂粒少。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨・光沢。単節L R縄文。	堀之内2
174	60	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。単節L R縄文。	堀之内2
174	61	深鉢	口縁~胴部	細砂粒少。良。黒褐色。	口縁突起3単位。内外面研磨・黒色処理・光沢。単節L R縄文。外面炭化物付着。口径11.0。残存高9.8。	堀之内2
174	62	深鉢	口縁~胴部	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節L R縄文。	堀之内2
174	63	深鉢	口縁~胴部	砂粒多。良。黒褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内2
175	64	深鉢	口縁部片	砂粒多。普通。黒褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	堀之内2
175	65	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。いぶい黄褐色。	内外面研磨。	堀之内2
175	66	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。	堀之内2
175	67	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	堀之内2
175	68	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	堀之内2
175	69	深鉢	口縁部片	細砂粒やや多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内2
175	70	鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。	堀之内2
175	71	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	堀之内2
175	72	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内2
175	73	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。	堀之内2
175	74	深鉢	胴部片	砂粒少。良。褐灰色。	内面研磨。単節L R縄文。	堀之内2
175	75	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	堀之内2
175	76	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。無節L R縄文。	堀之内2
175	77	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	堀之内2
175	78	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。	堀之内2
175	79	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	堀之内2
175	80	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	堀之内2
175	81	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	堀之内2
175	82	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	堀之内2
175	83	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	堀之内2
175	84	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	堀之内2
175	85	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	堀之内2
175	86	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	堀之内2
175	87	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	堀之内2
175	88	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	堀之内2
175	89	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	堀之内2

遺物観察表

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
176	90	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。細かい単節LR縄文充填。	堀之内2
176	91	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
176	92	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。	堀之内2
176	93	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
176	94	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
176	95	鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。	堀之内2
176	96	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
176	97	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
176	98	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰褐色。	内外面研磨。	堀之内2
176	99	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
176	100	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内2
176	101	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨。	堀之内2
176	102	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
176	103	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
176	104	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内2
176	105	深鉢	胴部片	細砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節LR縄文。	堀之内2
176	106	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
176	107	深鉢	胴部片	細砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	堀之内2
176	108	深鉢	胴部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内2
176	109	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。単節LR縄文。	堀之内2
176	110	深鉢	胴部片	砂粒少。良。灰褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内2
176	111	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨・光沢。単節LR縄文。	堀之内2
176	112	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黒色。	内外面研磨・光沢。	堀之内2
176	113	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
176	114	鉢	胴部片	細砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節LR縄文。	堀之内2
176	115	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨。	加曾利B 2~3
176	116	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内2
176	117	深鉢	胴~底部	砂粒少。良。灰褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。底面網代痕。	堀之内2
177	118	深鉢	口縁~胴部	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内面研磨。外面ナデ。	堀之内2
177	119	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面研磨。外面ナデ。	堀之内2
177	120	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面ナデ。外面粗い研磨。	後期
177	121	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面ナデ。	後期
177	122	注口	口縁~胴部	細砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内面ナデ。外面研磨。	堀之内2
177	123	注口	口縁部片	細砂粒少。良。灰褐色。	内外面丁寧な研磨・光沢。	加曾利B 1
177	124	注口	口縁部片	細砂粒少。良。褐色。	内面ナデ。外面粗い研磨。	堀之内2
177	125	注口	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面黒色処理。内面指押さえとナデ。外面研磨。	堀之内2
177	126	注口	口縁部片	砂粒多。普通。灰白色。	内面ナデ。単節LR縄文。	堀之内2
177	127	注口	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨。	堀之内2
177	128	鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
177	129	注口	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨。	堀之内2
177	130	注口	胴部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨。	堀之内2
177	131	注口	注口部片	細砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内面ナデ。外面研磨。	堀之内2
177	132	注口	注口部片	細砂粒少。良。にぶい灰黄色。	内面ナデ。外面研磨。	堀之内2
177	133	注口	釣手部片	砂粒やや多。良。灰褐色。	全面研磨。	加曾利B 1
177	134	注口	注口部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	全面研磨。	後期
177	135	鉢	底部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内面研磨・黒色処理・光沢。外面研磨。単節LR縄文。網代痕。底径(7.8)。残存高0.8。	後期
178	136	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。137と同一個体。	堀之内2
178	137	深鉢	胴部片	細砂粒少。良。褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節LR縄文。136と同一個体。	堀之内2
178	138	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面粗い研磨。単節LR縄文。	加曾利B 1
178	139	深鉢	胴部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	加曾利B 1
178	140	鉢	口縁部片	細砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨・光沢。無節LR縄文。	加曾利B 2
178	141	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨。	加曾利B 1
178	142	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	加曾利B
178	143	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黄褐色。	内外面研磨・光沢。	加曾利B 2~3
178	144	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。	加曾利B 2
178	145	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨。	加曾利B 2
178	146	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	加曾利B 2
178	147	深鉢	胴部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨。	加曾利B 2~3
178	148	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨・光沢。	加曾利B 2~3
178	149	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	波状口縁。内外面研磨・光沢。	加曾利B 2~3
178	150	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	加曾利B 2~3
178	151	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	加曾利B 1
178	152	深鉢	胴部片	細砂粒多。普通。灰黄褐色。	内面ナデ。	加曾利B 1
178	153	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。	加曾利B 1
178	154	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨・光沢。	加曾利B 2~3
178	155	深鉢	胴部片	細砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨・光沢。	加曾利B 2~3
178	156	深鉢	胴部片	砂粒多。良。明赤褐色。	内外面研磨・光沢。	加曾利B 2~3
178	157	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面研磨。外面ナデ。	加曾利B 2~3
178	158	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面研磨。外面ナデ。	加曾利B 2~3
178	159	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面研磨。外面ナデ。	加曾利B 2~3
178	160	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面研磨。外面ナデ。	加曾利B 2~3
178	161	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。	加曾利B 2~3
179	162	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨・光沢。	加曾利B 2~3
179	163	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨・光沢。	加曾利B 2~3
179	164	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨・光沢。	加曾利B 2~3
179	165	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	加曾利B 2~3
179	166	深鉢	胴部片	砂粒少。良。灰褐色。	内外面研磨。	加曾利B 2~3
179	167	深鉢	胴部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨。	加曾利B 2~3
179	168	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。	加曾利B 2~3
179	169	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内1
179	170	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨・光沢。	加曾利B 2~3
179	171	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨・光沢。波状口縁。	加曾利B 2~3
179	172	深鉢	胴部片	細砂粒少。良。にぶい褐色。	内面研磨・黒色処理・光沢。外面粗い研磨。	加曾利B 2~3
179	173	鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。	加曾利B 2~3
179	174	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内面粗い研磨。単節LR縄文。	高井東
179	175	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。	高井東
179	176	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	高井東
179	177	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内面粗い研磨。無節LR縄文。	高井東
179	178	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨。	高井東
179	179	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。赤褐色。	内外面研磨。	高井東

遺物観察表

図版番号	遺物番号	種別 器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
179	180	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内面研磨。外面ナデ。	高井東
179	181	鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨。	高井東
179	182	深鉢	口縁～胴部	細砂粒少。良。明褐色。	内外面研磨・光沢。	高井東
179	183	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰褐色。	内外面研磨。	高井東
179	184	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。	高井東
179	185	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐色。	内面粗い研磨。無節L縄文。	高井東
179	186	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰褐色。	内外面研磨。波状口縁。	高井東
179	187	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	高井東
179	188	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面粗い研磨。単節L縄文。	高井東
179	189	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨・光沢。	高井東
179	190	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。単節L縄文。	安行1～2
179	191	鉢	口縁～胴部	砂粒少。良。灰褐色。	内外面研磨・光沢。単節L縄文。	安行3a
180	192	深鉢	胴～底部	細砂粒少。良。褐色。	内面粗い研磨。外面研磨・光沢。外面黒色処理。底径6.8。残存高2.5。	後期
180	193	深鉢	底部片	砂粒少。普通。にぶい黄褐色。	底端部突出。やや上げ底状。	後期
180	194	鉢	底部片	細砂粒多。良。黒褐色。	内面研磨・黒色処理。底面網代痕。底径(5.0)。残存高1.6。	後期
180	195	深鉢	底部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面ナデ。外面粗い研磨。底面網代痕。底径(8.8)。残存高2.7。	後期
180	196	注口?	底部片	細砂粒少。良。褐色。	内面粗い研磨。外面研磨・光沢。外面黒色処理。	後期
180	197	台付土器	底～台部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	後期
180	198	鉢	底部片	細砂粒多。良。褐色。	内外面粗い研磨。底面研磨。外面炭化物付着。底径6.0。残存高1.6。	後期
180	199	深鉢	底部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。底面網代痕。底径10.0。残存高0.9。	後期
180	200	注口?	底部片	細砂粒少。良。にぶい赤褐色。	内面粗い研磨。外面研磨・光沢。	後期
180	201	深鉢	底部片	砂粒多。良。灰褐色。	内外面研磨。底面網代痕。底径6.6。残存高0.9。	後期
180	202	鉢	底部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨。底面研磨(網代痕残存)。やや上げ底。底径6.0。残存高0.6。	後期
180	203	深鉢	底部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	底面研磨(網代痕残存)。底径(11.6)。残存高1.6。	後期
180	204	深鉢	底部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。底面網代痕。底径7.0。残存高1.7。	後期
180	205	深鉢	底部片	細砂粒少。良。灰黄褐色。	内面粗い研磨。外面研磨・光沢。底面網代痕。内面黒色処理。底径6.2。残存高1.0。	後期
180	206	深鉢	底部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。底面網代痕にナデ。やや上げ底状。底径12.0。残存高3.8。	後期
180	207	深鉢	胴～底部	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。底面網代痕。底径7.0。残存高4.7。	後期
180	208	深鉢	底部片	砂粒多。良。褐色。	内外面粗い研磨。底面に網代痕。底径10.0。残存高4.8。	後期
180	209	深鉢	底部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内面ナデ。外面粗い研磨。底面網代痕。底径12.0。残存高3.0。	後期
180	210	指輪?	破片	細砂粒少。良。にぶい褐色。	単節L縄文。把手の可能性もあり。	後期
180	211	耳飾り	40%	砂粒少。良。灰褐色。	内外面研磨。黒色処理・光沢。滑車形。	後期
180	212	土製円盤	完形	砂粒少。良。明褐色。	調整良。両面からの穿孔あり。最大径5.4。	後期
181	213	土製円盤	完形	細砂粒。良。にぶい黄褐色。	調整良。側縁研磨。内面粗い研磨。外面縄文か。最大径1.7。	後期
181	214	土製円盤	完形	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	調整良。側縁打ち欠き後研磨。内面ナデ。外面研磨。最大径2.5。	後期
181	215	土製円盤	ほぼ完形	砂粒多。良。にぶい褐色。	調整良。側縁打ち欠き。内面ナデ。外面研磨。最大径4.3。	後期
181	216	土製円盤	完形	砂粒多。良。灰褐色。	調整良。側縁打ち欠き。内面ナデ。外面研磨。単節L縄文。最大径4.2。	堀之内2
181	217	土製円盤	完形	砂粒多。良。にぶい褐色。	調整粗。側縁研磨。最大径3.3。	後期
181	218	土製円盤	完形	砂粒多。良。褐色。	調整良。側縁打ち欠き。内面ナデ。外面研磨。最大4.2。	後期
181	219	土製円盤	完形	砂粒少。良。明褐色。	調整良。側縁打ち欠き。最大径4.9。	後期
181	220	土製円盤	完形	砂粒少。良。にぶい褐色。	調整良。側縁打ち欠き。最大径4.9。	後期
181	221	土製円盤	完形	砂粒多。良。褐色。	調整粗。側縁打ち欠き。最大径5.8。	後期

横壁中村遺跡 30区 34号住居

図版番号	遺物番号	種別 器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
185	1	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	堀之内2
185	2	深鉢	胴部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨。	加曾利B
185	3	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。	高井東
185	4	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨。	高井東
185	5	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	安行1～2
185	6	深鉢	口縁部片	砂粒多。雲母多。良。黒褐色。	内外面研磨。	加曾利B～高井東
185	7	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面研磨。	安行1～2
185	8	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理。	加曾利B2～3
185	9	深鉢	胴部片	砂粒多。普通。褐色。	内外面研磨。	安行1～2
185	10	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨・光沢。	安行1～2
185	11	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面丁寧なナデ。	安行1～2
185	12	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨・光沢。口縁部のみナデ。	安行1～2
185	13	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面ナデ。	安行1～2
185	14	鉢	口縁～胴部	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨・光沢。	安行1～2
185	15	深鉢	口縁～胴部	砂粒多。良。黒褐色。	内外面粗い研磨。	安行1～2
185	16	深鉢	口縁～胴部	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。	高井東
186	17	鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰褐色。	内外面研磨・光沢。外面赤色塗彩。単節L縄文。	安行1～2
186	18	深鉢	口縁部片	砂粒少。普通。灰黄褐色。	内面ナデ。単節L縄文。内外面炭化物付着。	安行1～2
186	19	深鉢	口縁部片	細砂粒多。普通。暗赤褐色。	内面ナデ。単節L縄文。	安行1～2
186	20	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。単節L縄文。	安行1～2
186	21	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面横位ナデ。口縁部に輪積み痕。	高井東～安行
186	22	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	把手部内外面研磨。	安行1～2
186	23	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面粗い研磨。単節L縄文。	安行1～2
186	24	深鉢	胴部片	砂粒少。良。褐色。	内面丁寧なナデ。	安行1～2
186	25	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内面ナデ。外面横位のケズリ痕。口縁部に輪積み痕。	後期
186	26	鉢	口縁部片	砂粒少。良。明赤褐色。	内外面研磨・光沢。	後期
186	27	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面横位ナデ。	高井東～安行
186	28	深鉢	口縁～胴部	細砂粒少。普通。にぶい黄褐色。	内外面ナデ。	後期
186	29	土製円盤	完形	砂粒多。良。褐色。	側縁打ち欠き。外面研磨。内面ナデ。最大径5.8。	後期
186	30	深鉢	胴～底部	砂粒少。良。赤褐色。	内外面粗いナデ。底面網代痕。	後期
186	31	深鉢	底部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面ナデ。底面網代痕。	後期
186	32	深鉢	底部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面ナデ。	後期
186	33	深鉢	底部片	砂粒多。普通。灰黄褐色。	底面網代痕。	後期
186	34	深鉢	底部片	砂粒少。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨。底面網代痕。	後期
186	35	深鉢	底部片	砂粒少。良。明赤褐色。	内外面に粗い調整痕。底面網代痕。	後期
186	36	深鉢	底部片	砂粒少。普通。にぶい黄褐色。	内外面ナデ。底面の網代痕をナデで消す。	後期
187	37	耳飾り	破片	細砂粒少。良。黒褐色。	欠損により文様の有無不明。内外面研磨。全面赤色塗彩。	後期

遺物観察表

横壁中村遺跡 30 区 35 号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm,( )は推定値)	時期・備考
189	1	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	堀之内 1
189	2	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	堀之内 2
189	3	深鉢	口縁～胴部	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内 2
189	4	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。単節 L R 縄文。	堀之内 2
189	5	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨・光沢。単節 R L 縄文。	堀之内 2
189	6	深鉢	口縁～胴部	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内 2
189	7	深鉢	口縁～胴部	細砂粒少。良。灰黄褐色。	内面研磨。単節 L R 縄文充填。	堀之内 2
189	8	深鉢	口縁～胴部	砂粒少。良。灰褐色。	内外面研磨。無節 L 縄文。口径 16.5。残存高 9.8。	堀之内 2
189	9	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内 2
189	10	注口	口縁部片	細砂粒少。良。黒色。	内面丁寧なナデ。外面研磨・光沢。内外面黒色処理。	堀之内 2
189	11	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内面、外面無文部研磨。単節 L R 縄文。外面炭化物付着。	堀之内 2
189	12	注口	胴部片	細砂粒少。良。にぶい褐色。	内面ナデ。外面研磨。	堀之内 2
189	13	注口	胴部片	砂粒少。良。(外面)黒褐色。(内面)橙色。	内面指押さえとナデ。外面研磨・黒色処理・光沢。	堀之内 2
189	14	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	堀之内 2
189	15	深鉢	胴部片	砂粒少。良。明赤褐色。	内外面研磨・光沢。単節 L R 縄文。	堀之内 2
189	16	注口?	底部片	細砂粒少。良。にぶい黄褐色。	外面研磨・光沢。底面網代痕。底径(10.0)。残存高 0.6。	後期
189	17	深鉢	胴～底部	砂粒少。良。にぶい褐～黒色。	内外面研磨。底面網代痕。単節 L R 縄文外面炭化物付着。底径(11.0)。残存高 3.7。	堀之内 2
190	18	深鉢	口縁～胴部	砂粒多。良。黒褐色。	内外面を研磨・光沢。単節 L R 縄文。	堀之内 1
190	19	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内 1
190	20	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	堀之内 1
190	21	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	単節 L R 縄文。	堀之内 1
190	22	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。浅黄色。	内面研磨。	堀之内 1
190	23	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内 1
190	24	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	堀之内 2
190	25	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	堀之内 1
190	26	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内 1
190	27	深鉢	口縁部片	細砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	堀之内 1
190	28	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内 1
190	29	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。内面炭化物付着。	堀之内 1
190	30	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	堀之内 2
190	31	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	堀之内 2
190	32	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。口径(42.0)。残存高 9.8。	堀之内 1
190	33	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内 1
190	34	深鉢	口縁部片	砂粒多。普通。にぶい黄褐色。	内外面ナデ。	堀之内 1
190	35	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	器面劣化。	堀之内 2
190	36	深鉢	口縁部片	砂粒多。赤色粒子含む。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	堀之内 1
191	37	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	堀之内 2
191	38	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内面研磨。外面ナデ。	堀之内 2
191	39	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内 2
191	40	浅鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内面研磨。外面ナデ。	堀之内 2
191	41	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内 2
191	42	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。褐色。	単節 L R 縄文。	堀之内 1
191	43	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐灰色。	単節 L R 縄文。	堀之内 1
191	44	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい赤褐色。	単節 R L 縄文。	堀之内 1
191	45	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨。	堀之内 1
191	46	深鉢	頸部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面ナデ。外面研磨・光沢。	堀之内 1
191	47	深鉢	頸部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨。	堀之内 1
191	48	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨・光沢。単節 L R 縄文。	堀之内 1
191	49	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内 1
191	50	深鉢	頸部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。	堀之内 2
191	51	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	単節 L R 縄文。	堀之内 1
191	52	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面粗い研磨。単節 R L 縄文。	堀之内 1
191	53	深鉢	頸部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	堀之内 1
191	54	深鉢	頸部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内 1
191	55	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内 2
191	56	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。褐色。	内外面粗い研磨。無節 L 縄文。	堀之内 2
192	57	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	劣化により調整不明。	堀之内 1
192	58	深鉢	頸部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。無節 L 縄文。	堀之内 2
192	59	深鉢	頸部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内 2
192	60	深鉢	頸部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨。無節 L 縄文。	堀之内 1
192	61	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面ナデ。単節 L R 縄文。	堀之内 1
192	62	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。単節 L R 縄文。	堀之内 1
192	63	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内 1
192	64	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	単節 L R 縄文。	堀之内 1
192	65	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	堀之内 2
192	66	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	単節 L R 縄文。	堀之内 2
192	67	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内 1
192	68	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節 L R 縄文。	堀之内 2
192	69	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	堀之内 1
192	70	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内面研磨。単節 L R 縄文充填。	堀之内 2
192	71	深鉢	胴部片	砂粒多。普通。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内 2
192	72	深鉢	胴部片	砂粒多。普通。黒褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内 2
192	73	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	単節 L R 縄文。	堀之内 2
192	74	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	単節 L R 縄文。	堀之内 2
192	75	深鉢	胴部片	砂粒多。良。明赤褐色。	内外面研磨。	堀之内 2
192	76	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。単節 L R 縄文。	堀之内 2
192	77	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。単節 L R 縄文。	堀之内 2
192	78	深鉢	胴部片	砂粒多。良。明赤褐色。	内外面研磨。	堀之内 2
192	79	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。単節 L R 縄文。	堀之内 2
192	80	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。褐色。	内面粗い研磨。	堀之内 2
192	81	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。にぶい褐色。	内面研磨。	堀之内 2
192	82	浅鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内 2
192	83	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	堀之内 2
193	84	深鉢	口縁部片	細砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面粗いナデと研磨。口径(38.0)。	堀之内 2
193	85	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面ナデ。	堀之内 2
193	86	深鉢	口縁～胴部	砂粒多。良。褐色。	内外面粗いナデ。外面に凹凸を残す。口径(28.0)。残存高 22.0。	堀之内 2
193	87	深鉢	口縁部片	砂粒多。普通。にぶい黄褐色。	内外面粗いナデ。	堀之内 1
193	88	深鉢	口縁部片	砂粒多。普通。にぶい黄褐色。	内外面粗いナデ。	堀之内 1

遺物観察表

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
193	89	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	縄文原体不明。	堀之内2
193	90	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内面ナデ。外面稚拙な沈線文。	堀之内2
193	91	深鉢	胴部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
193	92	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内面粗い研磨。	堀之内2
193	93	深鉢	胴部片	砂粒少。良。灰黄色。	内面粗い研磨。	堀之内2
193	94	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	無節LR縄文。	堀之内2
193	95	深鉢	胴部片	砂粒少。良。褐色。	内面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
193	96	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	波状口縁。内面、外面無文部研磨・光沢。単節LR縄文。外面炭化物付着。	堀之内2
193	97	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。にぶい黄褐色。	単節LR縄文。	堀之内2
193	98	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。単節LR縄文。	堀之内2
193	99	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内面、外面無文部研磨・光沢。単節LR縄文。内面黒色処理。外面炭化物付着。	堀之内2
193	100	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内面、外面無文部研磨・光沢。単節LR縄文。内外面黒色処理。外面炭化物付着。	堀之内2
193	101	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面黒色処理・研磨・光沢。単節LR縄文。内外面炭化物付着。	堀之内2
194	102	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節LR縄文。	堀之内2
194	103	深鉢	口縁部片	砂粒多。普通。にぶい黄褐色。	単節LR縄文。	堀之内2
194	104	深鉢	胴部片	砂粒少。良。褐灰色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
194	105	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節LR縄文。	堀之内2
194	106	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
194	107	深鉢	口縁~胴部	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内面粗い研磨。	堀之内2
194	108	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
194	109	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	単節LR縄文。	堀之内2
194	110	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	単節LR縄文。	堀之内2
194	111	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	単節LR縄文。	堀之内2
194	112	深鉢	胴部片	砂粒多。軽石含む。良。にぶい褐色。	単節LR縄文。	堀之内2
194	113	深鉢	口縁部片	細砂粒少。良。黒褐色。	内面研磨。内外面黒色処理。単節LR縄文。	堀之内2
194	114	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節LR縄文。	堀之内2
194	115	深鉢	胴部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内面、外面無文部研磨・光沢。単節LR縄文。	堀之内2
194	116	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨。	堀之内2
194	117	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	単節LR縄文。	堀之内2
194	118	深鉢	胴部片	砂粒多。普通。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内2
194	119	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
194	120	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨・光沢。単節LR縄文。	堀之内2
194	121	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐灰色。	無節LR縄文。	堀之内2
194	122	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節LR縄文。	堀之内2
194	123	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	堀之内2
194	124	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	単節LR縄文。	堀之内2
194	125	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	単節LR縄文。	堀之内2
194	126	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
194	127	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	堀之内2
194	128	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。	堀之内2
195	129	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	単節LR縄文。	堀之内2
195	130	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
195	131	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
195	132	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐色。	単節LR縄文。	堀之内2
195	133	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。黒褐色。	内外面粗い研磨。単節LR縄文。	堀之内2
195	134	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	単節LR縄文。	堀之内2
195	135	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。単節LR縄文。	堀之内2
195	136	深鉢	胴部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
195	137	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	外面研磨。内面粗いナデ。無節LR縄文。	堀之内2
195	138	鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨・光沢。単節LR縄文。	堀之内2
195	139	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐色。	外面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
195	140	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	単節LR縄文。	堀之内2
195	141	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面研磨・光沢。単節LR縄文。	堀之内2
195	142	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	単節LR縄文。	堀之内2
195	143	深鉢	胴部片	砂粒少。良。褐灰色。	内外面研磨・光沢。単節LR縄文。	堀之内2
195	144	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨・光沢。単節LR縄文。	堀之内2
195	145	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	堀之内2
195	146	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	堀之内2
195	147	深鉢	胴部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内面研磨。	堀之内2
195	148	鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内面粗い研磨。外面にナデ痕を残す。	堀之内2
195	149	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	堀之内2
195	150	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内面研磨。単節LR縄文。	堀之内2
195	151	深鉢	胴部片	細砂粒多。普通。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。単節LR縄文。	堀之内2
195	152	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。にぶい褐色。	内面粗い研磨。単節LR縄文。	堀之内2
195	153	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。単節LR縄文。	堀之内2
195	154	注口	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面ナデ。外面研磨・光沢。単節LR縄文。	堀之内2
195	155	注口	口縁部片	細砂粒少。良。灰褐色。	外面研磨・黒色処理・光沢。内面に粘土帯を残す。	堀之内2
195	156	注口	口縁部片	砂粒少。良。にぶい赤褐色。	内面ナデ。外面研磨・光沢。	堀之内2
195	157	注口	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	堀之内2
195	158	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色にぶい黄褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	堀之内2
195	159	注口	胴部片	細砂粒少。良。黒褐色。	内面ナデ。外面研磨・黒色処理・光沢。	堀之内2
196	160	注口	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	注口付土器の把手部。	堀之内2
196	161	注口	注口部片	細砂粒少。良。黒褐色。	外面研磨・黒色処理・光沢。	堀之内2
196	162	注口	注口部片	細砂粒少。良。にぶい褐色。	外面研磨。	堀之内2
196	163	注口	胴部片	砂粒多。良。黒色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節LR縄文。	堀之内2
196	164	注口	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	堀之内2
196	165	特殊注口付土器	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内面接合痕。	堀之内2
196	166	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	加曾利B2
196	167	鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。	加曾利B1
196	168	浅鉢	胴部片	砂粒少。普通。黒褐色。	内面研磨・黒色処理・光沢。外面研磨。	加曾利B1
196	169	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面粗い研磨。	加曾利B2
196	170	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面黒色処理。内面研磨・光沢。	加曾利B3
196	171	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面粗い研磨。	加曾利B3
196	172	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	加曾利B3
196	173	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	高井東
196	174	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	大波状口縁。内外面研磨。	高井東

遺物観察表

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴		時期・備考
					計測値(単位:cm、( )は推定値)		
196	175	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。		高井東
196	176	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。		高井東
196	177	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	把手片。器面劣化。		高井東
196	178	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。波状口縁。		高井東
196	179	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。大波状口縁。単節LR縄文。		高井東
196	180	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内面ナデ。		安行1~2
196	181	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面ナデ。		安行1~2
196	182	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内面ナデ。		高井東
196	183	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。灰黄褐色。	内面研磨。		安行1~2
196	184	深鉢	胴部片	細砂粒少。良。にぶい褐色。	内面研磨。縄文結節部横位施文。		安行1~2
196	185	深鉢	胴部片	砂粒少。良。褐色。	内面ナデ。単節LR縄文。端部結節。		安行1~2
196	186	深鉢	胴部片	細砂粒少。良。褐色。	内外面研磨・光沢。単節LR縄文。外面炭化物付着。		安行1~2
196	187	深鉢	底部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。内面全面及び欠け口に赤色ベンガラ付着。明らかにこの状態で容器として使用。底径8.4。残存高6.2。		後期
196	188	深鉢	底部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。底面に網代痕。白色シルト付着。底径(7.0)。残存高3.0。		後期
196	189	深鉢	底部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗いナデ。底面に網代痕。粗製土器。底径(8.0)。残存高3.0。		後期
197	190	深鉢	底部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨。底面に網代痕。白色シルト付着。底径10.0。		後期
197	191	深鉢	底部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨。底面に網代痕。底径(8.0)。残存高4.8。		後期
197	192	深鉢	底部片	細砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面ナデ。底面に網代痕。粗製土器。底径(7.0)。残存高3.5。		後期
197	193	深鉢	底部片	砂粒多。良。褐色。	内外面粗いナデ(粗製)。底面に網代痕。底径(11.0)。残存高2.5。		後期
197	194	深鉢	底部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨。底面に網代痕。底部上げ底状。底径(10.0)。残存高4.2。		後期
197	195	深鉢	底部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗いナデ(粗製土器)。底面に網代痕。底径(8.0)。		後期
197	196	鉢	底部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面粗いナデ(粗製)底面に網代痕。底径(9.0)。残存高2.1。		後期
197	197	深鉢	底部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	外面粗いナデ(粗製土器)。底面に網代痕。底径(14.0)。		後期
197	198	鉢	底部片	細砂粒少。良。暗褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。底面に網代痕。底径(9.0)。残存高1.8。		後期
197	199	鉢	底部片	細砂粒。良。にぶい褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。底面に網代痕。底径(7.0)。残存高2.4。		後期
197	200	深鉢	底部片	砂粒多。良。明赤褐色。	内面粗いナデ。外面研磨。底面に網代痕。底径7.0。残存高3.0。		後期
197	201	鉢	底部片	細砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。底面研磨。底径7.0。残存高4.0。		後期
197	202	深鉢	底部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗いナデ(粗製)。底面に網代痕。底径(15.0)。残存高3.5。		後期
197	203	深鉢	底部片	砂粒多。普通。にぶい褐色。	内面研磨。外面粗いナデ。底面に網代痕。底径(15.0)。残存高3.5。		後期
197	204	深鉢	底部片	砂粒少。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨・光沢。底面に網代痕。底径(9.0)。		後期
197	205	深鉢	底部片	砂粒多。普通。にぶい赤褐色。	底面に網代痕。底径(11.0)。		後期
197	206	土製円盤	完形	細砂粒少。良。浅黄褐色。	調整良。側縁研磨か。内外面ナデ。最大径2.5。		後期
197	207	土製円盤	完形	砂粒少。良。褐色。	調整良。側縁打ち欠き後一部研磨か。内外面粗い研磨。最大径2.8。		後期
197	208	土製円盤	完形	細砂粒少。良。にぶい黄褐色。	調整良。側縁打ち欠き。内外面ナデ。最大径3.1。		後期
197	209	土製円盤	完形	細砂粒多。良。にぶい褐色。	調整やや良。側縁打ち欠き。内面研磨。最大径4.0。		後期
197	210	土製円盤	70%	砂粒多。良。にぶい褐色。	側縁研磨か。内面研磨。単節LR縄文。最大径4.0。		加曾利B2
197	211	土製円盤	ほぼ完形	砂粒多。良。にぶい褐色。	調整やや良。側縁打ち欠き。内外面ナデ。表面炭化物付着。最大径4.3。		後期
197	212	土製円盤	完形	細砂粒多。良。にぶい黄褐色。	調整やや粗い。側縁打ち欠き。内外面ナデ。最大径4.4。		後期
197	213	土製円盤	完形	砂粒少。良。にぶい褐色。	調整やや良。側縁打ち欠き。内外面研磨。最大径4.1。		高井東
197	214	土製円盤	完形	砂粒少。良。褐色。	調整やや粗。側縁打ち欠き。内外面研磨。最大径5.0。		後期
198	215	土製円盤	完形	砂粒多。良。灰褐色。	調整粗。側縁打ち欠き。内外面ナデ。最大径4.7。		高井東
198	216	土製円盤	完形	砂粒多。良。浅黄褐色。	調整やや良。側縁打ち欠き。内外面研磨。最大径4.8。		堀之内1
198	217	土製円盤	完形	砂粒多、雲母含む。良。褐色。	調整粗。側縁打ち欠き。内外面粗い研磨。最大径5.1。		高井東
198	218	土製円盤	完形	砂粒多。良。にぶい褐色。	調整やや良。側縁打ち欠き。内外面ナデ。最大径5.2。		後期
198	219	土製円盤	ほぼ完形	砂粒多。良。にぶい褐色。	側縁打ち欠き。内面粗い研磨。最大径6.6。		堀之内1
198	220	土製円盤	完形	細砂粒多。普通。褐色。	調整やや良。側縁打ち欠き後研磨。器面劣化。最大径5.8。		後期

横壁中村遺跡 30区36号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴		時期・備考
					計測値(単位:cm、( )は推定値)		
201	1	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面粗い研磨。単節LR縄文。		堀之内2
201	2	深鉢	頸部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面粗い研磨。単節LR縄文。		堀之内2
201	3	鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。4と同一個体。		堀之内2
201	4	鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。3と同一個体。		堀之内2
201	5	深鉢	頸部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。		堀之内2
201	6	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。7・8と同一個体。		堀之内2
201	7	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。6・8と同一個体。		堀之内2
201	8	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。6・7と同一個体。		堀之内2
201	9	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。単節LR縄文。		堀之内2
201	10	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面粗い研磨。単節LR縄文。		堀之内2
201	11	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐色。	内外面粗い研磨。単節LR縄文。		堀之内2
201	12	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面粗い研磨。単節LR縄文。		堀之内2
201	13	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面粗い研磨・光沢。単節LR縄文。		堀之内2
201	14	深鉢	胴部片	砂粒多。良。暗赤褐色。	内外面粗い研磨。		堀之内2
201	15	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。単節LR縄文。		堀之内2
201	16	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。単節LR縄文。		堀之内2
201	17	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。		堀之内2
201	18	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。		堀之内2
201	19	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐色。	内外面粗い研磨。単節LR縄文。		堀之内2
201	20	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面粗い研磨。口唇部に刻目。		堀之内2
201	21	深鉢	口縁部片	細砂粒多。普通。にぶい黄褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。外面に黒漆塗。突起。		堀之内2
201	22	注口	胴部片	細砂粒少。普通。にぶい褐色。	内面ナデ。外面研磨。単節LR縄文。		後期
201	23	注口	胴部片	細砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節LR縄文。24と同一個体。		堀之内2
201	24	注口	口縁部片	細砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。23と同一個体。		堀之内2
201	25	注口	胴部片	細砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節LR縄文。		堀之内2
201	26	注口	胴部片	細砂粒少。普通。にぶい黄褐色。	内面ナデ。外面研磨。		加曾利B1
201	27	注口	注口部片	砂粒多。良。褐色。	外面研磨。		後期
201	28	注口	口縁部片	細砂粒多。良。褐色。	内面指押さえとナデ。外面研磨。		堀之内2
201	29	注口	口縁部片	細砂粒少。良。にぶい赤褐色。	内面指押さえとナデ。外面丁寧な研磨・光沢。		加曾利B1
202	30	注口	底部片	細砂粒少。良。にぶい橙~黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。底面に網代痕。		堀之内2
202	31	台付鉢?	底部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。		後期

遺物観察表

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
202	32	深鉢	胴部片	細砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節LR縄文。	加曾利B1
202	33	注口?	胴部片	細砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	加曾利B1
202	34	深鉢	胴部片	細砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	安行1
202	35	深鉢	胴部片	細砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	加曾利B1
202	36	注口	口縁部片	細砂粒少。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨。	加曾利B1
202	37	深鉢	胴部片	細砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	加曾利B1
202	38	鉢	口縁部片	細砂粒少。良。灰褐色。	内外面黒色処理。内面ナデ。外面研磨・光沢。	加曾利B2~3
202	39	鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	加曾利B2~3
202	40	鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	加曾利B2~3
202	41	鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	加曾利B2~3
202	42	鉢	胴部片	細砂粒少。良。褐灰色。	内外面黒色処理。内面ナデ。外面研磨・光沢。単節LR縄文。	加曾利B2~3
202	43	鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	加曾利B2~3
202	44	鉢	口縁部片	細砂粒少。良。褐灰色。	内外面黒色処理。内面ナデ。外面研磨・光沢。	加曾利B2~3
202	45	深鉢	胴部片	細砂粒少。良。褐灰色。	内外面黒色処理。内面ナデ。外面研磨・光沢。	加曾利B2~3
202	46	鉢	口縁部片	砂粒多。良。明褐色。	内外面研磨。	加曾利B2~3
202	47	鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面粗い研磨。単節LR縄文。	加曾利B2~3
202	48	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐灰色。	内外面研磨。	高井東
202	49	鉢	頸部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	加曾利B2~3
202	50	深鉢	胴部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨。	加曾利B2~3
202	51	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐灰。	内面研磨。外面ナデ。	加曾利B2~3
202	52	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐灰色。	内外面研磨。波状口縁。	加曾利B2~3
202	53	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐灰色。	内外面研磨。	加曾利B2~3
202	54	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐~灰黄色。	内外面研磨。波状口縁。	加曾利B2~3
202	55	深鉢	口縁部片	細砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	高井東
202	56	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面黒色処理。内面研磨・光沢。外面粗いナデ。	高井東
202	57	深鉢	頸部片	砂粒少。良。褐灰色。	内外面研磨。	加曾利B2~3
202	58	深鉢	胴部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨。	加曾利B2~3
202	59	深鉢	胴部片	砂粒少。良。褐灰色。	内外面研磨。	加曾利B2~3
202	60	深鉢	胴部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨。	加曾利B2~3
202	61	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	加曾利B2~3
202	62	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面研磨。外面ナデ。	加曾利B2~3
202	63	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	加曾利B2~3
202	64	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰黄色。	内面研磨。外面ケズリ痕を残す。	加曾利B2~3
202	65	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨。	加曾利B2~3
202	66	深鉢	口縁部片	細砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。内面赤色塗彩。	加曾利B2~3
202	67	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	加曾利B2~3
202	68	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内面ナデ。外面研磨。	加曾利B2~3
203	69	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	高井東
203	70	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	高井東
203	71	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	加曾利B2~3
203	72	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐灰色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	加曾利B2~3
203	73	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐灰色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	加曾利B2~3
203	74	鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐灰色。	内面研磨。外面ナデ。	加曾利B2~3
203	75	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	高井東
203	76	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面粗いナデ。	加曾利B2~3
203	77	鉢	口縁部片	砂粒少。普通。黒色(内面褐灰色)。	内外面研磨・黒色処理・光沢。内面赤色塗彩。	加曾利B2~3
203	78	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐灰色。	内外面ナデ。	高井東
203	79	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面ナデ。外面粗い研磨。	高井東
203	80	深鉢	口縁部片	砂粒少。普通。黒褐色。	内面粗いナデ。外面研磨。	加曾利B2~3
203	81	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐灰色。	内外面ナデ。	加曾利B2~3
203	82	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面ナデ。	高井東
203	83	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	波状口縁。内外面粗い研磨。	高井東
203	84	注口?	胴部片	砂粒少。良。にぶい赤褐色。	内外面粗い研磨。	加曾利B3
203	85	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。縄文原体不明。	加曾利B3
203	86	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐灰色。	波状口縁。内外面研磨。	高井東
203	87	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	突起部。内外面粗い研磨。	高井東
203	88	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰褐色。	突起部。内外面研磨・光沢。	高井東
203	89	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	大波状口縁。内外面研磨・黒色処理・光沢。	高井東~安行
203	90	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	大波状口縁。内外面研磨・黒色処理・光沢。	高井東~安行
203	91	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	大波状口縁。内外面粗い研磨。内面黒色処理。	高井東~安行
203	92	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	大波状口縁。内外面研磨・黒色処理・光沢。	高井東~安行
203	93	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	大波状口縁。内外面粗い研磨。	高井東
203	94	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰褐色。	大波状口縁。内外面粗い研磨。	高井東
203	95	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。	高井東
203	96	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい赤褐色。	波状口縁。内面ナデ。外面研磨。	高井東
204	97	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰褐色。	内外面研磨・光沢。波状口縁。	高井東
204	98	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨。	高井東~安行
204	99	深鉢	胴部片	砂粒少。良。褐灰色。	内面粗い研磨。外面黒色処理。	高井東~安行
204	100	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	高井東~安行
204	101	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面粗い研磨。	高井東
204	102	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨・光沢。	高井東
204	103	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面粗い研磨。	高井東
204	104	鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨・光沢。	高井東
204	105	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。赤褐色。	内面ナデ。外面研磨。	高井東
204	106	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨・光沢。	高井東
204	107	鉢	口縁部片	砂粒少。良。黄灰色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。頸部に縦位橋状把手。	高井東~安行
204	108	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	高井東
204	109	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。大波状口縁。	高井東
204	110	鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	高井東~安行
204	111	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨・光沢。	高井東
204	112	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。単節LR縄文。	高井東
204	113	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。	高井東
204	114	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	高井東
204	115	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	高井東
204	116	深鉢	口縁部片	細砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	高井東
204	117	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨・光沢。波状口縁。	高井東
204	118	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰褐色。	内外面研磨・光沢。大波状口縁。	高井東
204	119	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。	高井東
204	120	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨・光沢。	高井東
204	121	深鉢	口縁部片	砂粒多。普通。にぶい黄褐色。	内外面ナデ。	高井東
204	122	鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面ナデ。	高井東

遺物観察表

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
204	123	深鉢	胴部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	単節L R縄文。	高井東
204	124	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。単節L R縄文。	高井東
204	125	鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	高井東～安行
204	126	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。無節L R縄文。	高井東
204	127	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。単節L R縄文。	高井東
204	128	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。波状口縁。	高井東～安行
204	129	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐色。	内外面粗い研磨。単節L R縄文。波状口縁。	高井東～安行
204	130	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	高井東～安行
204	131	鉢	頸部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。	高井東
204	132	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。	高井東
204	133	深鉢	胴部片	砂粒多。良。暗褐色。	内外面粗い研磨。	高井東
204	134	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面粗い研磨。	高井東
204	135	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐色。	内外面粗い研磨。	高井東
205	136	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。	高井東
205	137	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。	高井東
205	138	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	高井東
205	139	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	高井東
205	140	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐色。	内面粗い研磨・黒色処理。	高井東
205	141	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。	高井東
205	142	深鉢	胴部片	砂粒多。良。明褐色。	内外面研磨。	高井東
205	143	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨。	高井東
205	144	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	高井東
205	145	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨。	高井東
205	146	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰褐色。	内面黒色処理。内外面粗い研磨。	高井東
205	147	深鉢	胴部片	細砂粒少。良。褐色。	内外面研磨。	高井東
205	148	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内面ナデ。外面研磨。	高井東
205	149	深鉢	胴部片	細砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	高井東
205	150	深鉢	胴部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内面丁竪なナデ。	高井東
205	151	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。	後期
205	152	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨・光沢。	後期
205	153	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面粗い研磨。	後期
205	154	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面粗い研磨。	後期
205	155	浅鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	高井東～安行
205	156	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	後期
205	157	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面粗い研磨。	後期
205	158	鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面粗い研磨。	後期
205	159	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐色。	内外面粗い研磨。	高井東～安行
205	160	深鉢	胴部片	砂粒多。良。明褐色。	内外面粗いナデ。	後期
205	161	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面粗い研磨。	後期
205	162	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内面ナデ。外面粗い研磨。	加曾利B 2～3
206	163	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	高井東～安行
206	164	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面粗い研磨。単節L R縄文。	後期
206	165	深鉢	口縁～胴部	砂粒少。良。灰黄褐色。	半粗製。器面に凹凸と調整痕を残す。	高井東
206	166	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨・光沢。無節L R縄文。	高井東
206	167	深鉢	口縁部片	砂粒微。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節L R縄文。	高井東
206	168	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。単節L R縄文。	高井東
206	169	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。暗灰黄色。	内外面粗いナデ。	高井東～安行
206	170	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。くすんだ黄褐色。	全面研磨・赤色塗彩。	高井東～安行
206	171	深鉢	口縁～胴部	砂粒多。良。黒褐色。	4単位波状口縁。内面研磨。L R縄文充填。無文部を研磨し、縄文部がやや浮き上がる。	高井東併行
206	172	深鉢	口縁～胴部	砂粒少。良。黒褐色。	口縁部粘土貼付6単位。胴部弧線8単位。単節L R縄文充填。外面無文部丁竪な研磨・光沢。内面研磨。	瘤付土器
206	173	ミニチュア	口縁部片	細砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内面手捏ね様。外面研磨。赤色塗彩。下方に沈線文様あり。	後期
206	174	ミニチュア	口縁部片	細砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面丁竪なナデ。外面粗い研磨。口径4.0。残存高2.9。	後期
206	175	ミニチュア	口縁～胴部	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面粗いナデ。口径(4.0)。残存高3.3。	後期
206	213	耳飾り	ほぼ完形	細砂粒やや多。良。暗赤褐色。	滑車形。全面ナデ。わずかに赤色顔料残存。全面赤色塗彩か。最大径5.0。厚さ1.3。	後期
207	176	深鉢	胴～底部	砂粒少。良。明赤褐色。	内外面にケズリ痕とナデ痕残す。底径9.0。残存高8.5。	後期
207	177	深鉢	底部片	砂粒多。良。明赤褐色。	内面ナデ。外面研磨。底面網状痕。底径7.0。残存高2.1。	高井東
207	178	鉢	胴～底部	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内面研磨。外面ナデ痕を残す。底径6.4。残存高5.2。	後期
207	179	深鉢	底部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面に粗いケズリ・ナデ痕を残す。底径7.0。残存高5.0。	後期
207	180	深鉢	底部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面ナデ。底径8.8。残存高2.5。	高井東
207	181	深鉢	底部片	砂粒多。良。明赤褐色。	内外面粗い研磨。底径(5.0)。残存高3.4。	高井東
207	182	深鉢	底部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	外面にケズリ痕を残す。底径7.0。残存高1.9。	高井東
207	183	鉢?	底部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面粗い研磨。外面ケズリ痕を残す。	高井東
207	184	土製円盤	完形	砂粒やや多。良。明赤褐色。	調整良。側縁打ち欠き。内外面粗い研磨。無文。最大径2.8。	後期
207	185	土製円盤	完形	砂粒多。雲母多。良。にぶい褐色。	調整良。側縁打ち欠き。内外面ナデ。最大径6.0。	阿玉台?

横壁中村遺跡 30区35・36号住居

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
210	1	鉢	口縁～胴部	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。文様3単位構成。口径(34.0)。	堀之内1(越後系)
210	2	深鉢	口縁～胴部	砂粒多。良。暗赤褐色。	内外面研磨。口径(23.6)。残存高27.1。	堀之内1
210	3	鉢	口縁部片	砂粒少。良。明褐色。	単節L R縄文。	加曾利B 1
210	4	深鉢	胴部片	砂粒少。良。褐色。	内面黒色処理。無文部・内面粗い研磨。	堀之内2
210	5	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい赤褐色。	内外面丁竪なナデ。	堀之内2
210	6	深鉢	口縁～胴部	砂粒少。良。黒～にぶい褐色。	内外面研磨・光沢。単節L R縄文。	堀之内1
210	7	深鉢	口縁～胴部	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	口縁研磨。内外面黒色処理。	加曾利B 2～3
211	8	深鉢	口縁～胴部	砂粒多。良。明赤褐色。	内面研磨。胴部はL R縄文を地文とし、沈線文。頸部は降帯を貼付しL R縄文充填。口径29.8。残存高38.5。	堀之内1
211	9	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。単節L R縄文充填。	堀之内1
211	10	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内面研磨。外面沈線文。	堀之内1
211	11	深鉢	胴部片	砂粒少。良。褐色。	内面粗い研磨。	堀之内1
211	12	深鉢	胴部片	砂粒少。良。褐色。	内面研磨。	堀之内1
211	13	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内面研磨。単節L R縄文。	堀之内1
211	14	深鉢	胴部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内面研磨。	堀之内1
211	15	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨。外面炭化物付着。	堀之内1
211	16	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	堀之内2
211	17	深鉢	口縁部片	砂粒少。普通。にぶい黄褐色。	内面研磨・光沢。	堀之内2
211	18	深鉢	胴部片	砂粒少。普通。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内2
211	19	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨・光沢。	堀之内2

遺物観察表

図版番号	遺物番号	種別 器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
211	20	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。明褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内2
211	21	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内面、外面無文部研磨・黒色処理。単節LR縄文。	堀之内2
211	22	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	単節LR縄文。	堀之内2
211	23	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内面研磨・黒色処理・光沢。単節LR縄文。	堀之内2
211	24	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内2
211	25	深鉢	胴部片	砂粒少。良。褐色。	内面、外面無文部研磨・黒色処理。単節LR縄文。	堀之内2
211	26	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨・光沢。	堀之内2
211	27	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	単節LR縄文。	堀之内2
211	28	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内面粗い研磨。単節LR縄文。	堀之内2
211	29	深鉢	口縁部片	砂粒少。普通。明褐色。	内面粗い研磨。	堀之内2
211	30	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨。無節LR縄文。	堀之内2?
211	31	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	外面にケズリを残す。	堀之内2
211	32	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黄褐色。	内外面黒色処理。単節LR縄文。	加曾利B2~3
212	33	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内面粗い研磨。無節LR縄文。外面炭化物付着。	堀之内2
212	34	鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内面研磨・光沢。外面に斜位のナデ痕。	堀之内2
212	35	注口?	胴部片	細砂粒多。良。褐色。	内面ナデ。外面研磨・光沢。単節LR縄文。縄文部肥厚。	堀之内2?
212	36	注口	注口部片	砂粒少。良。明赤褐色。	被熱劣化。	堀之内2
212	37	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	突起部。内外面研磨・黒色処理。	加曾利B2
212	38	鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内面粗い研磨。外面研磨・黒色処理・光沢。外面炭化物付着。	加曾利B2
212	39	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内面研磨。	加曾利B1
212	40	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内面研磨。	加曾利B1
212	41	深鉢	胴部片	砂粒少。良。暗赤褐色。	内面研磨。指頭押圧を伴う横位隆帯。	加曾利B1
212	42	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	外面研磨・光沢。	加曾利B2~3
212	43	深鉢	胴部片	砂粒少。良。褐色。	内外面粗い研磨。	加曾利B2~3
212	44	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内面研磨。	加曾利B2~3
212	45	深鉢	胴部片	砂粒少。良。褐色。	内外面粗い研磨。	加曾利B2~3
212	46	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。焼成後の穿孔あり。	加曾利B2~3
212	47	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内面黒色処理。	加曾利B2~3
212	48	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内面研磨。	加曾利B2~3
212	49	鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内面研磨。	加曾利B2~3
212	50	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	加曾利B2~3
212	51	深鉢	胴部片	砂粒少。良。暗褐色。	内外面粗い研磨。	加曾利B2~3
212	52	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。暗褐色。	突起部。全面研磨・光沢。	高井東
212	53	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	突起部。全面研磨・光沢。	高井東
212	54	鉢	胴部片	細砂粒やや多。良。にぶい黄褐色。	内面赤色塗彩。片口あるいは注口の可能性もあり。	高井東
212	55	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。単節LR縄文。	高井東
212	56	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	大波状口縁。内外面研磨。	高井東
212	57	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	大波状口縁。内外面研磨・光沢。	高井東
212	58	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面粗い研磨。外面黒色処理。	高井東
212	59	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	波状口縁。内面研磨。	高井東
212	60	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黄褐色。	内外面研磨。	高井東
212	61	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	高井東
212	62	注口	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	高井東
212	63	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	外面研磨・光沢。	高井東
212	64	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面ナデ。	高井東
212	65	深鉢	胴部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨・光沢。	高井東
212	66	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面研磨。	高井東
212	67	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面研磨。	高井東
212	68	深鉢	頸部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面研磨。	高井東
213	69	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面研磨。	高井東
213	70	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面研磨。	高井東
213	71	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面研磨。	高井東
213	72	深鉢	胴部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨。単節LR縄文。	高井東
213	73	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内面研磨。	高井東
213	74	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	無節LR縄文。	堀之内2?
213	75	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	小波状口縁。内外面研磨・光沢。	加曾利B~高井東
213	76	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	小波状口縁。内外面研磨。	加曾利B~高井東
213	77	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	大波状口縁。内面粗い研磨。	加曾利B~高井東
213	78	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内面ナデ。	加曾利B~高井東
213	79	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面粗い研磨。	加曾利B~高井東
213	80	鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内面黒色処理。内外面粗い研磨。	加曾利B~高井東
213	81	鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	加曾利B~高井東
213	82	深鉢	口縁部片	細砂粒少。良。にぶい褐色。	内面研磨。	安行
213	83	深鉢	口縁部片	細砂粒少。良。褐色。	内面研磨。単節LR縄文。	安行
213	84	台付土器	台部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面粗いケズリ痕。外面ナデ。底面に網代様痕跡。	加曾利B~高井東
213	85	深鉢	底部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面ナデ。外面調整痕を残す。底面網代痕。	加曾利B~高井東
213	86	深鉢	底部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨・光沢。底部網代痕。	堀之内2
213	87	深鉢	底部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。底面研磨。	加曾利B~高井東
213	88	深鉢	底部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面ナデ。外面調整痕を残す。底面網代痕。	加曾利B~高井東
213	89	深鉢	底部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。底面網代痕。底径2.8。	加曾利B~高井東
213	90	鉢	胴部片	粗砂粒多。良。にぶい黄褐色。	底部丸底状。内面研磨・光沢。外面粗いナデ。	加曾利B~高井東
213	91	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗いナデ。底面ナデ。底径(11.0)。	加曾利B~高井東
213	92	深鉢	底部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内面研磨。外面ナデ。底面不明瞭。	加曾利B~高井東
213	93	浅鉢	胴部片	砂粒少。普通。明褐色。	器面劣化。内面研磨。	加曾利B~高井東
213	94	土製円盤	完形	砂粒多。普通。にぶい黄褐色。	磨滅により調整不明。最大径5.4。	後期
213	95	土製円盤	完形	砂粒多。良。灰黄褐色。	土器底部を利用した土製円盤か。底面に白色シルト。最大径6.2。	後期

横壁中村遺跡 30区 38号住居

図版番号	遺物番号	種別 器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
216	1	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。暗褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節LR縄文。文様4単位か。口縁突起は一對。	堀之内2
216	2	鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐~黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節LR縄文。	加曾利B1
216	3	鉢	口縁~胴部	細砂粒やや多。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節LR縄文。底部丸底。	加曾利B2
216	4	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節LR縄文。	加曾利B2
216	5	壺?	頸部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内面粗いナデ。外面粗い研磨。単節LR縄文。壺形。	加曾利B2
216	6	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	加曾利B2
216	7	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節LR縄文。	加曾利B2
216	8	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面粗い研磨。外面に粗いナデ痕を残す。	後期
216	9	鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面粗い研磨。	堀之内1

遺物観察表

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
216	10	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	後期中葉
216	11	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰褐色。	無節R縄文。	後期中葉
216	12	深鉢	胴部片	砂粒多。良。赤褐色。	縄文原体不明。	堀之内2
216	13	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰褐色。	内外面粗い研磨。単節L R縄文。	堀之内2
216	14	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面ナデ。単節L R縄文。	堀之内2
216	15	深鉢	胴部片	砂粒少。良。褐灰色。	内外面研磨。単節L R縄文。	堀之内2
217	16	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内2
217	17	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節L R縄文。	堀之内2
217	18	深鉢	口縁部片	細砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節L R縄文。	加曾利B 1
217	19	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨・光沢。単節R L縄文。小波状口縁。	加曾利B 1
217	20	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰褐色。	内面粗い研磨。単節L R縄文。	加曾利B 1
217	21	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節L R縄文。	加曾利B 1
217	22	鉢	口縁部片	細砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。単節L R縄文。	加曾利B 1
217	23	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	加曾利B 1
217	24	深鉢	頸部片	砂粒少。普通。灰褐色。	内外面粗い研磨。	加曾利B 1
217	25	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰褐色。	内外面研磨。縄文原体不明。	加曾利B 2
217	26	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨・光沢。	加曾利B 2
217	27	注口	胴部片	細砂粒少。普通。黒褐色。	内外面研磨・光沢。	加曾利B 1
217	28	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節L R縄文。口唇部刻目。	加曾利B 2
217	29	鉢	口縁部片	細砂粒少。普通。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	加曾利B 2
217	30	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐色。	単節L R縄文。	加曾利B 2
217	31	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節L R縄文。	加曾利B 2
217	32	深鉢	頸部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。縄文原体不明。	加曾利B 2
217	33	深鉢	胴部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨・光沢。	加曾利B 2
217	34	鉢	胴部片	砂粒少。普通。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節L R縄文。	加曾利B 2
217	35	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	加曾利B 2
217	36	鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。単節L R縄文。	加曾利B 2
217	37	鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	加曾利B 2
217	38	鉢	胴部片	細砂粒少。良。灰褐色。	内外面研磨・光沢。単節L R縄文。	加曾利B 2
217	39	鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨・光沢。	加曾利B 2
217	40	鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨・光沢。	加曾利B 2
217	41	深鉢	口縁部片	細砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。口唇部刻目。	加曾利B 2
217	42	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨・光沢。	加曾利B 2
217	43	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節L R縄文。	加曾利E 2
217	44	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節L R縄文。口唇部刻目。	加曾利B 2
217	45	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	加曾利B 2
217	46	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨・光沢。単節L R縄文。	加曾利B 2
218	47	深鉢	口縁部片	砂粒多。普通。灰黄褐色。	突起部。内外面研磨。	加曾利B 2
218	48	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	突起部。内外面研磨。	加曾利B 2
218	49	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	突起部。内外面研磨。	加曾利B 2
218	50	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐色。	突起部。内外面研磨。	加曾利B 2
218	51	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	突起部。内外面研磨・光沢。	加曾利B 2
218	52	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨。	加曾利B 2
218	53	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。補修孔あり。	加曾利B 2
218	54	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐灰色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	加曾利E 2
218	55	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	加曾利B 2
218	56	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	加曾利B 2
218	57	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	加曾利B 2
218	58	深鉢	胴部片	砂粒多。良。暗褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	加曾利B 2
218	59	深鉢	頸部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	加曾利B 2
218	60	深鉢	頸部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。	加曾利B 2
218	61	深鉢	頸部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。単節L R縄文。	加曾利B 2
218	62	深鉢	頸部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。縄文原体不明。	加曾利B 2
218	63	深鉢	頸部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節R L縄文。	加曾利B 2
218	64	鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	加曾利B 2
218	65	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節L R縄文。	加曾利B 2
218	66	鉢	胴部片	砂粒少。良。灰褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節L R縄文。	加曾利B 2
218	67	壺	胴部片	細砂粒少。良。にぶい褐色。	内面黒色処理・ナデ。外面研磨。単節R L縄文。注口か。	加曾利B 2
218	68	壺	胴部片	細砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内面指押さえ。外面研磨・光沢。単節L R縄文。注口か。	加曾利B 2
218	69	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内面研磨。外面粗いナデ。単節L R縄文。	加曾利B 2
218	70	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面研磨。外面粗いナデ。	加曾利B 1
218	71	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面研磨。外面粗いナデ。	加曾利B 1
218	72	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内面研磨。外面粗いナデ。	加曾利B 1
218	73	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐灰色。	内外面研磨。74 と同一個体。	加曾利B 1
218	74	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐灰色。	内外面研磨。73 と同一個体。	加曾利B 1
218	75	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐灰色。	内面粗い研磨。	後期
219	76	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	加曾利B 1
219	77	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	加曾利B 1
219	78	深鉢	胴部片	砂粒多。良。褐灰色。	内面粗い研磨。	加曾利B 1
219	79	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面粗い研磨。	加曾利B 2～3
219	80	深鉢	胴部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内面研磨。外面粗いナデ。	加曾利B 2～3
219	81	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内面研磨。単節L R縄文。	高井東
219	82	深鉢	頸部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面粗い研磨・黒色処理。	加曾利B 2～3
219	83	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗いナデ。	後期
219	84	深鉢	口縁部片	細砂粒少。良。黒褐色。	内面研磨・光沢。単節L R縄文。	加曾利B
219	85	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面粗い研磨。	後期
219	86	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内面粗い研磨。外面研磨・黒色処理・光沢。	加曾利B 2
219	87	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐灰色。	内外面粗いナデ。	後期
219	88	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗いナデ。	後期
219	89	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗いナデ。90 と同一個体。	後期
219	90	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面粗いナデ。89 と同一個体。	後期
219	91	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	加曾利B
219	92	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗いナデ。	後期
219	93	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。大波状口縁。	高井東
219	94	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。波状口縁。単節L R縄文。	高井東
219	95	深鉢	口縁部片	細砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節R L縄文。大波状口縁。	高井東
219	96	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。波状口縁。	高井東
219	97	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	無節R縄文。	加曾利B 2
219	98	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面研磨。	高井東
219	99	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨。大波状口縁。	高井東
219	100	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面ナデ。	高井東

遺物観察表

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
219	101	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。波状口縁。	高井東
220	102	深鉢	底部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。底面に網代痕。底径(7.0)。残存高2.8。	後期
220	103	深鉢	底部片	砂粒少。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨。底面に網代痕。底径7.0。残存高2.5。	後期
220	104	深鉢	胴～底部	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。底面に網代痕。底径9.8。残存高6.8。	後期
220	105	深鉢	底部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。底面に網代痕。底径(6.4)。残存高3.6。	後期
220	106	深鉢	底部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。底面に網代痕。底径(7.2)。残存高1.6。	後期
220	107	深鉢	底部片	砂粒多。良。赤褐色。	内外面粗い研磨。底面に網代痕。底径(7.6)。残存高2.5。	後期
220	108	深鉢	底部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。底面に網代痕。底径7.0。残存高1.0。	後期
220	109	注口?	底部片	砂粒多。良。褐色。	内外面黒色処理。内面ナデ。外面粗い研磨。底径4.7。残存高0.4。	後期
220	110	深鉢	底部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨。底面に網代痕。底径10.4。残存高3.2。	後期
220	111	鉢	底部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。底面に網代痕。底径7.2。残存高1.0。	後期
220	112	深鉢	胴～底部	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。底面に網代痕。底径(10.0)。残存高3.6。	後期
220	113	深鉢	胴～底部	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。底面に網代痕。底径6.6。残存高4.2。	後期
220	114	浅鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内面研磨・黒色処理・光沢。外面研磨。底部内面有段。底面摩滅著しい。網代痕不明。底径(8.4)。残存高2.8。	後期
220	115	深鉢	底部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨。底面に網代痕。底径8.0。残存高2.8。	後期
221	116	土製円盤	完形	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	調整良。側縁研磨。小型。内外面研磨。最大径1.7。	後期
221	117	土製円盤	完形	砂粒少。良。暗赤褐色。	調整良。側縁打ち欠き後研磨。内外面研磨。最大径3.4。	後期
221	118	土製円盤	完形	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	調整良。側縁研磨。内外面粗い研磨。縄文有無不明。最大径3.6。	後期
221	119	土製円盤	完形	砂粒少。良。褐色。	調整良。側縁打ち欠き。内面研磨。単節L R縄文。最大径3.7。	後期
221	120	土製円盤	完形	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	調整良。側縁打ち欠き。内外面研磨。最大径4.8。	後期
221	121	土製円盤	完形	砂粒多。良。灰黄褐色。	調整良。側縁打ち欠き。内外面研磨。単節L R縄文。最大径5.0。	後期
221	122	土製円盤	完形	砂粒多。良。にぶい褐色。	調整良。側縁打ち欠き後研磨か。内外面粗い研磨。最大径5.0。	後期

横壁中村遺跡 20区4号列石

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
234	1	深鉢	口縁～胴部	砂粒多。良。明赤褐色。	波状口縁。横位連続爪形文。口径(15.2)。残存高15.2。	勝坂1
234	2	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。暗赤褐色。	波状口縁。内外面研磨。口唇内側に肥厚。口径(20.0)。残存高10.1。	唐草文系
234	3	深鉢	胴部片	砂粒多。雲母含む。良。褐色。	2条の縦位隆帯。縦横の沈線充填。残存高4.3。	唐草文系
234	4	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐色。	把手がつく。内外面粗い研磨。単節R L縄文。口径15.0。	加曾利E 4
234	5	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗いナデ。	称名寺1
234	6	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内面粗い研磨。	堀之内1
234	7	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面丁寧なナデ。	堀之内1
234	8	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内面粗い研磨。	堀之内1
234	9	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	把手片。内面ナデ。上面半隆起線による渦文。	唐草文系
234	10	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	中空状把手。全面研磨。	唐草文系
234	11	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面丁寧なナデ。	堀之内1
234	12	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。黒褐色。	把手片。内外面研磨。	堀之内1
234	13	深鉢	胴部片	細砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨。内外面炭化物付着。残存高10.7。	堀之内1
234	14	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面粗い研磨。	堀之内1
234	15	注口	口縁～胴部	細砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内面ナデ。外面研磨。胴部径(9.0)。残存高6.5。	後期
234	16	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面丁寧なナデ。単節L R縄文充填。外面研磨。	堀之内1
234	17	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面ナデ。単節L R縄文。	堀之内2
235	18	深鉢	口縁～胴部	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	堀之内2
235	19	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨。	堀之内2
235	20	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐色。	内外面丁寧なナデ。単節L R縄文。	堀之内2
235	21	深鉢	口縁～胴部	砂粒多。普通。暗褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節L R縄文。	堀之内2
235	22	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節L R縄文。	堀之内2
235	23	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・黒色処理。	堀之内2
235	24	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨・黒色処理。	堀之内2
235	25	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	堀之内2
235	26	深鉢	口縁部片	砂粒やや多。良。にぶい褐色。	把手片。内外面研磨。	堀之内2
235	27	深鉢	口縁部片	細砂粒少。良。褐色。	把手片。内外面研磨。	堀之内2
235	28	深鉢	胴部片	砂粒多。良。暗褐色。	内面粗い研磨。外面ナデ。	後期
235	29	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面ナデ。単節L R縄文。	堀之内2
235	30	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	堀之内2
235	31	深鉢	口縁部片	細砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。単節L R縄文。	堀之内2
235	32	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	堀之内2
235	33	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面丁寧なナデ。単節L R縄文。	堀之内2
235	34	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	堀之内2
235	35	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	加曾利B 2
235	36	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。波状口縁。	堀之内2
235	37	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	器面劣化。	堀之内2
235	38	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。補修孔あり。	堀之内2
235	39	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。単節L R縄文。	堀之内2
236	40	深鉢	口縁～胴部	細砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。口唇部に矢羽根状の刻目。	加曾利B 1
236	41	深鉢	口縁～胴部	細砂粒少。普通。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。口唇部小波状。内面に刺突列。	堀之内2
236	42	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒色。	内外面粗い研磨。口唇部に刻目。	加曾利B
236	43	深鉢	口縁～胴部	細砂粒やや多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節L R縄文充填。口径(22.8)。残存高10.5。	加曾利B 1
236	44	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色～黒褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	加曾利B 2
236	45	深鉢	口縁部片	細砂粒。良。黒褐色。	内外面研磨・光沢。単節L R縄文。	加曾利B 2
236	46	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理。	加曾利B 2
236	47	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面粗い研磨。	堀之内2
236	48	注口	胴部片	細砂粒。良。褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	加曾利B 1
236	49	鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理。	加曾利B 1
236	50	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理。単節L R縄文。口唇部に刻目。	加曾利B 2
236	51	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。明赤褐色。	内外面研磨・光沢。単節L R縄文。	加曾利B 2
236	52	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理。単節L R縄文。	加曾利B 2
236	53	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨。	加曾利B 2
236	54	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	加曾利B 2
236	55	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	加曾利B 2
236	56	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨・光沢。単節L R縄文。	加曾利B 2
237	57	深鉢	口縁部片	細砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。口径(32.0)。残存高9.1。	加曾利B 2

遺物観察表

図版番号	遺物番号	種別 器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
237	58	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	突起3単位。内外面研磨・黒色処理。単節L R縄文。口径(17.0)。残存高11.7。	加曾利B 2
237	59	深鉢	口縁部片	砂粒やや多。良。黒褐色。	突起3単位。内外面研磨・黒色処理。単節L R縄文。外面頸部ケズリ痕を残すように粗い研磨。口径(24.8)。残存高13.8。	加曾利B 2
237	60	深鉢	口縁～胴部	細砂粒少。良。褐色。	突起3単位。内外面研磨・黒色処理・光沢。単節L R縄文。口径18.1。残存高14.7。	加曾利B 2
237	61	深鉢	口縁～胴部	細砂粒少。良。灰褐色。	突起3単位。内外面研磨・黒色処理。口径(15.4)。残存高8.3。	加曾利B 2
237	62	深鉢	口縁部片	細砂粒やや多。良。にぶい橙色。	内外面研磨。単節L R縄文。口径(10.6)。	加曾利B 2
237	63	深鉢	口縁～胴部	砂粒やや多。良。黒褐色。	突起3単位。内外面研磨・黒色処理。内外面炭化物付着。口径16.5。残存高10.5。	加曾利B 2
237	64	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節L R縄文。	加曾利B 2
237	65	深鉢	口縁～胴部	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。底面網代痕。波状口縁。単節L R縄文。口径17.0。高さ9.7。	加曾利B 2
237	66	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節L R縄文。内面炭化物付着。	加曾利B 2
238	67	鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。単節L R縄文。	加曾利B 2
238	68	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒色。	内外面研磨・黒色処理。単節L R縄文。	加曾利B 2
238	69	深鉢	口縁部片	細砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨。	加曾利B 2
238	70	深鉢	口縁部片	砂粒やや多。良。灰黄褐色。	突起片。内外面研磨・黒色処理・光沢。	加曾利B 2
238	71	深鉢	口縁部片	細砂粒やや多。良。灰褐色。	突起片。内外面研磨。	加曾利B 2
238	72	深鉢	口縁部片	細砂粒少。良。灰黄褐色。	突起片。内外面研磨・黒色処理・光沢。単節L R縄文。	加曾利B 2
238	73	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。無節L R縄文。	加曾利B 2
238	74	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	加曾利B 2
238	75	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨・光沢。単節L R縄文。	加曾利B 2
238	76	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。黒褐～暗赤褐色。	突起片。単節L R縄文。内外面研磨。77と同一個体。	加曾利B 2
238	77	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。黒褐～暗赤褐色。	突起片。単節L R縄文。内外面研磨。76と同一個体。	加曾利B 2
239	78	深鉢	口縁部片	細砂粒やや多。良。褐色。	突起片。内外面研磨。単節L R縄文。	加曾利B 2
239	79	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。褐色。	突起片。内外面研磨。	加曾利B 2
239	80	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。灰黄褐色。	突起片。内外面研磨。	加曾利B 2
239	81	深鉢	口縁部片	細砂粒少。良。黒褐色。	突起片。内外面研磨。	加曾利B 2
239	82	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。褐色。	突起片。内外面研磨。	加曾利B 2
239	83	深鉢	口縁部片	細砂粒やや多。良。にぶい褐色。	突起片。内外面研磨・黒色処理・光沢。単節L R縄文。	加曾利B 2
239	84	深鉢	口縁部片	砂粒やや多。良。にぶい黄褐色。	突起片。内外面研磨。	加曾利B 2
239	85	深鉢	口縁部片	細砂粒少。良。灰褐色。	突起片。内外面研磨・黒色処理・光沢。	加曾利B 2
239	86	深鉢	口縁～胴部	砂粒多。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節L R縄文。残存高21.0。	加曾利B 2
239	87	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	加曾利B 2
239	88	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐～黒色。	内外面研磨。口縁部に縄文施文。	加曾利B 2
240	89	深鉢	口縁部片	砂粒やや多。良。褐色。	突起片。内外面研磨・黒色処理・光沢。	加曾利B 2
240	90	深鉢	口縁部片	細砂粒やや多。良。にぶい黄褐色。	突起片。内外面研磨。文様部ケズリ痕を磨き残す。	加曾利B 2
240	91	深鉢	口縁部片	砂粒やや多。良。黒褐色。	突起片。内外面研磨・黒色処理・光沢。単節L R縄文。	加曾利B 2
240	92	深鉢	口縁部片	細砂粒多。良。褐色。	突起片。内外面研磨。	加曾利B 2
240	93	深鉢	口縁部片	細砂粒少。良。灰黄褐色。	突起片。内外面研磨。	加曾利B 2
240	94	鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨。	堀之内2
240	95	鉢	口縁部片	細砂粒少。良。にぶい褐色。	器面劣化。	加曾利B 1
240	96	鉢	口縁部片	砂粒多。良。褐灰色。	口縁と内面研磨。外面ナデ痕を残す。内面に縄文帯。単節L R縄文。	加曾利B 2
240	97	鉢	口縁～胴部	細砂粒やや多。良。灰褐色。	内面研磨。外面口縁部研磨。胴部ケズリ後に粗い研磨。口径(46.6)。残存高9.5。	加曾利B 1
240	98	鉢	胴部片	細砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。	加曾利B
240	99	鉢	口縁～胴部	砂粒少。良。褐色。	内面研磨。外面口縁部研磨。胴部ケズリ後に粗い研磨。口径(29.2)。残存高8.4。	加曾利B 2
240	100	鉢	口縁～底部	細砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。口径(22.2)。底径(3.0)。残存高8.1。	加曾利B
241	101	鉢	口縁部片	細砂粒。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。	加曾利B 2
241	102	鉢	口縁部片	細砂粒。良。褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節L R縄文。	加曾利B 1
241	103	鉢	口縁部片	細砂粒。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	加曾利B 1
241	104	鉢	口縁～胴部	細砂粒やや多。良。黒褐色。	内外面研磨。口径(9.0)。残存高4.8。	加曾利B
241	105	鉢	口縁～胴部	細砂粒少。良。にぶい褐色。	内面研磨。文様6単位。外面文様部ケズリ痕を残すように粗い研磨。口径(17.0)。残存高8.2。	加曾利B 2
241	106	鉢	口縁～胴部	砂粒やや多。良。褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。口径(16.0)。残存高6.8。	加曾利B 2
241	107	鉢	口縁～胴部	細砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	加曾利B 2
241	108	注口	胴部片	細砂粒。良。灰黄色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節L R縄文。	加曾利B 1
241	109	鉢	胴～底部	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨・光沢。単節L R縄文。	加曾利B 2
241	110	鉢	胴～底部	砂粒多。良。褐色。	内外面・底面研磨。単節L R縄文充填。底径(5.0)。残存高5.6。	加曾利B 2
241	111	鉢	底部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理。底径13.0。残存高2.8。	後期
241	112	鉢	胴部片	細砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。	加曾利B 2
241	113	鉢	口縁～胴部	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	加曾利B 2
241	114	鉢	胴部片	砂粒多。良。褐色。	内面丁撃ナデ。外面粗い研磨。	加曾利B 2
242	115	壺	口縁部片	砂粒やや多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。瘤貼付。単節L R縄文。口径(7.6)。残存高4.5。	瘤付土器
242	116	注口	口縁部片	細砂粒少。良。にぶい褐色。	把手部片。全面研磨。	堀之内2
242	117	注口	胴部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。	後期
242	118	注口	胴部片	砂粒少。良。黒色。	内外面黒色処理。内面ナデ。外面研磨。	加曾利B 1
242	119	注口	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面ナデ。外面研磨。	堀之内2
242	120	注口	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面粗い研磨。	堀之内2
242	121	注口	胴部片	砂粒少。普通。明黄褐色。	内面ナデ。外面粗い研磨。	堀之内2
242	122	鉢	胴部片	細砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面丁撃ナデ。単節L R縄文。	加曾利B 2
242	123	注口	胴部片	砂粒少。良。明赤褐色。	内面ナデ。外面研磨。	堀之内2
242	124	注口	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内面ナデ。外面研磨・光沢。	加曾利B 1
242	125	注口	胴部片	細砂粒少。良。黄灰色。	内面ナデ。	加曾利B 1
242	126	鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	加曾利B 2
242	127	注口	胴部片	細砂粒。良。褐灰色。	内外面研磨・黒色処理・光沢。単節L R縄文。	加曾利B 2
242	128	鉢	胴部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨・光沢。	堀之内2
242	129	注口	注口部片	砂粒少。良。暗赤褐色。	全面丁撃ナデ研磨。	後期
242	130	注口	注口部片	砂粒やや少。良。にぶい赤褐色。	大型。全面研磨。	後期
242	131	注口	注口部片	砂粒多。良。灰褐色。	全面研磨。胴部との接続部に2条の沈線と円形刺突。	後期
242	132	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗いナデ・研磨。	加曾利B 1～2
242	133	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。明赤褐色。	内面横位の粗いナデ痕を残す。	加曾利B 1～2
242	134	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰黄褐色。	内外面丁撃ナデ。粗い研磨。	加曾利B 1～2
242	135	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面丁撃ナデ。粗い研磨。	加曾利B 1～2
243	136	深鉢	口縁～胴部	砂粒多。良。褐色。	内面研磨。指頭押圧を伴う2条の隆帯。胴部ケズリ後粗く研磨し、2条一対の対弧状沈線文。口径(42.0)。残存高25.4。	加曾利B 1～2

遺物観察表

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
243	137	深鉢	口縁~胴部	砂粒多。良。灰黄褐色。	内面粗い研磨。外面横~斜位のナデ痕を残す。	加曾利B 1~2
243	138	深鉢	口縁~胴部	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内面丁寧なナデ。外面ケズリ痕を残す。	加曾利B 1~2
243	139	深鉢	口縁~胴部	砂粒多。良。褐灰色。	内外面ナデ。	後期
244	140	深鉢	胴部片	砂粒多。良。明褐色。	内外面丁寧なナデ。粗い研磨。	後期
244	141	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	加曾利B 2~3
244	142	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨。	加曾利B 2~3
244	143	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。黒褐色。	内外面研磨・黒色処理。	高井東
244	144	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内面粗いナデ。	後期
244	145	鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	加曾利B
244	146	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内面丁寧なナデ。外面研磨。	後期
244	147	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面丁寧なナデ。粗い研磨。	後期
244	148	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面丁寧なナデ。粗い研磨。	後期
244	149	深鉢	口縁部片	砂粒多。普通。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	後期
244	150	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面に粗いナデ痕を残す。	後期
244	151	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面丁寧なナデ。粗い研磨。	加曾利B 1
244	152	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面に粗いナデ痕を残す。	後期
244	153	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。灰黄~褐色。	内面丁寧なナデ。外面ケズリ痕を残す。	加曾利B 1
244	154	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	加曾利B 2~3
244	155	深鉢	底部片	細砂粒少。良。褐色。	内外面丁寧な研磨・黒色処理・光沢。底面粗い研磨。底径4.1。残存高3.4。	加曾利B
244	156	深鉢	胴~底部	細砂粒多。良。にぶい褐色。	内面丁寧なナデ・粗い研磨。外面粗いナデ・粗い研磨。	後期
244	157	深鉢	胴部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨・光沢。残存高10.4。	加曾利B
245	158	深鉢	底部片	砂粒少。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨。底面に網代痕。底径11.0。残存高3.3。	後期
245	159	深鉢	底部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨・光沢。底面に網代痕。底径(8.4)。残存高4.1。	堀之内
245	160	深鉢	底部片	砂粒少。良。にぶい赤褐色。	内外面研磨。底面に網代痕。底径14.0。残存高5.1。	堀之内2
245	161	深鉢	底部片	砂粒少。普通。にぶい黄褐色。	内外面ナデ。底面に網代痕。底径5.8。残存高2.8。	後期
245	162	深鉢	底部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨・光沢。底面に網代痕。底径9.0。残存高4.0。	堀之内
245	163	深鉢	底部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。底面に網代痕。底径11.0。残存高6.0。	後期
245	164	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内1
245	165	鉢	胴~底部	砂粒多。良。暗褐色。	外面丁寧な研磨。内面ナデ。底面網代痕。底径6.4。残存高4.2。	加曾利B 2~3
245	166	鉢	底部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内面研磨。外面ナデ。底面に網代痕。底径8.4。残存高2.0。	堀之内2
245	167	鉢	底部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。底面に網代痕。底径8.0。残存高4.0。	堀之内
245	168	釣り手	把手部片	細砂粒多。良。にぶい黄褐色。	全面研磨。	堀之内2 ~加曾利B 1
245	169	土製円盤	ほぼ完形	砂粒やや多。普通。にぶい黄褐色。	調整良。側縁打ち欠き。最大径2.6。	後期
245	170	土製円盤	完形	砂粒多。良。灰黄褐色。	調整良。側縁打ち欠き後研磨。最大径3.1。	後期
245	171	土製円盤	完形	細砂粒多。良。にぶい黄褐色。	調整良。側縁打ち欠き後研磨。最大径2.8。	後期
245	172	土製円盤	完形	細砂粒多。良。褐色。	調整良。磨滅により調整不明。最大径3.0。	後期
245	173	土製円盤	完形	砂粒やや多。普通。明黄褐色。	調整良。側縁打ち欠き。最大径2.9。	後期
245	174	土製円盤	完形	細砂粒多。良。褐色。	調整良。側縁打ち欠き。最大径3.5。	後期
245	175	土製円盤	完形	砂粒やや多。良。にぶい黄褐色。	調整良。側縁打ち欠き後研磨。最大径3.8。	後期
245	176	土製円盤	完形	細砂粒多。良。褐色。	調整良。側縁打ち欠き。最大径4.1。	後期
245	177	土製円盤	完形	砂粒やや多。良。黒褐色。	調整良。側縁打ち欠き後研磨。最大径4.0。	後期

横壁中村遺跡 19区3号配石

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
280	1	深鉢	口縁部片	砂粒多、雲母多。良。にぶい赤褐色。	内面ナデ。	中期前半
280	2	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内面研磨。無節L縄文。	堀之内2
280	3	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。外面にナデを残す。	加曾利B 1

横壁中村遺跡 19区6号配石

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
280	1	深鉢	口縁~底部	細砂粒少。堅緻。黒褐色。	突起3単位。内外面研磨・黒色処理・光沢。底面に網代痕。単節L R縄文。口径15.8。底径6.4。高さ25.6。	加曾利B 2
280	2	深鉢	胴部片	砂粒少。良。黄褐色。	内外面研磨。	加曾利B
280	3	深鉢	胴部片	砂粒多。良。浅黄褐色。	内面ナデ。外面条線。	後期
280	4	深鉢	底部片	砂粒多。良。褐色。	内面研磨。外面劣化。底面に網代痕。底径6.0。残存高3.6。	後期
280	5	深鉢	底部片	砂粒少。良。褐色。	内外面研磨・光沢。底面に網代痕。底径5.0。残存高5.4。	後期
280	6	深鉢	口縁部片	砂粒、片岩少。良。にぶい赤褐色。	内外面粗い研磨。	勝坂1
280	7	深鉢	胴部片	砂粒少。良。明赤褐色。	内外面研磨。	勝坂1
280	8	鉢	口縁部片	砂粒少。良。灰黄褐色。	内外面研磨。単節L R縄文。波状口縁。	加曾利B
280	9	深鉢	口縁部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	勝坂1
280	10	深鉢	頸部片	砂粒多、雲母少。良。黒褐色。	内外面粗いナデ。	唐草文系
280	11	深鉢	胴部片	砂粒、片岩少。良。にぶい赤褐色。	内外面粗い研磨。	勝坂1

横壁中村遺跡 19区7号配石

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
282	1	深鉢	胴部片	砂粒やや多。良。赤褐色。	環状突起。内外面研磨。	勝坂2
282	2	鉢	口縁部片	砂粒、片岩少。良。明赤褐色。	内外面研磨。	中期
282	3	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内面粗い研磨。	勝坂1
282	4	深鉢	胴部片	砂粒多。良。赤褐色。	内面粗い研磨。	勝坂1
282	5	深鉢	胴部片	砂粒多、雲母多。良。赤褐色。	内面粗い研磨。	勝坂1
282	6	深鉢	胴部片	砂粒多、雲母多。良。暗赤褐色。	内面粗い研磨。	勝坂1

横壁中村遺跡 19区10号配石

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
283	1	深鉢	胴部片	砂粒多。良。明赤褐色。	内面ナデ。外面にケズリ痕を残す。	後期
283	2	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内面研磨。単節L R縄文。	堀之内2
283	3	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい褐色。	器面劣化により調整不明。	堀之内2

遺物観察表

横壁中村遺跡 19 区 11 号配石

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
282	1	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい赤褐色。	内面研磨。	加曾利 E 3
282	2	深鉢	胴部片	砂粒少。良。橙色。	内外面研磨。	後期
282	3	深鉢	胴部片	砂粒少。良。橙色。	内外面研磨。	後期
282	4	深鉢	底部片	砂粒多。普通。にぶい黄褐色。	内面粗い研磨。底面研磨。底径 4.8。	後期

横壁中村遺跡 19 区 12 号配石

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
282	1	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	加曾利 E 3
282	2	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。単節 R L 縄文。	加曾利 E 3
282	3	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	後期

横壁中村遺跡 19 区 14 号配石

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
283	1	深鉢	胴部片	砂粒少。良。明黄褐色。	内外面研磨。	堀之内 2
283	2	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	後期
283	3	鉢	底部片	砂粒少。良。橙色。	内外面粗い研磨。	後期

横壁中村遺跡 19 区 15 号配石

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
284	1	鉢	ほぼ完形	細砂粒少。良。赤褐色。	突起 4 単位。内外面丁寧な研磨。底面に網代痕。口径 22.0。底径 7.8。高さ 12.2。	堀之内 2
284	2	深鉢	胴部片	砂粒多、雲母多。良。にぶい赤褐色。	内面調整不明。縦位隆帯。	勝坂 2
284	3	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面研磨。	堀之内

横壁中村遺跡 19 区 16 号配石

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
284	1	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。	堀之内 2
284	2	鉢?	口縁部片	砂粒多、雲母含む。良。にぶい赤褐色。	内外面粗い研磨。	後期
284	3	深鉢	胴部片	砂粒多。良。黒褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内 2
284	4	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	後期
284	5	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内 2
284	6	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内 2
284	7	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	外面ケズリ痕を残す。	堀之内 2
284	8	注口	底部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。底面に網代痕。	堀之内 2
284	9	深鉢	胴部片	砂粒少。良。にぶい黄褐色。	内面ナデ。外面研磨。底径(7.6)。残存高 4.8。	後期
284	10	深鉢	胴部片	砂粒多。良。にぶい褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内 2

横壁中村遺跡 20 区 22 号配石

図版番号	遺物番号	種別器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm、( )は推定値)	時期・備考
284	1	深鉢	口縁部片	砂粒多。良。にぶい黄褐色。	内外面研磨。単節 L R 縄文。	堀之内 2

遺物観察表(石器)

横壁中村遺跡 19 区 3号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( )は残存値)				石材	備考
15	112	石鏃	70%	22.6	(16.1)	3.6	0.6	碧玉	凹基無茎。片脚欠損。被熱有り(ハジケ)。
15	113	削器	完形	74.0	43.0	12.0	33.8	黒色安山岩	横長の剥片を素材とし、2辺に加工・使用痕。
15	114	石棒	破片	(105.0)	70.0	60.0	654.5	緑色片岩	有頭石棒の頭部片。風化し脆弱。
15	115	砥石	破片	(27.5)	33.0	5.7	6.3	砂岩	表面平坦、裏面中央付近凹む。両縁辺は両刃状。上端は平坦。
15	116	砥石	破片	(33.5)	(27.5)	8.8	8.3	砂岩	表面平坦、裏面中央付近凹む。縁辺は平坦。
15	117	磨石	完形	118.5	78.1	62.5	928.2	粗粒輝石安山岩	表裏・1端にスリ面、両側面に弱いスリ面、1端に敲き痕。
15	118	磨石	完形	128.0	75.0	48.5	780.8	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面、両端に敲き痕。
15	119	磨石	完形	142.0	74.0	36.5	657.5	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面。
15	120	磨石	完形	136.0	67.0	60.0	763.5	粗粒輝石安山岩	3面にスリ面、1端に敲き痕。
15	126	石棒	50%	20.5	4.0	3.5	540.3	緑色片岩	側面全体に敲打痕残存。頂部自然面。下部折損後に一部調整。
16	121	磨石	完形	100.4	88.0	84.0	1072.4	粗粒輝石安山岩	帯状に全周スリ面、1端に敲き痕。
16	122	磨石	80%	116.0	(90.0)	51.0	761.4	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・弱い凹み、両端に敲き痕。
16	123	磨石	完形	100.6	80.7	62.0	722.0	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面、1端に敲き痕。
16	124	磨石	80%	(137.5)	106.5	61.5	1330.6	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面。
16	125	磨石	完形	190.2	165.3	84.0	4193.7	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・弱い凹み。

横壁中村遺跡 19 区 21号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( )は残存値)				石材	備考
23	42	石鏃	完形	22.0	16.0	6.0	1.3	黒色安山岩	凸基有茎。
23	43	石鏃	80%	26.5	(13.0)	3.5	0.8	碧玉	凹基無茎。片脚欠損。
23	44	石鏃	ほぼ完形	(12.5)	16.0	2.5	0.4	黒色安山岩	凹基無茎。先端部欠損。
23	45	石鏃	ほぼ完形	(17.5)	14.5	3.0	0.3	チャート	凹基無茎。先端部欠損。
24	46	ピエス	完形	23.2	16.5	6.6	2.3	黒曜石	縦長の剥片を素材。両端に剥離・潰れ痕。
24	47	打製石斧	完形	59.9	32.7	13.3	41.2	蛇紋岩	成形時の敲打痕を所々に残す。
24	48	石核	完形	85.5	101.0	53.5	584.3	黒色安山岩	円盤形。
24	49	打製石斧	80%	(92.5)	48.0	21.0	92.5	安山岩	撥形。基部欠損。
24	50	打製石斧	80%	(95.5)	57.0	25.0	166.1	粗粒輝石安山岩	撥形。基部欠損。
24	51	磨石	完形	216.0	75.0	56.5	1563.6	粗粒輝石安山岩	棒状。表裏スリ面。
24	52	磨石	完形	112.1	84.7	48.5	690.3	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・凹み。被熱有り(変色)。
25	53	磨石	完形	96.2	79.8	58.0	650.3	粗粒輝石安山岩	表裏強いスリ面、裏面弱い凹み。
25	54	磨石	完形	107.0	103.0	82.0	1261.5	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・凹み、両端に敲き痕。
25	55	凹石	完形	118.4	93.5	48.5	418.0	多孔質安山岩	表裏凹み。
25	56	磨石	完形	153.5	134.0	105.0	1355.2	多孔質安山岩	表面スリ面、表裏凹み。
26	57	磨石	完形	126.0	113.0	109.5	2226.5	粗粒輝石安山岩	自然の丸石を利用。表裏弱いスリ面。
26	58	丸石	完形	168.0	143.0	143.0	4960.0	石英閃緑岩	自然礫。
26	59	多孔石	完形	170.0	190.0	96.0	4655.0	粗粒輝石安山岩	偏平地山礫を利用し平坦面に凹み。被熱有り(変色・亀裂)。
26	60	台石	完形	153.5	187.0	83.5	3234.7	粗粒輝石安山岩	表裏弱いスリ面・凹み。

横壁中村遺跡 19 区 24号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( )は残存値)				石材	備考
29	11	石皿	破片	(129.4)	(101.2)	(70.8)	1165.1	粗粒輝石安山岩	縁付。

横壁中村遺跡 19 区 28号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( )は残存値)				石材	備考
36	32	石鏃	完形	15.6	13.3	3.8	0.5	黒曜石	凹基無茎。
36	33	石鏃	70%	15.8	(12.5)	4.3	0.6	黒曜石	凹基無茎。片脚欠損。
36	34	石鏃	ほぼ完形	(10.4)	10.7	2.2	0.2	碧玉	平基無茎。先端部欠損。
36	35	石鏃	90%	(26.0)	16.4	6.3	2.0	黒曜石	鏃部欠損。
36	36	ピエス	完形	24.5	22.5	11.6	5.8	黒曜石	方形の剥片を素材。両端に剥離。
36	37	打製石斧	完形	74.0	53.0	23.0	75.2	細粒輝石安山岩	撥形。断面湾曲。自然面を残す。
36	38	石製品(玉)	完形	40.7	27.2	15.4	33.1	ヒスイ	片側穿孔。所々に成形時打削痕を残す。
36	39	石製品(環状)	破片	22.5	(15.7)	(2.1)	0.6	粘板岩?	欠損により半環状。裏面は節理面による剥離。
36	40	磨石	ほぼ完形	130.0	91.0	59.0	1048.2	粗粒輝石安山岩	表面強いスリ面、裏面スリ面、両端に敲き痕。被熱有り(亀裂・変色・剥離)。
36	41	磨石	完形	135.0	72.0	20.0	309.5	安山岩	表裏スリ面・凹み。被熱有り(変色・亀裂)。
36	42	磨石	完形	128.0	95.0	60.0	600.9	多孔質安山岩	表面凹み、裏面スリ面。
37	43	磨石	完形	129.0	68.5	46.0	672.9	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・凹み、両端・1側面に敲き痕。
37	44	磨石	完形	109.5	85.0	50.0	744.8	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・凹み、両側面敲き痕。被熱有り(亀裂・変色)。
37	45	凹石	完形	175.5	84.5	56.0	990.2	粗粒輝石安山岩	表裏凹み、両端に敲き痕。被熱有り(亀裂)。
37	46	台石	50%	(193.0)	121.0	121.5	4460.0	粗粒輝石安山岩	2面にスリ面。
37	47	石皿	破片	(100.0)	(93.5)	(42.0)	373.1	多孔質安山岩	縁付。成形丁寧。裏面にもスリ面。
38	48	台石	60%	(230.0)	300.0	92.0	10100.0	粗粒輝石安山岩	偏平川原石の自然の凹部を利用しスリ面。被熱有り(亀裂)。
38	49	台石	90%	207.0	(176.0)	57.0	3130.0	粗粒輝石安山岩	偏平川原石を利用し、表面スリ面、裏面スリ面・凹み。

横壁中村遺跡 19 区 32号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( )は残存値)				石材	備考
44	26	石鏃	完形	14.9	12.6	2.9	0.5	黒曜石	凹基無茎。
44	27	打製石斧	50%	(58.0)	45.0	18.0	57.8	細粒輝石安山岩	短冊形。刃部欠損。
44	28	打製石斧	完形	98.0	51.0	10.0	110.1	細粒輝石安山岩	短冊形。裏面左刃部摩滅著しい。
44	29	打製石斧	50%	(60.0)	50.0	21.0	82.0	安山岩	短冊形。基部欠損。
44	30	磨石	完形	64.0	58.0	40.0	198.2	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面。
44	31	磨石	50%	(155.0)	84.0	70.5	1152.9	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面。被熱有り(亀裂)。
44	32	多孔石	完形	166.0	151.0	110.0	3960.0	粗粒輝石安山岩	地山礫を利用し表裏面に凹み。
45	33	多孔石	完形	231.0	143.0	121.0	5700.0	粗粒輝石安山岩	地山礫を利用し表裏面に凹み。
45	34	多孔石	完形	274.0	179.0	143.0	7000.0	粗粒輝石安山岩	地山礫の頂部を利用し、2辺に凹み。
45	35	多孔石	完形	227.0	180.0	131.0	9600.0	粗粒輝石安山岩	偏平な地山礫を利用し表裏面に凹み。

横壁中村遺跡 19 区 36号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( )は残存値)				石材	備考
47	2	磨石	完形	104.0	72.5	35.0	417.8	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面。1端・1側面に敲き痕。
47	3	凹石	完形	121.5	80.0	45.0	572.1	粗粒輝石安山岩	表裏凹み。

遺物観察表

横壁中村遺跡 19 区 54 号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)				石材	備考
51	10	石鏃	ほぼ完形	15.6	14.1	3.2	0.4	黒曜石	凹基無茎。

横壁中村遺跡 19 区 55 号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)				石材	備考
56	61	石鏃	ほぼ完形	16.0	(12.5)	3.0	0.4	黒曜石	平基無茎。片脚わずかに欠損。
56	62	石鏃	完形	25.0	18.0	6.0	1.8	黒曜石	平基無茎。
56	63	磨石	完形	116.5	96.0	51.5	736.3	多孔質安山岩	表裏スリ面・凹み、1 端・1 側面に敲き痕。
56	64	台石	完形	327.0	258.0	187.0	25000.0	石英閃緑岩	大型の丸石の表裏にスリ面。
56	65	凹石	完形	148.5	77.0	66.5	733.6	多孔質安山岩	3 面に凹み。

横壁中村遺跡 19 区 56 号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)				石材	備考
58	20	石鏃	完形	16.1	13.0	2.4	0.5	黒曜石	凹基無茎。
58	21	石鏃	80%	(23.4)	(12.7)	5.6	1.2	黒曜石	凹基無茎。先端部から片脚にかけ欠損。
58	22	砥石	破片	(47.5)	(31.0)	(11.0)	18.3	砂岩	上下欠損。断面レンズ状。
58	23	磨石	完形	119.0	62.0	40.0	441.9	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面、表面弱い凹み、両端・1 側面に敲き痕。

横壁中村遺跡 19 区 57 号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)				石材	備考
60	7	石鏃	80%	21.2	(16.0)	3.2	0.9	黒曜石	凹基無茎。片脚欠損。
60	8	削器	完形	20.0	23.7	7.5	3.5	黒曜石	横長の剥片を素材とし 3 辺に加工痕。

横壁中村遺跡 20 区 11 号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)				石材	備考
65	19	打製石斧	90%	(106.0)	52.0	13.0	84.5	安山岩	撥形。
65	20	削器	完形	68.0	167.0	14.0	117.9	黒色頁岩	横長の剥片を素材とし 2 辺に加工・使用痕。
66	22	磨石	完形	92.0	80.0	30.0	428.7	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面。
66	23	磨石	80%	(110.0)	96.0	51.0	638.9	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・凹み。
66	24	磨石	完形	158.0	60.0	59.0	777.7	粗粒輝石安山岩	棒状。4 面に弱いスリ面、1 面と 1 端に敲き痕。
66	25	磨石	完形	146.0	96.0	45.0	885.9	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・凹み。
66	26	磨石	ほぼ完形	152.0	90.0	38.0	789.3	石英閃緑岩	表裏スリ面。
66	27	多孔石	完形	258.0	185.0	94.0	3750.0	粗粒輝石安山岩	地山礫の平坦面を利用し、1 面に凹み。
67	28	多孔石	完形	365.0	155.0	105.0	7773.0	粗粒輝石安山岩	地山礫を利用し、2 面に凹み。
67	29	台石	完形	241.0	152.0	102.0	4410.0	粗粒輝石安山岩	偏平な地山礫を利用。1 面にスリ面。
67	30	台石	完形	235.0	236.0	100.0	8700.0	粗粒輝石安山岩	偏平な地山礫を利用。表面の一部にスリ面、表裏凹み。
67	31	台石	80%	218.0	(304.0)	135.0	13400.0	粗粒輝石安山岩	偏平な地山礫の自然の凹部を利用しスリ面。

横壁中村遺跡 20 区 19 号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)				石材	備考
69	1	多孔石	70%	225.0	(130.0)	98.0	3630.0	粗粒輝石安山岩	表裏に凹み、裏面スリ面。

横壁中村遺跡 20 区 40 号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)				石材	備考
74	31	石鏃	ほぼ完形	26.0	(16.5)	3.0	1.0	黒曜石	凹基無茎。片脚わずかに欠損。
74	32	加工痕	完形	41.0	29.0	11.0	15.5	チャート	両面に加工痕。
74	33	磨製石斧 (敲き石)	欠損転用品	37.0	51.0	16.0	45.6	蛇紋岩	磨製石斧刃部片。欠損後、敲き石に転用。
74	34	打製石斧	完形	116.0	46.0	20.0	87.1	黒色安山岩	撥形。
74	35	軽石製品	完形	80.0	63.0	20.0	30.9	軽石	表裏 2 面を平坦に研磨し板状とする。
75	36	軽石製品	ほぼ完形	92.0	69.0	38.0	81.2	軽石	表面中央部が緩く凹む。他は自然面か。
75	37	磨石	完形	193.0	171.0	70.0	3600.0	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面、裏面凹み。
75	38	磨石	完形	245.0	218.0	200.0	15200.0	石英閃緑岩	表裏スリ面。

横壁中村遺跡 20 区 47 号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)				石材	備考
89	50	石鏃	完形	23.0	19.0	7.5	2.7	黒色安山岩	凹基。一部欠損。
89	51	石鏃	完形	22.5	11.0	4.5	0.8	珪質変質岩	凹基無茎。
89	52	石鏃	ほぼ完形	(31.3)	6.9	6.5	1.1	黒曜石	錐部先端欠損。錐部の加工少なく、未製品の可能性有り。
89	53	削器	完形	68.0	85.0	19.0	123.2	黒色安山岩	やや横長の剥片を素材とし、2 辺に加工・使用痕。
89	54	石核	完形	52.0	63.0	27.0	118.2	黒色安山岩	円盤形。
89	55	石核	完形	77.5	79.5	39.0	233.0	黒色頁岩	円盤形。
89	56	打製石斧	完形	102.0	43.0	20.0	97.5	黒色頁岩	撥形。
89	57	打製石斧	80%	(145.0)	51.0	23.0	201.4	粗粒輝石安山岩	短冊形。刃部欠損。自然面、主要剥離面を多く残す。
89	58	磨製石斧 (敲き石)	欠損転用品	95.0	45.0	26.0	207.9	蛇紋岩	刃部欠損後に敲き石に転用。ほぼ全面に敲き痕。
90	59	磨石	90%	(43.0)	137.0	82.0	577.5	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・凹み。
90	60	磨石	完形	109.0	87.0	37.0	457.4	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面、表裏・1 側面に凹み。
90	61	磨石	完形	119.0	64.0	51.0	845.7	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面。
90	62	磨石	完形	117.0	66.0	45.0	489.9	粗粒輝石安山岩	表裏弱いスリ面、表裏・1 端に敲き痕。
90	63	磨石	完形	100.0	88.0	60.0	704.2	石英閃緑岩	表裏スリ面。
90	64	磨石	完形	123.0	61.0	43.0	563.8	粗粒輝石安山岩	表裏弱いスリ面、表裏・1 端に敲き痕。
90	65	磨石	完形	121.0	88.0	35.0	513.3	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・凹み。
90	66	磨石	完形	83.0	73.0	60.0	500.5	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面、側面全周に敲き痕。
91	67	磨石	ほぼ完形	103.0	(104.0)	51.0	830.8	石英閃緑岩	表裏スリ面。
91	68	磨石	完形	124.0	109.0	67.0	1304.5	粗粒輝石安山岩	表裏弱いスリ面。
91	69	磨石	完形	93.0	79.5	67.5	699.2	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面。
91	70	石皿	50%	(198.0)	223.0	106.0	5200.0	粗粒輝石安山岩	縁付。上半欠損。裏面にもスリ面。
91	71	石皿	50%	(207.0)	(208.0)	90.0	2370.0	多孔質安山岩	縁付。裏面を多孔石として利用。
92	72	磨石	完形	214.0	181.0	135.0	7600.0	石英閃緑岩	川原石の 2 面にスリ面。
92	73	多孔石	完形	153.0	137.0	155.0	4000.0	粗粒輝石安山岩	自然礫の平坦な面を利用し、1 面に凹み。
92	74	多孔石	ほぼ完形	236.0	149.0	116.0	4600.0	粗粒輝石安山岩	地山礫の平坦な面を利用し凹み。
92	75	凹石	完形	213.0	162.0	135.0	5600.0	粗粒輝石安山岩	1 面に凹み。
93	76	多孔石	完形	79.0	150.0	85.0	1278.7	粗粒輝石安山岩	小型。3 面に凹み。
93	77	台石	破片	(221.0)	144.5	132.5	6350.0	石英閃緑岩	礫の 2 面にスリ面。
93	78	多孔石	完形	163.0	138.0	123.0	2350.0	粗粒輝石安山岩	礫の全面に凹み。

遺物観察表

横壁中村遺跡 20 区 47 号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)				石材	備考
93	79	多孔石	完形	190.0	104.0	238.0	6100.0	粗粒輝石安山岩	地山礫の平坦な面を利用し 2 面に凹み。
94	80	多孔石	90%	262.0	(187.0)	129.0	8100.0	粗粒輝石安山岩	地山礫の平坦な面を利用し 2 面に凹み。
94	81	台石	50%	(163.0)	202.0	70.0	3740.0	粗粒輝石安山岩	川原石を利用。表面スリ面。
94	82	多孔石	完形	245.0	140.0	113.0	5050.0	粗粒輝石安山岩	地山礫の 1 辺に凹み。
94	83	台石	完形	400.0	310.0	60.0	12000.0	粗粒輝石安山岩	鉄平石の 2 面にスリ面。

横壁中村遺跡 20 区 52 号住居

100	37	石鏃	完形	16.5	12.5	2.5	0.4	黒曜石	凹基無茎。
100	38	石鏃	ほぼ完形	(15.0)	(13.0)	3.0	0.5	黒曜石	凹基無茎。両脚わずかに欠損。
100	39	石鏃	80%	21.5	(17.0)	4.0	1.0	黒曜石	平基無茎。片脚欠損。
100	40	石鏃	80%	21.0	(15.5)	4.0	0.8	黒曜石	凹基無茎。片脚欠損。
100	41	石鏃	80%	19.0	(12.5)	3.5	0.4	珩質変質岩	凹基無茎。片脚欠損。
100	42	石鏃	ほぼ完形	(23.7)	15.9	3.8	1.1	黒色安山岩	凹基無茎。先端部欠損。
100	43	石鏃	ほぼ完形	19.5	(13.5)	4.5	1.0	黒曜石	未製品の可能性あり。
100	44	石鏃	完形	22.0	18.5	6.5	1.8	黒曜石	石鏃の可能性もあり。
100	45	石鏃	完形	21.5	9.0	4.0	0.5	黒曜石	縦長剥片を利用し、鏃部作出。
100	46	打製石斧 (敲き石)	90%	(97.0)	(52.0)	25.0	127.4	粗粒輝石安山岩	内湾撥形。刃部欠損。
100	47	磨製石斧 (敲き石)	欠損転用品	68.0	43.0	23.0	113.4	蛇紋岩	成形・研磨丁寧。基部欠損後、破断部・側面を敲き石として転用。
100	48	磨石	完形	125.0	81.0	36.0	448.8	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・凹み、両端に敲き痕。被熱有り(亀裂)。
100	49	石棒	破片	(190.0)	(100.0)	70.0	1614.0	緑色片岩	胴部破片。
100	50	磨石	完形	111.0	96.0	60.0	910.0	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・凹み。
100	51	丸石	完形	126.0	116.0	114.0	2250.0	石英閃緑岩	自然礫。
101	52	多孔石	完形	276.0	225.0	132.0	9650.0	粗粒輝石安山岩	偏平地山礫の平坦面を利用し、表裏に凹み。
101	53	台石	完形	250.0	223.0	110.0	7600.0	粗粒輝石安山岩	偏平地山礫の 1 面にスリ面・凹み。
101	54	台石	90%	(264.0)	175.0	80.0	4800.0	粗粒輝石安山岩	偏平地山礫の表裏にスリ面・凹み。

横壁中村遺跡 20 区 61 号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)				石材	備考
102	6	磨製石斧 (敲き石)	完形	97.5	48.5	27.0	246.1	蛇紋岩	成形丁寧。刃部欠損後に敲き石に転用。
102	7	磨石	完形	47.0	46.0	33.0	94.8	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面、1 端に敲き痕。

横壁中村遺跡 20 区 70 号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)				石材	備考
109	20	石鏃	80%	21.0	(18.0)	3.0	0.8	黒曜石	凹基無茎。片脚欠損。
109	21	削器	完形	31.0	20.5	9.0	5.3	黒色安山岩	やや横長の剥片を素材とし、1 辺に使用痕。
109	22	石核	完形	27.0	17.5	15.0	6.0	黒曜石	小型。自然面を残す。
109	23	使用痕	完形	33.0	41.1	6.3	10.8	黒色安山岩	横長の剥片を素材とし、2 辺に加工・使用痕。
109	24	石棒	破片	(224.0)	(133.0)	127.0	4640.0	テイスサイト	石棒基部。被熱有り(変色)。被熱後に打ち欠き。意図的な破壊か。
109	25	石棒(多孔石)	50% (完形)	(439.0)	122.0	105.0	11000.0	緑色片岩	石棒基部。欠損後に破断面の調整有り。両面に凹み。
109	26	磨石	完形	112.5	76.0	37.5	470.3	細粒輝石安山岩	表裏スリ面。
110	27	磨石	完形	79.6	70.9	43.0	331.1	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・凹み、1 端に敲き痕。
110	28	磨石	70%	(89.0)	71.5	54.0	606.4	細粒安山岩	ほぼ全面スリ面、表裏面は特に強いスリ面。
110	29	磨石	完形	159.1	71.3	29.5	382.0	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・凹み。両端に敲き痕。
110	30	台石	完形	252.0	224.0	86.0	5745.0	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・凹み。
110	31	多孔石	完形	250.0	154.0	117.0	6600.0	粗粒輝石安山岩	地山礫の平坦面を利用し、表裏凹み。

横壁中村遺跡 20 区 71 号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)				石材	備考
117	33	石鏃	ほぼ完形	14.5	(10.5)	3.0	0.3	黒曜石	平基無茎。片脚欠損。
117	34	石鏃	完形	13.0	9.9	1.8	0.2	黒曜石	平基無茎。
117	35	石鏃	40%	(13.8)	(8.0)	4.2	0.4	黒曜石	脚部欠損。
117	36	石鏃	完形	28.9	9.7	3.8	1.0	黒色安山岩	加工丁寧。
117	37	石鏃	完形	31.9	8.1	3.6	0.8	チャート	加工丁寧。
117	38	石鏃	完形	16.3	4.4	3.5	0.3	黒曜石	短い棒状。
117	39	削器	完形	58.0	53.0	11.0	28.6	黒色頁岩	横長の剥片を素材とし、1 辺に加工・使用痕。
117	40	ピエス	完形	26.9	14.9	6.5	2.2	黒曜石	縦長の剥片を素材。両端に剥離・潰れ痕。
117	41	磨製石斧	80%	(70.0)	42.0	24.0	114.1	蛇紋岩	基部欠損。成形時の剥離跡が多く残る。
117	42	原石	完形	59.3	24.4	16.5	20.1	黒曜石	石核の可能性もあり。
117	43	打製石斧	完形	105.0	48.0	14.0	98.9	粗粒輝石安山岩	短冊形。
117	44	石棒	破片	(125.5)	(58.0)	(45.0)	447.5	緑色片岩	石棒胴部片。断面やや偏平。
117	45	石皿	破片	(176.0)	(115.0)	(67.5)	1077.0	多孔質安山岩	縁・脚付。成形丁寧。
117	46	石皿	40%	(150.0)	(230.0)	69.0	2166.9	粗粒輝石安山岩	縁付。
118	47	磨石	完形	125.0	85.0	40.0	321.9	多孔質安山岩	表面凹み、裏面スリ面・凹み。
118	48	磨石	完形	98.0	79.5	43.0	544.9	粗粒輝石安山岩	表裏強いスリ面・凹み。被熱有り(変色)。
118	49	多孔石	完形	220.0	160.0	105.0	4740.0	粗粒輝石安山岩	地山礫の平坦面を利用し、1 面に凹み。
118	50	多孔石	90%	245.0	(242.0)	149.0	9100.0	粗粒輝石安山岩	地山礫を利用し、表裏凹み。
119	51	台石	完形	351.0	191.0	145.0	15800.0	石英閃緑岩	川原石を利用し、表裏スリ面。
119	52	台石	80%	(504.0)	(400.0)	178.0	44280.0	粗粒輝石安山岩	偏平地山礫を利用し、1 面にスリ面。
120	53	台石	完形	584.0	410.0	186.0	48920.0	粗粒輝石安山岩	偏平川原石の自然の凹部を利用し、スリ面。
120	54	台石	完形	520.0	336.0	116.0	34760.0	粗粒輝石安山岩	偏平地山礫を利用し、表面と 1 側面にスリ面。
120	55	台石	完形	520.0	242.0	132.0	24200.0	粗粒輝石安山岩	地山礫の 1 面にスリ面。

横壁中村遺跡 20 区 75 号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)				石材	備考
123	16	打製石斧	80%	(98.5)	55.0	20.0	113.9	粗粒輝石安山岩	撥形。裏面に自然面を残し、細かい線状擦過痕あり。
123	17	磨製石斧 (敲き石)	70%	(90.5)	50.0	28.5	209.0	蛇紋岩	成形・研磨丁寧。基部欠損。
123	18	磨製石斧 (敲き石)	欠損転用品	57.5	41.0	23.0	94.5	蛇紋岩	刃部に敲き痕。刃部摩滅後、敲き石として転用か。
124	19	磨石	完形	119.0	64.0	53.0	583.1	粗粒輝石安山岩	表裏・両側面の 4 面にスリ面。
124	20	磨石	ほぼ完形	109.5	75.5	54.5	656.1	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・凹み、1 端・両側面敲き痕。
124	21	台石	60%	(273.0)	269.0	83.0	11300.0	粗粒輝石安山岩	偏平川原石を利用し、1 面にスリ面。
124	22	台石	破片	(154.0)	(142.0)	29.5	784.2	粗粒輝石安山岩	表面強いスリ面。裏面被熱有り(変色)。
124	23	台石	破片	(320.0)	(252.0)	40.0	5100.0	粗粒輝石安山岩	鉄平石の表面全面スリ面。表面のみ被熱(変色・ハジケ)。

遺物観察表

横壁中村遺跡 20 区 77 号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)				石材	備考
128	30	打製石斧	完形	112.0	56.0	24.0	170.2	粗粒輝石安山岩	短冊形。刃部に明確な使用擦過痕なし。
128	31	磨製石斧	80%	(106.0)	(52.0)	21.0	199.6	蛇紋岩	刃部欠損。成形・研磨丁寧。
129	32	磨石	完形	93.0	53.5	26.5	228.5	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・弱い凹み、1 端に敲き痕。
129	33	磨石	完形	82.5	61.5	29.0	273.5	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面。被熱有り(変色)。
129	34	磨石	完形	156.0	69.0	31.0	634.1	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面、表面弱い凹み。
129	35	磨石	完形	109.5	75.0	48.5	634.6	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・凹み、両端に敲き痕。
129	36	磨石	完形	181.5	151.5	50.0	2290.0	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面。
130	37	磨石	90%	(123.0)	52.0	30.0	285.7	テイスサイト	表裏スリ面・凹み、両端に敲き痕。被熱有り(亀裂)。
130	38	多孔石	完形	176.5	126.5	75.0	1800.0	粗粒輝石安山岩	表裏凹み。
130	39	石皿	破片	(172.0)	(128.0)	87.5	2120.0	粗粒輝石安山岩	被熱有り(亀裂・変色)。
130	40	多孔石	完形	195.0	176.0	131.0	4990.0	粗粒輝石安山岩	地山礫の平坦面を利用し凹み。
130	41	台石	完形	376.0	272.0	218.0	19980.0	粗粒輝石安山岩	地山礫の自然の凹部を利用し、表裏スリ面。

横壁中村遺跡 20 区 81 号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)				石材	備考
135	19	石鏃	90%	(24.8)	(14.9)	3.6	0.9	黒曜石	凹基無茎。両脚欠損。
135	20	石鏃	80%	(29.9)	(21.6)	4.1	2.1	黒色安山岩	凹基無茎。先端部・片脚欠損。
135	21	石鏃未製品	完形	20.9	18.5	5.1	2.1	黒曜石	両面に二次加工有り。
135	22	石鏃未製品	完形	26.1	19.0	4.8	2.3	黒曜石	両面に二次加工有り。
135	23	打製石斧	完形	152.0	98.0	30.0	338.3	細粒輝石安山岩	内湾撥形。刃部摩滅少ない。
135	24	磨石	完形	142.0	88.5	35.0	689.5	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・凹み。被熱有り(変色)。
135	25	軽石製品	完形	58.7	46.1	11.3	14.2	軽石	長方形・板状に成形。孔は人為的なものではない。
135	26	磨石	完形	225.0	67.0	48.5	1050.0	粗粒輝石安山岩	表面スリ面、両端に敲き痕。
135	27	石棒	基部片	(262.0)	129.0	114.0	5720.0	テイスサイト	石棒基部。上半は意図的に打ち欠きか。被熱有り(変色)。
135	28	多孔石	完形	187.5	131.5	80.5	1850.0	粗粒輝石安山岩	表面のみ凹み。

横壁中村遺跡 20 区 82 号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)				石材	備考
144	47	石核	完形	59.5	67.0	65.0	285.6	珪質変質岩	打面転位多い。
144	48	打製石斧	70%	(86.0)	44.0	16.0	79.0	細粒輝石安山岩	短冊形。
144	49	磨石	完形	84.5	82.0	38.0	417.4	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面。
144	50	磨石	ほぼ完形	97.5	86.5	60.0	742.0	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面、裏面凹み。被熱有り(亀裂・変色)。
144	51	磨石	完形	128.5	105.0	57.0	1166.4	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面、両端に敲き痕。
144	52	丸石	完形	111.0	88.5	73.0	1203.8	石英閃緑岩	自然礫。表面風化著しい。
144	53	丸石	完形	102.0	102.0	88.0	1080.8	石英閃緑岩	自然礫。表面風化著しい。
145	54	石皿	完形	438.5	246.0	104.0	15260.0	粗粒輝石安山岩	縁付。成形丁寧。
145	55	台石	破片	(170.0)	(275.0)	46.0	2730.0	粗粒輝石安山岩	表面スリ面。被熱有り(変色)。
145	56	台石	破片	(256.0)	(237.0)	40.0	3080.0	粗粒輝石安山岩	表面スリ面。側面を打ち欠き円形に加工か?。被熱有り(変色)。

横壁中村遺跡 20 区 95 号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)				石材	備考
152	52	石鏃	80%	24.3	(14.6)	2.7	0.6	黒曜石	凹基無茎。片脚欠損。
152	53	石鏃	80%	(26.0)	(12.4)	2.7	0.4	黒色安山岩	凹基無茎。片脚欠損。
152	54	石鏃	ほぼ完形	14.1	(12.5)	4.1	0.5	黒曜石	凹基無茎。片脚わずかに欠損。
152	55	石鏃	ほぼ完形	17.5	9.1	3.7	0.5	黒曜石	石鏃の可能性もあり。
153	56	磨製石斧 (敲き石)	欠損転用品	119.0	49.0	29.0	300.6	蛇紋岩	刃部摩滅著しい。摩滅後、敲き石として転用。
153	57	磨石	60%	99.0	71.5	(28.0)	288.1	粗粒輝石安山岩	表面スリ面・凹み、両側面スリ面。
153	58	磨石	完形	101.5	78.0	78.0	851.1	粗粒輝石安山岩	表面スリ面、上下・側面に敲き痕。
153	59	磨石	完形	82.5	52.0	50.0	326.2	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面、1 端に敲き痕。
153	60	磨石	完形	75.0	71.5	76.0	607.0	粗粒輝石安山岩	表面・1 側面スリ面、側面・1 端に敲き痕。
153	61	磨石	完形	146.0	82.0	39.0	794.7	粗粒輝石安山岩	長方形。表裏・両側面スリ面。
153	62	石皿	破片	(154.0)	(114.0)	59.5	1325.0	粗粒輝石安山岩	不定形。表面皿状に凹みスリ面、裏面スリ面・弱い凹み。
153	63	石皿	40%	(128.0)	178.0	63.0	2320.0	粗粒輝石安山岩	低い縁付。スリ面の摩耗弱い。

横壁中村遺跡 20 区 98 号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)				石材	備考
155	13	石鏃	完形	28.9	16.2	2.4	0.9	黒曜石	凹基無茎。
155	14	打製石斧	60%	(78.0)	51.0	22.0	95.3	粗粒輝石安山岩	撥形。刃部摩滅度に差あり。刃部再生か。
155	15	磨石	完形	99.5	79.5	22.0	266.3	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面。被熱有り(亀裂)。
155	16	石皿	40%	(190.0)	(177.0)	(57.0)	2550.0	粗粒輝石安山岩	縁付。裏面を平坦に成形。

横壁中村遺跡 20 区 109 号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)				石材	備考
160	12	台石	50%	(219.0)	135.0	133.0	6200.0	粗粒輝石安山岩	川原石。1 面にスリ面、全周に凹み。
160	13	磨石	ほぼ完形	102.0	86.0	53.5	625.0	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面、凹み。被熱有り(亀裂・変色)。

横壁中村遺跡 20 区 114 号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)				石材	備考
164	4	磨石	90%	(140.0)	66.0	33.0	443.6	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・凹み、両端に敲き痕。被熱有り(亀裂)。

横壁中村遺跡 29 区 23 号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)				石材	備考
167	12	打製石斧	完形	110.0	49.0	13.0	77.0	細粒輝石安山岩	撥形。刃部摩滅著しい。
167	13	石棒	50%	(155.0)	31.0	26.0	226.1	粘板岩	下半欠損。成形・研磨丁寧。頭部平坦。
167	14	磨石	完形	142.0	96.5	54.5	1047.0	粗粒輝石安山岩	表面スリ面、表面弱いスリ面。

横壁中村遺跡 30 区 33 号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)				石材	備考
181	222	石鏃	完形	11.5	8.5	3.0	0.3	黒曜石	凹基無茎。
181	223	石鏃	70%	(9.0)	12.0	4.0	0.3	黒曜石	凹基無茎。先端部欠損。
181	224	石鏃	90%	10.0	(15.0)	4.0	0.5	碧玉	凹基無茎。片脚欠損。
181	225	石鏃	完形	16.0	13.0	4.0	0.6	チャート	凹基。

遺物観察表

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)			石材	備考	
181	226	石錘	完形	32.7	16.2	10.1	3.9	黒曜石	短い錘部作出。
181	227	使用痕	完形	22.0	15.0	6.0	1.7	珩質変質岩	縦長剥片の2辺に微小剥離痕。
181	228	ビエス	完形	20.0	17.0	7.0	2.8	珩質変質岩	方形の剥片を素材。周囲に剥離。
181	229	打製石斧	80%	(117.0)	53.0	34.0	387.1	紫蘇輝石普通輝石安山岩	撥形。刃部欠損。
181	230	磨製石斧	30%	(40.0)	44.0	20.0	46.5	蛇紋岩	基部欠損。両側面に敲打痕残存。
181	231	磨製石斧(敲き石)	欠損転用品	87.0	48.0	25.0	228.0	蛇紋岩	全周に敲き痕。刃部摩滅後に敲き石に転用。
181	232	磨製石斧(敲き石)	欠損転用品	102.0	59.0	28.0	221.3	蛇紋岩	刃部欠損後に敲き石に転用。ほぼ全面に敲き痕。
182	233	軽石製品	ほぼ完形	70.0	48.0	15.5	9.6	軽石	板状、長方形に成形。
182	234	軽石製品	破片	(46.5)	(47.0)	16.0	6.0	軽石	板状に成形。平面形状は欠損により不明。
182	235	敲き石	完形	93.0	28.0	23.0	106.4	蛇紋岩	小型棒状。両端に敲き痕。
182	236	磨石	完形	68.0	69.0	50.0	331.6	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面、1端・1側面に敲き痕。
182	237	磨石	完形	108.0	81.0	71.0	736.6	粗粒輝石安山岩	4面にスリ面、表裏に凹み。
182	238	磨石	完形	106.0	106.0	76.0	1027.8	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面、両端に敲き痕。
182	239	磨石	完形	108.0	106.0	50.0	842.5	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面、1端に敲き痕。
183	240	磨石	完形	126.0	102.0	40.0	751.2	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面。
183	241	磨石	完形	144.0	78.0	36.0	591.4	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・凹み、1端に敲き痕。
183	242	磨石	完形	122.0	87.0	50.0	727.9	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・凹み。
183	243	磨石	完形	84.0	68.0	57.0	445.9	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面、表面凹み、1端に敲き痕。
183	244	磨石	完形	90.0	93.0	33.0	349.5	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面、1端・1側面に敲き痕。
183	245	磨石	完形	104.0	50.0	44.0	365.3	粗粒輝石安山岩	棒状。4面にスリ面、1面に凹み、1端に敲き痕。
183	246	磨石	完形	92.0	57.0	52.0	347.4	粗粒輝石安山岩	表のスリ面、表面弱い凹み、1端に敲き痕。
183	247	磨石	完形	123.0	84.0	52.0	650.5	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・凹み、1側面に敲き痕。

横壁中村遺30区 34号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)			石材	備考	
187	38	石鏃	80%	(13.5)	15.5	3.0	0.6	黒曜石	凹基無茎。先端部欠損。
187	39	石棒	破片	(48.5)	36.0	31.0	67.1	粘板岩	石棒胴部片。成形・研磨丁寧。
187	40	磨石	完形	87.8	64.2	46.5	378.8	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面、表裏弱い凹み、両端に敲き痕。
187	41	磨石	完形	133.6	112.7	44.0	1006.6	粗粒輝石安山岩	表面スリ面(一部強いスリ面)、裏面弱い凹み。
187	42	磨石	完形	123.3	98.8	64.0	671.0	デイスaito	表面スリ面・凹み、裏面弱いスリ面。被熱有り(変色)。
187	43	多孔石	完形	193.0	246.0	100.0	5548.7	粗粒輝石安山岩	偏平地山礫の平坦部を利用し、2面に凹み。

横壁中村遺30区 35号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)			石材	備考	
198	221	磨製石斧(敲き石)	欠損転用品	74.1	52.2	24.5	162.0	蛇紋岩	刃部・基部に敲き痕。刃部摩滅後敲き石に転用か。
198	222	砥石	破片	(76.0)	(50.0)	11.5	43.6	砂岩	表裏はほぼ平滑。縁辺は断面三角形に調整。
198	223	磨石	完形	111.4	42.9	29.0	209.1	安山岩	表裏弱いスリ面、両端に敲き痕。
198	224	砥石	破片	(172.0)	(127.0)	22.5	341.3	砂岩	表裏スリ面、極浅い溝状の研磨痕。側面は自然面。

横壁中村遺30区 36号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)			石材	備考	
207	186	砥石	ほぼ完形	31.0	33.0	14.0	13.6	砂岩	上下切断面も研磨。表裏に幅4mmほどの溝状研磨痕あり。
207	187	石鏃	完形	14.0	13.5	3.0	0.7	黒色安山岩	凹基無茎。
207	188	石鏃	完形	15.5	13.0	4.5	0.6	碧玉	凹基無茎。
207	189	石鏃	完形	10.5	11.5	2.5	0.3	黒曜石	凹基無茎。
207	190	石鏃	ほぼ完形	13.0	(11.0)	3.0	0.4	碧玉	凹基無茎。片脚わずかに欠損。
207	191	石鏃	完形	19.0	11.0	3.5	0.6	黒曜石	凸基有茎。
207	192	石鏃	完形	23.0	15.0	4.5	0.8	珩質変質岩	凸基有茎。
207	193	石鏃	完形	32.0	17.0	6.5	2.2	珩質変質岩	凸基有茎。
207	194	石鏃	完形	26.5	15.5	6.0	1.4	珩質変質岩	凸基有茎。
207	195	石鏃	80%	(25.5)	50.0	5.5	2.3	珩質変質岩	凸基有茎。先端部欠損。
207	196	石鏃	80%	(17.0)	14.5	4.0	0.9	珩質変質岩	凸基有茎。先端部・基部欠損。
207	197	石鏃	完形	31.5	15.0	7.0	1.9	珩質変質岩	石鏃の可能性もあり。
207	198	石錘	完形	44.0	18.5	9.0	3.8	珩質岩	両側面からの丁寧な剥離により錘部作出。
207	199	ビエス	完形	18.2	14.9	10.1	3.5	珩化木?	方形。両端からの剥離。
207	200	石棒	破片	(102.5)	35.0	(18.5)	91.9	黒色片岩	石棒基部あるいは無頭石棒の頭部片。
208	201	磨石	完形	102.0	65.4	49.0	500.2	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・凹み、上下・両側面に敲き痕。
208	202	磨石	完形	90.0	66.0	40.0	334.6	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・凹み、1端に敲き痕。
208	203	磨石	完形	138.3	73.7	49.0	702.7	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・凹み。
208	204	磨石	完形	158.0	84.0	42.0	758.3	安山岩	表面スリ面。
208	205	磨石	完形	113.0	81.3	64.0	870.7	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面、裏面凹み。
209	206	磨石	完形	72.3	59.5	51.5	315.5	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面、表面弱い凹み。
209	207	磨石	完形	84.3	60.5	48.0	353.4	安山岩	表裏・側面スリ面、両端に敲き痕。
209	208	磨石	完形	111.5	62.0	62.0	709.2	粗粒輝石安山岩	表面・1側面スリ面。
209	209	磨石	完形	85.5	62.5	55.0	418.8	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面。
209	210	磨石	完形	77.8	68.7	57.0	420.0	粗粒輝石安山岩	表面弱い凹み、裏面スリ面。
209	211	石皿	破片	(181.5)	(129.0)	75.0	1169.7	粗粒輝石安山岩	縁付。中央部摩耗し薄くなる。
209	212	石皿	50%	(258.0)	245.0	96.5	2905.3	粗粒輝石安山岩	縁、脚付。成形丁寧。

横壁中村遺30区 38号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)			石材	備考	
221	123	石鏃	90%	22.0	(15.0)	3.0	0.9	黒色安山岩	凹基無茎。片脚欠損。
221	124	石鏃	90%	(17.0)	16.0	4.0	0.8	珩質変質岩	凹基無茎。先端部欠損。
221	125	磨石	80%	(99.0)	60.5	51.5	414.3	粗粒輝石安山岩	表裏弱いスリ面、表裏強い凹み、両側面に凹み。
221	126	磨石	完形	110.9	87.8	55.5	844.4	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・凹み。被熱あり(亀裂)。
221	127	磨石	完形	110.5	94.5	57.0	934.1	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面・凹み。
222	128	磨石	完形	94.5	85.0	30.0	337.1	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面、表裏弱い凹み。
222	129	磨石	70%	(109.5)	72.0	38.5	407.8	デイスaito?	裏面スリ面、表裏凹み。被熱有り(亀裂)。
222	130	磨石	完形	244.0	200.0	132.0	9100.0	粗粒輝石安山岩	やや大型。表裏スリ面・凹み、裏面凹み。
222	131	石皿	完形	178.5	144.5	85.5	2501.0	粗粒輝石安山岩	裏面を多孔石として利用。
222	132	砥石	完形	108.0	72.0	15.5	142.9	砂岩	表裏はほぼ平滑。側面に細い溝状のキズあり。

遺物観察表

横壁中村遺 20 区 4 号列石

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( ) は残存値)				石材	備考
246	178	石鏃	完形	11.6	6.9	1.7	0.1	黒曜石	平基無茎。小型。
246	179	石鏃	90%	(13.9)	9.2	1.8	0.2	黒曜石	凹基無茎。小型。先端部欠損。
246	180	石鏃	80%	(17.2)	(14.6)	3.8	0.5	黒曜石	凹基無茎。片脚欠損。縁辺鋸歯状。
246	181	石鏃	完形	18.2	11.6	3.2	0.5	黒曜石	凹基無茎。
246	182	石鏃	ほぼ完形	19.1	(14.5)	3.2	0.7	珧質変質岩	凹基無茎。片脚わずかに欠損。
246	183	石鏃	ほぼ完形	(21.9)	13.8	3.2	0.9	凝灰岩	凹基無茎。先端部わずかに欠損。
246	184	石鏃	完形	28.4	17.9	6.7	3.0	珧質変質岩	平基無茎。未製品の可能性もあり。
246	185	石鏃	90%	(18.0)	19.5	5.4	1.1	珧質変質岩	平基無茎。先端部欠損。
246	186	削器	80%	(56.0)	29.0	7.0	14.3	珧質頁岩	縦長の剥片を素材とし、2 辺に加工・使用痕。
246	187	加工痕	完形	78.5	46.0	15.5	38.4	珧質変質岩	両面に二次加工。
246	188	加工痕	完形	15.0	12.5	5.0	0.9	黒曜石	両面に二次加工。
246	189	接合資料	—	—	—	—	288.8	碧玉	石核 190 と剥片 191 の接合資料。
246	190	石核	完形	78.0	84.0	41.0	270.1	碧玉	191 と接合
246	191	剥片	完形	38.0	48.0	14.0	18.7	碧玉	190 と接合
246	192	打製石斧	完形	116.1	93.7	27.7	250.5	黒色安山岩	未製品か。刃部摩滅無し。
246	193	打製石斧	80%	(92.9)	50.4	16.5	90.4	黒色安山岩	内湾撥形。基部欠損。
246	194	打製石斧	完形	134.7	52.0	24.3	207.2	安山岩	短冊形。
247	195	打製石斧	完形	96.2	41.6	16.9	87.0	安山岩	短冊形。
247	196	打製石斧	完形	95.8	42.2	14.3	71.9	黒色頁岩	内湾短冊形(抉り状)。刃部摩滅著しい。
247	197	打製石斧	完形	110.6	56.3	18.7	120.1	黒色安山岩	内湾撥形。
247	198	打製石斧	完形	111.7	38.0	15.1	86.0	黒色安山岩	短冊形。
247	199	磨製石斧	ほぼ完形	(135.0)	66.0	32.0	453.4	蛇紋岩	全面風化著しい。研磨面ほとんど残らず。
247	200	磨製石斧	70%	(86.0)	57.0	29.0	239.3	蛇紋岩	刃部・基部欠損。成形・研磨丁寧。刃部欠損後にも使用痕あり。
247	201	磨製石斧	破片	(16.0)	(46.0)	12.0	11.6	蛇紋岩	刃部片。研磨丁寧。先端の摩滅微弱。
247	202	磨製石斧	完形	150.0	61.0	38.0	721.1	蛇紋岩	刃部欠損後に再敲打し粗く研磨。基部に筋状の擦痕があり、着柄痕の可能性有り。
247	203	石棒	破片	(305.0)	(148.0)	(66.0)	3750.0	黒色頁岩	意図的な破壊か。被熱有り(変色・ハジケ)。19区6号配石15、10号配石5と同一個体。
248	204	石棒(砥石)	50%(完形)	(439.0)	153.0	145.0	15900.0	緑色片岩	溝状・円弧状の研ぎ面有り。欠損後砥石として利用か。一部に凹み有り。
248	205	石棒	破片	(114.0)	40.0	31.0	206.2	黒色片岩	細形石棒。頭・基部欠損。一側辺弱い稜状。
248	206	石棒	破片	(55.0)	23.0	25.0	65.7	緑泥片岩	細形石棒基部付近。敲打成形後研磨。敲打痕研ぎ残り有り。
248	207	石棒	破片	(114.0)	20.0	26.0	101.4	緑色片岩	細形石棒。頭部。弱く湾曲。裏面は平坦に研磨。208と同一個体。
248	208	石棒	破片	(51.0)	21.0	27.0	45.1	緑色片岩	細形石棒。基部。207と同一個体。
249	209	石棒	40%	(285.0)	133.0	110.0	6900.0	粗粒輝石安山岩	未欠損品か。全面に敲打痕が残る。頭部径133mm。胴部径130mm。
249	210	石棒(砥石)	破片(完形)	(262.0)	135.0	135.0	7900.0	デイサイト	石棒基部。上下折損。中央部に浅い筋状の研ぎ面有り。砥石あるいは台石として転用か。被熱有り(変色)。
249	211	石冠	ほぼ完形	88.0	37.0	77.0	256.2	デイサイト	成形・研磨丁寧。被熱後に底面を斜めに再研磨(擦痕明瞭)。被熱有り(変色・亀裂・ハジケ)。
250	212	軽石製品	80%	(75.0)	51.0	(31.0)	20.9	軽石	やや端に寄った箇所に径2cmほどの凹みを形成。表面は擦っている可能性もあるが判然としない。
250	213	軽石製品	70%	100.0	(50.5)	40.0	45.9	軽石	中央を大きく凹ませる。上面は擦っている可能性もあるが判然としない。他面は自然面。
250	214	軽石製品?	完形	76.0	65.5	25.0	88.9	粗粒輝石安山岩	扁平な軽石。加工の有無不明。
250	215	軽石製品?	完形	81.0	67.0	62.0	180.5	多孔質安山岩	球形の軽石。加工の有無不明。
250	216	軽石製品?	完形	123.0	76.0	79.0	540.0	粗粒輝石安山岩	表面の上端寄りに凹み、側面に稜をもつスリ面。
250	217	磨石	完形	85.0	76.0	50.0	447.0	粗粒輝石安山岩	表裏弱いスリ面、両端に敲き痕。
250	218	磨石	50%	(74.0)	78.0	63.0	593.0	粗粒輝石安山岩	表面スリ面、表面凹み。
251	219	磨石	90%	(105.0)	97.0	57.0	867.0	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面。
251	220	磨石	完形	89.0	63.0	44.0	374.0	粗粒輝石安山岩	表面弱いスリ面、両端に敲き痕。
251	221	磨石	完形	81.0	76.0	51.0	394.5	粗粒輝石安山岩	全面風化著しい。表裏スリ面(不明瞭)、表裏凹み。
251	222	磨石	完形	127.0	78.0	35.0	622.4	石英閃緑岩	表裏スリ面。
251	223	磨石	ほぼ完形	125.0	93.0	58.0	1118.5	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面。被熱有り(変色・ハジケ)。
251	224	磨石	ほぼ完形	(117.0)	(78.0)	30.0	313.9	安山岩	表面強いスリ面、表裏凹み。被熱有り(亀裂・剝離)。
251	225	磨石	完形	128.0	89.0	54.0	943.3	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面(表面は両端付近にもスリ面)、表面微弱な凹み、両端に敲き痕。
252	226	磨石	破片	(82.0)	(76.0)	73.0	535.3	粗粒輝石安山岩	表裏に強いスリ面。被熱有り(変色・割れ)。
252	227	磨石	完形	125.0	61.0	35.0	433.0	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面、表裏弱い凹み、1 端に敲き痕(剝離を伴う)。被熱有り(亀裂)。
252	228	磨石	80%	(112.0)	(93.0)	43.0	624.8	粗粒輝石安山岩	表裏強いスリ面、表面凹み。被熱有り(亀裂・割れ)。
252	229	磨石	完形	129.0	97.0	48.0	632.7	粗粒輝石安山岩	多孔質。表面弱いスリ面(図中央部は自然面)。
252	230	磨石	完形	124.0	96.0	72.0	1209.2	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面。被熱有り(変色)。
252	231	磨石	完形	101.0	86.0	70.0	965.9	粗粒輝石安山岩	表裏スリ面。
252	232	磨石	完形	152.0	75.5	34.0	650.0	粗粒輝石安山岩	表面・両端にスリ面。被熱有り(変色)。
253	233	磨石	完形	107.0	90.0	59.0	908.8	粗粒輝石安山岩	全面風化著しい。表裏強いスリ面(一部残存)、表裏凹み。敲き痕は風化により不明。被熱有り(亀裂)。
253	234	磨石	完形	100.0	65.0	50.0	425.5	粗粒輝石安山岩	表裏弱いスリ面(弱い面界線を伴う)。被熱有り(変色)。
253	235	磨石	完形	96.0	76.0	53.0	597.3	粗粒輝石安山岩	表面弱いスリ面、裏面弱い凹み。
253	236	磨石	完形	80.0	74.0	62.0	507.8	粗粒輝石安山岩	表面弱いスリ面、両端に敲き痕。
253	237	磨石	ほぼ完形	(85.0)	76.0	46.0	462.2	石英閃緑岩	全面風化著しい。表裏スリ面(不明瞭)、表裏強い凹み。敲き痕は風化により不明。
253	238	磨石	完形	124.0	94.0	80.0	1330.0	粗粒輝石安山岩	表面スリ面、両端に敲き痕。
253	239	磨石	完形	91.0	67.0	49.0	432.8	粗粒輝石安山岩	表裏強いスリ面、両端・1 側面に敲き痕。被熱有り(変色)。
253	240	凹石	完形	153.0	71.0	36.0	568.1	粗粒輝石安山岩	表裏凹み、1 端に敲き痕、端部の一部にスリ面。
254	241	磨石	破片	(122.0)	86.0	60.0	1018.8	粗粒輝石安山岩	表面弱いスリ面。
254	242	磨石	完形	219.0	70.0	56.0	1244.8	粗粒輝石安山岩	4 面スリ面、1 面に微弱な凹み、1 端に敲き痕。被熱有り(変色)。
254	243	磨石	完形	315.0	242.0	182.0	20900.0	粗粒輝石安山岩	大型。表裏スリ面。
255	244	凹石	90%	106.0	(78.0)	41.0	439.6	粗粒輝石安山岩	表裏凹み。
255	245	凹石	完形	104.0	70.0	40.0	430.8	粗粒輝石安山岩	表裏弱い凹み。
255	246	凹石	完形	105.0	94.0	61.0	833.4	粗粒輝石安山岩	表裏凹み。
255	247	凹石	完形	123.0	67.0	35.0	436.0	粗粒輝石安山岩	表裏凹み、両端に敲き痕。
255	248	凹石	完形	181.0	159.0	125.0	5250.0	粗粒輝石安山岩	表裏凹み。
255	249	敲き石	完形	132.0	79.0	60.0	881.3	粗粒輝石安山岩	両端に敲き痕(1 端は剝離を伴う)。
255	250	砥石(石製品?)	完形	94.0	63.0	14.0	86.8	砂岩	裏面一部に自然面。意図的に形を整えている可能性有り。
256	251	石皿	50%	(230.0)	263.0	108.0	10500.0	粗粒輝石安山岩	縁付。側面成形弱い。
256	252	石皿	破片	(98.0)	(76.0)	(60.0)	396.4	粗粒輝石安山岩	意図的な破壊か。
256	253	石皿	破片	(87.0)	(99.0)	81.0	1255.0	粗粒輝石安山岩	縁付。裏面にもスリ面有り。被熱有り(変色)。
256	254	石皿	破片	(158.0)	(140.0)	67.0	2010.0	粗粒輝石安山岩	裏面に凹み。被熱有り(変色・亀裂)。
256	255	多孔石	完形	161.0	161.0	76.0	2070.0	粗粒輝石安山岩	表面に凹み。被熱有り(亀裂)。
257	256	多孔石	完形	205.0	124.0	61.0	1883.0	粗粒輝石安山岩	表裏凹み。

遺物観察表

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( )は残存値)				石材	備考
257	257	多孔石	完形	112.0	91.0	69.0	834.8	粗粒輝石安山岩	表裏面に凹み。
257	258	多孔石	80%	(244.0)	145.0	(79.0)	3435.0	粗粒輝石安山岩	地山礫。1面に凹み。
257	259	多孔石	完形	153.0	109.0	97.0	1843.3	粗粒輝石安山岩	表裏凹み。
257	260	多孔石	完形	221.0	212.0	123.0	6200.0	粗粒輝石安山岩	地山礫。表面頂部に凹み、裏面平坦面に凹み。
258	261	多孔石	完形	220.0	122.0	99.0	4165.0	粗粒輝石安山岩	地山礫の平坦面を利用し、2面に凹み。
258	262	多孔石	完形	177.0	140.0	86.0	2960.0	粗粒輝石安山岩	表裏凹み。
258	263	多孔石	完形	213.0	160.0	86.0	4895.0	粗粒輝石安山岩	地山礫。平坦面2面に凹み。
258	264	多孔石	50%	(160.0)	164.0	94.0	2665.0	粗粒輝石安山岩	地山礫。表面頂部に凹み、裏面平坦面に凹み。
259	265	多孔石	ほぼ完形	212.0	(216.0)	127.0	7200.0	粗粒輝石安山岩	表裏に凹み、表面にスリ面あり。
259	266	多孔石	完形	218.0	215.0	133.0	7500.0	粗粒輝石安山岩	地山礫。1面に凹み。
259	267	多孔石	ほぼ完形	210.0	252.0	125.0	7000.0	粗粒輝石安山岩	地山礫。表面頂部に凹み、裏面平坦面に凹み。
260	268	多孔石	完形	250.0	157.0	130.0	5800.0	粗粒輝石安山岩	地山礫。平坦面3面に凹み。
260	269	多孔石	完形	212.0	153.0	117.0	4540.0	粗粒輝石安山岩	地山礫。平坦面2面に凹み。被熱有り(亀裂)。
260	270	多孔石	90%	246.0	180.0	116.0	5400.0	粗粒輝石安山岩	地山礫。平坦な2面に凹み。
261	271	多孔石	完形	283.0	261.0	154.0	10400.0	粗粒輝石安山岩	地山礫。頂部を利用し凹み。
261	272	多孔石	完形	181.0	161.0	100.0	3450.0	粗粒輝石安山岩	偏平地山礫。表裏凹み、表面スリ面。
261	273	多孔石	完形	246.0	195.0	133.0	6100.0	粗粒輝石安山岩	地山礫。頂部を利用し凹み。
262	274	多孔石	完形	254.0	199.0	114.0	8100.0	粗粒輝石安山岩	地山礫。平坦面2面に凹み。
262	275	多孔石	完形	256.0	233.0	116.0	9300.0	粗粒輝石安山岩	地山礫。平坦面2面に凹み。
262	276	多孔石	破片	(171.0)	(175.0)	(55.0)	1557.4	粗粒輝石安山岩	地山礫。剥離は自然のものか。
263	277	多孔石	完形	182.0	139.0	94.0	2735.0	粗粒輝石安山岩	地山礫。頂部を利用し凹み。
263	278	多孔石	完形	180.0	219.0	134.0	6800.0	粗粒輝石安山岩	地山礫。頂部を利用し凹み。
263	279	多孔石	完形	287.0	225.0	142.0	10100.0	粗粒輝石安山岩	地山礫。頂部を利用し凹み。
264	280	多孔石	完形	515.0	382.0	204.0	44000.0	粗粒輝石安山岩	大型の地山礫の頂部を利用し凹み。
264	281	多孔石	完形	378.0	353.0	199.0	37000.0	粗粒輝石安山岩	大型の地山礫の頂部を利用し凹み。
264	282	多孔石	完形	566.0	380.0	170.0	59000.0	粗粒輝石安山岩	大型の地山礫の頂部を利用し凹み。
265	283	多孔石	完形	456.0	281.0	214.0	—	粗粒輝石安山岩	偏平地山礫。1面のみ凹み。
265	284	多孔石	完形	551.0	416.0	233.0	—	粗粒輝石安山岩	偏平地山礫。1面のみ凹み。
266	285	台石	50%	(133.0)	223.0	67.0	3450.0	粗粒輝石安山岩	偏平川原石。表面スリ面、裏面凹み。被熱有り(変色・亀裂)。
266	286	台石	50%	(166.0)	173.0	57.0	3185.0	粗粒輝石安山岩	川原石。表裏スリ面。
266	287	台石	90%	277.0	219.0	109.0	10300.0	石英閃緑岩	川原石。表裏スリ面。
267	288	台石	完形	340.0	203.0	132.0	14800.0	石英閃緑岩	川原石。2面にスリ面。
267	289	台石	50%	(268.0)	(163.0)	100.0	6200.0	粗粒輝石安山岩	地山礫。平坦面にスリ面・凹み。被熱有り(変色)。
267	290	台石	完形	250.0	214.0	80.0	6500.0	粗粒輝石安山岩	川原石。1面にスリ面。
268	291	台石	完形	325.0	249.0	102.0	12700.0	粗粒輝石安山岩	川原石。自然の凹部を利用し表裏スリ面。
268	292	台石	完形	205.0	210.0	82.0	5600.0	粗粒輝石安山岩	偏平地山礫。1面にスリ面。
268	293	台石	70%	(272.0)	232.0	59.0	4950.0	粗粒輝石安山岩	鉄平石。1面にスリ面。被熱有り(変色・ハジケ)。
269	294	台石	破片	(211.5)	(169.0)	(41.5)	2480.0	粗粒輝石安山岩	表裏にスリ面(中央ほど強い)。被熱有り(亀裂・ハジケ)。
269	295	台石	50%	(305.0)	301.0	87.0	13600.0	粗粒輝石安山岩	偏平地山礫。表面スリ面・凹み、裏面スリ面。
270	296	台石	完形	412.0	318.0	160.0	35000.0	粗粒輝石安山岩	川原石を利用。1面のみスリ面。
270	297	台石	80%	(365.0)	318.0	135.0	25100.0	石英閃緑岩	川原石。表面スリ面。
270	298	台石	80%	(333.0)	310.0	124.0	18900.0	粗粒輝石安山岩	川原石。自然の凹部を利用し表面にスリ面。
270	299	台石	完形	442.0	381.0	119.0	34900.0	粗粒輝石安山岩	偏平川原石。1面にスリ面。
271	300	台石	破片	(368.0)	(290.0)	121.0	22000.0	粗粒輝石安山岩	偏平な川原石を利用。表裏にスリ面。
271	301	台石	完形	396.0	335.0	116.0	28000.0	粗粒輝石安山岩	偏平な川原石を利用。1面のみスリ面。
271	302	台石	完形	430.0	365.0	84.0	22500.0	粗粒輝石安山岩	偏平な地山礫の凹部を利用。1面のみスリ面。
271	303	台石	完形	410.0	262.0	110.0	20900.0	粗粒輝石安山岩	偏平地山礫。表面にスリ面。
272	304	台石	ほぼ完形	(360.0)	405.0	107.0	22000.0	粗粒輝石安山岩	偏平地山礫。表面に弱いスリ面。
272	305	台石	完形	505.0	467.0	394.0	96000.0	粗粒輝石安山岩	大型の地山礫を利用。1面のみスリ面。
272	306	台石	完形	670.0	212.0	173.0	31000.0	粗粒輝石安山岩	大型の棒状地山礫を利用。1面のみスリ面。

横壁中村遺 19区 6号配石

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( )は残存値)				石材	備考
280	12	石鏃	90%	(18.6)	19.6	5.4	1.3	珪質変質岩	凹基無茎。先端部欠損。
280	13	打製石斧	完形	101.4	45.1	16.2	92.3	黒色安山岩	撥形。摩滅後に刃部再生か。
280	14	磨石	完形	145.0	90.0	38.0	567.7	粗粒輝石安山岩	表面スリ面(両端にもスリ面)、表面凹み。被熱有り(亀裂)。
281	15	石棒	破片	(324.0)	156.5	(112.5)	8600.0	緑色片岩	意図的な破壊か。被熱有り(変色)。19区10号配石5、20区4号列石203と同一個体。
281	16	石棒	破片	(104.0)	(39.0)	(65.0)	343.2	緑色片岩	意図的な破壊か。被熱有り(変色)。19区10号配石5、20区4号列石203と同一個体。
282	17	磨石	完形	221.0	175.0	141.0	8400.0	粗粒輝石安山岩	自然礫。

横壁中村遺 19区 10号配石

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( )は残存値)				石材	備考
283	4	石鏃	80%	15.8	(12.1)	2.7	0.3	黒曜石	凹基無茎。片脚欠損。
281	5	石棒	破片	(477.0)	161.0	130.0	14800.0	緑色片岩	無頭石棒頭部または基部。裏面平坦。裏面の折れ面は粗く再研磨。被熱後に1端折れ。意図的な破壊か。19区6号配石15・16、20区4号列石203と同一個体。被熱有り(変色)。
283	6	凹石	完形	160.0	73.0	36.0	498.7	安山岩	表裏凹み、両端に敲き痕。被熱有り(亀裂)。
283	7	凹石	完形	162.0	56.0	43.0	726.2	粗粒輝石安山岩	表面微弱な凹み。
283	8	多孔石	完形	337.0	125.0	98.0	6500.0	粗粒輝石安山岩	川原石を利用し、1面に凹み。

横壁中村遺 19区 11号配石

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( )は残存値)				石材	備考
282	5	磨石	50%	(68.0)	52.0	(35.0)	206.4	安山岩	表面弱いスリ面。被熱有り(亀裂・ハジケ)。

横壁中村遺 19区 14号配石

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値①長さ②幅③厚さ④重量 (単位: mm・g、( )は残存値)				石材	備考
283	4	台石	完形	201.0	168.0	60.0	3465.0	粗粒輝石安山岩	偏平川原石。表裏スリ面。

# 抄 録

書名ふりがな	よこかべなかむらいせきかっこきゅうじょうもんじだいこうきじゅうきよへんに
書名	横壁中村遺跡（9）縄文時代後期住居編2
副書名	八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	30
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	466
編著者名	石田真・藤巻幸男・櫛崎修一郎
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20090325
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田 784-2
遺跡名ふりがな	よこかべなかむらいせき
遺跡名	横壁中村遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのはらまちおおあざよこかべ
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字横壁
市町村コード	10424
遺跡番号	24
北緯（日本測地系）	363210
東経（日本測地系）	1384025
北緯（世界測地系）	363221
東経（世界測地系）	1384013
調査期間	19960401-20061231
調査面積	30000
調査原因	ダム建設
種別	集落
主な時代	縄文
遺跡概要	集落－縄文－竪穴住居36＋列石1＋配石13－縄文土器＋石器
特記事項	縄文時代中期から後期までの拠点的な集落。
要約	吾妻川右岸段丘上に位置する、縄文時代から近世までの複合遺跡。検出された遺構のうち、調査区中央を南北に流れる山根沢の西側で検出された縄文時代後期の住居36軒と付属する列石、配石について報告している。特に、列石遺構は複数の住居と接続し、長期にわたり継続して構築された大規模なものであり注目される。特異な縄文時代の遺物としては、土製腕輪3点が出土している。